四庫禁燬書叢刊

四庫禁燬書叢刊編纂委員會

京出版社

北

古今紆籌十卷

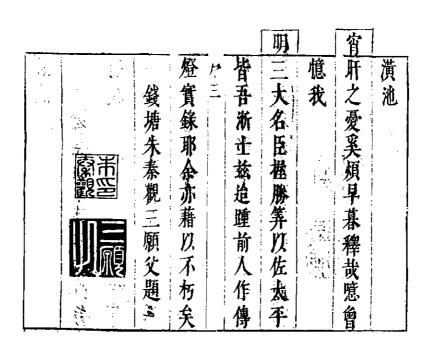
天津圖書館藏明末刻本

霜者感此多名四上驷吊好 瑟尾木夷 成二十萬及字 篇 庫以五辰第七人生上幕縣 不完其去之而治為于光倫 楊倫兵极以此傳称會如安 愛聽影漫熱一時命面極疏 久發氏两稱 她文致胸外武 人意表為论冊波拂衣題 古今行籌者若完余友集 叙 省一冊極美军者運第西時等精 樓的生成老軍 無的婚恨東 使有元科者黄了 ひ事為けれ好、信井安美 生之以實口者多是後此極死 急也徹沒博練楊摩今方面 加瓜如小家改事搜托之家 冠文記仰 媽 体数事業を不復かり教 有端に自か多、安う汁 人たま

及就立文在主福亭大面情 清 題之女成初生室 法必要 加瓜了到各必無本成次不 を 高水其がい不在初足分 属一类林编中男·多按必 被据之城侵也都助民同是 俊之临兴美的以 不再 褐 色男乃遠が具倫佐とま **作一般很什中一化听晦缓** 轉機動型艺動助看信息

明代弄樣長處車所与城久 剧 福为此天下國家主 不管去人們孩子是獨占 華家之帳中院家犯去卷 了今天假以年一萬一而今日 放子公人偷俗使達色副 之为唐兄许说为多多 意見丁寧この修成とる苦 自春秋下运 多通偏倒恭 毛极为法地

)	告	礼族	付	原	事	龙
	滑	夜	重	柔	7.	尊憂之	太
	س رورور	ا الح	7	梨	5.俊义書	3	畫
	殷	30	7	13	X	岩	起
10000000000000000000000000000000000000	樗	Á	`,,*	扶		多处	5
	14	<i>7</i> 3		天	\$3	土	女
1243(Tn	ر ا	内	[1	坚	A T	4
	<i>A</i> 7	7		4	拉	次	寧
	<u> 21</u>	7		15	12°	男	
	,			19	6	長	郭



方今天下多故奴冠屡做一日游人在甚至国外人相與附近縣後四百年之界有不可以勝學有不可以勝學有不可以勝學惟然不可以勝學惟然

坙 奔 居皇 供之 意 王序二 其寧一 戶隻士因循局且上多 承 子 差 是 以诗人為 未有著善供者按 日 失政暑是非不 相 汉 平日久牵拘文墨 副 制派冠 夕營編焦勞不 且馬騰塵起去 平角其智以往事 然 望 而奴棒粮廛 為害未 群 7 褀 才 2 其 D

智 雪矢 列、 何 動 雕 王孝正 敢 德奇 莫之敢當者 矣 有 所乗積 で A 复 经 烈 知 験以熟 貏 其 帽棱粗膽 解田五兴不屬 建 13 酚 旗條 強 力 雨 背向左右 君 诚 押 于 學 驰 状 士 使天 循而葉 内 彼 順 骸 甲馬 不 大 應 桵 利 */3 夫 下 家 貫於 2 娳

							134			
可	之	8	獲	良	Ŧ,	不	朝	诸	人	未
稱	浔	他	御	御	本中	輯	凡	秘	共	先
茎	其	人	2	之	<u> </u>	拔	吉	笥	和	生
負	要	雅	期	则		即	兵	1	韜	預
į	頌	沉	乎	F	i İ	如	暑	自	暑	和
•	弐	博	6	取		良	有	周	彙	是
	在	乾	里	7		馬	補	秦	有	意
	四	如	常	里		固	畤	17	異	欲
İ	行	先	患	使		車	用	追	書	天
:	籌	生	系	减		Ŧċ	樵		藏	で

								壅
			主	2	頼	闻	是	天
)	4	功		風	刻	子
i		120	, 35.	大	時	而	`ښـ	教
	:	隂		矣	将	鎜	行	騎
	至王	王		截	提	確	夫	射
	匠圖	思			衡	者	Ep	重
	干重	任			7	مطد	有	武
	山薫	題			古	誹	真	偹
	, i				先	催	豪	吉
				-	生	巻	傑	矣

自 畧知書義遇 憶 言於方畧乎何有 腶 隋唐等傳則 自然了 巢車必悉其始末 見 叙 亦無多事 時 盡 輒 前 闡 迨 目 對策 搖 為 不 連 諸 神 解 何 兵覩 逐廢 朝達 國 冱 祗 生 毎嘆 如楚 勦 衎 H 稍 俳 格 襲 妗 文 H 帷 成 鼎

國 書丈夫以身繁安危 足 叉典兵委蛇之 自似一 古合成敗 南 年 政當事業置完考予 T 有 所及醜 事故 樞 故豈宜 盡 曹謂晋都勝地 地 理 Û 為令六年粗 外 顭 臉 以書 究 區區毛 要兵 殿 遊之故 夙志故 、得肆 擬 制 錐 再 聞 H 遂

胸 國家無百年無事今遼陽 子云戰勝攻取之具盡 有所涉獵亦紗總看花姜 自我四 鮮能将刃余僅僅豹窺 不練不達成敗 極巴 人事則予亦用之 成竹器不 矣 繇平 H 習 利 講 不精 明當 鈍 糊 在 即

志當

世須及時揣

摩使

		•			切不用	九 桐土	图點且 取其清洒不碍目故一	一奇妙計議俱巴標題批出不煩	魚晉承之咎	細為訂正且前別無能廉免魯	一歷來文解問或為診相傳兹特	削
--	--	---	--	--	-----	-------------	---------------	---------------	-------	--------------	---------------	---

春秋列傳	左傳句觧
国茱্	網鑑大全
史記評林	泰漢文抄
皇明通 紀	前漢書
校 漢者	中國森
音書	南史
北史	朱書
南齊	来書
· 个册 · 人非 ·	-4
陳書	魏書
北齊書	周青
隋書	唐書
借 唐書	五代史
宋史	進史
金史	元史
猪干鸡藤	武備全書
李氏藏書	續嚴書
	名將傳

	三五 新書 一个专用	熙朝奏議	諸史品節	练兵要覧	廿一史快編	准海集	百薪停:
		三邊越	武經七書	古文鴻路	史裁	經濟類編	為猷記

古今新籌目錄 本之一 卷之一 李翠論想達	曹國論歌
雇 瑕 綉 殺 人	曹觑論戰
葡息路虞假道	鄭申侯階轅濤ু
子魚論擊楚	音侯伐曹枚宋
麦叔諫殷鄭	王孫清論泰師
 	趙宣子敗秦師
五个者等 日業	
史駢料泰師	越自王復士會
為買先發制諸登	逢丑父免君於難
邻至論魯六間	魏絳和戎五利
荀偃不許鄭成	前包設為退齊師
穆子不以捷邑賈怠	国魔智 取餘皇舟
圖	飽國諫陽虎動師
孔子却來兵	越勾践擾吳
共計二十八條	
卷之二	• !

趙利楊趙假道於魏	康颇护秦军	田早火牛破燕	田軍息燕將	王翦周去李牧	田星間去樂教	孫腹計殺 羅涓	蘇属阻楚王分兵	景舎一計 收趙魏	古人 看著	范雅說秦遠交近攻	甘茂策韓楚相御	公孫行且義渠接秦	轉慶難薛攻泰	拼腾計釋楚惟	南文子道智伯之為	伍者科伍尚伍員	孫武子斬龍姫	鄭武公取胡
陳彰勸趙合韓梁	景易後營服果	李牧守房門	田軍誘燕浚果	王翦撫士破荆	芝 雕問退廉頗	田軍托神安宋	齊朋勸楚謾齊以離交	元爽計復東軫	-	段于給粉交衰陵	白起擊趙軍	司馬錉論代蜀	宫假論提不可恃	蘇代阻葬後周甲栗	任章動魏典智伯地	范蠡勘趙臣吳	· 一樓 五推 糧 賽 士	

張艮陳平勒封韓信	原生說漢王挨敖倉	張艮林立六四後	李左車教韓信說禁	蕭何粉漠王王漢中	張良物市公退霸上	張良勸沛公破秦	卷之三	共計五十三條	古今班長 人用谁	趙養卒說歸趙王	趙奢擊却秦軍	佐農斯楚絕齊	蘇泰武趙角侯	蘇秦陰波張儀	陳族武臣韓廣自立	蘇秦說齊歸無城	惠施令魏服齊激楚	趙奢論兵責多
劇通設韓信	加生說 齊王歸漢	袁生說漢王出武關	李左車說成安君	陳平閣去范增	三老說漢王發丧	張良說沛公取宛				, ,	複緩奧卿論講素	慎子不與齊東地	陳軫策韓秦之兵	蘇代重甘茂於齊	蒯通 书范 器令	陳族晉漁火狐收衆	最政論機事無泄	客料齊魏勝敗

終 侯 誅 諸 呂 · 漢 王 分 兵 撓 楚	超激說亞夫出武器整質使南越奉漢約
李廣百騎却匈奴馬亞夫擊吳楚	晃舞上言兵事
超克国上屯田英	趙克國緩追先零卷
口令者事 人月様	H .
趙克國擊西港	傅介子計殺核蘭
联弇 破費 zēl	鄧禹杖策追光武
吳漢說陳康歸漢	馬援謙棄羞西
光武破銅馬賊	联純說攻邯郸
赤眉敗鄧弘	實融勸急攻總第
光武授計擊公孫述	延岑蒙士敖吳漢
联 純 坚守 破青犢	王霸拒蘇茂
馬具變服被赤眉	光武襲殺謝躬
岑彭磺秦亶	耿弇 拔騙淄

情		共計八十三條
職		田禄馬城夜虜
情	田豫釋四散財	買琮定交趾
传 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	全績定南陽	度尚被士卒驕惰
唐 3 幹 放 五 族 老 財 女 五 女 老 財 女 女 五 女 老 財 女 女 女 五 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女	度尚定長沙	張網降張娶
(株) (株) (株) (株) (株) (株) (株) (株) (株) (株)	郭伋定渔陽穎川	馬勢数罪平賊
(新)	龔遂定渤海	尺領破鮮 犀
域 八、	孫堅請兵斷運道	張温諫徽遠朱雋
(1) (株) (株) (株) (株) (株) (株) (株) (株) (株) (株	묉	班男諫亲西域
条	32	一个打华 八丁维
受 收 宗 諸 張	康范守雲中	雕多七養果侍幹
	鍾離意荫拒南單于	虞詡守 或都
	虞詡三群募士	班超破莎車
	班超自言必成激泉	班起被月氏
	馬里族超栒邑破行题	東海王請緩攻破賊
	蒸宮車收駱越	吳漢捕守長收五姓
	祭遵殺舎中見	耿純焚舎收宗族
	耿恭神箭獲匈奴	馬防分兵被諸養
	馬援分兵襲羞	耿弇分兵討張步

卷之四	
程昱智全東阿	朱雋徽園被韓忠
皇甫島火攻張角	鲍信陳波黃市策
董卓分兵被黃臣	楊彪問李催郭汜
皇甫嵩擊王國	皇甫縣說父討董卓
果行說皇甫嵩奉帝	董卓堰水阻追兵
孫堅脫情免難	陳登計學孫策
兵堅智走劫賊	孫策襲盧江
孫坚假病殺張洛	孫策謀據吳會
古今看等 人目录	77
蒯良計守襄賜城——	曹操定策被董卓
蒯越 歇定荆州策	馬莫獻策軍冀州
顧良說劉表取江東	租授勤袁紹迎駕
程見勸劉岱勿絕東紹	朱馬劉表歸曹
前彧諫取汾州	荀彧勸曹操迎天子
荀彧二虎競食計	荀彧驅虎吞很計
任立說曹操圖到備	荷彧策弭呂布
賈翊科張錦勝頂	韓尚說劉表歸曹
祖授諫袁紹攻許	荀彧論曹操四勝

卷之五	共計六十六條	月瑜計破曹操	周瑜智我蔡瑁張允	诸葛亮說孫權拒曹操	苟夷諫置九州	諸葛亮陳典那兼	郭嘉動曹操緩攻二袁	曹操官邊票袁錦	本个开幕 · 一个	有食計分袁紹兵	許使縣被曹操策	到湖 說張編歸會	祖授獻萊破摩仁	有食計取查口間	首食勸曹操攻軍尚	曹操計取定陶城	陳宮濮陽縣曹操	東宮說張邈迎另布
		賈翊破曹操	諸葛亮取前伙周瑜	周瑜決策拒曹操	王威能劉宗襲曹	傅異說劉琮歸曹	曹操緩攻遼東	曹操十代破袁紹	-=	曹操解武陽圍	許攸獻兼破袁紹	荀彧諫曹操題許	帮攸策解白馬圍	荀攸動曹操緩攻張績	郭嘉勸曹操攻二袁	荀 使說曹操攻呂布	曹操假灰毁呂布	程昱諫曹操和袁紹

歷稅啟取蜀三葉	程昱料孫權不殺劉備
周瑜勘係權徙劉備	劉備勿聽孫權取蜀
諸葛亮計取二郡	頁網 金書 疑馬超
丁斐蒲津波會操	曹操虚立棚聖破韓迷
郭淮漢水禦劉倩	諸葛亮疑兵退曹操
司馬懿務曹操取蜀	司馬懿獻取東川策
陸遜破費模	法正說劉備取漢中
陸遜獻策取荆州	馬習計破 孫桓
諸葛亮用聞牧馬超	諸葛亮計取雄城
一一一个 并非 八丁维	
諸葛亮計擒李巖	諸葛亮計焼北山糧,
姜維就計敗趙雲	諸葛亮智獲姜維
諸葛亮智取安定	諸葛亮智取南安
趙雲智取杜陽城	馬超退軍 取長安
黄忠守葭朝闡	張飛計賺張部
諸葛亮木門道雅張郎	陈泰計解狄進園
諸葛亮就計取零陵	諸真亮就計破孫禮
諸葛亮就計凝泰期	姜維就計用王瓘
酒将亮博望烧电	諸葛亮火燒 新野

徐庶取樊城	姜維計取平橋
張飛計破劉岱	張飛計構服 類
馬設街亭之敗	諸葛亮西城退司馬懿
諸葛亮計割院上麥	诸葛亮計奪本牛流馬
司馬懿先傅其谷	諸葛亮守鈿闍
諸葛亮先備南城打麥	郭淮左傳北原陽遂
諸葛亮西耳河橋孟獲	諸葛亮火燒藤甲軍
諸葛亮智擔三郡守	郁艾先據洗城待姜維
郊艾 先傳武 城破姜維	鄧艾先伏殺夏侯覇
古公升非 人員我	た
邱艾 先防蜀兵攻加山	劉曄動曹丕乘後伐吳
陸遜火燒蜀營	司馬懿陳伐吳策
西朝論吳蜀不可伐	司馬鼓堅壁老蜀兵
諸葛亮遺計斬王雙	姜維糧車賺敗司馬昭
司馬懿諫魏武遷都	董昭請露孫權獎關羽
呂蒙斬取笠軍	呂蒙計限曹操屯田
呂蒙朱險勝曹軍	呂蒙歸行降那普
性遜暇鎮懾襄陽 賊	陸通計制造式
性遜不攻劉先主	司馬懿五路下西川

知侃獨許斯郭素	陶侃好言幹王貢	開訪攀杜曾	馬隆農恭廉成美	王鑒陳被杜炎集	卷之六	共九十四条	王春身師伐吳	全帖上書請 伐吳	10个折算 人月味	節艾葉野	何會請立監貳	陸抗易解破楊華	司馬懿斯公孫文懿	司馬懿堅守田諸葛亮	医特守新 蚨	瀟龍請兵合肥城西	魏廷縣子午谷取長安	諸葛亮五路守西川
陶侃不守都被	陶侃城白石攻石頭	陶侃商船誘贼	月訪設疑購橋退敵	馬隆基士被鲜甲			司馬懿智部曹楽	全 前 動 伐 吳	†	全站故示恩信破吳	司馬昭決策伐蜀	杜預問計被吳	陸抗決堪伐 慧	司馬懿木履除奏奏	司馬繁給新孟達	司馬懿科諸葛恪兵合肥	諸葛亮增監止進兵	陸遜勒孫權裁攻西川

那玄魔言兵向留城 孫廣計擒市永 張廣計擒市永 張廣計擒市永 張廣計擒市永 張廣計擒市永 張廣計擒市永 張廣計橋東至 北 東 東 北 東 東 北 東 東 北 北 日 祖 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	森容观智散三国兵 森容观智散三国兵 张育多方, 展王没 到流就都發保育 孔坦獻兼無蘇峻 韓該論魏四不可擎 華該論魏四不可擎
搬大炮柜	
定計伐柔	崔浩諫典兵擊宋
程治五事該典兵	崔浩決策伐夏
古今看事 人] 蒙	+
張典世獻策破子筋	即能 勘白曜急攻城
馬道根請乗舟陸進	蕭行順進兵利害
蕭行論取西陽武昌	元英請求機取齊
那餐表益州五两圖	耐朱禁守相州
幸孝寬守玉壁	侯淵計捉韓棲
宇文泰議學實悉	使景請分軍船進
宇文深葉高数	李獨年支泰破高數
王偉能侯景権建康	章孝寬策伐齊
尉元表箭屯積彭城	西道成勘坠守石頭

王鎮惡襲殺劉教	王鎮惡棄衣糧粮長安
擅道濟唱舞量沙	楊忠先克仲禮後安康
齊段部伏兵擒楊敦	高問諫築城置戍
路思令補明質罰	全侃計解馮翊圍
全 侃請 急 樣 采 石	慶季才勸梁主選都
章 孝 寛 請 城 汾 北	賈逵超夾石紋曹休
草椒意擊魏兵	陳慶之急擊魏兵
題主先伏要害待房	架主修備待魏兵
吕義之章獻守鍾薩	蕭承之間門退魏兵
百个番番 八月康	4-44
黄圆張嶽兒斬休乾	桓榮祖退魏師
律永被曹康祚	傅承走裴权案
丘仲孚敗王敬則	全佩守臺城
趙伯超計學侯景、	王僧辨拒侯景
王僧辨分兵破侯景	王僧辨敗侯子鑒
王僧辨大破陸納	王僧辨防監納詐降
章权見弱守安陸	王僧辨偽計城降
拿 孝寬 縱 火 完 版 萘	章孝寛書疑牛遊常
貝若敦禦侯瑱	趙文表定叛僚

考	章雲起斬狗 對武周開倉	伏威斯肯創卒 在東京 京都報數軍 京教楊玄威三葉 楊素與房並 李密服機得 整宣言微架 劉武周開倉	須 N 成 新 計 創 卒	南 蒙李密 及 看
楊玄感收祭李密服像得	章要 起斬狗 对 以 用 解 套 要 表 服 機 素 與 房 並	を ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	明 創 平 康 高 架 徐 服	
李 宏 服 儀 得	車雲起斬狗衛馬與房並	伏威斯肯創卒 乙支文德取素斯戰敗軍 草雲起斬狗窑教楊玄感三策 楊素與房並 李密縣儀得	須 N	周 南 諫李密
楊素與房	草实起斬狗	伏威斯肖刹卒 乙支文德斯素斯戰敗軍 草雲起斬狗密教楊玄感三策 楊素與房並	須 N 成	問 南 諫 李 密 葵 橙 密 表 书 歌 斯 歌 斯 歌 斯 歌 斯 歌 斯 歌 斯 歌 斯 歌 斯 歌 斯 歌
	草雲起斬	伏威斯背創卒 こ支文徳販素新戦敗軍 草雲起斬狗	須隆破盧明月 魏敬能李密 伏威斬背劉卒 乙支文徳取	問 南 諫 李 翁 葵 種 須 隆 硋 盧 明 月 須 隆 硋 盧 明 月

卷之七	
獨文清說世民入開	柴孝和記李密裝長安
李凋書賺李密	任景說李淵取圖中
李淵議破風突通	徐洪客獻青李密
李世民勸取長安	李世民国洛陽不退
唐太宗被王世充	樹斌 就實建德援鄭
秦王教雲定與放房	李術說程讓劝劉項
李審說雅讓取禁陽	育建德說高士達避官軍
李密說裡讓取東都	郭孝格充計拒實建德
古本等事 八月春	Ħ
 	秦王養銳控金剛
泰王追擊宋金剛	唐太宗队內賜敬德
唐太宗金雅賜尽寶	唐太宗問苦吮創哭込卒
李勣金帛散將士	泰王決治木破黑閩
唐太宗知用兵之要	唐太宗議處突厥
李大亮奏處突厥	褚遂良諫屯戍高昌
唐太宗	唐太宗遺計被薛延陀
秦王陂老生	王世充破李密
王也充奪破孟讓	李靖速兵降蕭銑

华晴宗首先授兵	賽定態成郭絢
寶建樓表評世雄	李孝恭夜輔公祚
李婧被输公部	李精閱道擒頡利
李勤屯積白幹額別	蘇定方乘霧裝餌利
萨萬均伏破實建德	唐太宗羅兵與頡利盟
李世動議破高屋	唐太宗偏師擾高麗
叚志玄不納夜部	褚遂良諫親征高屋
割崖教廷壽至守斷糧	郭元振諫罷四鎮兵
秋仁傑諫戌四鎮	狄仁傑奏敖河北諸州
百分 新華 人工張	Œ.
黑鹰常之量 戊屯	魏思温說李敬業
裴行倫襲阿史那都支	裴行俭破突厥
蘇定方縱兵襲賀魯	蘇定广急擊都曼
裴行儉降阿史那供念	唐
唐休璟計破吐蕃	豪仁愿禁三受降城
薛仁貴三矢降鐵勒	契丹経囚赚仁節
聚飲谷,轉拔悉密	王晙胡服殺吐蕃
王晙議處突厥	郭元振計與娑葛
郭元振拔京州	李嗣兼肇勃律

李嗣紫胆吁破歸仁、
王忠嗣弓矢誌姓名
章見素獻消蘇山友謀
潭城掘陇馩矢夜雲梁
李必凍與吐蕃北庭
李光弼議軍河陽
李光弼智取艮馬驍將
李老弼唱斯諸躬
郭子儀科敵玩軍
郭子儀緩攻揽賊
郭子儀蔵感魚朝恩
李抱真破朱滔———
李晟解靈州图
李晟標異奪士心
李展結準破李懷老
李展屯光器門走朱此
李晟言懷光五不可赦
馬矮典辦 战吐蕃

柳公葬厚给署士	本想交技吳房	長度請除朝中委臣	在前該討吐蕃	草垒斩朱泚使	李矩守平陽	韓遊環決策趋奉天	陸費策賊勢緩急	李自良堅重推回稅	古今开赛 人目策	李浴請爵主封功臣	李輔國陳太子西行	李導飲策顏真卿	卷之人	共計一百一十三條	張爽守睢陽	張伾篇女惠架	馬統武降徐廷光	馬燧帶治器用
長秀實際王童之	李憩擊破蔡州	李恕智擒李茄	白居易論用兵	式信詐迎李圓	英艾守 沂 隴	陸貨辣伐楚琳	李希烈計精元平	陸費論居重 馭輕	1 10	穆寧不與光斯糧	宗卷運說承恩守常山	哥舒翰請堅守潼關		条		張延守雑丘	白鐵条埋佛收泉	馬遊攻龜破田悅

李国臣及此蒂	李石定符
王式討豪甫	王式定徐州軍
李湘獻誅驅勛策	雁 財 破 李 湘
高仁厚 夜楊節立	高仁厚襲取峽城
范廷先下汴州	李崇平充益、
胃易直定汴亂	楊行密破孫儒
王先成獻招安七冊	高弱勒楊行密貿易
华珽策解鄂州園	周德威獻 破梁策
· 森 翰 陳 伐 契 丹	張氏教李肅勸趙思維
十二个音響 人目標	大
尼彦珂計李守貞	王朴獻平邊策
周羅風閉壁 敗李 宓	黄景復破資丘
高駢威黃巢策	劉巨容破黃巢
李神福擒顧全武	葛從周敗,朱確
朱全忠誘李茂真	丁會裝李年之
月本敗危全調	傅確楊 反散 豆 敗 吳 兵
吳越王解蘇州團	馬希腊匿船敗季與
蘇草藥院加迪敗楚	苗德黥分兵破吳
音正計及制都	趙輝破黃景崇

 た佛晉勝 一生	展守珪禦吐蕃	届突通衰剥迎前
 市務事耶将 馬知節奏盗 高春成海 高春成海 高春成南城 高春成南城 高春成海 高子之後 京解 田州園 京本之。 京解 田州園 京本之。 京解 田州園 京本之。 京本 日本 村石元佐及方布之佐及方面 京解 田州園 京本学年 村石元佐及方面 京原本学年 村田市 京原 西京 京原 京	楊葆裝斬陳磐	李德裕守獨構邊
先傳晉勝 一十 一十 一十 一十 一十 一十 一十 一十 一十 一十	馬知節鉄盗幾單	封常清斬鄭鄭將
下主親在 自被契丹 自被契丹 自被契丹 自被契丹 自被契丹 自被契丹 自被契丹 自被契丹 自被契丹 自被契丹 自被契丹 東延孝策破 第本局後 東延孝策破 東延孝等破 市 東延孝等破 市 東延孝等破 市 東延孝等破 市 東延孝等破 市 東延孝等破 市 東延孝等破 市 東延孝等破 市 東延孝等破 市 東延孝等破 市 東延孝等破 市 東延孝等破 市 東延孝等破 市 東延孝等破 市 東延孝等破 市 東延孝等破 市 東延孝等破 市 東延孝等な 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市	逗遛兵馬	李昂定萬条郡
 一大傳音勝 一大傳音勝 一大傳音勝 一大傳音勝 一大宗華 一大学 一大学<!--</td--><td>劉廷翰破契丹</td><td>何</td>	劉廷翰破契丹	何
在計執查文徽 王均計或雷 主先傳香勝 晉王分守德 李司於梁軍 別郡河水哈 等直,會被梁軍 別郡河水哈 學和於梁軍 別郡河水哈 學和於梁軍 別德威簽爾 學和於與 學和 學和 學和 學和 學和 學和 學和 學和 學和 學和	再新藥	崔安潜平蜀盗
字真破契丹 字真破契丹 字真破型章 字直高會破南城 影響計段王彥ূ 影片 一 本 一 本 長 成 成 深 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所	訶冤胄備	王俊不主親征
李良 成董章 子童 工室 紅 李 良 成 梁 單	威撫士破	
下王先傳晉勝 等市分勢築量 等市分勢築量 等市分勢築量 等市分勢築量 等市分勢築量 野川 石元佐媛 学和分勢築量 野川 石元佐媛 学和次教 学和次教 平記王建襲間州 石元佐媛 学嗣源解陶州園 東延孝集 一名元佐媛	猟	超季良破董璋
平主先傳晉勝 平主先傳晉勝 平計殺王彥羅 都計殺王彥羅 都計殺王彥羅 都計殺王彥羅 都計殺王彥羅 都計殺王彥羅 都宗朝急 序章高會破南城 周德威徽 序記王建襲開州 石元佐瑷 李嗣源板 李嗣源板 李嗣源板	五	F # 1/1
在計載產文徽 王均計成 三 定	延孝策破	嗣源解幽州
こまのでは、こまのでは、こまのでは、こまのでは、こまのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、	源接郵	₹ 弱 碳
序說王建裝開州 石元佐瑷崇龍·劳莱量 郭崇韶急		色威
崇韶分勢築量 郭計殺王彥盧 劉郡河水 郡計殺王彥盧 劉郡河水 郡計殺王彥盧 劉郡河水	· 孩	岸說王建裝閱
彦章高會破南城 周德威徵 郡計教王彥置 劉郭河水 至王先傳晉勝 帝王分守 程計執查文報 王均計成	郭崇韜意文 破蜀	非崇新 分勢禁壘
部計殺王彥置 劉郭河水衛王先傳晉勝 晉王分守德	周德威徵服擒陳章	王彦章高會破南城
帝王分守德	河	郭
王	晉王分守德勝北城	晉王先傅晉賜
	王均許碳雷有終	吳程計執查文報

大人 使 持 是 计	祖斬祈签軍 趙會淸奪	宋太祖計劉光義伐蜀 張訊定益州	羅倫破休哥 張泊陳傳	休哥禦曹彬 張齊賢販契	部解河州園 郭逵不秋秦毅	部趨於破籍征 王部遊鏡擊者	後言殺叛卒	等45	益法 富爾言客軍	陳十事 韓琦程畧奏	仲淹陳攻守荣 范仲澄請修京	仲豹禮惠却联 笼牵力勘親	伸光延州訓兵 种世衛與型開營	世禽思信結悉首 种世衛間去二	計版任福 劉國傑及播州	安国襲破到	元		是
------------	------------	-----------------	------------	-------------	--------------	---------------	-------	-----	----------	-----------	---------------	--------------	----------------	----------------	-------------	-------	---	--	---

建步行刊士章 和希廷尼型 医结好金人失策 宗澤設伏政 音結好金人失策 宗澤設伏 政	种節道八日夜氣底 种節道不聽童貫伐燕種師道正詞折及人 种師道摩 後夜散	种一种	道贯行振士氣 种道人日夜散底 种	<u> </u>	人失策 宗澤設伏敗全	世隆慰世典 岳飛伏兵破劇	人 劉錡決策守順	一新 破 兀木 劉 翰 破 金	票拐子馬	年年 人	世忠全山走兀术 曲端	兀木北縣 鉄	破樊城襄陽 岳飛破楊	岳飛雕霧潛兵	山破固石洞 岳飛破李成復襄		岳飛計聞工术劉豫 韓世忠潜行榜方嚴	乘滑卒敗金 韓世忠造管朦胧間几水劉康 韓世忠潜行擒方	季夜樓敢替 韓世忠造管縣賊乘潰卒敗金 韓世忠造管縣賊
---	-------------------------------------	-----	------------------	----------	------------	--------------	----------	-----------------	------	------	------------	---------------	------------	--------	---------------	--	-------------------	----------------------------	----------------------------

典世忠出不意被賦	轉世忠錦示聖馬走全人
英俊計被馬進	供俊滸遊駁金人
李親獻策禁金人	再昌陳捍禦策
最所論選京五利	李綱請料理河北河東
医飛以策說張所	李綱論
馬擴應部三策	李親上攻戰備禦策
李綱京東西造戦車	真德秀新絕全人藏幣:
真德秀奏五事	
平寶大箭类企舟	金人與柴囊土敗五路兵
丁八丁華 八丁東	(1-1-)
吳玠設伏敗兀木	吳臻疊陣破金人
吳齊論兵	吳臻預治戰地
楊存中合兵潛騎擊賊	楊存中兼勿割和尚原
王德擒姚太師	王德擊斯張昱
王德皓道橋王念經	李顯忠殺敵折馬足
劉子羽訴范理	劉子羽固守典州
金人定計取圖	魏勝教若敗金人
熟勝自此姓名退金	魏勝集海州養敢情
魏勝守海州	超方解憂陽之图

李文忠教伊葵輔重 李京常遇春鼓伏取奠兵,常理			李文忠張蔡破呂珍 李文	冰英出奇取大理	沐英分單擒脫火赤 冰芒	常遇春先昼拔来石 林节	徐達攻太原 徐涛	徐莲采鄉言放養陽 徐	1八番華 八一張	徐達計誘為羅超 徐幸	大 直論 不陳 徐華	卷之十	共計一百一十四條	王雄 蓮走壁路 庄華 , 李智	裏弘範察量伏甲待攻 楊片	侯散祭潜波八臺鄉 伯茲	文天祥上書帝恩	趙葵片言定軍情 狂力	
	李文忠應變遷管	常遇春親敢背破散	李文忠築新城次戰破敵	从英鎮砲大箭破泉庫	冰英倍道設伙取曲靖	英請攻溧水以固根本	徐達計平關陝	徐達得謀破漏天爵	their	徐華燒倉邀擊偽漢	徐達智賺莫天佑			李福祭徐壽輝	楊炭灰車破賊	伯顏潜襲沙蕪口	阿术火矢类宋舟	莊立信上策賈似道	

羅通 固守居庸	馬文升家伏却房
馬昊不許戚降	馬吳平蓋鄒
劉大夏立市羅法	劉大夏讓朝鮮貢道
余子俊議用車戦	余子俊修遵
王越恭陣却虏	王越精騎復河套
楊善卣折也先	郭登養銳待房
于謙議軍役就近左補	一 兼散遺降胡
于豫禦也先	程信諫納孫銓退房
韓雍全軍破蠻寇	項忠智摘篇四
新聞	古今苦毒 人目根
劉工定計精遊賊	劉江策禦平安
王骥分兵敢虏	文皇帝命聲言還師
文皇帝借遠官屬橋務貴	文皇帝年三征迹
劉基朴張士誠必走	劉基破陳友部方各
俞通海类舟據土施	傅友德班師誘宠
伸友德遵美取雲南	郭英夜劫虜營
郭英系教設代破元	廖永忠潜師破蜀
傅友德依策取蜀	停友德守
張輔計擒黎季発	易和奪和 B 城

目錄於	共計九十二條
到頭被土 聲	對原育擊破倭奴
取 卷光策全蓟	水雅光驾 等 阵
命大猷后師被倭	朔宗憲計級王 谊
胡尔嘉誘教徐海	朝宗憲妻曆敗倭寇
沈希儀職計發學金	沈希儀以往政程
流希儀設秘駁辦	沈希儀期間偵販情
· 流希儀夾擊降五都	沈希儀計数學猛
·	楊銳先奏拒宠
	丁合于非 八丁素
王守仁平入寨	王守仁計轉宸濠
王守仁計破刑頭賊	王守仁先破横水左谿
化鐵年從掮真番	胡世寧新處哈密
胡世寧伏土萬	太保王瓊夜駄
李承勋借諸要害	李承勋愧嚴王奇
李承勛擊機旗賊	便岳西北传邊事状
丘峯論都城内止益法	丘構新都城外止盗法
丘路論平盗與棲夷異	立 落論 山盗
丘齊論復賢良諸科	王信條陳時事

	能面示之不									经导性取得					
素小國小國雕卷之利息少師志依請盧師以陳之	我則使然我張吾三年山被吾甲兵以武庫之使則	少師督軍屬伯比言於楚子以我不得志於漢取也	楚武王侵隨使遠章求成馬軍於股以待之随侯使	李潔蘭弗伐楚	歷之裏或師前後擊之畫殖戎師大齊	則無繼矣乃可以是從之夫人之前遇伏者奔風斯	相致先者見後必務進進而過軍必速奔後者不敢	中个作事人参グー	三伏以待之支輕而不整食而無親勝不相讓敗不	於母性取事我也公子实日使勇而無剛者等冠而速去之君為失以此等是我也公子实日使勇而無剛者等冠而速去之君為	北戎侵鄭鄭伯架之惠戎師日彼徒我車置其侵获	公子突敗戎.	孫男楷行甫父	男泌之長源父	

古今新壽卷之一

配

任泰觀三顧父 男谏淳建侯父

复之法 王所在别心 **套牌王通示 秋天子自作** 是豬之所以 坚堅則象數 冠欧东榜李 以前後 祭臣不知其可也君姑修政而親兄弟之國疾免於 新見主張 楚風取將盟歌擊即人軍於補騷將與跪紋州夢代 伯比日天去其疾矣贈未可克也乃盟而還 被其我車與其或右少師随及卷平卷子将不許關 當工非敢也不從員於連犯隨師敗衛隨便逸閱戶 且或其右右無良馬必敗偏敗泉乃携矣少師日不 **使樂之望楚師季果日楚人上左君必左無與王遇** 以怒我而息冠也少師日必速處不然將失楚師 忠於民而信於神也今民倭而君是欲親史獨奉以 難隨侯惟而修政楚不敢伐 也君何悉為臣開小之能敵大也小道大飛所開道 **于代随軍於漢推之間季架前下之弗許而後較** 髓少師有鑑楚開伯比日可矣化有象不可失也楚 置侯将并之季梁止之日天方授楚楚之贏其訴我 必得志於其君王聚軍而納少師少師歸請追楚節 處車且出日季果在何益開伯出日以為後國少 一人手手 阅康季郭胥四國 季深論祭楚 人参之一

料菓不開かせ と者様似如 得其大九年 百戰不難 电知能知己 EBKBal 楚我我軍其南門属張日報小小のEKK 仁者之所以 在和不在書 刀头克有数 領の一万心 之前日末可務人三數割日可矣齊即敗縣公将 安弗敢專也必以分人對日小惠未編民勿從也公 **疼師伐我公斯戰曹勘請見問 敗之為城下之盟而退** 出驅楚役徒於山中楚人節其北門而伏諸山下天 专合进事 商周之不敢君所聞也成軍以此又何濟焉莫敖日 必能莫数日盡請濟師於王舒日師克在和 也可以一段戰則請從公典之承取於長久公將鼓 於鄉館有處心而特其城莫有聞志若敗郎師 四邑之至也君失於郊野以無四邑我以銀師督加 楚郎莫敦惠之嗣廉日 樣牲玉帛弗敢加也必以信料日小信未子神勿 林樵者以為之從之殺人獲三十人明日较人爭 之行日十以次發不發何卜述敗與師本盟而逐 丞民小大之獻雖弗能祭必以情。 曹朝論眼 屈瑕誘紋人 人能と一 那人軍 而転 何以吸 於郊必 藝 公日 Ħ 對日忠之屬 彳 穿講詩無 煮 |衣食所 乑 Ĺ II E 在 H 杲

其代名學本 有面 瓦克里特用兵者野 有 東京縣 大 衛 日 宋 三 **が良意も** 马麦布基本 不專王不宜 工介面长点 又有現實者 再開北之早 論目古為此 先再俗古之 難之代及在 利面詩之以 |帮征而不後寒人是問對日貢之不入寡君之罪 前貢包茅不入王祭不供無以 稻酒寡人是後昭 齊侯以諸侯之師侵蔡蔡於遂伐楚使晉仲貴之日 不聽宮之奇以族行日虞不 於君君雕之雖陳將不聽乃使苟息 |苦节息請以屈産之乗與垂棘之璧促進於虞以 ★不供給那王之不復君其同諸水資齊師次於 舉矣晉師選果襲廣減之 可玩能所謂輔車相依唇以齒寒者其處載之謂也 奇諫日號虞之表也 宮之并存為對日前之為人備而不能 然公日是吾寶也對日若得道於處循外府也 |而衰三面竭被竭我盈故克之夫大国難測也懼有 伏焉吾视其敬服笙其旗靡故逐之 本籍籍 鄭申侯計福軟群釜 苟息路炭低道 可下 · 公問其故對日夫 展勇氣也 八十二 親其數登杖而望之劇 **魏丛虞必從之音不可** 願矣在此行也晋不 段道於獎官> 强颜且少長 日可矣遂还 鼓作氣再 感觉 公仆 Ť 化

用. 基之長故可 **事候便子連** 之届完及諸侯盟陳蘇齊堂謂鄭申

侯日師出於

濼

后此其计算

作三軍謀元師趙衰日都餐可使都殺將中軍宋後

者以办楚國方城以為城漢水以為池雖果無所用 攻城何城不克對日君若以德級諸侯誰敢不 與風完乘而視之齊侯日以此泉縣誰能樂之以 **地子使用完如師師送次於召陵齊矣陳諸侯之師** ル

日師老矣若出於東方而遇敵惟不可用也若出於 鄭之間國必甚病若出於東京親兵於東夷循海面 雕其可也申俟佯日養濟堂以告齊侯許之中 鄭問其其資糧犀展其可 **也齊侯悅與之虎毕** 使見

联持全

市合 奢特

歩にこ

£

子魚論擊苑

楚人 伐宋以敕鄭宋及楚人戰於弘宋 À 八旣城 柳

不許旣濟而未成列子魚又以告公不許師陳而后 人未清司馬子魚日彼泉我寡及其未濟請學之公 춋

敢之人監而不列天贅我也獲則取之何有于二毛 學之朱節敗積國人皆咎公公曰君子不重傷不 一毛古之為軍也不以阻隘也子魚日君未知戰的 恥教殿求飛敵也三軍以利用也金鼓以聲氣也

> 利而 用 之胜置 可 Ċ 箳 盛致志鼓僥 P

晉侯 伐曹牧宋

者奪斯如天 法日等出音 **火锅此料** 其必数具核 代育角是皮 婚於衛若代曹衛楚必救之則宋免矣乃蒐於夜禮 楚子 **牧恵取威定動於是平在矣狐偃日楚始得** 及諸侯圉宋宋公孫固如晉告恶先軫 曹雨新 H

報

齊秦藉以告楚我熱曹君而分曹衛之田以賜宋 百八年华 **我欲最矣齊秦未可若之何先於日使宋舍我而** 使門尹般告悉公日宋人告悉舍之則絕告楚不許 歩こし 7

怒而從之科 相面跡で 害盛怒頭一

要使子玉去宋日無從晉晉侯在外十九年矣.而果 伯分曹衛之田以昇宋人楚子人居於申 **楚愛曹衛必不許也喜路怒碩能無戰乎公悅執曹** 使申权

執龍馬之口王怒必與之師子玉使宛春告於晉師 之謂矣子玉使伯努請戰日非敢必有功也顧以 则歸又日知難而退又日有德不可敢此三志者晉 假之年而除其害天之所置其可廢乎軍志日允! 得晉國險阻艱難備皆之矣民之情偽盡知之矣天 圕

扫諸後衛侯而封曹臣亦釋宋之園子犯日子玉郁

怒從 我由楚直其衆素飽不可為老我退而楚選我將何 故战子犯口師直為壯曲為老豈在外乎微楚之力 乃拘宛春于衛且私許復曹衛曹衛告絕于楚子玉 後曹衛以持之執宛春以怒之既戰而後國之公僚 楚有三施我有三怨怨仇以多称 之解禮处 雅哉 古今新籍 不至此退三合避之所以報也背惠食言以抗其仇 何以戰乎不許楚言是棄宋也救而 一香師乔師退軍史日以君避臣且 君 庾 一言而定三國我一言而亾之我問無聽 八米こ 臣取二不可失矣先軫 何以戰不如私許 Ħ 弃之若諸侯何 楚師老矣何 子 **典之定人**

作也讓不聽 公住托於王 人有字矣非 西能相避去 所為鄭必知之動而無所必有悖心

能害之獨非

王孫游論秦師

茶

不知公不聽召孟明西乞白乙使出師於東門之外

且行千里

其

誰

水若其不還若退臣犯曲在彼矣退三舍楚象欲止

丁玉不可晉侯次于城濮楚節背御而舍晉侯思之

犯日戰也戰而徒必得諸侯戰而不捷表裏山河

遠非所聞 电师努力竭遠主備之無乃不可乎 師以 **杞子自鄭使告于秦日鄭** 百个看得 來國可得也發公訪請蹇叔蹇权日勞師以 下来之! 人使我掌北門之管若

功全由 突後 放高之領軍 開吾子将步師出于故邑敢衛從者不與較邑為從 **弦商将市于周遇之以乗車先午十二衛師日寡君** 禮則脫入險而脫又不能謀能無敗乎及滑鄭商 **滿尚幼觀之言於王日茶師輕而無禮輕則寡謀集 泰師通周北門左右免骨而下** 超 乘者三百乘王

戟而親之得臣與寓目焉樂枝對日寡君開命矣楚 必無害也子玉使問物請職日請與君之士處君憑

君之惠未敢总是以在此為大夫退其敢當君平

个 雅命敢煩大夫與二三子 我前車乗 敬爾君事話

相見晉車七百乗晉侯登有幸之號以觀師日少

有之施居則具一日之積行則

備一夕之衛且使渡

本彩中軍日今日必無晉矣胥臣索馬以沈皮先犯 長有禮其可用 也遂伐木以益兵子 玉以 . 才 敖之六

傳通楚節驅之孤毛孤俱以上軍夾攻左節沿楚節

粮晉師三日館毅

塞叔諫獎鄭

原蔡右師演狐毛設二旆而逐之樂枝便與曳柴

崩

子 9-30

魳

Ħ

夫好被面原 可行故遊師 . 解置失日 留名無男 功 老師費財兩無益也乃駕以待子上欲涉大孫伯日 |明吾題合子濟而陳選速唯命不然子亦纤我而陳 |之使謂子上日吾聞文不犯 與武不違敵子若飲戦 告於鄭鄉穆公使親客館三子則申載屬兵秣馬矣 不可晉人無信半淮而薄我傳取何及不如好彼而 丁本于非 防處父侵標楚子上核之與晉師灰派而軍陽子 奔宋孟明日鄭有倫矣團之不繼吾其還也然滑而 吾子取其麋鹿以閱數邑若何杞子奔齊逢孫楊孫 端矣為吾子之辨行也鄭之有原圖猶素之具圖也 罗王教子上。 陳乃 退会陽子宜言日楚師道矣遂歸楚師亦歸去 使皇武子解与日吾子淹久于秋色惟是脯皆维者 丁爾臣謝子上日受晉斯而避之楚之恥也罪莫上 宋原及是公子雍于晉後趙 通之前也移應日 随宜子版素師於令本 陽處父計選子上 人类: 抱太

丁府於朝日先君何罪其解亦何罪合前尉而外求

大用制生化 支用制生化 也趙有副室日穿香君之壻也有龍而必不汝軍 以待之素人欲戰時士會從先義出奔在秦朝秦 果變 日趙氏新出其屬日史駢必實為此謀稱以老我師 何必子同官為寮吾會同寮敢不盡心乎弗聽至是 君此必不行子以疾辟不然禍將及禄卿以往 先篾之使也替林父止之日夫人太子猶在而外求 **蓐食曆師夜起敗泰師於令狐先後奔泰士會從之** 之菩謀也还是如追选軍之善政也訓卒利兵秣馬 既不受矣而後我師泰將生心先人有李人之心軍 以無秦師宜子日我若受秦秦則實也不受則悉也 君將跨實此出朝則抱以遊趙氏領首于宜子日先 下人 新華 才吞唯子之怨今君雖終言猶在耳而察之若何官 君奉此云也而屬諸子日此子也才吾受子之賜不 **于與諸大夫皆患穆廣且畏備乃背先簽而立靈** 勇而使且惡斯之在止軍也若使盗者肆馬必 史駢科泰師 八米と 圓 可

河濟矣公使士會士會群日晉人虎狼也若背其言

另個巴巧學

日余病矣从退節存者張侯日師之耳目在吾旗

高超入晉師却克禦之傷於矢流

血及侵未絕鼓

以乃事故様 好馬上尚有

日我不知謀乃出其屬以戰宣子日未必 惟敢是求敢至不擊將何俟焉軍吏日称有待也 秦軍掩晉上軍趙穿追之不及返穿怒日裹 養穿也是 槿 坐 车 串

斯臣死妻子質奏

必為教無益于

P

儛

展日兩君之士皆未轫也語朝請相見更骈 肩 矣秦以勝麟我何以報晉兵乃大進秦使 日春使 ń

薄人 干胎無勇也乃止秦師夜頭 趙 宜子計役士會

當單門而呼日 死傷未敢而弃之不惠也不

而言肆做惟我矣夜將題為諸

河必敗之趙穿

特期而

下人, 书帮 人なべつ

秦用士會趙宣子惠之日士會在秦買季 可買季龍星櫃殺陽處父其罪大士會出奔我實陷 至將若何有林父日買季父有功請後之谷數日不 秋晉惠日

壽餘之孥而夜遊齊餘使自歸于素泰伯許之壽 宣子從之乃使會壽餘偽以其邑叛以誘士會晉 之且其人能發而不可辱能柔而不可犯更智足使

餘騙士會之是於朝士會会之秦伯即師于河 在東齊係日前東人之能者與吾先往魏謀之師 西魏

> 士會之李 不用耳子志其選手既濟觀人果噪而遠泰伯亦 粮日子無謂秦無人吾謀遊

寨大夫捷朝贈士會以

日晋若背言西我不歸爾之拏者

有 君

如何 矛

士會乃行 馬春伯

而示以以此代楚差子思之欲徙既高以避之為買日不可我能先使用者可 **逆大侠盾人即群醬以飯楚麇人 莠贾先袋制诸量** 車 Ħ 挨

聚于選

而示之以明 と過れ有理 不能師故敢謀我今我先代 在者冠亦能在不如前先伐庸夫糜與百震謂 清净 八さん 庸 劆 康被必 _**-**惟而歸 我

皆北庸人喜日楚不足较矣遂不倚楚子乗傳會 **先君蚡目之所以服暨隰** 之解根日姑與之遇以翳之彼翳我怒而後克之此 之乃出師麇與百漢皆罷楚使虛最恭代庸庸人逆 臨品素人巴人皆助楚述減庸群蠻皆從楚盟 達丑父免君於難 也于是最黎與庸遇七

子 9 - 32

りき 好座 则图者 起首於左告 等左右抄下

化伏息以聚 尼亚父其王

乃提抱而載之師從之齊師敗積齊侯奔御者 進退役之此車以一 人鎮之可以 炦 半音 7 達工 なと

和諸戎晉

無视而

伐 鞋否刚

Ż

頽

折

腜

陳

新 侇 來 日亥狄

和將親

外我

我傷則 食不如

横貫 , 释日 諸

承其乏丑父乃使公如華采取飲公載副車以歸韓 以身為愛自今兼任君之患者 厥歌丑父郤克怒将戮之丑父大呼日吾逸吾君而 衛請下臣不幸屬或行無所选隱敢 新及華泉·計與灰追獲之繁其馬日家君使臣為各 父日事恶矣前與君易而御之齊侯下車且父乘爲 郤克日人不難以 概君之僕御而

角其君我数之不祥乃赦之

一个千季 邻至論楚六郿 スタニニ

认外 爲郤 楚師 壓 師原而不整發軍勇而不原晦日陳兵合 至日楚引六間不可失也其二即相惡卒老不 晉軍 而順晉師患之士每日 一一一一一 相 N 陳而 何 申

皆在中 中 详各顧其後莫有關心我必克之苗資皇日楚之良 軍必敗之公從之楚師大 軍請出銀以擊其左右我復合三軍而攻其 ĸ

無終子嘉父使孟樂如晉因觀絲納虎豹之皮以前 观释和戎五

> **走出十二字** 乏試 近傳俱約日 師於

新振動 諸侯 畏懷 三也 也邊解不聲民神其野精人成功二也我伙事晉 日和戎有五利焉戎狄聚居貴貨易土土 **奔默儿** 戎而楚伐陳必弗能杖是棄陳 费 戎失華無乃不可平公日 師徒不動甲兵不頓四 数 也 則 一諸華必 一可買 和兴乎 也 爲 钣 夢 Ŋ 綘 戊

11 親終風前 于后羿而用德度速至通安五也君其尚之公院使 行奪 戎 歩と 13

|終無成知華日許之盟而還 四軍與諸侯之銳以逆楚師 |許新園之以致楚之教我遠楚擊之不 晉代鄭惡其從楚也 **每偃不許鄭成** 鄭人恐請行 師以 于我未病楚則因矣猶 較楚 成前

念于 **殿暴骨以進不可** 荀 偃 設 偽 退 齊 ħ 以爭乃 育鄉

冹

人哲三分百

然 偃

H

郭

未

ÞŢ

鄭見楚教

荷俚 **馬爾山澤之陰雖跡所不至必施而 代齊齊侯樂請平陰登** 巫 山以 笙 **筑限之使乗** 音師晉人 섇

也发生者是 电马起者伏 果物物者

足面黄之中

車左 也乃脫歸師曠告晉侯日鳥烏之聲樂齊師其遺矣 邪最日子爱國師齊之辱也子姑先平乃代之爱衛 伯告偃日有班馬之聲齊師必通 實右 偽以旃先行 興曳朱而從之齊侯畏其泉 風沙 衛殿殖鎮

師具丙科郭最 穆子不以養邑買怠

發馬於監 2 塞道晉州 梅追及之射 腫終 稱之晉右

晉中行穆子即即伐狄圍鼓鼓人有欲城叛者穆子

弗許左右日師徒不 木水之一 一動而 Д 養城 何為弗許穆子日 ÷

好何若其弗賞是失信也何以 叛吾所甚惡也今以城來而吾好之貧所甚惡若所 超向有言好惡不然民知所適事乃有濟或 令民吾力能則進否 Ц 吾城

有食色站修而城軍吏日後城而弗取動民而順兵 何以事君穆子日此正吾以事君也獲一邑而教

怠將馬用邑買怠無卒棄舊不

辨

故人能事其君

面民知義所而

表不变有死命面無二心則城可得

者而籍守備團鼓三月鼓人請降移子觀其民日

退不可以食而通好所奏實多乃使鼓人殺所

法亦亦

夜從之是三阡皆送對聲雕楚師驚風自發異人擊 籍力取之以兇辜泉許之乃擇長鬚者三人詐為 先往潛伏於舟之側滅之日我呼餘皇則對

吳

餫

敗之頭餘皇以歸

一个手筆

火こん

闖廬分師被楚

子光日丧先王之乗舟当唯光之罪衆亦與有爲 吳伐 楚 段于 長岸 吳 節 及 楚 獲 其 乗 **夜以事吾君不** 圖盧智取餘皇舟 亦可平鼓人告食竭力造乃取之不 舟日餘皇吳

乘故先分阿 成也所遂可 不全心失和

同役而不合心師獎而不能整無大威命楚可欺 若分師先以犯胡沈與陳必濟三國敗諸侯之心 卒其軍叛選越身殿為即且多俸員政令不 大夫酱年耄而愚瞋與許蔡皆疾變政令尹成 Ł 魳

附之吾聞感克展爱者允濟今胡沈之君幼而在

吳公子光日諸侯雖多從楚皆小 許人皆從楚豹異人禦于鍾 吳伐 州來楚薳越師師教之頓人胡人沈人蔡人

雕楚令尹子瑕卒 國也且畏

楚而

陳

班前國大學

●軍以本其 以往其心后

突諸侯竟差勢失矣前以先者薄其威以節之而母 者整其即以灰之夷子從之大敗楚節

鮑圓諌聽勝虎動師

能三加感取之齊侯將許之飽國陳日臣皆為東于 勝虎歸帶實玉大弓而奔齊說景公日蕭以節伐祭

而無天萬若何取之陽虎欲勤齊師耳齊師疲大臣 龍于季民而将教季孫以不利於會放求客焉親實 必多死以已丁是平香其詐謀齊可國也夫陽虎有 施氏矣魯未可取也上下猶和家無猶睦能事大國

侯將執之懼齊趙 之所以欲傾殺也魯免其疾而君敗之無乃害乎齊 不親仁君焉用之君富於季氏而大干魯國兹陽 开事 入参之一 淲

古今开专

--1

|齊侯從之孔子孝公以退命士官以兵却萊人而音 孔丘知體而無勇若使來人以兵劫會侯必得志爲 公會齊侯于夾谷孔子相齊大夫華蘭言于齊侯日

孔子却萊兵

1

|之日兩君合好速夷之俘虜以兵亂之非齊君所以

命諸疾也建不謀及夷不亂華存不干盟兵不倡好

	有行 時 位			· 山 山 山 山 山 山 山 八 山 八 八 八 八 八 八 八 八 八 八			7 英 列 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本											
町	不	践者權之關伍之中加之大夫之上士卒未附百好	大	能	之曼嬰乃薦田穰苴日粮苴雖	齊		不	1	胡	誰	武		Ï				ľ
於	信	君	說	附:	曼	齊景公時晋代		偤	古	胡兄弟之國子言伐之何	μ	武公欲伐胡先以其子妻胡						i
县	人	欋	之	泉:	嬰	<u> </u>	褸	漆	•	弟	伐	欲	鄭		'			
星	微	7	rī.	甙	75	旃	ä	態	i 🕻	بز	*	传	朮				洲	
Ä	樵	關	盘	能	魋	普	斬	甜	7	73	*	tei	入		'		*	
Ħ	慮	布	將	尉	Ħ	在	群	版		7	+	*	取	ĺ		1	*	
7	廟	7	重	一節	[権]	M	苴斬莊賈	遂襲胡取之	4	查	. M	PI	鄭武公取胡					
使	4	#	將	齑	岩		~		大夫之三	. Æ	H	1	171				15	
並	世	<i>-1</i> 91	. /// Fc	과	L.	毲而燕侵河			3	7	抽	一大					淅水文弢父朱錦輯	
暫	7	1	并	2	雅	幕		ļ		補	797	#					小	
人	~	7	旗	311	/旅	总				也	10		:	i			34	
江	1968	1	雅	- - -	I.EL	TX :				101	199	117)					珥.	
7庆	比	조	丁	京	蝉	7")			ł	149	P	周						
Ħ.	幽	z	Z	公	H	Ť		2	į	君	. 15	闾		i		l	İ	
趷	Z	Ŀ	脚	召	氏庶	上斉師		i		岡	I	翠					ĺ	
解	肵	±	榎	稷	圧		i	•		胡君聞之以	公	臣		朱	朱	朱	朱	
與	尊	卒	直!	L	孽	敗]		怒	. 日]		豫	iZ.	糸	
莊	N	未	日	與	孽	續		İ	1	鄭	而	吾		楷	淳	之	鼰	
賈	監	肿	臣	語	Ħ	景	l		1	4,	数	同羣臣日吾欲			$ \dot{\mathbf{A}} $		#	
於是景公許之使莊賈往獲且民解與莊賈約	敬權輕願得君之寵臣國之所尊以監軍乃	百	大說之以為將軍將兵扞無晋之師聽直日臣素甲	能附東武能威酸頓君試之景公召 覆 直與語兵事	其人	續景公惠			Į	鄭為親口	誰可伐者大夫關思期日胡可伐武公怒而数之日	用		[朱豫淳全正		評正	
H	73	4	車	事	Ż.	東			Ì	P.	Ĥ	Į.	ĺ				_	

不整新不

古今新籍卷之二

便 排 定 解 **制亦且平** 平言亦 仲

去君之嚴律 伸單座華小 获页之 截水 演其場子粒 使者大權機直日君使不可殺乃斬其僕車之左射 十三篇吾畫親之矣可以小武勒兵予封日可問 吳王 閱閱時孫武子以兵法見於吳王闔廬日 馬之左擊以狗三軍錄是士卒畏服三軍用命 不受問軍正日軍中不馳今使者馳云何正日當斬 使者持節敖賈馳入軍中穰苴日將在軍君命有所 逐斬莊買以殉三軍三軍之士皆振傑久之景公遣 **债斬莊買懼使人馳報景公請發既往未及返於是** ì 為相送乎召單正問日軍法期而後至者云何針 於境君寢不安席食不甘味百姓之命皆懸於軍 鼓之日則总其身今敵國漢侵邦内醫動士卒暴 日將受命之日期总其家臨軍約東則总其親慢抱 日日日 日何後期為買謝日不伎大夫親戚送之故醫穰 行軍勒兵申明約束約束既定夕時莊買乃至後 左右送之團飲日中而買不至聽宜則小表決漏 買買素騙貴以為將已之軍而以為監不甚急親庭 ٨ 孫武子斬龍恒 并非 中會於軍門 八十十二 模苴先馳至軍 立表下 編待莊 子 Ż 'n Ħ ĸ H

可以已千萬 在軍能級不 一州皮質繁

新托貝組織 **齊o** 王 吳王日将軍罷休就念寡人不順下 受命為將在軍君命有所不受遂斬二 其大為隊長於是後鼓之婦人左右前後 矣寒人非此二般食不甘味願勿斬也 新愛婚大樂 趣使使下令日募 古今升舞 吏士之罪也 是鼓之和 日可 知之孫子日前則視心左視左手右視右手後即 皆令持執令之日汝知 其部 矩 東不明申 十人孫子分為二隊 P 繩 人日 ∄e 試 不 試下親之唯王所欲用之難 墨無敢出聲於是孫子使使報五日 復三令五申而鼓之左婦人後大笑孫子 n 能用其作 柿人大笑 孫子日 諾約束既布 婦人乎日可於是許之出宮 乃欲斬左右隊長吳王 令不熟將之罪 也既已 **第** こ: 野 北威齊罪 於是問題 爾心與左右手背乎 乃設鉄鐵即三令五中之 以王之寵姫二人各為 約束不 额名活便 夘 Ä 孫 Ľ 子能用兵 NR 孫子日 赴水火 從臺上觀見 明而不如法 明 知將軍 孫子 申令不然将 中美人 孫子與 腌 ٨ 绡 起告 婦人 乒 Ж 能 Ħ . 凭整 卒 Ŧ 可 仰 臣 用 得百 隊 仕 įjo i И 中 用 ね 餌 Įį. Ħ. B

得報一篇子 育知之而如 即無原來與致汝二子則生不能則死奢日尚為 **韩之粮苴之** 騴非仁每以 兵者不仁之 後生患故以父為質許召二子二子去則父子俱 剛及忍詢能成大事使兄來之并擒其勢必不 往 子太子建丛奔宋無忌言於王日奢有二子皆賢不 城父司馬奮楊往殺太子行未至奮楊使人 **貲無忌詭太子建及傅伍奢於平王平王怒囚奢** 至 干. 宇奮出為之赴職看 藥身 古今 分糧食最此其嚴弱者三日而後動兵病者 司馬 功節 人員日楚之召我兄弟非欲以生我父也恐有脱 聽使人召二子日來吾生汝父不令殺奢也 H R λî 釋兵族解約東書盟而 為楚曼可以其文質而召之王使使謂奢日 新春 於是追擊之遂取所囚 伍奢料伍尚伍貞 Á 穣 田 苴 極備之悉取將軍之資糧享士身與士卒平 莀 Ĭ 為將既統兵士卒大舍非龜飲食疾病醫 人奏とこ 椎 糧車 師聞之為罷去莊師開之渡 £ 封 後 入邑 内故境而 人仁呼 引 必 先告 兵婦 智求 尚 來 來 水 使

任實以吳報 父以身叛具

复遂仏之宋從太子建

載之下質を 既就執使者補自負員弓執矢向使者使者不敢進 笑耳前負日可去矣汝能報授父之簪我將歸死尚 父奈父召献以求生而不往後不能雪恥終為天下 以雪父之恥俱減無為也伍尚曰我知往將不能全 何益父之死 往而令替不得報耳不 如 奔他 H

建干秋好座 越欲伐吳范蠡諫日不可兵者凶器也戰者遊德也 百合折帶 者事之末也陰謀逆德好用凶器試身於所末上 范養動越王臣吳 へ来とこ

之戒柄兵士

保棒會稽吳王追而閱之越王謂范蠡日以不聽子 酸日諾乃令大夫種行成於吳滕行頓首日君王丛 節事者以地早醉厚禮以遺之不許而身與之市句 |改至此為之奈何蠡對日持滿者與天定領者與人

無之然不有

而使候子愛

新社長之言

聞之悉發精兵擊越敗之夫棣越王乃以餘兵五干 帝禁之行者不利越王日吾巳决之矣遂興師吳王

得力在斯

句踐句踐欲教妻子借實器編長以死種止句踐日

吳王將許之子胥日此天以越賜吳勿許也種選報

臣句發使陪臣種敢告下執事句踐請為臣妻爲妾

氏卒以爾登 百量旋切着 為智氏實此 命不長矣周青日將貧敗之必姑輔之將欲取之必 敵陰國恐而相親以相親之兵待輕敵之國智氏

美王之 心在 殿不足得! 後其 大王教向踐之罪查入其實器不幸不赦向踐將盡 女實器令種間欲豁勢受乃見種於王頓首言日願 吳太宰縣貪可誘以利請問行言之於是句 妻子婿其實器悉五千人獨戰必有當也報因 踆 以美

說王日越巴服為臣若將敖此國之利也王許之 南文子逆智伯之爲

智伯欽襲衛乃佯亾其太子使齊衛南文子

Ė

太

願為君子也甚愛而有寵非有大罪而以必有故使

百合 新鄉 人迎之於境日車過五乗慎勿納 人参えこ 也智伯聞之乃止 六

任章勒魏桓子與地以滅智伯

恐重飲無厭天下必惟君子之地智伯必 桓子日無故索地故弗予任章曰無故索地跸國 智伯索地於魏桓子魏桓子弗予任章日 騎騎而 何故弗 輕 必 子

姑與之君不如與之以驕智伯君何釋以天下圖

氏而獨以吾國為智氏資乎君日善乃與之萬家 巴一智伯大說因索蔡皋很於趙趙弗 與因圖香陽

企件何是至 原門其雙西 茶菱 心状母 不直說先引 車勝為開城 ÷, 好不得不凡 装有 込込さ 告处以兵则 告養稱一二 二草舞野世 運以大鎮府 し多灰灰点 數人處全年 國而 日韓氏能於兵倉廪空無以守城吾攻之以傑不 遂往見韓相國公仲日公不門楚計乎昭應謂 君得高都周君大悦日子苟能寡人請以國 **日何患焉代能為君令韓不徵甲與栗於周** 雅氏之役韓徽甲與果於周周君惠之告蘇代: 君懼焉 以祭 杰由威之故使長兵在 之國也兼有吞周之意使樗里疾 做故也也公伐禁也號言伐楚其實襲蔡令秦處 **佐由遺之大鍾載以廣車因** 王怒讓周以其重泰容游腾調楚王 察令樗里疾以車百乗入周周 術疾而實囚之周 月必抜之 今問 爱大王楚王乃优 信 **蘇代計監韓後周甲粟** 腾計釋楚飯 **昭應之計** 张上: 关令公乃 雅氏五月不能板是楚病也楚 君豈能 無愛國 随入以兵 微 君迎 押 與架於周此告 以 車 哉恐一 荊 H さ 4 以外卒 百杂 **公由卒** 昔智伯 强等在

文能

聪 楚 蘇

£ R 爲

Ŧ

我看面有恐 養葬器又り

王以為和君令敵已以此惠素泰得

無

以

楚

東國自免也必欲之楚王出

必德齊齊

得東 攻而

國而

韓

親

反

於

外

趙氏應

於 į, 智伯

遂

Ā

- 甚敬

Ĺ 纵

仗

輕自是實情 韓机强用者 及韓高幹之 |卒不拔雍氏而去 病追船應開 所以進兵者欲王令楚割東 散邑以君之情謂秦王日薛 為春面君無攻又無籍兵乞食君臨函 末更 盛虛實有時編為君危之君不 南無楚愛西無秦惠則追廣而益重齊必 九江取宛葉以北為强韓觀令又攻秦以益之韓 於西周轉慶為西周爾薛公日君以齊為韓魏 何不與也公仲日善不徹甲與栗於局 怒而焚周之節不過其使是公以 都代日與之高都則局必折而入於韓秦聞之必 公仲怒日吾無徵甲與栗於周亦已多矣何為 仲日善然吾使者已 ₩公以齊為韓魏攻楚又與韓魏攻秦而藉兵念·食 韓慶計沮薛公攻秦 ġ. 必動差王益兵 行矣代日 國以與 公必不 守雍 公何不 敝高都得完周 奪 破 如 氏雅氏 秦 丽 谷 令敝邑脍 而與高 以高都與 秦 Ÿ. 而無攻 輕矣夫 張韓 £ 必 出 真 核 欢 Ą 魏 办 差

H.

Ż 俊 周

Ä

髙

干类

此

鄭

侍

魏

他出很王原 得東國學科 而輕韓親攻泰而鄭と都哲と于齊陳蔡と 宮他謂周君日宛特泰而輕 |必重齊薛公日善對令轉慶入秦而使三別無及 强而薛世世無患秦不 而使不藉兵乞食於周 宫他論提不可恃 大弱而 一番春 虎 機而 Ż Ξ 短人 晋 之西三晋

矣君不如使周最脍合於趙以備 皆恃援國而輕近敵也今君恃韓 亽 孫術計阻義渠勿提 魏而 奉 刖 不 輕 茶 國 心傷

川秦 矣請竭事情義渠君日願聞之對日中國無事 且焼螨複君之國中國為有事於秦即秦 Ħ 於 表

義果君之魏公孫祈謂義果君

H

道

遼

F.

不

得

復

渦

1

纤謇

八根シニ

具此數語工

使 人道義集君義渠君致 ģp Ħ. 路之以儘其心秦王日 國 重幣而事君之國也義察君曰謹聞令居無 伐秦陳軫謂秦王日義渠君蠻夷之賢若王不 群 E 善囚以文儲千匹 一一一時 日此 乃公孫彷 好 女 幾 何

> 我明二先定 英菱光

> > 以春

攻之臂如使虎豹驅群羊也取其地足

以廣

Ż

所謂也因起兵襲秦大敗秦人於季帛之下

可馬錯張使論伐蜀

放弃所国官 挥不長外 料 倭日 Ď 不如伐韓王日請閱其說對日親 錯典張儀爭論於泰惠王 之口當屯雷之道魏 前面 馬錯欲 絶南 陽楚 魏善楚下 伐

蜀

秦

用此等 后世灯雄竹 三川 楚魏之地問自知不敢九與實器必出樣九門按問 办 蹇 秦坟新城室陽以臨三周之郊誅周主 一颗軟紙氏

一之罪

侵

得其 籍核天子以今天下天下莫敢不 獨西僻之國而戎狄之長也做兵勞泉不足 川周室天下之市 地不足以為利臣問爭名者於朝 朝心 而王不爭 聽 韭 聶 爭利者於 王業也今 獅爭 X 於 庻 戎 市 4 夫

楚及斑最后 白起所以鹿 处在中中此 蜀机束蜀则 取非けばれ 最舒放气政 医作片图书 老泉谓黍之 易夫蜀两僻之闽也而戎狄之長也而有 者倘而王隨之矣今王之地小民貧故臣 廣其地欲强兵者務富其民欲王者務博其德三資 | 秋去王素遠矣司馬錯 , ** 关えい 百不 然臣間之欲 官國 集 願從事 舯

本部前皇帝共 后謀長觀戒 澳南貧爽而 蜀亦此繁物 **养鸡蛋后生** 平界 士漢方 我 劫 也得其財足以富民籍兵不傷衆而被已服矣故 天子 國 皋 而天下不以為暴利盡 劫 而名實兩附而又有恭暴 天子惡名也 而 未必 四海諸 利 也又有不義之名 Ē (依不 **亂之名令攻韓** Ü 為食是

子 9- 40

者

務

巴指韓自和 申仰首母此 楊解以畔畔 者不信則排 进日知被知 相使面相用 天下未有不 起佯敗走張二前兵以劫之趙君遂勝追造秦璧璧 王怒以趙 韓不為韓氏先戰韓亦恐戰 之遂定蜀蜀主更號為侯而使陳莊相蜀蜀旣屬秦 |也齊韓周之與國也周自知失九門韓 日皆內陰相殺食趙若自引銀卒梅戰秦軍射殺 秦攻趙趙將廉頻堅璧以待秦 **玄陽之役楚畔秦** 以門與楚以地與魏玉不能禁此臣所謂危不如 坠柜不得 益强富輕請 蜀之完也惠王曰善寡人聽子卒起兵伐蜀十月取 五五計騎絕趙軍分而為二 御也楚言與韓而不餘怨於秦臣是以 白起擊破趙軍 **竹茂策韓楚相御** 入而泰奇兵二萬五千 括代與括至則出擊素 侯 朱七二 不而合 於韓秦 糧 不楚 道 敷 £ 挑 À 軍 惺 絕不得食四十 有變其後韓 秦將 **絶趙軍後又** 戦 Ħ 茂日 趙 知其 兵 武安君白 解乎楚 źр 不 楚 出趙 御他 楚 趙 Ā 必

而攻灭下之所不欲危臣請謁其

放用

下之宗

1 天

中近者也近 自之婚亦知 攻所以能手 遊交所以基 於建交近攻 **承之伯奈定** 得尺亦王之尺也今舍此而遠攻不亦繆 笑所以然者以其伐楚而肥韓魏也此所謂籍 充雕 而齊盗糧者也王不如遠交而近攻得 之罷露君臣之不親母兵而伐之主辱君破為天 之地無得者豈齊不欲地哉形弗能 · 一段 門者齊人伐楚戰勝破軍殺將再降于里南寸 羲矣今見與國之不可親趙人之國而攻可乎 害於秦臣意王之計**欲**少 王之計有所失也王日願開所失計雅日大王越 酮而不敢窺兵於山東者是穰侯為國謀不忠而 |侯譬若施韓盧而逐為兎也霸王之業可 |咸車干乗奮擊百萬以泰卒之勇車騎之多以當該 日本新華 莫能害今韓魏中 而 山之地方五百里趙獨擅之功成名立利 英强齊非計也少出師則不足 日大王之國北有甘泉谷 . 矔 說秦遠交近 人名とこ 國之處而天下之樞也 攻 出師而悉韓親之兵 þ 南 有 帯 以傷齊多之 Ξ ተ 也諸侯 淫 手儿 則王之す 致今反 湄 王若 附馬 右腿 背者 涎丘 見 疏 則 則: 韓

新散之牵者 於散使是以 **新正碱從之** 攻其人不会 者不我衙儿 魏 而後 三世 作者下公益 削则兵入韓 実が存せる **一一都很在我** 無可以及以下 **头监之路泰** 予以於為整克雅日舉兵而攻榮陽則成皋之路不通北新北。 sadage 克雅日東兵而攻榮陽則成皋之路不通北新北 · ()減取俸 花粒速交近 KK以 BX 東人不能親請問親魏奈何范雅日早解重幣以 **雅所以卒并** 天下之勢而 アル 國壓 **為三韓見必以爲得不聽韓聽而霸事可成也王曰** |害者莫大於韓王日寡人欲收韓韓不聽爲之奈 ···之有韓若木之有 國人之病心腹天下有變為秦 |攻那丘邢丘技而魏請附且秦魏之地 泰奔附 羅 而不得傷者非 善范雕謂秦昭王日 之道則 上黨之兵不下一 主之所愛與樂者關故十攻而弗勝也今王 古今新籍 **楚强** 即 輸必 割 人主所甚愛也人主者人臣之所樂為死也 張儀為言張儀之力多且割地而以自 臣顧王之母獨攻其地而攻其人也 可削地而勝之不可舉兵而伐之於是舉兵 親中 地 而韓不盡張儀之力少則 而韓親可虚也王日欲親親親多變之國 趙附楚趙 國而以為天下樞 人祭えご 秦弱而魏强也其所 **荆則齊必懼懼必** 有及人者有文地者機便下 舉而交玄 以威楚趙 王 遂 陽 張 3 - 髀重 攻者此 朓 形 趙强別楚 俄而更由 王攻韓 其姓 相 腹於 一特文 錯 幣 文 Ū 如 'n 8

圍立

御是用數之 少兵以便前 祖軍於聯風 其所必数去 此法所谓之 遊不可得に **有為主观**反 客女襄陵那 趙見 丛形而有楚之不 故已也必以魏合而以 之或其後也合不敢趙趙有以形而親無整憂是越 电景舍日不然那奚恤不知也夫魏之攻趙 巍巍强其割趙必族矣趙不能聽則必堅守是兩 之敞是趙破而魏窮也 而獨全也故不如南攻襄陵以 田親日何哉對日夫魏氏兼邯耶其於齊何利哉田 不如 利且不利者非此也夫教那耶軍於其郊是道 侯日華乃起兵甲軍於邯鄲之郊段干綸日臣 七月邯郸拔齊因承魏之敵大破之桂陵 下み 千幸 與勿及都子目不如勿教段干輪目勿殺則吾 《共趙也害必及矣何以兩散也且親令兵以割趙 王不如少出兵以為趙後趙特楚勘必與魏戰 郭之鄰耶奚恤謂楚王曰王不如無 耶之難趙求教於齊田侯召大臣 景合一計敏趙巍 **儀者市則王之所求於** 段于輪動都是攻賽陵 人衆に二 田侯日善乃起兵南攻 韓 散魏郎 者 ŧ 而謀日教 一可得 救趙 Н 郭板 而 Ł 也 而 謀 恐楚 Ž 之末 承 礻 朩 趙 馥 ,

低近人情以

は高級ながった。

#耶拔差 原雅藏之間 元奏訂復陳

怒于超之勁

相敢面齊察應楚別親可被也楚因使景合起兵教

而見煙桜之不足畏也必不

释趙 趙 魏

雖百說之舊不聽也公不如以僕之言為資而得後 地甚力左與開陳彩日儀善於魏王魏王甚信之公 陳軫去苑之魏張儀惡之於魏王日軫 猶善楚為求

心看帶 蘇屬計阻楚王分昭鼠漢中兵 外に二

p

楚陳軫日善因使人以儀之言即於楚楚王喜欲後

英以益之秦知公兵之分也必出漢中 術視 正蘇周開宛公昭風日王欲昭雕之乗秦必分公之 **英謂王日秦兵且出漢中則公之兵全矣** · 伐楚楚令昭晨以十萬軍漢中 昭雅勝泰於重 請為公今生

白餐更替炒

今任西之齊齊明爾楚王日泰王欲楚不若其欲齊

齊以淖君之風事泰其後泰欲取齊故使蘇涓之楚

齊明動楚王護齊以雜泰齊之交

之甚也其使用來以示齊之有楚以查固於齊齊見

其必敢也,

肖孫必見齊 厚蛇探开 以 游爱国联心

秦合非蹙之利也且夫涓來之解必非 必 受問是楚之聽消也適為因類以 合齊楚也亦

深親將照消聞之去韓而歸齊軍既已遇而两矣 齊之醉也王不如令人以用之辯謾固於齊齊恭必 得也王即欲以泰亥齊淮泗之間亦可得也 不合齊秦不合則王重矣王欲收齊以攻泰漢中 與趙攻韓韓告惡於齊齊使田忌將而往直走 孫贖計殺魔涓 固之所以之

當至 |日我同知齊軍怯人我地三月士卒人 見白書乃鎮火獨之韻其書未平齊軍萬等俱發魏 曹之日 羅涓死此何下於是今齊軍善 张者萬琴 道而伏期日暮見火舉而俱發麗涓舉夜至灰木 票其步 單與其輕銳倍 目并行还之孫 順度其行幕 馬陵道俠而旁多阻隘可伏兵乃破大樹 者過半矣 自 大 79 r

> 子 9 43

五十里而越利者兵牛至使齊軍入親地

H

為五萬姓又明日為三萬姓羅涓

行三

酸者因其勢而利導之兵法

Ī

里而趣利者歌上 . تر

移十 Ħ

#

*

人がここ

子謂田忌日被三青之兵素悍勇而輕齊號為怯善

7

股后自必要 桶引而東以 **製造不動之** 士洗冰而善飲食藝箱之親與士卒同食久之剪便 剪王境堅璧守之不殿荆兵數挑戰終不出剪日 使趙惠代將廢李牧後三月剪因擊趙大破殺趙蔡 問日李牧常欲與秦反趙以多取封於秦趙王疑之 互騎剪惡之乃多遺趙王寵臣郭開等金使人為反 秦將王剪攻趙趙便李牧樂之數破走秦軍 古人が打棒 鼓挑戰趙兵終不出趙王敦議原雕使 趙括代廉斯將以擊秦秦乃以武安君白起為上 趙為反聞日泰之所畏獨畏馬服君子趙括為將 **治雅為秦那王相使王截及趙趙廉與堅壁以待** 頗易與且阵矣雄王既怒與又聞泰及問之言遂使 趙田軍遂用 一剪將六十萬人擊荆荆人聞之悉國中 王遷遂滅趙 ·赶大阪之 王剪撫士破削 王剪問去李女 范雕問進樂類 火牛大破熊軍所以七十餘城皆 大大二 人行子金於 兵以拒 授泰斯 復

7

正其强电

蘇將騎劫攻国齊即墨齊將田里激怒士泉堅守 軍我其將項無遂定荆地 矣荆數桃戰不出乃引而東剪因舉兵追之大破 田單总燕将

75

养义大疗此

身樣版掉與士卒分功妻妾編於行伍之間盡散飲 食饗士令甲卒皆伏使老弱女子乗城遣使約降於 **豪遺燕將日即墨即降願無虜掠吾族家妻妾令安** 燕燕軍肯呼萬歲田單又收民金得干益令即墨富

堵燕将大喜訴之燕軍由是益懈 古今事業 人長いこ

ţ,

田單誘燕將激聚

田単 惟懼燕軍夠所得齊卒置之前行與我戰即墨敗矣 拒守即量見城中人惶怠無斷志乃宜言曰 吾

> **奥** 牧民更為守 向放不致有

厚遇戰士為約日匈奴即入盗惡入收保有敢補虜

燕人聞之如其言城中人見齊諸降者盡刺皆怒堅 **墓學先人可為寒心燕軍盡掘墟墓燒死人** 一望見皆涕泣思戰怒自 唯 恐見得單又縱反問曰吾懼無人掘吾城外家 十倍單知士卒可用遂用 人從城

牛計擊被無軍

田早大牛破燕軍

問軍中战手對日方投石超距於是剪日士卒可

奇五千人生 文献之义大 其角叉奇勒 **有故脉学 (4) 枚權之又太** 天华资水兵 其端鑿城數十次夜縱牛壯士五千人隨其後牛尾 **畫以五緑龍文東兵刃於其角而灌脂東華於尾** 田草華家堅守即墨乃收城中得干 餘牛為 絳 相

法即作用シ 鼓謀從之老弱皆擊銀器為聲聲動 |之皆龍文所觸蠹死傷五千人因街枚擊之而城中 |熟怒||而奔燕軍夜大鷲牛尾炬火光明炫耀燕軍 天地燕軍大敗

跟走

李牧守屬門

生主十餘类 其中所以政 牧之謀在政 府為十年費日孽數十黎士習集騎謹烽 李牧常居代屬門備匈奴以便定置市 1 本 米二二 袓 指輸 火多間

每來出晚數不利失亾多邊不得田畜復請牧杜門 **长趙王讓牧牧如故趙王怒之使他將代歲餘匈奴** 不出固稱疾趙王乃復疆起使將兵牧曰王必用 亦不亾失然匈奴以牧為怯雖趙蹇兵亦以為吾將 者斬匈奴每入烽火謹採入收保不敢戰如是數歲

如前乃敢奉令王許之牧至如故約匈奴數該無

入莫

課!

政部人必能 现处面得他 不晚故事 古典生手 |面救之暮舍使左右司馬各營璧地已植 野何 日女所管者水皆至減表此焉可 垦 秦斥兵秦斥兵斬趙禪將亦陷趙軍取二 率泉來入牧多為奇陳張左右翼擊之大破將 五 齊韓親共伐燕燕使太子請 救於楚楚王以景 餘歲 是乃具選車得千三百乘選騎得萬三千匹百 秦使左庶長王蛇攻韓 百个行务 |壁廉頗堅壁以待秦秦數挑戰趙兵不出 築壘壁而守之秦又攻其墨取二尉敗其陣 Ù 餘萬騎歲糖盤破東 據上 匈奴不敢近趙邊 奴小人佯北不勝以數千人委之軍 萬人發者十萬 颇拒秦軍 移營服泉開西門以 |黨民戴因攻趙趙使廉 彩 乙三 人悉動習職大縱畜牧人民滿 取上 胡降林 黨上黨民走趙趙軍長 疑齊 胡单于 以舍乃今徙 頗將 j: 奔走其後十 趙 表景陽 干閘 軍士 郊四尉 秦莫能 明 ,奪西 匈奴 之大 陽 卒 鈞 H 怒! ź 將 趙

所得終以為

、怯邊士

日得賞賜

斾

不用

昔

願

Γį

於

不符智者始始祖有之此 春人之心者 不假道魔日 山曼兵親傷 用示之以表 **示之以實質** 法所调查则 門以延齊又 被省及開西 法攻其所必 热而攻猩此 下知地理教 関観教題が 有 所 明見也然山東不能易其路兵弱也弱 謂趙王日三晋合而秦弱三晋離而秦强此 君不如借之道而示之不得 趙也君不如許之許之大勸校 魏文侯借道於趙攻中山 無與共擊楚乃夜遭楚師乃還 **犯**軍 天雨 Ÿ 魏攻中 燕楚與魏謀之乃引兵而去齊兵已去魏失其與國 西和門畫以車騎幕以獨通使於魏齊師怪之以 菾 何春之智山東之恩也是臣所為 趙而伐梁有楚而伐韓有韓而伐楚此天下之所 明也秦之有燕而伐趙有趙而伐燕有 不救燕而攻魏雖丘取之以與宋三國 能越趙而有中山 趙利 或勸趙堅合韓梁以弱秦 Й, 其西齊軍其東楚軍欲還不可得也景陽乃開 山而不能取用 水大出所售者 勸趙假道於魏以攻中 入参りこ (矣是) 魏 **水皆滅其表軍** 必罷罷則 趙侯將不許 用 八將知 兵者魏 ılı 趙 趙 山東之憂也虎 5 而不 重 趙利 也 利之也必 吏 梁而 一而得 魏板中 愝 15 天 惟 E 乃雅兵 服 伐趙 相 Ť **炒於是** 趟 灺 矣 A

岩芸帯生 親以我表現茶稿安移於梁矣以泰之强有楚韓之用梁不待住 三十八九九五 題而 之國必為楚攻韓採反楚之故地楚王美春之語怒 三晋之大合也今攻楚休而復之已五年矣攘趙千 餌趙而雄三晋今王美秦之言而欲攻燕攻燕食未 古今新幂 韓梁之不教已必入於秦秦有謀故發便之趙以燕 里今謂楚王苟耒舉玉趾而見寡人必與楚為兄弟 伐韓魏梁東關於周室甚惟寐总之今南攻楚者惡 不如角遠矣願王熟慮之也令事有可惡者素之欲 也三晋相親相堅出銳師以戌韓梁西邊处王問 必不人秦秦必怒而盾攻楚是秦祸不離楚也便 臣之所為來臣故日事有可悉為者及楚王之未 抻 秦之即已也而尚相 渦已及矣楚王入秦秦楚為一東面而攻韓 人をここ 門兩越而歸其國於秦智 矣

> 各樣之效三 安之習贈山 見三晋之堅也果不出楚王而多求地 三晋若楚王入秦春見三晋之合而堅也必不出 即多割是泰禍不雜楚也有利於三晋 願王之熟

新印

禽禽不知虎之即已也而

閩兩龍而歸其死 矣今山

於虎杖便奪知虎之即已決不

- 相關 相

東之主

常王之解兵 不服者獨將軍之用衆用衆者使民不得耕作 趙 梱 田單問趙奢日吾非不悅將軍之兵法 趙春論兵貴多

Ł

所 极

ŧ.

千武王所以 李原铁以五 單聞之帝王之兵所用不過三萬而天下服矣今 統負不可給也此坐而自破之道也非單之所為

三百克實三

出版之故或 句所以輕歐 干兵排行女 |干之剱肉武則斷牛馬金試則截盤匯濟之柱 |馬服君日君非徒不達於兵也又不明其時勢夫 軍必負十萬二十萬之衆乃用之此單之所不 古今新華 不老七二 清四

干之飼材難夫無眷之厚而鋒不入無 紫須之使而徒三萬行於天下君焉能乎且古者 未入而手斷若無十萬二十萬之泉而為此釣 斯兼有是二者無釣竿禪業須之便禄其刃而 脾之薄而

視長手是以

一颗不磨所

且用育不整 青藤耳面探

萬之泉而應强國之兵是灣柱擊石之謂也且 擊之則折為三質之石上而擊之則碎為百合以

大吳

Ī

瞂 巢 10

同者縣法者 以威夷事執 事实中肯层 改马派出 **本本一理**前 傳日何不令必子這王太后止太子之行事成則樹

武器等 图 海之内 春秋 村田 日 持久教歲即君之齊已齊以二十萬之聚及荆五 魏惠王起境成果滿太子申 肺交齊客謂公子 理之 平哉今干丈之城萬家之邑相望也 韓相方而國國攻焉豈有敢曰我其以三萬救是者 年乃罷趙以二十萬之衆攻中山五年乃歸今者齊 一一个者等 聚酯干丈之城不存其一角 而野最不 足用也君將 ;此何之平都君喟然太息日單不至也 **為萬國者分以為戰國七不** 客料齊親勝敗 分為萬周 人然ここ 城雕大無 能具数十萬之兵 過 Ξ 而 ħ -:-3è 索贝三萬之 丈者 Á 雞

> 世界但可及沿是 子明以是自 以起騎英並 若做根齊乎則不如因幾服折節而朝齊楚王 守戰之備王又欲悉起而及齊此非臣之所

而達於計王屬怨於趙而後與齊戰令戰不 之王者得度而霸者知計今王所以告臣 **总国罪小吾皆欲起兵而攻之何如** 王召惠施而告之日夫齊寡人之替也

對

H

可臣開

者政 不

於度

、滕國 謂

Ŋ.

也

Ĭ

恩之至死不

報於齊願臣畜而朝田奧許諾張丑日不可數不 矣王游人而合其闘則楚必伐齊以休 則必為楚為矣是王以楚毀齊也魏王曰善乃使人 楚而伐罷齊 游

終為齊患者必楚也田要不聽遂內魏王而與之並 此其暴戾定矣且楚王之為人也好用兵而甚務名 魏後十萬之軍而食太子申臣萬乗之魏而申 魏而得朝 **禮典魏和而下楚此可以大勝也今戰** 泰 楚 脎

と必要が通信不成別為王矣太子年少不習於氏田昉宿將明朝在本とは「一」

|而孫子善用兵戰必不勝不勝必奪公子爭之於王

齊魏戰於馬陵齊人勝觀於太子申慶十萬之軍魏

惠施令魏偽服齊以激恭

王蝭

一公子公子必封不

聽公子太子 必敗敗公子必

立立必為王也

大敗齊於徐州 聶政論機事不可多人

朝齊侯再三趙氏鳳之楚王怒自將而伐齊趙應

日臣之仇韓相黎佩又韓君之季父也宗族盛多居 **新政母死旣整除服遂四至濮陽見嚴仲** 子仲具

字木

一个音響

人象え二

模事不得用

真种子為先也豈不殆哉送謝車騎人徒醉獨行仗 人不能無生得失生得失則語准語准則尊舉國而 請益兵車騎壯士以為羽翼政日韓與親相去中間 處兵備甚設臣使人刺之終莫就今足下幸而 不遠冷殺人之相相又國君之親勢不可以多人 不棄

面衝侍者甚果弄政直入階期殺韓佩韓俱走而构 **如王韓韓通有東孟之會韓王及相皆在焉持兵奏** 烈便弄或刺之兼中烈侯 蘇棄竟齊歸無城以結奏

燕文公時黎惠王以其女為燕太子婦文公卒易下 百个新春 八水二十二 Ī

為雖偷左腹而與死同患也令無難弱小强素之少 齊王再拜而賀因仰而爭齊王按戈而却日此 慶 吊 相 随 之 速 也 對 日 人 之 哉 所 以 不 會 鳥 啄 者 以 立齊宣王因燕を攻之取十城武安君蘇秦爲燕於

地齊王日然則奈何乎對日聖人之制事也轉禍而 行而强素制其後以招天下之精兵此食嗚寒之類 将也王利其十城而該與强春為仇令使弱燕為 為福因敗而為功故桓公負婦人而名益尊韓獻開

12人民等号 神以青年

> 之最歸無城也殊必德王燕無故而得十城無亦德 罪而交愈因此皆轉麟而為福因敗而為功者也王 能聽臣真如歸旗之十城里歸以翻泰泰知王以已

王大說乃歸燕城以金千斤謝其後頭首建中原為 卜也此霸王之業所謂轉稿為福因敗成功者也亦 王號令天下皆發是王以處解附泰而以十城取天 **王是素獨化而立厚交也且夫族泰之俱事齊則大**

陳於層流火氣收象

兄弟而請於秦

古今府鄉 △ 禄北王 -

大學鄉會天不雨道不通度已失期失期法斬勝廣 秦發閱左九百人戌漁陽陳勝吳廣為屯長行至蕲 汞

數讓故不得立上使外將兵令或開無罪二世殺之 **汽吾聞二世少子不當立當立者公子扶蘇扶蘇以** 一人遂謀起兵恐人心不附勝謂廣日天下苦众久

有功然足下十之尾手雕廣善食日此教我先威泉 應者廣以為然題行下上者知其意日足下事皆成 **奉楚人嫌之或以為在今誠以吾衆為天下倡玄多** 百姓多聞其賢未知其死項燕為楚將數有功愛士

りただいとれ ◆於○蒙見天期當斬務第令母斬而戌死者因什六七旦壯士 之等於之食得替已怪之矣又聞令廣之大所旁養胸中夜籍學者於政各得等節日怪之矣又聞令廣之大所旁養胸中卒胃無京然在華本耳題丹書節日院勝王置人所晉魚殿中卒胃無京然在華本耳 便北衛員為 似子が動物 柱国 乙酰基 我就死計亦 以為人在往指目勝廣勝廣乃召令徒屬日公等遇雨皆已 母西兵而此 英族勝廣本 家屬宮中封其子張敖為成都君趣趙兵巫入開趙 之柱国日泰未以而誅趙王將相家屬此生一 召發為左右丞相張楚王怒捕繫武臣等家屬欲誅 吏以應族乃自立為王號張港令武臣張耳陳餘狗 陳世恭京詩稱公子扶蘇項無起兵諸郡縣旨 告日敬受令乃詐稱公子扶蘇項無從民望也祖各 不死則已死則舉大名耳侯王將相寧有種乎徒屬 火狐鳴呼扫大遊與陳勝王卒皆夜驚恐旦日卒中 稱大楚勝自立為將軍廣為都尉攻大澤鄉拔之行 收兵北至陳得兵車六七百乗騎干餘卒數萬人 通武臣至邯郸自立為趙王原餘為大將軍張耳 如因而立之張差王乃遣使質趙而徒繁武臣 小纤棒 相與謀曰王王趙非張楚意也張楚巴訴秦必 陳海武臣韓廣各立為上 人参北三 泰也 殺長

別之又上立

KKB 一般人之父孫人之子斯人之足點人之首甚衆慈父和帝即列朝後人之父孫人之子斯人之足點人之首甚衆慈父 除之腦種質 **新見降之利** 何思決見不 港言恐明几 解記 法 一克點蒯通也因公將死故界之雖然賀公得通而生 子而生也日超武信君不知通不肖使人候問其 其怨而成其功名此通之所以用者也日何以質得 也然公再拜日何以币之通日足下為今十餘年矣 **蒸政不施然則慈父孝子將爭接刃於公之腹以使** 孝子所以不敢判刃公腹者畏泰法也令天下大风 六臣略定趙地號武信君蒯通說范陽令徐公日 古今新書 趙方西夏森南夏楚其力不能禁我且以楚之强 敢害趣王將相之家趙獨安敢害將軍之家廣以為 **图也顾将军立為燕王廣日廣毋在趙不可燕人** 超趙秉秦之弊可以得志於天下趙王以爲然因不 河北有無代差雖勝泰不敢制超若楚不勝泰必重 然乃自立為燕王居數月趙奉燕王母及家屬歸 傑謂廣日楚已立王趙又巳立王燕雖小亦萬秉之 四兵而追韓廣將兵北狗燕地廣至燕燕放貨人豪 加兵於趙計莫如毋西兵使使北徇燕地趙南排 剃通吊范陽令 不奉とこ 即解素法 B

胡恰足聚人 公便與直足 此不啻為在 生垂 約後負念莫可便用于秦者乃使人 英若以黃屋朱輪迎克陽令使聽鶩於無趙之郊則 必將異城固守皆為金城務池不可攻也為君計者 利之則邊境之城皆將相告日范陽今先降而身死 因對日花用今差頭整其士卒以守職者也在而甚 不攻而下城傳檄而千里定可乎彼將日何謂也時 得而後下城臣竊以為殆矣用臣之計好歌而各地 使不得去者戴日已面見之坐之堂下賜僕妾之食 於是之趙上謁求見蘇泰泰乃誠門下人不為通又 始與蘇泰養合秦已當路子何不在将以求通張儀 蘇秦巴龍趙王而得相的從親然恐秦之攻諸侯敗 二百侯印迎徐公燕趙開之降者三十餘被 蹇城皆將相告曰苑屬令先下面身富貴必相率而 死食而好窩夷故歉以其城先下若先下若而君不 徐公再拜具車馬遣通通說武臣武臣以車百乗騎 降猶如阪上走在他此臣所謂傳獻而干里定者也 八州非 且見或信君而說之日必將戰勝而後界地攻 藤素陰激張儀 人衆にこ 微感張儀日子 茥

之時儀何敢言故終泰之世的經始 蘇君明矣吾又都用安能謀趙乎為吾謝蘇君蘇君 用請歸報張儀日嗟乎此吾在術中而不悟吾不 故感怒君使臣陰奉給君資盡蘇君之計謀令君已 蘇君蘇君憂素代趙敗縱 得顯方且報德何故去也舍人目臣非知君知君乃 客鄉與 謀伐 請侯蘇秦之舍人 **随張儀與同宿舍稍稍近就之孝以車馬金錢所欲** 古人行者 其意子高我陰孝之乃言趙王祭金弊車爲使人徵 貧無因以進吾惡其樂小利而不遂故召辱之以啟 **弗如也今吾幸先用而能用泰柄者獨張儀可耳然** 乃送入秦蘇秦已而告舍人曰張儀天下賢士吾殆 為故人求益友見辱怒念諸侯莫可事 獨泰能苦趙 **育面窩黄子子不足收也謝去之張儀之來也自以** 因能之日以子之才能 為取給而勿告張儀遂得以見素惠王惠王以 蘇代重甘茂於齊 1 八歩ここ 乃自令因辱 約以為非君莫能得秦 乃辭去張儀日頼子 夘 此 吾尊不能

蘇代為齊使於泰甘提曰臣得罪於泰懼而遊逃無

兼毛文章 季子量聚樣

蘇秦從燕之趙始合

從說趙王曰天下

廓

上上及

教陳忠于 椒 Ä

外

蘇泰說趙肅

仹

之日久矣雖然奉陽君如大王不得任事是以

菁談之士無敢盡忠于前者今奉獨君伟館舎大

教用人于出 整張牌大艺 秦之利也察王曰然則奈何代曰不若重其贄厚 |在地形險易盡知之彼若以齊約韓魏及以圖奏 £ 焉順君以 餘光振之蘇代日 諾請重公子齊因說 以買馬而子之屬光幸有餘子可分我餘先 日甘茂非常士也其居然界世重矣自發塞及鬼 便焉今臣因而君方使泰而當路矣茂之妾子在 富人女會續貧人女日我 而得 # 非 無

客斯臣開貧人女與

復廿茂之家以市于齊 强亲之泉則難局也齊王即位之上鄉而處之秦因 之上鄉以相印班于齊甘茂不在蘇代謂齊春王 甘茂賢人也今泰賜之上鄉以 一樣以班之後來則置之鬼谷終身勿出秦王日善 好為王臣故不在王若不留以甘茂之賢得擅用 今将棒 大巻えこ 相印迎之茂德王 三十四 Н

以受封

使夫割地教賞五獨之所以覆軍擒将

祈

求

得不相分里 古本新舞 之團韓雄中山皆可使致陽冰之奉貴戚父兄皆 屏左右白言所以異陰陽而已矣大王誠能聽 國常若出解斯絕人之交順大王慎無出于口 得安倚齊攻泰而民不得安故夫謀人之主伐人之 言外患齊秦為兩敵而民不 計真若 安民無事 王乃今得與士民 、致斯裴徇馬之地齊必致魚益之海楚必致 大学とこ 請無庸有為也安民之本在手撑 相 便 U Þ 得安倚秦攻葬而民不 故敢盡 其愚忠為大王 也請 觽 E 可 袖 燕

不得之害 此段を持か 此段言得交 則無複此三策者不可不熟計也夫奏下职道則南 **盼色初韓包周則趙氏自銷樂族衛取浜朋齊必** 必弱韓魏與齊則齊必弱楚魏魏弱則 則效宜陽宜陽效則上 而兩有之此臣之所以為大王願也大王與泰引 也封侯貴戚湯武之所以放弑而争也今大王高拱 章據番吾則兵必戰于邯郸之下矣此臣之所以 秦徽已得行于山東則必舉甲而虧趙泰甲渡 郡絕河外割 則道不通楚弱 割 河 外韓 Ħ

<u>=</u> +

之限 卒十倍于寒六國并力為一西衛而攻秦泰被必 臣人之與見臣于人也豈可同月而論哉夫衡人者 今西南南事之尼臣于秦夫被人之與見 敬于 天下之地圖按之諸侯之地五倍于秦科度諸侯之 胸中矣豈執于衆人之言而以冥冥決事哉臣 不肖不待兩軍相當而勝敗存丛之機節因 明王外科其敢同之强弱內度其士卒之衆寡賢與 三千人車不過三百乘而為天子誠得其道也是故 以有天下禹县百人之聚以王諸侯易武之士不過 口个看看 以爲大王惠也臣聞堯無三夫之分舜無咫尺之地 入臣于秦秦無韓魏之隔禍必中于趙矣此臣之所 趙之南蔽也秦之攻韓魏也則不然無有名山大川 敢果兵伐趙者何也畏韓魏之議其後也然則 足畏也且秦之所畏害于天下者莫如趙然 有常山 方二千里弗甲較干萬車干乘骑萬匹架支干车西 稍昼食之傳之國都而止矣韓魏不能支泰必 南有河漳東有 八美七二 清河北有燕國燕國獨國不 :- T24 巴見 而泰不 縞以 韓魏 也 Ŧ

為大王鬼也當今之

時山東之建國莫如趙

强

趙

此合言宣播 而煮忘不散 自典王斯可 修其政刑以 此但依此而 神後英連下 指其字类的 超查天下 罗 **北言不權之** |武關齊法渤海韓魏皆出飯師以佐之秦攻趙則 魏則 明諸 古奉新馨 以佐之韓絕食道難涉河漳燕守常山之北奏攻韓 Ł 墓趙六 因 計臣得陳忠于前矣獨為大王計莫如一 去魏彤说言之迹塞朋熏之門故尊主 瑟之聲祭五外之和前有斬軟後有長庭美人 宜陽楚軍武關魏軍河外秦派清 傳關燕出鐵師以住之秦攻燕則趙守常山 通質刑 秦攻齊則楚絕其後離守成果魏塞午道趙 有秦患而不與其憂是故衙人日夜務以秦權恐 (割) 差絕其後齊出銳師以佐之趙歩河漳燕 白 從 求利地願大王熟計之也 侯之地 馬以盟之約日秦攻楚奏魏各出發 親以債畔泰令天下将相會子洹水 八巻とこ 以與泰成附高臺樹 河燕出鏡師以 艺末 臣聞明王統發 一廣地 美宫室酿 韓魏奏 疆兵之 小午雲 楚 族 巧矣

鮪 Ż

之長計戶上書有意存天下安請便家

人教

U

Ħ

佐之諸侯有先替的者五國共伐之六國

從親

U

傎

韓 氃 河

泰泰必不敢出兵函谷關以害山東矣如此則霸業

矣趙王日寡人年少益國之日後未當得開社

楚國 仲行 之心 泰韓 韓為不能聽我韓之德王也必不為雁 彩日秦之徽代我久矣今又得韓之名都一而具甲 称與之後楚此以一易二之計也韓王日善乃飲公 乃封秦為武安君佛車百乘黃金干盤白璧百隻為 韓王日敵邑縣小巴悉起之矣願大国送肆意於秦 大說乃銀四境之内遇師言故韓發信臣多車幣 韓不和兵雖至楚國不大病也為能聽我絕和於秦 **戰車滿道路發信臣多其車重其弊使信王之敬也** 泰韓并兵南鄉此泰所以廟嗣而求也今已得之矣 下入等華 人包持以楚狗轉韓正大說乃止公仲公仲日不可 ; 弘大怒以厚怨於韓韓得楚牧必輕秦輕秦其惠 千純以前難疾 於不敬是我因秦韓之兵而免楚國之患也楚王 **教代楚王不如因張儀為和于秦路之以一名 必伐王職臣為之俄四境之內選師言故** 将西講子泰楚王間之大怒召康軫而告之陳 **教於海澤公仲朋謂韓王日與國木可特** 陳軫策泰韓之兵 人表立二 14.77 行以 來是秦 薢 A

先出此无绝 赴通章開致 野东之交か **赛楚之交等** |請試之張儀南是楚王曰敵邑之王所說甚者無大 方椎子為寒人感之張儀曰王其為臣約車并弊臣 **於助楚攻泰取曲沃惠王謂張儀曰吾從** 朋也 **卒齊王之罪其于敝邑之王甚厚敝邑欲伐之而大 所甚僧者無大齊王唯儀之所甚僧者亦無大齊王** 大王唯侯之所甚順為臣者亦無大大王被邑之王 **蒙愚也兵為秦擒智為楚災過聽於陳軫失計於雜** 岸門楚教不至韓氏大康韓氏之兵非削 弱也民 韓王勿聽送絕和於泰泰果大怒與師與韓氏戰於 欺恭也夫 輕强秦之稿 南信楚之 萨臣主从 侮之点 此於陳勢之謀也且王已使入報於秦矣今弗行是 名聖純罪泰之散必為天下矢矣且楚韓非兄弟也 夫以實法不清奉也以處名故我者楚 1. 不 看 光 四也又非素的而謀代泰秦欲伐楚楚起師言故 张 儀 欺 楚 絕 奪 3 他特 伐齊齊禁 楚之虚

●大王有能閉關絕齊臣請使泰王獻商于之地方□與之惟是以敢邑之王不得事令而儀不得為臣

王日不較不煩一兵不傷一人而得商於之地六百 地方六百里華臣間見者畢實陳較後見獨不實楚 三利俱至是主次就宣言于朝廷日不發得商于之 齊西德年秦而私商于之地以為利也此則一 也乃出見使者日從其王其廣從六里传 重絕之張儀及素使人使齊齊素之交供合楚學使 其弭口無言以待吾事楚王使人免齊使者未察又 絕齊交則兩國兵必至矣楚王不聽日吾事善矣子 受欺于張儀受欺于張儀王於依之是西生泰思北 且先出地絕齊泰計及非為也先絕齊後賣地且 也今地未可得而麥先絕是楚辰也秦又何重 散妄賀王日何也對日夫秦所以重王者以王有薛 陳賢對日臣見商于之地不可得而患必至也該不 里寡人自以為智矣諸士大夫皆質子獨不質 天百里不開方里優日優問以小人安得六百里使 一八丁年 八歩スニ 人不絕齊平乃使勇士在胃齊王張儀知楚絕齊 将軍受地于秦張儀至稱病不朝楚王日張平以 3². 取五日以 何礼 張 計画 E

六百里若此齊於屬齊馬則必

為王役矣則是北路

于能兼用之 竹田士也慎 **校北東四**臣 | 赴襄王為太子之時質于齊懷王薨太子解于齊王 杜陵 太子入致命齊王日故獻地五百里齊王歸楚太子 地所以為身也愛地不送來父不義臣故曰獻之便 古戶有審 而歸齊王隘之于我東地五百里乃歸子子不予我 言乎王日可矣軫日代泰非計也王不 者及報楚王楚王大怒欲與師 不得歸太子日臣有傳請退而問傳傳慎子曰 不聽送舉兵侯泰泰與齊令韓氏從之楚兵大敗于 都與之代齊是我人于素而取值于齊也王今已 **野面賣欺于泰是吾合齊泰之交也國必大傷楚王** 慎于不與齊東地 大歩ここ 伐秦陳軫 如路之一 日 臣可 뷫

之得求及主墳墓復華臣歸社稷也以東地 日朝華臣皆令獻其計上柱國子良入見王日寮人 王告慎于日齊使來求東地為之奈何慎子曰王剛

Ħ

百里

王身出玉聲許强萬乘之齊而不與則不信後

來求地為之奈何子艮曰王不可不

太子歸即位為王齊使車五十乘來取東地于楚於

之明日遣昭常為大司馬令往守東地遣昭常之明 柱國子及車五十乘而北歐地五百里於齊發子良 也與子曰臣蒂劾其說而王且見其誠然也王發上 三子之計慎子對日王皆用之王佛然作色目何謂 僕子日子良見家人日不可不與也與而後攻之常 景學日不可與也雖然楚不能獨守王身出玉聲許 出景鯉人見王日齊使來求東地五百里為之奈何 可以 **刊造景經車五十乘百索校於秦王日善乃造干良** 見寡人日不可與也常請守之與見寡人日不可,與 臣辅西索敕于秦景塱出慎于入王以三大夫計 而無干乘之用也不可臣故曰勿其常請守之昭常 **兼今去東地五百里是去戰國之中也有萬乘之醫** 里為之奈何耶常日不可與也萬乘者以地大為 日與之子及出點官入見工日齊使來求東地五百 北歐地於齊遣干良之明日立昭常為大司馬使守 古今有春 萬乘之強齊而不與負不義干天下楚亦不能獨守 雖然差不能獨守也臣請索敢干秦寡人誰用于 杓 結論疾情與而後攻之與之信攻之武臣故 人をごこ Įį

是無趙也君安得有此當乎以君之貴奉公如法則 輕於天下邪平原君以為賢言之於王王用之治 上下平上下平則圖鹽國疆別趙固而君為貴戚 公則法削法削則國弱國弱則諸侯加兵諸侯加 殺奢奢因說日君於趙為貴公干今無君家而不 班奢以法治之殺平原君用事者九人平原君怒將 趙奢者趙之田部吏也收祖稅而平原君家不肯 ·馬出不仁又欲奪之東地五百里不養其縮甲則 昭常未添强素以五十萬區齊右壤日夫 隘楚 太子 受東地 解齊惠士萃不用東地復全 不然則願待戰齊王恐焉乃請子良南道楚西使奏 教邑之王是常衛也王及之齊王大與兵攻東地伐 良日大夫來獻地合常守之何如子良日臣身受命 尺至六十三十条萬杖甲鈍兵願承下塵齊王謂子 東地又造景鯉而索拔于泰子良至齊齊使人以甲 **▲** 賦大平民富而府庫實泰伐輕軍於閱與王召 趙奢學却泰軍 昭常應齊使 日我與主東地且與生成悉五 へえるこ 4 Ĭŗ 出 可

學問為非如此官商亦因

子9-56

也并被北山 其據學都伍 也三事得罪 節言处理事

#於·說是限軍中有一人言意被武安趙奢立新之堅盛留 陳日先張北山者勝後至者敗趙奢許諾即發萬 歷日請就鉄順之誅趙奢日胥後令欲戰許歷復請 者日內之許歷日秦人不意趙師至此其來氣益將 |壘戊秦人間之悉甲而至軍士許歷請以軍事諫趙 一千八日不行復益增量素間來入趙奢善食而遣 力 間以報秦將秦將大喜日夫去國三十里而軍不行 脊精枚之兵去邯鄲三十里而令軍中日有以軍事 遠歐後替之猶兩風翻於穴中将勇者勝王乃令 而問馬樂乘對 **課者 外秦軍軍武安西秦軍鼓噪動兵武安屋 趸盡** 必厚集其陣以待之不然必敗趙奢日請受令 煩 之一日一夜至今善射者去関與五十里而軍 本書書 增量關與非趙地也趙奢既已遺秦問乃卷甲 祈 問日 大きなこ Ħ 救不 如廉順言又召問趙奢奢對日其前 割日道遠險來難救又召 1 樂來

> 宋之田于金 而創地其後 秦專在長兵 **売週ご制子** 秦攻趙 随今东西婦人為成者十六人若是者其於長者尊 於房中者二人其母開之不肯哭也相室日焉有子 日與秦城何如不與何如樓後解護日 越而講趙計未定樓接新從秦來趙王與模接計之 灰而不哭者平其母 日孔于賢人也逐於賢是人不 **雨文伯母玉公恵文伯官於魯病奏** 脏知也王日姊然或言公之私僕後日王亦聞夫人 太長 平大使之引兵而歸 M 使 婦人為之自我 Ţ 此非臣之孫 索六城

王以 之為秦也故不敢對使臣得為王計之不如與之 是助秦 所不能取倦而歸王又以其力之所不能攻而資之 不通餘力矣必以倦而歸也虞卿日泰以其力攻其 **锸瓮也王日何謂也虞鄭日秦之攻趙也倦而歸平** 日諾虞鄭聞之人見王王以樓後言告之虞聊日此 其方尚能進愛王而不攻乎王日泰之攻我 Á 政也來年秦復攻王王無以教矣王以自 Ŧ

雄之秦兵後至爭山不得上殺兵擊之遂解闕與之

[趙赐奢爲馬服君以許歷爲國

\$

而於婦人厚故後母言之為賢母也後婦言之奏不

新從蔡來而言勿與則非計也言與之則恐王以

E Ē

免為好知也

放其言一也言者異則

人心受矣令

百本等

米で!

配必來年素之不使攻我手複級對日此其臣之所 又不能必秦之不復攻也雖割何益聚年復攻又割 解預觀之攻啓闊通幣齊交韓魏至來年而至獨不 獨攻王王之所以事泰必不如韓魏也今臣為是下 敢任也昔在三晉之交於素相善也今來釋韓魏 年復攻王俸無調其內而蕭手王日誠聽子割矣子 跋不知秦力之所至此彈九之地猶不予也 令秦座 聊之言告樓養樓幾日炭鄉能 乏事泰不如韓親也是使王歲以六城事恭也即 失之于天下面取值于泰也吾國尚利 秦倦而歸兵必罷我以六城收天下以攻罷秦是我 秦雖善攻不能取六城趙曄不能守身不至失六 其力之所不能取而請也此自盡之術也不如無講 之所敢任也王以侯綾之言告虞柳虞靜且復耀 取干素王之所以事泰者必在韓魏之後也此非臣 地自騎以強奏令模擬日奏善韓親而攻趙者必王 不講來年秦後攻王得無更到其內面講令講樣 而地盡矣來年秦復求劇地王將與之乎不與則是 一个并并 人表十二 盡知秦力 **魏與坐而割** 之所至平

· 通而不悟何. 告得共英 起且亡何秦之國王以此師之勿復計也矣 卿 月 五月日 日 韩新军制作 又入見王日危矣樓子以為秦也夫趙兵用于 |慰秦心不然天下将因秦之怒乘趙之牧而八 之人見於王王又以虞朝之言告之禮緩日不然虚 必無趙矣故日此節說也王必勿與王日常後後聞 于王王以六城路齊齊泰之深響也得王六城并 **腾者則必在於秦矣故不若巫副地求和以疑** 鄉得其一未得其二也夫泰趙構雜而天下皆說何 善攻面弱者不能自守令坐而聽秦泰兵不收而多 下弱乎且臣日勿子者非固勿子而已也素宗六城 無己而王之地有盡以有盡之地給無己之求其勢 其計固不止矣且秦虚狼之國也無禮義之心其求 麥前資 面提泰爾电與之則 加西學泰也齊之點王不待除之果也是王失于齊 取俱于秦一學結三國之親而與秦易道也趙王 地為和是愈疑天下而何思泰心哉不亦大示天 八年華 一大字 日我将因强而来蘇今趙兵因於秦天下之質戰 是强秦而弱趙也以益强之秦而割愈弱之趙 無地而給之語日强者 調え 天下

見安開代室 朝起住者上 原明飲有品 人業保心事 **希面看王女** 五文以傳 不存金不少 新年 寄長大 因趙王兩人名為京玉實欲無殺之分趙自立夫以 灣燕解因之放與子童也 0 以特越心今遊览已服雨人亦欲分趙而玉令君乃 道欲為即相於己耶夫臣與主益可同日而道部顧 張耳陳徐杖馬筆下趙數十城此亦各欲南西而王 其勢初定未敢参分而王旦以少長先立武臣為王 1 何如人也燕將日賢人也日知其志何你敢欲得其 之以求地張耳陳發患也有獨養孕謝其舍中日吾 古今新籍卷之二於 王耳趙養卒乃笑日君未知此兩人所欲也夫武臣 知臣何欲燕将日若欲得趙王即日君知張耳陳於 報於若何以能得玉乃走燕監無將見之問無将日 為公說為與趙王載歸合中皆笑日便者往十餘重 日善因發奏即東視奔王與之謀奉後殺聞之遠土 趙尚易熟況以所賢玉左提右擊而責我王之罪 人身之

宛從從擊栗奉

在前此危道也 朔 坐 宛城三

於是沛公乃

夜引

ጒ

破

P

南

陽守欽自

項羽使九江王布斌義帝洛陽

新城三

一老董

| 公說漢

三老就漢王為義帝發丧

他道選更旗幅

餐兵放和和 *不在和察長日泰兵尚强未可輕視· 使数此些而 西張良陳日八雖欲悉入縣泰兵尚泉距除今不 之界南陽郡南陽守麟走保城守鄉市公引兵過一面 果飲連和 山上為疑兵使節食其些買往說秦粉唱以 士卒不從不如四其關息擊之沛公引兵繞燒縣 秦王子嬰誅滅趙高遣稱將兵拒 ílε 公引兵欲西入關至陽城與南陽守蘇戰擊東 扩簧 攀寨軍大被之 張艮說沛公先取宛 張良物 **沛公欲許之張良日** 一个学と 沛公以和破寒 į, 顧先遣人益張旗戲 (此獨 孫男指行前 父宝 男孫之長海父 焼ル 其將欽叛 林 公伙

恐其

古今新

· 轉卷之三

浙水朱

鄉文教父輯

任秦觀三原父

Ī

男豫洋

建喪义

· 加公政食財 近ろだりた 好色志在化 樊張之旗| 中部亦為注 Æ, 空編素為有今知入秦 張艮日夫秦為無道 卯其甲华與之西諸城未下 兵岳宛竟此題是不後足下前即失成陽之鄉後 故者整守兼城谷足下 Ì 到其谷人原依日死未晚也乃喻 思言迎耶神於行見樂門口 公乃遠軍動上 此奢麗之物甘素所以以 公入腳見春官室帷帳狗馬重寶婦女以干 八下彩先人减弱者王也今足下雷守 **酯居之类替諫日公飲有天下那將為富家** 通行無所界神公日養乃以宛守為聚矣 要死之患為足不能真若約降封其守 建城 樊噲張夏勸荊公惡軍斬上 数十人民樂務蓄多吏人自 八林エミ 故公得 即安此樂此所 盡目止处士死傷者必 也公何用焉沛公不 至此為天下除殘法脈 **粘岡聲爭** 那腳病願公 城見 開助祭為虐 開門 'n 宛宛大郡 沛 即使止 為降必 么 影會記 而 巨臣 翁 數 徠 芗 聪 意 那。 莡 Xo.

柳春斯

平何不及此 漢以名今義 漢資息往校 **长央羽之為** 之联也夫仁不以男養不以亦三軍之東為之素服 於萬乘之出來被武是他臣頭大王王漢中養其民 其智語日天満其獨甚美大能謝於一人之下面信 日蜀漢亦關中地也故立 本公為漢王而三分開中 市公配先入關定泰項羽後至 之舉也於是漢王爲養帝發依袒而大哭哀臨三**弘** 以告之諸僚為此征依四海之內莫不何聽此三王 || 故日明其為聯嚴及可數別為無遊放後其主天 楚之發義帝都 殺義帝江南大道無邀寡人親為簽喪兵皆編素悉 婺便告諸侯日天下共立義帝北面事之今項羽放 地王秦降城以距漢玉漢義数欲謀攻称請何諫日 即歌野於柳那門都是完三秦天下可即也其王日 **雌王漢中惡不猶愈於死形周壽日天干不取反受** 下个十年 解羽與范增謀日巴蜀道險泰之還民皆居獨乃 開中兵我三河士南岸江漢以下 《何勒漢王王漢中 八年に天 狱 **以**市公 願從諸侯生聲 : 市 À 謝

ナ、

平間之夫人

大熊乃自三

王日臣問順德者昌蓮德者心兵出無名

車

故不成

老人作员办

平門之夫人四以兼其心項王為人意思信聽必內相訴漢因舉項王慈語四以兼其心項王為人意思信聽必內相訴漢因舉 城直簽背西死平乃夜出子女三千人於荣陽東門 天下事大定也君王自為之願乞骸骨鄰歸未至彭 項王不信不肯聽亞父亞父聞項王疑之題大怒 師具以報項王果大疑亞父亞父飲急擊下蒙陽城 以為亞父使乃項王使也後持去以惡草具進楚 之使便至夷漢為太年之具舉進見楚使即陽為 地而王欲與漢為一以被項氏分王其地項王果 一一一一 宣言諸將鍾離昧等為項王將 兵而受必被楚必矣漢王以爲然乃出黄金四萬斤 下今番番 子平恋所為不問出入平能多以全縱反開於楚 屬不過數人耳大王能出捐數萬斤金行及問間君 可服者彼項王骨便之医亞父鍾縣味 聽漢王爾班平日天下紛紛何時定乎平日顧楚有 項羽屬漢王於榮陽漢王請割榮陽以 因學之平理與漢王從城西門出 陳平周去范增 人きこと 功多矣然終不得 西和 龍玉問殷之 肌枚 項 至不 타 使: 柕

骨牌信求者

韓信被趙得廣武君李左車部事 **李左車收韓** 信說旗 之同日僕欲

兵而後來

無東伐飛何若面有功廣武者出成安君有百戰

軍之所長也然而與勞卒學其實難用令將軍 能之兵師燕堅城之下欲敗恐久力不能极情見 勝之計今將軍治西河房親王擒夏悅賜與 | 并 塵不終朝被趙二十萬艱誅成安程若此春 舉而 舉

短也臣以為書那戶都不 ī 持不下 今 年 等 則到項之權未有所分 水フニ 以無學長和以長年經今 若此和 i 將 军之所

膜

日根場而弱無不服齊必距境以自强也無齊

契

F

۵

*

\$

八季二三

7,

退

兩將之頭可致麾下願君語意否則必為二

為將 酒目至以樂士大夫而後遣辯七奉 軍計莫如按用 休兵鎮越撫其孤城百里之 及尺之書 駅 Йo

長為短 先聲後實具

便能化献 不以短擊長

齊與 從風而服雖有智者亦不知為齊計 天下事皆可圖也兵有先聲而後實者此之謂 別於無熱必な **胶不聽從無從使善言者東** 灸 邚 告

追韓

信

張耳以兵數萬東下

井 塵李

Ė

車說成

单位子器 常历以不是

云夹臣騎備前著舞之昔湯武代集射者度能制

島北反用之 苦三春有日 邓王泰三縣

生 楚

未

事

商作面幣色 揭射能料之 此策當夫一

李左車說成安君

不清野男女 **发定率候得** 诗野不坚慰 **純優必を養**

ľ

Ŧ 攻

里其勢糧食必在後順足下段臣奇兵三萬人從問 有 鋒不可當臣聞千里龍船士有幾色熊蘇後喪 與今乃輔以張耶 君日則漢將韓信汝西河虜 他や那些と遊車和那かれ 思欲下施北乗縣 薨 郭尔 五角夏 **農** 而去國 施 折 行動 遠 崃 師 鄮 Ú.

Í

#

即把其都重足下放海南重聖會分較後進不得

7不得趣吾奇兵絶其後使野無所挖不

至十

Bo

祈 鷃.

子所

檎

以距漠漠东 贫 行民從外來尚漢王方食因客有為我計徒楚推 其以鄉生前告及及日雜為陛下查此計者陛下 道 項 日昔湯伐桀封其後杷武王伐紂封其後宋令秦 在而朝漢王日善趣刻印先生因行佩之郡 戴陛下德養顧為臣妾德養已行南面 · 伐 滅六國無立錐之地陛下 藏後立六國後此 羽 圍漢王急漢王憂恐與 張良諫立六國後 **鄭食其謀捷楚權** 育 偱

子 9--62

漷

無 生

化是夢者恋 從課如黃 ***シストラスニ出來陽人開收兵欲後東京生說日漢楚相 而模糊一世 孤立耳河特 爵士託散有 何力化一具 **荣陽鼓歲漢常困顧君王出武關項羽必引兵南走** 用此誤陛下事去矣漢王骸食吐哺周日豎儒幾敗 題公事令趣銷印 大 故舊陛下 王殿權令蔡陽成舉問且得休使韓信等輯河北趙 尺之地令乃立六國後游士各歸事其主從親戚 示無所為令陛下能乎其不可五矣息牛桃林之野 入股表商客閱釋其子囚封此干基今陛下能乎其 地遷燕齊君王乃後走祭陽未晚也如此則楚所備 府士離親戚棄墳墓去故舊從陛下者但日夜望 天下不復輸積今陛下能乎其不可六矣且夫天下 示不後用令陛下能乎其不可四矣休馬華山 百个新籍 下能乎其不可三矣殷事已畢惟華為兩倒載干戈 國後捷而從之陛下焉得而臣之其不可八矣誠 可二矣發鉅衛之果散鹿臺之財以賜貧窮令陛 **袁生說漢王出武關** 龍與取天下乎其不 入様北三 可七矣且 楚 唯 無羅 之陽

> **是漢之雌雄** 天者王事不可成王者以民人為天而民入以食為 楚縣生因日臣問知天之天者王事可成不知天 漢主數因榮陽成皋計欲指成皋以東屯羅洛以 者 天夫敖倉天下轉輸久矣臣問其下題有藏栗甚多 多備 郡 生說漢 王棒 放倉 多則力分漢得休後與之戰 碳差必 矣

以日本語者 子房八米所 死命

也今陛下能制項籍死命乎其不可一矣武王

心未有所定也願足下悉使進兵收取榮陽據教倉 **决百姓醫動海内程荡農夫釋来工女下機天下** 古分舞舞 其便臣竊以為過矣且兩雄不俱立楚漢人相持不 人参える

放金斯是天 板条的前金

暴此乃天所以資漢也方今楚易取而漢反邦自 楚人拔荣陽不堅守敖倉乃引而東令適卒分守成

本

臣請得奉明部說齊王使為漢而稱東藩上日善廼 楚人多變詐足下雖遣數十萬師未可以歲月破也 **今縣趙巳定唯齊未下今田廣據于里之齊田問** 之津以示諸侯効實形制之勢則天下. 之果塞成皋之除杜太行之道距雅狐之口守白 一十萬之來軍於歷下諸田宗屬負海阻河濟南 知所歸矣方

從其畫後守敖倉

距

次出亡模点 豪傑雅心烈

記人之罪非項氏莫得用事為人刻

印利而不

能校

|之土歸於漢王可坐而策也夫漢王髮蜀漢定三秦

城得縣積而不能賞人心畔之賢才怨之故天下

· 聚及原平粉封韓信

兵字戰 篇:7. "

e N

下漢王齊國社稷河得而保也田廣以為然罷除 人之力也天之關也天下後服者先以矣大王 井區訴成安君北破魏舉三十二城此與尤之兵

再信 化平旁使人言漢王日齊亭許多變反優之國

客天下之所 省首 王和矢下之所歸則齊可得而有也不則未易保 **巫與項亞西面擊寨約先入關者王之項王負約王** 王於漢項王惠欽兼席僕王編素起蜀漢之兵資義 **產王包禾亦的族聯日歸漢齊王田刺羽言之日漢 局生教秀班白旺如沃汀之所請手王日不** 事性就看工精漢

知也

安之臣前自立為假生當是精楚王悉國漢王於祭 南邊楚不得假王以錄之其勢不定今權輕不

į.

而

也日

方船而下項还有倍約之名發養帝之預於人之功 下个者等 一人 其士賢豪皆集為用諸侯之兵四面而至蜀漢之異 帝之處立諸侯之後降城即以侯其將得路即以分 参え三

> * 主漢雅因立 健康因立 進 有髮此得到 齊王微其兵使擊楚

丈夫定諸侯即為其王耳何以假為道張良立 善遇之使自為守不然變生漢王亦無因復爲日 附耳語日漢方不利軍能禁信之自王手不如因 來佐我乃飲自立為王陳平張艮伏後顯漢王足因 陽使者至發脅奠王大怒馬日吾因於此旦暮望 信 爲

堂地父子暴骸骨於中野不可勝数楚人起彭城鎮 憂在亡素而已今楚漢分争使天下無罪之人肝的 天下之土雲合霧集魚蜂雜瑟爆至風起當此之時 於決断以此称之萬不失一信日寒人何如對日 日何謂也通日天下初發難也後雄豪傑連號壹呼 若之面不過封侯及危不安相君之背貴不可言信 受相人之衛費嚴在於骨法憂喜在於容色成敗 **蝉信既破項羽蒯通欲以相衝動之乃說信** 古今新籍 **逐北至於荣屬乘利席卷威震天下然兵因於京** 人参える Ħ

1 30

蒯通說韓信.....

古代間未と ふ 斗修 遊飲

索之關迫

西山而不能進者三年于此矣漢王将

如名此其有下足下為漢則漢勝與差則差勝臣縣放心腹輸 以其車承我以其承全裁以其女帝間之乘人之 風走而餐應矣足下誠能割大地以立諸侯諸侯已 之地而制其後国民之欲西向為百姓請命則天下 魔效愚計恐足下不能用也誠能聽臣之計莫若雨 反叉其映順是下級處之信日漢王遇我甚厚載我 朝于奔矣盖套用之天典弗取及受其各時至不行 之陰懷諸侯之德深拱揖讓則天下之君王相寧而 立天下展聽歸德于齊案齊之故有膠測之地徐淮 以足下之賢聖有甲兵之泉據強齊後燕趙出空虛 利而俱存之三分天下內足而居其勢莫敢先動 之賢聖固不能息天下之祸當今兩王之命縣于足 百姓歷極怨望容客無所所以臣料之其勢非天下 程勇俱困者也失銳氣柱于險塞而機食為子內 功折北不放敗榮陽傷成阜途走死葉之間此所謂 十萬之東軍華旗阻山河之險一日髮戰無尺寸 八哥奔 一人歩工三 IF

有數人之為孩人之反者很人之憂養人之矣者死

今足下载震主之威挾不負之功歸楚楚人不信歸

君 角 趙 青 燕 定 齊 南 推 楚 人 之 兵 二 十 萬 東 殺 龍 且 **客足下疾西河廣觀王檢夏能引兵下井座訴成安** 暴霞王者身危面功盖天下者不實臣請言大王 賤也此二人者及以親矣顧足下深 應之且臣聞 巴畫而很狗京夫以交友言之則不 于漢王必不能固于二君之相與也 西向以像此所開功無二于天下面晷不世出 安君者也以忠信言之則不過大夫種范蠡之與 **夫種范蠡存丛越鳞句践立功成名而身灰丛野** 患生于多欲而人心難測也尽足下欲行忠信以 **熙陳華林臣以為足下必典王之不 竟已亦族矣士** 笑此二人相與天下之至雖也然而卒相稱者何也 借兵東下殺成安君然水之南頭定異處卒為天 丁二二十二 二人相然常山王背項王奉項嬰頭寬歸子漢漢王 君為南衣時相與為利到之交後争張原限奉之事 漢王截建萬世之葉臣霸以為蘇安始常山 人之事吾豈 へきここ 可以向利背義乎通日足 如張耳之與成 而事多大于 Ŧ À 王成少 Ŋ 一者也 八萬善 句 掛

作奠义自以為功多漢終不奪我齊遂謝通 失也時子時乎不再來順足下將察之信猶 **此言貴能行之夫功者離成而易敢時者難得而易 两赐不如奴馬之安非孟賁之狐疑不如庸** 1 1 轉信本恩接軍與親北 古本并非 巴達虜襲王前, **环節教疫協習,而代兵從疑節以木墨金捷軍聯** 信進兵擊魏親盛兵所叛盛節者信題孟為缺五 电雖有 舜禹之智吟而不言不如齊擊之指麾也 八步上三

像不尽

|之小計遺天下之大數智赦和之炔弗敢行者百事 之稱也故日猛虎之猶豫不若蜂薑之致螫騏驥之 **即相之位故知者淡之斯也疑者事之害也響毫** 雜夫體厮養之役者失萬乘之權守備石之縣者關 不失二十二者不何能數言計不失本本者不可給的 生且外矣吾將命之後數日猛後就日夫聽者事力 樂典人養感足下飲持是安歸乎夫勢在人 候也計者事近機也聯題計失而能久安者鮮矣聽 而有類年之威名商天下縣為足下危之信謝四季 ٠٠. <u>:</u> -臣之位 华介丽必就其解放致故 不得伦之家 以除蔵面飲 **远死**2年 之亦惟背水 治便之海鄉 教以两卷 藏故必以此 灰柱面不料 人生征收日 兵望見大美平且信建大界旗鼓行出井 請軍更日趙已先條便地壁且後未見大將旗談 些擊之大戰員久於是韓信張耳葉旗鼓走水上軍 肯擊部思我阻歐而惡乃使萬人先行出背水庫 其神將傳教日今日被趙會人諸將皆陽應日話 趙見我竟於生態逐動者疾入板趙騰立漢亦飲 輕騎二九人持一亦教從問道登山而望趙軍成日 韓信擊越 兵未至非 医卫三十里止免夜 轉信有水牌被遊

入りたい

华傅

χċο

经独当折见 信耳等於逐歸聖皆漢赤機大勢以為漢皆已 秒即覧人遊遊皆後趙駿立漢赤城趙軍已不能 皆殊死敗不可敗信所田奇兵二千號候趙空壁 軍逐亂避趙躬雖斬之弗能熱於是漢軍夾擊破趙 百合新曹 八十十十八十二 + 水上 (被粉 神 逐 鄆

大之必

韓信夾雅水而降信乃夜令人為萬餘喪盛於以 信擊齊齊王走商將請散於楚楚使龍且校齊與

新成安君派水上處趙王敬 韓信聚沙縣龍且

Ħ

子9-66

座 Do

趙

М

界其不今林 **眉父妙縣**左 人豆黄椒科

水上流引兵半渡擊龍且 大半不得渡信即悉擊殺龍且虜齊王廣楚卒皆降 如信怯自逐信渡水信使人決壅棄水大至龍且 i. 張良献計對韓彭 佯不勝還走龍 Ē 喜日間 軍

之乃引兵東歸擊彭越漢王乗羽兵東遂引兵北

入楚地與項聲降公銀下

Ā

彭越大破楚軍項

M

滕公共車出成皋玉門北渡河雕宿收武使盧箱 成皋項羽巴破彭越隻引兵西圍成皋漢王走獨

菔

而守謂張良日諸侯不從奈何良日楚兵且破未有 楚至因懷不會羽擊漢軍大破之漢王後入壁漢監 漢王追與羽至陽夏止軍與齊王信 信之立非君王意信亦不自堅彭 分地其不至固定君王能與共天下可立至也齊王 越本定梁地始君 魏 相 國越 期

相此地以許兩人使各自為 戰則差易 敢也於是漢 東附海與齊王信信家在楚其意欲復得故邑能出 不早定今能取雕陽以北至最城皆 Ŧ. 以魏豹故拜越爲相國令豹死越亦望王而若王 以王越從陳以

下今有等

八条フェ

ì

其王 王發使使信越至皆引兵來國羽垓下大敗之追斬 東 | 脫樂陽國入開水兵被後東成皋兵出宛禁間 **鼓楚地悉定** 漢王分兵機差

項別開之引兵追擊費王堅壁不職使彭越該难水

門面遺北

時間心觀力 打乳灰故障 楚国漢於榮陽擊奪漢甬道漢軍乏食紀信

第二条不 **再之五六日**

行擎陳密外黄雅陽下之漢果敷挑楚軍使人辱之 了人年事 人名尼三 酸無令得東面已我十五日必定梁地後從將軍 雅食項稱乃謂曹咎曰謹守成皋若漢挑嚴慎勿與 楚軍無郭西遂復下梁地十餘城居楚地往來乾蹇 寶將兵二萬渡白馬津入楚地與彭 越并兵後擊

盡得楚國金玉貨路答長史欣告自刎項羽至雅陽 五六日咎怒渡兵汜水士卒半 符破引兵還 紀信在楚 渡漢拏之後奪成

因四面擊之犯信乃兼王車黃星左歲日食盡 **降楚楚皆呼萬嚴之其東觀漢王遂與數十** 矣臣請能楚可以問此於是陳平夜出女子東門 新出| 漠

日事急

+ *

将軍 之都羅以為此天下中諸侯四方納 |與周室比隆哉上日然敬日陛下王天下與周 国泰芝於資在美齊收之地此所開天府也陛 n 商帝通律陽婁徹見度將軍日臣願見上言便立虞 之一無食天大霧平消全頭琴傳兩矢外鄉從解 九 山帝河四塞以為因卒然有恐百萬之衆可 德致人不依依險阻令後世騎者內庫民也奏 有德則易以王無德則易以亡凡居此者於 軍入言上上召見獨後敬說日陛下都維陽豈然 田 而都之山東雖亂恭之故地可全而有夫與人 **被與鮮衣做日徑衣帛** 有着 **妻敬張艮勸謨都關中** 人养之三 衣帛 見衣褐衣褐見虚 貢献道里 玓 퇛 프 周

> 所謂金城干里天府 夫願中 渭清較西給京師諸 有胡苑之利阻三面而固守獨以一 中小不過裝百里田地舞四面栗雕此非用 泰之故地 不怪其克 石大臣皆山東人多粉都維陽張良日維陽雖回 左發函右聽過沃野干里南有巴蜀之態 此亦益天下之吃而析其背 相其背未能 之國國 侯有變 全勝 散說是也於是上 順流而下足以 也今陛 面東制諸侯 Ť 也上 λ 關而 安 武之國 疑之左 輸此 þ 都 Ħ

妖此会皇帝因厄钦敬之問氏長奪已龍因謂單 食陳子依藏工圖美數間追入遗開氏云漢有美女

天子亦有

神靈科其土地非能用之也乃解團

茅攀鎮王信於代至平城爲匈奴所

圍 Ŧ Ē

不

山原季青鄉

(平城

.

同盟 下今陛下已為天子而所封皆蕭曹故人所 所誅者皆平生仇怨今軍吏計功天下不足以徧 下屬安定何故而及良日陛下 語上日此何語夏日陛下不知乎此謀及耳 行封上居維陽南宮從後道望見諸 アム新書 大封功臣二十餘人其餘日夜爭 張良勸封雍 失 酋 Z Ē 起布衣與此屬 将往往 Ŋ 不 Ė 敷 親愛而 決 日 Ħ 取 未

天 天

偶

面謀反耳上乃受日為將奈何良日上平生所僧

此屬畏陛下不能畫封

又恐見無過失及誅故相

對

乃沙中世族

子9-68

跨西郝關中

而思趣丞相御史定功行封群臣罷酒皆喜日雍齒

陸賈使南越王奉漢約

侯我屬無惠矣

定今足下反天性兼炮帶欲以區區之越與天子抗 見買買因說陀日足下中國人親戚昆弟墳墓在 祖使賈陽尉作印為南越王賈至尉陀魋結箕 八巻乙三 踞

金買本拜院為南越王令稱臣奉漢約

歸報帝

大优

僬

足與語至生來令我日開所不開賜買來中裝

我居中國何邈不若漢乃百賈

與飲數

. 月日越中

郡王何乃此于漢院大笑日吾不起中國故王此 家今王泉不過數萬皆蠻夷崎嘔山海間贊如

漢

小 新

印剖 兵而誅王天子撐百姓新勞苦且休之遣臣授 天子開君王王南越而不以天下蘇暴逆將相 蘇頂羽五年之間海內平定此非人力天之所建 衝褟且及身矣夫漢王建巴蜀鞭笞天下劫請 符通使君王安郊迎北面稱臣乃飲以新 Ξ 移

宗族使人偏將二十萬來臨越即越最王降漢 集之越偏强于此漢悶之擬燒君王先人縣墳夷

失禮美因問賈日表東與蕭何曹參韓信賢賈日王

耳于是花乃厭然起坐謝買日居蠻夷中久

高帝與呂后共定天下劉氏所立九王呂氏立]三王 兵郡寄與呂禄善勃與丞相陳平謀令寄說召除 趙王藤梁王産各將南北軍太尉周勃不 拜為大中大夫 古今新鶴 释供訴諸呂 人巻なま =+ 得人 軍

印以兵屬太尉高統而王于里此萬世之利也昌廢 王印不惡之國守藩為大臣諸侯疑足下何不 皆大臣議事已布告諸侯令太后廚帝必足下 姑呂類類大格日若為將軍熊軍居民令無處失題 信其計使人報當召或以為不便時與寄出獵過廿 僡

似野也後門日我就與皇帝野買日皇帝起豊沛

理中國地方萬里居天下之膏腫萬物殷富政由 暴泰於彊越為天下與利除害艦五帝三王之業

还省不及務 出武剛直是 **聞且兵尚神密將軍何不從此左去走藍田出武** 死士多矣此知將軍且行必置問人於殺竭吃陋之 吳楚反部周亞夫東擊吳楚既發至上饒趙旅遊說 亂莫厳闘遂殺之 使恶人宫衛帝自領干係人入永央宮擊産其從官 軍乃入未央宮後為亂嚴門弗得入太尉乃遣乐虚 門且告衛射毋今産人殿門呂産不知名禄已去北 之以為將軍從天面下亞夫如其計至雅陽便更搜 臣之言乎亞夫下車體而問之族日吳王素富懷 古今新播 殺 遇間 果得 英伏 兵乃 請 淡 為 護軍 吳楚反以 周亞夫為太 將軍東訴吳楚勝則宗廟安不勝則天下危能 維陽不過差一二日間直入武庫擊鳴鼓諸侯 超涉就周亞夫出武關 周亞夫擊破吳楚 八番本三 科因自 請日楚兵副輕 牊

> **秋泉而整**不 面除與禮手 舉 部 色 且 在 親上書言帝 **尤雅兴王** 便利害有大 概之使不 長 **今日不貴垣** 希亦良部便 亞夫學景帝 不出梁上曹言景帝帝韶使杖梁亞夫不奉 等絶吳楚兵後食道吳楚兵之糧饑餓乃引而去亞 北巴而精兵果奔西北不得入而使輕騎其方高 東北走昌邑嚴壁而守吳齊壁未南陳亞夫使 **倭至榮賜吳方攻梁悉梁王使人請亞夫亞夫堅** 以果委之絕其食道乃可 制 乜 Ī 許之亞夫 部引兵 備 西

|惡出珠玉實器散堂下日

[毋為

他人守也太尉

料

檀丞相平乃召朱虚侯佐太尉太尉令朱虚侯監軍 軍行令軍中日為呂氏右顧為副氏左祖軍中皆左

單干頭易畏秦蒙恬出 **夫出精兵追擊大破吳** 月頭強 徙十餘年不敢窺中國紫 佶

巴而月顿以鳴輸自射其良馬 射之於是肖頓知其左右皆可用 頻又後斬之胃剪出張以鳴鏑射畢干良馬左右 鳴鏑習動其騎射令日鳴鏑所射而不悉射 順益其良馬亡歸頭勞壯之遂令將騎月頓乃 使胃頓為質於月氏頭房擊月氏月氏 氏生少子遂欲廢長而立少時諸胡 其六後以鳴銷自射其愛妻左右恐不敢 左右不 **发其父單于頭** 惟川 放射 絥 (殺員 氏疑盛乃 肴 者 外射胃 ・斬之 ÝΕ F 卣 頓 計:

死稍稍後其中國為界頭另有長子

H

頓 後要

N

î

木巻之三

灰堆者與漢關 頻白洋河南王侵渡代悉後 奈何子之諸言子之者皆斯月頓上馬今國中 **地予之亦可勿與亦可胃頓大怒日地者國之本** 她匈奴非能至也吾欲有之月頓問群臣或曰此棄 既脱東胡使使謂胃頓日匈奴所與我界既於 **日奈何與人曆國愛一女子平遂取所愛關氏予東** 復問左右皆怒月東胡無道乃求關氏請擊之月領 遂與之東朝以月賴畏之更欲得軍于一關氏月頭 奴貧馬也勿與胃頓日奈何與人聯固而愛一馬子 立為軍于是時東胡隱盛臨月頓散父自立乃使使 銀以鳥 胡東胡王益驕匈奴間有棄地于餘里各居其邊為 **微得頭房時有于里馬月頭問群臣告日千里馬** 頭身迷盡訴其後母與弟及大臣不聽從者門頓 三面房其民人及畜産民歸西擊走月氏南并 斯送狼擊東胡東胡初輕月順不為備大破城車 合新等 李廣西騎却 鐁 射頭男其左右亦皆隨為 八年七三 有奴 **收泰所使蒙恬所李甸** 鏑 11 桐 射 役單子 有後 匈

· 查题而且 前近古兵要 1.7 生人汗水子 **法日有必勝之將無必勝之兵縣此觀之安邊境立** |有奴强數侵邊文帝發兵禦之是錯上言兵事日兵 **募胡兵終怪之弗敢擊夜半胡兵以** 財殺白馬將而後還至其百騎中解 走今解鞍以示不去用壓其意廣上馬與十餘騎 馬解鞍騎日虜多且近有悉奈何廣日彼虜以我 得 仿 古今新壽 我擊廣令日前前未到匈奴陳二里所止令门皆下 追射我立盡令我留何效必以我為大軍之誘不 |欲聽選走廣日吾去大軍數十里今以百騎走向 |風三人亡馬歩行廣令騎張左右翼射飛其二人 干騎見廣以為誘騎告於上山陳廣之百騎告大恐 與戰射中貴人走廣日是必射雕者也遂從百騎往 李廣為雲中太守爾 ,飲夜取之即引兵去平旦廣乃歸 晁錯上言兵事 人果何奴射雕者也已傳之上馬望匈奴有 ア、巻之三、 女大入上 一郡天子使中貴人從 較 為漢有伏兵 三 門 縱馬卧時 Æ 奴

功名在於良將不

可不擇也臣又開用兵臨戰合刃

卒 北三民首 **从四股官** 周小大具形預弱異勢險易異備夫早身以事强小 也将不知兵以其主與敵也四者兵之至要也臣又 |之過也五不當一故兵法日器械不利以其卒與敵 |不樂趙利弗及避難不畢前擊後解與金鼓之音相 法日文五之腓斯車之水山林積石經別五阜草 之思者三十日得地形二日卒服智三日器用 中國之形也合何奴地形仗藝與中間與上下山阪 也君不擇將以其國與敵也卒不可用以其將與 不能中與古失同中不能入與古鐵同此將不皆兵 失此不習勒兵之遏也百不當一兵不完利與空 **亏勢三不當一士不巡練卒不展習起居不精動静** 動構二不當一曲道相伏歐昆相常此動構之地也 相屬平原順野此車騎之地也歩兵十不當一平臨 所在此去 兵之地包車騎二不當一 主山丘陵房 國之形形合小以來大戲圖之形也以蠻夷攻蠻夷 同甲不坚密與袒務同等不可以及遠與短兵同射 正の身等 當一兩陳相近平地後草可前可後此長親之地也 **树速用谷居圆师商厅下此亏孥之她也短兵百不** 八年えこ].]. 利 木

实 红正以夹荚 百百中聚 |車材官制之兩軍相為表裹各用其長技衡加之以 先零差級宣帝欽擊之問誰可將者趙充國己無踰 之明豹辨之即有歐阻以此當之平地通道則以 老臣帝間將軍度養房何如充國日兵雞選度廢馳 郡之良騎令明将能知其習俗和輯其心者以陛 **您此萬企之術也** 地東 多班田十二事

之華笥木薦弗能支也下馬地闘劉戟相接去就 期何敷之兵弗能當也材官聯發失道同的則每 出入漢篇中区之馬弗典也險道傾亥 全今降胡義渠蠻夷之屬來歸該者其衆數千 之何奴之是枝三中國之長枝五帝王之道出於舊 薄期賀奴之足弗能給 化比中國之長技也以此觀 那能移進堅甲利兵長短相維游勢往來什伍相 **以之來易挽風也勁弩長或射疏及迎則何奴之** 也此寫象之長技也若夫平原易地輕車突騎則 國之騎弗與也風雨罷勞假渴不困中國之人 年 ここ 茅六 Ħ 馳 Ī 常典 射中 前 亏 相

下人者奉

長技與自奴同可賜之堅甲絮衣勁弩利矢益以

兵服 之用 齿闸時代 也上報日将軍言欲罷兵萬人留田即如將軍計 吏士馬牛食無斧難久不解錄役不息恐他喪卒 **钦罷騎兵屯田以待其敝奏日臣開兵者所以** 不處之變誠非廟勝之策且虜易以 除害也故果德於外則福生於內可不慎乎臣所將 ĩ 小 ٨ 能 矣上從其計時產降者萬餘人充國度其必壞 力数倍於臣之計先訴先零則旱开之楊不煩 茅簿 傷害適使先零得施德於旱开交堅黨合道脇 種附著者稍果莫須之屬不 族尤首 |八条||13||| 日帝王之兵以全取勝是以 葨 静 雅膚兵 ---破難用兵碎 殺多誅 , 为 p 徔

> 电田之利法 面睃 折笼房令不得歸肥饒之地貧破其眾以民恙房 士萬人雷屯以為武備因田致穀威德並行 而望臣謹係不出兵團田便室十二事步兵九枚吏 于肯託達 待戴之可 之斯二也居民得並田作不失農業三也軍 **野田順** 利愛親戚畏死以一 R 最而百勝 **監骨肉雕心人懷畔志而明主班師罷** 勝對夷門俗雖殊於禮義之國然其欲 天時因地利以待可勝之虜決可 非善之善 也今勞以其炭地應草形 者也 故 先 為 不 4 門 期 勝 瓦 棑 月

至全

城圏

上方界克国至審察動靜上書日臣

開兵

卒旱羗欲悉燉煌酒泉室街兵馬線最士以須其至 法口政不足者守有餘叉日善毀者致人不致於人

坐得致敵之衛以逸擊勞取勝之道也恐二郡兵少

n

亡恐漢兵至而早开背之也計常欲先赴早开之急 趙先零差欲為叛故與罕开解仇結約然其心不 不足以守而發之行攻釋致虜之衛徒為房所致之

堅其約先擊罕开差必助之今虜馬肥食競擊之

百不商者近 御も国具は 可外将序辑 正不得如何 おおう行 語に田大会 世傳析衛之具五也以股時所代材 省甲士卒循河湟漕殺至臨老以示差虜楊威耀武 月之食度支田十二歲罷騎兵以 金城六也兵出乘危彼幸不出今反畔之虜康於風 ī **人华委** 一条之三, 省大費四也 籍治野亭先 三八 £

寒之地靡霜露疾疫之患坐得必勝之道七也无經

· 遊死傷之害八也内不損威武之重外不令房得

之憂十也治達胚中道精今可至鮮水以制西域 乘間之執九也又无鷲動河南大开小开便生後

干里從徒席上題師十

也大賣配省蘇役像息

子9-73

春

何奴不可不備烏桓不可不憂轉運煩費領不處之 之執空內自罷敷貶重自損非所以威蠻夷也大兵 **虏絶不為小冠則出兵可也然釋坐勝之道從 刃攻不必取不茍勞聚誠令兵出雖不能滅蹇但** 也至於虜小冠蓋未可卒禁臣開戰不必勝不苟 接 終不敢復將其累重選歸故地此不戰而自破之策 敢捐妻子於他種中遠法河 **亡小折樽** 見萬人屯田為必擒之其從今三月虜馬龐瘦必不 木熊校 聯不絕便兵勢動闘具烽火幸通執及力并 也用地執不易多商山遠望之便部曲相保為重 貨房之破壞可月月與矣夫北邊自數應至途東茲 早开莫須又類暴客其畜産聞天子明令相捕斬之 零凳精兵 今餘不過七八千人夫地選客分散飢凍 一千五百餘里房數大泉攻之未必能害今間萬人 出不可後團湟中亦未可空如是蘇役後發也且 戒不 · 以膽一門臣以為不便臣籍念奉部出塞引軍途 电田内有無費之利外有守禦之備騎兵雖罷虜 廣十二也且其以計為本故多等勝少等先 |八条に三 μj 來冠又見精兵萬 = 7. 乗危

零數一不同 光州之图先 皆聽騎難制又恐其誘也擊虜以發波為期小利不 足貪令軍勿擊遣騎侯四望阻中亡虜夜引兵上至 百騎來出入軍傲充國日吾士馬新德不可馳逐 三校断枚先遊觀管陳會明畢 趙充國擊西差兵至金城貧渡 者數百転首五百餘人內馬牛羊十萬條頭車門 則走不願急之則選致死諸校皆曰善虜赴水 鑒之或日逐利行選充國日此窮冠不可迫也緩之 左零差叛趙左國討之引兵至先零在所虜久屯聚 百个年春 八茶之三 解范望見大軍樂輔重飲波湟水道院狹充國祭行 攀第 **蜀其言常是其計必可用也** 最後十八丞相魏相日臣愿不習兵事將軍數畫軍 嫌之便而以後咎餘責此人臣不忠之利非明主社 稷之編 也奏上難下 公鄉議初是計者十三中十五 趙充國擊西羌 趙充國緩追先零差 天子之精兵散車甲于山 遂以武盡渡虜數 柯恐為房所 野無尺寸 之功始遊 逓 飵 ii. Ľ 遣

以何可姓

子 9-- 74

是何科守 而不得想到 **令战机一用**

就光右對人 可确以兵机 竹散走鹭村 食徒可俱幸

貧一 務行 落都召诸校 **丛反今天子遣趙將軍來年八九十矣善為兵令請 數提較充因堅守捕得生口言港廉相數責日語汝** 而後戰遂至西部都尉府日譽軍士士皆欲為用扇 餐敷千人守限中兵登得入哉充同常以 閻而死可得即 必 為職備止必堅管壁尤能持重爱士卒先計 司馬謂日吾知差扇不能為兵矣使虜 遊厅侯為

傳介子計段複聯

所怨艾前過量茲其王近就人易得也順往 古今开译 傳介子謂大将軍霍光日枝蘭鄭茲數反優不誅無 歩に三 刺之以

5錦織行腸諸國王不來受表去之西國矣即出 子介子陽引去至其西界使譯謂日 **於金帛楊言以賜外** 威示諸國大將軍日雖茲道遠且驗之於楼閣介子 國為名至楼蘭樓蘭王不 漢使者持黄金 金絲

> 金英金司聖 可敢也也亦 色姿勢與弊

校之故開園一角令其將得奔歸鍾城開視所已治 大權空壁以去費邑分遣人守巨里身進兵先勝戶 别於太山鍾城列管數十以待身身波河先擊就阿

耿弇討張步步使大將費邑軍歷下又分兵屯

祝

至毋敢動動誠因矣遂傳王首還謂關 天子道我承祥主信更立前太子贤在

漢者

漢异方

弁被費員

後三日當悉力政臣里陰級生口 里使多代桐楊言填暫攻巨里數目有除者言聞命 攻巨里謀來救之身乃令軍中修攻具宣物請部 人 新东 /参え三 令得丛歸歸者 奉三 7)

逐斬邑

三千

人守巨里自

引精 英上

岡阪乗高合戦大破之

日吾所以修及具者致邑耳今來適其所求也即令 **弇湖告邑邑至日果自将精兵三萬來教弁謂誻**

於與使以政 保野再一見 減時務在使

假有護律者 民心進於斯

拟立前太子 至有被可訴

起随介子入帳中屏語壯士二人從後刺之方方 立死其責人左右皆散走介子告論以王負漢罪

物示之食酒皆醉介子謂王日天子使我私報干 示譯譯逐報王王貪漢物來見使者介子與

鄧禹杖策追光武

、坐飲

光武安集月北郡再杖策北 前假號往往衛兼更如既未有所挫而不自聽 都關西今山東未安亦得膏猴之屬動以萬 废绝 及 於鄰進說日

數

更

將

門限號了 不存为此 中古人無首 前将昔庸人照起志在幣帛用減丸朝冬自飲面也 |義無所立節無所成不若問門納軍轉職爲腦免下 扇形标形勢可見明公雖建滿輔之功循恐無所成 非有忠良明智族感感国欲与主发民者也四方分 漢建武時朝臣以金城被惹之西等速多冠談飲棄 恩之敗敗中智之功此計之至者也康然之開門納 外失東心公所知也令公據孤危之城待滅以之扇 倖中智能因危以爲功下過安於危以自以危込之 令左在號馬日衛将軍常止有於中與定計談 立於學之計奠若延復英雄務稅民心立商祖之素 致在人不可不察今京椰联亂四方雲提公所聞也 极再足之命以公而感天下不足定也光武大党因 爾王兵强士附河北歸命公所見也謝躬内背蘭王 〒外番番 | 大米マ三 尚書令謝射使陳康守鄭自引兵出隆應山擊版尤 吳漢說陳康歸漢 馬梭旗棄破差西 111

ŕ

			東世別之	是自老耳	八碳明整亦	我也放光				取之之易	若衆其仏教師有功			- { - 4 - <u></u>	南有港河	可療造中心散光而之	不作一路	
馬異拜征西大将軍會鄧禹率郡弘等引歸與異相	赤者蚁野弘	郡王郎走趸王麓開郎死亦以鉅鹿降	鄧満守鉅庭而進軍都即屯部北門惡攻之遂扳邯	王郎巴訴王健不暇自服矣光武善其計乃曆将軍	外守王饒士卒疲敢不如及大臣精銳進攻邯郸岩	光武國軍魔太守王饒豫被以守迎攻不克取徒日	耿純說兼鉅鹿亥邯鄲	荷月餘日城食畫夜去追破之	古今市舞 (水スツ) 明日	殿光武堅營自守有出鹵掠者 輕擊取之絕其糧道	光武擊銅馬服於新異漢將突騎來食清楊嚴數提	光武破銅馬賊	來和親	開導水田樹以耕牧又追着豪楊封智說塞外差皆	干條口使各反舊色張奏為置長更結城亦起為使	也於是韶提為武威太守令悉選全旅客民歸者口	見康憲武龍通如今差在湟中則為害不休不可棄	之馬城上言被惹以西城多定年易可依因其田上

正 水龙

数不良的过去分词

平水 イズカセ 豊

兵選擊弘弘軍大廣

題臭異共文亦看異日 走車皆載土以豆稷其上弘兵士飢爭取之赤背引 此萬成計也再弘不從與亦有戰亦看佯敗棄賴重 **今使諸将屯渑池要其東而異擊其西一舉而取之** 植粉餘泉尚多可稱以思信傾誘難卒用兵破也上 異與嚴相 作數十 日難優獲

喜兵已退乃止歐至站叛被部罷歸歐恐大兵退久 隗囂冤安定光武自將征之先戒融期遇雨 實融數急攻開對 道斯 Á

等後疑囂楊言東方有變西州豪杰遂後附從慧引 不出乃土書日應蠶開車寫當西臣融東下 動計且不職幫將局數之屬皆欲逢迎後問兵罷峻 下分争棒 人名艾三 K K 士泉 툧

室速 被 那風家當其前臣 雕促其後 殺急 选用首尾 公孫述将今守突門臣職孤弱介在其間雖承威霊 :資證執排進不得進進此必被也若兵不早進义

此詞的角

稿憂之 **光武校計吳漢擊公孫述**

生持 候外長冠兽内示困縣後令詭邪得有因緣臣

大使不好死

邱祖君兵士

辛國施以 以不奉中武 即但堅但廣都待其來及若不敢來轉營迫之須其 皮尔之及环 **本地忠英漢** 中川青城市 |英漢及公孫逃先武戒之日成都十餘萬泉不可輕

力疲乃可擊也獎果利遂自將步騎進通成都去被 十餘里 阻江北灣餐作浮桥使副使到尚电於江南

数据烈力達 美洲以另合 何意臨事勃亂毘輕敵族人又與獨尚別營事有級 去工十餘里帝間大驚讓漢日比物公千條萬端

悉不後相及販若出兵級公以大家攻尚些被公即

善败此正好

敗矣幸無億者無引兵選廣都部書未到述果使甘 謝豐東古将果十餘萬分二十餘營并出攻 澳使

其外班北鄉 壁鲁四閘之漢乃召諸將厲之日吾共諸君翰越險 别將劫劉尚令不得相殺漢與大戰一日兵敗走 人等事 |八条 ここ 三 六

三日不出 **有色效数据** 敗為功一於 如其不然联必無餘成敗之機在此一舉諸將皆日 江南并兵禦之者能同心一力人自為最大功可立 與尚兩處受團執既不接其關難量然潛師就與於 **阻轉戰千里所在斬獲遂族人敵地至其城下而今**

諾於是賽士孫馬閣管三日不出乃多監旗務便期 兵拒江北自将攻江南漠悉兵迎殿自旦至廟遂大 火不絕夜喻枚引兵與尚合軍豐等不覺明日乃瓜

Ī,

法所其后可 並發展終度 围进枕账徒 士之、允兆 极屑不只被 至齊聲呼吸 & 要市份可 散射 帛寒 敢死士五千餘人使 延岑 於市 橋 得建 旗 尿塞不敢故 死 南東生産 死二千人俱侍强琴各傳三失使町杖問 純失射管中士卒多死傷純勒部曲堅守不動 |死中求活可坐寫乎財物易聚耳不定有爱述乃悉 赤者膏犋上江大形藏腰五幡十餘萬泉花在射犬 後府學呼原預等並發賊展為走追擊逆破之 光武引兵将擊之絕軍在前去聚營數里賊忽夜攻 **帐坞鼓挑戰而潜進商兵出吳漢單後襲擊破漢** 吳漢擊公孫進建前延岑日事當奈何岑日男兒 五手里恭恭斯赴之題會值其厄要被之必矣 拒絕具以我上而既自證黃帝根日公選廣都甚得 **教建先通榜騎進擊馬武軍權武柱教之建從城中** 上爾典為武東計局建於雲惠蘇茂将兵四千餘人 百合作等 其室建必不敢畧尚而攀公也若先攻尚公從廣 ・王翦桓蘇茂 じょうぐ 联纯射犬坚守碳青犢 延忠募士取吳漢 豊古發用首五干俸級於是引送廣 人をむる 11 Ī 行統出版 存 迎敢 畐

砂目粉放不 用之元分 索包 以用品 心目說明年 變風大有影 不低胜其种 **计可用发展** 東淤屯 夹此之不极 九 有 行 便 於 災與選表前 面用之稻椒 脱风走 **貨を表之力** (衰衰伏 兵卒起衣服相應亦看不復識別眾送弩首 **冯異討赤省城與約期會戰使壯士變服與赤** 追擊大破於峭底降男女八萬人 教之贼見勢弱逐悉東攻異異乃殺兵大戰日長賊 伏於道側旦日亦着使萬人攻異前部異裁出兵以 軍中壯士路閣等數十人斯髮請最銷知士心銀乃 而届人之兵善之善者也茂建旣不得報乃引還替 足故數視戰以徵一時之縣今開營休上所謂不戰 前日已破今易學也獨日不然及客兵途來糧食不 下小針拳 樂茂兩射管中中霸前酒梅安坐不動軍吏告日於 開营後出精騎製其背炭建前後受敵奪亂 賦必乗勝輕進捕房無粮其戰自倍如此茂果頗勞 武各歸營贼後聚衆機裝霸堅卧不出方勢士作 吾乘其弊乃可克也友建果悉出攻或合戰良久 相特兩軍不一此敗遊也今當開帶固守示不能發 動管求教衛日度兵精竟吾吏士心恐而補海與吾 出兵夾擊武特衛之提幾不甚力為茂建所敗奔 **馮異髮服被赤盾** アメンニ き 败 | 看同 ŧ

联介討張步先攻臨淄拔之去與弟藍弘壽及大形

耿弇分兵討張歩

米坤重異等至臨滿城東新攻身身先出酒水與重

困諸君之言未見其室遂攻臨澗牛日板之入條其

擊彭彭乃潜兵後污水擊其將張楊於阿頭山川谷 擊山都而殺所獲虜令得逃歸告豐豐即悉其軍西 各進帝讓彭彭於是夜勒兵馬申令軍中使明上西 |學彭南擊秦豐於黎丘豐與蔡宏拒彭於孫數月不 之手擊發射東悉降 應歸,那不知康已反乃與數百斯輕入 城漢於兵收 降陳康於是康政慶及躬妻子開門內漢等射從隆 古本并華 大卷之三 慶魏部太守陳康守都自率諸將擊之府冠死戰躬 逐大散光武因躬在外使吳漢襲其城漢令辨士說 也躬日善及青精被而尤來果北走隆處山躬置到 在山陽者就必驚走若以君威力擊此散虜必成命 光武府擊青預謂射日我追賊於射犬必被之尤來 稱日附尚書真吏也故不自疑射既率兵還也都時 代木則道直學器正被前屯兵豐間太駕驅歸教 **岑彭 俊泰**皇 Ī

> 攻戰則堅非 一概人虚實吾後入嚴地後無轉輪旬月之間不眠而 堅城死傷必多程能校之監引軍奔臨淄并兵合勢 |必後以去所謂學一面得二者也若先及西安頓兵 极吾攻之一目必拔拔臨淄則西安孤藍與法隔絶 百分華等 一人を記三 西安周我欲攻之日夜為飾臨淄出不意而至必能 溜拔陸軍有果等爭之以為定速攻西安倉日不供 之是夜假守至期夜牛奔物諸将皆蓐介黎明至臨 **易郡太守合萬餘人守臨滿相去四十里介進軍書** 之彭禄為之備出兵追擊豐敷走追斬蔡宏 名雕大面實易交乃物諸校會發五日 攻西安整閱 中居二旗間介現西安城小西堅且藍兵又精臨溫 **账弁攻張宏時步都劇使的藍狩精兵二萬守西安** 联介被赔准 r,

更始遣謝躬率六將軍會光武共定你即所得

舻

光武襲後新射

子9-79

足以來其風 不多坚被不 聯不明 使4 上載心以前 差犯保積山 |那預射士三萬人擊之軍到其而惹豪布橋等圍南 新之差引精兵聚北山上极陳兵向山而分遣数百 部都刷於臨洮防欲教之臨洮道險車騎不得方寫 金旗體西保塞港反馬防取泰将北軍五校兵及諸 不窮追收其發糧畜産而還 騎繞其後乘夜放火擊鼓門誤港遂大演提以兵少 行間道掩赴其營養大帶潰後遠徙唐異谷侵復追 馬提擊百差差因將其妻子關重移允吾各提乃 起缀擊追至矩球水上八九十里僵尸相屬收轎重 **万被之左右無知者至暮罷平旦後出兵大破之命** ī 和步国将退置左右伏以待人定時步果引去伏兵 兵以横突步陳於東城下大破之飛矢中介股以低 干餘輔去降齊鬼悉平 八章季 馬防分兵被諸差 馬提分兵襲差 大表 125 1 Ħ

正作川聲示

灯盛其氣乃引歸小城陳兵於內於氣盛直攻弁於

與對散等合戰角升臺望之視散等鋒交乃自引精

先出資本上

異遇矣緊殺貧夷身是其鋒栓

| 則嵌不

敢進放

一小朋

皆偏將軍是特郡國多降邯郸者絕恐宗家懷異心 弟前宿植共平宗族有容二下餘人老病者皆載棺 同逐求自結會王郎反光武自廟東南聽絕與從昆 解去 木自瞪牵迎於肖拜施為前將軍封联鄭侯祈宿值 世祖渡河至邯郸联純見官屬將兵法度不 之最傷甚界匈奴鷲佈相謂日漢兵神真可畏也 之為中矢者風到皆游逆大驚會天暴風 |語匈奴日漢宋前神其中瘡者必有異因發強努射 匈奴攻耿恭於金蒲城恭乗城補戰以毒樂傅矢傳 11八番番 人繞其西三道俱擊後破之 耿純焚舍枚宗族 **耿恭神箭退匈奴** 八米スコ **雨臨雨擊** 與它将

子9 80

美龍 作過不自五 には中間が 以治中見得 小红河 然有一些 今邯郸自立北州疑惑乾靡舉族歸命老弱在行猶 異漢率兵擊清河諸賊值屬縣五姓共逐步長旅城 軍請請將日當避祭題吾舍中見犯法尚訴之必 遵奉法不避是教令行也光武乃貰之以為刺養將 之望耳 恐宗人賓客半有不同心者故烯烷屋室聽其反顧 河北非有府藏之苗重賞人民徒以思德懷之者也 被宫将兵屯縣越獨將田武等與大將軍學彭相拒 中五丝五姓大喜相率歸降 輕月進兵者斬乃移撤告郡使成守長而使人谢城 **私諸卿也** 祭遊從光武征河北為軍市今舍中兒犯法遊格! 下二季等 祭進發舍中見 颜宫車收縣越 吳漢捕守長以收五姓 一人巻さ三 7. FD

題使新宿歸焼其慶舍世祖問故對日別公軍車點

此可為解散 気亦住 節化一法 馬台之服 断鬥及以則 |妖巫相劫勢無久立其中必有悔欲込者但外圍 於荆 然之即物官徽園毅賊賊東分散逐斬臣鎮等 不得走耳室少樣令得逃囚則二亭長足以擒矣而 王問晷皆日室重其購賞時顯宗為東海王獨對 圍之賦穀食多數攻不下士卒死傷帝召公卿諸侯 人自稱將軍光武遣叛官将北軍及黎陽營數干 妖巫維汜弟子單臣傅鎮等妖言復聚入原武 絕面門限斷相告以漢兵大至其渠帥乃奉牛酒以 ī 田是莲安 罗军管官陳兵大會擊牛 羅酒賽 剔慰納之縣 越人 限令車聲 同轉出入至旦駱越人疾伺者開車聲不 不能制會屬縣送委翰車數百乘宫夜使鋸脈城門 ۸ 新裔 東海王請繼交破妖賊 門彭等眼數不利縣越人謀畔發蜀官兵少 人名こと 一劫更 急 H

<u>房蓮行運取的邑異即聽兵欲先據之諸將日房兵及至孫乘勝使其將王元行遊將:一萬餘人下隨因</u>

光武遣前将下雕為魔魯所敗乃韶馮異軍梅邑未

馬異疾趣榆邑破行庭

的皆自定在 好待胡問件 在尤分令教 學清野要學 舜力素聖少皆大恐超日月及兵雖多然數干里 助葱嶺來非 如幾萬有衛 官屬日寧覺廣聽意薄乎此必有北扇使來孤疑未 盡殺之持其使首以示謝湖大駕即道使請罪願得 生歸超樂道之月民由是大震歲奉貢獻 要之謝果遊騎齊金銀珠玉以路邁兹超伏兵進擊 得 有運輸何足爱耶但當收穀堅守彼飢窮自降不過 班超 数十日決失新遂前及超超坚守不戰又抄掠無所 |之異乘其不意卒擊鼓建旗而出經軍驚亂追擊數 勞非所以爭也潜往開城偃旗息鼓行題不知聽赴 十里大碳之 是吾憂也夫攻者不足守者有餘今先據城以逸待 盛而新乗 廖兵臨境但伏不利遂欲深入若得栒邑三辅動楹 超使西域都善王廣禮敬甚倫後忽陳解超謂其 超反其糧盡必從難兹求救乃遺兵數百於東界 ٨ 看等 人界ない 班超宣言必死激果 使西域月民遣其副王謝將兵七萬文超超泉 避超碳月跃 小勝不 可與爭安止軍便地徐思方容異日 建工

> 机夫军坐鞋 不具在多額 從事議之超怒日吉凶決於今日從事又俗吏盟 |将有因夜灯火攻虏使彼不知我多少必六震怖可 古今新籌 | 人参之三 珍重电波此房期都善破胆功成事立矣卑日當與 送为奴骸骨是為别很食安官屬皆月今在危囚之 房使到我數日而王廣禮歌即廢如令部善收吾屬 地死生後司馬超日不入虎穴安得虎子當今之計 日匈奴使來數日今安在手侍胡惶恐具服其狀 乃開侍胡悉會其東士三十六人與共飲酒酣四激 知所從 故也明 者脂未萌光巴著邪乃召 <u>财</u> 次 侍 朝許之 此

法有效购用 得刷面英雄 **原のおおし** 知其無能為也朝歌者韓魏之郊背大行臨黄 不被放合不 架劫庫兵守城皋斯天下右臂此不足憂也今其象 |反在朝歌耶朗日初除之日士大夫皆見弔以胡籌 關而已及到官設令三科以募求壮士自豫吏以 新盛難於爭鋒兵不嚴權顧寬假響集勿令有所拘 去放倉百里而青葉之人流丛萬數賦不知開倉 到認河内太守馬稜稜勉之日君儒者當謀謨廟堂 事不避難臣之職也不遇盤根錯節何以別 朝歌縣審季數千人攻我長吏屯聚連年州郡不 下分争等 **虞詡三科募士破寗賦** / 年之三 11 利器始 ijĺ 能

> 京光來 用之不令則 未零甲酯汗 前法皆從要 之賊由是駭散 使入賦中誘令劫掠設伏以待又潜遣貧人能経者 |各舉所知攻劫者為上傷人倫 偏作戰汞以来線發其飛為嚴有出市里者吏報倉 不事家業者為下收得百餘人部為變食悉貰其罪 虞部守武都 盗者女之帶喪服而

替得力在課

£

將軍發温稻王姑墨尉願合五萬

人教之

超召将

關從是而東超亦於此西歸可須夜飲聲而發陰經

校及于寅王麟日今兵少不敢其計莫若各散去干

於西界遙超溫宿王將八干騎於東界邀于寶超知

一房已出密召諸部勒兵鷄鸣馳赴莎車僧胡大繁 奔走追斬五千餘級大發其馬畜財物莎車遂降

所得生口歸以超言告遍兹王聞之大喜自以萬騎

之近又发起 おしを発去 兵而令不為 |鈔伤縣兩因其兵散日夜進道兼行令更士各作 停車不進而宜言上書請兵須到當發差聞之乃分 丁二十年 人卷三三 虞訊遷武都守惹率衆鼓干 遊胡於陳倉崎谷 1 詡 À 护

增出名不便

知其不敢也

姓日增倍之差不敢過或問日孫順減灶而将

此兵之所以 **基本**支示網 増生が発展 |部於是便二萬强勢共射一人發無不中意大震退 兩因出城奮擊多所殺傷明日悉陳其泉今從東. **勿發面潜發小弩差以為力弱矢不能至井兵惡攻** 府兄弱我今示强势有不同也既到郡兵不滿三千 是我灶日增必解郡兵來迎衆多行速必憚追我 眾多我兵少於行則易為所及速進則彼所不 之兵法百行不過三十里今且二百里何也 **港界萬餘攻图亦亭數十日部乃令軍中使强勢** 翻日庸 Ä 採

不粥息

軍

を荒り夜音 至于集管量 体有些前一 **兵面對之類** 疾養虎 光解 規則被自在 是目出夷攻 安是新 联扎 爱灯段伙仆 甲 伏侯其走路虜果大齊敗南入益州湖乃占相地勢 菜替壁二百八十所招選流 L 假振介入郡遂以安 更相恐動補計嚴當退乃措遣五百餘人於淺水設 為邊患今北房西邁請求和親且因其歸附以為外 貫負重賞合若聽南房選都北庭則不得不禁制鮮 者也臣察解甲侵伐匈奴正利其抄掠及歸功聖朝 漢與功烈於斯為盛所以然者夷揚相攻無損漢兵 甲奉原斬獲萬數中國坐享大功而百姓 索育养造人得生勞役休息於茲囚十條年矣今鮮 皇帝躬服金華之難漢耶天地之明故因其來降羈 極界以沙漠簡賤禮樂無有上下處者為雄弱即居 **欲從之鍾雕意上獎日夫戎狄之隔遠中國幽處北** 鲜早擊破北匈奴南犀守因於兵北後欲歸舊庭 門出城北郭門人貿易衣服回轉數周差不知其 ... 鍾離意請柜南車干 自漢與以來征伐數矣其所起獲替不 À 鮮早外失暴掠之順內無功勞之實引很貪婪必 着 ノ水ブミ ķ · · 超光 補害光武 不知其夢

魔松跳油先 牧軍典之苦 郡以 之此善之善者也 **室徙邊郡不能自存者入居諸陵田戌故縣孤城絕** 土三輔山原職遠民庶稀陳故縣丘城可居者多今 放善為國者務懷其內不求外利務富其民不食磨 **恥雪矣夫柘境不寧無益於强多出不耕** |乗懈沮出其不意攻其不備則沒人之仇報介 項賦以益其財令男得耕種女得織維然後畜 正白新華 任尚使督凉州士民轉居三輔休徭役以助其時 兵養眾以待其瘦車騎將軍騰定振 伯不後堪命臣愚以為萬里運糧遠就邊 成不若 得型陶禾禄不得收入梅手困窮無空來秋百姓 疲之以遠戌農功消於轉運資財場 授動而徵發不絕水除不休地力不復重之以大軍 夫上 凉州羌反部郡遇耐之雕参上書日方今西州流民 權徙之轉運遼 廉范守雲中 **畧去安即危矣誠不可**許 雕参乞養果待弊 一八米ズミ 費聚而近之徭役煩數休而自 於 旅語征西校尉 ā. 微發田時不 何敕 飢穀 、北之 精銳 ıŀ 緽

贸遍是以少 三頭雙大以

贞

班男練業西域

城叛公鄉多以為安縣之班勇日昔孝武皇帝思

班之間也要 经首員者數

不起臣亦能保匈奴之不為邊害也今五枚尉以桿

賊

東與歸其府藏續其斷符哉若永京而不

坐絕屏東北房縣邊將受困害恐河西城門必

今年年 人名之三

燉 笠 安 邊 外 長 之 策 哉 毛 軫 難 日 今 若 置 校 尉 畫開之做矣不麻朝廷之德而抱电戊之背北 撫西域談長史以招懷諸國則

房势必弱為患微矣

立則四 役有

K

|之虜聚盛荒兵不敢日暮今士各交縟兩炬三頭襲 五千移者伤郡吏飲傳做求校范不聽自率士卒拒 廉范為雲中守自 奴大人 塞蜂 火日通故事房入題

中岸食晨往赴之斬首數百級房不 火營星列虜建望火多謂漢兵教至大鷲至且令軍 敢復向雲中

是一条作子 将舜放在野 何奴强盛兼總百部以通障塞於是開通西城離其 II (A **東與論者以為李匈奴府藏斷其右臂遭王莽篡盗** 纤锋 卷之三 Š <u>.</u>.

|郡城門畫閉孝明皇帝漢惟廟策乃命虎臣出征西 |故匈奴負強駹率諸國及至永平再攻敦煌河西 渚

者差亂西域後絕北房道資諸國備其通租商其價 域故匈奴遼道邊境得安及至承元莫不內屬倉間

Ŋ

從前所以時有叛者皆由牧養失定還為其害故也

直歇以期會部善車師皆懷憤怨樂思事漢其路無

今室後置護西城副校尉居於敦煌如禾元故事又

室遣西威長史將五百人屯樓蘭西當焉者龜茲徑

育 於方以求案 电戊百到毛 對難張以主 置州牧者以禁郡縣高滑盜賊也若州牧能保益

旦反優班將能保北虜不為邊害乎勇對日今中國 |國而實難供也全車師已屬匈奴都善不可保信 路南强都善于真心 便崔棣维日朝廷前所以兼西域者以其無益于中

船北桿匈奴東近

敦煌如此試

酸以两域歸匈奴使其恩德大漢不為抄盜則可矣 邊是當仇鮮之財增暴夷之勢也置校尉者施恩布 如其不然則因西域租入之饒兵馬之東以擾動緣 域絡釋遣使求索無嚴與之則實難供不與則失其 財耗國之應且西域之人無他求索其來入者不過 器以繁請國內向之心以疑何奴凱佩之念而無曹 旦為何奴所過當後求教為役大矣勇對日

腐落 Ŋ

幁

馬換為 幽州刺史疾忌 豪惡鼓致其罪時玄楚太守 光亦失人和怨者乃詐作董書禮貴姨光賜以 親疑部文有異 肽

又下遼東都尉歷香使速行刑資即斬光收獎獎

微自殺獎子絕疑詔文有異告獎日大人在 寸分折器 罪未晚煩從其言上者自訟果詐者所為親由是知 去惡實無他故必是的 八年スミ 人安許肆姦顧以事 İ 州 上十 志欲

張温練徵還 朱 雋

未為與徐學泰胡合兵萬於圖趙弘於宛城遠

Л

礻

年歷載乃能克敵传計類川巴有 板有司奏飲食為張温日 各已 散赌軍易將其家所忌室假 秦用白起燕任樂教片 功 日月責其成功 幼引師南指 鏖 蘏 方

正在图片品 奴自古之事

> 則中國之费不止十億置之被便於是從勇議 已今若拒絕勢節此屬夷虜并力以寇并京

原食而

於自前與不堅顯得萬人斯其運道將軍以大兵緩後賊必即而惟通前并與 三重之介在 不敢戰若走入策中并力討之則涼州可定慎不

幕

桂食

伏走

引軍國榆中章運分屯葵園反脈慎運道慎懼棄鱼

段額被鮮果

赴之恐賊驚去乃使驛騎詐齊重書召額額俱退 **民類為遼** 東屬國 都尉時鮮甲犯 蹇 一類即率 荕 領 潜 馳

干退路散伏房以為然入追額因維兵悉斬養之

宣帝號縣核 宣帝召見襲送時年七十 輕霧開送日渤海廉亂胀甚憂之君何以息其盗 沙竹井 美遊定南海 八孝之三 形貌短小不副所聞 خاز

賊: 內

被使臣勝之那将安之地注聞對甚依答日送将 東東周依安之無華日臣開治飢民看治則 寒而更不恤故使陛下赤子盗弄兵于溃泡中耳今 以稱嚴意送對日勝顏退遠不需聖化其民困于 一種不 用 可 篾

一的我沒在事上并為海岸界那周新太守至發兵 **西电性 報之然後可顧丞相御史無拘臣以文法**

金钱人邊草人冠靈帝部張温周慎擊之章縣走

帝乃止

孫坚請兵斯運

ĬĹ

子9-86

管自国府天下未定四方之士推兵獨稱者甚聚

帷

符所歸輕財重義扶危済困為縣邑所敬信故能據

王莽末四方資畔馬鲂乃聚賓客招豪傑作營輕

鸟鲂放罪不服

助自守兼有方晷光武 間面嘉之拜進令為政政

成信爾選邦令後車馬西征院節额用查

伐以

矢畫城順勢乃通去帝間郡國及即驅赴額川案行 贩庭褒等三千人及图縣合物率更士七十人

力展 起

郊

解散法是治

一動用器者皆為良民東好得問持兵者題為益 迎遂告遣還 移書物屬縣悉罷逐 橘盗賊 吏諸持

遂牟車獨行至府郡中角然渤海又多 切掠相 逐数令即時解散棄其兵弩而持组 **传好末枝不田作题船率以儉約勸民務農桑毎戸 逃題 開倉原假貧民選用良吏慰安牧養焉齊俗者** 鉤民安土樂業 題用

來修行郡中皆有當顏民 下外新年 鶏民有帚刀翎者使賢翎買牛賣刀買 佩情春夏越田前秋冬課收飲益畜果實養芡勞 人名える 首 殷 富狱 松业 31. 21. 價日何為蒂 É

樹崎百本莊五十本葱一

畦韭家门母凳五

毋

|訊川盗賊夢起後拜網川太守帝勞之日賢能太

Π

増倍

後 餌

N

一切相放聽者及是深為今作耳目皆稱萬處是時 有登敗並為豪等所發無政動者縣界府靜 郭 伋 定 燕 陽 誤 川

叩頭日本日受飲水無所根節日汝和傷遇代罪令 采芦部乃悉以褒等題訪訴之飭秀讓以行軍法皆 帝至皆自光劃角鐵鐵料其東前罪帝使動轉降諸 關處乃嘉之日此後令也所當計學勿

拘

州

那東聞

奴民傳不敢 人塞民得安業在職五歲戸 敗民多滑惡宠盗克斥仮示以信賞討致渠帥查敗 散時何效數抄都界仮 仮為漢陽太守漁陽民權 f 整動 王莽之亂 士馬散攻守 : : 重 IJ 之界 彰龍之

去帝 自劝專命帝美其策不之咎後宏異等黨與閱仮 捕而 人山版 張網降張琴 自江南或從 **拔不遠河湖九里與京師并紫福也君雖精** 山道險既自國當一土耳深定俱之係 陽夏趙宏襄城趙吾等皆降悉遣附表 **角異不期俱降絡釋不絕** 到

Ы

灰

於 牛

郡

坐帝之日前後二千石多肆食暴放致公等懷慎 界二千 極先閉壘網於門外罷随走兵獨國所觀者十餘人 天馬 朝獨府軍車之政民到極衛發集通門要大致 条其器 張桐 あらの以 書務要請與相見要見網至故乃所非問題至上 石信有罪矣然為之者又非義也今主上仁 桐為廣陵中前太守 率多 湘

魚遊 **萬餘人歸降** 用之言乃娶等更生之最也 **商悬民不** 苍中 度尚定長沙 知其不可久且以 能自通 朝廷不 淮 力 · 喘息須臾間耳今開明 反 聯題管明日率所 杜述 復相 聚倫 生 若

也此意食學

相祭不順

日荒

聖欲以文德服叛故道太守來思以傳蘇

下今 开幕

卷之三

3E -:

刑

罰相加令誠轉騎為羅之騎也身開泣下

其所提取介 拼食字如然 其管珍積皆盡猟者趙莫不涕泣尚人入慰勞誤 兵士喜悅大小皆相與從禽尚乃密使所親客潛

須諸

鄰所發悉至

乃并力攻之申今軍中於聽

射

百赐等作風十年有於女守今兵家少未易可進當

暗笛真有關志尚計級之則不職題之必逃在方宜

人概之忽极 美傷異志服 を赴 七少小 咎責因日陽等財實足富數世豁卿但 百合 看書 城屯陽等自以 何足介意果聞貨頭尚 八米に三 深固不復設備吏士乗銳大 動今珠馬擊食 三 人 不并力

其中是出其

特別のは上す **亦一叶之程** 牟 二十以上皆持兵動庫其小扇者悉使負水准 續為 直江太守黃巾 販夾舒 焚燒城 邦積發 牟續定前 易

男子 火

平三年在夏兵趙慈反靈帝以積為南陽太守當人 精復擊破之生獲暴師餘黨客係有從使就裝禁中 數萬人并勢力戰 都界平後安豐 駄 戴風等 作

火此王等作 小民运务率

水字相單行 **基備與今楚**

部曲與同勞逸威募雜種話攝爽明散購貨進擊

長沙零陵城及漢桓帝以度尚為荆州

刺史尚

躬

破之 降者 較萬人 往陽 宿城 深即下 陽 清鴻等長

不被人山谷尚前追數百里送入

南海被其三屯

多獲本貿

及科學性

B联下, 勘等當泉預

差 h

後

撃之 析

土本

廣慶 被 張

要意礼

楊春

間積十條年十二千

店

不

庚尚减士卒驕惰

子9-88

耳

质 Á

明

破 日

拟関於生於 字節首并以 民不 招旗 田東為南陽太守先時郡人侯音聚東為惠前太守 灰晚 武守清縣歲間萬定百姓以安巷路為之歌日賈父 交趾反置帝物買宗為交趾刺史宗到 附乃班宜政令侯民病利百姓歌服 **收其為與五百餘人表奏皆尚來歌悉慰喻開** 威言威依遇重百姓莫不容單京師遙遠告免無所 する 看 買琮定交趾 最後拜誡郎 田 使我先反今見清平東不 **荒散獨復往役蘇斬渠即為大善者簡選** 聊生故聚為盗贼祭即務書告示各安其資業 **豫釋四散敗** 人をえる 敢飯在事三年為

-· 1·

良吏

部訊其反狀

○職一、朝解散曹操者之。

之路

一時被據建之諸囚皆即頭自効即

相告語 其自

> 成十馬葉按 原士 別無從書本 別為之亦予1 **冀然之從他道引去胡見烟火不絕以译尚在行數** 房家散乱皆棄弓馬走軍追討 **孫將精銳從北門出鼓樂而** 庭旗唱鼓吹将歩 丁ム 看等 干無里乃覺追罪至馬城圍之十重豫密使司馬建 後蘭截歸路原益進軍去房十餘里而管多聚牛 田禄馬城破房 H 课料銳卒擊孔狄深入房庭胡人衆多 きんこ 騎 從南門出 起 之僵屍 雨 胡人皆屬目 軍俱發出房不意 <u>ئة</u> د. 载 地 往赴 一多軍前 z

都界乃康此周行侍童子

__ ٨ 親歷

縣

起瘦首五干餘級屬縣餘賊並請積為止言省其投

蒂辣莫不震慄乃發兵與荆州刺史王 叙共擊茲斯

然後乃進其令長食潔吏民良猾悉遊

知其 邑禄

状 闁

鄁 風 Ħ 飳

千古名言 计文字长息

入忠乃

選倡小旗糧盡乞降司馬張

超等皆

狱 進之

動善計之足以懲惡令若受之更開遊意敗利則

頂所以勸來耳今節內一稅惟黃巾造完納降無以 衙日兵有形同而勢異者首奏項之際民無定主故

眼鏡則乞烽縱敵長憲非良計也因急攻連戰不尅

当就也大则 紅眼前拳大 放身被 **咸混不少矣** 如此微固而 急之合樣之 |火若因夜綠燒必大點亂吾出兵擊之四面俱合田 軍之功可成也是夕果大風當乃約朝軍士皆東哲 四鼓雨奔其陳賦為配奔走斬首数萬級 栗城使銳士間由國外縱火大呼城上舉僚應之皆 吏謂曰兵有商變不在東寡今賊侯草結營易為 張角及部皇甫嵩討之嵩兵少軍中皆恐楊乃召軍 率三軍掩擊我忠余東皆潰 7 盡力攻之贼必棄城走即可擒也雋然之忠果走 |當光十萬乎其害甚矣不如骸團開東南||百百西北 乞降不受飲出不得所以或戰也萬人 備謂偽日不容降寇是也賦令外圍周固內營逼急 ٠, 八十字 鮑指陳被黃巾策 皇甫嵩火攻張角 へオニリ 一心循不可

耙

子9 - 90

必可申追 郭克以此相 北是調辛其 卒務級小平 主客机炮筒 前原不在我的信該日今賦泉百萬百姓皆震恐士平無問志不 馬夫人情好甚高夫人知之乎氾夷兒児經宿不歸 |日食自外入量可即食試與犬犬成光因是發催 正發問數日邁沿微赴催飲氾妻日催性難測今一 |計間之乃使其妻人卍府告汜妻日郭将军與李司 可數也親嚴軍無賴重難以抄各為資今不若商士 以席本光妻令二考董事於內方送入光欲食之妻 华不爾立為詞食中有壽妾將奈何汜未信至晚催 李催郭汜二人專權橫苍獻帝憲之楊彪目臣當以 北麦糖擊臣後大破之 | 一車車達疑兵若務該平監者而落蓮銳泉從小平 日僧於朝避汜家飲大醉歸夜伴肚腹攪痛甚委日 市各新華 散後選精發據其要害擊之可破仍不從果為所殺 界之方先為固守被獄最不得及又不能其姓及離 楊彪間李催郭汜 董卓分兵破黃臣 大をを目 : 將

甚此東非

西京等一首州黄巾联東百萬人兖州朝入東平 國仍依擊之

倉保不投之城我可不頭兵動東而取全勝之攻將 然前我不擊避其銳也令擊之待其衰也所擊接師 勿迫歸衆勿追今我追图是迫歸追窮寇也當日不 界疫散果自解去岗進兵擊之卓日不可兵法窮寇 何我焉遂不聽王國團陳倉八十餘日竟不能後敗 受害間非九地守者不按國今已附受害之地而陳 古今前第一人族之日 以待敵之可勝不可勝在我可勝在彼彼等不足我 政有祭有餘者動于九天之上不足者 阶於九地之 百戰百勝不如不戰而風人之兵是以先為不可 則城全不找則城滅全滅之就在於此也皆日不 其圖大業今日祭費及便教害我耶不如先之遂治 武中毒急取碳升准之一吐方定 把大怒日吾與汝 **赴陳倉嵩不聽卓日智者不後時勇者不留決速** 梁州賊王國國陳倉皇甫嵩督董卓拒之卓欲速進 兵攻催 攻我之所不赦非九天之就也夫勢非九天攻者 今陳倉雖小城守堅備非九地之間也王國 野時 皇甫觜稷急擊王國 枚 然

子所 首小不 能 其 敬此夫 者也於護於 不臣之注也 **片叉具夹单** 北與點從青 皇甫常上書讓董卓卓怨嵩及秉政乃 明卓雖誅之而不能盡忠於國遂復寇掠京色廢立 被尉因欲殺之嵩將行果所說日漢室微弱開整亂 干水 再以将軍之東精兵三萬迎接至 尊奉令討嫌 夜意今後将軍大則危腦小則因每今卓在洛陽天 不如顯泰其事使朝廷裁之於是上書以 凶害此極文之事也常日專命雖罪專訴亦有 不附大人今為元師使問成以討之上顯忠義下 京師唇亂躊躇不進此懷姦也且其內戾無親將十 合命節內徵兵華的袁氏逼其東將軍逼其西北皮 þ 魏不俱存卓被韶委兵而上書自請此逆命也又以 下倒懸能安危定侑者惟大人與卓附今怨簿已隸 使以兵委為卓不從為從子雕說萬日本朝失政夫 **再發賊王出卓大懸錄是忌嵩明年卓** À ì 新藝 果術說皇甫嵩奉帝計董卓 皇前郡說父討董卓 **人 塞之目** 7 微嵩為城門 弃并州 開 青 敋 扎

逆獨進擊大被之國走众

脚果也國東且走英有

間志以整撃

·鳳非家

宠儿

水停滿數十里點從壞下過軍而失堰比遙胡 指也當不 雅食是聽卓傷言捕魚堪其還道所當涉水為池: 野迷寺起 兵原州董卓拒之建 ·彩·董卓堰水阻追兵 贫 垣狭北

禹

羗胡所

ŕ

孫堅 孫堅智走劫賊

加遠

迷巴漂不停渡時六軍上隴西五軍殿積阜獨全泉

夘

匏里掠分 贾人斯行族不敢進 堅謂父 日此 了今开等 八 年十七典父共載船至錢唐會海賊 八米二日 胡玉等 賊 可 從

開府召署假尉 |得財物以還父竒之龢是

財物散走堅追斬一

級盡

部人兵以羅邊販狀賊望見以為官兵捕己也即

爾所圖也堅操刀上岸以手東西指塵若分

法分養堅脱續犯難

香泉之好可 光龍蓋以少 兵門雙近其

父日非

大為卓軍所及堅與數十騎濱関而由堅常著赤顏 樂學起兵計董卓卓造步騎數萬遊堅堅移屯與東

聖內職機為在及著之卓騎子逐及堅從問道見改

安幸也不明 青路技术 超氣階級於

子9-92

4 不動主英 **防遊師面景** ホガ亦決 放不得轉首 . 经最春期已 |孫堅| 周劉表子哀陽忽大風折游泉勒班師不 **快壓中箭威藥陽建安** 石伏云等林中至夜民公親圖松東南角學問軍馬 摩急引三十餘騎追公車騎前驅公引至散密度發 善射者從另公在衛庫以產規山自以百人上山至 題人求敢于袁紹誘堅出伏而梅之表乃以五百人 **具竟表日夜親星象将星坚地以分野度之愿坚可** 坚坚即與相見卒起執谷斬之 **教以兵付各谷心利其兵即将歩斬五百人前營名** 南陽散南陽大守張路使供軍糧谷使開各日縣了 灰丞一軍寒塵索巫醫病山川造所親白各百病田 干石宣應調發各遂不與堅欲進兵應恣騙之乃 統叛重近党是在乃去 里卓植或諸州郡单典兵討卓長沙太守孫堅兵至 ※副良計守妻 易妖 孫坚 假病做張春 八米ス川 ٠: 聪

田通下為以黃冠家問焼在囚欲草中草騎等見圖

以資圖策說獻取之藏從之遂起兵伐土蘇策乘勳察術家長史楊弘等將其衆欲就策廣江太中劉勲察擊悉虜之成其珍寶以縣策開之傷與敷盟熟新東擊悉虜之成其珍寶以縣策開之傷與敷盟熟新

本型無法 唐春日音受国命本鎮北土須遊除内馬米條須引軍避之與之空城水兵居陸不能久處必察東文康登於區琦城軍初到進甲獲水東以東兵東 原登計樂孫東

出長夜輕車藥板置江煎泉濫降

技術與定 之國而憲章 其自私自和 卓之进以此 有動王之念 **并 饕查**欲是 定调凝莫社 清軍分屯已 孔明灰燈间 **熟薪幣大麻** と用門所以 必先置原程 **机附船客何** 阿州先代聖 |子房內震動不知所歸此天十之時也諸君誠能聽 自以臨天下雖無道行之衛足無思今焼宮室劫天 |延前使卓聞山東兵起荷王室之重據二周之驗 莫敢先進操日奉美兵以詠暴亂大衆已合諸君 安卓留电洛陽送葵宫室昭屯河內卓兵甚強称等 **我盟主以操行香武将軍事卓閱之乃徒天子都長** 財起義兵將該卓會後袁術韓馥等來各數萬推 董卓後太后及弘農王曹操問行東歸至陳留散 起火火燃城上稱廣若大軍到策聖火路潰 |令多取柴薪兩東一聚相去十步縱橫成行令夜俱 10兵不敢使康矯求校於曹操登谷去城十里治營 |著無人上城聖形勢知其可擊乃申令将士宿墊兵 1 本 行業 方结阵不得還舟登親抱鼓縱兵兼之吳兵皆奏舟 **光登录房追斬以萬數策然與軍復與大兵同登登** 田命以報因乃問 之計都引河內之泉臨直津守成阜據教倉塞 西次旧黎明開南門引軍叛策營步騎抄其後兼軍 曹操定策破董卓 八年七日 門自守示弱不 血飛 耔 士听聲寂 何 紹 家

土實以用人 **景斗雄康州** 分言体状で **米安都計面** 不在心何為 不獨被無益 金是斯操心 **使加二まな** 松伯者似樣 生權線據襄陽表乃使越與雕季往說降之江南悉 人皆輔之襲取其聚餘即授部爾唯江夏賊張虎陳 衡等雖至無能爲也表述遺人誘宗賊至者五十五 兵集聚附南於江陵北守襄陽荆州入郡可傳做定 |仁義治亂者先權謀兵不在多在于得人術勇而 用之一州之人有樂存之心聞君盛德磁質而至矣 有素善者使示之以利必以泉來君誅其無道撫而 断代羽皆武人不足慮宗賊師多貪暴為下所忠 至矣吾欲微兵恐不焦其策矣出蒯越曰治平者先 表與蒯遊謀日宗賦甚強而聚不附袁術因之獨今 **桑蘇代自領長沙太守貝羽稱華容長各阻兵作** 到表為荆州刺史特江南宗賊盛袁術盡有兩傳之 了个行籍 不之建稿為諸君雕之選等不能用 以貫三輔旨商量堅壁勿與戰益為疑兵不天下形 **鼓大谷全制其股衝** 蒯越獻定荆州東 八歩えり 率南陽之軍軍丹陽 折入武開 枝 4

萨敦见犯可 不觉船外車 不知省奈何 林西川联北 聖州之野路 壓已要江東無主監子皆幼不能歷事乗此進兵江 保堅攻劉表於賽陽堅被射成蒯見因說表日今孫 日黃龍在後衛中安忍妻之足日舎 人冀州以田豐祖授分掌事務果盡奪馥權 何及飲以州事委之此謂引虎人羊羣耳菔不聽紹 我身息譬如嬰兒在掌握中絕其乳喻立可令斃奈 不足應也輕即遣人請將取武陳曰紹孤客窮軍仰 有劉備為之助長驅而來其鋒不可當東本初才智 人告公孫瓚令取其州虚言與之夾政 盛將軍可自取之紹日未有良策紀日將軍 百合行费 過人思布四海天下歸心不若請其同治州 之果興兵紹叉使人報馥荀謀日瓚率 無謀必請將軍領州事就中取之唾手而得紹喜從 一鼓可得若容策同養成氣力荊 良說劉表取江東 参えり 州 一無謀之輩而 之大忠矣者 燕趙之衆 **晴必典兵龍** 可除使 剘 兼

> |薄內值廢 止之際則忠義奮發單騎出奔則 取萬乘之土此大丈夫之為也表終不 哀移領冀州牧祖授就紹日将軍弱冠登朝即 祖投勸袁紹 迎駕 能 用 董卓 掎 省

斯功效宜令

的牧巴事实

更担惩益人 增天生基

上文法亦自

桥涛河面北則勃涛看首提一

郡之卒撮真州之聚

耙說報日大丈夫縱橫天下何待人食真州錢糧!

衰彩屯河內軍中乏食冀州牧韓

馬耙敷策取真州

宗廟於洛邑號令天下以計未復以此爭鋒 15个开幕 州之地收英雄之才薩百萬之泉迎大駕於西京 公孫必要震勵戎狄則匈奴必從橫大河之北合 * こ月 推能 М 玩 少 B 大丁

威度河朔名重天下雖黃巾得亂黑山版屋奉軍東

向則青州可定還計黑山則張茲可

絾

同聚北首

則

此一人一人以身还動蘇表聞後之間權輕達之則拒命非計之此至後輕好以身还動蘇表聞後之間權輕達之則拒命非計之 善者也授又言日今朝廷播越宗廟毀壞親諸州 對不定雜能無之此大計也若不早圖必有先人 定宜迎大等安管都都快天子而令諸侯畜士馬 外託義兵內圖相減未有存主鄉民者且今州城 州郡乘助萬計所謂秦失其處先得者王若迎 羧递為 日久矣今欲興之不亦難乎 且今英雄據有 之比及數年此功不難紹悅將從之郭圖等日漢 天子 ij

な着天真之

之言不行乃 副等見不及 **子知為至計** 灰形五尺章 **秋天子令韓**

木肚夕大計 以宽州為根 る貨物がと 女 助断事交降 数不易 是時曹未知| pic+k | 說也夫公孫瓚非袁紹之敗也今雖壞紹軍然終為 **終合核離及** 曹操欲遂取徐州還定召布荀彧諫曰昔高祖保 所分 之雄也必能與霸道繼祖文之功釋远而就遠如 |翻表見袁紹勢盛陰與紹通朱信謂表曰曹採天 家特騎還吾定紹且加兵岱岱議連日不決程显日 之方将其騎騎未至衛大為紹所被 卢人 紹所擒夫趣一朝之權而不慮遠計将軍終股岱從 語當令遭秘妻子使與紹絕別物方日若皆不遣紹 事范方符騎助岱後紹與費有除贖擊彼紹乃道便 劉岱袁紹公孫瓚和親紹令妻子居岱所瓚亦 朝之急至漢北之殺不亦難平表不從卒為曹操 光武據河內皆深极固本以制天下進可以勝敵 荀彧 諫取徐州 折排 朱雋勸劉表歸曹 程显勘對岱勿絕袁紹 、秋之目 Ξ 遣 有

Ŧ

紹弗能

Ħ

No.

地致党州蘇

退足以

堅守故雖有困败而終濟大業將軍本

ġ

河阜庫 部部別州文 T. 不可不取以 以上見吃料 丁見食州不 **逆非效无下** 以能被另布 经也非思查 分計陳宮灰 山東未定韓還楊奉負功恣睢未可卒制或乃勸操 山東優貳未遑遠赴舉難禦於外乃心無不在王室 稿素而天下歸心自天子棠塵將軍首唱義兵徒以 日昔晉文公納周襄王而諸族景從漢高祖為義帝 漢獻帝自河東還洛陽曹操議徵奉迎都許衆多以 以權一時之勢顧將軍處馬操於是大收熟変復與 ij 壁清野以待將軍將軍攻之不拔掠之無養不 不恭敢少留兵則後不足固布乗虚症暴蹇動人心 念父兄之恥必人自為守者懼而相結其為表襄堅 百本新藝 綠使城全條非已有且前討徐州威罰實行其子家 則有不足被也今舎之而東未見其便多留兵則力 使房不得西頭乗其間而收熟麥約箱穀以資一 |勝河也若不先定之根本将何寄乎宜急分計陳宮 |州首事故能平定山東此實天下之要地而将軍 戰敗走因分定諸縣兖州遂 賜十萬之聚未戰而自固矣夫事 荀彧勸曹操奉迎天子 八年之日 4 固有素後取 K 出

以示有 校中 __ 非点德當之 不如此報帳 贝成栎朴基 核不而減量 是可感频一 制日合志大 要是華華 三之哀談因此特奉主上以從人望大順也要至公 條何時何產 許或者率以 不可以 基于丸锡群 た万代 馬福 九驾事基直 |扇彩問日何以不殺布備日操好吾與布在沛故 互相吞併而彼坐腹販事耳乃送使回并以書呈操 肚操敢尚我兄弟耳備日勿憂備無此心與布飲別 此事容相議布開使至入質備客出操書示之布 競食之計於用其言格書至徐州備覧書謂使者 級令發布事成備可圖事不成布必投備此為一處 **弊須徐州未有詔命可特封備正授徐州牧密書** 腹大患何許除之荀彧日許都新定未可動兵令備 古各所等 劉備見屯徐州吕布後後小沛若兩人從中起吾心 皆没等輔助之力我所憂者術紹二人未有陰可圖 曹操逐帝許都乃與諸謀士議日吾尊王室位三公 |豪俊生心後雖ほ應亦無及矣 以服天下大暑也扶弘義以致英俊大德也四方雖 工容器員之 荀武二虎競食計 八年ごり ī H Ħ

> **供偿也必需 套铃州布数** 何以知布必 部者示以不 必体問者令 虎吞狼之計禁喜先遣人往術處文命使以獻帝旨 明降部令備代術兩兵相併是布必生異心此乃驅 有安即言備上表飲掠前陽地 而今術起兵攻備 促備政術布果竟奪徐州 ·--《葡皮驅虎吞狼計 備不後呂布曹操問荀彧或日可陰使人往問袁 .

ル上 肉保之 百人等華 呂布襲劉備取下邳備奔曹操操使為豫州致君是 八天二日 ゔ゙

程显郭嘉說曹操早周到

傮

使會操他去 衛投操政科 天在信息在 |姓除暴後誠仗信以招後傑舊懼其未也今備有英 數世之患宜早為之所操日有是然吾起義具為百 敵終不為人下其謀未可觀也古人有言一 日終

到情电小沛吕布敗之奔曹操為陳州 荀彧策弭呂布

牧期滅布

與其成大業夫除一人之惠以沮天下之心不可

張續劉表屯兵宛城議犯許奪置操怒飲計之 作及備且侵許都有或 日此易耳布無智見利必喜 又恐

敝

使百貫不殆 止正知已知 別從之不知 之部條順市 阴崩解面纹 夫別樣威耶 不在不從無 表火在沙奴 全樣別乗事 等用数 立然不敗 但之 正所開食財 并互清教有為後東其美可也不然将律所從豈可 接飲以親養華書院表日所雄相持天下之重在於 日必敗以敗卒擊勝兵日必勝公言何皆驗也切 目標袁紹相特於官渡紹求助劉表許之不至亦不 車雖勇亦非兼軍之敵故雌敗而必勝也 具後黄知必散紫院勝必引大将去以赴國之急後 料軍雖善用兵非禁動也穩軍新退 必用大新以絕 缅自收殘兵再追操兵大敗表問日以精兵追退軍 **今飲突何能再勝鄉日兵勢有變遂往必利表不從** 糖道之大敗還堺引載十騎更謂日急再追之繍日 曹操征張補有或報表紹欲襲許操即日歸張續飲 **超之賈朝日追則必敗劉表日不迫失此機會表與** 可加官賃其心已安又與劉備解和布必喜不思遠 一甲十萬坐觀成敗求後不助見賢不知此所怨必 **判情和共誠袁術布是以無攻劉備犯計都之意** △开事 賣期料張積勝負 **5天操送封布平東将軍侍賜印綬又出私書望與** 轉筒說劉表歸曹 Ë

以乃可服を 則節出方名 後以兵職さ ***RC with 此間之際是也宜先遣使獻捷天子務泉休長若不達熊東直出國之際是也宜先遣使獻捷天子務泉休長若不 B被 原於将軍新軍不得中立矣曹操善用兵且賢使養 ·益作舟船梯幣器械分遣精騎抄其追節令被不 爾之養兵情東惡發調之縣兵義者無敵縣者先滅 期及散則戰令以明公之神武速河朔之鼓泉以代 |得通乃表曹操隔表王路然後進屯泰陽衛管河南 安我取其选如此可坐定也審配日兵法十期國五 陳兵就如覆手令不即取後難剧也授曰叛亂誅悬 日远討瓚師出歷年百姓疲奪倉庫無積風役方殷 曹操快帝于許都袁紹飾精兵十萬欲出及祖授谏 で今野事 不從至子察果為曹操所滅 假背一點不養鮮用不復為將軍成也惟加重思表 天下将軍者弑歸之使為可也如其猶豫當至天子 刀追青諸操觀建虚實嵩對日曹公之明必得志於 歸之勢必奉都然後務兵以向江漢恐将軍不能與 西之後嗣此萬全之象也蒯越亦勒表表狐疑不斷 也計其者惠新州以附禄操必重得将軍長享而外 朋授諫袁紹及許 大孝之里 十人

*唐·卡克·秦士之 抱虚名者歸之公以至仁待人惟被心不為以名者以 **育四层正不** 騎之強覇機 郭嘉吉十縣 成事不在一 雇之二 班易爾鄉項之存 以及以親矣令與公爭天下者惟 或日古之成敗者誠有其才雖弱必強苟非其人雖 虚美行已謹儉而與有功者無所炫惜故天下忠正 蔡肯爭致死此武勝也紹憲世查從客節智以收名 士卒雖來其實難用公法令旣明賞罰必行士卒雖 拘惟才所宜此度勝也紹達重少失失在後機 **哀紹爾紹雅外寬而內忌任人而疑其心公明達不** 取吕布河北亦未易固也曹操日然吾所或者又恐 幼實之士咸頗為用此德勝也夫以四勝輔天子仗 袁紹民并河朔強益點曹操怒欲討之惟力不敢 斷大事應變無方此謀勝也紹御軍竟緩法令不立 **表征伐離敢不從 和之強其何能為操悅或日不先** A 才奉 荀彧論曹操四勝 八冬七月 나 公能

> 等不須而提 目保令若極以思德遣使連和相持雖不能久比人 能有一惟韓遂馬超最強彼見山東方爭必各據泉 紹侵擾關中亂差朝南該蜀漢是我 目標攻陶謙於徐州陳官說陳留太守張邈月今天 女定山東足以不動 鍾祭可屬以西事 則公無憂矣 ·六分之五也為將奈何或日關中將師以十鼓草 陳宮說張邈迎呂布 獨以克豪吃灰

有運此大見

藤之策不在發弱提生今既行士卒精練非公孫瓚

坐受國者也令素萬安之衛而與無名之師寫為及

係奉迎天于建官許都今舉師南向於義則選且

顧聘亦足以為人豪而及受制於人平今州軍京征 丁八 丁季 分崩英雄並起君以干里之東當四戰之地無例 人未之日 <u>-</u>

見越之楼的 料有空州者 習無與日布數於漢陽數不利於是哀紹使人說 **送迎布為兖州牧布旗襲賜** 在皇旗青晨連和袁祁

矣惜布非 陳官之策等

觀天下形熱以侯時事之變此亦無横之一機也

其處空處呂布壯士善戰無前若權迎之其故眾

丰足取

和能事餘井

橾

程呈日將軍何慮之不亦也夫袁紹據縣趙之地有 連和欲使操遠家居都操新失充州軍企邀将許之 将軍以龍虎之威可為韓彭之事今至州雖殘尚有 并天下之心面智不能濟也將軍自度能爲之下平

 $\frac{1}{2}$

本常有故思教勝獨高嚴在城可連夜進兵許為應若誘張人經常內核其本勝獨高嚴在城可連夜進兵許為應 鼓樂張遊城斬夾攻北走遇那萌曹性超南又遇高 灰間 關標即先入至州前並無一人須臾四門火起城中 城方可操日正合正意標至漢陽見城上過監旗情 四門放火外設伏兵雖有歷天籍地之才不能脫矣 服候城操手臂弱髮燒毀殆盡幸夏便消典章枚出 西門角有義字旗一面高順出戰即走軍人乗勢過 同冷其密使人往操言亦及恭民心大怒令欲移兵 待書大喜劉驊諫日布雕無能陳宮多計恐使田氏 布密召田氏行計約以城土白旗内書義字為號操 品布地猴陽曹操攀之旅官日城中田氏家童數千 用之霸素可成也接乃 三炭能 密書暗約初更進兵某自 不可不防當三軍三隊以兩隊伏城 曹操假奴欺吕布 記者籍をおなり 陳宮族島縣曹振 戦之士不下 再人 人卷之羽 止 以將軍 **滕門等語及期城門大** 之神 武 ٠, 外 收 賢豪而 隊

計准有様真 主奏則單有 其代之長獎 婦女助壯原 茂宥處不慮 布莫其林木 | 大便空 因很是師行 三軍以將稱注主表則軍無奮意陳宮有智而運及 伏次 謂諸將日布處伏耳可張疑以攝之伏銳長是明 則鼓聲大振正疑懼關忽後一軍掩至提伏盡起布 五十人以所掠婦女助壯軍聲使布不敢進餘悉出 |必來燒林堤軍出斷其後布可擒也營中留鳴鼓 引兵通操見操營左側林木茂密處有我即選提樂 **兵勿骸操軍退四十里而營令軍因麥為食布聞之** 馬陸進軍半渡伏英題布大敗 年後華之於是各軍中發安許言已成布 使人報呂布言語表布必來攻伏兵馬陵山 逐前 枚日呂布搏而無謀今三戰皆北其銳氣衰矣 日操自先征吕布至下邳布敗退固守士卒疲操欲 こる 音舞 陳宮計誘曹操入雅陽夏矣湖故回至案操 **子成者 十之七布走操送保定** 操交呂布於濮陽布走定陶操追之陳宮獨布欽 日布果英林四面寂無一人響應布欲入操營 荀枚說曹操語攻,另有一 曹操計取定陶城 人をえる <u>:</u> 即起兵自 中候其 日可就 才 H

南皮 尚兄 不可 青ん |本有氣之未復官謀之未定悉政之可 慶天下 胡恃其遗必不設備且袁紹有恩於民夷而 漢之間其無四方志可知袁氏據四州之地带甲 降請敢崇將許之荀攸日天下方有事而表 育操 **再紹以寛厚得泉借使二子和睦以守其成業則** 不足以察倫重任之則恐不能制整任之則備 蹋 順之心成 觀 観之 計恐青美非已有也表 H 力專力專則難圖及其亂而限之天下定矣此 灌城城潢生擒 葉州 失也 烏左之資招其灰主之臣胡人一 弟生存今四州徒以威附德施未加舎而南 **欲征袁尚懼劉表使劉備襲** :方征劉表袁譚與弟尚爭其州譚敦遣辛毗 郭嘉勒曹操悉攻二袁 荀攸勸曹操悉攻譚尚 操乃許譚和親遂選擊破尚後 非之四 (許郭嘉日 : : 動民夷俱應 箯 復斬譚於 也 坐保 公難 乃引折 Á 征 夘 威 府 天 Ί

河岸都沿出 **将不則必疑** 其自却攸知 M - / 川當侯 與越盡遺除 人之想其後 遊信年よ 支 触所将五百 **脚所處亦窓** 与先行员而 以雖為首其 進軍 軍以侍之可誘而致也若悉之其勢必相收操 然編以遊軍仰食於表表不 荀攸從曹操征張繍言於操曰繡與劉表 李典巴引兵伏閣外奪壺口 便幹乃令為先導自率軍萬餘前進忽伏 馬入見幹因問日曹軍 曹操 為用雖虚 古今新舞 難與欲求舊主改通自効幹未之信 大破之斬關頓及名王巴下尚及兄熙走遼東 提其不意無乃密出盧龍塞直指軍 **黄神速千里装人** 何報車曹據沛振自將兵征 翔令引兵直抵關下述按曹之故 與戰績悉表果故之 荀攸劉曹操級攻張編 引兵攻壺口高幹堅守不下荀 **祖豐論襲許攻許** 荀攸計取壺口 围 遠 私を町 征 萬重多難以 ·公無憂矣操遂 H 可被否職言乘其未定初之 能供也勢必雕 幹投單干 備田豐說紹 趨利不如輕兵兼 行 曠翔即卸甲 且云標多疑 攸 于庭房間惶 至易州 青 H 相 起 降 侍 日 不 有急運 將 幕日 不從 典 如 Ä 2 ふ 緩 尳 渞 f. 怖

荷兵連

p

P

未解

若舉軍

之見本初級就發有荷代 果我多法所 土草酰肼素 政所點打造 曹操之建成 若順日題 **危矣操逐鼓噪而** 森灰掛 操戴失利 袁紹 而勇不及南 敢获 紹不從 坐克也 之將軍據山河之国維四州之泉外結英雄 及飲進兵攻計豐以既失前機令不宣 古今新馨 雖多兩軍精 操亦畏紹裝許乃悉擊倘操破備精兵皆在許紹 其後可 起兵五十萬取許都曹操引軍 於奔命民不得安業我送 租投獻策 **令釋勝策微決成敗於** 簡其精銳分為奇兵 **简許都非復容虚且操善用兵不** 久 則 南 往而定兵以栈動斯其時 南軍 小被曹 Ħ 銀利在悉職若選延 卷之四 華 進 **銀而糧不** 不 紹軍管陽武祖 ĸ 袻 Í 乘虚迭 如北 駇 而彼勞不及二 帛 戦竊謂君不取 枚 日久程 逆之首 不 出 慢利 日北 從 Ü 便行諫 业 述 擾 妙 奲 香軍 在 揅 攸 進兵與 'n 河 ή 1悉戦 雖 Ħ 年 修廳 貂 内 人 泉 直 1

枚策解白馬圍

是书霸王基 木能之 不欲先退以 用青寒或但 操微引紹亦 終發. 以禁絕續 維 維 **不耐大喜但** 看將貧河兵 医体状的不 合社会之業 一条刑得首 曹操與袁紹連戰操保官渡紹圖之禁 德於 四海其定從 三也 **喜其左從二也夫有霸王之志者固將** 夏都道 袁强曹弱又與曹為譽從之如 兄弟不能 良可 **其尚其後者紹必西應然後輕兵裝白馬掩其不** 可操放較異有攸 古今非籌 曹操拒袁紹於官渡稱遣人 起白馬良大繁逆戰樂擊破之遂解白 或藏欲選許以引 **. 电夫曹操奉天子以令天下其定** 以少衆從之外不以我為重曹操衆 此 續然許之朝題於 稱謂 前或該曹操選 買鄉 厫 圳 說張 人民政 相容而能容天下問 操徒之紹開兵渡即分兵西應樣乃引 日若此當何歸 奉之日 編首東歸 東 郭 日兵タ不 £ 無坐上 劃 成日 原料 更 於 ŧ **今軍食難** Ī 期 請 招 白馬 飮 無 何 紹使 H 士乎藏驚懼 痮 須分其 好 朝 不 舖 引 繍 從 日歸 日此乃所 并與賈 妕 袏 4 權方盡害與 7 崩 A 從曹標 馬 (至黎 **勢若将渡** 未若楚 车架 其得 私怨以 也 誗 和 袁本 H 羽 陽 歸 規 我 窪 書 繍 何 挌 広 7 Ŀ Е 柯 萀 重 偤

穢

存

支出其不產 之 英重要整 - 令敵不備 乃有取依之 壁量相待島 則食養敵當 脊棋面是一 教女得全師 動則不見此 泰姓正謂不 典山 武陽 無阻 進取 必矣遂乃 枚趙 擊可 批言 袁紹 灰住卒為操所 大三軍 古今 **復要擊大破之** 武 路 躯 易 m 軍 折賽 典曹 富 販子好十餘萬略 曹操官渡禦袁 曹 彩乘圖書車 齊出直衝邪 **精操從之紹** 楊之故令紹 荀攸獻計分動袁紹兵 領止 自解也不還我能數其本 攻魏联介 髹 路取酸聚攻都都一路取河陽 鼓噪疽 隺 引兵西 解 標 到烏果時 八八湯 **葬等攻東** 不参える 相 持 天) 敘走 营北 伙 卶 果分兵以教操 日久荀攸勘 **糧草燒盡袁軍** 山 招 ji. 和鹫外分兵相政乘 漏 魏東 攻毒 軍 西安吹 武陽諸 述 ጒ そ 四酸操令 本 郡 動 ř 将請遠 曹操為東 倶 標 电 电房不能 留 無戰心東南不 可 賁 知 使 級 佯 散 東 賊 救 兵動 音 Æ 草 断紹歸 称守 闎 採 其 調 鄆 核 日孫順 即 'n 武 扺 奼 **灌木** 崩 易 武 西 冶 j 路 分路 園 動 陽 能 1

今亦知斯 北軍可上班 征到丧者以侍其受樊成而後擊之可 也惡之則相持變之面後爭心生不如南向新州若 通直也有郭國隆親為之謀臣必交開其問題 禪尚選報精將欲秉勝攻之嘉日食紹愛此二子莫 事嘉後曹操被袁 紹紹成又從討譯尚於祭 解聚皆奮擊貂兵所引還操伏兵次遇邀擊之突圍 路標大 呼日生成 |偽為切泰執紹引軍逸之比天明至河上操軍| 袁紹復起兵攻曹操程是月 古命新華 以 追商兵襲擊都運車大孩之 腚 邀之遂分左右各五隊先期 紹因病卒 郭嘉勒曹操稷攻二袁 都為地墨 曹操十伏背河破疫紹 人參之目 **微樂棒操縣於內為長聖以柜之又** 在此諸軍須威戰稽當先力斬 可退軍 **使定夜华操領許** <u>;</u> 河上分為 一舉定也操 陽 相 連 無去 + 克 數 楮

袁邦

Ř

許都曹操師

累察之

彩連管補遇官

濩

合

植泉灰惺擦乃為娶

若車聲紹接信破紹衆號日韓

採集不利選壁紹為高權起土山

射

营中营中皆蒙

疑此事熟問 王枚遣送不 除寝逐之備 外示解執以 奔想其時必 电易州旅作 川大ギギ 和背景下不 八十 無馬不 十年代前題 便有見非自 之 邪 故 犯 鼻 法有代交合 至一九亦可聞 前発に使献 不無之價合 有意二足心 美国所以禁 乌龙壳的 無下 易 民自 騎引兵下 楊樂之意也客之酸稱執與防 Ĭ |末有眼今衰熙袁前版心無依來投應東此最場 官屬相議公孫恭日袁紹在日 圖其勢然也即屯兵易州不進公孫康知二歲來聚 以兵加之後必併力迎我若殺之公務東氏必自相 万南 題教之述定 胃操民 破袁紹克鄭袁熙袁尚奔遼東諸将 備三根諸葛亮於草處屏左右起席 州 Ė 袁操日不然公孫康久畏袁氏吞併往投必疑若 ıjl. 新籍 邀意遂 諸葛亮厚興 除患且令曹公德我為永好也度日 佂 **曹楼般攻遼東** П Ī 夜 遊不如納二袁為 至百平禪尚果乎其州譚 魈 **供刀斧手壁衣申賺二東入斬之傳** 大きえり 郝 不然必無東意矣值得操果电易 Ŧ 策 助使作前罪恭日 尚有若遠東之心 前 17 Ž, 尚軍 対於 心自公東 勒進身 肵 1. 排着 H 敗據 李 公

奸臣獨命照不度無量力欲

伸大義於天下計

言日漢室傾

在表現例外 大 業可 生之言使獨擬要親日但荆州益州皆漢宗親備不 西川成為足之勢然後可聞中原也偏拱手納日 则 既帝室之胄信義者於天下攬召英雄思賢若清 立る 簡弱張魯在北不知存恤志能之士思得明君將軍 李之此是日夜觀星泉到表不久 £ 秦州百姓各軍食壺樂以迎將軍也試 命 有刑益保其險阻外結孫權內修政理天下前 十四州之圓此將軍欲成霸禁先取荆 新書 成 漢室可與矣言罷出一軸懸堂中指而言日 上將將荆州之軍以向死各舉益州之衆 人きる事 λ 世劉璋非立 如是 # 次 劕

以

若

陽宗降偷奔夏

П

重

Ŧ 샙 願將

軍器之保

Ħ

Ŧ

荀彧諫置九州

霸

曹劉不敢亦 日進 全差之地守先君之業以規天下何 獨表卒子琮立傅真說琮歸曹操琮 之人 順有失體强弱有定勢以人臣而拒人 傳異說獨恭歸曹 後必歸於将軍 矣 為不可 日今與

諸

君

摅

平異割

可斯

安出克答日自董卓以來豪傑並

起跨

州

連 那

一个新華 自料 黎曹操手则雖保楚地不足以自存也誠以 寒曹操 平期 偷不為将 何與劉備琮日吾不若也異日 冬二月 誠以劉

Ž 倘不足

備片

樣又弗當也三者皆短欲以抗鋒必亡之道也將

以新造之楚而樂國家其勢非當也

以劃

偷而献

壐

主逆

意乎益州險塞沃野干里高祖

因之以成帝業劉

之國而其主不能守此殆天所以資將軍将軍益

有

北距漢江利盡南海東連吳會西通巴蜀此用 而民間實能為之用此可與為接而不可尚也期 天子以今諸族此誠不可與爭鋒孫權據有江東國

為强非惟夫時亦人課也令操權百萬之果扶 數會操此於度紹則名齊而來寡分提能克

古制是為冀州所叛悉有河東馮湖扶風

接鄉自領冀州牧議復置九州荷或

日今

西

ήſ

幽·若 并·依

上正六門音 此典子易諌 之地也公前屠弊城海內震駭各懼不得保其土字

先 队

今若一處被侵必謂以次見奪人心變動天下

未可

更之不入天下咸知公意人人自安須海內大定

也願公先定河北然後修復舊京南脇楚郢

子 9 105 人夫

慢胃 生特 雅書巴昌中 北方公開力 有判别累不 日水戦 正子様軍不 儿, 未接壁等 曹操 者長江也今操得荆州水軍水陸俱下長江之险與 限 軍八十萬泉期與将軍會獲於吳權以示擊下 我共之面勢力東寡不敢不如迎之周瑜日標雖 石曹操被天子以在四方推之不順且吳可以 忧 臭之蟲强馬足之形从矣成駁之棧在於今日權 古人歌舞 偶兵發耳非心服也將軍誠能命猛将統兵数萬 电 |蘇上将且北方之人不習水戰又荆州之民附集者 精甲萬人劉绮合江夏戰士不下萬人 |州莫可當此然劉豫州新敗之後安能當此類平亮 謝强弩之衣勢不能穿魯衛者也故兵法思之日必 來授弊閱追豫州輕騎一月一夜行三百餘里此所 日陳州軍雖敬於長阪今職士選者日多關羽水軍 州的心同力破曹必矣採軍被必北還如 不濟此乃天也 遺孫權者日近者奉解伐罪劉琮東手令治 周瑜決策拒曹 八光二月 安能復為之下平權勃然 檌 曹操之東遠 此則 日 拒嫌 張 水

人長官科言

对有此之,到據江東兵精用足英雄樂業當橫行天下為國家 除於去職况今北土未不馬超韓遂為操後患 各漢相實漢賦也壽軍以 神武 雄才兼仗父兄 之烈 而

合鞍馬伏舟楫與吳越华街又今盛寒馬無禁草 士泉追添江湖不智水土必生疾病此數者

兵之患也而禁皆胃行之将軍擒禁定在今日

權

Ħ

君言當擊甚與孤合此天以受孤

巾

操定荆州命蔡琄張九督 剧输智欲禁羽張允 八卷之日 錬 水軍 厠 输 欲 卧 此

Ŕ

聲即

呼幹幹推睡

瑜潜

由幹竊起惡之只開蔡張

後曾有

他言乎其人

日江北

有人至

此喻恶叱

ī

Ÿ

牙车

スタンー

諸將而自迎於日子翼遠涉江 往說瑜幹至瑜與東将日此說容也附耳密 謝莫非與曹氏作說 嘱

善願

未得便會禁問諸游破東吳之策蔣幹得初與

和

都

督

云云数言後更低不可聽幹遂入

办

垣

喻

Ţ

棹

推

5

今新書

非担

剱付太史慈命為酒監日令 眾將侍飲日此吾故人非說客衆請勿 即欲離去瑜笑挽日既 幹愕然良久日吾與足下 無此心 之酒以致吾舊不 間濶久 何 故來敘舊 疑因解所 去之速遂

: 依至更深幹解不勝酒瑜後撫幹日久不其蹇

事復日吾自典兵以來不飲今遇故於

B

轻也

Īĸ

热何祖之遂

問日 幹問瑜瑜復推睡忽有人入帳問瑜 復惡滅燈寢聆含糊 **卒** 夜 書上有葵瑁張允 吾與誰偕 籍 圓之之語幹急將 抵足输 少垣瑜 本 寢荅日 鼾 不 夘 醉 謂 姓 雷幹起 同 2.各幹暗 蘇韓 幹日 書藏示 幹入寢 瑜 看 视 唇數 梅日吾 内 清之 儿上 故 喻 B, 醒 Đ 枚 例 不 悉往來 忽為覺狀 内 未嘗飲酒 否喻乍覺件 貧 能 賺 下 解 揲 图 害也内 汞 賊 北 状 作 幹 首 低上 偃

を 日 若 意為不能 採大怒惡不明尤問 喻又故推煙幹鄉潜還見操具言前事密以 而刻其! 睡 思克斯已飲殺之無都 瑜 諸葛亮取箭職周 軍者熟則 解示寢幹思天明見書必然漏泄幹 **斯亮日了此不過三日耶遇則** 對操立事之 孤之首獻 何 **時進兵** Ŧ 周瑜 車 珥對 ф 乏能 IJ 矣羽允不 軍教 Ę. 廿罪确真 Ą 未 青星操 起獎瑜 亮些 热操 夘

杰克亦於如 乗奪取箭亦

中和乃 以布瘦之密布江岸屬斯亮乃以長索連無乘大器 受前須史審接亮即四舟採知恶追己 **勝不敢輕此盡發水軍弓弩齊射前加** 中皇北岸曹操营進及金歌亦為在 府往孫奉劉亮即思肅接輕丹二十隻各東草 對東貴取軍 廾 因陰 戒軍 # 切常私保以 샾 **邴** 無及亮數 拾 物 影脈形 仲 + 귮

機吾不如也 周瑜計破曹操

得九萬餘以交萬轉送瑜瑜詢知

放大驚嘆日清

すね Ħ 林之門

其辞 江曆 曹操既得荆州俊練 飲就計取之遂以屬甘寧而若無人行苦 羾 消息難知遣蔡中蔡和 **水軍窺江東應瑜亮在吳** 許 降負探瑜亦通知 肉計 Ī

正新以孫了

養不

漢取張乃避解引罪日若二公能立功受科

闻首主作盗安可期乎若立有期事不逢

逌 ď.

Tr.

忽黃 之為上喻勃然變色日吾奉主命定計被曹有再言 月糧以待之黃益日屯糧久持終不濟事總不若降 日曹兵連路三百餘里非一 蓋自外至瑜以語蓋蓋顯行次蚤瑜大倉 目可被諸将可預備三 諸

降者斬益故以語侵瑜瑜大怒欲治益以軍法

中室

務瑜叱出會多官皆為盗請令左右杖之益鮮和

笑自者此可 生成之際語

內因為致密書接將東吳雅草軍盡以投獻孫閱書

引入見詰之塵懷養 进流昏 絕者數

一放青之縣

而明已與益恩循滑

四乃修詐降書令胸降斎請操告提

容仰天大笑操復則故澤曰人言丞相求士如馮今 纫 觀此我甚不相合吾笑公發不知 張目 大拜日此苦肉計耳左右為吾斯之澤了 ŵ 何不約日 讀兵書即通彰 問乎操曰吾幼讀兵書可賺他人能賺找耶既 A. 8 時開具兵糧多少益得無詐澤日尚 八六八月 君之無學耳 操日何為無學譯 人耳殺即殺耳何 3.7

į

弃回江 不在良久日若为為不可久停採賜金珠澤解不受 還望別遊心計者撰日他人去事必 通息通江吾當以兵迎之澤日泽己 中蔡和報益受刑事矣據良 ħ 諸人之上澤月澤等非為傳蘇欽 夢 項忽有人附係耳語孫 東悉語其故 益日非人有野群益幾虚受苦矣 取 久日類 書閱之澤巴搖為葵 胍 漏泄降再三解 離 君復回江 天時耳操飲之 江東不 Ħ 東先

Е 盏 本 大見翰作色日子真欺吾太甚前者念舊日交協際 可特無會可乘忽幹又至瑜大喜遊以審計校競幹 可特無會可乘忽幹又至瑜大喜遊以審計校競幹 可特無會可乘忽幹又至瑜大喜遊以審計校競幹 以審計校競幹 不開下。 然後选子過江也幹再欲言滿已入後替安幹在廟 然後选子過江也幹再欲言滿已入後替安幹在廟

別操還江東齊即令盗馳書報操三更為期隨以火之親又日江左英雄多然周喻吾為丞相說之後即

題之此至水管盗即推入船火齊發操急下小船

雅掃青龍牙旗壁水管進發復以取船三十

黃益動身未知何日但船上立青龍牙似者明

遇明主當竭力事之和即修書

八提津亦

者明益船 致提考云 ◆ 并 等

大きまれ

若有而心吾當介紹寧日若如此天赐也大丈夫旣

若以舟相 操軍疾奏者無葬正中操意標問稅親日大江 有良醫否樣問何用說日水軍多疾用 統同觀諸秦稅獎日間丞相用兵如神令觀所為果 **穀食不** 周瑜年初恃才用黎賓朋皆有退志操心無好即 **噶統許之遂連夜過江幹先衞言於操模見之統** 自述其狀日比公之才何求不得如肖歸曹幹 **傲賢減德是以寧甘肥逐耳公何人斯而來至** 前看孫 吳兵法幹意其必異人扣戸請見問之果 圖 沙生落風 也幹問何傑守此競日方今濁世處高 1 1/5 夫操喜同帳中與酒相飲稅乃伴醉言日軍中 雖風浪潮水復有何疾哉站軍 安偶廟後 配合排定首尾用鐵 放不息中原之人不惯乘 . 1 冇 至 山邊見茅屋 展連之下載程 数 j n 聞之音操然 丹致生此思 間 治治之 位者悉皆 Á 米上 之中 此 盛引 此幹 在登 聤 逸 H

-		供者確之 · 英	可存在事 阿拉克摩姆	皇南形势市 已知其偏况 额治攻县湖	
古 今新等	() () () () () () () () () ()	上百姓鼓禄侠操虚中两門令精致	我今夜必來攻我東南角上有新舊	下 及親自	走回許都
今新蒂卷之四終	大農	「人生之四」「中央行政、政策依保軍東南入伏兵並起操可構突務門令行政之軍伏東南屋内至夜但今西北	來攻我可监 有新舊處意 可以 可以 有 前	力親自請城 羅親傳	賈 郅 改 曹 操 表
		東南入伏東南	可监察城中 电影 计成分 电影 计 电影 计 电影 计 电影 计 电影 计 电影 计 电影 计 电路	停入西山	· 希 畫
		· · · · · · · · · · · · · ·	祭城中百姓 段作官兵出此废易入故於言西北以	親傳今西北角堆積土袋柴薪走入南陽城壓問不由程立之	
08037		三四 軍東南入 低兵 並起 禄可 椿矢 移之 単 伏東 南 屋 内至 夜 但 今 西 北	百西北以勝 見	土袋柴薪以	

是上計 展育的日本到 狼体中時未 **秦之何長**# 呼供自然介 **申**开砂念日 再三百人た 士元型計算 是指百之四 光道. ř 去将 傳給之即收斬懷沛出告東日懷沛間吾兄弟且将 湉 劉璋北征漢中雕統動 各代强兵掠守關 選精兵兼道襲成 轲 使 利於吾故行誅我汝輩無罪靈賜之酒令為前 璋懐沛開 **华新舞八人** 神 白帝連引剂 來見因此執之進取 其兵以向成 **紿以利州** 致大国解然其中 麗親 康蜀三策 水未 有急事回耳開治關并治 具料孫 觧 行果 權不敬刻備 有急欲還枚之二子喜將軍 外に王 錦文及父輯 州徐遠 隘開數減璋 都一舉而定此上 奺 軽 計印託言荆 佛日劉 騎至且陰 聞之此下 造料 堆昏 孫男楷行前父 男孤之長源父 男孩淖 任秦觀三願父 拔 計也 Ä 軍選制 備遂入蜀 一数利刃欲 州 計也若沉吟不 有事器書解 义 都此中計 建伙父 楊 素 之去 州 攘高沛 舒正 刺 僷 燍 軍

古今纤

壽卷之五

The second

以恭及於不 **計價地山炉** 龍美上北区 输不借地状 不找一是教 以宫室子女 农 五 不 得 日智謀之士所見畧同前諸葛亮敵孤 | 獎其耳目而分羽飛各署部曲使如衛 叛投 岸地以: 大事可定矣今很制土地以資之聚此 码人用者定徙僃置英盛鸡祭宫多其美女玩好 片 日本子事 心 不可得一而我也權果多與偷兵以禁操 首 Ί 耳 曹操征 惟欲與對循共取獨造使報備日張魯為曹操耳 忍蛟龍得 輸 孫權 表權雖有謀 肷 日劉備泉雄之姿有關張熊虎之将必非 偷 與對 備 既 被 曹操以 周 Ŕ. 備以所給地少 給偷偷营於油江口劉倘吏士從北軍者 麻竟系權徒劉 敢權必者之以禦我難解勢分備者以 新 荆 粉到筒 在位未為海內所憚曹公初果 州到 雲雨終葬池中物也惟不 **八条公司** 不能 備奔吳論者皆以孫權必殺 n 聽孫權軍 獨當也劉備有英名關羽 不足以容乃指權求 衞 周瑜為南 郡太守谕 東行意亦感 古俠與攻 從簡開之 三人俱在疆 刜 借數 州 侑 久 成 分 張飛 灰震 程品 奺 戟 届 И 郡

乃英五代共 **联奶肝筋祛** 原葡者恐白

海非北其次

危矣今欲取璋進討張魯首尾相 日規 為吳所乗即事去矣熟與佯贅其伐蜀而自說新 **十操無憂也殷觀諫日若為吳先驅進** 圖益州 劉 章不武計難自守令操有 連 未能克蜀 親吳楚雖 駶 刐 刜 有

E 漢轉運萬里飲使戰克攻取舉不失利此吳起不能 |弱足以自守張魯虚偽未必盡忠於操今春師於蜀 異蜀之利備從之答曰益州富强土地 滿 þ 其規係武不能善其事 ٨ 都未可與動吳必不敢越我獨取罰如此可以收 1 ÷ 二人きてこ 也操罪有無君之心而 脸且對璋 有

奉主之名談者見禄失利於赤壁逐開力品無復 盾框於操使敵承其除非長計也權不聽遣周 於吳會何肯守此 志夫據三分天下已有其二將飲候馬於治海觀 坐須老乎今門島 無故 自相攻伐 瑜率

孩

荆州羽已入屯襄陽三郡遂皆屬備

贾娜堂書校馬超

古今看舞

人兼之王

首標

赤壁戲敗遠許昌令曹仁守

荊

州 南

那夏矣倬

禁南郡備自住渥羧權知

簡意召称還

諸葛亮計取三郡

失信於天下也使觸羽屯江陵張飛屯 永軍屯夏口備開輸日汝舒取蜀吾當被髮入

秭

歸諸

蒋亮 山不

> 迎是个夜朋 諸舊取二郡 法案行政所 |速取剂州炭氣裝裹陽然後歸奪南那不知亮 出時傷為曹軍檢進殺矯早定之矣喻知大怒便軍 兵假稱曹仁兵符求救二郡二郡方發兵飛已

着戴瞳手取 **亮智却光 一** 林田之才的 守

州

乃祚 瑜至即出戰佯敗瑜人城伏起大敗臂中前瑜 万戶襄陽吳兵不追欲入據南郡則亮遣趙雲乗 矫守城比至異營仁中伏敗急還南郡甘寧掩至 衰 稱成令軍中發丧仁間信之悉架切異替令 閣羽張飛分伏三郡近處以觀變仁在南 陽周瑜乗勝攻 甫 郡 諸葛 克 勧 劉 備 电 油 回营 郡 ĭĽ Þ μ

馬相交按掛殺舊操並無一言及軍務言畢拆臂 矣適遂 向操操使 謝須分論調兵及防以備其許採開之謂纲 可被也樣遂被允超得書語送日操雖許和 入見日兵不嚴許可偽許之更乗問令其相發 **胃模與韓遂馬超風於渭** 中見者以狀報起 人請遂以華騎會語各葉甲 繭 超問操何言遂日止道 超使人制地 **求和買** H 好雄 伐 兩 撃 難!

入屯 巴將 不顧何牛馬

取牛馬採乃得渡

曹操虚立杨輕破幹送

超追悉恐傷操送罪寒牛馬布滿山

野超兵見之爭

射

记非為起水 称門 伟 沒其歸路丞相運發河北擊之兩不相應勢必危矣 曹標 徐晃日今歷兵在此 Ľ 센 古春香等 一人名公正 兩挺則生亂互相間謀必擒超矣操從之超果與迷 何言之超心疑操還管明日機雖妙未足令其相 p 致遂超知必索者遂與之見必疑不與見則更疑 明公若親作書故朦朧字樣於緊要處多者極寫 往事 拳馬超干潼關敗歸營連日挑戰操堅壁不 Ţ ·斐蒲 İ 津放牛馬波曹操 超日安能不言軍務平遂日 巌 彼

動

亦全部屯關上不復別守 浦

事惡負據至府超追及岸府已在中流超令聽將选 追晃往據河西為营禁自潼関欲北渡河前隊 操矢如雨下許福舉教遊採時渭南令丁斐見 超等奄至操稿在南岸坐胡床不起張部等見

暑偷

纂難立退選漢水西兩軍屬水相拒諸為亮觀形勢

使

举先後著牌 非進知不可 **再进而玩迷** 立管故思為 模道却不利 禁起甬道限兵甬道外内虚作旌旗 以為 疑兵 更治

不言吾

日標 西征馬超自潼

關後河既登北岸命諸将循

超日操今渡

河撫壓立福盡河内以兵務之韓遂謂

河意務襲我可速攻之無聽其案成成則難期矣令 操守寨遂自将兵五萬直抵渭南操已先令泉将於

趙兩偽誘之人馬俱陷遂大敗走 郭淮漢水禦劉備

百合新等 特度漢水攻張部諸縣議依水為陣 備斬夏矣渦魏軍擾亂郭淮 へきえま 收散卒結營明 准日此示弱不 Ħ

足挫敵不如進水為降 取漢中至漢水曹操亦引兵爭漢水 既陣佛發不渡 諸葛亮漢水疑兵 引而發之半濟而擊之備 趙雲恐孤

兄漢水下流有土山可伏遂命雲以一軍伏山下 之日或夜华或黄昏吾寨中砲響為號可今軍士 **州鸣鼓切勿出戰犯勢一番即鳴鼓一番又傳令** 曹兵推發案內畫數代定不許一 出亦不許發

P

固

其 H

傾而歷之無不克也若少緩之諸将亮明於 **汽對人未附也今做其中對人震恐其勢自**

泸

每点主庆不 合性建装丘 東党不行立

内

應權遺遙討棧棧支黨多面住兵少遜乃益

|守要則不可犯矣謀不從居七日對降者說蜀中 |西海為相關於張乘勇冠三軍而為将蜀人既據險

日數十萬守將雞賴之不能安操問

赚日今可擊否

日今已少定未可擊也乃還

司馬懿康取東川

·操問劉備自立為漢中王大怒日報第小兒安政

操進數以裏 既得 多曹兵船龍發恐切察及至出进不見一軍界軍 する 澳中益州震動進兵路之鉄丛尾解標日人 別兵道三十里而屯 其佾定軍 房到璋蜀人未附而选华江陵此楼不可失也比 失 **砲起鼓鳴山谷響應** 牙卡 人權務 **黱復望蜀耶對脾日到简人** 司馬懿劉曄勒曹操乘機及蜀 漢中張魯降司馬懿言於操日劉 士就宿乃於起歡砲漢水邊趙雲全鼓 A 一八年七年 FI A 華亮 Ŧ 曹軍徹夜不安 更深滑 傑化 曹营歷 似 有度而遲 備以 火灼 此三夜 苦無足 詳 灼 得 킾 方 齐 力

面遊於歌山 潛師定收於 先人前位言 部督會丹陽賊神費棧受曹操印經扇動山 以圖達可大部伍取其 百个新等

人をさエ

精氣權

納其策

以為帳

ŧ

非來不廣而山寇舊惡依阻

深地夫腹心未

不事 下

崎新

狼

開星

克

散

廖负司馬懿日僧易擒也孫權妹家 通惡冷權典兵先取割州與開羽相持衛於 江東有切南之等本若造辨士往見孫權 我不減到誓不選 林 即起傾國兵及 劉備今已分顏 澳 刖 以

北見茶基準

制州主上典兵攻漢用則衛首尾不敢勢必危矣 . 遷上書係權日方令英雄綦 臣逐被身長 養兵以 陳紀備

勢以 法正說劉衛日曹操一 其智不建力不足也必将內有憂傷故耳今策湖 荡除所遇肅清還电無湖 伍東三郡强者為兵魔者孺戸得精卒數萬人 **幢分布皷角夜潜山谷間鼓噪而前應時破散送** 圖巴局而舊夏矣淵張部屯守身遠北還 法正說劉備取漢 **翠而降張魯定漢** P 礻 此 宿惡 K

越

作

施 Æ, 瓜就易料早 心其主教也 五散食具不 U 锌虚剂 粮于类城 **兵空僕幹結何也 見家無病容爾蒙日討房以重** 廖將軍之疾蒙問 正公 新華

得度中斯蜀 兵攻 東積衰觀暴何除上可以順覆寇敵等獎王室 才暑不 馬嚴肅迷推索不起遺人報 等守隘口防夷兵沿江上下高阜處置烽火羽自率 以煮食雞凉廣杯境土 羽 此天與之時不可 守荆州欲起兵討樊城恐東吳窺襲遂令原 樊城孫權遣呂索取荆州索至陸口見荆 **陸逐獻策取荆** 唐 国之將師 外に見 學架 失也備乃率諸將進取漢中 Ŧ 可以固守要害為持久之 征 權權令陸 討 斯 必可 避往視之 克克之 州兵 日度 中 芳 P

度伏之足以 甲旋嗪因鼠 **建世界有数** 乙肝以塩酸 一班基則在 開東一何也 **医慢费我**老 **表建亦有继** 曾遂分兵三路進然見大光令崔禹引兵核之蜀伏 |兵衛發劫案使人報桓關興於路中截吳糧 |然見火起必核乃設伏擊之衛用其計然果 備飲 **坠贮뼭吾烯路莫若先令人詐降然以刼寨事溴之** 耶烈自率諸軍伐孫權權遣孫桓李異拒之異 兼虚切之渴習日孫桓雖敗朱然水軍尚在 骨許破孫桓 得蜀 殺 敖

光宋人图 [-

便期荆州可得矣權從之 大任而未有选名非朋

肵 Ę 當令

外 Á

転 脚内察形

不用各高者

張原 於超 張飛拒之諸葛亮日馬超西之虎 馬超為曹操所敗投張魯魯遣超攻葭前 臂目起不至而松潜之鲁 基疑超超知鲁疑必生 迻 **依至避先設刀手以示威召恢入問** 松隨聯魯巫徹回超超新附未立功必 開愎自用謀士楊松貪珠讒諂可造人多齊 惟而能之起可降矣倘乃造西川降将李俠 请 為亮用剛 牧馬 超 **指非力可擒東川** 闢 日汝來 不 έp 톍 遣

下囊臭不偏

蒙日陸

越意思

京長村

堪負荷觀其規處終可

無備用

族 Ŋ

精師沿江

以龍計襲之利州在掌握中

辭

媚羽

矣蒙密表權權乃露敬召蒙歸羽果不為偷權問

乙酰皮 後長 神以虚其舞

展沿江多誉平羽自侍英勇料天下無敵所處者

| | | | | | | | | 遜遜日

视遜久不語

在付

: 將軍

不 乘此

動

豎生橋 再桓引軍走夷 庋

古今开幕

人多艺艺

將軍之病

得無髮荆 遜日愚有方能

州

蒋

耳將軍乗此横托疾解職以陸口付之他人又必

騎其志羽必盡徹劃州兵向樊城矣

Ĭ

之 降

19 19 到偷 |克下車走任追之過橋劉備軍左嚴旗軍右任知 |是之笑日人言壳善用兵徒虚得名耳遂挺身取亮 将也不得此人则雄城不可得力設伏金歷橋自乗 **厄軍趙雲巴將橋亦隊矣任不得已** 既取治到璋惟使張任守雄城諸葛亮日任 諸葛亮計取雄 輪巾那扇從騎數百遇橋與任 伏齊發引数 十騎望東小路遊遇張飛送 放 封 衣 量而庫 南則

中

任

健

忠等有失先通劉封孟達伏北山下以為聲援忠至

北山亮陰道趙雲佐黃忠夜越漢水鏡之又

瑟

夜日到偷瘡賢下士必成王業公何不背暗投明上 面兒天下平超俯首沉吟頓首謝日公言!良是也依 海擊客一身無主若再與兵潤橋之聚冀城之失 以遇益州之兵後不能解楊松之諸罔張魯之復 軍有殺父之仇而脫西有切齒之假前不能取劉 能加吾之頸將欲自試耳起問何開佚日曹操與 即講試之依日將軍之縣不遠矣但悉新磨之甸不 教父之仇下立金石之德高名傳之萬世平超送 日來作說客耳 超日吾風中新磨翎汝言不通 Ħ PI I 璋 埃外市二里 一件オ及保 耳再 |請寫亮達黃忠取鄉什李康迎敵方戰亮 劉備取漢中標率軍迎之建張的運倉山 如不 運開鼓亮日嚴材士也不可力取當出奇兵勝之夫 **亮引見獨厚待之嚴復說觀降備遂入縣什** 所猜 降兩下弓弩伏發飲與士元報響嚴不得 最忠領計詐嚴引嚴入山谷亮自在山謂日公 諸葛亮計兒北山種 請葛亮計請李嚴

越鳴

金

超於此等不

為伙

į.

A 折语

人男な主

対操雖知集 奇容典不見 合卒間如此 大開 因重 封直建掩至操奔南縣 段 落 漢 水 者無 筹 忽 望 北 山 下 大 大 起 糧 草 畫 薨 劉 内伏發正不知節兵多寡樣回馬曹軍湧退自相 北山見米如山積方祭奉火而部軍忽至忠遂接戰 錦立寒門外曹兵至疑不敢動雲舉第一 暴門盡出弓弩手伏蒙内寨中偃旗息鼓雲单 圍雲力殿林出雲殿後操自引軍追雲雲遠 1 1 揮

糧

*

數

萬

ť.

古今有等 人名

屯

好如衛 原室 无针巧矣面 九之意教作

名譽

諸葛亮 姜維 夜 魏 就 園 計 南 敗 安十日 趙

不

Ť

И

闁

£

茄

B

ř.

連

子餐提一青

粹

故其間行修 三苯不相同

英亮

因

播

100

維

И

集配

野

城中

苦

. 令

Ĺ

持

Ŧ 좎

ķ

松素不 節

助使恐信二 也詐其恨難

押

甜天水 水北極安定亮遂詐為夏矣懋書遺人 遵求救遵信之姜維入見白此 為 悬 ~拼發

芝計耳 此必 Ŕ 見太守馬 安久 蜀兵祚 困 標 安得有 魏 將 僚 人從重图 太府 出 炦 中 朴 崩 I. 城 P 楮 柄

乏太 Ž, 設 府 伙 發兵聲言杖 乗 勝也遵用其計 À 取 天水 懋勿 矣稚 売果 得 請 遣 速 Д 趙雲伏兵天水 去但見 五 千 軍 丈 先 起即 伏要路 方 還 Æ 欲

攻 7 岥 ٨ 忽火 新祥 光燭天艦 外にま Йŧ **T** 掩 我「 3 并 大 败 稚

不顧問維華天本也執例 種技士 宣布 所踏五句出

水上街便

(水之彰)

維

今計事

きえる

迎維喜

总衛至送問

維 **H**-

瓦

天 約 Ł 坡

1

1

帶

40

車

фю

杪

縆

俏

移移發標

實籍

貫

箱

個 **₽** B

[4]

應不

何不

//C

鄮

袮

噽

徱.

ر مَــــ

陜

伆

加克之永久

兵弊者騎放

一之可

Ł М E 城上旗 伏亮 **医肤亮丛视來维** 到 微整序 截之亮見 未敢 料売報 套 整 敗 攻 果自 我 **候玉牛** 軍在 B 前 城 夜 部 大 引 中 4 光 軍 四 Ŧ ij 天 分 赴 嘁 k Ź,

若 女 炷 諸 Ŗ 奠日兵不 死智養姜 在 参 椎 页 似 天 £. 調 木 進 真 艮 將 也 東次我矣不 军大震城上

亦及

ķ

相

應蜀兵大亂

亮同

看

火

光

城上政策原

諸尊免攻天水為姜維所困亮 陽攻擊推 運 枚 퐞 奥 延 7.知維 Po Æ f 4 在 朲 ¥ ሔ 乃 椞 遂 Þ

> **奇也放您於** 實因奇也誘 所告选便說 後信三哥也 維而以言名 推奪技能不 緑目之言な 無返理制機 厚有再想情 假排攻城而 此 £ 奔天和 睛 亦 不 何為不降乃下車 솱 万望長安起過愈 天水 謂

邀遵假之亮復攻鄭真乏食亮 及

地 黄野兔乃 嘋 · 文間流言 **释於遊而故召夏矣热使翰維** 鄁 Þ 乃 桦 投天水見馬遊具言雄已降 率架 灾

拠が撃

訴

※数至

誘 扌 翫

維果奪極亮遣張翼邁擊無 維煉 e. Ė 以箭射 而冷魏 故進蜀 <u> 1</u>0 Ą 椎 £ 奔 Ã 運糧 棋 Ĺ 募 御 IJ

擒懋亮压干 ·亂矣城. 梁 淵 M 箱 軍易 尹節校 納 , 完亮述, 中 得書 御 分 Ą 将 Ŋ 至 緒招 難 呈連遵以 厚c 常以 來 失 降 宿書 悉 Ĺ

掃

欲

稅 þο

射

城

御 妒

亮

失 或 根

舞 問

舻

諸葛亮 請 伐 葛 魏 亮智取安定

笑之 Œ 遺 幹 計 夏戾愁敗 自 者 詐 在 為 城 想 下 走 堆 入 将 裴 柴 南 精 看 Ŷ 草 趙 飛 號 騎 雲園 吉 **唐懋書稱蜀** 之不 烷城 从 下

亮

便·in是城大

乃密

髲

城中人不会 有意一時報

皆

子 9 117

死叛安定正 更新正字之 兵建 吾兵 開門 諸葛亮既降崔諒符以上 遇亮典苞题至不得已遂降 怎前後 枚軍 從小 去亮义鳴日關與張苞是吾親 裏先殺之待舉大開 軍齊人亮日此易事足下 膫 摘夏於懋醇華騎見陵具以 則 喬天以南安被焼速 報 東 者 Ħ 表 H ħ, 弱 假裤安定教 諸葛亮智取南 羑 教 Ħ 應可也諒暗思不携獨兵 軍人城兢中殺之訴 延先期 路水戰得脫奔還安定呼 喊聲賽振諒問 拔 天水巴出兵 Ĭ 馳 人化之五 仮 楚 往安定 作前 軍 **客交覽印索騎**聲 以安想心 携之人 安 急催 Ħ 之則關與張苞也遂 督兵進解 A. 軍滕人 見崔 有別 因 但恐 放往 Й 楲 胙 依 伙 有兵 計 據之矣忙投 京 旅索文書 殺免計之得 告 欲 有 將 ÷ ħ 周 愁乃 版 įξ ŗĒ 先婚 安商 **克艇惟** 入前 Æ 認識 天水去不二日 府 數 者城上 以 † Ji 郡中 俟 Ŧ 陵 詐 E 夜 **於** 降 以 安 五 須之黃昏 進見 者應 携之入 4 内 告完 說 引 + 紿 下 鉄 天水忽

楊

F

捫

為

不 尃 4 汞

百人

岩聽著有

Д

有重

賞

雲乃

以壬人

自動五

ሽ

去

仮

兙

職

蕞 ŧ.

庾

愯

之去日

改非吾敢汝歸速勸範降

今貫汝應歸險與

能

散

詐降而令

範圖雲藏已定

遂

双

五

Ī

雲

知其詐故為喜慰醉之酒樽

而

ŧĵ 夢絶 之召

> 夷 人

俱 斧

亦赐酒食謂之刊詐降者

陳

龍也不 肵

Ŧ 來 医虫攻

柱

腸

太守趙範欲降陳應

出

戦

被

檎

雲

獲

非共享的政 非石冰與快 作品之子芸 **棘下馬典** 芝開日丞 在城邊迎 先射響城中不 入 吾 柦 見火 相 即上城 **蘇與手起即所後門下該悉奔吊橋苞** 何 Ü 起 但唐得死且 夘 P , 献辞也 貌 X 橋松部同 **亮日於其** 并得關與張苞於是 典 等 İ 舦 ٦.

人無降心 城下國之城中必 乃 京耳 之何難又令吾軍 抒辞 裄 趙 忻然同往 故復 雪 大きえる 女使 智 取柱 使 ì 易 恐吾疑也他意二 城以試真偽必 舉火蜀兵齊入王忠當先擒懋鄧 將以安其心彼若與心 夶 無準 有託放心 傋 吾何 益情 析 進 桁 Ħ 吾巴 後 同 東降知之此 告愁吾欲 徃 降我 便 上赚人 胼 λ ŋį; 此 城 戴 熬 蓀 縫 出

計面

當

行如

散 徐

Ŧ 單 火 從

度 自不足 洪 東自不足 洪 首能率以作 不定也故 教抄後者必 受前军之故 坚守 尼先 彼令 張邡 人居前 進封 义棄案 與告追之忠棄察復立一 堪食飲兼無薪圍 察直入人不及甲馬不及較盡來甲化走忠更 道 之於外長安唾手可得 ş 古戶折譯 城 ė 1 超 叝 攻 議事城上 随者建泉軍 安輜重耳至夜忠知 **死開之道劉** 令魔兵入寒收拾糧草大出迎戰 出兩軍夾擊的大敗曹洪進夏矣 蕉 泛 德率敢 攻長安鍾蘇堅壁 日泉力田矣可 黄忠守葭蓢闢 葭萌閣黃忠嚴顏 超 Þ 走部日忠 退軍取長安 # 趙 老二五 望見果所建正百軍氣 範 夸 封至關忠笑語封 建退得無說平 - 灰士十人雜入城 十月 Ħ 婚息手忠日不入 Ħ 陳 i 办 不 超從之述得長安 鲍 寒火 Ł 柜之忠與節戰顏 1 尚等已愈 戦 兩 困不如暫退彼必 龎 **將軍已殺** H 德日城 ŕ 青 天 乃 日此寒吾 不 內為應将軍 崩 思加 p 多山 清叉 虎穴安得 41 標 偂 ŧ 述出雲精之 植 雲請 北北乃 놙 木 韓 退走 嫌甚 ጉ 攻 告 遂 暫借 货 級兵 太守 棔 M t 關 來 竏 間 È 偱 尚 援

在 渠 張 所往答 親之則一 逕 祁 山上 仗 探 寨 覘 將 飮 路襲之送奪尾口 國後 矣素遂令題延 路與尾口 ゙ 我文漢中張印非之 ۵ 酒不 ö 酒列 Æ 忽見數 巴為魏延雷同 先季乃退 **4**17 ŧ 諸屬魔木門道教張 事業 劫营至營見飛明燭端 解 飲酒自若相拒五十餘日 発 蒼溪從样 日某虞中民也欲回 之日飛大斯我傳令乘月 **業** 頭一 ž 草人耳部 . 楼前命日與軍士飲之令 報諸萬亮聞之以 計 一へまえ 人人各 飛即嘴 關相去幾 熑 / 張 郎 电量石飛知部 於山僻處攀藤附萬 蔖 山出槍 急 j., 魏延雷同各引一 前 何 Į. 的兵三 飛後 往 E 坐部 美酒五 灸 撕 M 女 4 ì 闘 午 掩擊 萬分為 Ķ 在岩渠 飛刀 大軍 後 產 菮 Ł 骤馬刺 Á 山 þ П 明引 徒兄 + 選 部 還家 就 率兵攻之郎 精 小 而 闖 軍 麁 Ξ 奔蒙頭 走 蕠 寨 騎五 飛月 飛飛小 為左右 山前花 烙 釖 Ŧ ű 人撲馬 飛 作 Á 出 Į. M 從 , 即 尾 Ā M 冏 + 泉 Ŧ Дij 电 從 猦 岩 뒭 車 H! 中 Ĭ, 石 紐 蒯 戱

小石 其近口 定然馬陵非 大好學面行 立族媒質歷 是带支致差 既使吳兵局 蒂旌 是恭與艾名以二萬正兵前進雜知之乃留張翼攻 城夏矣霸迎恭維自歐艾至夜三更兩軍齊出維 為之勢但候兵來一齊鳴角張髮夜則以火勢之於 教之與鄧艾先橫二百五十人為一限計二十隊多 姜維伐魏王經敗走入狄 |門迈中走忽山上水石滾下歸路已塞萬弩齊發 扑 1 4 纤维 部追至木門道口延頭屋弓箭盡皆墜地對兵望木 之部於林木密茂處探無伏兵縱馬前進蜀兵道 |面通掉旌旗城中胤堆柴草處放烟火蜀兵盡望木 |液下木石棋其去路然後發箭齊射 計茗 近乗金鼓與楯段疋什物等件填塞途路巍兵爭取 西川冷思忠引弓弩手伏劒關木門 忽李最密書根東吳與魏連和魏使吳取蜀亮乃回 数 道去懿開大喜日此必東吳有消息也遣張郎 旗金鼓日伏夜行出秋道東南高山澤谷間 原泰計解伙 百騎皆射成 亮 徙 親王平曾 一八水工工 淔 圍 亷 此 道城維引兵圍之陳 Á 往 爬 Ŀ 之又於 道 XI. **ブ** 魏 麥

祁

素 欲 兵進至急

, 核上

ß

ŀ. 搥 'n

充軍食

庚為 前為毫 屯那山會真與孫禮退蜀兵禮 所為亮因賜之金酒衣服廷 張飛 延連呼道祭往劫亮泰軍行不過 火邊亮軍即退延與道樂急同火光未滅寒中突出 人各東草一把一齊無火火焰 · 來輸之必矣延依禁計至夜三更果有一車 日可維之行道禁回寨以實告延延日奈之何 日軍師尚放禁四自巧言說之今夜軍 暴祭為內應若擒劉斯勵度自然降矣備 諸葛亮計構那道榮故令劉 不數 出 可因計構之今夜將兵伏寨外寨中虚立旗 道荣汝能往為斯廷否道禁顧往問何 e 都守廷随荆州辦事 刺外道祭延被飛擒見亮備言道祭之計非延 諸葛亮紀計破孫禮 行有 里 漠 諸葛亮就訂取琴 忽烽火 人巻で玉 满 Щ 維馬上見之以 倰 回零慶說父度降復 傳 燒空延祭兩軍殺 欲斬 Ż **為魏兵至棄扶** H 十里趙 渖 叉 **苏於**加 枚 Ą 計以擒之 4 不 調兵劫 粉 雲 儎 道 퐃 并 Ц 至 寨 . 桊 亮 Ī.

|傳令休追 取朋经细看因此 後無疑文於然出戰方一合斬則馬下雞軍 命法非降我就中軍事今且後汝久次可修查場 助汝何故語百文即轉語因此期弟也亮日司馬 动暴汝前為內應民懿就擒教於文不修己即寫 特詐稱泰朋請當挑殿 請為亮軍即山司馬點故造其將鄭文降亮又 **外使軍遇即出散之馬路交軍住孫禮以為劫糧來** 丁二八年華 火應之蜀軍郭從後國暴難兵殺成無筹 · 曹内抄首以前明蒙見倚伎夷乃 审進善舞者以 諸葛就計役泰朝 人养石王 · 是日汝既牌吾必 左右斬文白我 先斬朋 便走亮 自幼蔵 鏊 整 伙

其矣 不但分

可留以

便

我

取

加加

堪唯唯而去夏矣霸日恐王难

看明尾以旋其心然後明言讓明以得其實耳帶武藝必不下於文文交馬斯之則知非期吾故翻耳承接姜維魏延兩軍夾擊明承報軍大敗變遇問軍承接姜維魏延兩軍夾擊明承報軍大敗變遇問

不可以其中一矩擊之應以伏兵勝之必矣其悉用禮策,他竟亦其

車積薪草揚言雕西運糧獨兵候以

爭特

Щ

以糧

|分代題慕左右传其坊寨即反劫魏寒又伏一軍

库本不近债

姜維伐魏魏王瓘詩鄧艾請以五千人為降言

菽

Ξ

姜維就計用王

瓘

庭務分華進但于上風放火燒其車伏命關與委花

这西克日此其等科我無糧車上必首引火之物與姜維正苦糧之忽報龍西有糧數千車運於前

乘吾草劫糧基空塞劫我遂命馬岱以兵入魏屯糧

五千 |日吾已有人在後汝護送止三千人足矣其二千 貹 朾 Ė 셭. 諆 Á 車数百輛為我選至郭山唯依然領命 Ė 随征効灰以 歸我 找 何不以誠心告若吾所患 報仇維大喜重賞之語雅 者權 維 E 叉 Ж 若

脊粮艾為債者所得維股齊鲁者故易奪中日月約百維不出斜谷陰伏人要路債堪难既受獨車遂以而存其從予且領兵者平吾故分其兵勢統計行之不許維笑曰司馬昭奸維遏於曹操豈有夷人三族

使很斟酌 炸輕敵安拜 今晚就不是南道路张山川相遍樹木養雜 KKK 與軍如此雖 **遵雲布滿在** 走作 亮自 林以 | 雲雲復戦復走韓 曹操 **於雲山** 死無失後被殺與急奔掉些火光中 敵 兵悬進忠山後大軍 叉群魔 留库兵 ī 也急回兵忽火光齊起人馬自相縣職作冒 則 **歩走** ۸ 守新野傳與李典兵至雲展不數合退走惇 遣 ŧ 精兵至雲山果見粮車不經穫送者悉魏軍 **佯 北勿 與決戦 劉** 諸葛亮博 | 額 | 職權又設伏博堂被後 夏矣作引兵向新野諸葛亮乃 兩騎報權已得粮車蜀兵後追乞艾提艾督 谷 運送後與霸各伏雲山谷中艾得書大喜以 有伏吾何懼哉追至悔望 傳自出戰亦 中 風大作道路窄處俱是蘆葦李典 日此新 人きなエ 2 孳 Ą ļ 焅 媄 蹇 业 諫日趙 ŧ 奄至車上 睿 伏兵矣益催 僔 即便車賣以引 伏 雲得無誘敵平惇 城 類防火 ጒ 大起蜀兵盡出艾葵 遣趙雲為前鋒令遇 爲 羽以 1 枚援以 1 : 攻停日 ň 依 火之物 進此 鬨 鄆 丈 羽 此言 煙 谏 黃 Ħ 爲 K Ļ 1 B i 追

籆

숮

昏

庶取樊城

敗

路走 冯甚就飲聲新開於上旅 此 fr 失 入縣 悉引来就 大 ŧ 及 貫之論此亮依以疑惧我因過 仁至見 芳劉封各引干單列陣龍尾坡以禦追者依許猜 **入樊城逆操军來必入新野乃預埋** 典軍 四数至 火 IJ Æ ት 黃昏狂風樂起趙雲於城外 飛迎條同亮等渡河亮燒嚴船機軍馬畫回 L **縣門** 青 勿輕弱言未畢南門西門 門軍乘 大亂 起兵取新野諸葛亮以來寡不 諸葛亮火燒新 清 旗猪虞為伏也欲止屯 遵 白河 縣仁突大取 四開仁日亮 處張恭從渡口 報仁日此 へきこえ 疼 河 種 水故為 車 畫 甼 東門走 巫 巴勢窮 焚屍橫 和 開羽 郼 P.L 學去土囊 À 所堰 趙雲從 俱報大起仁促令軍 造 走矣便造飯止 一軍邀擊仁與 乘風射入火箭火 搜林中無伏述 仁日兵法有虚虚 暹 食不 野 渓 莨 引火之物 Ĺ 小心 水勢奄王 不盈尺人 外殺傷無 榜論居 满 河 敄 棐 褙 息 有 進展 進 民 Ę 仁 勢 ifi 廦 ſτ

最在股票之 此有以聚之 基本

其致前名堂即入季之仁與典謀夜劫俸寒比將至樂 矣安俸不全 典之取仁縣 **一托电只事** 取渡中联赛 絕則 |按兵不動樊城未可知今全兵來此城可得也於是 走該河至樊城城先為 仁意引退 尊士卒小過痛責轉之令左右寬所轉者殺之迎 守兼故傳令約二數往劫岱案乃在帳中飲酒菲 21 進火 維急還放棄州刺史諸葛緒 1 仁屯樊城遺呂騎宠新野祭應謂別 你自分兵三路劫你其中軍止一十餘人各東首 為前軍直後除平葵橋比豬覺稚軍 崩 維在杏中種麥為屯 ٠ 屯徐 料解 ţ 姜維計取平曆 却引大軍 疗 # 趙雲後後務我仁望白河走飛邀擊之仁 州 稍必 計 随日猪盛兵精頭 曹操遣劉 破點位 八きた日 透留 拔除平之兵同枚 後兵於橋雅且 俗政之傳遣 田し 豣 計 所據仁遂投許 雍州 叉 F 'n 馬 那命 业虚 我 大寨屯陰平 乘 張兼迎嚴 行 鍾 併日若曹 ٤ p) Иń Ł 四四 會取漢 ٨ 過 偵 废桥送 半 俄 Ä 火起 岱坚 日矣 衝 以 中 谷 焳

致大巧 III **介英處方書** 時用仍供 提或用放於 **全軍四世引** 月督 為大事故伏遼於夜半見飛横矛而於 营而 無動 聞之詞諸將日懿出關必取街亭此地 司馬懿以張祁為先鋒領大軍 秦伏奪之忽旗後層壁會擊者即又飛 兼 此乃令軍士 뱱 ï 舉火 仏伏兵齊起兼兩軍繞岱飲香擊軍大亂 信為然處礼空替伏軍管後以待飛中軍 無險要最難守懿善用兵部 為所擒飛親解顏稱待以上賓之聽巴州悉 单 ۸ 日已得問遊可越過收益州兼在營中放大點師 静灵之 張兼 南 去人町松馬楠鈴我前作諸軍決趣謀者告於 **取西川巴州守最顏優城** 馬謖街亭之敗 軍從小路伏岱寨後岱見於卒 計論嚴 人参える 造謀者混入飛軍負之無 四出無振葬見徑飛不復水歌 顏 -不下張飛載 智勇足 出關諸葛亮在那 進也 杪 佛雜能敢 吾咽喉無 車仗 ΡŢ 採軍回営 肌 乗月卵 顏進退 至你管即 體皆 遊後 顏 棁 迷遭 裹 1.植迹 見 無 不 山 顏 蔟 報 飛

無

軍

克克平

4

誰

人
中
問

H 趣 重 Ąο 鮗

誘 삻

表 孑

d 師 觘

洧 H ₼

#c

数 を考め

ě 贫

桑基 H

見之為送生北

٩ю

戶那

7P

(P)

鉪

#P ዅ 昼

إعزار

加 **₽**o 麁 <u>+</u>

於 艮

勉! ŧ¢. ю Ď

食 波 從

都

ئے B

作

fic

뽠 忽

惔 報 Ħ

±∘ 赫

各宁賀俳人

司

大軍

至亮自

一城望 呼呼 اہ⊏

教之衙面舞山上不敢曾 原何 以差差

烫 鄉屯到柳 趙虞使賦兵無切不能解 願 生 1. 堯與 城以放其急難延屯 精兵二萬 Ł 千命 3 周 萐 IJ 守 街亭中平 Ŧ 乱 4 尨 ጒ 来

柭

£ ሎ

懋

兵

Ą

Ħ

瀵 HP

欠張 神重

苞、

山田

₩

Ė 数 耋

知 -0 軍

蜀 70 入

乾軍

懿後 圖典抄 包

冏 麲

夘

情

卧 不 爬 胎

吾不

ψ 兵多火

掯

鄭

益 見

伆 įþ

护 乃

學學

趣 姓

わ įρο

70 懿

Ð 亦

巾 堂

产

諸葛亮

兵必 Ħ 垣屋 锲 Ŧ 歇 簑 澳中 耙 有數 骨街亭邊側 我 葨 汲 萬兵不能過今若兼要道 到 路戎 亭 軍不 平徽管五路 ш 戟自 平 日参 Ñ. 此實 # þ 若屯 木 耙 官 ιŪ 當 B 推 Ł 趙 不 P 莼

遂 奪術 亭亮 亦 即 舴 Į þ 收 馬 製 Ð.

食官

中

大飢

嶅

÷

新作

をこ

£

7.77

鰲

加

後屯

灿 团

ł ਜ

进

~兵團 兵五

之絕汲道 Ŧ

I

幕 Щ

氟 F

不

爽不

從

平

分

٨

ή

管西

爲

犄

孔

汽馬製

連

Ħ 進

失 밁

八街亭亮

Á

引

Ŧ

粂人

保

箅 迹 刄

掩

Щ

蜀 惟

兵後

И

梭二都

Þſ

Ł

胁

4 軟 胍

扽

都C

癬 從

平 開 渚

請

ij

亮西

城

馬

以配出其見 七九精之代 馬中吳猛級 長座上他人 | 勇兵干

無事

ħ 析

都

坠

平可處再自

奥

壳 100

汝

Ā ДO

里

松利在連

使令不

鄆

此

有

憨

驡

西

百个 請其先代 H 親陰平武都與 4 山亦引兵 堆 庚 加卜吾甫 我相 卷工五 曹胄 漢連 萨 兵 彼 # 木之 俊若 意疑 **庫山不** 郙 得 我 君 此 和金叉な 取雍卿必 郭 亦可破 准 孫 川兵 魏 蔖 靜 数 料 遨 拒 夘 魏 日 跗 态

育令 Ą 侢 鬭 逛 兵 之矣禮 軍忽 j 取之矣。故不學欲何徐維等夾擊淮 旣 與吾交戰 而郊令 得 後 知 烣 () 内 出 面陳兵於外必 武 軍是 都 Ł 改等 壋 |矢蜀 坐 詐 薂 Д Į, 兵 吾後 前 輸 不 車上 ф. 離 P 速 不 臒 笑 武 逃 壍 都 淮 謂 卧

計

兵多少

都

夶

圣中 三印不

11時軍

10 蜀

섨 臈 軳

貨幣物

美日

売計真

八神鬼心

欭

撒

野 寿弃上

柳柳

上叉匙

見か相

水敷

Ĩ

不

知

ŧ0

整使巧匠做為之亦運種隨和亮通北原住奪之令 罗化藏数建路王平将水中 発作木牛流馬 Mo 上が退後 克計 奪木牛流馬 轉運糧食往來 jP) 馬和佛 進 紐幹邪准問 趣 40

徐 然後分撥二萬單左右刈 蒙東如一个姜維代上都後魏延馬你 諸葛亮再出 殺餘亦以為此通甲中 袻 雌寒疽 推左右令關與就兵歩行在解壯者二十五人推 提大軍守上 行 魏 葛 近向魏軍 軍追止 克 靜 μþ 都亮料整必如於是取內 **免使回車衙題 然道五百**軍 訶 膬 馬懿 办 縮 **泰選精軍二十** 몎 地 ij. 來進亮即 刈 麥龍 軍如是數次 各 املًا 各穿皂衣 四車三幅 今回 賴 U

古今特帶 酡 上布亮右勢下亦 我此魏軍見千百軍中 |八様に正 然处 Tio ~1十五人來息推一 凝寒神 法也傳令同軍忽左 Ī 胁 ~ 政自 德 趣 鄆

放出部山之

鳧日

娰

山乃長安咽

疾雕上諸

郡

弘

經此

兼前

餫

渭

不

我佛

耳泉將日取長安有别道希

取

闸

μij

何 14 扒

也

夜不安軍皆思歸聲傳嗣下

魏主教

召

班 僚

阿懿日 H

鄆

魏

無戰心不如且歸遂令後軍先行獨衆將日

古今新春

人参に正

歸

乘勢追之必勝亮日懿善用兵軍

退

設 픧

伏不如縱之遠去吾亦分兵出

斜谷

阪

邴 jĮ.

貔 司

馬懿起軍

漢中至陳倉大雨三十

軍

馬

司馬松先衛其谷

破石

兵

Ŕ٥

做: 化 西西 伏餐 10 40 故學经 **₽**C ‡0 鄆 極 * 南盘墨而去愁引軍

枚

淮

孽

も必遂

不

動屬兵

騥

至

會

平

投

退

魏

從北原來

i 迎·

姧

軍

鈴軍食萬部 急逃人林中幾樹走者三化水鄉 東追不及 **死得木牛流馬** 一蕨中的

各

得

箕谷馬岱田斜谷並會 侯者言蜀兵無動靜曹真日連 不追料吾有伏且容吾軍 Ë 後 知 倄 我 斜 退 谷用武之地 聊 含 日蜀人必 卵山愁 故必欲 À 題後 M 旬陰雨棧道斷絕蜀 督諸軍 取之亮乃命 方奔 飹 川 連 **胆道候蜀** 泖 H Щ H 聙 魏 齊蜀 逑 延 Ŀ

魏兵 料 後 郭淮言於懿 諸葛 料 ŧ Ħ 葛亮 可 都 御開 人 及日今夜 兵 吾種盡 南城 至見 Н 如 伏 旨攻其 亮管廓 夷 帇 / 麥田 兵乃 有 遺 葛亮先 見 伐 截 뒥 葛 色有 办 魏兵 Į, ¥ 巍 佛四百 · 売伐 魏 守 朝 關 麥 内歇 魏兵必 Ħ 河馬 遺姜維 日 坤 И 局 相 Ħ 巻え 可 周 傳 軍之食乃因 奇兵襲 久 路權題不通亮自 持何不做难凉 合 ħ 果 不由 桷亮矣懿 蜀 南 遂 **蜷**道 联 觀 單 魏 兵不 团 來攻城吾科南 摵 Ĭ. 還 大索時四角火光 引兵夜集 不吾動 2 延馬岱 打 謂姜維 麱 多 摮 幫 從其言亮 背 橙 A 城下 中 馬忠 併力 屯 於 汝 H 累敗 鐵 南 魏 成 朧 ŋ 稙 城東 城 分 徃 星 兵 勦 坠 蟴 **楠矣懿從之亮** ÷ 冲 上 在 刈 守 齊發魏 伏 穫 守險不 睫 敎 人分守 天蜀 稙 西麥 南 南 Ļ 麥 淮 礻 平 淮 Á 城 麥 H 'n 乒 軍 亦 攻 H 如 5 Ш 魏 Ä ÷ 郭 内 不 甫 Ľ Ţ 料 亀 ħ þ 推

电频被 电频被 百

形 原 善之准 到 扒 連兵北山 踶 H Ł 專 H 亮盛 H 坊 原 壳代 百 Ħ ş 敎 遂 寉 其夜亮果攻 淮 大 兵 ė 使官兵重應之 魏兵出 先據之議者多謂 先 阛 北原整量未成蜀 西 隔 倩 八非二正 城 絕雕道 行諸縣皆欲攻 ĮŁ, Á 原 斜谷時司馬 乒 陽遂有 麔 敎 崔 述 Ш 胍 蓋 삸 攻陽 民 不 俦 杏 (夷此 然准 西 51 兵大至 懿屯渭 灰 违 去 圍 穾 4 准 非 日若亮跨層 出 卽 推遂擊 国 南 重 Ą 以為 之 漄 圍 赐 利 東売必 遂 此 赱 也 見 肽 鮝

é

亷

Д

守

41

谷

貟

电

亦

山

東

Ŧ

箕

谷

伏

丽

Ĭ

龙 14

知亮乃胂

笶 而

也

付多投煙大 1) 西耳 菅以

河 來

北

令馬岱斯後軍過

便拆倚营中多

故

感覺兵是

夜軍退盡蠻兵遊見火光

韺

恐是

平明獲引兵至獨替見三管皆奏

内 討 燈 退

突火

食

數 FI

Á

被弟優日亮不敗亲案

而去莫非

İ,

联亮堅閉

不出聲兵

仴 叉

息見の兼三紫

過 藪 下

河為紫壁土為华

竹百 於

下三臂

聚 櫅 知

費兵 北 酒

流

Щ

多

大

竹

遣

伐之

河

水窄度

起 渡

Ή̈́ 葰

髙

免四征孟 諸葛

蒑

至西耳

河

吞

貋

壳

1

河:

西耳

诃

摘孟 軍

蒦

þ

子 9--126

-

÷

国以 刀箭 節引 得盤毗谷路飲首沙無傷怪出答即三口城大道 |国國有藤甲軍皆 前應可長甲波水 知其故日吾問利於水者必不利於火因通觀地 古谷解雜 諸葛亮六桷孟獲尚未服 作後以解發河衛兵皆移屯死會不知為兵巴潜人 稍暮防吾追故就北岸少憨令必走矣遂便人伐竹 **怨墜入 坑内遂擒之**。 至大林亮坐車上英日署待改久突獲怒窟奔林中 **炮船兵自相縣踏機急選趙雲推擊機墜山僻走轉** 西耳河見北岸管中旗帳若錦城餐兵不敢進獲日 盤兵樓戰用伴此以何之望白旗所指屯住 **港水見每兵無動静遂就止蜀管亮又於林木茂** Æ 不能 北東曾七先是養語變正亮專用青兵切勿追 蔡 躲 埋 **黑油櫃十車遺馬岱裝送谷內用竹千餘竿** 諸葛亮火變藤甲軍 |人其王以三萬軍助獲戰蜀兵敗走亮詢 地中矣蠻兵至奉發介親延皆桃葉茂 秦本本 **縦之去複乃求** ٠. 不沉舞 31 ā 提於為 水 不 通! 戈

計乎養日必國中有急非吳使則熱

代可

逃跑之

至

與退 起我傷大字生指無數亮將稍獲軍分兩處囚禁而 被職 乃自引兵迎献次 日間亦挑戦亮 三日不出 此亮問計飲令吾二人不驗也定選疑半啊圖聞 汝歸勸定早降無自取關終歸告定定亦感激圖 之酒食前與日吾知汝是定将定忠義士何從問 與定將鄂與戰延詐走與追之生偷與亮去其額 諸葛亮自将兵征之定取中路開左豪右亮遣魏 客庭 古人看着 建學太守雍圓誘幹舸太守未褒越侍太守高定 軍俱於 成亮節令人報發開發王已國亮谷中務建 與馬西并力拒守前後山上望見對兵即學次都下 窮追入谷廷望白旗走趙雲以木石斷蠻兵歸路面 鐵砲從土中飛进兩邊權車盡是稍橫烟焰發天營 程草輔重發王見之無復疑且發兵屢勝有輕易 雲桑 馳見定問與何故得歸定日亮義釋之耳 多張旗戲前為 諸葛亮智楠三郡守 是分路埋伏至四日間定來攻至伏兵 馬伯自後掩至遂復擒養 人参に正 有供各內 盡除草 <u>:</u>: -木路旁多東 閆 待 ¥ Ħ 夘 叐 廷

到莫知所

誠心 定不 潮 不來定乃夜攻殺開則 見是亮故認為關軍呼人慢後問 例心 定定衛進及於關營債也悉同定事百自此關軍 ¥ 再基本总法 令旗 定日此景及間之計耳定願自取褒首以白此心 遣人來降言定與團出來交必不 日此祚也即於舊中手出一書以示定乃朱襄 ぬ特様 人亦就亮言芸朱 Ð 段闡 相待反欲害我即同鄂煥議與稱亮仁 勿失其人具以語定并書送覽定大 定者定亦 雅問遊 食更令人起之界然後引定軍亦與酒內面 有不順者斬於是聚軍香降定見亮亮以定 以本部兵投表售聚於無定語煩即致棄定 L **跪後患乃勸定設宴以** 使人投降的歌岛定奏義首級以首 なてユ 達人來亮管探虛實為邏 棦 西部兵是壳是故欲 便免賞之即作書 日 甞 相局偶不 汝主 -: -:-刨 怒 致闘 河俣耳 者所 舞 斯定义 德 果 日 具旗 Ŋ 疑 I 我 搬 吉 Τī 灯 Z 期| 多

> 腁 姜

ħ 雑

柜之雜退兵屯雞

題職者多

調維力 魏

₩ 艾

 $\frac{1}{2}$

戟

Ţ

所疑其然始 **亦不假此**? し不験な一 使化特吾令不得還維必自

梅以碱艾

夜

往维

果

襲洗城艾光至

敗

東襲 不

挑

城

¥

艾

飽

潜

ř

٠

豻

一人歩た三

鄧艾先備武城

展

谷

破姜 棏

Ì

伙 3

道王

緸

磢

敗

退保

伙

道

Д

Ŧï

九

灰

舂

年週年推 諸將日

為 益州 4 總 摒

使軍

巾

Ė

但

定者

免屬間者数察軍

墹

ż

鸶

頭亮先

引圆 傳

軍問之皆偽認為定部免盡行放免

Ħ ķ

电白水 姜維 維去未遠 샍 jt 維令本還吾軍少法當來 魏 艾先據洗城待姜 三日維遺廖化 **或能复選室分諸將以** 郭准與鄧艾拒之維 自白水南 雄 退 波而不 傇 准 向 因撃 不虞於是 艾結管艾爾 作 西龙 人人人 茰 奖 維

留 Ħ

南安 二也 虚百 兵之必 出 也 艾 郝 彼 彼 画 婎 H 因 Щ 以 Ŀ 批 Ŧ. 流 食養銀若起即山麥熟干 有五 各當有分後專為 舴 下 雕幾於危丛姜維 经挑西之股 **村吾以陸運勞選不同** 相 何也 村 Ŧ. 被 兵犀利我将易兵新器伏 有乘勝之勢我 非小失也被 雖 一我分為四 夜 遁 頃為之懸 三也 未 Ħ 有虚弱之實 曾 殺將倉庫 И 伙 損 也 ij 兵 餌 彼 未 雕 折 Ŧ 南 兵 卆 西 將

:-:

吾

提 Ħ

潜 里

出

董亭遙襲南安

女見

建

H

痱

Ĥ ٨ ٠Ą

鹶 有

凘 傋

出

帽

求 料

甲 艾 彏

旗 儿 儛

號

更番 此

换 槉 F

亦 μ 山

Įī, F 謂

3

Ħ

办

矣 處

푦

故

미

咎 Д

乜

支郎

雍

东

巌

為

維果率 在

泉

萉

請

之若 矣人 馬或

其來

便引

俱係

更换 Ŧŧ.

ŧ,

將

必 語春

無

能 Ħ

肴 維

軍

可

_

攻

+

里

面

取 衽 趃

蔰

襲 不

南 斁

亥 핚

萀 η

易

+

里 Á

有 可

矦 耋

闸

城 Щ

乃 뇻

料 分

媄 兩

地 路

公 Ц

Fi 枚

占

久

計

耳 Ł

傲

郬 小

劜

羗

往

南 빚

安徑路

先

j

Щ

Ţ. 引 軍

後

吾

當 4 亭

先

有谷

H 杦 破 馬 + ¥ Ą

谷

미

以

設 從武城 兵襲董亭先斷

伏

破

維 巾

办

矣

表 此 維 將 弘 易

飹

퍗 办

攻 取

郼

Щ 邽

-

-: 引 継

丼

<u>'</u>

۶

#

į

华但七零之 是被得在并 受其之關非 维水善具和 安但 至 南 伖 先 維 維 展 女 皮 取 從 П į. 伐 电 忍 何 垦 奖 奖 杫 艾 處 ÷ 奜 促 引 先次 人兵前 Ž 運 先 籋 軍 趣 取 有 歽 有 h 借 H 冼 洗 備 75 進 備 外に言 近 道 安 夢 麐 畵 忽 南 逕至 維 维 可 殺夏矣霸 敗 51 魏 安 Ħ Ų 兵殺 人族新 馬 ŧ 精 魏人 有 武 室目 Įţ. 武 城 夤 F 醎 枞 H 山 維多計莫非虚 夜 駶 夘 挕 JL. 設 兵 莀 푥 若 去 伙 澗 大 先 南 谷 取 販 得 安 而 祁 μ 東 Ź 維 山泉 þ И Ü P 及 有 待 取 竹 奎 備 夭 ľ 蜀 挑

聚

南 否

Ħ

侯

 $|\tilde{P}|$

地殺

奔

蜀寨

維

疚

N 兵後 Ź

得

肶

邽

肝疫偏出洗 **的水条供也** 有人料財成 z 吾 8 艾 寅 水 ¢ Ħ 在 Í Ň 亷 山 者 Щ 兆 雑 手 累 廖 奺 H 日 無 觹 吾 令 維竹 如 有 得 費 之 脁 Ш 陽 地 挑 屯糧 **A** 陽 泚 也 债 陽 堇 草 # H 粘 粒 侚 連 維 灯

吾料 蒋 傋 挑 维 飙 雳 ፠ 鼔 ٨ 偃旗息 矣 可 科 知 椎 吾意 覇 語 鼓 Į 大 至 矣 開 脁 挑 陽 腸 葡 城 々 119 無 Ħ 城 吾 旌 IJ 旗 魏 果 敍 出 Ż 19 ٨ 找 M 办 餫 不 3] 大 肯 H Ē, 有 傋 糙 軍 靭 乏 凝 攻 伙

Ħ

地

侇

不

枞 Ý. 妏 ĩ 伤 矢 進 A Ŧ 石 觬 新馨 皋 如 縦 艾 Ę 丽 脣 配之果 をえ 并 Ŧ 于軍背 Ü 為空 奺 城 維 į. 當先 Ű 後 λ

本门校也而 **新教部山新** 科出和山不 非失計但文 機神山之屋 姜維 其 進 引 日 莀 邨 邳 魏 艾 軍 兵皆在 艾司馬 先 取 防 蜀 此 堂 兵 處 所 攻 敗 邡

收 ф

餘

并

退三十

1

勈

寨

綴

在 侇 Ш 河 楲 (兵少 4 思蜀 智察 亷 ٨ Щ 办 被 郸 然敗矣 敎 撃 祁 不 兵 巾 J. 向 4 一百當 然 Ħ. 長 至 女 人 親 榒 可 虚 乎維 佳 戦 將 枚 狐 軍 之乃 從之 分 整 兵 Ę

延伸道思技以政行之大

紅灰馬車

子 9 129

Ħ

旗

遥

應

斏

歴之也倶兵	市以兵多孙	何不及此鉴	春北之县蛇					自癸耳		豫卓有郵 美之徒額	春仏判前寒 大場且不念					収	划亦作無出	お云堂之後
末	亦	伏	並	腥		! 丕	攻	相	a i	各	之	内	昭		新無	時	东	
陸	亦	英	薂	됐		不	其	攻	中	保	兵	有	M		無	.	暴示	子忠
	易	從	+	伐	陸	13	内	天			! — ! ! — ;	急	自	斟	虞	方	狄	·菊
進	失	谷	电	吳	遅	Ĕ	吳	ľ	排	州	長	忠	持	驊	-	攻	攻	拟
春	失	中	以	性	火	爱	吳之	Z		CH.	. #	中	伐	朸	1	P	泰	侇
俱造今天舍舟就	失之非徒	出	挑	遜	焼	吳	本	世		Щ	國	围	孫	Ħ	j	Ш	ŧ	河
全	非	蓬	耿	拒	蜀	降	不	也室大典	水	依	人	往	權	丕		綦	者#	兵
舟	徒	Ħ	遜	Z	Ť		此	大	2	水有	援	栗	權	乗		梦昊	<u>I</u>	*
就	損	夷	戒	備		l l	旬	4	Æ	有	IJ	其	莆	檂	•	义	計	戒
隆	—	陵	緒	從			' 月	餫		4	歪	彙	F	伐	<u> </u>	义	拼	勿
陸	郡	栗	#	Æ			吳	阿逕	:	相	Ļ	雾故	魏	異	1	2	不	軽
管布置	之	要害國	n	・戦			. 1	庚	I	枚	其泉	委地求	到		ı	艾	并	山
布	地	異	出	建			則	ίL		此	而	地	犨		1		妄	山 自
丑	刜	之	倂	平			蜀	裝		4	疑	末	月	!	1	至蜀	動	引
絕	州	周	知	連			赤	7	35	阆	薂	F	椎		t	兵	艾	精
無	可	限	不	剛		i	不		76	Ž						敗	乗	. 兵
他	曼	雎	P	Ŧ		į	: 能	攻	•	利	人耳夫	以	枚	1	i	去	勢	兵三千
费	曼初	Ã,	動	夷		i	久	共		也	夫	却	求	1		ア	烫	Ŧ
勢不	懼	· 5	乃	奘		İ		绅	i	4	吳	中	無放水降必	۱.		山	亷	到蜀
足	彼	得	3	界			· 存	푡		自	蜀	M	必	i .	ļ	九	山	蜀

出其不意 火不用的 龙宣弼斯俱 俱捷服齊科 奠之好亦水 由旨意水腔 具長校在異 為處 度自 管林木陰處連結乃夜粉軍士各持東草潜越獨營 相持經數月其酯要害皆以同守擊之必 城引權東下而為之水戰軍向夏口乘其虚 吳以中 魏主不問 司馬懿日吳獨二房左討 兵被意阻前不復生衛角此寇正在今日曾天暑移 **衛軍始集思慮精專未可輕擊令在** 喉而春其心夏口東關城之心喉若為陸軍以 破之必矣不從之 心 前鋒於奧道為備所圍求教於遜 £ 一丕 問買 朔日 朕 欲一 貌 天下 吳蜀 城党糧足無可憂也待吾計展安東之图戶 有方耳 舉火四十餘營立破備走白帝 **避飲進攻諸將**日攻備室在初 買期 論吳曷不可伐 司馬懿陳伐吳策 國不習水戰故敢散居東關足攻敵必扼其 桓見避 人卷北王 日前實怨不見救 至今 遜 じ久 何 拔 **今連亘七百** 何先買鄉 并為先計 日安東得 初孫桓别 H 不得我 無利避 , 而擊之 乃 人向蛇 夘 調 解 + 計 便 Ħ 里 H

後 市 代 此 拼 妇

設伏 存矣七十餘萬上下孝心更兼江湖田塞不可倉卒 日期 易兵 勢必 制且陸遜多謀必有學備不可伐也 守以待其變然後奉兵應之劉曄亦陳曰異新被母 到之科 成衛矣類主日然朋即可 是不難蜀 諸葛亮伐濕大敗曹與魏主 長將何以攻之哉丕不聽强起大軍伐吳被陸遜 累敗於蜀其勢賴挫可以擊之令東吳銳氣 勢旗除守要隔江泛湖皆難卒謀臣親諸將皆無 下八折蒜 **我具今天阻之何也到** 利 倂 兵大起內外夾攻魏兵 别從問道不易到也計圖節行之禮一月必盡 諸葛亮遺計斯王梦 延須防耳 司馬懿堅璧老獨兵 雖陛下天成臨之亦未見萬全之勢也可 雄才諸葛亮善治國孫權識虚 在速戰可動真堅壁勿 兵運 極取 非乙王 道 陳倉為便令那 群日時有 行数日臣非自 果大敗而選 出待其走而攻之亮 计外 不同之故昔吳 曹丕日卿前勸 育陸 司馬 邓王雙守之 借 百倍之 遜 見 但

化电影 通出所謂於 得不找我的 雙件所正戰 明示久住不 路下 賢下 魏年 姜維 Щ 為久計耶果謂質目昔日勝 去, 展親兵亮以糧之選軍恐雙追襲乃令 於雙寨外侯雙出延即入燒寨雙知必回救必不為 不能下 佛可於娶路斯之延從計果析雙雙兵疑有伏各逃 諸葛亮伐魏取 右 各 車絡釋可引兵五千自鐵籠 H 車以其半追獨兵至山窄處車仗領截馬不堪 奪其衣甲旗麾以投獨軍許為魏兵轉襲魏 出維軍雅至臂馬傷輸乃邀賢原遺送種軍 中獨兵盡來禮車走野分兵為兩 鐵炭素案外多設庭為從鐵龍山 展斷吾糧道若即以其計行之質 可馬昭終子也久知兵見此山勢必不追吾思 馬歩走依回舊路 取長安魏將徐賢敗之夏矣霸曰 看锋 一人 非乙玉 姜維糧車縣敗司馬 乃遭魏延守陳倉道口自從問 道 陳倉城守甚 山解 琚 間 赦多 **火光迸出張異廖** 山 拏 防粉 截之賢乃潜 王雙 勝之須以 可斬 以其半押 道軍運 延伏三十騎 道 武 功孕開 藝更絕 出和山 .. 也乃 魳 桶 糧 行 莲 出 示 伏 뇼 *t*.

使別問連直 国羽 呂蒙疑悶羽定南郡得 選自發而圍速 及乞不濕董昭日軍事尚權室内露之羽 用类 使 親 する母春二人 軍中不得干壓 內疎 意為難不小露之便 權得志非計之上 莲 八團自 攻曹仁於樊城孫權嚴與曹操請 為蒙所養 吕蒙斯取笠軍 董耶請露孫惟起兵襲勵 羽之得意禮所不願也可論權勒令衛其後 解題武從之權果進呂蒙西襲公安板之 大大工工 無且 人家有所求取業麾下士典蒙詞 一可令 也 羽及將士家屬首撫慰之約 叉 兩版 圍 中 相持自替其似 将吏不 Ħ 炉 Д ÷. 有 岡權上 襲 枚 羽 不 fi i 脷 劵□

> 鄉以中時且 放我操合如 程官總商不 新以界法垂 郡取 故發法 民 蓬 家 垂 --涕 笠 U 剪之軍中震慄道不拾 復 官盤 蒙以 犯軍 ķ 遺 不 可 因 鄉

Ę.

征進者定職 夏木以降た |以三軍銳氣四百雄 古人 曹操 **B**联 神使作 若留經 成城傳旣修外技亦至不可 無彼泉必增如是鼓蕨操態見矣空早除之權乃 攻皖城 牙書 一人参える 遭虛工 呂蒙計阻曹操 日水必向盡 前将领作 :内愿 太守朱光屯皖大開 呂蒙言於孫權 攻 土田斌攻具蒙日如此必 ė 礻 選道艱難今觀此城不 移 聍 超也且吾來雨水 可 拔及水 稍 日蜺田肥美岩 囲 Þ 以 X 綪 招誘郡 甚 歷 4 阎 D Ħ 胳

為木

所沒非我守之失於國家大計

未有所根面便

都設示敵以弱推河之人大不安矣孫權劉傳係

羽

戚

農華夏魏或飲遷都避之司馬虧

H

Ŧ

禁

武選

都

姚 軍

不

夘

為獨

兵

·湧人

俄而與化

彩 至 維

表妈路那 馬懿陳魏

仰天雙日吾成於 也大屬管門軍馬

絕

地

夬

戦所 來枚 古寧旅夷陵曹仁分泉園之呂東說周瑜造三百 及男 之道也惟從之業乃為甘學為升城督蒙以 枚 柴 執 **女數萬** 呂蒙柴陰勝 過半敵夜道遇柴道皆舎馬歩走迫慶獲馬 抱鼓士卒皆腾騙侵뤉 · 段道可得其馬瑜從之軍到夷 b 即月 曹 貫 進攻食時 破之養光 精銳 交 ٨ 솄

=

之施改變術然後出耳今便使退賦必謂吾怖仍來 棋射啟因自前題題日城知大寫已旋無所復覺得 **恢且水乾定急去遇不荅方催人種葑豆與諸將麥** 中放抄獲建書與遜云大駕已旋賦得屬具知吾潤 陸 相蹙敗之势惟乃密令踵督舟船自悉兵馬以向聚 見普具宜蒙意普催而聽之蒙先勒四將谷遇百人 呂蒙既定長沙孫權兼書石之那元之者都普之智 示之拊掌大咲普慙恨無及 乘普出便入城守門紫迎執其手與俱下船出 百歲老母受誅鱼不痛哉君可見之為陳稱腦元之 以攻此會不移時城必破城破之後身成何益而今 有恩義事亦欲為之而不知時也今吾計力度應一頭 前將提以方界是當英城開元之日鄉子天間食園 也普守琴陵蒙欲誘致之及得書石墨根不准夜召 古谷折舞 *力於吾又已守要害之處兵將意動當自定以 題與諸葛瑾攻張陽遣韓屬齊表 呂蒙聯行降都普 陸 進服 頻解衰陽賦 人参之正 奉報選過販 椎書 汚

人聚光是東	共之型蓝毛	马泉外齐公			1	與 A 不 為 X	何而以大国 未開星郵籍									
文其心面令與光明兵事西平一路賣告結楊豐王孟	· 可成矣一路造使途西見其主利此能送金帛以市	各. · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	親主不問司馬懿收四川之策数日若起中國兵急	司馬懿五路下西川八河。	魏果 三遊出兵襲吳見有佛止	及姦心合者遠追依乘虚襲我誰能禦之送決計還軍	·推以問題題日曹丕大合士宋外託助國計構內有	陸避敗蜀主於號亭餘盛等頗言衛門偷乞復攻之	字·子·春·人参·31.1 月: 九	隆題不攻劉先主	洛東士不復親所送罷免	速更示定期以青置界上式得之惶惟遂以妻子還	縣際勢不兩存欲來歸附來書表聞選泉祖迎立嚴	延聞其然即使作者式書云得報 鄉知與休久結	江夏太守遠式顏為遊恩與北舊粉文聘子依不叶	* 陸遜計陶建式

廖黻 素帽 箑 速選城 瑾

便引船出庭徐整部伍步起

沃 且 吳 是 易 五 聚 人 之 典 群 外 分 源 兵 型 精 外 分

	朝行 医膈	,E	以我就是可以敢以山鄉	於不及故事			.97	而竟不為傷 子質或若是		避免一善耳動之用兵符	:	在思深長麦魚	得計通之數	協外総方作	5. 英班不会	J	林 美亦可由	不但最親知
· 市富後主宜亮同期亮遂分軍上為五隊 而退傳令	司馬懿是被諸葛亮所敗乃賄過中宦官荀安布散	諸葛亮增麗止追兵	干人受害亦大傷銳氣不用	日此非萬全之計也倘於山僻中以軍絕之非徒五	谷來亦足以達如此則一舉而成陽以西可定矣亮	之裁則食足也此東方合聚尚二十餘日而公徒斜	进十月可到長安然問廷奄至必東城走橫門散民	千負權直從家中出循素敬而東當子午谷而北不	了公前事 人名之主 里方	旅寫亮代觀親廷月夏庆懋怯而無謀假廷精兵五	魏夷萧繇子午谷取長安	以應之先取成都亦為上策也權從之	警必矣不若妨許之住兵以觀樂若親軍勝則發兵	其地權以問陸遜延日曹丕坐鎮中原今若不從為	觀起五路兵取西川連使約吳為應得蜀之日中分	陸 題 勸 孫 權 級 文 西 川	使来典	知吳蜀夢和魏必不敢發兵川中可安於是道弥芝

基之增退酶 增進時用也 形 え 往二易兵 17 魏滿龍上疏日合肥 日亮多謀效孫臏添兵滅竈之法若 | 原增兵滅窟 常中 m Ħ 内矣部歌 得據此水為勢官兵被之當先 T (蔣 ١ 消馬陵之獨不如退也亮乃全軍而還 無追遇之患餘見蜀兵 ı#. ij 禁之也引敗遠水 善動敢者形之今賦未至 北 纤维 依 育 á **以**之 馬懿科諸萬格并兵合 Ŧ, 龍請兵合 电兵 為守前 69 17 łέ Ľ. Đ ٤., if Ū Sec. 1. 1. 1. --本等之以蘇此為五 胀 萬者掘 肥 龎 ر راگ 城 西 ٠; 消丞相退兵添魔 ķ, 擇利而 萠 拔 丁宣 政民者認道他 ij 臨 棄祁山去行產管開請將 į, 7 5¹ ï H 肥 動學得 而移城 舠 PJ 薂 北 ji 借 ń 賊 盡力追之必 之楊俊 遼 i_{i} d 0.1 11 於外 易拉 Þ F 餀 何也 4 壽春賦文 i1 .<u>_</u> 内 7 ń٤ 乃得解 刑 if: 뒴 ή. ς, r, 亮 日懿 日背 所 褔 Ę à 4 謂 有 圍 JŁ 岱

発撃者言

吳 **北利拼與** 屯 兵合 妻一隻 店見着兵素少屋園 1 储水 如然所料 Π 司馬懿 基品 日前与格新得政於異欲飲 **\$**, 城也部處其分兵以送 不 俊稿 計餘息也 足過 象寇 佫 准 果且 174 時

等按兵自守以新城委吳格欲戰不 根之魁且 使關中諸軍 乃公之利 選維開准進兵亦退軍隴西 郭 符中新城 推陳春悉開中之泉解於道之圍 謂我并力於 U 倍道急赴出其不 維有重兵而懸軍應恪沒食我麥非 東西 中必虚是以 界 意始將走矣愁 科 量力 |粉母 樫 進令若 日善 撨 £ 4 食

銳界足以肆暴而坐守新城欲

Ц

4

岩山

拼

攻

淮

城

仮前戰 不得師老界疲勢将自走諸将之不

Ā

似射而墨或似疊而弱

不

可不察也今格悉其

٨

计等

人をこえ

吳諸蒋恪圉合肥新城姜維

亦

田門狄道司馬懿

見

稱意 沮虞松日昔周亞夫堅璧昌邑 而異楚自敗

庭松坚守待吳

恶以裁其攻 降運為相語 静以半不致 門 放不覺 作 有無心複數 **而使之少益** 已發的核心 所以中央人 福耳矣人 7 者 以 諸葛 ij 段 빍 ä 來 法被問題百日 格 補其缺為二重 以與之吳人 善惡明 4 己九十 攻急城將盾 俗 城壁 斱 府 В 城守 僚 早 Ä 尚有半不欲 畿 羙 夹此城中 而杖不至 特 拼 鄸 共 4 **酮吳人日我今無心復** ķ Â 舽 Ĺ 特 調吳 遂 特 典料 緩 我 者 降我當選為 本有四千 文 λ 雄降 F 工業 特 日 粄 Ŧ 泉 ħ

僚 不

灰

坐

Á

戦 f

也 Ξ

Ĺ

作 相

Ï

枚

Į. 條

E

產

集

ļ

相

疑之時

也

一當及

其

決之

兹 大

兼

Ħ

) 焦 城

下

逹

胂

也 兌

25 道

榍 行 信義此

Д ٨

Á

閰 造

懿破其權

Á 嵩

道 Ħ

皷 何

攻

達 也 未

甥

邳 Ŀ

Ä 膌

斬 媄 乃

í

ľ 木 語之 一面戦

吳人 ۵ 大松 Ħ ŧ. 進攻之 米ナ 不 ĩ 能 拔 遂 4 去 秡 乃 夜 伹 徹 有 闘 黹 崖 东 Ħ

將孟 詐 亮 老 建 赤 75 焦 IJ 降魏遇之甚厚 趙儀波其事進 連 連 Ķ 鈅 榎 ħ 巩 娸 為後 太守 抑 旬 謀 患 建 馬 . 政務 知 耕 忿 奥 連 Д 申 吳 皋 į 兵以 音 儀 有 ħ 行 疺 頒 隙 ŧ T, 中 13 遣 聚

郭模 請

H

Ħ

天子

灰

稷 自

在

月

期

城

Ľ

ij

7

ᆔ

٠,

弦

給斬孟

產

矣據版

Ť

要萬鄉 師粉松奏聞 深險藝 闖

Ü

* 而行

是

先

進

X

Ц

書 肯

耛

Ż

橪 恷

日岩

取 產

4 發

速 脷 ŏ

* Ħ

Ħ

長子

1

所

在

ż 掯

不

來

艾

悉 謂

速

拠 單

不

雅泊泉地 受勢云梨市 **机用正大可**

葛

克率

大衆祭

4

谷

代魏

堆

於

Ä

水

之前

Ē

Æ,

旕

可馬懋坚

Ŧ

H Z

諸

芍

亮

马力央大师 以高角之躯 行事必坐失 在軍東古面 小

冷泉

歯か 銪 背 軍 與 U 擀 Ė 兼 不决整乃 **亮**登輕 惲 М 刑 諸葛亮 蜀 儛 ż 託 之而 事 身 凊 欲 耳 I 軍 令宣露 相 謂 东 進 破化 Ü 討 Į 家 諸 此 苦 Ħ 委 瘠 窄 無路 Ħ 將 易 勒 ij 郥 4 A 夘 ٨ И 也 麲 模之所言 恩智莫不 噩 望 連得書 癆 一而鄭 ž 住

Æ

v

芝衡耶 从不有人共 佐泊东北安 請犯正做得 有所不受地 将在單君命 引 慧 依 耒 £ ė 軍 伸 懿 Щ Ŕ 귮 不 75 拞 ħ 疫 使 H 分 北 東 滑 ŧ 不 辛 壳 兵屯 誠為 原亮以前 背水鸡 復 毗 乃 出 仗 可爱 遺 田 節為 熱巾 矣堯日 Ź, 4 久計 者 岩 Ü 緷 蛓 怬 M 拒之間 曲 彼 魳 煝 懿亮相 Ł 人之 本 Ü 皆 Ŧı. 制 ũ 支原 麒 蕭 之姜 靳 守 進 服 扮 情 朴 鮗 潚 Ĥ Ħ 維 免若 慦 所 俆 不 將 IJ 粃 H Ŀ Н 舭 事 囡 辛 表 凫 货 Щ Æ. 請 き志 鼔 矣 武 戦 挑 亮 小

10

Ā

ŧ

1

j.

ت

叛預 公孫 香橙 者以 **也預有所棄此** 及事 諸葛亮卒司馬懿經日行其營壘觀其 **鲜二十巴上首视觉焉所敬食不至数 稍特完食少事煩其** 後 相 Ē 衛耳 走上 文数 馬步俱進 士三千人者軟材平底木優前 其 軍家所 軟 之烦的不即我事使者 示 9 6 司馬懿木程除蒺藜 司馬懿兵向賽 £ 旅迎水而後守耳帝 甚泉日 đ 灰文 攻百 計也確意水 摩 帝日其计 於其泉耳亮進 重軍 而可以生 非其及也今孤 帝 参に王 夭 J П 書僧 Ŧ **花** 生のす 龙人 粹 ŕ 平新公 **新才也辛毗** 安出 以拒 Ŧ, 平室急追之關中多葉 計 g. Ħ 憼 兵 使 孫文 馬糧 新日 為 日往還 Ž 大 # 者 不出 Ţ 厺 軍遠 休 Н 至 A 惟 孫 菸 敍 Ŋ 旆 勃 火 全情 (亮 奺 裁 极 将 征將 行蒺藜悉着股 F 뱨 计 作 1 Ů 乔 4 時 Ł 何 光层 孝 依 * 卣 事 始告人日 足 潮 飵 劃 計 棄 僴 不能 之貨 矣 守 使 4 排度 未 其寢食 Ħ 弦 整弦 人其間 蕠 夜寐 遂 生 П 可 . 進 持 Ħ 彼 乗 有 **471**

'n

功力不散雖當促之亦何所為自發京 計水傷於禮兢也今城東我寡敗

之是以不

泉少而食支一年我

將 而

倍於達而程不

Ė

Д

斬孟達今者遼東

緩愚竊

뵹

馬戲

H 丰

速 <u>k</u>

月匾一年安可不建

以四擊 土四 更安

Œ

Þ

失半

傲 植

表 當馬 Ą 孟

飽

昔攻上

庸

Ä

亦

故能

旬之

拔

英档兵不宜 其構學平計動主權運務

凉不 而求 人日 而的 懿日戚 果建之 懿謂諸將日 侍水 徝 其北奥贼营相 本音等 地水 乃縱兵逆擊大 戦 在 於 **敞雎高疊不得** 多聚旗幟 樵 九 쪼 被之丛 平諸将言 逩 牧 深數尺三軍欲移管懿傅 벬 营商量 水文駁 自者補將欲取之皆不 巢 矣遂 八角虚 **植鞋畫夜不息** 茶七年 Ш 果道 狱 Ħ 其南販畫 超沉舟类深傍遼水 旂 楊 矣 放之脈 不典我最者攻其所 ĸ 不攻賊 兵整 我重 ŻД 老吾兵也 歩騎 Ã. 摩而 保 斱 攻其管正 指象平必 鈂 數萬阻 作 襄平進軍開之會 赴之乃 女之 国 淌 聽司馬陳 À 非 胅 遪 P 泛舟 有 飮 見 X ĭ 所 作長屋棄 坠 兵出 办 吉移者 致 餱 人 壁 IJ 北 枚 ħ Ļ 示 蒼 而 臬 珪 4 ļ 僱 U 計 济 Ť 耳 Ħ 析: 霖 後 惺 肽 t ŧ. 飯 n

古令 少明 政乃改車運大貨捐功力 江遇水洋船運糧陽際將 **废督張成作大堰遏水渐清乎** 軍士大要有五能戰當戰不能戰當守不能守當走 地道補槽的衝發矢石雨下畫夜攻之文懿大懼 之取小利以為之非計也既而雨止遂合 使成虽決之諸將皆感屡諫不聽肺至當陽開堰已 羊酤率师向江陵初江陵平行道路通利陸抗 不須送任文勢乃突圍出無擒斬之 徐二事惟有降與或耳汝不肯面縛 老耄傳言失旨已相為斬之若意有未已可更進 使王建等乞降不許執建等斬之粮告文數目二 變敗憑衆侍兩故雖饒田未肯東手當示無能以安 牛馬抄其樵採此固驅之走也夫兵者龍道書因事 不憂減爽但恐威走令敗糧鏖盡而 杆簧 决者來文懿復遺偷演乞慰日 飳 **陸抗易將破傷聲** 抗決堰伐謀 人养老主 破堰以通步軍抗知 中以絕定飯酤謀因 WARTEN ! 团 送任懿謂演日 此為決就灰也 3. 3. <u>.</u> 落. 围起土山 未合 其謀 教江 拔 : 年

R H 表請役吳陳兵江陵選周青等率商入百死舟夜港 等伏兵城外飲道軍出拒伏隨入貳不覺突至帳下 襲樂鄉多張旗鐵起火巴山以奪賦心孫飲震悉旨 之大軍原至將師務易異於是成傾萬之勢矣預乃 孫問 頂 妖 同之乃表 還所獲 泉於 皓 皓 抗命 旋軍擊之矢石雨下肇界傷及者相屬 易散選 解甲提走抗輕兵躡之摩大破敗 兵不足分於是但鳴鼓戒眾若將追者孽聚倘 戶力風夜通抗欲追之而應聞蓄力將領同視開 此處即夜易夷民充以舊將明日華果交故夷兵處 知吾虚實者吾皆處夷兵素不簡雜若敵攻圍於先 氧愚團對擊吳都 ji 何付請立監 慶皆張政政吳名將也 棉 Ŧ 杜預問計破吳 4 督剂州既至鎮緒甲兵雅威 へきここ 泵 督俞寅亡請 耻以 肇抗 日亥軍中曹吏 無備取敗不實間 武乃簡精 王文 果以劉憲代 肇至經 催悉 致媒

音角

州

Þ

安楊肇至

西陵陸抗命將分柜而身率二

先定 可馬 者不 籍甲以擬二库今吳地廣大而下濕攻之最 多為不可昭論架日 **庾之勢且** 艾提關外雕右將軍十餘萬羈維 巴蜀三年後因順流之勢水陸並進此減號取 過四五萬從維及在外者不過六七萬今吾令 耶聞姜維往香中為屯田計 料蜀戰 士 宇 自定壽春 城都者不過八九萬守外境 И 欲大學 來息役六年 於格中使不得 代蜀 難不 治兵 朝臣

Įπ

左眼不

利益退還日

越未可擊艾怒日

存

į,

在此

乃此忠暴出更戰送破蜀

後

主禪降

羊贴故示恩信

被異

| 別オ 別故 建官 可馬 安危之 變也是以在陰當難則權足相濟 閱缺不 授任 介副 足相伐其為國防至深遠也及至漢氏亦循舊 怂 걙 臨時交刃必称御右葢以盡思謀之功防 鼼 遼 置副 東 何曾日臣問 佐陳師命將則正監貳宣命遊使 先王制法必全 外 飵

東頓

吾叉

遣雖會將兵二十三萬直至緊谷出其空

揪丛可 虚之地

知也諸公勿疑果如

ĸ

所科

以葵漢中以劉禪之圖而邊城外孩士女內

程四歲原食

Ť

۸

八米之王

1

月命無常期人非金石誠定有副

佐

司馬

服決策伐

雖有萬一不處之變軍主有

備則

無應

矣

Ũ

路追阻四千

雖假天威有征無戰

寇或 潜通消引

進阿謀界退為

逛著在篇志今太尉奉解討罪精甲銳鋒歩騎数萬 年幹信代趙張耳為東馬搜討越劉隆副軍前世之

> **虾艾鳢會代蜀姜維選 鄧艾襲蜀 辛** 劒閣 列管守險會交

勝亭遊 克雞軍食乏欲引選艾日若從除平舒 心動風之守必選赴治則會方見而進 剛應治之兵寡矣此攻其無備出其不意也於 浩 . | 人参に豆 出 粉開西去成都三百餘里奇兵衛其腹 邪徑 如剑閣之軍 经漢德 ځ

諸葛贈 将士皆攀木绿崖魚貫而進先至江油 是艾自陰不道行無人之地七百於 関山高谷深至為 自治理綿竹艾造子忠出其右司為緣出 親隃 艾 月 包自 里點山通 守 类 推 料馬巡 轉 雨 迶 其 阵 适 Ţ

作椅

百个符件

者欲去聽之吳石城守去衰陽七百餘里每為邊 都行荆州路有吞吳之志故與吳人開 市 恩信

飲菓子房口 長 華在年 以本之野者 道食情解以 所特新快等 信荷明改北 是千秋 体多形成形 疑以误之節 故亦故或不 抗如帕敵手 更貼弃處量 赤為所見直 **然解花更新** 部大島 お存 英本中耳開 ガルスと一 那具人自身 者材許多作 以相抗耳今江推之除不如刻扇孫皓之暴遇於劉 这至成都漢中諸城皆鳥栖面不敢出誠以方不足 荷戟千人莫當及進兵日曾無藩離之限乘勝膳槍 椰果人之用甚於巴蜀面大晋兵力盛於往時不 强弱典势雕有险阻不可保也蜀之為國背云一夫 獨凡以陰阻得全者網其勢均力敵耳若輕重不齊 可任 羊店上藏日期廻雕天所投面功業必因人而成不 古今哥番。 避損若食改先為具人所傷兩者得之者還之與陸 |韩即宥之軍行吳境囚根於吳錦計所侵償之會聚 ·清景來說點論新之見加頭發都香掠夏口生轉香 得言單中有很失 ... 見為伴者遺歷其家異將陳尚 不為接勢計將即有以流詐欺者順飲之即消使不 五城取膏腴之地盡季吳齊與吳人交兵勉目方戦 大學構識則兵無時得息也去謀之雖多決之欲 机對使命通交抗絕勿疑之酷知益州刺史王濟 羊肺上轉繭後吳 乃命令務府機廣戎傳為順流計 |八卷之豆 Ĭ. 開建

不得 中		代 開 先 度 其					被放弃或规定	<u>'</u>				济佑共享 4
江面下吳建平守吳彦取施桥以白孫皓日晉必有晉武樓代吳部王孫修舟繼裕追鄉於獨其木柿莊	王 府 即 伐 吳 人 東 立 冬 主 文 彰 為 可 代 之 益 若 孫 皓 不 幸 而 没 吳 人 更 立 令 主	意味著吳人虐政也甚可不被而勉混一六合以與是正は代與之策羊貼口今主上有禪代之美而功	養所保護趣媒池去長入短非吾敵也.	一个看着 人名尼亚	不如中國唯有水戰是其所便一入其境則長江非	就兵臨必有應者兼其俗急速不能持久弓弩戟桶	敢者大無有學息孫皓恣虐將疑士困平日猶懷去	有省者不能為吳謀矣吳綠江為國東西數千里所	之泉勢分形散所衛皆急一庭領壤則上下聚務雖	林陵鼓飾以疑之多方以東之以一隔之異當天下	盛衰不可長久也今若引架益之兵水陸俱下荆楚	於在其事此際不一四存面更且相守使天下国於在 化經歷

利用市 主港之東 無線 東 東

周男天子 _ 有名及平便 有名及平便

不解發自成都攻臭月易拉之初吳人於江廣碃要害之及夷之計空增建平兵建平不下於不敢渡雖不從

大鉄 數十亦方百餘本轉草為人被甲持杖令善木 夏相 處拉乃鐵銀橫截之又作鐵錐長更餘騎 後先行後遇鐵錐錐鄰著後去又作火炬長干 十圖 船先是羊茄獲具問誤具知情狀 樓 以麻 曲在 船前遇 格乃作 量红申 者以 + 大 枚 4

液断絕於是船無所礙

順流鼓棹徑

造三山

皓

嫠

泉、而、出

*

<u>汽</u>

可馬 此罪 出二子亦退開與未 佀 又令二婢扶策 令往解懿寅阅懿也懿乃去冠散髮上床 纤州 办 **个者天子命** 成祸矣與遂人奏加懿太傅收其權 懿同曹與輔政與必先啓知 司馬懿智給曹與 近朝好為之佛勝日制 方石磨 **勝為料州** 知懿病真假 勝人拜日向不見太傅 刺史特哥 州 · 懿何晏日 非纤州也 除李勝荆 并解盤 排 愁推病不 州 懋 大 被而坐 笑日 伴答 · 癣至 刺史 權 外

方從并州來平庸

日漢上

州耳

·鞑大笑日君從

₩.	,-	1112		. ~		,,,,		,,,
丈 .	下:	塘	諵	此	倝	州	索	州
	Ι.	產	君	懿	之	建	紙	來
文 景 楼 印	下人也不復	嘶氣遊勝解	故	作	麦	建功幸為保	筆	也
P	不	氣	Z	哽	液	幸	做	胀
p i	復	*	君	圈	蕭	為	*	Ê
U i	設	勝	見	澄	襟	保	1	太
以皇太后令别者	設備	辭	大	路日吾今老病笃	胀	重	上:	勝日太傅如何若此
ķ.	於	固	將	吾	4	重言乾	鮗	411
F	於是	回見	軍	4	奖	乾	號	郁
₹	魏	真。	萬	老	H	П	芝	岩
狙	± .	和	七	病	泉	Ŧ	笑	ÍŁ
16	芳出	盲	胍	萬	Ē	手指口侍	FI	Ŀ
朲	出	其	排		太	Д	事.	左
4	城	事	·	在	44	偆	洧	Б
b	斠	典細言其事或真	子	H	夙		4	-,
Ē.	ly,	Ţ.	<u>.</u>	A	疾	婢進湯	TE.	横
炭	情	· II	.i.,	_	*	115	雄	重
ť	带墓	Á,	创	旦夕二子	果	悠	#.	日太傅重題
成門肋兵隊武庫	來	此	教之君見大將軍萬乞照拂 一千言說倒來	: 亦	就之母流滿襟幣作失日果言太傅風疾發果劇	海	解書呈上懿第之美日吾病得耳雖此去	勝
<u> </u>			<u> </u>		. 37_	47.	1 7	ימון

世 口 制 田

	百个轩						奏奏直	- A F 4
	百合轩籍卷之五終	-	, ,				(勝等)	4
	五終	,					奏與與勝等陰謀不聽皆收下蘇訴之	· 人まえる
					. 		N 皆 收	ī
							下獻法	
				. !			かた	2 =
						,		
L		<u> </u>						

.	以難欺實	被 其穴以控			技亦此立	通用力量	有商者一切を主要を		<u> </u>	放水人前去	桐葉之泉症							
了完議者以大學後重人不可提夫哲	其寫穴顯示大信開以生堂柱後之到	雕戦		日為 的 化之重建名将於安成建計車	カ可得而宣熊照之士其說可得	足成功也思謝等寫宜親幸江	之所甚懼也去年以來累喪偏	內院我室家少好職或之泉易動為了	下八年年 人字之次	联人不堪命三江 叉 較彰 養 哲	鉴上疑日正榜本六郡之地	杜寰作进江湖流弊王敦不能	王鑒陳被柱復集	f.	単に 対方りに はつまごコ	新大夫 · 建工发前属		古春新籍思之去
提夫曹 授以制献愈	發之 新国已領於麾	士思養婦乃乘際赐育侵	以祭之深滿則壁按	从建甘卓之量 南望女	母而香進左軍於武	出州然後方召之臣其	TH 维维道偏仰霍木	勿動為考之為難安室		根 	一州封城耳若兵不時	肥制朝廷深以為爱王		基男者行甫奖	男弘之表華文	在秦親三頭安子男	男孫序建徒父	

戈勒西不堪撒似他之子 石斗故不料 光极已有见 人主整安久 部指揮後機性物三分之勢到表即中其果卒各全 面夏侯之祭權吳為祖親府長江而賜羽之首獻袁 我縣蒙喻不以為參先急於此者手對偷奪登旗山 建武院定中国親征柳城楊桂盧龍之嶺順勢重案 |次之後聖躬遠風塵之勞而大功坐就未見其易也 不多一個情報的再不無可能者通該者或以當今 **之表非有皆時蜂燧之虞盖一日縱敵終世之惠鐘** 之極期於最代崇替之命緊我而已欲便攀蘇無野 **年之見虚則方今接風之王雖聖賢未有高拱問居** 為四方匪連軍處然後皇基克構元勲以融合大弊 下人董養 二人表方式 大小兔干捉金鼓身笛矢石櫛風沐雨壺漿不瞻馴 文環甲於城藏計及尚祖光武二帝征無逃近敵舞 非不勇伍伐之食者必親之故齊極免胄於召陵吾 中三河有覆致有本日之弊此已然之明驗也多世 指不可長児很見太無故衛五衛之世籍非不良世 在我的外藏方象於是動于乘之重夫王湖之初花 ------

於放敗節節擬巡然今不可處王撰可委以斯何之

任臣臣能平之帝日必能藏城何為不任顧 屬何足藏裁备乃以隆為武威太守公縣 三十人無問所從本角之鼓行而西察陛下成後 何如耳隆日陛下若能任臣當聽臣自任臣請奏士 誰能為我討此身通京州者乎馬隆進日陛下若能 鲜早樹檢能伸聚十萬短指凉州背 之乞晋神鉴思其所陳 忠以補萬一都莠之言聖王不葉戊卒之謀先後採 之大雕臣子之深爱也點以几項谬案教育思湖縣 之功不難想也今情一來之勞縱垂成之冠 兵設龍驤虎步以威天下何思不服何往不济桓文 之限但佛沙以就無則百勝之理游矣既指 龍戶電來會不午打可到除章豫章去販尚有 ; 古本書書 展采之 粉播植佛之思除煩苛之賦比 及數年間當 潘荡楚郭然後班前序功配将→之勞卷甲 報旗 州都長多理智用之不宜積寡以 馬隆自任緣士被鮮甲 |八番よう 武帝臨朝獎日 3. 見常典隆小 查目六進 鄉方界 談風家 黹 于里 湘

> 英本可以是 英本可以是 基石出版》

是受非刑軍之時失今宜水嚴須改而

動島級族

周訪與照問水面管自知方不能敢乃處遺 於夾道果職在歐質雖行不得前隆卒悉披犀甲母 **林者先出於是結節陽鼓而來大呼日左軍至士卒** 之廢據險柜守隆令軍士皆預農器若將用者虜 所看確又事善成沒骨能等與樹機能大戰斬之遂 者後便不可報節衛衛路以為司子一十六句言。因 隆無征 計总條不 設備隆後擊大破之 馬隆為西平太守特南虜成美為邊忠隆至率 中本 牙赤 復原州 為水星花子事正主成且前所課問發的破不意可 的宣傳首都自己在住房的三千五百人隆白年美国 可呼為最至夜食軍中多布衣面食服朝官軍益至 张而起的開節對口嚴雖 退然終 知我無林軍當 ·映依八郎問作偏霜車地無期 起角班管理於則 四百年歌中華等於外文事奇用後題永直的機能 周站改疑断橋退敢 馬滕汝本軍與器廉戊美 二年 沙野 本七十八十 ø ٨ × 如熱 T Ñ H

施 (作**商**走可 我也吃超後 先以前期掛 不明れる世 超光花联点 助其職者が 我勿美動湯 色自然三星 作其威之的 原就包制者 其無人 風先 **全藤色核药** 既是中軍收 何山堤炭昌 **表就包斯艇** 消延以政家 供有理能表 請將詐作商船務之果生複數人則 **适二十人促新之水陸肅消** 石电即避兵通兼令出贼侃整阵剑 陶侃為武昌太守時天下鐵山嘎多斯 乘之效行而進送定漢污 日會議勇順之敗也於勞我逸是以尅之宜及其棄 皆勝躍奔赴會遂大衛訪夜追之諸将請待明 左颚戰敗訪究今更進自旦 - 東日 我訪開鼓音遇精鏡百人自行酒飲之親獨政将 左右戰會勇冠三軍訪於陣 下本章等 許朝著右號訪自領中軍高張旗幟會果長訪先女 劇就駐奪感發江門用訪率軍進行防分銀氣 二 用的学医社會 是基本的 胸机好言降王贯 陶侃商縣誘賊 巍 敗鳴三數兩號敗陽六鼓趙徽領餘兵局 本なさ 竹 至申兩號皆败倉東亦 後射雄以 安東心令其 西陽王兼之左 董為後 江却掠 維美神 狙 H 訪

長攻石頭引 大京衛見及石頭峻忌收之大業自解 成不以故事義日若遣 敢大業水戰不如 形成不知的 中部呈侃恭在諫日縣非被部豈敢為此若 題宋夏陳修率兵據盆口身領大軍 郭黙楠部襲潑劉德自領江州促開之日 故石頭 諸軍與殺戰李陽部將彭世斬之 国可容数于人贼攻不便量之此波贼之衔 蘇峻作逆指將累戰無功李 方本行番 馬訶色甚順侃知其可動復令論之截髮為普頁 人何為随之也天下写有白頭威平言花貢飲客下 議夜修府芘賊見壘大驚賊攻大業俱将收之放 **周侃燭詐斩郭黙** 圍 (R 拨白石攻石 一人まる大 胡 促從羨言峻果棄大業 **峻則大事去矣但當急** 根薪量白石 船進琴 此 日白 進軍宜 遺使 ź, 也 **韩也** 春 侃 Ä R

之日往發爲益州吏盗用車錢父衣不奔發鄉本

Ė

之頁遊煙潮城要差灰張來發之頁復极戰便通

將王寅率新號三千

出

[武陵

| | | | |

谿夷以丹師

|彭題攻鎮造於彭城超幅重盡置指城得玄乃 建将軍何谦祭月母城 叉非质爱也 **绘画祭冠正以丧红耳尔城院在江北内無所的外 今報有兵守亦無益於江南若羯虏有可樂之會此** 而言者本已促乃康木復引将佐部之日我所以 **按草夷夷中利梁肾尽查利夷高堪命总引冠房此** 公前亦作 别果准路降都再 印起宁文 民國等同 獨之蘇非無短之集具異時此城以三萬兵守之 **基零應有數三三四兵** 獨玄聲言兵向晉城 きなが **短剛之選係** ٠. 4 朝重 工隊駿 進遊 摩言

> 前班之景光 之利烏各面本院無統二其相歸服吾破之必矣然 彼軍務合其蜂甚銳幸我進眠若遊舉則望其詩不 慕容廆以分其地應開之日飲 存准法 虚 詂

数

語吾當獨兼其民盡衆遇城連營三十里稅解 其人情沮或然後取之於是三以攻死應閉 百人并奏 通使送牛酒以傷字文大言於衆日 一国果疑宇文同於應也 奉えか 引兵而歸 宇文 宇文日二 胙 ľ 有 栯 使 Ĭ 7 至: 真 鈋 雕

藏者因武員北岸有鄉城前因但分兵鎮之紀不答

B.起 内貌本守鄉城也門重遊置冊與 至點將除我鄉點降從斯因之是子 以失無動緣底網完前依因除會劈其發橫耳從無

納度多以 現文ラハ

而覆之 三期音

·從三國之中與吾有韓

魏之謀者待

若静以得之必像疑底选相看防二

則疑吾與益繭

所禮物於阿菲米斯縣根加

極刑點競勇所在暴拉

考印象版為色打相象年少不出的模正 後為朝廷

士配 方率兵柜之前绊始交輪已入其管擬火大敗而去 衙其管應方庫而進字文自特其象不設備見應 于號推鋒於前子輪領精騎為奇兵從 **張育計補向氷** 併 直 憴

龍進落波襲取其船以前大軍 張寅日開水船畫在浦中朱上枋內可節壯 **吏縣孔聂等便文石牌将筏沿波勒引来自** 水有泉數千壁干坊頭動料於軟津北波惟水建之 水可 摘也動 從之 勇干 敬泉角

石動反攻后帝都又引兵北掠行產東

热

H

阪

存

用典在费用

再者

<u> </u>		不伤险状态	格不干勒以					後其鎮商品		い来り載之	人も根別一人の可以来機	これを見え	何也在先整者	电价电不能 据火撑不整	. 是可者一姓	人,	久次英基子 使用不可持	生 有 報 場
丛所在 為輕	部之为 稱麥角面雕口音落實為借遊必思論英程	之議如羊祜陸抗故事書相聞問張有曰王凌假二	王後置百官套縱渥虐勒有吞并之意欲先造使製	張賓多方誤王浚	校户三十餘里	突門出伏擊之生擒未不就六春等奔散乘勝追擊	电北壘候其未定躬率将上鼓噪于城上會甚督諸	而定勒芡面納之即以萇督造突門於北城鮮華人	了今年春 人夫スス	一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	出其不意直衛末不帳敵必震程計不及設所問起	之以弱速整北量為突門二十條道候販列守未定	五九九年之智水不又最其卒之精勇可勿復出戰 示	東北東这本以我軍勢寡弱調不敢出戰意必懈息今及	老自遇追而擊之魔不就矣張宥孔甚日就六春	之士大陣手野以英之始耕皆日宜固守以安冠依即	·····································	**************************************

四进 美高力 等 我是事者必先為之甲衛都落推奉尚恐未信辛陸之 心或苦愚哉 放弃世使设工商粮投之 明其不敢奇 **具灰智手**用 4有時月此 **医祖史**不 內段之居具 BAGKA! 列製作以自 1位者不可 惟明 重光 所以 ÿ 公信祭動徹心慈貯如子也亦道豪嵩者而厚 臣未見其可勒乃進合人王子春董廉等多養珍寶 改德鱼唯區區小 泛 腳 子 生命令晋祚淪夷遠播吳會中 荷枝上馬雄盛實如 一年,王 表 其前王而不王韓信置其海洛而不 絹子春等日 應 苊 何為稱落 公州 推崇後為天子日勒本小 闹 海内候風流艇屯尼窟命真州 开车 順 捐驅命與義兵訴暴亂者正為明公 天時政 豖 鎮藩縣成聲指于八表個以 鄉貴華因海所宗為帝王者非公後館勒 ŋ Ŧ 八きこう - 本其 和力争 **石**公一 昼皇祈 府面 聖青仰 可信手子 致不然 **時炭雄游越舊都成** 勒奉戴明公 故也 石料軍之長明公衛除 惟 原無主蒼生 胡出自 春 在 朝 公州 神關者手首 對 共 胡 H 如 **表於值** 越欽 天地 相伸合 石 帝 鄉貴皇界禁 驅除爾伏 者哉 粹 风鹧睛 無禁疾 A 軍 쑻 Ŋ 戎夷 陳要 椎 聪 母 伹 枚 ż ż

淡之飲

养年分吏之都韓信也今惟

無難

使無

献教

○親當上其 右以庆赴年 背景の下京 不知齿斬几 可持官後王 動言と きちなり あ 選及は小孩 按技会自此 雑此以下と 界稅安知不 好俏大送不 李王北 路位 胡人未有為 建之子後在 水不 こと物 波司 之誠勤將循波引 外面 復發矣子春等與 使 是不 精之比大 而从 |天 由 | | 肤 送 E 尊號亦修提於聚萬乞并州 质 魳 **疑谈大悦封子 外牙季** 武于外賽當田 害賢良訴斥讓士下不堪命流叛智盡 改 附置 立臺閣 粒食沒 如 執懸之於壁朝夕 料軍之明監明公 以示 於後以 Ę 被明公也 者實有之帝王則 見公也復造董摩奉表 推 在怪特甚問者莫不為之寒心沒意氣自 之北面拜使 勝 統時鎮 **積栗百萬不** 表試實沒錐不 江河之比 欗 未えご 八王後 子春問之 花陽陰叛沒 春等為別值 取之不為天人之所 布 編倉暴於 列 拜之云 使至勤命 未之有 亦何 拱 而受浚 Ŧ 能 海 子春 官 縣 罪 掻 4 内人 恒剂 統 **跳值** 白古 杦 一我不 於 書沒遺勒塵尾 也 平 项 造使報勤本以 廣 塍 石 游子 H 浚 彌信勒之忠誠 Ĺ | | | | | | 炼工 7 7 月 政 期 · 勁 Á 英 幽 千公以見 书 州 八許耳 高 莳 箏 Ħ 古 13 魏武 接甲 自 湖 精甲 勃 没車 酷 Ŧ 非惡布 胡人 新 釺 崽 夫 幽 公 願 7 萝 Ė 単 莀 il. Ŧ 從 州 ħ Ŋ ú 所 不 殷 信 表 赐 £ 為 大 ⋷府

が六分妻子 泛汉人勒也 血铁计人法 お前山主人 18中北之原 内外集件 韓親造白漢將引兵推勒游統禁之漢將佐城請出 功善将來今聽所請受任通和軍達易水沒督該 乃機諸州郡說勒知命思您收累年之咎求校 我沒 薄游锅以其兄統在花赐假聲軍計故也造張應奉 行化 殿於劉現陳已過深重求討沒以自 復何疑哉於是輕騎襲幽州 軍魔議電發勿後時也且劉 摩拔 之旅 寒弱此則內 经日不行量买有一二方之愿乎勒日然有日彭 ī 思沉吟未餐張倉進日夫襲敢國當出其不意軍 大晚粉夢英届斯科獎後個劉現鮮早烏左 **著會無價容此** ۸ 終不敢沒而襲我也勒日 牙等 散若修成于班送質請和現必成于得我喜於 輕車在返不出二旬就使三方有動勢足旋趾 以抗我也的外後做人甘蔬食泉灰親離甲 由州伏惟三部今皆雅散選為冠警此則外 电液使差由州具即動 無魔英以無我也若大軍在郊外上自 外ごす 以期之至也 Д 現 形势寒弱 萝 火背 我所未 Ŧ 存 夋 jL. **妫琪既素疾** 行至 錐同 矣 <u>+</u> 了右便见了 炊 B 柏人發 Ł 誠無武 £. 香糖其 為其 彭 祖建 州市 漨 Ī

戦 自全教有 中選素以不 つ 大軍登員 之事界底冠巴垂至胡可拾去大軍一動豈易中選若婚 追來可除吞 肤然禁之法 來之直是拉 失為人可找 沒有財而現 在放納有其 在外門衛大 安先前亦奇 **这个年以近** 立新諫者以孔其為先鋒三軍後出者斬殺疑兵於 |之退順乃無暇得深滿高量乎此不該自 山上分為二伏輕騎與潘戰偽收泉而 藤力 竭大 羊烏合號令不齊可一 月程其鏡攻守势異必獲萬全 在之或源日潘兵馬精盛其鋒不可當宜深 到現遺姫塘李泉十萬計石 **表國市新七** 编热壞自點 天子而飲自孳叉專任姦暴發害忠民肆情為 之國路全燕矣騎之鄰握强兵生観京師願展不 年羊數千頭聲言上禮實飲填箔街巷使兵不得 百个打事 使徐光諫浚日君位冠元台爾列上公據幽州驍 没乃懼或坐或起動形其驅命甲士執汝立之于前 擊動淡怒日石公來正你奉戴也 設餐以待之動長至前地也門者斷門疑有我兵驅 石勒夾集戰難語 于此非為天包使其將王洛生 者之六、 勒 一動日婚大衆遠 現次廣 Ų, 敢言擊者 而擒何強 北 Ä * 遊艇兵追 滅之道礼 A, 骍 懩 援 崭 乗井 末 高量 数 莲 ij 乃命 芨

後發伏灰擊溶軍大

贩

内實為宠

從君以

静本 ·請和

勈

毒害

潍

栥 迹

東 傾 愚 及

劉祖說那縣保吾二二

糖日田单包胥齊楚之小吏獨能有已滅之那全咨 刺 徿

販之國今新軍仗精發之東居全勝之城奈何堅 將

歷之功於一篑委忠信之人於豺狼且 何者遊順之理妹自然之數同也况與我隗朝电結 不強也高祖編冠人處如響曹公奉帝而辨 項羽 侯紙聽 東紹非

殆哉鄉 無賴雖有犬羊之盛終羅庖宰乃欲托根結提豈不 琊王聖德欽明創基江左中與之隆 私えず 艺 可企理

待為將軍計獎若抗大順以激義士之心奉中正以 属軍人之志夫機事在密時至難違存丛廢與在此

基容翰競父勤 Ŧ **举矣繚從之**

·前班天大李託言為察報會因而為鬼送問謝縣慕谷衛言於 遊東太守題本以私嫁發東夷校尉李蘇於 文應日來前候莫若助王自古有為之治縣不仗此 成事今題津聚恩王師覆販養生屠胎外以本為名

> 之始也 廆從之 則并吞二部忠義彰於本朝私利歸於我國吾鴻藏 之命數連律之罪合義兵以訴之上則典復逐邦下 中原疾鬼勒王仗義令其特矣明九伐之威 牧倒

逼其城各不先在峻必先至先人有奪人之功特不 一个野等 江西當利諸口 蘇峻及見坦白正照宜及峻未至急衛阜農 孔坦獻年禦蘇峻 彼少我象一 戰决矣若暖表來可往

坦謂人日觀數之勢必被毫城自非職士不須或服 既而臺城陷武服者多太白云者無意時人 可失度亮以為不然峻遂破坑 △星之六 兼取祖米亮方悔之 稱其先

都壓議求破藥

联合謀扶天子東入會務宜先立管壘直據要答託 蘇峻作風都整盟書三軍以校社 城不長野無所旗東進死断禮運 與越逸又斷其糧運然後特與京口清壁以待 |便間 自絕不過百 行前進

基件以不在

jk Ħ 清矣縣以為然 韓館論觀四不可擊

北地其份子 基本元素比

苗使敵無所發壓壓清野以待

其祭中祭也殺

所持奏騎首

|魏在 藏章攻都為慕客府所敗魏師是次 親不可擊者四縣不宜動者三魏愚軍遠入利在野 再簡擊之韓諒進日古人先失勝廟堂然後攻戰 新城 凊

敗後陣方固三不可擊校東我集四不 戰其地一不宜動動而不勝泉心難固二不宜動 耶未修敵來無備三不宜動此皆兵家所忌不 一不可擊深入近幾頭兵人地二不可擊前年 可擊官軍 仂

经用处理股

满高量以逸特勞後千里德糧野無所掠久則三軍 丁本指等 人参れず 丰本

田之攻則東於多斃師老爨生詩而圖之可以徒矣

基客德日别然之言良平之荣也

五樓請據大規拒劉於

延時沮其銳氣乃簡精騎二千循海而南絕其棲運 在戰的終勇就不可與爭宜旗大規使不得人曠日 討無慕容超公孫五樓諫超日異兵輕果 斦 利

各命中字便除自固枝其資備之外餘悉焚務芟除 别勃艮解師充州之軍終山東下腹背擊之上祭也

既新率六軍身先奔 歐群臣解體士 康丧氣內外之 思六奇共济聚進鎮遠日百姓之私繋於一人陛下 習士呈謀及在事危忠臣立節亦在臨難諸君其

鎮下 子秦教鎮進蘇尚青事引見群臣附之目朕嗣奉成 劉於計基容超慕容鎮極言當據除中國 被既 而超版奔遭廣因使其尚書郎 慕容鎮請守險柜劉 淼

張綱を 超 $\overline{\Lambda}$

鷮 惭

業不能委賢任善而專固自蘇股木不收嫁将

何及

為天時不如地利阻守大規策之上者超不從遠母 局於韓信諸葛賭不據東馬之後卒榆於鄧艾臣 へれるホ t

宜粮敢入晚自貽窘迫甘成安君不守井歷之關終 平原用馬為便宜出規遊戰戰而不勝循可遵守不 徐以精晰或之此成於耳慕容鎮目若如聖吉基 山河之因戰車萬乗鐵馬萬群線各遇峴至於平 可一時人中青首布野非可辛及今禄五州之強無 入規由放遊職下禁也越日京師股盛戸口東多非

裕所敗

在不可用無 天道分位县 方面全投引 太白在西西 之旗末窥包 占三年天子大發能頭之國蝙蝠高車能國之泉也 惨刑令出兵罰罪以修刑祖比年以來月行於昴其 |不利於上推治 然今晋軍乘縣有獎人之氣敗軍之将何以祭之奉 顧陛下勿疑渦舞日蠕蠕荒外無用之物得其地 **咸成星襲月太白在西方不可來玩扯役必欺雖克** 劉潔推太史令張淵徐辯使言曰今兹已已三點之 垂與勃勃相持不足為患且二國題横勢成唇南 魏王 将擎柔然 華臣皆 不微 行 有冠難者必敢我祖自古乞提不进大臣則不致 曹令 轉載總 重具聯熱素所 兵是以趙禄三萧楚師不出不原一 若相我足以被敵不可閉門坐守國擊兼容惠日 百合者等 一八水スス 散幸運者指存数萬 可悉出金帛官女 餌令一戰 是遊覧行 而食得其民不可臣而使何汲汲勞士馬為治 可復特開西春自有內難忍不服分兵敢人 崔浩定前伐采然 日陽為德陰為刑故日食修德月食 獨准沿 宜進乞提以済時 使投至從此 ž 勌 之尚書令

不得數目外

慮不 能乗勝全寒耳

南海日蜡糯果可克平活日必克但

忍諸将項項顧

|还自困弊一果可藏他暫勞永逸時不可失冠謙之

龙男孔明状 魔士制水草 是我則先由 在馬養先化馬戀勒驅馳難制不得水作不 **畜秋肥乃聚泉南來冠抄今掩其不備必宴愈** 之有醫嘱付其絕遠謂國家力不能 至上英武士馬精強彼若果來如駒續關虎 兵数萬稱不能守兄義隆今日君臣非 女子干车 图於我未劳况非殊俗水陸異宜與之河南亦不能 必不敢動且彼歩我騎彼能北東我亦南 所獲後有強冠都何以待之若日不然今不先破婚 使或尤若日南冠 偶職格之非代若蠕蠕速 日调解言天道看是 故楊聲動東以衛淮北比吾破蠕蠕在 **蠕則無以待南送也南人問國家充統萬內懷恐** 叛去 今禄 其元惡收 良民狼舊役非無用也貌主大 世常於施之於今不合事宜縣糯本園 對於之雄傑吞并關中哥其愛子輔 水は下 其 職 至人事非其 制夏則 35 1 쉚 通之間南 朱邊臣中間 所知此 胳 ŸĮ. 在在彼其 狼何 良解 過数日 椒果放 **時
之** 通前焦 駿散 乃漢 精

争則 **依存立司馬氏誅除劉宗必舉國震駭悉精稅以** 等贫质是忌今問國家悉發精兵大造舟艦開國家 主乃止 欲南杪以 征多獲美女珍寶牛羊成華南是指料獨而慕之亦 肥因敵取食徐在擊之此萬全之柴也西托守耕從 擊之未見其利彼若果能北來宜待其勞倦秋凉馬 氣醇蒸易生疾病不可行即且彼既嚴備城守必因 账之者居日不**尚南方下温入夏水綠草木萊**客 ·船仍署司馬楚之等為師招 諸将表乞簡幽州以南勒兵功已戌守及就 △ 背景 我南邊前將無以繁之欲以都敢而及速之張 久攻則程運不維分軍四掠則泉力車寡以人 崔希五事諫典兵 在廣客此之關矣且楚之等皆職利小才 取資財告營私計為國生事不可從也 へませる 誘南人崔浩日 Ť 遊之 湋 水

克之川建設

恭林河北抗扶在境上者以免其鄉堪聽主使公

南邊斯斯張獅水将人冠請先其未發遊擊

梖

崔若該其兵擊宋

陛下當自計之不得徐行今則不然東西 **转事已聽正恭以為然治乃陳天時以** 器都 千里 丁樓不過數干形分勢弱此不過欲問 治日義隆與赫連定遇相相引以處聲唱 两行前冠未必姓而養隆乘處濟河期天山東 之治兵将我夏奉臣成日劉義隆兵衛在河中 无修人事次盡地利後旗天特故萬果舊全今劉義 龍及黃四年太白末出進兵者東五龍大典国之君 四不雅異奏兹客我在楊州出也夾午自刑先發 當电止河中兩進北上東道向冀西道 夏主遣使求和於宋约合兵 涸地 利不盡 三者無一 都也出る 入響奶 1新造之國人事未治吳變屡見天時不協丹 液意也赫建定凝根易推克定之後東出産 身鲁 **崔浩决荣代夏** 為鎮海 雞不得俱飛無能為客臣始 食盡學民值亦生玉也從就伏於異於 人参之大 無親而不 可而義隆行之必敗無疑 能 拔大功 減魏進分河北 货 使 Ī 以義隆 為南 衡 M 列 邦如 和莫敢 寉 兵徑 抲 魏 方来 兵連 A 兵来 此 矣准 行水 拾 Ī M H Ę. 獮 典是之假體

ĩ

f

未之六

7

Ŧ

酸萬人

不能通衝要之地

莫出于此 沈攸之以

之遂如統萬謀襲平凉 席提而 前則反 食南極 Ц 准 Ņ 北 \$ 业 草矣魏主徒

城梯上流兵強地勝我惟持之有餘而制之不足若 晋安王子勲及遣劉胡相非於湊湖宋料張典世日 典世獻樂被子敢

以奇兵数干潜出其上因除而壁見利而動使其首 ·不建下購洄涨船必泊岸叉有横 數阻此制職之奇也錢漢江 浦 可以被船子 極快去火

復下 為然乃選陣士七千藝 如是累日劉胡美日我尚不敢越彼 舸二 Á HQ. 之典世 下取楊州 ·诉流. Ĺ 五

何人欲輕機我土不為之備一夕四更風 節七十舸運取幾溪立 脱直過 轉尾胡乃造兵追之典世者,遣其躬 替明日 引兵檢 之胡 便典

尚遠氣盛面緊緊易盡盛易衰不如

待之俄而

胡 贩

水歩二十六軍衣女射士散迎擊典世日

胡威走

船入洞状典

世命任農夫等即壯士擊之東

那範勒白驅急進攻城

大之都不在即第日輕軍深及追宣海經且由篡必謂我軍來速之會不成 嘉斯治均口遊齊兵歸路齊兵大敗以鳥亦慢盛 不促進 郯城陸道步進列替相次鼓行而前被之必矣 悉易進難退魏若守監則首尾俱急不如悉棄船 不職文則将不為備今出其不意一鼓 **齊陳題達師** 三十萬 之不益軍勢不勝足輕軍威彼見無雄之被不敢不 日善皆免之將攻肥城範日肥城雖小 城相望者皆有柜中之志非德信懷之未易平也 引兵偽退衣建改之枝無雄殺申集欲盡以其人 實範日齊形勝之地宜遠為輕處今人心未治 若飛書喻之不降即 人子手 海道根請無身陸 **艾順陽魏主遣慕容平城散之又命廣陽** 推之問題南走魏軍追至漢水 4 師使魏軍入內 きぶず 散矣雅 進 均 口馮道 從之肥城果消得 林佐皆 謂不 根日 政之引日 可克雕從 Ä 宜遊 顕 均 Ĭ 莲 於

欋

Ź,

栗

迅!

漫污遍野从 此明所以 唐明朝月若悉泉前進僧皆必範我後不若追王曹諸軍濟江 心 鄭元起欲以三千兵在取事陽彼若知機一說士足 展漢口結連数州各若并軍用郢又分兵前進魯山 矣脱亞王師尚非三千兵所能下也進退無據未見 口峰通制维控引秦梁極運資儲仰此氣息所以 西門武昌取江州此機已失莫若請救於魏 7 江州令人斯議謂行日令頭兵兩岸不併軍問郢定 竟陵之果方丹面下江陵湘中之兵相繼而至兵 與荆州軍合以追鄂百自國齊山以過污滅使鄧 一里前趙交至房僧皆以重兵國守與郭城為衛命 **释漸頭胃與蕭行合謀起兵開** 食足何憂 兩城之不 諸将議并其即郭分兵張西陽武昌称日漢口不 齊蘭行及兵至竟陵南主我自景宗為前軍 可西陽武昌取之即得然既得之後即應 阻污路松再啊候糧運不通自然離散何以持久 开介 蕭衍論取西陽武目不 不失之六 拔平天下 便 之事 蕭 衍不合兵圍 可卧取之耳 鎮守不 行目 Ĺ 郢

行陳雄兵利害

東于現故 此明不可 起馬以不可 武昌不办政 此又明四四 を 江 無處君臣分定乘丹籍水倏忽而至未易當也 楊州危通何則者春之去進業鏡七百里彼若内 矣者雖用能枝唐卷公流西陽武昌自然風靡丈去 亦言若使葡行克洛上下同心豈唯後為之難亦恐 建業解風文熟可齊一與此期則在并無日矣源懷 萬直指污陰林襄陽之城斷黑水之路長驅南 天授我之日此而不乗将欲何待臣乞躬師失躬 蕭行權土 魏元英上書魏王日萧實卷騎從日甚其雍州對史 城萬人糧儲稱是率無所出脫東軍有土 ï 有不減量客北面請救戎狄以示弱於天下鄉為我 新如其不這在就必陷上 職既沒相大上崩大事去 草白鎮軍前途攻取但以見傳借鎮軍靖鎮之耳 舉事欲清天步權數州之典以誅羣小懸沔汪火奚 攻一城所城勢不得相致若我分軍應接 △ 青年 那蠻未敢益州五可問 **陵則三楚可收岷野断絕又命楊徐聲言** 元英請乘機取弃 典兵順施東下唯 入未えお 有 孤 城 更無重 ニース 一者以 賙 徘 首尾 祖来 出 小 ģ

《學生也別等都進元起於乳資盤空場更民無復因守之志 次聲勢連接先獨萬全之計然後因及得 無投軍承城自守何能役持久哉臣令欲 民暴義任力而行理有可克耳故欲先 以二萬之衆而着平獨所以 二河南也湖際政聚少年未治治移宿昔名 残王 而進若得治城則中分益州之地断水陸之衙 依然 不易所以然者關實力也况臣才非 從擴叉表日昔鄰艾種 其比之書春養楊其利三倍若欲進取時不可失不 必無生理若先拍城必将逃走獨卒為怯亏矢寡 萬里陸行既絕而水軍非問年不 五 屬今已奪其險方號無礙四可圖也淵藻是行至 得明自全 |可圖也今若不取後圖便難況益州 股實戸 裁 所任皆左右少年三可圖也屬之所特惟 足图果治城那登表於 商水原中和 州 倉師 敢者正以 十八萬家領 魏 ž H 逹 建 取油 庚 旗得險 可圖也 使諸 古人 之則大 中 肰 城 Ħ 將多見 都 F 彼外 γį 要士 何宜 資儲 П 在 煩經 相 利 相 澌 Ä 規 +

尚頼軟乃改 **发阻蔽子** 按 通如此情不 九枚九惟不 後は方之気 在特然刀不 百里之外乃 1 并是图的其 如林刻制甚 棒亦何當惟 四百字地中施果在粮火燒之在折城尚孝寬随處 油加火以燒布英樓幸寬作長的選割之數又於 地道内者亦皆焦賴私以及車種城孝寬経 選之每穿至塹ャ榆殺之塞朱投火以皮排 之而已分命壮勇所向衙突號令嚴明戰士同奮身 督将放以三十人為二處有数百騎移座鼓噪使脫 豆木布以掉之形不能入城外盡或擊之衙面城中 随其所向縣空張之車不能填散又鄉 華情大喜數十萬一朝盡散待出百里外乃始分道 孝寬轉木接模以集之散緊地為干 東魏高猷代魏至玉壁於城南起土山 自陷陳出於賊後表裏合擊榆葛榮餘泉縱其所之 以北鼓十里其張而進爾朱榮斯軍 古今牙等 随便安置提其寒鄉量才授在極寫荣赴洛斬 不獨多少支段人馬遍逐亦不如 為荣兵開魏相州稱朱荣率 章孝寛守玉璧 杖馬側至戰時房於勝还不聽斬首級以棒 人、米とよ 泉柜之葛榮 棒勒軍上各置袖 道孝寬掘長壁 Щ i 松麻鸡竿 欲乗以 谷為前兵 列 布馬慢 吹之在 庫 溬 Ë Ä 娸 韋 椽

五十人门卷 了下古是使 各有宜荣之 所业用果材 我的此大百 軍補 聞之乃可克也度其也至即騎 湖港伏以乘其背大破之扇五千人皆遊其馬仗縱 魏爾朱梁使侯淵討韓楼 廣張軍聲多 設係具除数 候凋臨機散變是其所長若絕大寒未必 拜太尉封郡公孝宪题書背 不為降射軍也 7 但降孝宪日攻者自勞中者自 ĩ 果好降卒為内應 国因而發表乃解國去 ٨ 東魏苦攻五 商散使魏超商敖曹攻上 木 坂选三洋橋飲養 城左右告谏 牙套 宇文泰議合前數學實泰 **侯淵計提雜禮** 餘又本 三百百作淨 人未北北 其土 飲义射夢 Ŧ 月 Щ 橋以示 连 日我兵少不可力 鐵為許計以 日灰者七萬人 河魏宇文恭軍廣馬 飮 走追擒 がかか 無如 Ti Æ j. 胼 逗射城 举起少 城中 渡此 浴實泰攻 芝 夜 選季寬 之 沭 何 進 人去前 或 其為 外云 絥 林 云能斬孝寬者 乃 級吾軍使害 B Ü 湖 使 能用 叩 能 77 ŧ 動言 西男子 A 析数 塚智 湖 **#** H 餄 奘 桑日 樇 Á 城 涓 稅 里 辫 遂 值

走 群來之言 投方生 **允老後数程 康急神中** 1 防散叉何政 不開以一萬 **路東出見兒** 是素威斯教 日和蒙巴者 後义安在其 以一旅飲其 **电対キ不知** 必事赞言保 若照照被注 途周 深月黄春 諸道 勿 快州 微 取 倉栗 今 教 曹 再日 寶春 噪急必 我之 开表 三萬餘出河南時開中 橋来能推使不過走日百取實泰必矣蘇粹追異武 自走矣諸将皆日不知分兵樂之字文恭 老得 西八耳恭及馬 榆也榆泰则肷魏白 亦以為然中文泰羅是安陽其計以 **《魏高教使魏散将二十萬** 弘農五十餘日間高數辨濟 軍至 恒樂薛敬言 **長景請分軍經進** 此吾心也乃聲言 與野飲比及於 漢河字文泰 裏受敢此危道也不 散之睫幹戶大軍 : 勿疫 東央 参えさ ŋ 於 武 歡 侇 1 炊 葪 八八八日 擊 * 巴國陝 日 同師 **機魏宁文泰** 微 梼 斯製之品 其民自應 西人連年 破之士泉皆盡春 保 Ĺ A 英 一未即 尪 熴 擊之可以 攻捕坂 新津 | 拔栗不 牁 右而潜 加 7 枚 趃 克 餆 引 所 顭 兵 僟 使 稅 輕 ij 克 丰 一兵人 徘 粁 形 灰 谨 占 决 悉擊 族 来 銳 췱 軍東出 輕 势 不 出 枚 脢 港 拒 干 日賊雖 M 炬県 Ħ 開放曹 湔 Á 极大當 但 曹 H Ÿ 中 飮 宇 萬人 ĩ 灰 殺 文表 t 不戦 þ 型 龙 Á 菾 可

兵衛首股政 **丛繁複行列** 張少面輕之 坚見 |敬收兵更職衆已盡去斛律金日祭心能 合戰弱等帥鉄騎横擊之東魏兵中絕遂大破之散 新士皆假戈於華中 待之素 從之背水東 魏兵少争進擊之無復行列泰鳴鼓士皆套起 約問鼓聲而起 西鸡体 : 粥與 趙 輔時東 贵為左 散不 媳兵 ti ij 拒

東魏

萬數使魏自齒津濟

词

至

馮

媊

魏

遣宇文

春

中英深集商歌

後軍全力前軍者改後 不徒猝難收散不

軍承之散

不 繼

如分為二軍

相

Πį

進前

軍

之恭至消南徵諸州兵皆未會欲遇擊

承不敢请待散更西以觀號亦口

散若至長安人情

数諸將以

三日橙鞋

大极今及其新至可擊也即造浮橋於渭令軍士齊

騎波滑至沙苑車東魏軍六十里前将告

催宁交深獨賀日散鎮撫河北甚得集心仄覓自学

東向 **於問策於王偉偉日都陵若** 徒景及梁主命宣城王大器将 用宜急向河東散 ۸ 1 王偉說侯景疾掩建康 人きこえ 乃馳 去

至

必為所因不 軍羊佩督軍討之

如

决

志 侇

样关北 作品出版品 TANK! 特註師亦谷 唐春攻歷陽在鉄以城路因說景日因家承平久 定也兵資神 直掩建康臨賀及其内大王攻其外天下 速今宜即進景乃許稱出獨襲 10 不

智敢問大王起兵內外震點宜乘此緊速超速康

غِل 不

| 刃而成大功若使朝廷徐得為仍違兵子

可不通

靇 歉

愘

i,

兵降江 直據采石雕 有精甲百萬不得濟矣景以鉄為熊引

周王湖伐乔命邊鎮益 周于翼章者寬獻代齊集 储作加 **戌**卒齊

Ä 開之亦

子 9-157

足

問出其不意一來可取通周主從之章孝先上書 三葉其一日 **謝無益夫計不如解嚴懲好** 午祭期 計畫力第大軍若出职關 杠 Ħ 奔自長淮之則 7 募 誎 Н Ħ 強 方軌而進 悉為陳氏 使被解 相 佟 耳 有 而無備 兼與陳 藤 所取内 Ą 然 往 推 损 Ę.

TA 未即大寒宜與陳人分其兵 办 角并令廣州 當望旗奔溃所向 枚 造" 电田 戊 サルゴ 北山 馬相特我用奇兵被其顯易彼若興 預為財務募其號 一八木える 看胡绝并晋之路 百道 **義旅出自三鸡又募山** 椎 珍其 性立為 二口若國家更為後 **魏三鸡以北** 部伍 俱 南 進並 睫銳沿 九萬春 以 彼 進 师 旣 膚庭 河 赴 東 拨 南 南

遊償天雨

脱降彼或選

糧益衆規為 望之心則准 奉青其之師先

進

敢

近

准 ŧ 南 餫

夷北 顧之意範恩 侥倖之心臣

民南 馬直

jl.

白舉

劳

有不重兵精 非但自因其 東以俄後去

宋明帝泰始三年魏尉元表言彭城 重兵積栗 亦 ŧ 孫下 矣且賊 馯 充 則 邳沂水 表 Ħ 請屯 不可固守若於儲既廣 ť 城必 經東安此皆更地今先平之則 丼 積栗彭 张青 侧遊宿 荣壓下 狘 則宋人 因少)要審 邳 不 趋 敢寇

不

藝譜州

月

不

攻面克不然青冀維技

百姓很

看

青

定東

1 懥

退以

医医酸之瘤 宋柱 因淹 亭以當其鋒破賦 宜宿兵新亭 百八角箭 **孤軍復無委積求戰** 缓至败 陽王休範及攻連康蕭道成日 改國青其二州未可存枝 王鎮惡襲發劉 蕭道成 Á 休鞋丛 粉墨守石頭 人本之す ٦, 必矣 ¥ 4 慈前失輕兵急下 木 宮城東府石 得自 4. 也 解 昔上 頭以待賊至 Ť 東我 我請斯兵新 ήį 無備 讲 Ħ Ą 北 Ŧ

Ξ

若飲更與養且

復

相時則宜還崇降好

危間境敷然覆丛可待乘間電

掃事等權枯其

y.

白雕

叛且奔民淫暴政出多門閣獄賣官忌

腹心之衆我無宿春之費彼有奔命之勞

我則堅

壁清

野待其去選選復出師常以邊外之軍

豹安民

和泉通商惠工蓄飲養成觀數而

動

斯

春

謀計劉稅王鎮

悪

H

春

若有

*

西

楚請給

F

駁

坐白兼并也

不知 |惡巴先驅進城緩大東南二門皆 **城津戌及百姓皆言劉藩貫上晏然不疑将至城逢** 鼓若後有大軍狀又分除令燒 已还流惟灰戰可立大功乃身 平日此是是安城北門下去家萬里 至消虧 宋武帝大軍至潼關王鎮惡請率水 教將朱顕之聽問藩所在各日在後及至後不見藩 極外 制岸上立旗安敢 便乘船登岸渭水流急踏艦悉逐 人情惟解殺奔牛牧佛寺自 見江津船艦後焼政聲益盛便報殺令閉城門鎮 見 王蘇惡棄衣種數長安 **把道海唱等量冰** 獎鎮惡去江陵二十里合舟水 所 虎年被之彦之引兵 通青兔大极乃以 不見有人北土素無丹機皆驚爲神鎮惡既 乘甘菜衙小鹽行船者悉在艦中 人本はよ 歲所帶人日首 江津 先士卒即 咎 幾城中 流去鎮惡無十 軍 船鎮惡徑前變 我将至城 而動乘衣程並 1.1 ń 上 . 盾長· 河 知 舸 沂湄 此帝 X 骨三人 枧 Ŋ

> 〇八木分片 至請急攻之忠日攻守勢妹不可存板若引日勞 長襄受敵非計也南人多習水軍不問野戰 海代魏前後與魏戰多捷追済食盡軍 在近路百出其不意以奇兵襲之彼息我督一 サイカ年 巴白限乗與劳兵谷田魏人是有伏不敢通全軍品 上及且獲軍見之朝資極有餘道濟命軍士皆被 告之魏人追之道衙乃夜唱節量必 楊忠國梁安陸 忠先 八まごう 克伊 **采柳仲禮聽歸** 禮技安森 枚之諸特 Ŋ 多方 所條米獲其 1 有降 仲 恐 泉 苍 仲 魏 飾 抲

舸為前

歷及西封

使百舸

前發拇言上

一克州

稅

佶

乔艮 東南洞山城中檀立敦走伏兵輸之送取分州 道耳箭精兵事子之此必成擒乃令北士千餘伏於 部急及之日此誠三面重測皆無走路惟處東南 部引兵國周定陽周分州

子 9-159

齊段韶伏兵擒楊

敖

刺史楊欽固守不下

克克仲禮則

安隆

不

攻白板諸城

可傳檢定也

73

與三攻齊鎮離水克遭便臨江教养主之罪目次 班聖徒於淮南局前除自者也祖以 思山倒海之

· 我則除禁城軍歲

t

12.14

T.

以為大鎮未平不可等小故也夫妻水者先寒其源 伐水者先简其本本源尚在而攻其末流終無益也 不克班師之月兵不及一樣士不聞三 昼天豊島

安騎級子其前開展安諸郡盖降而肝胎小城或木

守私城少置兵则不足以自固多置兵则 ï ¥ . 一人をよれ ₹ 1 糧運難

大軍既還士心藏住夏永盛

表

妆梗甚難

以

新聚

再島町貼准點淮南之本源也三鎮不克其一而晉

作十只白完

大自腹党亦 的主義艺术 尚华敦城非

服民 医椒亦開長 江清藩彼之巨防 以勞禁遠若果如此必為敵擒天時尚熱雨木方降 旋較洛色百力觀案布德行化中國既 南土群蒸夏多 和遠人 É

科堅 女之處将何以取勝平 題選洛色使根本深周 疾病而 然使命将出師何是不克魏王從之 逐點真利兵領重舉聖王所難驅疾罷之兵 1

一首演員對其我合生出兵界年将 務思全請用實問懷士卒 Ť 茰 弊至是

> **班基并一日** 色易雷思面 槧 雷冠 強壯 在後以 以攻戰自許及際大赦銳氣頭盡乃令顛弱 乔思 令上 死日比 衛身器 牟 將 核不 神多 氰 精進止無節 貴子 栎 . 軒 ÿĮ 弗 凮 當負 櫢

|民凋弊九以此也夫您可感義夫恩可勸友士今若 明賞罰練士卒脩器械先遣辨士曉以福福如其不 除之泉敵數戰之房欲不敢可得手是以兵知 輕勢加能養節被空竭民財 始集而先逃将即畏敢遷延而不進國宋副官 **难盡遂使贼徒益** 甚生 賞 ķ 敗

俊以順計逆柯異礪蕭斧而代朝苗敦洪艦而僚毛 下人 牙手 八条こぶ į

宗正 珍菜 守虞坂不 得進如何 子之計則善矣然今薛修義閏河東萨鳳賢棣安邑 關之守必内顧而走支節能解長安可坐取也 親蕭箕寅及聞魏馮翊魏遣 而西人其心腹置兵威地則華川之園不戰 **机**精 椎 日 夫可為人使安能使人 楊侃計解馮 蓎. 關險要守禁巴固不 湖園 河東 亷 治蕭坂 可任侃 稚 妣 枚 北取蒲 之軍至 西追 日珍 河封 孫行陳 恒農 À 坂渡河 雅日 解准

北智林果何如 聖村最終 十之前等也 M之及所及 軍舉三條當亦安修相應無應俸者職無自當進 西上发正学 **帧当尔善之** 残不得內耳 核水石化砂 签各阵則從 兵漢污邏據丹爾上祭也送保以待接軍中策也 是魏遣于禮代聚長孫僚問日鄉計將 之月有大兵人丘陵陛下宜整旃還都以選其惠至 更季才言於菜王日去午八月 1月二千人急禄来石今邵陵王 一子珍典 侃即兵北陵族石准壁命遊降者各選村僚 月丙戌毒氣干北年心為天王丙主楚分臣恐 湖各散歸修義展賢俱請降雅遂克潼 者亦詐舉俸一宿之間火光通數百里 擊屬之以所獲貨軍於是村民輔相告部雖實未降 問官軍至皆有內顧之心必望風自清矣雅乃使 **侯景反引兵臨江欲攻臺城** 了个牙幸 江之志送祭其藏後卒為景所制 退失異穴烏合之衆自然差解朱异日景必無 羊假請急排采石 皮季才勘架主選都 へまえよ ,果主阴策於 一两角 樂取壽陽使景 A j 如何 犯心中呈令 **賊國城者不** 巷 謹日 Œ. 建子 A. 進 礻 莆

> 何可以提出 袋之乎天光

則非母軍軍 詞以野所於 域分扎則在

自之後是治

是我仁而你

冥 必 馬 太 守 周 數 作 降 魏 楊 州 牧 曹 休

率兵角

就以

賈建急赴夾石敕剪休

心之魏王敏使寶遠同東關與休各遠部休日吳

東闢之備必屯軍院城都督不

可進也休疑達

分減以通之用人釋宜陽之則以故於北

多在

都東修義學民西國那城其家皆哥舊村一

A

状みなイセ |地奎炭液弊之民竊為君不取也光進罰定陽築南 其僕安在君不撫備百姓而極武察兵苟分尋常之 也幸寬日宜陽彼之妻衙分北我之所棄我棄彼 **廖小城久勢爭戰令既合彼欲於於北政債** 之定雖乃盡地形且限其状字文踐不聽再解律 失地宜速於華國長秋築城以代其愈院其老我圖 **概益兩國爭之勢師彌年後若葉之來國汾北我必** 周舞争宜陽久不决章幸寛日宜陽一 下戶書等 果於 分北樂華谷龍門二城光請幸寬 相見光日 於將動樣守羅都下策也檢 而無謀多疑少斯恩民難與應始皆樂邑居知其用 下策電 果主果用下東魏兵人 草孝 寬請城 汾北 本十十十 1 . . . Ħ 江陵執渠主律数艺 簭 出 何 族之地 策 謹 日 律信 幸勿 不 N 4 Æ 怪

可奏失推正

法不 **采陳慶之與章放會兵攻魏渦陽魏遣** 之中宿而故 故衆猶運疑勵指其節目朝廷授此非 **今無故出人於外必其襲勇者也苟能** 校甲乃可避耳愈日不然鹨城中二千人足以固守 門外椒微擊之諸將皆日何者輕來未有職備係還 **菜草椒攻麵小児未振出行園柵** 百年新 人卷北下 Ý 陳慶之后學題兵 章概急擊魏兵 犯也遂進擊之士殊奏 联 魏兵贩走問急 魏出數百人陳於 无耶故之前 性之其 以馬飾章 被月

	可多季擊之無不克矣齊信卜益以為柔然必不來不為之	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	\$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$	海東美名 魏王西代粉務壽日吳提與牧徒相結素深聞於西日東提明之			*在食之不見發宣及其米集性之乃即麾下擊破之,選與諸亦其之故如不見發宣及其米集性之乃即麾下擊破之,遇與諸	朝華東北是勿擊存其來至慶乞日魏兵遠來被依去我尚这必事東北是	也要可不軍未至四十星慶之欲逆賊放日前軍必輕殺不如
	翠	印賢兵請漢南於	戊	魏		将选管面進	不	Ŋ	1
•	て	4	<i>);</i>	I.		迄	見	圣	未
	無	ř	來	百	魏	耆	棄	存	至
	,不	莆	犯	/t	Ē	而	Î	其	П
_	克	漢	蕉	勃	先	進	及	末	+
\	・矣	南	展	移	扶		其	至	4
•	賽	分	故	# :	魏主先佚真害待虜		来	厦.	及
	信	伙	芮	H .	吾		耒	Z	ユ
•	· .	麦	壯	失	符		捏	. EJ	
	. 逛	青	左	砭	舅		Z	魏	进
	巫以為	以	肥	更	:		7)	人	惠
	<i>A</i>	待	与	农			剪	逐	放
	来	馬	. 使	縺			巻	水	E
	然	主	# \$	相			T	疫	前
	. K	51	PH)	莽			筝	18	単
	不	使深	太	素			展	 去 .	必
	来	*	f	漾			こ	栽	軽
	· 不	Ý	收	H			T.	肖	载
	馬	Λ,	H	族	}		與	选	不
	<u> </u>	後	丰	西			諸	. 必	如

皆危矣休從之遠自斷後於林莽及險阻處多 這日都督可速出此道若被異兵以本石塞節 若待後軍賊已断除兵多何益乃禁道進民與 及終日今疾進出賊不意此所謂先人以奪其心也

我等 / 体道

旗鸟疑兵夷人恐中伏不竟

進

Ì

已ガイ

聽自引軍向

皖達爾諸

粉日休

深入

製必

日林兵敗者吳遣兵衛葵石進退不能安危

之機不

一殿宜急進兵赴後及開休敗諸將請待後軍邊

是微客送馬 之英果進兵園鎮難不克 **菲計耳乃合修鍾雕城粉昌義之為戰字之備居頃** 之北東人議日魏不復南府兵梁至日此欲進兵為 平務東南魏人逐北至馬頭皮枝之城中報備 那額元英擊破之後宿豫龍逃歸魏主詔元英乘 梁臨 川王龍引兵後龜取宿豫小 Þ 1 目我之章放子質前 提柔然果乘虛入 梁王修城守備待魏兵 一人様えた 忢 峴 合肥等 1 娸 悉遷 魏 **廣** 遺

是在明清点 温城モ犬も 有人身在些 **有用之不應** 長を失情が 首有以外之

根乘艦擊魏丹軍盡發別有小船載草准膏英其衙 |女其南景宗攻其北三月淮水恭渡六七尺便 梁王命景宗等預裝高艦與魏 風怒火盛拔桐 村山 英乃退魏師復夜 賴等三千一 時俱 發矢 勇冠三軍所向特 架來戰 敝乘素 人置友苦攻分香相代下 及宋将南南承之即数百人柜之魏农大集示之 當百英脫走大眼故管去諸量土 ^ ¥. 苗承之則門是魏 城平梁正命章敷 砍 大える **水奥**魏 桶袋忽俱盡道根身自榔酸無不 (攻狱 靡敝 乒 員大眼 結車為陳大眼聚時即之啟 燕矢雨 白角如意以 放援受問居宗節度楊大眼 而後升一 橋平寫火攻之計収 右臂剛旦王英 集獻曆聲町 崩水或者士萬 日散数十合次 }; 麾軍一日 之 乃 定 馬道 数分 白帥

> 心重複當不 右桅侧王拳 何以竟置左 20 百万元號 数 若是雌指色 半示药局立 |更前軍已至以大将攻新亭道 新亭張承屯 盛泉皆失色黄回張敬見謀詐 宋柱陽王休範反攻建康朝 患守躬城事已危急若復示弱必為所居惟當見強 使假兵開門東新日賦東我寡亦何 待之耳魏人疑有伏兵遂引去 黄恒 张教兒斯林鞋 白下洗像明成石頭道 į, 廷戒嚴遣蕭進 举以 成打散 取之 |成治量 軽之承 移 万出城 栫 4 本華 成 Ż 出 一日今 放 ė

陽州 魏中

兩岸馬掛掛於淮近城中 王英典楊大

幾三千人目義之膽

ı

眼女呆

鍾雕城北

阻 淮水

外部

所擅 拔土椒類 莪之用

Ł

補之節車雖大不

能填

方拒禦魏使其泉員土城監嚴騎威之候而整滿車

堪也恐勢而無益崇祖日若葉外城房必據之外修 平數 倍 親梁郡王莊與劉 與攻善房 干人中之日房見城小以為一 也乃於城西北無紀於權北禁小城 橋内築長國則坐成 請矣守郭築極是我不易 A F音 大學都降休範信之置於左 堰肥水以自固文武皆日皆佛, 桓崇祖退魏 刀斯之特首歸 倫以 郭大雅宁退保内 △ 差之六 魳 新 Ė 豫州 柭 Ħ 果可 Ĩ 脚史框 П 22人 自有肥水 月敬見奪 4 取必悉力女 問題祭聖使 Ħ , 冠城 娀 袓 ·未嘗 þ 鉄 林 冾 士

軍权 鼓里 |建之永日吾弱半不滿三千彼精兵又盛非力 屈而 於城外至晚权業果於城東分部圍繞伏兵擊其後 心腹將一人 齊裝 叔業 使魏楚王 以魏王肅 復令傅 承察之 自墜 即開門擊其管大破之叔業 案自将精兵數千 傳承走髮叔業 吾計中耳能不測吾之虚實足使丧賠俘此 Ą **站楚王戌** 枚之永登門 命填外壓夜伏戰士千人 進 退 檴 失 皇 八樓左 叔 紫南行 右發 承遣

斯其心心

之以 走准水火瓶兢起不知 高軍 核崇 之是夜康祚等果引兵研永管伏兵夾攻之廉雅等 再將曹康祥使魏太倉口魏王 古今府書 **量火以 記淺深之處乃夜分兵** 者以 梅承破白康 **舉貯火客使人於深處置之戒日見火起則亦然** 千数 相去十餘里承日南人好夜祈養必於淮水中 祖着白砂帽月典上城次堰下水魏人馬济点 謀 莜 堰 人・未オオ 再發水衝之皆為流戶 秨 所從 獨或者及斬首數 為二部伙於管外又 **南使傅禾擘之灰淮** 矣魏 1 • Ã 果女小 Ŧ

正伸手 前更民日戴乘勝雄稅而烏合易整合者收收等其本實有聯盟之者斗務其至武復口物 果而過 南阿公司等是其電火 拒之前數學管散走敬期以舊将奉華百姓待至董林東京教育聯盟之者斗務其至武復口物 果而過 南阿公安北京

艦長剛煉獨廣木以阻其路得雷敦

日臺軍

办

至

使干餘人其職等本及交遇走手橋起水灰者大 **被徒挂舱鱼者多則關監督小巫大敗 以异等不從** 雅朱异張 前護出兵擊之羊 侃日出人若少不足 作水雅觀百次城城上投石碎之乃築是國以絕內 **侯景游江圆緑叠城镜 单大 厳 斯之** 如此則大事濟矣以是敬則軍不進奔三隨詔左 1. 美俚分变状 陳欽 進而 國不開各点 てくまる 子養為景所複執以示侃侃 胡松等集量於自 人ませる 阿畏 城既匝赐鼓吹昼喧擊极 **教松乃引斩兵突其** Ħ 敬 日我傾宗報主針 則急敗之臺軍不 日十十十 後敬 薇 M

水型市新音

野院首以東 免奴一作大 朝山实施府莫山出版不意或目公則史趙伯超日若從京城大路必與 不能 Ķ 為之致成於土山稍逼城樓將軍柳岸命作 侯景及已後来石梁你陵王輪開之畫夜兼 景泉皆走又排火炬矣其東山 入後遊鄉沙崎三萬自京日 古本哥壽 侵人 **蓬入羊侃令多榔火** 千人分配二山畫夜交戰會大雨 與山號哭動 集又軍中乏食乃從士卒掠奪米八升進七 不足豈 整士 卒不敢 侵暴及屡攻不克人心 景以其忠義不殺景物至建康前朝夕 山安徽府莫山出班不直城图必解給從之夜行 J, 下竹親負土都 進景募人奴降者悉免為良厚撫之人 土山崩壓城又於城內作飛橋懸罩二土 者什五 趙伯超計祭佚首 計 八まこご 推 六景於城東西起土山 子幸早最之数日 媄 鳒 ψ 為妖以断其路徐於内集 於山上起棲 **亦築土山以應之太子宜城王** 西上景道军拒之熱州 橂 復 城内 相藩盡賊成甚泉 四丈募敢成士了 持來 腻 有疲赢者殺以 ij 解 題不如 山崩賊乘之 沮 可 僦 恐援兵 挭 引 疸 볜 λ Ā 鎲 专 超 旋 曲 進 風 姺 真线 今城 剪 指 4 敚 Д 騈

湘浦景遊任的脚鏡平核白掛待之僧 **席之此克若坎戰鼓掉號巴丘不須交锋也** 大半 維達胡僧佑樣巴陵戒之日賦若水戰以 北道文城城中矢石雨下發賊甚泉景軍機炎 的於景使丁 波之此 矣乃命徐嗣敬自告防 果和 **赞兵程中策电老力攻巴段下策也巴陵城小** 僚佐日景若水歩兩道底指江陵此上乘屯旗夏 失道 百下不身选學但守巴丘以选待勞無不克矣又 開野州門因黃成之絳遊僧辨者日賦旣乘勝 **特引兵至亦沙亭食信州州史陸** 一、主角舞與湘東主維拒候 女珍貨於石頭具外面走 一約直 ፋ 游可 任景攻不 僧辨乘城國守偃旗財鼓安若無人景東海 李章 東五雜成五僧那為大都督東華侯景至 廷 三十 秦里且 替于 再山景大 敬悉送 一指江陵景即大兵水步總進於是狼江望 和守夏口宋子偶為南點超巴陵 べまえこ 板野無所掠暑疾時起食盡兵渡 杜 ł 別自武陵引 Ŀ 加大 和至與之 葙 好他路西 僧林至 所林婚 分 大 灰 夨 而固 ķ . <u>P</u> 艦 風 Ί. 清 将 μ

ţ.

独琴装牌後 先自分出中 处野景のは 等以 請將各處置兵以 提寺 **追徐茂将等手二干樹截其後景兵** 签等亦於石頭東北築五城以退 萬兵廟 Ĩ 古今行等 表裏俱盡故能敗我今圖石 **牌器以石頭降僧辨入懷之** 上 僧舞分兵被使素引息 連 當蘇爾先請往乃進於石頭 僧好學侯景乘削入准是寒淮口 王僧辨取侯子墓 補送工機是與管項有 鐵騎乘之僧辨以大軍總至景敗入 北景鄉萬餘人經騎奏直陳於 入城直出石額西北 桉 水 僧辨問計於陳霸先獨先日前柳仲禮數 侯景兵至蕪湖便子器核 而坐章緊在青溪境不度學既任萬望 来と大 分其势景衝官軍官軍小 景感 頭須度北岸 两州 西落星山 Ę, 大路 **炸姑**親 邦爾先具 西州 盛絶 **期** オ ە 僧 准 n 之西新 集棚 Ĥ 桺 辫 1 **站券若不** 柜景管 J¢. 縮霸先 進兵招 城中 抻 將 Ι 泉軍 仸 慮 琳 Ä

> 数人處 所便许美维 東不成 示其 去小舟晋 英斯長至姓 市 美以 **南子屋為水戰之備係辨至姑執子 游景案是部學素目內部券邊不擊且失送景方復** 再登岸照卷不由僧拜停車張湖十 八戒之日前大善水做勿與爭母将得去 兩岸子監請水軍数退往出越之大艦断 楊形干度裁職士僧辨尾細船 被接祖籍管軍里引船人浦以待之子塞乃全 祭刊 皆退雷大艦夾 塞伸步騎號 第一 不 其歸路 戰仏 交基

上

市

異術

観が

石里州

Ħ

京奏申

人其能別

是以的向江陵請行既至與備

祐椴兵學之約兵

矢石 不敢 王僧辨新医納軍船車輪納灰岸為城柜 古人 板其二城 輕進稍作連城以通之納果以僧辨為 辨諸軍水陸齊進急攻之親執 新舞 王僧辨火祓能的 考え大 旗鼓 蕭修身 Ž 怯 僧 衣 辨 設

不整确之新 前中變不數 長野餐育個 血衛斯被徒 医蜂囊蜂宫 巴康以待項之納前降求造妻子修 果長史陸納叛襲擊衛州刺 厚其泉果王間之,徽王億辨等與蕭 吾乃密傳之舊的暴夜以輕 Ŧ 僧辨防陸 納 吏 1. 兵學 (丁道 至鼓 日此 俢 貴於 共 課軍中 許也必 計 濴 納後 Ħ 联

背角

船復集鼓張大呼合戰

jI.

中子整大

人以 離石 發的 · 幸 竟 患 生 胡 抄 掠 居 民 阻 冤日計成此城十日可畢此去香州 古花風 之被其一 鹙梦坐 奉詞代罪社 **發僧辯命軍春至大破之逆進尅南** £ 動章廠寫軍接之至安陸增築城二大餘更開大聖 采司州 即史馬保理自北盟軍 下八 并善 建高模采顾钢共見弱 揻 僧 熱云監禁云以地屬於齊且兵少頗有難色者 以南置一大城乃於河 翼中 身選或侯景僧辨偽許之子偶為信然浮舟將 辨率巴陵諸軍沿流 幸取見弱守安陸 草孝寬雅火完辰粲 王 止遂犯安流被景於石頭城 僧解偶許賊降 胡床於星門獎之界無 江風浪師人大幅僧舞再 難納退保長沙 稷中與便當風息若其中 * 七大 獻日不然為辨 自當有供時 計劃 百紅 断河路欲 賊帥 為魏人所疑三爾 惟色於 役徒十萬甲士 ; 四百餘里 朱子 北 拜告天日僧 陸調斯等 Ĭ 於汾州之 給清從此 部 i¹ 介料 **伙等求翰** 戍苴 本 Ŧ jŁ 辨 7

į.	日日日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本		人同亦知及就恐其知之乃於勢內多為土聚覆之以米召亦村	東主東東 跟太尉 候項逼周湘州周遊賀若敦牧之會機提断						同之大英之一之。許作道常與本寬音論歸款意又為落處斃跡若在者養之用之人許作道常與本寬音論歸款意又為落處聽跡若		
15	人	V.	1	陳		榆	所	婚	7	之	į	
售	晋	B	恐	太		构道常	經	! 下	A	詐	史	韋
大	之	爲	爽	IJ	實	常	畧	書	#	作	#	*
M	計	拔	押	候	岩	i .	青	者	下人 新春	道	進	實
A	先	閉	之	尃	敦		不	還	1	倉	常	馬
逐	是	随	力	遏	禁	:	見	A	六	與	槲	南
#	ŧ		於	周	賀若敦祭侯典	i	用	漾	条えよ	走	秀	免
<u>+</u>	٨	道	\$	湘	푲		幸	À	t	煮	盎	州
 	1	之	内	州			嵬	搓	t	書	民	刺
1	秉	填	3	周			X0	外	:	*	*	史
人	甏	U	為	遺			共	栠	' '	静	莧	東
*	船	角	土	賀	i .		阻	卜		欽	遣	魏
X	載	賃	聚	岩		ĺ :	陽	衆		意	謀	段
見	*	敦	覆	敦			H	得		某	ĬÄ.	琛
進	肉	1	Ż	枚			出	青	1	為	養	旅
仄	N.	增	Ľ.	之	- 1		夼	果	4	落	道	宜
#	柳	修	*	會			Ė,	疑	_,-	榼	焦	房
万萬黃狗船依甲士於中與軍正見遊床争取甲士	頭	人勝為訪問随即道之與以為實致又将修營量為	存	樶			檶	道		艎	刺史牛道常解誘邊民孝寬造課人養道常華斯	iř
Į P	推	量	Ħ	拔	1		棊	常		骄	Br.	楊
生	敦	爲	村	断			黑香不見用孝寬知其阻隔日出奇兵枪棄遂所經界皆不見用孝寬知其阻隔日出奇兵枪棄逐	好下書者還今課人送於朱管果母書果疑道常其		#	加	魏章孝寬馬南死州刺史東魏段琛操宜房造楊州

謂是軍營遂敢兵自因版築克龍悉

如鬼言

章 孝 鬼 計 者 提 牛 道 常

孝寛文於永以衛務外山殿山治村所在後火齊人

乃為祭成将入室殿有天軍乃停晋南首不進其在

自精三日前其事行三日不到我之族歷足以 外手上一日為境治知便奏名其三日方集謀義之間

(野女

江月秋而其 其情状有異 英馬菲路社 能不順小路 北京班及其 |華文表日此路覧平不 兵輕行被谁自結長國以鐵領資車輪数百次之前 望果有我兵僚院失計**争與東來降**皆慰無之 伏趣我當更出不意乃引兵從小路險處入乗高而 也既遭之乃明治斯目 子子 周屎 接馬長船不坐依發盡後必後實有 出面榆沙文最軍数有乘馬投與者敦乃别 意遍今軍中恒後聞之循豫未决文表兵已至 惡者誅之從善者撫之善惡紀分威之易也遂以此 日如此則發無生止必数或以拒令吾示以恩威為 僚中先有二路一平一臉有歌師數人來見 為後代及狂學使以深畏船馬詐降真軍項造兵理 等放 題都及婚中遊以教報之如是再三馬畏不 **琪告 布擊之** 八八周,王韩退長明都 果明縣周扇彭城張列升艦攻之甚急将王東 看等 州恒稜獠叛總管趙文表計之 趙文表定級療 をおす 孫帥 須鄉 導但 慰諭子弟 調我從寬處路 四百 横角及丛路 1 進 進 使 請為鄉 攻 Ų 水路 Ų, 其 文表 引 設 境

上海赤水里

天被銀頭為土狗以樂之惇布陳二十里度兵小 之鎮至相為獨於於水題之子惇軍於東於上流

巷 椎 阿斯遅延奉兵相州丞相楊堅造章孝寬高

颉

等計

題

飲待孝寬兵牛凌擊之孝寬因其却鳴鼓奔進軍

不安· 集件 大 司目写公新至宜 永以 孝寅孝寬全藝西走每至亭縣盡 **赫討之章孝寬至朝歌疑有** 歌迷感 假又無馬遂避 哥不 進孝寬得免 苯克尼干蓝属魏郡太守 上 本 折 書 在東始 類不放其前 楊葵城 未立前在學之不然此 歷界老兵事也庫将失色有思, 有定則永路差断 **月具益主明徽决准提兵至清口水勢新都身發市** 用首為历矣明徽香科日華旗陪庫新軍事也長生 柞 不得過王朝引兵威之新士朝重皆改於周 宁文忻默尉建 州總管蜀公尉遲則 草孝寛計緩尉遅 過陳春都為知中的雅蕭摩阿百丁明微日間 入またが 速具酒食題專道騎追 剋 知 **廻遣迎孝寛悉以** 變稱疾不行使人 丞 相楊坚將不利 惡傳馬而去 礼相 孝寛至 鬼 網幕 帯 何之 於周 詻

元本於智財破之乃先射觀戰者觀者皆走轉相勝藉聲如雷日 等呼級前次 識が自然 **能者息之** 4 安得不乗り 一种至可多精果讓請仲文未能卒至方種牛享主种 自教 到金鄉特宜哥公令賞賜於士金鄉人謂為信然皆 為毗羅便者前金鄉城 主徐善净日極讓明日午時 文知其怠遇箭騎襲之一日便至送技城武遊舞 城武朔特高士儒屯永昌仲文 菲移書州 後周尉遲追逆命楊堅遣于仲文討之追將櫃 好乃傳呼日賦敗矣衆復振日其優而乘之 題軍贖 中士民觀者數萬人字文析日事悉矣吾當以誰道 文軍至以為權限乃出迎請仲文執之逐取金鄉城 避至那題學十三萬陳於城南尉遲勒帥東五萬自 **戸其題下兵者關中人為之力戰孝寬等軍不利** 百州赶趙烈三千騎先至題素習軍旅老備被馬臨 1件文簡稍具偏應讓旗機倍道而進善净透見 t电油玻料攻徐州其妻子在金鄉种文遣人詐 于仲文智取金鄉 巻七六 枞 į **縣日大軍** ķ

> 悉衆本柜義臣自以兵必悉取軍中牛驢得數于頭 ĩ **附文帝詔楊義臣教之帥馬歩二萬夜出 西壓鍾馗** 漢王亮起兵晋賜攻閣代州總管李景月 羅艦 选京師江南悉平 麻田中 兩陣總合伙兵俱賽曳樂鼓課塵埃滾天毗 聯知侍泉來落官軍伸文背就結即出軍數里氏於 其妻子可自歸如即帶之後禁絕矣衆皆稱善毗羅 一緒將多勒屠之仲文日此地是此罪起兵之所當第 羅軍大廣伸文乘之賊皆湖水成水為之不流獲 小爷爷 楊義臣敗鍾馗 人をなず ţ 餘不能 下

波類命炎精絕軍士及顧心哲兵大敗孝寬乘勝

高校之面整 差 **灰草帶並从** 根則枚黄 是代例其 環三 臣之』 女不 于墨モ 所易養臣前張產權引兵至未濟果為管去 断主 豹與之眼能而不由如是月縣都以為怯 用王楊堅獨帝與人作所長孫展上 在日屋出路勝徹既有備故 阿陽精兵所緊點難得志如出於曲戌小山 河之東清河丞楊善補金服之 即人擊其果重稱引題義臣 後設備義臣偷精騎二千夜自館陶資河 晋奉之 養臣方 開日 於明且 **十里深潭高量不與戰 栖晋赐出其不虞奴為上集** 7 從河北盘指太原俱 极矣趙斐日阿南路 長孫及陳來房東 粉義 **熊民齊宇玄弼日齊雖** 计 書高でみ 臣被签有二 不幸さず 其華灾可一舉而定鮑 勝四 棚日引兵至義臣 每不捷如進兵汾路直 無道 從後擊之與左右逃清 來我當此戰 周主替不 厄受政 無鎮有人合出 纀 1 曺 從代齊不 得之不 Ħ 何潮雜夢 展遇其群 和 易 之 不 勒兵棋用 A 不職替 則 - 諸足 P 次メナ 14 Ż H

使取农齐人 住 况不恭 今此數將周一也三上 花食動勞根實荒濫騙侈 司馬軍事皆取次焉高祖問薛道衙日江東 節度應與舟楫横亘數十里以高額為元帥王 **两出廣陵几線管九十兵五十一萬** 廣出六合後出襄陽素 隋代陳命晉王廣泰王俊清 7 日散及處羅联者姦拳教務曲取泉心國人 衙日克之郭璞言江東分王三百年復與中國 矣隋主從之 [兵鼓而位下外名相屬內族已影影動其情於 A 角 着 **看嫌腹心離阻** 強而合弱通使站展說各阿波則 圖受其牵車惟強是與未有 關所思其心殊不自安阿設首風外在其間鎮是 安共房尚裡宜客運等策所以粮之非原之於樣 叉引處羅遭建美書則 隋分兵數道戊陳 人をしま 十年後乘撒討之可一舉而 出永安韓橋虎出盧 櫯 阿公楊素為 定心 圖分泉 八千肯受 福國回兵自防 **今宜遠交近** 還偷左方首 行軍 州 Ħ 部為 八骨王 賀若 ż 空土 帥

也国之安危在所寄任以立絕為相

帷

以詩酒板

收且奪所便 **操起妆房心** 出之間何以

殺火焰天狀勢奔收素縱兵香擊智慧逃入海

破趙之策也護送以輕

舸駁百直登江岸襲破之日

散于沿渡掩破其壁使退無所歸進不得敬此韓信

之賊難與爭鋒宜嚴限以待之勿與接刃請假奇丘 江隋楊素討之來護兒口吳人輕錢利在舟楫必 江南風智熟依浙江東岸為管周亘百餘

里 船

艦

來讀見報楊素被吳

梅索波答点 徐艘兵衆数千人收狼尾灘地勢險峭 隋人患之楊 守此 面失被四也席老之势事在不疑秦王校督諸 甲騎擊斯悉俘其東 ·京日勝 有大計在此一舉若書日下船被見我處實 軍屯漢口為上流節度陳以周羅職督諸軍柜之杨 耳三也我有道而大彼無德而小量其甲士不 乃夜的黄麓数千艘骑 七十年前 兼引舟師下三峽軍至流頭雞頭新政斯以青龍百 再西自巫峽東至於海分之則勢懸而力弱聚之則 |流迅急制不蘇人則吾失其所便不如以夜掩之 八巻えが 枚而 Ŧ 1 遺 **新軍劉仁恩師** 主九 进十

守 慶麥贝

政事蕭摩阿任蠻奴為大將皆一

大之用

麗

被水凝兒

禮之玷厥使來引居撰聞使上自果相疑武攝閣 有指忠 又說處羅侯子桑干詐告撰圖云鐵 破達吳長儒之泉更欲南入站厥不 便站展站原者攝闢之強鐵落也勝之張 **兵俘係無復部伍伏起敗還** 感益造城下高麗伏兵郭內與稅為敗 養兒人妹 さい新語 送至獲關係隻赐獲內展引亏一發兩貫為撰聞敬 突厥稱圖請婚子周宜帝以趙王女妻之進長 趣其城群 去平壤六 米護見師江淮水軍舶艦數百戶海先進入 杂 49 ij) 摄 圖有 可空因為全陳其形勢寫其虚實帝乃使元 逐謀府侵民上言攝圖权 長孫展用間 權強分裁難以力征若得生其嫌蒙十年 ;li Ж 弟處羅侯與攝圖相忌陰盟 展典 總官居法尚止之請矣諸軍俱進後見不 十旦與高麗相遇大學破之護兒欲乘勝 人をえる 形好都報強弱所高祖即位稱副攻 **酸** 突 跃 姪兄弟外 示和同 勒等欲 從引軍而去是 調蘇厚重 養其子 神處 Á 棌 淇 N 且 賱 後

惟

遦

塞後數年突厥大人其

部落阿波與

寄集

定戰累北不勝突疑調之日攝圖每來就皆勝阿波

計

1

○ 是 歩 神 柏 上 以 禁 献 春 不 上 以 禁 献 春 不 上 上 本 章 之 耳 己 一 者多 古掩襲彼 脱江 南土熱水田早熟量放收 獲之際 額集士馬聲 整見 展日 北干矣且建頭與附連 那歸 就攝觸必受數辱敦與連合達頭歸命天子為 降文帝開皇中局瀬獻取陳策日江北地寒 突厥前 後歸至者萬餘晨 動靜樂子無不奏聞賊來每 **股入即取辱順甚論** 全部 樂干 **人 有相勢關天雨惡水以** 高額獻取陳東 走馬稱為閃電 餘級時突厥降者言矣級畏景間 突厥飲泉易可行毒因 築大利號以處之其後 **新** 即何波乃晋塞上 病之處說樂干徒居度斤鎮故允蘇問 · 大孝之为 必由中足以唇其農時依既聚兵我便解 ; 瓜 和圖不 因以罪 * 先是攝圖子雅 毒水上流達頭人 達頭叛裝隨晋王 是奏請以來干為飲 先 丛之也 有備自染干內府 能制人 歸河 夜 莀 人成其 **亏聲調稿** 道去及 阿波安師 間屡暑 田收 从

Ż

佽

追 馬 7

斬

住 計大等不能 以亦見計也 どな代職兵 医矮大人 徒乙存集员 獨之張庫至 智灰米石头 之谁不錢五 **农匠器以** 第 だ何在我 隋代 給臣精兵一 戰主責持重今國家足食足兵宜固守臺城 戌望風 江東 天列 爭再 石守者皆醉遊克之 衛既而知之不復備又終 刀 益化 頃我 古奉新等 買陳船歷之别買弊船五六十艘煲漬内陳 賀若 弻 韓榆虎 自廣陵 和其 為中門無船又令 軍雖來勿與交戰分兵斷江路無令彼 陳賀若弼自北道韓擒虎自 人遂不知覺轉擒虎将五百人自橫江霄 旗機管雙被野陳人以為情兵天至急發兵為 負者 任 乃済師登隆 三者此 走陳人大駭任忠言於陳主 忠歐策拉隋兵 j. 樹被 ۲ 梢 萬金趙三百 人来之六 大兵多兵令 H 士巴 陳子とこと И 而戰兵氣益倍文帝 為常後雖集兵彼必 被 綠 俘獲自 Ι 涛 被下 江耕 防 Ϊ, ļ 江伐陳先是 人交代之際公 然到氣淮南土人 江竟掩六合彼大軍 獵人馬首 南 : ; Ŋ 道 日兵法客貴 オー 並 新以 行其東東 不 進 髞及是 信 ł 信得 絑 集廣陵 綠 Ł Ä 75 倉 · 汇 拠 įI. Ę 限之 Ā Ġ 1 速 斎 釆

矛

兩 # | 集!

民

臣舊相知悉今問臣往必皆景從臣復楊聲欲 州斯俊歸路則諸軍不擊自去待春水旣漲上江周 ·眼等東軍必沿流赴援此良策也 在於

在告雙車騎應入雁門齊王政以後軍保醇縣張中 **用场布巡北邊突厥站車即騎数十萬謀襲乘與使** · 樊子盖勒帝據中堅城往失厥

(十五萬食僅足支二旬四十一城突展盡克之惟

雁門醇不下突厥急攻矢及御前宇文述勧帝簡精 清團而出蘇成日城守則我有餘力輕騎乃彼之 △年年 大末さけ 1

香藏何憂不濟處世基亦以是勒帝帝親起将士 兵入後撫循士卒論以不復征遼厚為熟格公人 所長萬乘之王豈宜輕動樊子盖目陛下乘危餘俸 狼狼你之何及不若旅堅城以赴其銳級四 謂

天下墓兵守令兢水赴 之日努力擊賊苟能保全九在行伍勿憂富貴必 除六品有官以次增益於是泉琢躍晝夜推戰又部 使有司弄刀筆破汝等功不今守城有功者無官自

杜氏威火烧宋祖

飲養養而門 |日我與君同苦降政各舉大義力分勢弱管恐被於

章丘 以爲師 柤 **威與臨濟輔公和為例頭交俱公命於群**

扶

盗伏威年十六每由則居前入則聚後茲是其徒推 下邳苗海湖亦聚泉為盗供威使公前謂之

威與顯戰佯敗引顕入葭葦中囚從上風縱火觀架 降之伏威轉掠淮南江都晋守遣校尉宋顏討之 換不堪宜來聽命不則一戰以決雌雄海湖懼即處 若合而為一則可以敢隋矣君能為王吾當敬從

皆焼光

百人行车 へ条こさ

馬盘七矢退僚賦

情羅寶諸洞僚及部漢陽太守馮在計之私華泉

我亦律竹

|頁可知矣發七矢斃七人賊退走盎欲兵乘之斬 餘級帝詔智戴還慰省賞予不可討奴婢至萬人 萬為先鋒賦據險不可攻益持弩語左右付矢盡勝 楊玄威牧泉心

皆歸玄感玄感每警泉日我身為上在图家果数萬 玄原追擊直抵太陽門弘策将十餘騎馳入宮城 杨玄感起兵黎路灰图束 都情將裴弘策拒 之戦 败

空室重要

人實業人心

7<u>5</u>][

全至於 倒惡之惡耳衆皆悅父老争獻牛酒子弟指軍 **奶 者日以于数** 富貴無 所求电 Ā 木 顧減族 者 但 鳥 Ť

門爺 ጉ

其重題入斯之科其首由

拘郡中無

敢

動者

於是關

全以版

機民監檢境內收兵得其餘人

楊帝謀代高屋械器資儲皆積涿郡又隔翔官多 羅藝宣言激果

能花虎賁郎拼羅藝術

丞出娛候藝藝因就之陳兵而人發庫物賜戰士問 在留守而莫肖散施何以助士泉告慎您會軍選郡 亂先宜言日吾輩討賊 薮 有 圳 城中倉庫山發制

含原服貨乏境内政稅 百二年等 八名しか

7.

武周開倉收兵

隋馬邑太守王仁恭多受貨縣 · 験勇喜任侠為鷹楊府校尉仁恭令帥親 不 能 脈 雁 都人 兵屯 劉 ж

周

百 灶 ·武周與仁恭侍兒私通恐事准謀風先宜言日 人伙性 僵 展滿道王 府君開 倉不 瘶 邮豈為民 쑻 4

周惟牛雞酒因大言日壯士豈能坐待講堅今倉栗 母之意乎東皆慎怒武周稱疾即宋豪杰奉候問武 發誰能與我共取之豪杰皆許諾武 周入湖仁卷

近萬人

市大葉 敢河南大樓 使草满

野

記開教防倉販之車

李莊間倉服後得兵

心不動不同 **武男則即出**

人情詢 原西河雁門馬邑民二十以上為兵擊高麗縣是

李朝敬惠兵惠人心不附为使劉文静非為物

ŧ

李月祚部基民學高

罪官族訴若之何王威等皆懼請 於利日大人為晋守面盗賊 爾今至矣湖乃集將在謂之日武 **胸思亂者東因劉武** 編林 周禄汾陽宮李世民言 周據汾陽官我曲 計湖日朝廷用 惟宮不早建大計

文靜長孫順德劉弘基等各蔡兵遠近赴集旬日 不得巴面從之者日然則先當集兵乃命世民與刺 不笑之势必不全矣進退維谷何為 而可將佐甘 皆樂節慶今風在数百里內 道路陰要復有他賦旗之以嬰城形 古今年等 人名之六 兼親賢同同作成要在平賊事之可也獨陽若 ĬĪ. 都 在三千里外加 杜之兵當巨 ブラス

Ĥ. 滑 Д

子 9: 174

為國政民王龍本為發揮人支持黎弘倉天事济矣密造世動的月月日十月 主意 人不野给家者用数其人格世部言於李安日天下大 庭園中亦 絕在外方法 延之財也 内質を食材 文献之地方 動名以四百 女 旅 把 等來 百官家口並在其都治先及之是動其心且經被不 一道耳公檢兵出其不意長驅入蘇死其間疾高麗 民就奏於有料整兵出下除其二十二 歷下五千人海河倉元實故都者德其襲被節倉法 百日不充末下之兵四百而至非僕所知也玄威日 國之必縣其後我杭其前不過旬日資糧皆盡其象 以強令四方但恐唐雄吾之先已固年若引兵攻之 中計也女威日更言其次商日簡兵倍道裝取東都 至請夏天黃雞選先其根本我勢萬全可徐問之此 經域勿文真取長安收其專係極其士民亦能兩東 周後雖有雪中衛文昇不足為意外飾衆鼓行而西 此上計也在賦日更言其次密日關中四塞天府之 不降則演可不戰而情極後傳散而南天下可定矣 古今新作 格玄威度召奉船間計集日天子出征途在途外去 ■州叉騙千里南限巨夢北 阻该胡今所通惟山海 华港東路在東上東 大学まず 7); { į? 1 ٨, 100

75	žte	- in -		1 11:	方 の の の の の の の の の の の の の	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				注聚筑	以永人遇 发			· E		- 2 3 E	···	
官相法一里不得交雜頭東於面行間角聲而止自	汗 發騎二萬來甚處除雲起分為二十營四道作引	吳丹 冠營州場帝部章雲起舊安辰兵計之 成民可	章雲起斬狗名奏事	北原従属ところさい おれ、こ	他將雖有大功多為文吏所誰前素雖發及上亦以	為名将素時實俸言無不從從素行者徵功必録至	逐亦如之將士及條有必成之心 踩是戰無不克稱	起放或不能陷阱而選者悉斬之更二三百人復進	下本籍等 人条之下 177. 177. 177. 177. 177. 177. 177. 177	而新之流直禮前言笑自若及其對陳令一二百人	楊素用兵多權暴數泉嚴整每鄉臨敵必求人過失	* 霉素斬戰敗軍	自是类属选道:	勝而行房不覺為素也 依其明合未定題後騎極擊	乃令其騎稍後於是魏将雨騎與所降突厥二人重	常華安康被之素師斯追躡至夜及之品版起送	楊素則房華行破房	新何以示於公之下部乃上策也遂引兵而治閣···

坂木栗か宇 イ打橋幕下 **电光有威廉** 斯宏有微色 斯基而不能 义进之两 惟與同首生 半天用以中華上 灰蓝石不足 E MILE 新五十五 其便而在此 化上行色 河粮遂二鎮人馬告給 **附字文述子仲文辛世** 正之送聽還民而倫之議以精 卒皆於幕下獨坑 人别 三石巴上重真能 首之非賜矣厥條皆衣 儒芸其管五十里題題 云府梯族與高麗受易敢滴准事實者衝契丹不 **支末德酯營苗降以觀虛實仲文将執之劉士龍 基龍之甚厚與同甘苦有攻戰 银冷上票學之及戰 矛序本事突厥不相猜总雲起阮入其境使突厥** 8 N Ŋ 依威襲東自稱 1 所剣 i 有於是突厥将師入謁皆奉行股係真敢 蔍 乙支文統敗 杜伊威斯背創卒 有青裔者便断之以其退而液擊也故人 無 故 共 . . . 所軍 揮之變及中路程将盡高麗遣 總管有 之贝 勝今軍中遺棄米東者新 百日種叉給衣資戒具火 椎等九 製之房 敢成之士五千 我追文德述不得 人分 養甚 į 道會鳴 多贝子女及産 人號寫 線江 仰 Ø 慕 Ú \$ ħ L ŧ A I 视

非公使勿

#

走馬三人五申擊鼓而發

有統干

犯

约

吳紋暴盡若 外丞之稽在 **以斯之官里** 取方目状長的時不匹勢 得士作权官 行之便者 原教徒十萬就李而不敢用子也克及格口教見長 衣裝量中 官司 用大葉法三年九月季衛起兵改成王世元報各 秦杖實請行於是須尾查梅而通使二人分 TA T 胡泉士日鮁是 张须胞泻河南詩樹大使時深 其前時限年本華見軍有後色故歌腹之母戰 非學門者於即者當來高方朝行在所述見士 遂府龍环去字機城三年 見因西為替文德復造化 百年看事 野不河後載又平接險因度難 二人 百騎通去 游高題自後聖之辛世權數承持軍俱務 機都就李宏久圖主世光 桐屋炤族 氟 有大利此能危事誰能在者東莫對此 張 須随 破塵 脚消き Ħ Ħ . 楼股敷添新鯛以納外兵因縱火獒其三 明月悉東追之士信叔實馳至其稱 須禮射萬人逸之相持十餘日權盡將 大 巻さな 天明月奔選須覧 再進公 悉東東追若有干人襲 Ť **桦瘦送篷至崖** 郡城屋 層 , # ; } 卡 唐擊明 明月将 梢 報 Ą 桐 Ť 卒 ± + 木 棋 軟 þ P) ¥. 退 信

聖者二八次 學工作

伊於公府王 史新 建た資不明 儒常語事後不前去後虧求京師久之永知名自請 日此可謂足食者質問兩日國以民為本民以食為 李密既服洛口倉無防守文券取者随意委奏干 古へ手手 每有所籍也今君處必争之地不早自園則大事去 成之所被华天下然而一敗不被卒歸府者固知天 用持久或極盡且去我追擊之取勝之道也 天今民職員而至者以所天在此故也而有司 百數淘米各水兩岸十里餐如白沙密喜謂賈問前 米厚數丁那次來就食者近百萬口東都降者日 矣李勤得書送定計點唐 密守後與書目始魏公起叛徒振骨大呼衆致十萬 安輯山東乃程配書送趣驛至于黎陽時李勃尚為 無見財歌勝不貧此二者不可以既若沒也 越若此一里米藍民散熟與成大業 賈問甫讓李密族糧 新華老之亦發所而 類日熟於難歌勝而聽將銀士水傷器 へまより 設 類日老 竹鱼 4 不 丈 08037 | 孝

文解 \star 李 4 非高光之才不能定也世民 坐與李密連斯繁蘇世 馵 藪 我 八千年 之謂晉陽 世民見府 百姓 當此 ij 日今主上 來相省非兒 Ŋ 衠 (世民日君言正合吾意 文静 不從以此乘虚 木 . ļį. 未 十萬人尊 之際有奧主羅駕用之 避 入ままぶ 宫监裴寂日 室 說 人城 南 方 李 錦 Ł 女 亂除有安天下之志劉 世民 文裝父輯 文 侑 西藏長安 办 ĬI. 入關號令天下不過半年 肵 静為令 准李密图 贫 民往省之文 起 t 與君謙 兵入關 新之兵復且 人雖 FI 數年 安知 男子之長海父 取天 過東 大事 舢 男楷行前父 Ļ 靜 命世才也女 知其豪傑 П Ŧ 都 也 無 **欺萬一言出** 幕 益 天下 如反 計 但 丈 Ä 静 持安出 掌 発 굶 大 莧 拜正 Ħ 耳: Ü

> **跋之卒不可 聚王贝何鉴** 不可冬史 常山京人公

要長歲百 教住基守 阿頓肯之

į

* 冷覆懷

不好避是在而不眠

ŧ

泉

附兵强

天下定矣不早為

肖

H

Ŧ *

春世期 古人愿

经自

簡精銳倍

Ü

IJ

炦

£ Ц

菜者合公

新籍卷之七

男豫

ř

建憲公

夾

東

郗

入其外 漢母之

柴孝和

說衛

豪

地

臫

Й

Ĭ.

侄秦舰 三順父

滿將 從兵猶泉我兵皆山東入今未 有先我者悔之無及密日此誠上策但昏主 Ħ 出於草益不 Ħ 洛拉揭豪祭得撒而 相貌

--

逆之則各競

雌雄

È 我

止 Ā

下浴誰肯從

推奨以 改我方 **| 收** . 青 起兵 辛 有事 於 H 西征矣圖中平定據除養威徐 騎其志使為我 八牧野 之功未為晚 至 **所望左提右挈戮力** 中職中 在也以書名李密 湖 岩連 得書 也乃 塞成阜之道殺東 笑日密 絕之是 復書日 安自 更 同 銮 Î Ÿ A 天生 轨 恃 释大非折簡可 觏 枚 7. 奼 茶 强 不 要於 鸖 都之兵我 Æ 狱 蚌 加 Ŋ, ż 甲 庻 爯 有 势 맲

奲

收

秋非子

ħ

誰老

大年逾

办

焵

不

及

此

と不 単樹 正實甘言直

> 土頂 残商

李

胤

ī

۵

ŧ

ŧ

水上し

j.

李湖書雕李密

路不水 人替不及此

H

大泉久聚恐米

· 位人

散師老

胀

實

躾

Ħ

獨夫號令天下衛壯其言以書

祁之洪客竟不出草

Ĺ 冹

都 功不治

輓

灰

季遊取之機因士馬之銀吊流東指直向

禁祭陽倉恣民就食太山道士徐洪答歌

ŧ

以前特以教 不非推断私出 一人 **北兵身不能** 等则 其河栗前扼其寒後将其背彼不 |日届 突通精兵不少 相实通将發勇擊萬屯 **蜜遊祭世功師麾下五千人游河會元寶教** 徐洪存献書李寄 我 李淵議破風突通 進攻河東基不 為之用然通畏罪不敢不 相去五十 能守岩 河東拒 全軍守城則鄉 **餘里不** 李淵娟 出若自 走必為倘矣 敢 謂王長請等 乗戦 濟河擊 郝 * Ł

絕 卿 刿

> 有受験之言 **阿煲之亦**

þ

ķ

看去

常士十

3.

定矣 输之必 家傑 李涓 **欣赏** 下萧造 之長属 日唐洛見推天下不足定矣 告 既 在 大 ٨ 從風面樂義師 企題以待義兵粮在馮湖矢知其豪傑請 克分格指将荫先攻河東任 褒能李洞先取 精見律復封 弟拳龍附鳳 鼓行而遊直 於唐斯 唯弟草府國蘇 被承 自果山海河指轉 調中 9 祭足矣 奜 得 ا دار 長 以少 ٠ 奢 安顯中間已 說 į, 得 · , 光 民 湖 寈 過節 示 H 符佐 八宗題 勞 徃

拾之而 Ť 危迫也不若先河東然後西上李世民日不然具 趙長安衛陳 李淵見河東未下三觽桑傑歸者日以 知所之 猠 ٨ 吾 金 李 席界勝之威撫歸 去若進取長安不克退為所鹽 世民獨先取 人奉えよ 不决 表放日 長安 附 扇突通權大東惹堅城 之泉鼓 行而西 24 H 腹背受敵止 干敷练 (11 長安

引

푬 奼

弘基靖班師世民日東方諸州已建 祁 **胜则大事去矣且** 若 图河東自引軍 懷也屈 淹 图王世充於洛陽旬餘不克將 李世民 **图自葵彼得成謀修解待** 突通自 国洛陽不 Ħ 守房耳 關中聲起之將未有 退 衣 足為應問 我坐費日 風 ± 思歸 **数服惟洛陽** 順從 所属 Я 親管到 之黑清 不 深心 可

4 離

子 9-179

Ż

望風震駭智不及謀勇不及斷取之若振稱樂耳

才 為那也へ 程蘇モモを 宣其分合自 宗真若觀火 思非但原功 決體而降 R 徐親其變鄭若田因而取之并二國 心 举之郎城則夏有尚寒之憂為太 泰王 使鄭抗其內我攻其外唐兵必 充 步後 4 復出矣命届與通師歩騎五千渡水擊之兵交世民 日服势窘矣悉泉 Ŧ. , 鄭 * Ļ ٧ 騎 世充帥泉二萬山洛點陪較水諸将皆懼李世 出入二年鄭人日感 王河南夏有真方此時力相 討 退 1 郙 报後必難圖唐主後之二 31 唐太宗破王世充 w 王世克於東 縦 ጉ 兵乘之直甚城下遂圖之 說實建德援鄉 身先士卒與通合就散而復會 アメニニ 而出餐幸一 智力巴斯克在斯夕若 都劉 対 州 **美夏上** 邻唐郤面鄭完然後 襲 今日 不 持 兵乘唐師老 王計 建德 魣 勢也合唐悉兵 唇破鄉 破 莫若 者數 之後 H 使旋師 唐: 拔 19 虓 F 不

#

敢 民

> 李世民,節将草葉定典日始畢敢奉團 倉卒不能 赴接宣書明引旌旗令數十里不 泰王教學定典被 房策

天子丛

調我

- 以實典權 # 此皇而示之 重沙之计会

班阿直是推

| 人

行 进

城面艺

敢言

師者斬仍

者遭封德葵言於唐主日

世充

脫 H

చ

不

觤

人

功在垂成奈何桑之乃下令軍

þ

李宗 译守者僻衛等遂夜亡去抵平原賊那孝德不見 古令新籍 支黨改造帝所衛開東日吾等至行在 軍至時突厥候騎見軍來不絕果聽告始畢解去問 **红效相應使房疑教兵大至必堂風遊** H 脫 即威幸報應使者預金禁漸強益市酒飲笑 何為安就再錢聚然之乃令由所 初從楊玄威及玄威敗廳行入關 李密說翟讓劾劉項 大木たも ; Á 有 為 去定典從之 運所 全示監 遊覧令 耙夜 獲 使 廋 尚 讙 裹

日吾係孽益偷生草問君言非所及 李密說聖謨 灰 荣

也

西隔中

可遂有也建德

日善

僌 势

> 可提 彦見心堂不 主外民群集

小到

鋭席 都此 氣挫于 H

卷二京指罪陈暴為天下先隋氏不足込也

項裔起之時也以足下雄才大界士馬精

去之東郡見雅讓窩因介其徒

Ŧ 侑

當以策干聖

誎

제

項皆起布衣為帝王令主昏于上民愁干下

遼東和親絕于突厥方且避

Æ

楊越委棄

東

野番者必先 斯格斯

用使 民 李密說羅護日今東都空虚 臣大 日東 撃之 避之使其欲戰不得坐費歲 者無如義臣令滅張全爾 杨菱匠 之水奈陽諸縣 常苦不給若贖日持 5 官司党之始為守俸聽告江都衛日事勢如此 帥 Ŕ. i 力可 計 計天下可指麾 攻陷之收兵得三千 破士達斯之建德與百餘騎公去至饒陽乘 手拿 李 海公未能破 精兵逆擊義臣戰 賈建總說高士 防休兵常教侍士馬肥克然後 密說翟讓取 計高士達建德謂士達日 4 叚達元文都聞而 玻也 歳 日 食べて 多下 不然恐非公敵 公今 敢遽自於大膈即至矣後五 而定乃遣其黨規 東 建 久加以大敢必然浜散莫若先 士衆野多倉原無 都 办 建 **無謀非將軍之敢若將** 餘 ١, 而 官 勝因権 來其 Ä 月将士疲倦然後乘 越王幼 軍 小達不 鋒 歷 酒高宴建總 冲 從 不 鄣 典人爭 政令 東 留建德守营 可 積 府將善 當請 都座實留 雞 不 ·利蒙 資野 H 閘 引 A 士 美 Ļ

移也 放以移放可 放火桌則二 一大模技术 分兵以守先 **東東都即以** 萬不許玄藏 大柳以其代 玄像木不在 許雅線何也 意欲 之业 王親鄉號就先據成年以逸符劳決可 之至此兩意合從轉河北之栗以債洛 請退軍潼關及鄉侵地復申前好世民集衆佐議之 郭 如混 一無期今室分兵守路易保濟商量勿與戰 紊 古谷肝等 和場 英雄之界非我所堪惟 來吾有佛矣然後撒名四方引賢豪而發計策 精兵七千 察被未能故取之如於不耳發栗以服窮乏遠近歸 刑百萬之聚一朝可集畜威養銳以逸待勞雜 可不發今百姓後煙路 食故為我病建德自將遠來亦當極其精 Ŧ 孝格日 而受兵權除城內所傳布政令竟不盛歌讓日此 矣薛收日 兩亡之也宏據武年之於以 图王世充於洛陽實建德悉泉放之近於王 郭孝格即收定計拒資建 世充躬蹙勢将酒轉建德遠 出易城藝路口聞倉怨民所取老弱被 人本之と 世充府庫充實所将江淮精銳但 **君之命盡力從事於是密於** n 倉有積果 梿 拒之 新軍 克也建德既 房則戰爭 伺 來 隙 相 老親 銳若 5.祈勤 助 此 選 後能 打 方 ٤ 書 負 徼 天

造在非所证 也 居人秀不建 追察開其知 不可統法或 此為打干的 數千醛大字 医所以囊芽 全生的建立 不得不自求 之乗 秦王 被世 奉 建德 中 ř Ł 古今 諦 彼 £ 癝 攻 Ī 宇被唐主阻擊累月不得 在 IJ 春 大 胨 掔 秦王 櫭 速 杁 世 關中 栒 取 日今唐以重兵图東 酮 麦 充 中宋全 畫 民 Ξ 戟 世民日 養 逐 Ŧ. 汾晉越浦津 懪 £ Ħ 一世充 逐 北 計 我 掣 養銳挫金 追擊宋 州 昳 霰懼鄉 Ŧ 宋全 5年解 縮自 閉 刷開食畫北 北 河陽 不 斊 营養銳以 £ Ŧ 米さ七 * 避 ٨ 削 刷自龍門 夜行二百 富通走富待比機 IJ 東 邚 不已不受身乎且 刷 懸軍 1 Á 路無人之境布 重将戊之鸣鼓 都 侚 图 Ť 解矣建德不 裲 走 栍 都 建態 泺 Ì ١, 餘里戰 追及專 其 入 渡河屯 守虎牢大王若悉兵済 進眠 載 引兵 屰 鹣 鋒分兵分關 精 東不 矣 柘魅 數 相 崩 地 푡 朱 未室速戰 將 £. 一十合 \pm 遂為 女 收 ٨ 猛 利 枚 倅 E 廣 兵 魪 桐 凌發 言於 # 傲 Ž. 衝 太 充兵至 H 拺 持 世 以 袞 弘基 Į £, 民所 何 大 葥 行

累

1

英主作用 件款 看大手

介 ik

将

碳

之日大丈夫以意氣 单中 古 追及 盟 不 î 無及 殷 货 奉介 K Ŧ Į, Ŧ. Ŀ * 壁 走 害良 已是日復偷宴會世充自将兵數 開 搫 鞪 帅 £ 道宗宇女士及論之乃 唐 拝 止 雀 絧 泉 於 鄆 批. 择 ηt Ξ 朱金剛 X. 酉 有 퇶 ż 休及承安降 **散斯學之出其** 國意願身乎遂策馬 ú 此 ± 八宗队 各 世充會專 £ El 門背城布陣 (矣兵 一年與特士分倉水如其外於金剛 若更老百 蘳 | 教德標: 因赐之全 一日教德若叛豈在尋 沮 枝 內 非スト 日入戰俘斬 功 漫 之用 赐 畢集 錐 敕 柏 長 相 使之計立解成不 戍 日少 今執 期 料料 振荡将 南北 僡 陣 復進 祈 勿 後 易贩機鞋 伙 Ż 典事 IJ 逄 Ł 全 數 而進料 未 去 小 猜 桑 ø 削 里 萬人不 脱 教徳 Ū 相 貮 李世 相 漿 橅 大 世 烏 介意 後 Ľ. 降 守 敗 ± 侢 民 Ř 汝資 引 耤 囚 引 介 助典 尉 解甲 不敢 可复攻矣吾 あ 日 來戰單 我 為 不 Z 入 休 進 易失业 全 散 # 臥 飹 刑 右 Ŧ 艮 飬 者三日 复 M 怹 私 臺 不 内 府 道 亿 月 小 Ė 計 威 IJ 慰 後 尚 貌 往 孟 却

招集戰亡骸骨散太牢祭之太宗衛哭盡哀兵士勢

以告其父母父母日音兒之 成天子吳之 成無所恨

李別唐指兵在軍藏其城否開

人片善

視凝而從事

我有 事為一家財政之內皆果赤子原

一、推心管

入寇則為汝務無義中國之民可以少安華臣該日 汝曹穿池祭花尊智弓矢居開無事則為汝師突厥

於律以兵刀至御在前者終今使将士智射及庭萬

在夫職發出於不意非以重社稷也太宗日王者

李勒全的散構士

信者獻 皆乃日此成遊非接 自主也即東充降高祖 千王旗 題乃異主由率兵題我稍其將陳有略獲排 ī À |找且又立功使版 唐太宗親征高麗駕次定州有徒卒病 王王尤美禮賜以黃金 秦叔寶初從李密後歸王世充見充多詐欺 ₹ * 磨太宗金鹿赐叔寶 唐太宗問苦吃創哭言幸 號將也斯直 À 北泉人意公子 人外える 內可食當割以啖爾況子女玉帛 趋 **施券日鄉不恤妻子而來歸** 王敬德羅馬大呼橫剌 灰栽 獨保無完初相 不能 使事素 奥 稍兵六 進 下虎 報述

> 則進程畫則 種絕放是仍 坚不爽未見 莫聞之複卷 機力原大会 故思相言保 其舟类其車相持六千於日度黑圓糧盡必來決戰 墨蘭敦雅製造民堅摩不應黑國本人里養水產便 進打為火柜之前世民進程不振超其係選遠之記 對黑頭自翻漢事在局理食泰王討之選軍洛木南 秦王是扶佑林成果图

接之月多推治於下前後在軍所得全帛皆散之将

有大河接出於不在下

1

|万使人摆决水上流黑圈軍士儀因果率步騎二萬 南波洛水薄管而陳世民自将精騎擊之黑圖成戰

等齊突厥山東悉平 居太宗日引諸衛數百人智射殿展論之日 **益日不决守吏决根洛水大至** 古今千季 **唐太宗知用兵之要** へきえよ 莱 遂潰黑闢 ٠. 朕不 典 池

子9-183

願

è

的现在分量 **東他兩京剛** 別温素傳之 李之翠也被 こ議参以前 浙等財産方 恐惟五變我 野家菜群等 全華放不一 新者在之 范建下数 库模之日本 爱贵不堪推 布雷府節号 選 軟工何以 之事即三月 有歌妙太宗 長肩之形然 小常王之魔 滋作多 安之使還故土便 策也温彦博請學 藥以 及民 以實空虚之地使 中国矣仍於定 |交限之間分其種落散居州縣 数年 其膜 貞 百本 新等 弱丛 强强當其弱飲樂吾弱逐斧不過數 ú 觀 散各署君長使 1 用 弱則請戚强 Â, 頦 時突厥降者十萬口記草臣議區處 唐太宗與辜 ,出其陳後及而攀之無不潰敗夹 之間 中 兵之要每親敵陣 必為腹心之 突厥 奈 古真之 参寫精 何宿衛之士亦加 雖 東州 Ī 米える 봬 ā, 不 河 北 熯 _ 中 臣議處突厥 稅太宗背言吾自少經 疾酉骨之關前 叛亂若留之 中国桿蕨魏徵以 建 都 相 H **國息卒幸被亡室** 旋府為其節 武故事置於 臣属則 然種類區分各有首 分立各首長領其部落李 . 脚知 ı 其異 綪 函 分势 教之耕藏可以化 : 送平 P 弱 寒 事之明婚 圈 度 ٠, + 普 Ξ ほ 戴 年之 為戎豕 下 此 敵 悉徒之 百歩吾栗 是 以吾弱當其 女是 不能 順 乏 ¥ X 其 胂 3 13 퓠 也 费 Y Ĩ Ž 抗 宏 河南 朝 自屬 方

÷

嵛 Á 佫 長 Ť 因 ħ

具者 **李** 於 是 華 華 於 險 心 地 成者員斯屋 太宗不立為 月期永久 **有者否如此 快夢其國永為著鄉內安外軍不亦善乎** 世得 高昌 寇伊州郭孝恪擊 **赴之耳然則阿商者中國之后膜高昌者他** 此乃 產群裝成亡者衆散使養被酒泉 西突厥 要追申問如惟本因夷如妆兼独中間以孝四夷 奏後大使新看衛山到豪比大亮言欲懷 守其地 万貞親四年 西央歌祖格散在伊吾部 一君長求內具者獨廢受之使居 ć: 何樂祭本根以事無用之土乎順擇高 李主民政宗服果 * 随虚惠面收實利也 「花河西州縣斯縣不堪供您不如服之其 **精述良諫屯戍高昌** 本以益枝葉也本非致由契繁 李头先接渡失旗 猪基 一夫斗栗之用於當發 陸可行既并沙鉢羅 良上 水スト 敗之初高昌 **凝日性** ŀ 危手 之泉 褭 | 離右 有烽 商昌 蹇 蕨祭兵于侠 Í 外 包有勞費未 諸州 燧之警陛 栁 悖 В 爲 Ù 人屯 强大 中 选 李太亮為 月子弟 人之手 푯 者必先 A 戍 遣 Å 郊自 4. Ė Ŧ 砹 ٨ 苵 ji. 佰 Į

取作 奉室奉王擊薛在果果東京羅張在之諸将 與被殺持之 合二十萬擊突厥恩摩不能黎師部落人長城保朗 華吳陀聞太宗將東封日天子封泰山 用之未易克也悉之則散歸聽 其不意被之斬護必多若緩之則皆入城仁呆抵 之何也 榜步兵又無攻具直造城下泉皆以為不克而卒 我軍都東士東祖後城侍隊而騎有輕 以誘之羅族大喜遊鏡攻之鼓 彼騎我會可一眼竟也乃令軍中言戰者新 其精兵萬餘人諸縣皆賀因問口大王一戰而 努不可失也遂進團之仁杲 障羅裝廣師騎追之實聽 雕玉棟於原引大軍從原北田其不應自即晚騎 時取恩摩加拉村耳乃命其子大度設發諸 餘日仁果糧盡所部多降世民令果實管改 太宗通前破醉惡陀 服為謀此吾所以克也 开幕 世民日羅 参える : 联所科旨 叩馬苦谏世民日被竹 í 龍外號將悍卒吾待 将士多叛計窮出降得 外折 日世民度其已 **嫌虚弱仁杲** 主 請戦 我心 境必 相持大 世

一款使

隆 i

原!

Ž

一件之 ķ

Н

州道

さ

H

芹

廷

部兵 Ė

找

祈 出 取

人也空共及 沙口特能於 法得其負用 上對策之種 **豊人馬雨**老 堤遊秋年是 連成 校整劉 |张且菲之老生怒引兵三萬分道而出獨使农 志玄自南原引兵聯軍 成陳於城東世民際於 超召後軍飲先食而販世民 百人 學復典 王黄宗丁洛事大政奏畫寄軍俱 世民日老生勇而無謀以輕 李湖引兵 动如计大败 避見客不能建退再勒思摩燒雜秋草彼糧 負其強盛輸製而行数千里馬巴麦瘦見 守則 こ乃與 無所後卿俟其將退與思摩 Ŧ 新審 世民将數十騎至城下華粮指磨若將圍城之 秦王被老生 使告急部連李章動分道擊之派 世元政李衛 弘恭就有志 輕以或於我彼恐為左右所賣安敢不 数百騎先至霍邑城東数里以 趙霍邑 庭院 *** 洞恐霍邑 **看老生隙出其背老生兵败** 城南湖建成小 į 日時不可失淵 騎 那 摐 粉朱老 一牌 之 理無不 † * 奮擊被之必 却世民 4 待水兵使 不 利不能 # 75 # Щ 製月 Щ 典以 旗 H 脫 建 建 淵 巾 <u></u> 畫 速

大閱養州

脐

秋

涂峽江

壽勢 兵以

脹惡諸

将請 一者恭

俟 李

江

平乃

所發

鞯

Ħ.

Л

奈何

輕以資

献

靖

銑

Ż

地

南

被 Ί

根表

東 當

丳

桐庭

吾戀軍深入若攻

娍 日瀬

J.

拔拨

丼

U

集 Ж 育 陵

蕭鋭

荻 李靖

江陵

祁

發巴蜀

赳

郡

Ŧ

靖

綂

速

兵降

蕭

銑

望是 進精

震難不

K

Ŧ

兵無 不

祭我

日兵以

述

神令士始集銑

及

岩乘

雅二干

餘東

F 掩 寫

銑

果不備孝恭等 就使倉卒召

拔

其荆門 ij 知

定 Ŋ 水

撆

之精

E

洪

使

将 洪悉卒數

F

肯勇士今新失荆

#

状

jt.

枚 不

肽 ġ

Ł

師策非素立勢不

久且

駐

進至夹肢鏡

船文士

萬屯

清江

孝

芬 都

被於· 山伏 有 **谿谷中** 軽 |世元 A χ'n 軍士皆林馬摩食運 不 仪 壁业 世充食遺 百百 明 密俟其 崩

孟護 兵剛 示弱 阻 小成 冽 淮 壓其營粮焚產落衛大 民間 為固 Á 牙等 王世充擎破孟旗 Ħ **经兵學之戰方酬世** 亦 įΣ 山这族前都至肝胎泉 於南 皆 都 老之と 丞王世充將兵拒之泰 **給堡自固野無** 方抄 植何其 亷 1 . -充 虚 所 伏兵上北山栗高 椋 + 胀 兵州擊蒙 بر بر 架 楊陰要廳 ĸ 檬 4 万 果 茰 Ŧ 爵 Ė ĸ

散之江中使 吾表裏

而下

兵見之必

謂 舟

Ή

茂己

軽

不

穫

蠼

有

棋

將

安用之 被未

Ą 敢

亻 П. 受敵進

推

月吞取之必

矣援兵見之

果

桑

不 進

Ί

焚鏡

Ŋ 旬 棱 进

外

且

紀帥草

臣總

級布情指軍

た 神真黄泉 だんり 連載 歌 南岸 李精擊蕭號栗 有罪彼骨 ħ. 其 ŕ ሾ 都 皮 ቒ 外 評事 皮 存 货 李萌計祭蕭 郭大 請籍 X 炦 還 办 併力 A Æ 而营孝 **红委角** 分兵歸 養 刜以 **线**拼 以來本非其情不當以叛 歩ここ 丹艦 灰 楥 兵未 銑 南 巷 Ř 守兵分勢弱乘衛擊 柜戰者靖日主者之 献掠磷舰其亂 講 接兵 通販之威守非計 楚兵尉銳未易當 使 至 進鏡 進撃 散之 櫢 įΤ. 麦 接兵未至遂 中請 之來 **餐兵擊祓之即趋** 将皆 逆比之 魳 滕 之善者 ż 乜 予 孝恭 直 嫠 F 죾 E ٨ 扺 列 若 而取 犄 不

ĸ.

子9-186

是兵法面全 班 然不同民 利見之えれ 11. 伊克山 字 がんた 1、自八十人 小帆船 近無 が是長れ **有食物** 以為長己不 **必約的項**不 意义其繁女 **岐州 寿許**京 混念 嚴降會天大 擊焦營 舣 兵校之建榜前連守賴重自衛椅兵七干班 4 公脏反 其營學之士卒大亂世雄進歸 太士二百 (您致妻前除於約原為菌學稅賊自散稱作之引 俊 ŧ 8 **酒要為鱼坐皆失色孝恭自** 從為德里長河界依與盟不設佛襲殺其軍數 馬干船網以敷 释舞 改 挨 雄計李衛行至河 郁豐酥 安郭斯者具詩城高士建 實建德城事 實建德泉 E 潜 愽 部李孝恭 柣 m 槉 建信謀還襲之去世 安聚 八落咫 、南馬聲言還入 豆 別降之未至二 八十人先行令徐泉 我今去遠取 厚房 B 官建德妻子殺之 谷べる 破薛世雄 夜朝 尺不 騎建遊斬之 討之引兵超 - 1 公林 辦建德喜 閒 單七里 P 如 肵 4 ÷ 以オ 徐 t. 天欲 绗發 井 日天費我 枇 Ti П jΤ Æ # 蓼 74 鹏 **新發大饗** 峢 約 + 増 建 木 建信 Īΰ 復士 E gr 頁 芨 無 也 夜 枸 副 梅 建 ¥ 送笑 1 Œ 平 楻 营 詐為 包念 1 唯 Ť 펡 帥

肉其不及 特之大有首 兵技之格兵乃 可兵絕之真 · 住野 突厥 退有 する 肵 13 凊 4 7 選精 管孝恭 Ł 山 Ħ 破 將 公輔 梁山孝恭来勝破其別陣公祐走月 腻 君 D 柜戰孝恭堅壁不出遺奇兵絕其納 部 破之惠免核 公肺擒矣幸恭 戦 其果痛亮等 議 連 Ŋ Þ 李靖間道精顏 所忌艘 粉车亦 排 李靖 4 種解畔李靖串動騎三千縣馬色遊惡陽 **今方持重待公前定計耳若出不意提攻其** H 鐼 H 師三 陣 蘇丹陽季靖 **扒不動明日以廢兵抑賦量** 授首之群盡飲罷泉心為 公庫罪惡其盈今仗威重以 彼 Й 計 IJ 背蒙惠非萬全計且亮通 B 雞既保石 破輔 勁兵連櫑州不戰以老我 待俄而兵邻賊 生えて 江道葉 电當金陳正題步騎二萬屯青 自降矣精 公 剻 興則 却月 趙王孝 年未可拔我留不得志 退北 日不然二 城延表十餘里為 茶品 ·從之果檎 安 瓲 之公师 尚邀擊惠亮退 好不 挑之命 公祐 Ħ 隼 師若 道服 陽追檢之 岐 雄 道 消 凊 'n 遣為 盧風尚 候夜鄉 馮惠亮 K 城城非 公 取 掎 林 積 Ħ Á 沝 Æ

徃 碐

Œ.

在北其一節 法日提人前 耶於 李勋 足 去其 迎之又 隹 兵多壽舞科做應變皆契事機開人善紙掌嗟 從之頡 到房丛 若約壽薄之房不戰 與李祐合因 ī 也 征 推 ٨ 功於 為通漢行軍總管出雲中與突厥戰走之引 1 牙七里乃覺部泉震清 店儉能 公諱日 利 Ż 地 道息儉安修仁 走保織 悵 Á 自安若萬騎屬二十日糧自白道襲之必 利欲走豬劫先屯礦口不得度無是降 觔 顏 电 1 :部 下所得全角 黄口 日顏利若度積保於九姓恐不可得 人方え 何足惜哉 如 鼓 大點 山北至大 Щ 恐 部使何靖日 降旗 請 進 H 綼 伙 糭 并 **冰線者** 盡散士卒故 矣靖意决率果 其 督兵疾 者谢罪 不 愁撫之靖謂張公謹日詔 饵 停斬十 传 椎 H 請奉 進 不 ţ 狹 週 . 腹心 Ħ 埥 失韓 調内 人樂爲用騙事 餘萬橋 候 敢 =: 攵 夜 運皆伴以 提 禁 信 jii. 襲定 孤 所以 語舞 頳 軍 仂 嬳 前 科 裹 ij 至 使

足與成

功

8

勒守并

突厥

不

敢

南

朝

廷侍之如

将必告相其方願

福艾者或

問放於日薄命之人

Ħ

Ψ̈́ 我 ¥

之刻条件 宋東陳徐北 **長野の生** 不停个建前 於我 預利 建態 思力盛稱二可汗將兵百萬令至矣太宗讓之日 渭水便橋之北道其腹心缺失思力人見以 百騎氏城房使其半渡擊之是不勝矣禁從之大 戰必敗不 ı 領利惶窘道去餘黨悉 城云 汝 定方從李靖追領利於廣口 ۸ **我今先斩汝矣思力懼乃囚之太宗乃** 無億汝雖 可汗南秸和親贈遺無筹令汝可汗背盟入 突利二可 **唐太宗耀兵與頡** 朴朴 德寇幽州羅藝將逆戰薛 群萬均 行去账 蘇 玄齡等六 定方 若使魔兵阻水為 伏破實建德 乘樓裝詞 **戎狄亦有人心何得全忘大恩自** 汗合兵十餘萬 米はイ 里許審察見 . 騎徑請渭水太宗與顏利 利 秱 뺩 陳彼必 烒 斯尼 牙帳 · 本教 萬 姷 M 波水 日 馳 Ī 馬二百 州 殺数 彼 ij 泉 罕我請 膈水 Á 舰 投寒 桐 為前 t 與高 虚 進 A 寇 挎 ŕ 1 破

連等有無在甲荻野頭利見思力不返而太宗輕出軍容此盛了第四人與在甲荻野頭利見思力不返而太宗輕出軍各此 請州諸學有 茶公支粉亦 Birth 以果伏兵邀其前大軍職其後覆之如反掌耳然吾可要禁務 **非共心全元** 房放表が見 也将军署至 生人瓣規出 : 胸間大使 交優之房間 日全年心之 在斯是本非其達官皆來制我我若於而為之因擊 取之必固典之此之謂也 既得所欲志必騎作然後養成侯蒙一舉可減将欲 修補則吾未可以得志也故卷甲相足陷以金帛彼 即位日淺國家未安一與房戰結然既深彼或權而 退其策安在太宗日突厥之衆多而不能君臣之志 部許之斬白馬與盟于便於之上突厥引兵退蕭瑀 克典和則固制服突厥在此軍矣是 日詞利水諸和 之震耀軍客使知必戰房既深入必有懼心其戰則 扇房必放兵大掠不可復制放我輕騎獨出示若輕 珥叩馬固諫太宗日突厥所 有惟色太宗磨諸軍便邵而布陳獨图與問利語蕭 清日突厥未和之時諸将爭欲戰陛下不許而房自 國內有難朕新即位卻我不能抗禦也我若示之以 「人生華」人奏之二 李世勒長孫無忌議破為聖 以敢傾國 而来者以我 11.11

> 干礼烟点 **天子下天在**

百人折節 人表之本

風奔清然後敢資種鼓行而前不東必不守矣華臣 亦請召張亮技鳥骨渡鴨綠水直取干壞上粉從之 老老不能坚守移兵騙之朝至夕克共餘小城必至 **始送及安市不下高廷書高惠真共清日烏骨城主** 癸市面及建安者或断我運道将若之何上從之世 也對日建安在南安市在北我甲世皆在遼東今齡 安下則安市在我腹中此兵法所謂城有所不攻者 居太宗親在商麗既克白最胡李世前日女市城險 面兵精建安兵弱面程少若出其不意攻之必免建

失敗下馬羅

語責以

負約突厥大驚皆下

馬羅拜俄而諸軍

· 維王

之間千里蘇係則人心自難鴨緣以北可不城而京 矣上從之 偏師更选擾其職場使彼农於奔命釋未入受數年 **猝我前大駕親征國人不得耕種太平乏食今若追** 唐太宗 將復伐商麗朝議以為高麗 唐太宗偏阿擾高麗 依山為城 不

市建安然後進乃止

若何爲骨則建安所城之房必解吾後不如先取安 長孫無忠以為天子親征異於諸将不可乗危徵

‡

果掠吾牛馬攻之不可存下 上日今為延済策有三引兵直前連城為見救險食 太宗卓駕至安市攻之商魔北部稱薩延壽校安市 立諸王幼群陛下所知一旦桑全湯之全驗遼海之 减當致 討但命一二 猛将取之如及掌耳今太子新 威損望更與忿兵則安危難測也且天下借衛 陛下之威望大矣乃欲渡海遠征小夷萬一 新羅道使言百濟與高麗連兵謀 古尽 新審 太宗飲自征商麗者速夏日今中原清委日東鶴服 辨不納比略帝獎日真料軍用亞夫何以 志玄雅日軍門不夜開使者示手部志玄日夜不能 衛車武門太宗夜遊便至了¥軍所士及披戸內使 以天下之君輕行遠奉臣之所甚憂也 京心殿也州縣四肢也四夷身外移也高麗罪 割店教廷 圣字斯程 褚遂良旗親征高麗 大本なよ 欲歸則泥涤為監坐国 絕新羅人朝之 1 加 蹉跌傷

何不开半难正民题目录

主道宗日高釐何因以拒王郎不收之守必弱風四十里上與無忌等便数百騎乘前觀乞形勢江

阿史 易與耳般進來之至安市城東南八里依山兩陣長 久分遣奇兵衛其運道糧食既盡末戰不得欲歸無 吾軍 市小行行 路乃可勝也延壽不從引軍直進上猶恐其不至命 聚而來不可敵也為吾計者莫如頓兵不段 嘶目棒 拳雄外 服戎狄獨立為帝此命世之才今舉海内之 能乃與吾戰下策也鄉曹觀之後必出下策成 中矣尚麗有對盧年老督事解延壽日秦王內隻 那杜爾將干騎誘之兵始变傷走高監相開日 上策 也我城中之泉典之背通中 八考之七 <u>ニ</u> ズ 英也不度智

府貞觀中文德皇后之獎及志玄與宇文士及

勃兵

段志玄不納

夜都

Į

津工大學 以東展之最 **斯库明港** 页以青烯吐 转声 法十 在不訂面便 极暴放出具 平可 |电书直遇其意思邊惠必甚於前室以策緩之使其 **英此足杜欽改口** 當以吐軍諸部青海故地歸我則俟斥部落避吐養 東侵令委之則蓄力益强易以投動難保後無東意 飲後日四鎮本把諸齡走集以分其力便不得併 青海吐渾船通前部易為我患亦國家之要今空報 耶善為國者先料內以敵外不貪外以害囚然後 阿三十年力用用 和望为絕而惡不得前劉當取拾審也夫惠在外者 今皆和附是将大利於中國也若圖之不審害且 古人子子事 之欽陵依察士姓地解劉鎮兵此動靜之機不可輕 日利武生害害或生利國家所思难此番具然吸耳 十姓之地武后乃以郭元振克使因視房情題上疏 唐武后時吐養艺和其大將論欽陵請罷 班 四鎮是也患在內者书原瓜庸是他關 保欽陵以四鎮近已畏我侵掠此吐蕃之要然 郭元振上疏誠雅四鎮正分 事 大麦ここ 而和議未絕且四鎮久附其荷國 明脫甘涼有一日答於棋衙調發 1.5 4 É . 电发 并

向無敢大軍乘之商麗兵大清延壽等請

棒

非洪所以然者皆食功外方程 南毗飲不息人不值本則相率為益本根一柱憂患 以耕 **蟲蟆生水旱起来方今關東萬便蜀漢流亡江淮而** 者多上不值與政不行政不行則管氣作害氣作則 以喻大臣伏見國家師在歲出調度之實變廣右及 之所行也傳日與獲車同就者未常安此言雖 四鎮左屯安東抒輔空區轉輸不絕行役既久愁晴 古今刊藝 伐於太原化行於汪漢前代之題齊而我之城中 摩教所登三代不能至者國家民巴兼之詩人於薄 及商遠矣今乃用武荒外邀功絕減竭府庫之實以 北横大漠南阻五镇天所以限中外也自典籍所紀 天生四夷皆在先王封 之心登 諸國意非制御之第武后從之 **居武后转發兵成疏勃四鎮百姓慈善张仁傑諫日** · 确不毛之地得其人不足以增風 後其土 織荷水冠帶遠夷不務固本安人此秦皇漢 秋 仁係諫戊 爱妙四 典世蕃等今米 八麦生士 城之外東距常海西隔流沙 知利害情貨 僨 胡中国也昔漢元帝 j 八而分 裂之恐傷 ıþ 不 ĸ À ΡĪ 刂

有提拉起房 えとかく立 老亦當不樹 庭排 水大栗 治非養最而 行從自當國

不安此為大事諸州為突厥契丹齊從之人皆是計 |陈往往上既仁傑上疏日邊歷髮起不足爲憂中上 師繇負親中克不九姓册拜李思摩為可汗使統 納買捌之之謀面能殊崖宣帝用魏相之策而乘車 題情危且圖除灰今且潜軍山澤露宿草行罪之則 麥之四鎮以稅諸蕃建為可汗遣禦寇息則國家有 部夷狄叛斯伐严則無得推亡固存之義無遠成勢 武后聖曆元年時河北人為突厥所驅班者房退 州之佛聖矣且王者外寧客有內危陛下站物邊兵 西省軍費於遠方井甲兵於要塞恒代之鎮重而潦 継絕之 美無轉輪之苦損四鎮肥中 國龍安東實遊 無房養之恭不數年二房不討而服矣 便堅壁清野寇無所得自然深入有顛贖 建守備以逸待勢則戰士力倍以主禦客則 人之役今阿史那射瑟羅皆陰山貴種代雄沙漠若 | 所問制從之河北遂安 情恐懼恕之則及側自安伏顧曲赦河北諸州 秋仁傑奏放河北諸州 人年之下 <u>.</u> 之應淺 我得其 欅

> 先打过何愛軍 XX下,正直面向 电旧多见其 古皮少不介 以おか粉花 **■■11年以河原街要飲加兵皮而轉輸險遠乃废置烽皮七根養無以河原街要飲加兵皮而轉輸險遠乃废置烽皮七** 化常 ご得寛 向頭中丁長 **唐萬后天隆開吐番寇河源将軍黑南常之學却** 日間得勝兵十餘萬復稱嗣聖元年自號匡復上 乃起兵匡復送精部殺楊州長史開府庫故四徒 李敬素念諸武用事唐之宗室人人 守有佛生 二十二 卡餘所開电田五千餘顷歲收五百餘萬石縣是戰 題思温說李教業日明公以居復為辭安 **/**> 华 中原薛仲璋日金陵有王氣且大江 魏思温說李敬業 黑齒常之府置蜂 メススイ 戊 t 自危架心憤

并力渡淮收山東之泉以取洛陽及 欲自謀巢穴遠近開之誰不解體敬業不從将兵攻 獨州 思温謂杜求仁 日兵势合則强分則 ,何南軍之至不象此執以立大功乃更蓄縮 用立 徘 弱收業

直提為便

常法報令塞為兵以 表質解體則 旗裝代丘家

り武 原建

氏專制慎依不平間公舉事皆派麥為程伸鋤 無不利退有所歸此良策也思溫日山東豪傑 不如先取常問為定輸之基然後向此以問

為凶

料

佬

天陰足 師大

机事供车是不以假生料 大き見りし 在成代記事表行儉討突厥初至朔州謂其下曰撫士貴誠制敢 例方之可述 三甲以公司 七月車中羅出擊之房驚走復為伏兵所邀殺獲殆 贏兵乗車散走房舉車就水草解鞍牧馬欲取糧壯 **可以嚴兵為之援且伏精兵於險男以待之廢果至** 尚非乃糧車三百乘每車伏肚士五人各持陌月勁 自亦降 計無所出師子弟迎謁遂擒之簡其精騎掩進甸邁 得萬人行儉陽為敗雅校粉部伍數日遂倍道西進 去都支部落十餘里過使問其安否召與相見 羅甚樂今欲尋舊官誰能從者諸胡子弟爭請行近 知之選不改佛行儉召四鎮酋長謂曰昔在此州終 山山府等 装行偷破实质 /糸えも 1111

> 高简子此行 處其言可味 食字本清軍 何不預示之 北大芸院要 銀八四不意 |水深式餘詣將驚服門其故行儉笑日自今但從我 不可動行儉不從應使移是夜風雨暴至前所營地 盡自是種運行者房莫敢近軍至單于府北抵察下 不必問其所蘇知也 掘堑已周行食途命移就高岡諸將告言士卒已安 蘇定方數兵擊賀魯

横三房殿育

西突厥阿史那都支及其别的李遇匍頭吐素連

兼行偷襲价阿史那都

誘刺大妙大 驾首校根禁

京師室遺使送歸道過二府以便室取之可不血外

使過安西朝議計之裝行儉日今波斯王卒其子管

刺史王方翼為副過西州楊言須稍凉西上都支規 而擒也上從之乃命行儉冊立波斯王行儉奏肅州

※六三三起率前騎五百騎衛聽衛軟管賊泉大清其後復征 土进所解注 随起而聽外 在戰 展尼施等復引二萬騎為 接定方題休上見座 蘇定方從程如節征貨魯至應沙川賀魯率騎二萬

えもちおず こだ石削し 引勁騎庫北原販三突歩陣不能入定方因其飢擊 之盛戰三十里斬首数萬級明日振兵鏡進會大雪 兵少舒左右翼包之定方令告至旅高機稍外向親

預魯進至曳座河賀魯車十姓兵十萬來拒輕定方

古今河岸

大歩とこ

队

東京進兵并

使遠遊則莫能擒遂勒兵進至雙河下令陣而行綠

擊破之轉項唇以還 蘇定方意擊称曼

都曼叛蘇定方遇精卒萬騎三路襲之晝夜聽三百

子 9 -193

7 <u>1</u> 2

河傍地復為城有變夏亦不

Ħ

安非國家利高宗徒

唐休璟計定破吐蕃

而房衛時期

背便院巡撫

里至 聖密送款請稱傅自効行食秘不布聞居數日 諸軍順代州之歷日級友問說伏 阿史那状念為稱可汗與温傳合便反裴行 然於是突厥係寫悉平 也且受降如受敵乃動嚴係遭單使往勞之既 派天而前斥候惶駭行儉日此伏念報傅來降 免懲衛以西旋定 司補論如法定方日臣撰許以不或事寬之於是得 日今新海一、老二七 其所 裴行儉間降阿史那佚念 都曼驚戰 無素旗進師攻之計窮送降有 念與傳相或状念 而果 烟座 遼 非

唐体璟該棄禮州 疏 П 夢 州 抡 ď

超 宏縣為襟帶自泰漢來常郡縣之土田民美玄耕 牧府季不守遷就寧慶戎稍得乗利交侵始以靈夏 為邊店初募入實之西北 突厥圍灣州朝廷議兼之唐休禄上 階 乃稱 完固今乘之則

> 另是 黄青不 班利德近於 者知兵自稱石喻四鎮其間綿豆

戰是 将軍多殺士卒其勇無比 今願識之係環以

幾萬里

Щ

M

夷阻

六戰皆克里斯請和院宴使者展現外項日供源 東子弟 騎雖精不智戰器為諸君取之乃數華先登 買麥降存布支斯格兵教以示武且其下皆貴臣首

唐景龍初朔方軍與突厥以河為境時點 **障塞檢要皆能言之故行解料敵** Δ 释 黉 仁愿築三受降 株七七 無退 蓝 啜悉泉

最软分異菜

學突騎施朝方總管張仁愿請來虚奪取漢南

地於

Ħ

河北祭三受學城首尾相應以絕其南還之路唐休

天,四有不称 古以礼祭知 河南漢シオ 行言義成長

伊不思考

以作為其以為城在房腹中祭之終非我有仁愿因諸廷議 四百餘里其其指天積牙地三百里而遠又干牛 之軍中股慄役者盡力六角而蔵以排雲爲中城南 直朔方西城南直點或惠城南直榆林三量相拒 從之因表留歲滿兵助工成陽兵逃歸仁愿悉捕 那山北置條候千八百折自是突展不敢輸出面

解尚望之 見城族鐘解明前麾下日吐 善自氣使成 吐養大將類勢布支冠凉州人洪 源谷唐休璟

子9-194

降足云武夫 三矢袋三人 内出二便新 人之常就作 於月月成時 益何數坑力 南松下馬站 之件至幽 唐中宗時契丹被管州仔獲数百到之地 字韻大兵 之飛索以 勞之日吾養汝則無食殺汝又不忍今縱使去述 將至使守牢督給之日吾草家屬餓寒不能自存 禁設兄弟三人而選軍中歌之將軍三箭定天山社 人餘皆下馬前降仁貴悉坑之度確北擊其餘黨獲 以拒之遇聽使者數十人挑戰薛仁貴發三矢殺三 問之仁愿日兵贵進取宠至當併力出戰則首皇城 市人 行等 唐追鄭仁泰討鐵勒九姓聞鄭仁泰至合泉十餘萬 者斬之安用守衛生其退原之心也其後常元楷始 菜蹇門 師庭仁作等录歩卒将騎兵輕進契丹設伏横擊 官軍至即降耳既而契丹引出其俘衙以除 長耿人漢陽 契月計緩牢四縣仁節 薛仁貴三矢烽鐵 稱仁節 州具言其我諸軍開之爭於先入將軍曹 米七七 生獲之将本威與山谷鮮有脫者 枋 释 타

(五年其意用 ○股前訟照不

歌歲省費億計減鎮兵數

萬建放

不置蹇門守具或

· commit 旁自相關我以萬計俄而薛訥至武階距大來二十 於於此前五里令目前遇寇士大呼鼓角應之賊 驚疑有伏 民易限礼 廉貸こ大臣 不明直接自 ないち 小大 小年天民事 同樣關此時 たんちょうし 放養矣房駿引去追至此水敗之俘獲如猜 里以庫兩軍間且一合而近股往迎納夜使壯 千典臨班軍合料前兵七百人易胡服夜襲之去 吐蕃以精甲十 污突厥所祷 |更丹兵不至長悉密退見伽欲擊之縣欲谷日此屬 勢甚易耳既而拔悉密果發兵逼突厥才帳朔方奚 |奏請多不相應必不敢出兵板悉密獨至擊而取 去家干里将成戰未可擊也不如以兵頭之先分兵 在北庭與奚契丹相去絕遠勢不相及且板悉密 而好利得晚之约必喜而先至戏典张嘉貞不相悅 於奚落水上昆伽大懼敗欲谷日不足畏也捉悉密 玄宗聽王駁奏請酉發板悉密束發美契丹檢見 近圍北回囚殺兵擊拔悉密敗支北庭不得人盡 壬陵 新告 人まこと 教谷 胡 服人呼殺吐蕃 温揚 **萬寇歸北次大來谷王** 拔悉 股平所 ± 市一 衠 Æ 輕 *(*61

产品 人有

香以 置淮右河南不二十年漸服诸華科以充兵可當劲 一部久必為患請至農除令朔方大陳兵衛召其首豪 上言突厥都以國礼故扶塞今徒處河曲使內何邊 突厥點眾為叛災同所殺其下多降分置河 稱福昭以金衛且言南方寒鹿魚米之僚並 閲 £

皮俸按费甚勞是為下策置之朔塞養成獨萌是為 |年問照房之患此為上策亭障之下聽其参處廣屯 古今科蒂 無東且至河水當必有愛書未報房已飯乃物股司 不孝志士

後級 二千 成功俄而和霧時叛胡分二道走股 日殿所不忠於若當蒙顕数不則乞止軍反風以發 之段問行卷甲拾暴超山谷夜週雪恐失期誓於 自東道追及之

拜伏不勝寒會罷即成其子姿為忿殺其父誤襲擊 與計事會大雪元张立不動至夕凍例為廣勒已老 百突厥鳥質動部落盛强效塞 **非元振計群姿**真 願和郭元振即 牙帳

知之勒元其夜通元根堅卧若不疑者明日往

人 内化の無いなる 八人不近日

> 軍以鉄道之 **基有無器住** 市道 逢姿萬兵房出不意遂不敢逼作言 禮哭甚哀為留數日 住迎衛進

元族至其嵌修吊贈 葛成義 送歌甚厚 佐农事安

所云能使數數則原則語 和我在事一 人不得至 突厥吐蕃聯兵冠凉郭元振 城北廣置白亭軍制東要路拓 機四百里房來必傳城下元振始於南欧口 郭元振城凉州 都 督凉州 事 觓 置和我 境

廣

稍收壓,何至匹練易果数十斛

無房患乃得這其州刺史半漢通關田盡水

地千五百里

陸之利! 自是所

当人行手 がよい 1. うえ

一 不者皆 外嗣業提歩卒門 在大雄先走险諸将從之房不處軍至囚 食連兵攻四鎮高仙芝率兵二萬 成者十七人倘其物律主房號為神 李嗣素守白石旗 Щ 領石 深入為 四面以 通大斯 大煮 所 擊靴 敗 校星 ₫

作郭以扼王師仙芝潜軍夜濟 |為所刀前時世崙兵十萬电疏勒破據

信圖

ηį

令日及午

破

直

湖水

|高仙芝討勃律軍中

初用

新刀李嗣葉尤善仙

芝麦

李嗣素擊勃律

子9-196

每一日日本新立功日雕邀末赴屯裴耀鄉日嘉運精勁勇烈献王守山日縣 有餘然臣見其為言縣色恐不足與立事今盛秋防 大門 後出 不可 走長安遂斗 於柯堵 業日今日 Ŧ. 古今开条 其處立 留鎮疏 計仙芝目 將軍俱 残弃 廣平王 收復長安 庫干香積 祠 玄宗以益嘉運破突騎施因令 師 坐須 薂 装耀卿諫任益嘉運 出陣前發數十人陣復整歩卒二千以陌刀長 注矢逐之未及管賊大出掩迫亂不能陣 李嗣素祖呼破歸 勒 前 1 進所向無敢自日中至是斬首六萬級販東 | 前以祭遂不壤地故有敗恭井久獨於之泉 不蹈萬城取一生軍無類矣即袒持長 (趙臨即馳守白石仙芝乃得還遂表開業 其城一 李娟 吾方收合餘盤 **成尚誰報朝廷者不如守白石** 米土七七 **攀口若軍亦履**其 問題華隨壤副業就之見白龍因 明日復戦制 I 北城首李歸 種畧). 境後 き 並 業日事去矣 授既 蕃嘉蓮 衛以為後 仁薄戰 絕 李嗣 我與 Л

> 雄寶兵兒聖 得己 迚 爱国者有不易帥 |之義且兵未及訓不能知法士未懷惠不可共心幸 漫口月 而有功非師出以律之善又萬人之命倚於將示不 前部卒無功選 故塞凶門而出今頭城朝夕胖肆自安葬家人 巴齊當典士华 宜嚴部申約以督其行帝乃促嘉 机儿若不 素講非制於萬全

亦志姓名其上軍還遺紋人族皆案名弟罪 古年开海 思嗣每軍出召屬長付 王忠嗣諫攻石堡 **上忠嗣弓矢誌姓名** 一一巻十十 以兵使轉校士卒 Ħ 雕 Ä

行上命忠嗣分兵助之忠嗣不得已奉韶李光所 網兵林馬侯其有愛然後取之上意不快董廷光清 國守二非段数萬人不能克恐所得不 如所以不 П

71

唐玄宗使王忠嗣攻吐蕃忠嗣言石堡險因吐茶來

天大夫何爱数萬段帛不以杜其讒 11 平忠嗣日公 士卒安肯為之靈力然此天子意彼無功必歸罪大 書實奪其謀也何也今以數舊衆授之而不立重官 大夫以多殺士卒之故不欲成延光之功難遏於

子 9-197

蕃异印芸 及 1 (12) 水塊 ロシアホ色安全 可以何可以 五十亦

57年7月 平草事名前閣以質循品 之告除山石循稅之 牛廷玠領其根本使避不得入斷退無所採則坐受 逆雖奉谷陽終歸夷派公若以 水 四 平盧河東節度使則勢自分矣 山灰已有进所滿不可許有策可以生消其謀於嚴 古今轩等 午 及也延光過期不克言忠嗣沮繞上眨忠嗣漢陽太 命易一官平光朝日大夫能行古人之事非光躬所 鍅 山及使買循守范 山前以番料三十二人代漢将常見素極言報 拿見 宿衛其次不過點中上佐忠嗣並以数萬人 故忠嗣不欲為之今受責於天子不遇以一 Ñ 說賈循歸唐 素 从 卷光七 甫 林 山 易馬 反謀 煁 夘 菄 花陽歸国斬何獨容 之 游楞光朝分 侑 Ħ ij 發自罰客 蘇 山 A 戫 恩 港 **4**p Ż

推之荐移 再軍公司非

潭减掘墜積矢破雲梁

獨互出擊之彼數首則擊其尾救尾則擊其首使賊 忠志不敢雜范陽常山守忠乾與不 兩軍繁其四将也從蘇山者獨承慶等願劾子候 光弼自太原山井壓郭子儀自馮 宠矣上日何故對日賦之聽勇不過史思明安守忠 承數千里歲於奔命我常以逸待勞賊至則避甘 華陰使常京之道常通陛 華真張忠志何史那承慶等数人面已令若令 下軍於扶 朔 **攻離長安**月 λ 河東 風與子儀光 爿 思 堋

及隱而陷風灰悉类賊皆成 大陸積馬失及薪燃之賦乘風 新土其下将塞隆城其防城使仰莊指雲梁所道掘 之周布衣養為障指城東北排水產蒙草問置之運 Ł 文 **本天道雲深廣數** 十丈 推察以進載 施大輪 清預 数千 及 革 貞.

Щ 載

為之泉爭

城

得之未

足

ij

餇

放

不得

亦

椞

朱

子9 198

<u>...</u>

尚等數人餘皆屬從耳以臣料之不過二年天下

古今看等

人がえる

據門 海之志耶今獨廣縣或為之用中國之人惟 定對日臣觀賊獲子女金帛皆輸之范陽此造有

山脂類川玄宗嗣李泌日今敵强如

此

何

騎

李泽論膜丛期

ţ

我盡由其不 使此不可與 段言为表 典則下信何 相寫可引心 化镁埃不作 白光衛務即 功不可與 te 兩鎮不可 酮吐酱内侵 华伍县置生 子不敢於持 鎮散か杭天 不可與二段 **盾之時上**で 开泉御史中丞光朝日泉有罪已前繁今但斯侍 譬矣 况日者 吐蕃觀望不進陰持兩 遠盡 忠竭力 為國家國守近二十年誠 川哀弊一日 |陈吐蕃水地上欲與之李泓日安西北庭人性聽桿 |唐德宗初發吐蕃討朱泚許以安西北庭之地 其果穴城退 鋒去則 乘其 癸不次 城不是路 獨祭仍前狂做不即付兵光獨怒收繫之會使者至 侍御史鄭泉柳飾之光獨素不平及紹泉以兵付先 李光河入太原先是節度使王承業軍政弛隊主兵 功之有泉議亦以為然上遂不 棄之找狄後必然怨中因他日從吐蕃入海如 了 | | 不得併兵東侵奈何拱手與之且兩鎮之人 控制西域五十七國及十姓突厥又分吐蕃之勢便 面攻之必成擒矣。 陽節度使並 4 人 李光弼收斬鄭泉 **李湛源奥吐蕃荒庭** 則無所歸留則不獲安然後大軍四合 塞北出與光弼南北狗角以取港陽圈 人がえば 奥 來存復命建學為港 觜 大惊而去何 勢孤 假私 及 1 地

不行不以 特异心上 考起見る 不能仰守的 在表語森商 無故 景建路 |主奈何不守光都日守之則把水鳴鎮龍門盡為 相應 各 更若 即吏民避 城面師第士請河陽時思明遊兵已 獎皆應置兵子為兵馬判官能守之乎遂縣河 若移軍 忌退尺寸地必爭令無故兼五百里則 於俠公退保潼關可以持久光獨日兩軍 聞之人作州謝節度許叔其日大夫能守汴州 史思明分軍四道務所會干亦州李光 然格陽無見糧危偏難守公計安出車隊目請留兵 不勝遂降之思明乗勝西攻鄭州光朝監察徐行 Ħ 以和 三軍庸然. **獨光獨當石獨而進部曲堅重賦不敢** 勝潤留守華勝日賊新勝難與爭鋒欲屈之以 我則将兵來收叔其許諾恩明至汴州权莫典戰 ひぞう 便販不敢西侵此樣替之勢也拿損日東京 李光朝接具被其 使者宣部亦斬 李光獨議軍 河陽北連摩路利則 月易 į, þ } **丞使者内紹不** įŧ 進取 ì 不利則退守 Þ. 酒 咧 贼好益 敢 方 相 拙 敵 爽 新斬泉 至石 南 表 7 一諸舊 袭 賁 計 厳 £ 7 進

关科二拼展 夕週河馬山 明馬 **傅之既夕週河陽留兵于人使将雍希顯守其怨日** 明屯兵於河清欲紀光两糧道光弼軍于野水波 置其首以迎火船而义之船不得進須史自焚盡思 |持橋光爾先貯百尺長等以巨木承其根題果纸 **辛光剪命索軍中化馬得五百匹繁共** 史思明 飯縱 見之悉洋族河盡驅入城思明怒泛火船欲 光獨智取良馬聽将 有良馬干餘匹每月出於河 兵権殺無遺思明問之失勢退入九門 人衆之る 南 劆 猪脂 前 出之思 環 不

> 日思明 常恨不得野戰開我在外以為必 題高庭 廣吾人 日司卒 為我原之不行則易送甘越将五百騎是至梅下問 日越日李光弼長於恩嵌今由在野汝以鐵騎智洛 與之俱來請將莫翰姓意皆編矣之既 服務高級鄉李日越皆萬人敢也 **顨閊之亦降武陶光弼降二將何易也先 必 采述新降與之俱免光獨厚待之任以思** 在米希斯日夜法奏日越日失光解而得在 Ī 勿典之表 而思明呆置 可取日

之图合二萬條騎直根城下光弼以五百勁弩城上 萬全元 两述入城恭急明聞常山不守立解鏡

陽

不若按軍人守計勝而出勝軍炎稅弗能持重圖之 兵執安思義降光弼問計義日單行疲勞經敵 眷農步騎萬僚太原弩手三千出井歷

齊發賊

稍

却又出弩手干人分為四

隊使矢相戀發

逢壁 矛

光明道步騎各二千匿旗鼓並水濟行過酸 當乃退有告賊歩兵五千日能陽來至九門 ------

#

能

更思

明陪常山殺太守無泉

聊 題文

健

至 陽李光

一常山

作壓有人

戒之日我改其北則汝潜極其前有原則來之而光 以增量城壞輕補月餘不下思明乃遇跪銳為遊兵 以為固作重數十萬泉莫知 贼垂 至 而典役是先自因也 諸將皆懼議修城以待之光弼曰太原 史思明 軍人最歌聽寇所不主管進亦不少衛賊不得 李 光弼守太原 寇太原李光明精兵皆赴 ... 所用 一乃師 灰 ŀ, 则方餘衆不 賦攻城光朝. 民於城外緊 城別四十里 Ħ

Æ.

必思

奪之矣

古今府籍 人表志小

不獲我 勢不敢歸庭鄉才勇過於日越間日

赵 被雇

其實凱面學 孤攻且得來

非棒托可先

暴小技术 善穿地道以迎之近城報陷又作大敬禄巨石 光弼建 極斃二 十餘人賊 或者 十二三乃 题管於數 光弼基軍中有小技皆取之人

寿相電

遺 其用

得袋

I

Ā

短刀置靴巾

急腱

旗

則萬衆齊入生成以之少退者斬又

令諸將 日爾華望

吾旗

而概吾处

旗緩任爾

捧

将将数千人出加降状 人詐與約降而穿地道周賊管中至期這得 贼皆屬目俄而管中地 一十步 旧

者干燥人賦東驚亂片視地後行官軍鼓噪乘之俘

新萬計

李光

弼啱斬

諸

禮目司空欲守乎戰乎 使問元體日 出勁卒於羊城 中丞視 賊 光婀 填 威 蜇

號登

令那廷玉繇

地道入 東

、得其

明

使

蛭八道開欄

為門光獨

将周擊攻之光弼命荔非元禮

李光弼討史思明屯軍

中酒

嫉

外

置

欗 1

檲 外

穿

塹

賊

百分折舞

张七七七

日善吾所不及勉之元禮俟楊開帥敢奏士突山

擊破之周擊復敗兵趣北城光朔登城望日賦兵多

命都是玉當之又問其次日東府關命論惟自旨己

而不整不足畏也不

中保為諸君被之乃命 陣何方最堅田西北

Ž

期不失召請将

倜 過

日賊 B 日欲戦元禮日秋 開個晏然不動何也元

戦

則

賊為我填塑何為禁之先

過去 李光弼沃丹水灌懷州 įį ۵ 射锋 僕固懷思棄險 人孝之十

班和可激動 不但自為主 戰光弼連飋其旗諸將齊進發成史思明及周擊 遺之 僕固 懷恩小却光 利諸君太敵我自到不 置靴中日戰危事吾國 光剪鹭命取其首廷 王日馬中箭非敢退也易馬 之三公不可成敗手 野叉命取其首懷恩更前決 **令諸軍**

獨太也再載

廷玉亭

萬一 Ŋ

不 Ŋ

堰 杊

败障于原股斯藏 賊可 **全避除非便地前陣諸** 弱功左 謀宣言賊将士皆北人邏吟思歸魚朝恩信然屢上 從賦據高原以長載七百壯士執刀隨之麥物 可陽 滅状光病言賊方 出師火北部光 朝恩藏上遺使 灰惺城 原光雾日 弼使傅山陣 督戰光弼不得已令李抱 銳未可輕動僕固懷恩娟光 致成於我不 有 臉 懷恩日我用 Ħ 如 ·以滕 М 以彼 PJ 身 Ŧ И

僕周懷思誘吐蕃回紇黨項數十萬人寇韶郛子儀 耗安慶和收衡州 **薄管伏發注射如雨賊震駭王師整而奮斬首四萬** 內誠之日須吾却城乘量若等緣而射既戰為遁 郭子儀大舉九節度使討安慶緒自杏園濟 楊宾:春星賊不得息師益老乃擊之嘉山斬首 與戰未決戮一部將以衛士妹或開送破之於是 之又破之沙河遂越怕陽以守安酿山益出精兵佐 明以數萬尾之子儀選騎五百更出挑之賦引去乘 郭子儀與李光弼破史思明於養城南還軍常 来河陽 思明子能日城益兵必易我易我心不 今 看着 緒分其門為三將戰子儀選善射三千士伏堂 郭子儀緩攻携賊 郭子儀設代確安慶維 郭子儀科敵玩軍 コーベンジャ 因戰則克矣 河 阐新 山思 胈 晝 M

遊懷恩軍爭

刺獲

伏發官軍大

潰骸州

復的拉玉亦

(A) 100 (A) 1 ·其以美之房皆下馬羅拜子儀即召與飲遺錦綵結飲誓好 有今天為我 夷音之來发 子传之更 戊其法懷原 サラン 伏是 臣何恩也彼且背主於回乾何有回稅日本為 使輸之日昔回稅族萬里助復二京今乘舊好助叛 公對日懷恩言令公即世矣因悟日彼欺 百辛 萬人比至房騎團已合乃使李國臣等各當 ち今日季 等分电要害自将电苑中而召郭子儀屯涇原軍鏡 皆臣故部曲素以思信結之彼忍以另相向平房家 斬堅堡待之敗果遁去 **眼彼下素德我吾般之當自攜承因下令敢言戰者** 然失士心今能為別者因思歸之人幼與俱來耳顧 电奉天是上告日無能為也恨恩本臣 被数 初因日吐蕃本吾甥男國無真而來是衰親也 州先舉至奉天諸將請擊之子儀日客深入利速 鏡騎二千出入陣中国統見之怪問為谁 懷恩復誘回氣吐蕃等進逼奉天命命李忠 郭子儀免骨降回绝 百里公等若 八孝之二 倒戈乘之便取 **朴此謂天赐** 一種將 我平子 一 雖 Ä ķ Ą E 身

東歩兵為諸道官

往朝恩日何車騎之寒也答以所聞朝恩泣日非公

不可 吐蕃疑之夜引去子儀遺白元光合則統泉追羅之 失且逐武得利與我繼好不 兩善平泉差 計解

减之靈武原

郭子儀誠威魚朝恩

使面近以東無期即當約郭子供修具元載使人告日軍容不要其以 ・将不

長者得無致疑手

李抱真選民習射

李抱真為澤路節度以山東有變上黨馬兵衝荒別 1つ今 打番 一人参える 3. --

東京的如 | 免其租俸給马矢使農際習射歲終校行其當罰此無式的并上 |二年得精兵二萬既不貴原給府庫充實遂雄視山

之餘土齊民因無以贈軍乃籍民每三丁退一

壯者

俊善野戦不可當其鋒宜徒管稍避之使回紀紀其 朱滔反屯員州李袍真王武俊討之馬實謂滔日 道行其優夷然後可制也陷不從出戰俊遣趙琳 李抱真破朱滔

古今食用力 攻其所於越

蕃團靈州李抱玉使李晟将兵五十擊之及日以

也以我職出 被供兵之奇 봙 居前與風稅職趙琳自林中出横擊之回絕及沿軍 **皆敗走真後合兵迫之滔夜夾營通歸** 五百騎伏於桑林抱真列方陣於武後俊引 新兵

朱滔悉幽蓟兵與回花圓貝州以應乐此面李希烈 李抱真義激 王武俊

俊計諸師內猶陳抱煎將自造其壁級軍事於盧元 拖與遺客買林以大義說王武俊使武俊從琴滔武 既稱名號飲臣置諸叛天子降部罪已並放諸盗李

那日百此行繁時安危使遂不選部勒以天子命惟

日合戦大破消 中安寝或俊威之乃指心誓天日此身已許公矣且 手且 安平因持武後涕下交願武俊亦感泣抱飢退队 天下是下院不能與競長雄榜九葉天子而臣反身 日近希烈爭獨帝號泪攻貝州此其志皆於自 了 小 獨兵東向重吾之脈亦惟子即以数騎馳見武 部書罪巴禹湯之心也方上暴露播越公能 # 李成解靈州園 大米えど 3i 席 1 於 俊

子9-203

乃而武俊结 **松雙被刚自**

李晨攻范陽敕

於内膜必科 除州即以末 尼蘇佛若有 用此然亦須

変州之間

大震關層吐蕃定察堡英其積聚而還吐蕃問之聲

万則

Ł

7 不足以

謀

斯五千太多乃

将干

人兼行

建於展而及

謀阻捷之上言禁逆未平內外軍不

激軍士念怒帝遣陸贅臨

慺 Pj

光典最质部 岐異欲及

À

馬幾與抱真相失欲班師李展日本部東討者吾二 王武俊等图康日知於趙州李抱與分兵二千戌 師也那越比壞故 被寇則那有晝夜愛李公分兵守

言以兵雄定州與張孝忠合以圖范陽則武俊等當 △ 升车 / おえよ

之不為避公奈何速引去燧感悟

復與抱真菩嚴建

悟趙帝乃以神兼三將隸最白魏引而北武俊果

李成標與奪士心

帽另自

表

乙落及飲中 并以在外值 1 行以 大奇

見式は強光

成深處未可 其身為的以餌賊哉屍 異指顧軍前懷光見而惡了誠日将發待重适宜以 李懷光與李晟聯疊晟每出戰必 Ħ 錦裘鶴

加井中

李晟為神策都將其軍士給賜 教令見之奪其心耳 李晟計塞李懷光 **廿在座原士卒頗** 比 方鎮獨厚李懷先 加

請驻梁賽

光将孟陟等自拔歸展皆表為要官帝欲再幸最請

使光氣混語 行诚削以 计所宜 使光日 乐赐不均军何以联货屡日 战战日

之發敢不聽懷光點然顧思刻削事出於已不 公為元節軍政得專展将一

軍其增損费調

惟所命

李宸光陰通朱泚國及李晨與李建徹 李晟結陣東渭獨破李懷光 陽惠元皆 即結陣趋

屯通有使者至最軍晟乃令日有詔徒屯

東州橋提孤軍橫處賊腹兵援 下八 新华 ほごよ 備 經悉二益合

被光不安静 門使移屯則

之乃厚幣致欽懷老時敖倉軍之乃使張或假京北 國家多難乘與播選見危威節自吾之分公等此時 少尹調畿內賦不淹旬為米告具晟乃陳兵下令 В

顯責之使被城自贖懷光不聽然畏晨襲奔河 命於是縣元光等悉軍從晨拒守懷光始惟晨移書 公等發力一心建不世之功可手士皆奮泣日 **陈元児取官貴非英豪也谓橋斷賦首尾吾欲** 惟公 中 奥

子9-204

而

斬之

驻梁 漢 Ž 繁天下望晨家為城質洗 使及吏

£

無思

毫無极 朔

将有軍賊姓賊馬者皆斬以

有

5.7·李晟不着天道,电士心·

季及电

李晨煲耐沮姚令言

之前且以今平辰 選 敢月為我謝令言等善為敗守 李晨屯光春門走朱 士得級令言辯者嚴命解其轉飲食之遺 勿不忠於朱泚

虚

出兵葬歌柜把且

人可用而不

可使之知也夫惟五

盈縮不常處惟復守歲則

我軍不戰

自風

矣皆對

惑題國家之利速用兵者目展日天子暴露人戶:

渭橋特與惠守貴久之乃題府中皆質日夢

動舞奶如天道耶至战平层 目始士天夫動風

李晨引兵叩称門朱泚等不出振旅

潭

明

H I

所

辞统而近之

設伏格戰居人君潰非計也 皆言先後外城然後清官展 字合 哥尔 へおよれ 嚴重兵精甲 日外城有里 美 聚粒 開之隆若 #

出是吾憂也今胃成來天誘之矣勒兵鏖擊版 直擊之是被其心腹圖走不暇乃自潤橋移壁光恭 門以薄都城連溝楊賊特張庭芝求戰展顧日 師慧放以精騎馳我中軍際而從乘勝軍光泰門令 攻華 ĸ

射を受生子

盡进 西走餘黨悉降展引軍屯含元外 延令軍中五

過気的防不

四 相公來

唐良臣奔突城陣職入白華賊伏騎出官軍背歲以

下百騎自馳之左右呼曰相公來賊點清擒被器

則部方将士悉便敢愈行貨追還練縣合府庫公禪

西希照借准蔡東强示弱以相窥親三也懷光 忽宥反逆四海間之謂朝廷何今回紀在北吐

既赦 F

榎

物不酬為是激其叛四也既解河中諸道還屯當有

张五二分

內不得事道家問

连

者斬遣京光尹勉置居人於

赐發賞真不舉怨言必

起五

| 也令河中米丰五百

并所及也 八种种 李晨言李懷光五 一人なると 不可 數 Ē:

尹元正持節到同華諭慰李懷光李晟上言

辞惹 隰還之 渾城東日知又且遷徒二也兵力 不足忽舊東偏何以待之一也今赦懷光則 京師三百餘里同州制其衛兵多則示未信少 i 河中 未嫁 ij 刖 j 扺

子9-205

大錦袍登希跨異之唐皆歆監 へそころ

TA 手手

Ĭ.

洹

而

軍造三裔逾垣水挑戰悅不出陰伏萬人將掩

馬獲典辯武吐蕃

乏幾又取成囚給後左右小連令報號或房大點 稱 輕殺人李抱玉將饋勞廣介無敢往者變自請 Ĕ, 辨具乃先駱其首與約得其旗章爲信犯令者聽殺 烧為越城尉時回稅退因恃功恣雅州縣 供飯 不

馬堡為河東節度使承鮑防敗後兵力單弱經夢

地無貧暴者

;馬獎結治器用

在得數千人教之眼 数月悉成精兵造鐘必短長二

惟三罪為首尾欲不戰以老我師若分擊左右未可 入何也碰日種少利速戰兵善於致人令悅與淄青 给农具育。 各方升头四

> おりと 一方がなく 鐵頭垂車實 下八年年 人本之十 乏食深壁不戰燧令士亦十日極進營倉口與夾悅

印必三等作 耐得士所永以 於後行以載兵止 便進趋為戰車目 則為庫遇險 M 制衡冒恶用 以狡猊 柳泉 坚銳 薊 仇

Æ

中事情

兵威震於北方

馬燧攻賴 破田 仗

一說以鐵鎖連車数百絕阿襲土遇水而後度悅知樣 于漳悅造王先進以兵守漳之長橋扼軍路幾於下 赐之李訥李惟岳合兵牧悦忧壁洹水缓屯鄴進次 田悅及越討之約勝則以家財賞衆及那國解

傾

之悅敢奔橋橋已英屬成者無葬或問日禮少而深 |募勇士五千庫而待比悅至火止氣少衰經經兵擊 |忧衆度即焚橋燧行十餘里於率泉踰橋燧卒乗風 **주** 日 ¥ 縱火噪而前燧又令士無動命除條葬與百步寫房 廷令諸軍夜半食先鶏陽時鳴岐所浴師出 賊至則止為庫留百騎持火作軍甲發造其旁

何孫乎 獨獎則軍選

觀光玄衰酸 湯何子なり 於京本高數

ŧ

ず心此動で 毛胡莉以纸 **拜像以數志**

勢不敢且上存匕不可知不

如阵

双陽許諾明日

堂

要 寒起 兵 雅丘 联并令私制 **女為将士一月** 下夷日城兵精銳有輕我心今由其不意擊之彼必下夷日城兵精銳有輕我心今由其不意擊之彼必 張 延 守 雅丘 费泉告哭日 攻之四萬餘泉卷至城 願盡或 ħ 不 耿言 負

易贼遂退 干人分數 写清威勢亦折然後城可守也乃使干人 不得上债 明日復進帳攻城運東蒿准脂焚而 **於開門突出身先士卒直衝敗陣人馬** 去十餘日大小三百餘戰 帶甲面食塞 秉城自帅 妆

守久攻所傷必果乃挺身至城下見廷光足光學

威拜城上提顧其心已風徐日我自

可逐 天下

艇

日爾以吾為數耶今不遠數步可

受命延光再拜燧日

公等朔方士自

穣 朝

Ц

功高 西荷

延來可 以來

奈 也未對

何來之為族派計若從音言

井止先嗣富貴

徐廷光守長春官城馬健度長春不下

財李俊光月

必被悅且來助是腹背受敵

也法有攻其必效

故 放

以被之皆日善

馬燧說降徐廷光

ちを 行等 餘復戰賊送敗走避乘勝追之獲胡兵二千人而嚴 大振至秋令犯湖又攻雅丘湖 1 / 4 2 2 2 Ņ. W 有 作於城 F

一小多少者 監壁此語預 事上从姓名

潮間上皇已奉蜀復以書福羅天務六人白歷以兵 忠義何在湖縣而退園守四十餘日 相 絘 勞苦如乎生因說 題日天下事去矣足下堅守危 誰為乎與口足下平生以忠義自 朝廷母問不 許今日之舉 通

以黑衣夜起城下湖兵争射之得欠數十萬其後復 以大養新之士心益勸城中矢盡以秦為八千餘 被

設天子畫像師將士朝之人人皆拉引六將於前責

はさり 九千十十十十 人會大道答

夜疑人 逍追奔十餘里湖益兵團之逸使郎将雷萬春於城 上與糊相問語未絕賊弩射之面中六矢而不動 肤 笑不備乃以或士五 Ŧ 祈潮替潮焚墨

轰液

之子奇乃走秋子奇復攻睢陽

城中食盡原米

堪剛遂為賊所圍處乃修守具賊為雲梯勢如半 雜以茶子樹皮為食儀故不至士卒消耗皆機病不

虹

账乃夜道 人倫焉知天道未幾出戰擒賊將十四人斬首百餘 乃知足下軍令矣然其如天道何避謂之日君未識 其木人使讓問之乃大驚遙謂避日向見需將軍

查衣数十合屡推其鋒而賊攻團益急怒於沒中夜 ·執旗師諸將直衝販陣賊大潤明日 敝屑处乃惟牛麥士畫軍出戰賊空見兵少笑之巡 但念諸君捐軀力戰而賞不酬 下人 青春 ** 熟以此痛心象士皆 賊 义合 延出戰 Ŧ

尹子育攻睢陽張超韶衆士日吾受國恩守久正

Į

張 建守雕陽

建五百万

寒兵絕鼓賊以飛後敢城中無所見遂解甲你兵題 鳴鼓嚴以若將出學者既聞之外日做偷既明

远乃

干餘人遊欲射子奇而不得識刻蒿為矢中者喜謂

與南澤雲雷萬春等各將五千騎開門突出殺財五

夷矢畫走白子奇乃得其狀使霧雲射之中其左目

之賊不敢復攻送於城外穿三重壕立木榴以守延 亦於內作壞以拒之士卒成傷之餘幾六百 经潮归根明乾蒿投之積十餘日使人顺風持火焚 下水 千八百 更鎔金片權之敗又以土養積柴為煙道欲登城 大木置連鎮大環接其鈎而折之敗又造木強攻 ** -1i 1

未置鐵雜盛火焚之賊又於約車的城上柵關處

得退一次中出一木柱之使不得進

一次中出一木

墨三穴侯將至一次中白大木稍置鐵釣釣之使不 直精卒二百於其上推之臨城欲令屬人題預於城

不足而借公之師也亦以親大賢之名義耳今仰瞻 別餘都如 平原之及公該資以士卒推而有之以二郡為腹心 七萬口十餘萬竊計財足以三平原之富兵足以倍 萬斜片計照吸甲兵告貯其庫戶有五十餘萬事戶 家平日聚 汇准阿内錢角於彼以賭北軍今有布二 客李姜年二十餘為郡人乞師於頹寒鄉日公首明 **粮阿股及都然子之请兵欲何為平事日清河非力** 百餘萬匹帛入十餘萬匹錢三十係萬稱糧三十餘 尚意未有史解定色候的敢遠言所為乎真鄉奇之 古今纤等 八 法二人 大義河北 諸郡修公以為長城今清河公之西鄰問 大寶用河北探訪使顏與鄉擊魏郡校之先是作河 李導獻兼顏與與鄉 木 四肢無不隨所使矣真鄉日吾兵新集未 文及父母 男祕之長源父 孫男楷 行甫父 侄泰舰三颗父

> \$P子之所為平導日關朝廷將衞兵十萬出醇口賊操 所表為曹日清河去遊効願孝果帛器被以資軍及 於武將為公恆面之强敵公能無據平與卿大驚遽 整武將為公恆面之强敵公能無據平與卿大驚遽 整武將為公恆面之强敵公能無據平與卿大驚遽

古今新簪卷之入

男豫淳建侯父

清本華 開埠口以出于里之師因討及郡以北至于幽陵然至李章素 開埠口以出于里之師因討及郡以北至于幽陵然也之不得進令當引兵先擊魏郡就其守將分兵使與其於 條框之不得進令當引兵先擊魏郡 我一直出廊口賊 操何如年口子之所為平事日間朝廷將稱兵十萬出廊口賊操何如年口

■素だたで軍稼除利在堅守犯賊勢日慶將有內變因而栗 供受失機 (4.2.4.4.4.5.1) 以誘戦時再价給守潼關奏日蘇山久智用兵宣肯 (4.2.4.4.4.5.1) 以誘戦時再价給守潼關奏日蘇山久智用兵宣肯 (4.2.4.4.4.5.1) 以誘戦時再价給守潼關奏日蘇山久智用兵宣肯

於被也 所持经攻我 於

之可不戰而論也郭子儀李光弼亦請引兵北取范

以"随草草 故清於在學 蓋乃が毎日 中面目存在

安林 **联十乘塞雅車之前親火炭之煙焰所被官軍不能** 望之亦潰獨翰與麾下 百餘騎走入關乾祐 **聞目妄自相殺謂賊在煙中麥弓弩射之日暮矢盡** 為馬前雖欲以衛 歐日過中東風暴急乾 花以草車 水石學教甚泉道監士卒束槍樂不得用翰以 在在散如列星或跳或密或前或却官軍望而美之 北阜宝之鳴鼓以助其勢乾祐出兵不過萬人什什 兵五萬居前龍忠等将兵十萬縣之翰以三萬登河 採脸南薄山北阻河監道七十里翰偃王思禮等將 兵民交威偃棋如飲适者官軍懈不為脩城乘高下 百合 新籌 *4*,p Ш 李輔題譯太子西行 無敗竟都遣精騎自後擊之官軍自波河北軍 **陷長安帝出奔然往蜀至馬鬼父老連道請** 人术之人 進攻古 扭 甫

> 子來因人情 一部正被事

陽髮其果穴賦必

內濱潼關大軍惟應

固 一年以

祭之

不可輕出楊國忠疑翰謀已以賦方無備而翰題

那失機會上以為然續道中使起之項背相望翰不 何已按府伽哭引兵出關過賊於重寶西原乾祐先

滞近疑局飲西建學王後與李輔國執輕諫日遊飢 官禁以班至尊董非孝之大者何必區區溫清為日 京削平四海使社稷危而復安宗廟毀而更存掃 **范周四海分崩不因人情何以典復聚下不如來西** 神子弟後殿下東夜鼓取長安若殿下與至尊皆入 女之卷早 北邊兵在郭李於河北與之併力東討遊賊克復一 **图上命太子宜慰之父老日王尊既不肯图某等願** 中原百姓雜爲之主頻與聚至數千人太子不可 老七人

忽號與萬此若髮面不行又不設備常山旣曆信! 把其咽喉將軍若以國家為念移樣常山則洪熟蟲 **诚諸将怒欲馬賤殺之時信都太守島承恩有朔** 極運日常山地松燕蓟路通河洛有井陸之險足 兵三千諸將遺宗倭運迎承恩鎮常山恩以無詔 一能獨全想不矣像運日將單不納郡言惟兵少 **令人不聊生成思報國歲相結麥屯旅鄉村若** 方

pl

天實時河北站都看為唐守獨常山太守王備欲降

宗德連說承恩守常山

王信事問題 以其特益差 当伏塔割葬 一般之或勒學去學日避之失守亂自我始何所 平却住見光獨日吾率眾數萬為天子討賊食乏則 思明屯徐州的不至徽取資機等不與光弼召享欲 人散君閉原不敢飲潤吾兵耶答曰命寧主禮者勅

选单

梦罕為侍仰史佐鹽鐵轉運住埇橋李光弼桿賊

也公可以敬取平今公求權而

學專鐵學有求兵而

亦專與平弼乃釋

李自良請堅壁控回稅

賞招之不 蘇是實功以官夫以官賞功有二害非才則廢事權· 茅土傳之干孫太宗欲復古制大臣議論不同面止 四海則無官以賞之奈何必對日古者有功則錫以 而自安管循倒持剑戟取敗之道也承恩竟不決 國不過二三百里可比今之小 重則難制獨今之計莫若疏爵土以賞功臣則雖大 蕭宗謂李洛日今子儀光弼已為宰相若克爾京] 百分 有事 李泓請爵土賞功臣 穆學不與光獨性 旬 H 人をせん 萬可致若拾要害以授人居四 郡追難制哉 3

中有的年子不忍反定寒放些對葵日關中形勢為王者黃威性主人以為手希烈反定寒放些對葵日關中形勢為王者黃威 想在教徒便兵 人强幹騎枝 之別以唐於 其制政務部 追原太宗社

方之本也太宗列置府兵分隸禁衛諸府八百餘所 以耶德倫察則危居重以與輕倒持則悖王養者

79

而在關中者殆五百爲舉天下不敵關中則居重象

其後無不睫矣留後鮑防不從遊戰敗還

陸對論居重

一以整

典歌使師老自歸乃出军乘之二疊扼其前大軍變

如果二量於歸路以兵成之房至堅壁

勿

與爭鋒不 大層 時间

龙入寇太原押牙李自

良日

图乾精銳

發郊景驚犯城尉 何以傳之臣頭追退神集六年 之内佛祭不全萬一將師之中又有如朱進希照寫 **将子弟明敢恒龍那學更不後發仍罷間來等稅在** 宠照房親邊何以架之今關輔之間飲發已甚宮花 **果遠在山東神策六軍之兵羅出關外倘有賊臣** 深根固本之處追想及此鱼不寒心今朝方太原 乘虚深入先帝避之東遊是皆失居重取輕之權忘 一舉滔天屯元之後繼有外處悉師東討故土 名

*

輕之意明矣承平浙久武備蹇後故蘇山竊倒

持

一个看書

一へ参え人

班則

更重盡無疵人皆省思報免疑畏又況阻命脇從シ 是改過不足以補統自新不足以贖罪凡令將

城方能之賦本非素習首鼠莫前則守架失於不足 專以太原澤路兵抗山東則梁宋安矣 也今若選李光河陽以後東都李懷光解襄城之圍 文吏也而當汴必爭之地哥舒雅之聚烏合也捍襄 自昔之精騎上黨盟岸乃令之選師舉而委之山 将多而努分兵廣而財屈則屯戍失於太繁也李勉 恐於傷殘居蔡許富全之地而益以鄧裹房養之實 則皆僧不能有越軼之患此謂緩也希烈果於奔強 使有勇無謀朱滔多疑少決互相制初急則合力退 古今新華 東蹇則醸道阻北窺則都邑震此謂急也代朔邠雲 祭計之勢急而關重田悅覆 敗之餘無復遠居王武 以教失莫若攻行今幽热恒魏之勢緩而隔輕汝洛 巴輪者再怨見處者獲寧則 李希烈寇裹城陸竹奏言勞於服遠莫若修近多方 ~ 李赤烈計掛元平 **陸贊策城勢緩急** 人多七人 人心不 推而那本因 東

侧我為去就	數至字知無		樹蔵耶之で	長可喜萬一						並於不數	不能盡效力						
何表表出りと文章では、有を目がくなり、	加撫循得其持疑便足集事必欲精求素行追扶宿	在則我咽喉梗而心膂分矣今幸兩端顧望正宜厚	師悉在最內僅通王命惟在發斜倘或楚琳發鯨扇-	日楚琳之罪因大但以乘與未復大熟猶存勤王之	度使使者車至上皆不引見欲以渾城代之陸贅奏	德宗奉天图解李楚琳道使入真不得巴除鳳湖節	陸贅線代楚琳	下の弁者 人来之人	血戰竟日賦乃退	天所以衛天子也遂引兵選朱进随至潭城與遊環	不能最成本我直超率天奉天兵亦府何夾攻之有我今急趙泰維學不自并	遇則與奉天夾攻之遊壞已賦强我弱偷分軍以给	迎天子也不若留壁於此賊必不敢越我若不顧而	泉遊環欲遠程文秀日我何奉天賊亦隨至是引財	朱此及自務通奉天外申留後韓遠張拒之題於	韓遊環決策趨奉天	将李克誠以告時薄城夢者內應逐鄉元不

裁一人更亲 ##四一時也不受可遂詠之皇近勞先賴奴偽受礼部曰大使 老與奴之心 置酒大會奴雲光與其下至阜伏甲左右廳酒行悉 因善前無他圖前釋甲以安東而後可入也雲光以 将年雲光以御史中丞授華因嘱之日若聽問吾人 ·末斌 議長安時章阜知龍州行管留事 派遣奴與部 勞之具實以飲其象因設成以得之當衆恣意宴飲 英艾為秦州都督安禄山縣高嵩權兵入所聽艾傳 畢諸生亡能為乃命士委使趙皇受而內其卒明日 既而伏兵發盡虜其眾沂龍遂安 个子子 人年子人 章阜斬朱近使

> 雕州刺史 斬之及從騎三人縱一人使報此德宗聞之乃授皇 殺之以其首狗进復使他奴拜阜縣鄉節度使阜亦

液安敢歸 化哉上乃善待楚琳使者優認存慰之

李矩守平陽

計圖之是何 有土字生生 大奇陵力 不能捐下口 成動三軍派 **或之心便可** 以安兴心是 賦將李周易怕聽勇士百人欲入封府庫恰為好言 門身守之指日吾出百口求生衆心往矣不如與將 | 式相為荆州刺史會驅励反图 厚種迎勞賊不感怕之謀也明日伏甲士三百於弦 士生成共之 寒間皆泣下低膚城隍閉器械無不具 **去悄靠迎李圆** i 城辛識勸馅出家属

髮 干級 暢懂以身免

英艾守汧雕

昔醉飽矩選勇敢于人夜掩畅管複鎧馬甚多斬首 降陽於匿精勇見其老弱暢不以為虞大饗渠師尺 里遣使招矩時畅卒至起未服為構造使奉牛酒註 劉縣遣弟楊率歩騎三萬討李矩屯韓王故墨去七

在北其南止存聲教主發內面事外耶昔獨奉世婚 王之治天下惟教殺静生人酉至于流沙東新子族 害追之太原及境而止不欲弊中國怒遠夷也秦恃 兵力北相匈奴西逐諸惹結然階風實生證戒監聖 為無良邊臣有為而亂上頭曰昔周宣中與假稅為 唇應宗時党項陰導吐蕃為亂諸特請討之杜 堡城西 傷設席於場中酒至半酣伏兵突發賊皆強焉圓 一人 新水和 杜祐諫計吐蕃 へまこん 祐

供管其非情 中使一於

及原不及利申使大新然城謀知之偽造人為中使夜至守將 第以天子院 重龍兵皆弓高先騎守衛世殿有中使夜至守将馬也正日及 種道不通下傳深 那酸窮日急益蘇節 將大衆其心 十七八萬四面攻圍已逾半年威勢猶盛弓高既問 逐納之遂入白居易上言日自由鎮蓮命朝廷飲兵 之界也今戎龍方強邊傳米質試宜慎揮良將使 有言國家無使勇猛者為邊境此誠聖哲議發知者 侵刻利其善馬子女飲求蘇役遂致叛亡與北秋西 成及監戒不遠也党項小養與中國雜處獨者邊將 但授郎將繇是范開元之盛不復議邊中國遂安此 望之獨所續制連命雖有功不可為法恐後奉使者 兄辑禁絕誅求示以信試來則怨雲去則謹備彼當 戎相誘盗邊傳日遠人不服則修文德以來之管仰 **整住補新之自謂功莫與二宋環應邊臣蘇此邀功** 為国家生事夷我北突厥點吸寇害中國開元初起 季華其姦謀何五 巫與師役坐取勞費裁 府第 八卷之人 Ħ 居易論用兵

> 政尤是故監 九年十世兵 停配兼是 歸本道益兵多而不精為惟虚皆資糧兼恐機敗軍 不齊未立 此軍累經優資兵騎將富莫肯為用混其月費計錢 廷本用田布令報父仇今全師出 政也諸道監軍請皆停罷泉齊令一必有成功又 想都以至退延請令李光顏將諸道勁兵從東速進 誅夷自生變故宜仍部光顏選留諸道精兵餘悉證 丁四 舒等 降痢疾如此即疼攻以分其力招輸以動其心內相 開弓 商糧路合下博諸軍解深邢重國 臭元莫合勢 叨若乘虚得便即令同力剪除若暇勝賊窮亦許受 今寒度将 太原全軍兼招討曹職四面壓陳觀最而 * | 八非之人 功者或以拜官已敗的者不問得罪既無 界數月 不進盐

忽斯莎車王傅首京師威震西城宣帝議加

的民奉兵 是可畏宜 |穆宗以魏弘簡為弓箭庫使元稹為工部侍郎以裴 **歷先達重望恐復有功大用妨已進取故所奏單** 用度交關人心背繆安危皆係於此惟陛下念之 安之中何事不有現有司與於供軍百端飲率不 者也有兵数不抽軍費不減食既不足將何以安不 二十八萬稱若更遷延將何供給此尤宜二令退軍 装度請除朝中姦臣

天秀屋県

東不知所名 東西今 東天有能勝 然信于女照 用與從中祖之度上表日通照構能侵襲山東姦臣 新是加武王 **芥干麦中** 如此情意亦有勇善其戦智易官軍時脏師士卒刘麥張柴村 不但有為此 **泰巨去形队** |我宜出其不意彼以往亡不吾度也此正可擊遂往 |李恕将攻吳房諸將日今日往亡烈日吾兵少不足 題名府處候史用誠以三百騎伏林中見廳卒若将 李熟得降卒必親引問賊中險易遠近虚實盡 臣抑損之事不少但欲令臣失所而於天下理亂山 小禁圈患大小者臣奥諸将必能剪滅大者非陛下 胡逆酸 張胤山東禁節姦臣必能天下是則 潘榮者亦果輕出用減擒之 待英秀淋尤最因與謀取蔡秀琳日非得率酤不可 古公籍事 一个是公人 計自平若姦臣尚存則逆版縱平無益上乃罷弘簡 東勝貧悉不之額者朝中姦臣盡去則河朔遊賊 恒密解换翰林 **觉癌制断無以驅除臣蒙陛下委付之意不輕遭姦** 李想智倫李布 李恕攻技是房 河朔患 知之 7

¥%有是法|既而引退賊以精騎尾擎恕照下馬據胡床令曰退。<\$P\$ | 1 守里果孩子 斯云牧事而 各万川中建 此处评及小 絲莉也 五五千年長 **後之項耳由** 門之具無異 化真空牧用 事成嚴或以軍政不肅為言想日吾非不知也袁尚 |檢失劇然之乃告即期於裴度時元和十二年十月 者斯界次外戰射殺其將賊乃走或勸遂取吳房煎 也師夜起乃命站及学忠義帥突將三千為前驅自 **秦平可以乘虚直抵其城北城将聞之吳元濟已成** 恩日蔡之精兵皆在河幽以拒李光顏守州城者皆 與賊情盡知之恐知士可用遂謀襲蔡州李祐言于 選勞之日而亦王人無棄親戚眾感激故山川 之賊降者輕聽其便或父母與孤未葬者紹果帛道 想不為佛越沉為務推誠待士故能眾其早弱而 以不角彼必以吾為協而懈然後可聞也淮西果輕 也泉始信而安之惠親行視士卒傷病者存恤之不 書專以思惠懷賦賦易之聞吾至必增備吾故示之 于如想柔儒故使拚俑爾曹至於戰攻進取非吾事 李恩為唐盛節度使至唐州知士卒揮戰謂之日天 日不可吳房發則賦力專不若留之以分其力 百年新华 一人参北八 李熙襲破蔡州 脸易 A

有法不則對 咸息所致 水大也亦即 月月日後海在之道其子停道持書相論重貨逐軍騎前則降 #日原和原理 軍 第三千為中軍李進武将三千 教後軍出不工事が知道 東 第三千為中軍李進武将三千 教後軍出不 并增益 其不俟于自 夜人具 叛国 被兵故思择 推工一年不 成作可知 据之人北人 野京可之以断郎山放矢又介兵以斯河曲及諸道衛梁復 東行所屬者 **欧阳美也去** 军处大舟 學學等 以能 攻牙城境其前門民爭負新勢助之門外執元濟體 |相的即日元济所望者重質之牧耳乃訪重質家庫 |行七十里夜年至垂銀城城旁多鹭莺池煎令擊之 皆失色 監軍哭日 果落李祜姦計時大風 雪雄旗兒 **降子據其獨命士卒少休息食乾精整騷動留兵值** 如所之思日但東行六十里至張柴村盛發其戊卒 乃帥左右登牙城拒戰時董重貨推精兵萬餘人 常侍传語應者近萬人始怯日何等常侍能至于此 故迷開門納泉鷄鳴雪止想入居元濟外宅或告元 坎塘先登北士從之殿守門卒目擊桥者使擊桥加 餘年故蔡人不為傅四數配至無一人知者亦忠義 7 以亂軍聲自吳少誠拒命官軍不至蔡州城下三十 人馬東外者相望人人自以為必成然畏想莫敢達 夜引兵出諸將請所之想日入蔡州取吳元族諸将 **濟日官軍至矣元於不信起聽于庭間想軍號今日** 今計畫 ノネネ人 ۔ اق

	者宜展など	安排人表在					者不過如此	按三张及奉										
而發前夕有告之者秀實獨召掌漏者怒之以失節	勞弊怨訴兵馬使王童之謀作亂期以辛四旦警鼓	民秀實知邵州省後初四鎮北庭兵久羈旗數選徒	民参育康王童之	外 联	敖荡者沉之江軍中威服日中丞為我知家事敢不	盡力軍出公掉數省問其家疾病生成厚給之婦人	選兵六千属馬成日行管事 一決柳新聽被用畏威	即以都知兵馬使中軍先鋒行营都虞侯三縣投之	ちる者等 人参之人	○世将聽兵吾且然署職以兵法從事聽日唯命公	兵即表請自行引兵甚安州聽以軍禮迎謂公韓日	五千隸安州刺史李聽公拜日朝廷謂吾儒生不知	柳公拜為郭岳觀察使時方討吳元濟部發郭旨奉	佛公綽省問厚給將士	文则:	日此方廢上下之分久矣請因示之度乃以害相避	屯兵衛傷以發表度度至息以秦執見度將避之想	这京師不我一人其執事帳內厨廳斯役悉用其舊

者宣展名 起事有三

兵使安全吾大將軍陳君賞率東立宴仙門內使

ŧ

門若食不從日入乃止

静者不能亦 亂而益於惟 **建多度性基**

故庭夏灣法 机卷多图自 泰山 告者又云今夕欲焚馬坊草因殺火作亂中夕火果 |餐秀實命軍中行者皆止坐者勿起各整部伍嚴守 也益治薄書亦然如平時里劉翠無賴望南闕陰持 力乘勝必投京師我趙泰原後食及頗乃引兵登安---言兵且至京師灌走歷起百官或發而 唐文宗照成中中人自邊還走馬入全光門道 古今者等 吐蕃敢渑城於黃善原将畧府雕李國臣謂人曰成 要審童之白請救火不許及且補重之及其黨八 走則亂矣若變出不虞逃將安適人之所贈不可 逝去鄭覃将出李石日事未可知宜坐須其定宰相 计新之 舞更末 除軍城因擊敗之 鸣鼓而西日行三十里吐蕃聞之自百里城回 **李剛匠版吐** 李石定幹 Á 一人巻七八 棘延之數 蕃 刺 苯 四更 而略 騎臺省更稍 重之不 路妄 果聚

在最后而不使 安平之年則 **汽 十萬意也** を始王男め 我兵夢實施 \$P\$不可能改監馬二百匹於是騎兵足矣或請為烽燧以 **之三**下人 |大不差得量 期於各數王 **直接教授** 担性之長な 医电叉安护 夫安知不一 转路有额之 於僕近邊之 **新蒙电何但 共不起馬** 騎果 任之不敢問於是閱諸管見卒及土團子弟 州先是賊謀人軍吏匿之引賊詐降以窺虚實式補 給其費 鱼可勝計哉上乃部發諸道兵授之式入越 日但得兵城必可被有官官日發兵所貴甚大式日 官無所問自是與賊十九戰大破盜用稍帛盈路 四千人使堪兹軍分路計販令之日母爭除易母焚 **戴式笑而不應選攜卒使乘龍馬少給之兵以為** 车众 斬之嚴門警夜賊始不知我所為開倉原以服貧乏 勢益張江淮不通即上自九廟下及十軍皆無以 王式為浙東觀察使發兵計表南宣宗問以方晷計 拜呼願放外悉以為騎卒使騎將石宗本将之又 **成日 單食方急不可散也式日非汝所知官軍少** 兵多風速破其費省矣若兵少不能勝延引處月服 腹合 排殺平民以增首級脇徒者募降之得贼金帛 舉籍內得數百人房久羈簽甚旣猶伏 古今新籍 日吐蕃回鶻比配江淮者其人行險阻便 王式計奏前 八非よう 又關其家皆 教 詗 B

璋性嚴璋開懷然無兵終精忌聚縣逐之忠武義成 陽日以萬計發時喧譁邀求不已溫璋代之兵素聞 之節度使即自後門逃去田牟王與之雜坐飲酒傷

節度使多儒臣兵漫縣小不如意一夫大呼衆遂 初王智典既得徐州蔡勇悍之士三千以自衞其後----

和

力而

王式定徐州軍

盡行無以繼之徒鶯士民使

自廣亂耳使橋卒 ر ال

4

万八 計籍

人条之人

騎而少給兵何也式日彼勇卒禁利兵遇嚴且不量

開放則賊至不知矣皆拜日非所及也

之耳不置烽燧何也式日烽燧所以趣救兵也今兵

其故文主 我将歐鐵殿令士卒敢願者斬賊復入刻式日販來 之何也式日此易知耳賊聚殺以詩機人吾給之食 就擒耳命 應諸軍團之賊城守甚堅三日凡八十三 則彼不為益矣且皆縣無守兵賊至則倉殺適足資 **然私有所不論者敢問公之始至軍食方急而遊散** 諸將請日某等生長軍中久更行陣令幸後公破賦 戰逐槍之 械麥前送京師斬之諸將還越去大量酒 **戦骸請降日賊飲少休耳益謹備之賊果復出又**三

> **矛熱混而配** 之六得 夢領 四聚工而發 不断耶方台 及民己專問 兵益憬式至脱事三日黎兩鎮將士 月這遠院而禮 兩軍從王式討義前者稍在浙東詔式 配将士赴諸巡院然後將兩道兵至汴滑自請京師 我兵命圍騎兵盡殺之留三千人守徐州餘皆分 **李湘獻孫羅勛策** 帥 Ü 赴徐州

唐懿宗時初桂州我卒作風勒祭泗募兵二千赴援 亂聽勛為主切庫兵北還所過剽掠州縣莫能禦韶 使崔彦曾以軍都空虚請更留成一年成卒聞之作 分八百别成桂州約三年一代至是成六年矣觀察 百分行籍 1. 株七八

侧焚灰舟以塞其前以勁兵蹙其後可盡擒也縱之 當歸事 |東至千人入淮南節度使令孤鄉遣使慰勞押牙 月過餘非吾事也動至徐城果言於眾 **度准為患必大菌素懦怯日彼在淮南不為暴聽其** 机口徐卒擅歸勢必為亂雖無勅令訴討藩鎮大臣 至徐 州 其甲兵勛日吾輩罪大朝廷兄赦應沿道攻切耳者 這中使放其罪部送歸徐至湖南監軍誘之使悉輸 制宜高部岸骏而水溶狹請將奇兵伏於其 必強臨矣乃以私財造甲兵鎮抵招集亡命 日五重檀縣

異此計 之取庸寧的 近竹作作功 粉此中好種 **乔大泉陆大** 正常以青班 雇助反令孤徇造使慰撫且愧之助又攻泗州 坚守掏命李湘車兵五干松之動致書謝網日素蒙 可求也眾皆呼躍述及脂宿徐囚觀察使 察皆走仁厚閣之大開寒門設炬火照之自帥士卒 **則彼利我傷图之則後因弃逸送母祭園之夜二鼓** 口無庸戰湘乃徹警釋被日與助衆散言後節乘問 聽命約真即請假助節面動湘日助已降第謹及淮 立兵大奔追至城下所獲甚泉 若雄 出動兵擔擊城北緊楊茂言不能禦帥眾走諸 遊其将鄭君雄微應頭以拒堅堂不出仁厚日攻之 楊師立反唐係崇部商仁及討之仁厚至德陽 正髮洲壁并醢洲 惠宥所以未即降者因一射而異耳原圖去之以身 下の新華 人年之人 羅勛破李州 伏道左右被至見門開不敢入 商仁厚碳粉師立 還發伏擊之師 杜 師立 Ė

> 莊野斯美人 新皮质是农 括章戦戰時 戦守總是 述降 後夢善游者監其舟底相繼沉沒造人於要路遊擊 |商仁厚計映路羣盜行遇敗兵還走仁厚叱之即新 兵江上為欲添狀戲畫夜禦備道兵挑戰仁厚不應 徑及戰察所據喜日賦精兵盡在身中使老弱守寒 都虞便一人更令修促部在乃召香老詢以山川蹊 暦遣勇士干人攻焚其寨贼救不及資糧蔣盡仁厚 而資糧皆在寒中此所謂重戰輕防其敗必矣乃揚 高 纤霉 七厚襲取 ||大本 恢城 ٨

思見妻子今已有密動下本軍至則斌族與其月校

獨羅曷若相與戮力同心赴湯蹈火竟徒脫騙富貴

請騎兵五百號至城下以神速駭之乃旦暮疾馳至 延光往諭之差光日守殿反迹が見若緩之使得為 天子乘與乃開門而延光先人猶恭戰殺傷者甚自 华夜行二百里戰於城下遲明唐主亦至汴兵望見 計則城堅而難近故乘人之未備者莫若惡攻之臣 应明宗如汴州至梁陽節度使朱守殷反唐主遣花

と原則重要

补州

4

李崇不交盗

職 反 ム 装皮

范廷老下

州

使復生業備軍開淮南安堵皆有思歸之心人心既

安得不敢行宿後之屡被備兵張訓屯安吉斯其

戴属得相從

民所休城在 商座之也使

中療

理百姓給幣入山招其親戚七彭主宜陈民

力冇少耳 法今保平法一元元

孝 擊為節次二次三俄填之間聲布百里皆發 一樓樓皆懸鼓盗發之處亂擊之旁村船開者 文以李崇為变州刺史交土舊多知益崇命

守於要錄是盗無不擒獲其後諸州皆效之

賣易直定小亂

出 孫倡 民及自儒軍來降者甚聚公室選将先護送歸淮南 可坐擒也戴友規日若望風棄城正堕其計淮南士 達來利在連載宜电據險要堅壁清野以老其節時 再钱果音反轉為雕书三百餘人易直悉斬之 古今野舞 黨数千人欲大到易直登樓令月能誅亂者一 将干团清指清貨液東謀阻易避知械因清送使其 無名必且生患乃止時江淮早濟物腌精不能前 唐李穴以汴州板實易直欲出庫財 圍宣州楊行審欲退係銅官李轉福日篇掃地 騎抄其鎖例奪其存掠後前不得戰退無資量 楊行盜破孫備 大丰美 貨軍政 ţ i 級 給與 部

> 司徒不怕彼将更思楊氏矣宗侃倘然先成日 軍始至民不入城而入山谷以俟招安今軍士掠之 展箱據之州民皆知西川大府而司徒其主也故大 之延屬也陳田以授楊威使拒朝命今陳田己 先民者度請將惟王宗俱賢往說之日彭州本西川 王建園彭州民皆原匿山 極道儒食盡士卒大瘦緩兵擊之眾多降 王先成獻招安七冊 谷 諸寨 Ä 出 侾 1.掠軍 叉有 平而 士王

正所云遊前 安宗院軍守 新防有电机 电水进河特 重素所以で 有從民心之 聯也無拗店 被張不存成 此相安古以 相分 上 芝 扇彭州百姓集於營場有父子夫婦自相認者即便 二乞禁諸攀劉房三乞置招安寒選部將謹幹者 成條 古会 無服相故能無敗乎宗佩日此誠有之將若之何 使人奮擊又於三面城下各出羅兵指察成自 備 中萬一有智者為之畫策伏兵門內望詢房者猜 纤维 这招安寒敢匿者朝六乞置九龍行縣於招安 衛四乞招安之事願帖宗侃專掌五乞悉索所 **列為狀以白王建光七條一乞招安山中百姓** を北人

子 9-220

城

ij

甚於是者今諸寒日出街房再幕乃返曾無守備

行思動推猜 民心也少量 也且復禁必 所原明由體 **岁柳使相信** 也給於斯福 骨肉尤以從

如照 | 時出山赶寨如歸市久之見村落無抄暴稍辭縣令復 其故業月餘招安寨皆空 之以為資糧必漸復業延得之大喜即行之三日民 未入山多酒藏者宜令縣令曉諭各歸田里出 高品勒格行密貿易 面質

古今府务 **滿日兵火之餘十室九空又漁利以困之將復雜** 際畏之又以用度不足欲将茶搖易民布帛書記高 厚其原賜以皂衣蒙甲號黑雲都毎戰先登陷陳 大米と人

楊行衛斬孫儒奉兵多蔡人行密選勇健者五千

3

百賢者之言其利遠矣行密馳射武技皆非所長而 令謀農桑數年之間倉庫自實行密從之田頭聞之 不者悉我所有此所無者相與貿易以給軍用選守

節用非公宴未當舉樂招撫流散輕徭薄飲未及 看忌淮南被兵六年士民韓徒衰盡行密能以勤食 寬簡有智界善楊御將士與同甘苦推心待物無所

年公私富無幾復承平之書

李廷獻策解鄂州國

淮南将李神福圍鄂州節度使杜洪求救於朱全忠

*** 歐而後收 者知汝已之 害嚴也我軍 勝矢心退民 **联张一利以** 复套业区之 **贝苔条 化钢**

全忠令制南城納散之所自廣發舟師十萬沿江東 **士聞之皆無關志神福聞汭將至自乘輕舟覘之還** 馬殼果遺許德點將身節襲江陵間之大掠而去將 不過一月吳典食盡自通鄂園解矣府不聽而行楚 得不為友願之應乎不若遺驗將中巴陵墊壁勿職 可事也其其影整難無角逐武陵長沙皆吾等也等 李廷該日今在龍載甲士千人指米倍之接之不

汭赶水灰 了人 开非 教えれ

謂諸將日後嚴繼雖多而不相屬易制也逆擊破之

周德威獻破梁策

梁上進王景仁攻趙進軍有鄉趙王鎔告悉於晉晉

察人志不在戦徒欲耀系其不姓其銳則吾軍不振 內無正異知做前外州居路傭販之徒稱不益雖鲜 再聽奏前衛放出東上市軍預所而且告音五日夏 不當一端樓上談是以自官乃師特斯干餘擊其

| 将轉前追之強胄群華光形炫耀德威謂李存璋日 要梁兵不出復即五里營於野河北 馳射且訴之梁

耳之 百竹曲 在千堂 日首 化功业 起國無天災未可與為敢也且中國新敗士氣形沮 發戰縣攻取其君智勇過入其臣上下輯雖牛馬 假手執抗非國家之利不可聽也臣觀契丹士馬精 之難而有天下皆契月之功今重祭侍勇輕敵吐 晉安重張請伐契丹桑維翰密疏日陛下免於晉 王斯然而與日子方思之深具有降者結之日景仁 日此登王女袋時都德威老將知兵其言不可 方追浮橋果如所言是日接管退保商品 一个新藝 桑维输谏伐契丹 大参す人 Ť 忽也 渾: 陽

> 和親次言化 可我次言我 之有特及收 之猶決首我 **市宇部見月** 東於奔命鎮定之地無復遊民今天下 粗安烝民日 **便運無糧我出則彼歸我歸則彼至臣恐禁衛之士** 和親既絕則當發兵守塞兵少則不可待寇兵多

努甚盛宜按兵囚待其衰王日吾萬軍遠來放

人之

き 三黄鳥

死定之兵

勤人主先须 能**英等大妙** 萬一不克大事去矣議者以族輪稽節謂之耗盧有 所早避謂之屈辱殊不知兵連禍結財力將匱耗蠹 弊靜守猶懼不濟可妄動乎契丹與國家思義非經 聽甚武更功臣過末姑息屈辱號大願陛下調農 信替甚著無關隊而自啓蒙端就使克之後惠愈重

若退軍高色誘賊離食彼出則歸彼歸則出别以輕 起尺所限者一水耳彼若造橋以溥我泉立盡矣不

騎掠其衛偷不過輸月被之必矣承業人褰帳撫

知吾虛實則事危矣王不悅退臥帳中德威往見

好合壓城壘難以馳突且泉寡不敢使彼 大於守城短於野戰且吾所特者騎兵利 合利於速戰乃教按兵持重何也領威日

免在奪不在

水業日大王縣勝而輕敵不量力而務速戰令去城

於平原購

一八千年 軍府無人乞陛下界加越幸以杜姦謀晉主謂使 則動必 日展比日以來煩懣不決今見奏如醉醒矣 眼養兵息民侯國無內憂民有餘力然後觀蒙而動 有成矣又都都富盛國家潘屏今主師 大本さん 主 赴 關

後且為患乃厚以全見道之及思雜據長安庸居城 日限而語其他日必為叛臣商妻張氏日君今拒之 不知所出初思翁少時京為将軍李肅僕肅日是 食盡 取婦女幼稚為軍糧每衛軍販屠数百人計前 題思箱據是安漢道郭威討之思絕好食人肝城中

見在傷大夫

妻上後生が

之批立勒 计消耗才是

結局故事產

易指正無效

張氏教李肅勸趙思館

祖 壁者公子也

而和林夫之

17

既惟守月馬 **具存化為省**

一汗我

欲自殺妻

日母若動之歸國會思縮問自全之計肅乃說之日 公本與國家無嫌但懼罪耳今三道用兵俱未有功

之後方之民知我政化大行上下同心才强耐足人

役以時以卓其民後其倉原實器用備人可用而塞

安將和有必取之数則知彼情我者願為問該知彼

山用者願為先導彼民與此民之心同是為天意同

典天意同則功無不成矣攻取之道從易者始當今

結其心實功罰罪以盡其力恭儉節用

以聖其財產

若以此時期然改圖朝廷必喜自可不失當貴孰與 坐而待斃乎能逐請降漢以爲華州留後

李守貞反漢主道郭成計之威與諸将議攻取諸将 尾彦研策計李守貞

依先取長安鳳翔見彦珂日今三叛連衛惟守真爲 主守貞丛則兩鎮自破矣若拾近而青遠萬一 古今年 大木える 芁

王趙

敢法之必然 所特別目攝 守真既被其 主自偕先磺

珂劉嗣自同州常思自蓮羅三道攻河 柜我前守真持我後此危道也於是威自

陝州白文

王朴獻平建策

當失之時君脂及既具獨民因近者姦於內遠者 周王朴歇兼日唐失道而失吳蜀晉失道而失幽并 扳

於外小不制兩至於管大不制而至於溫天下離

其地平之之術在於及唐晉之失而已必先進賢退

民不用命是弱乘其亂而竊其號幽并乘其閩而據

不肯以清其時用能去不能以審其材思信號令以

弱則 所向無前矣勿大舉但以輕兵挠之彼人怯弱

處先捷之備東則捷西備西則捷東彼必奔走以救 其弊奔走之間可以知彼之虚實果之强弱攻虚擊 健吳易 東至海南至江河捷之地二千里從少俸 すれな手事 大车之人

長不足為 邊思可為後圖方今兵力精練器用俱做 成之 這不 可以思信誘必須以强兵攻力 巴姆氯氏 進席卷 而弱平矣異獨平幽可望風 而至惟并為公 廣告為內 臣帳蜀可飛者而召之如不 至則 四面並 南亦不難平矣如此則用力少而故功多得異則往 國家之所有也既得江北則用彼之民楊我之兵江 绢一不大餐则我穫其利彼绢我科则 江北诸州乃 知我師人其地必大發以來應數大發則民田而國

以防其多 头图州学! 使草麦超日子代受因恩親戚滿朝 孝下 |城市堡不叛宓槎盡士卒炸疫健疾;七入万引速 草巢段之高骈奏荫遣張璘将兵五于於郴州守 可令賊得之果怒訴執政悉攻陷之執節度使李超 黄巢上表求廣州節度使于琮謂廣州實貨所聚不 竹分子等 追擊之 全算皆汲 唇剱前個後李容擊前部問羅鳳齡之孫入至太和 知法站前 高駢獻策破黃巢 黄景复放餐兵 **同朵原用壁胶李宓** × ~ . 用命 稳之後可以

平

之發敗走斯其汗果蠻中軍多張旗機當前分兵措 作败走設三伏以待費兵大敗 出上下流各二十里濟樂被請城獨夾攻景復具有 部庭西川作浮梁濟大波河黃景複俟其半遊擊

守梧昭桂采四州之險自將萬人自 大廈橫越廣州

東果少随崔加豆盧蘇以為不可

逐止

王重任将兵入于於循潮二州逐進王舜以兵三

脱可 断表不可

☆ 大下有工
人者不可不
別 **厄米斯兰**自 **島男賞重フ** 通家信修道使謝之師福受其衛路而還 歸恐為所邀乃進人守衛勢祖考丘雖又使顧全武 武列 皆不 追幕遺處兵先行伏兵青山全武追之伏發被 擒錢學聞之聲沒日喪我艮將既久攻不拔神福欲 楊行密道李神腦取杭州鎮東節度便錢繆命 除代亦遂繇是賦就復張陪邪州掠饒信十五州泉 至十二萬 督順以為富貴之資氣乃止全政慶江追賊會朝廷 市各 种籍 七八渡江東走或勘窮追巨谷日國家喜負人有急 之戶容伏兵林中全長道歌作敗敗追之很發俘斬 不全忠政朱建于兖州未下留尊從周圍之建閉 節度對巨容與江西招討使暫全最合地荆 貢果脂 推存将士不受官貫事學則來之或更得罪不若 **葛從周股朱瑾** 八寨以拒之神腦聲言返師所獲杭伊走還者 李胂脂稿顏全武 禪州將進過江陵自帥泉趣寒陽山 巨容被黄果 本だる 門以佐 南東 順 道

雅多野 六不 一順等こし 气不知乃便 大學鴻藏而

建以為從周已去乃出兵收外漿從周捷擊之殺干 不 出從周許言放兵至伴避之高吳夜半潜還城下

中高季昌日天下英雄競此舉一嚴矣今李茂真己 朱全忠則風翔不克又以久用士卒病議引兵歸 朱全忠誘李茂真

因奈何拾去全忠思茂真堅壁不出季日清募人為

課入 城誘致之馬景請行督朱友倫發信於大梁將 至當出兵近之全忠命諸軍秣馬飽士優旗機帶 ٥ 牙 人本エト 1 仸

擊之又遣數百騎據其城門鳳鄉軍進退失操白歸 凌真開門悉東攻管全忠鼓于中軍百營俱出級兵 奉軍遇矣獨留士華傷病者近萬人守營清速學之 舊中 寂如無人景乃 許為逃於人城告茂與日全忠

精殺似殆盡

丁自襲李罕之

为载之法 下班作問作

來遠且不處吾之速至出其不意掩其不備兵家勝

之行至河陰謀日罕之料吾不敢废九弱以吾兵少 李罕之園河陽張全義告悉於來全忠忠遺丁會

> 攻泉不准個 不敢獨安却 不由可求即其風內強起之本日蘇州之復聞不能 将於嚴可求可求薦周本本以前攻蘇 州無功稱

攻赛安亦

厄全調即撫信東吉之兵攻洪州淮南守劉威兵機 不敢進楚江敗進指揮使高安以助全調徐逼問 人告急於廣雙日召僚佐宴飲全調聞之屯東

周本败危全

策乃渡九島直趨河陽戰於流水罕之大敗河陽園

可求許之本日楚人為全祖聲援耳非飲取高安也 古孕新酱 人卷之人 我但主新之權輕耳今必見用願無置副貳乃可 <u>:</u>

右乘其 銳而用之全 異管橋傳溪 正数 十里本 隔溪 縱兵奮擊分兵断其歸路檢全調乘勝克袁州 布陣先使嚴兵皆敢全飌兵洪溪道之本乘其 #

先數而沒自 直聲核耳所

張山吳船乘風而進傳雜引舟避之 既遇自後随之 吳越王錢錫遭子傅堪擊吳吳道彭彦章順於較於

傅雅楊灰散豆敗吳兵

子 9 - 225 疾

(**美**) 献光奇 以年期朝長 之克此可順 最知為 吳王 **球程**寿七任 之間 瀬遊養在車首垂絕按錐以掲之攻者盡露廠至張網以柜之英瀬遊養在車首垂絕按錐以掲之攻者盡露廠至張網以柜之英 朝根会作可 |图卒陸仁章樹藝有智而志之至是使仁章通信入 楚王馬殷遣王環馬希瞻將水軍擊荆南高季興以 水軍遊戰希聽夜匿職艦数港中語且合駁自港中 城果得報而延內外合擊大破之 是賊中號令與提兵相應敵以為神缪常遊府圖 翻擬鈴懸水中魚繁過皆知之吳越處侯司馬驅欲 淮南兵團蘇州推削屋攻城吳越将孫葵置 碾不逆取荆南環日 江陵在中朝及吳屬之間囚 古今新等 人参七人 潜行人城故以年期利赦聞鈴聲舉網福得入城縣 越王錢錫遣錢鏢敕之蘇州有水通城中淮南軍張 演異人 殿之 管僵仆囚 縱火歎異船 大敗 相接叉使散沙於巴船而散豆於吳船正為暖血所 艦横擊季與大敗進逼江陵季與前和乃還殷讓 也宜存之以為吾桿藪 馬希腊匿艦敗季與 吳越王斛蘇州團 Ť 一輪於年

美回

船與戰獲使腦風揚灰吳人不能圖川及

题其後李嗣源以城中兵出戰晉王亦自貝州至郡 擊之潰走話旦那悉泉與延直合李存審引營中丘 **浜請聚雞州令楊延直會魏州晉選壯士五百夜出** 智华存審守管自勞軍於貝州聲言歸晉陽都開之 報劉郡攻晉鎮定營晉擊敗之郡開壁不出晉王乃 房游及彦章以歸 林浦絕 異歸路遊明 吳人進軍江口 隐融命虞侯詹 古今哥等 信以輕身三百出具軍後自以大軍攻其前夾擊之 必懼走乃潜軍角干湖使王環夜師戰艦二百屯楊 烈将戦 雅千般禦之德勲日吳人雅吾不備見大軍 吳遺苗璘王彦章將水軍攻楚岳州楚王殷 超楚艦不能進退以强弩夾水射之楚兵大敗進去 鐵超於兩岸作戶輪挽超禁長應以隱之伏壯士於 楚以水軍擊漢間封州漢主命蘇草教之至質江 晉王計 敗劉部 許德無分兵破吳兵 蘇章無堤沉絕敗楚兵 春之人 手が 遣許 Æ

恩的已食漢州矣退進壁形仙精賦出砦有終擊走 益州皮卒王均曆漢州部雷有終討之至益州時 岡人多詐未可信也室立察徐園文養日疑則變生 已兼福州去請公為帥文敬信之遺陳海將水軍下 酒程 勒兵出擊載交緣士卒承者萬人蔣全軍歸 不若乘機樣其城因引兵權進遊整泉臨鼓至於 吳越知威武軍吳程令人告南唐查文後云吳越兵 江自以歩騎繼之至城下許遣數百人出迎 數千川迎解故依拖擊盡強之 王均計被雷有終 吳程計執查|文獻 人本ネ人

Ħ

莺郑骨王厮之至故元城西為方陳於西北存 万康於東南部為國陳於其中四面受歐突國 趙原 被黄慧崇 走 脊馬

兵 出

之一日釣別城偽為

遊狀有終與上

官正石 伏布林

槲 曹帥兵

+

種入 分夥民財部 伍不肅賊 閉 開發

布外傷亦過

官軍不得出有終操禁而墜得免 晉.王先傅晉赐

7

婸

ķ

王真明而曾 如疾者 勝着

便可取役 以伴們衝兵 交烙数伏总

|劈旗熊弱南山而下令諸軍聲言對兵至矣崇果谁

堃而圖之數挑戰不出罪潛進干餘人 攫甲执兵效

出西門佢戰暉學被之送取西閣城禁退守大城 展風翔 題節使黃景崇飯降于屬趙鄉 討之祭進

晉王勞軍魏縣梁將劉鄭以晉兵盡在魏州晉:

本人をイニー 建微裂取之乃潜引兵白黄犀西去晋人怪都軍数

·那月兵一步百計此必計也更使規之乃轉多為 執黨乘驢在城上耳晉王曰郡長於襲人短於決 日不出遭騎規之時見旗機循葉往來晉王日吾聞

٨

所組然亦

八十年

八季茶人

赛 克城 雕石

蘭之日今原入敵境魔背皆兵山谷高宗去將何之 思倍道先入為備鄰權盡又開骨兵在後泉俱潰 泥學士卒腹疾足腫墜崖谷處者什二三晉縣李嗣 計彼行發及山下並發騎兵追之會陰兩積句 Á

德成開鄰西上自幽州引于騎放晉陽至土 整象下山屯宗城知臨請有積蓄飲被之絕晉種道 個成追急至南宮橋其斥埃者朝脱面羅之日用侍 一門那 g

甲巴被臨清矣苗朝各鄰管面過入臨清都引軍越

惟力戰無幾可免不則以威報君親耳聚位而止周

府中之被此 **光人等人的**

張

子 9-227

脍

iit.

然項召諸将列坐軍門人具河水一器因命飲之果	今播酸人未可輕動諸君更等之諸將皆依戦都	大事大好出征君命有所不受臨機制變安可頂	謀日主上派好宮禁未聽兵家與白面兄共計於	劉郭與晉相拒於貝州梁宋帝題鄂出戦郡集諸將	劉郡河水喻戰	温即發之城下自是軍城逐問	其擅去者族之守民閣之奔軼者乃止外軍果疑疹	素遣者勿帶行又楊言日素遣從副使行者即勿禁	1-今第華 人朱立人 Ex	守即者後之都禁之不可造人從容告彦温日請非	劉都據兖州喜從周攻之急副使王彦温翰城而奔	劉都計殺王彥温	天 字 :	之梁兵就進晋王以鐵騎三千香擊梁兵失三萬餘	之命李嗣原伏兵成城李存審屯衛勝先以騎兵誘	首文果鎮州果戴思進悉衆襲音德勝北城音王知	普王分兵守德縣北坡	具州軍堂邑德成攻之不克
飲之泉	取	可預謀	計終敗	集諸將			果疑疹	即勿禁	! !	日請非	城而奔			三萬餘	騎兵誘	晋王知		

不測其者或飲或解鄰日一器面鞋若是滔滔河流

用种子产生大會陰道人具身楊利命甲士六百皆持巨斧載治門為20日東 有河北以戲與節德勝張門則破較之期對於200年 來樂架末帝在王彦章為相討便問以破較之期對於200年 來樂架末帝在王彦章為相討使問以破較之期對於200年 來樂架末帝在王彦章為相討使問以破較之期對於200年 來

者具轉是乘流而下彦章飲牛作起更衣引精兵數

為起章各連德威何其過傳鍵擊之章——《風生梅· 等起章各連德威何其過傳鍵擊之章——《與中日能得周楊五者為利使梁騎將陳章常乘 在馬承杰甲以自異出入庫中必欲生致陽五管王 在與避之乃徹嚴身雜上位中章挑戰兵交忘威部。 其以避之乃徹嚴身雜上位中章挑戰兵交忘威部。

									_								
图.	軍隊	Χ.	勢不可緩也崇韜乃倍道而進至寶獨招討	崩潰之時夏擊風罪故皆破	長	開票	唐		+	勿	曐	與毛璋将數千人夜行所過驅掠居民撤屋伐木祭	·功	以應鄭州為名彦章必分兵來爭分則	章閥我於此志在鄭州若葆河下流禁壘	王彦章擊破德滕唐在宗股歸問計郭崇韜韜日彦	
者	唛	稩	不	潰.	長驅李思	崇	唐攻蜀郭崇朝為	į	4	勿克而還	於	ŧ	難	悪	周	彦	
Ŧ.	2	表	P	Ź	本	梢	蜀	郭	折	퍼	愽	瓊	卒	F	我	章	郭
4	Ã.	訪	á.	B.	裏	贫	家		#	漬	14	1	黄	Ж	*	髼	郭崇
拼	d'o i	AT.	H.	4	衝	飲先	些	tá	. " ;	~	重	16	팾	£.	îl l	联	Ří.
*	息	異	声	Řĉ	1	玉	ti.	李	~		書	4	卞	4	*	施	<u>A</u>
3	it	廣	示: 数:	12	E	取風	41	崇新急攻	1		昱	k	1	æ	t.	瓞	執
4	at.	成	ガ	炬	日蜀人苦符荒淫莫首為	州		: 八	八年之		TX.	力	· ()	き	11L 100:	由:	朝分勢築量
72K	표	平.	13	护	₩		推	被蜀	` <i>i</i> -		IE:	17	į TX	早	141)	后大	7
獲	*		F	奖	声	14	p 3	(人,		TF.	11	12.00	1	/III :	楚	垩
飒	Ŋ	집	追	有	17	; 문	使				[ご]	朋	複	1	- 冱	(京)	
P	Z	"九"	M)	仮	兏	種	李	i				2	Z.	一芸	佩	汉	1
炭	Į Į	利	進	K.	Æ	諸	, 👬		1		资	辈	11+	釆	門	蹄	į
鞀	匍	- 則	₫.	雖	莫	耔	环				役	椋	П	爭	ŀΨ	問	
琛	蘇	進	賽	有	甫	竹	本	i			彦	. #	<u></u>	2分	流	計	1
網網	是	知	獇	陀雖有險	為	i	W.		B		章	民	P	『則	葉	常	i
最	頂	蔟	招	阻	用乘	四其糧諸斯特言蜀險	招討使李紹琛本服為列	:	1	[菓	极	成	町	4	#	1
Ê	4	THE I	2	誰	乘	ı.		:			l ii	屋	车	ij	N.	蹈	
五	#	íř.		復	此	固	42	!	1	Ì	fr.	Æ	上	但	4	新	ŀ
留者至鄉州水深無丹撒可遊紹琛謂嚴曰吾懸軍	於人心易推正可斬之以狗蘇是 軍中無敢言	又稱表請留恩属聲日又見利則進知難則止今大	判官陈		, JUL	土	将人散		1	1	星於博州東畫夜催督六日 姿程彦章果引兵悉攻	1	功難卒就陛下抚戰以稷之十日聖可成矣祭翰乃	1 12	必争之	#D	ı
100	水	T	i ji	與	从	未可	- A	1	!		1.65	· 红	1:71	版集	地	诀	
4	F	大	脒	T	掯	: [1]	- 収	1	1 .	!	上火	* 新	11/	'	I JE	: 19	1

東章

深入利在建戰但得百騎過在頭間彼見迎序不服

电极力可能 批字放数其 美術長方官 島惟敢者 先此群奏的 建国元家品 外庭間 州龙 晋 將安全後所得厚遇問以或那之策元佐日方十 並方立及看證州方立舊有者石元佐善兵多智為 役大義以行師養士受民以觀變建皆住之 納以命軍勢益盛部將張度裕說建造使奉表天干 安國州地解人富刺史楊茂其不守殿其若表其罪 |卒心立大功者非公而維然葭萌四戰之地難以 八千沿嘉陵江而下裴阁州还发實自稱防禦使招 與兵計之可一殿而擒也建乃召募谿詞首豪有泉 当人 手に 山南西淮海度使楊守死总利州制使王建曉另屋 噬皆無雄才遠畧不能戡済多難公勇而有謀得小 **君之建懼不往問摩說建日唇蘇將終藩鎮互相吞** 之英旬勝月未如告前然之因令最等浮馬渡江軍 **壮滿者相字遊入庭頭賜豫漢川行弟宗朝監送於** 若使修籍橋東必留數日倘王行閉爾折吾兵勢軍 石冠在歌節破方立 **局岸設王建聚图州** ヘキえん II I

晉王大孝我察察軍振其前壓壓百餘日晉王欲自 必有思志當是時我以精騎乘之处可大提今未可 也王乃止至瞞梁軍未食果供引去德威疾曰梁兵 亦不販食日頭之後機周內近矢石外交出卒勞倦 走矣晉兵大點爭進聚兵舊佈大演 以追制未易以力滕也彼去常三十餘里雖挾段糧 在此一事我為先登公可繼之德威日觀梁之勢 ī Ş 午勝負未決王朝德成日兩軍已合勢不可雜與人 北至 寫邑南李存瓊以步兵禦於野河之上自巴至 立善守而那城堅者攻之必不得志宜急攻強州方 **思對屋茅座庸以舶馬馬多來周德威菲精騎三千** 晋主 我 蔡軍於 稻鄉 对 多自 给 晉人 抄 老 察 兵 不 立來被可以敗也後以為然軍於隆水西方立果的 | 周德城歌策被果 兵來馬後所敗遂長那州 **屋架壘門而節之王景仁等怒悉泉出德威轉**戰 萬時直極大原用德城日輕行後利未見其福王 一周鏡來策晉王公此 著名 未えん j. 1

> 聖正本成一可一奉武也王日公何长耶即以親軍先出德威 藁島 机加不 米其変之所 以馬班也提之使不得息至暮營量未立然奏未具乘其疲乏 金以屬不此 骨王之兵以 数十里父子皆既成 得已從之謂其子日吾無太所矣壞結陳而至獨已 万界制之恐難得志王宜按兵不戰德威請以騎兵 合我管稱已固守備有餘既深入敢境動須茲全 **使者言果兵至矣爲德威日既任道而來未有** 不從段營前進梁招使質壞亦棄營而雖之至胡柳 內輕發去大梁至近梁兵各会其家內懷情藏不以 へなこ人 1 矛 葄

梁因首路州李克用遣問德成敢之梁主追李思安

李存弱破深軍

晉王命我 新百萬騎衆直抵西後滅 汝種類因雖馬	以百騎先進免胄揚鞭胡語謂日汝無故犯我遭場	騎為前鋒距內州六十里契丹以再騎進其前嗣原	潜行若中道遇房則據險拒之遂瑜衛而東將三干	自随若平原相遇房抄吾禮不喪自潰不若自山中	吾陳無遺類矣嗣源日房無輪重吾行必載糧食以	審日房東吾家房騎吾歩若平原相遇房以萬騎節	契丹國梁幽州李嗣源率歩騎七萬會于易州李存	李嗣澤解幽州閨	方个科蒂·一人卷之八	至成守车唇閣納外兵進攻牙城拔之	我也我必無偏夜波河至城下鄉人不知李從河先	鄭州日東陰 用道黑粉士皆不欲進高周日此天費	則潰其心腹酮源日臣顧獨當此役遂新兵五十越	審語李嗣原日果人志在譯路不備東方若得東不	唐主謀取鄭州會盧顧來奔言鄉州兵少可襲唐主	李嗣源板郸州	貨塹燒寨鼓噪而入深兵大演	無斥埃務士尚未起命易德威李嗣源分兵為二道	
------------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------	------------	-----------------	----------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	--------	--------------	----------------------	--

有世人知之 擊界州段榮以上河之軍當陛下存前日何以禁之 矣璋等雖不出兵面梁兵悉屬段廣于河上京師無 五千自哪施外出其不意祷其宏虚不甸目天下定 延孝日果兵雖東分則無餘待其既分臣請以欲崎 西茂格之兵掠那洛以超鎮定王彦草以京師禁衛 **取以快號岸路之界由石會以攻太原霍疹威以關** 爭懦弱小人進任忠臣勇士皆疎斥勢在於丛又問 至國州或勿動先令嚴兵與柴然草而進後降来之 口存客命歩兵伐木為庭為人持一枝上則成案要 百个新辑 吴丹大贩国这解 丹野環塞面過器中發萬弩射之人馬点傷塞路將 **高极三人其陳斯首長一人後軍齊都兵始得出山 应重 章 職般成都 王華日旬南 剪里 成都為大時力** 取架計日臣在架時獨閱其議期以伸冬大舉道前 梁康 延幸 奔唐唐主李存易問以梁事 延孝 具言未 k存動率用異孝策自鄭入亦凡入目減果 道本具被重重 康廷孝獻策破梁 大春之人 1 聖

内崖景可由 然兵分則內

鐵兵在丁前 面代記以陸 放其等,你心 精致在夜時 **不現状地**包 動然送王重鳳日兵家忌退鎮之精兵盡在中軍公 晉以 柱重成為招討使與柴退於宗城西南擊之不 计安徒進反安重祭集鎮內民數萬南戶都都應之 大量 戰不利知解以馬蓮指後東公鐸師察大呼而進瓊 門其使者確果為自全計璋克漢州知解自将兵人 干堆漢州廷隱陳於雞雖橋張公經陳於後廷隱二 云與巴通謀廷隱不視投之地目不過為反問故今 題將三萬人璋假至有選季良廷恩及李肇書歷之 危懼當自出無之以强果心趙廷隱亦以為然乃 始雖小期後必大捷璋素有威名今舉兵暴至人心 也璋精發皆在先鋒公直以贏兵務之以勁兵得之 不付城守則難克野戰則成十八不守集次公之利 **盛夏年出無名必無成功璋不後自将破白楊** 百年新年 木米七人 公殺副使與廷恩耳再拜而行 **脊勢甚大孟知祥憂之趙季艮日璋勇而無恩士卒** 王重鼠擊被安重崇 知祥日事必済矣孽 林鎮

耐分發士擊其左右翼重胤為公以契丹衡其中軍

沙川市子東

热型热量效 小人重力是

李守貞及漢主道郭威討之威

撫養士卒

與同苦樂

小有功骸厚賞之後有傷常親視之士無賢不肖有

陳唇皆温辭色面受之建作不怒小

過不責將卒

可用額例如 風響鄉用於 呼諸軍齊擊馬軍張彦澤亦欲俟風回與戰 日使風積級徐親可否李守負日後東我家風沙ン 被必 狼 單叉順風 张火楊塵助勢管軍皆懷然大呼請戰威 奚車中命鐵鑄四面下馬板產為面入奮短兵擊晉 首杜威及與丹泰州降之契并復推泉南 李守貞破契丹 很重成從之鎮人大盾祭要拔 A Ŧ 白溝

奚車 走 係里鐵鶴民下馬倉皇不能復上委兼馬仗契丹乗 **侧擊呼聲動天守貞令歩兵盡攀靡角 出逐北二十** 去契丹數百法風勢益甚昏廢如夜彦腳權萬餘騎 不意擊之 符彦縣日典其東手放衛昌 若以身殉 声八 **今軍中儀遇已甚敢講我不能遊風以戦空出其** 郭威撫士破守貞 新华 人本之人 붓 国

条元船

表及可樣皮 佛之太月在 · 股身逃成父子且不相保况乌合之泉平乃蛋民 是兵貌不可當所以留此者非任也差有係耳且 有輕表心故敢反正定靜制乃惟與什該但循河該 後後親征使屏左右謂守素日晋州城堅不可近而 王夾用何不進用主事成造使者程守素縣王陝齡 北漢獨是攻別晉州周以王俊陳思議會兵拒之俊 |中無食然後進稀衝以通之飛者散以招之後之於 **凝即位四方藩鎮米有成德以加之黃左鞋學而完** 可以對文學生開之日奏指吾事乃數罷棄在 無不肯之於是守貞坐用 古今著書 火鲔連是載十里進水單巖舟於洋寇有潜往來者 八乎不若且該長國守之洗兵牧馬坐食轉輸後城 **刀慕容彦超及琴巴露若上出汜水则** 王俊不主親在 不幸之人 世太 起入京師上 Ą

> 自若冷軍中日此小盗耳不足奪也逐免胃横支比 短兵擊之誠果及走河中平 **取成士數千夜勃詞管將士师惟不知所為詞神氛** 李守貞裁河中太祖征之命劉詞分屯河西宁貞以 崔安潜平岛 湖南兒自 横戈擊劫營賊 盇

輕也且後悉城而聞吾你而攻之何具率士卒投湯

一年分子 自城下籍 新飲急交班 威日宁 具前朝宿

好流展立戰功況城陷大河棲壤完同未易

筹健開

盗者貪五百器同倡告捕釋其罪賞同平人未養有 乃出庫錢千五百稱分置三市榜其上日能告補 崔安眷為西川節度使到佐不許監提 人怪之女精

酒益 而至者益日 发奥我同為益十七 年脏皆 木井美 \$ -平分

足散选值境 **汝安能捕我我奥汝威耳安蒂日及凭知吾有榜 附立命給告者錢削益於市於是諸益相聚無地容** 不捕彼以來則依應成故受實矣既為所先處復何

何

用唐宗時實嚴上疏請令盗賊自相紙告即其所告 **而首者如此則益不能聚矣又那鄭鄉村圖為義營 頂産之华賞之或親戚為之首則論其後信而數其**

夏 爾 勇 新 鄭 益

牛者勝及死 兵法有用知 **林浦道之**有 **区间珠夹菜** 料散未足贵 不是種道具 力學請戶事 屯白酒分兵出鳳州北絕周禮道景訓 周遭王景向訓代蜀蜀主親遣李廷珪 伊有盗發則鳴鼓舉火壯丁雲集益少民多無能脫 州報園燕之很軍于滿城西方陣官軍詐齊匡嗣 **省縣是陰縣充斥** 納之休哥日後氣甚銳於誘我也可整果待之不 建雄 以兵二萬當黃花谷口遭勁兵千人出其後伏 契月遗南京留守韓匡蒯與耶律汝耶律休哥蒙鎮 **雪倉以视蜀歸路蜀將王巒前遇建难喪不勝退走** H 军角周伏轻碰之昴兵守諸城堡者皆潰 一个新集 **基之一衔也** E 而劉廷論陣子前崔彦進潜師躡其後契丹軍 办 王景向訓被李廷珪 調棄旗鼓通去獨作野整兵而退 劉廷翰破契丹 吏部辛昂奉使梁益 辛昂定萬祭郡 人本艺 ħ **党獨清請令他縣皆效之亦** 且為 姾 腾 晳 先追得 推之珪道兵 軍 Ħ 崩

徽

牒

子男仙芝园 西不情乳母

芝覧之為日巴成矣及見常清迷無一言常清亦不 芝妻及乳母于門外號哭教之不得因以其狀上仙

ŧ

胡用号都沿

Á

細後中丞遇聽以為留後使那將何無禮對中

使相交須發表以前軍容令杖六十百

4 地枝出 密引至聽是輕數重門詮既進命隨閉之此

日常清

春山

佐 _

戸為益界其一

材

戸被监禁其二業

'5 1

也不程序器 **た妙** □ 近封常清所 と関係であ 重臣古人皆 學莊買以中 有意法在 丘傳王新以 往寒功何山 上 美艺艺 単かゆう 使胡炔斯縣 我要的有才學果決商仙芝每出征今清智後仙 我要的有才學果決商仙芝每出征今清智後仙 引前总验自後走馬突常清面去常清至院命左 惡超使不進士美遊召至數其罪斬之下令日 出者斬士美親鼓之賊軍大濱 **移士美計王承宗遣王献領勁兵** 百姓專之可也募兵得三千倍道兼行出其不意直 **麦昂爾其徒日內發猖狂若待上聞孤城於陷荷利 差合等刑民多從龍昂齡以顧膈 超贱壘贼以為大軍至望風禿解萬奈遂平** 好子事發差為那將成至動三軍官清出四諸皆 負程赴失拖職成樂為用及運會巴州萬祭郡民 **北京東京東京** 都士美斯逗通兵馬使 本之人 姓者如歸 萬為先鋒 カ今を 敢 獻 右 芝 後 쀤

Ħ

張

子 9-234

沿角百条基 と行 法也而法以

制於是軍中股係

馬炉節氮叠錢軍

馬知節後知定遼軍時部民人堡卒有盗婦人首備

於運州應據險拒守請將請兵山獎衙其出入待種 苦苟見師象十萬園雞泰州太僕鄉楊格朔討陳贈 近未喻月皆若身常於歷上命修塞清溪開以斷南 |於軍旅智邊事者訪以山川城邑道路 陰易廣狹遠 人担安 鎮守可保無異乃練士卒章堡部積糧儲以構邊局 部入意之路德務上言通資細路多不可塞惟重兵 **鎮作辭邊樓扇局地形南入南部西達吐蕃日召老** 李德裕為西川節度使蜀自南部入寇一方幾獒至 寒所 掠此而可忽何以肅下即斯之 又夢祭犯塞民 百今看書 錢二百者即裝之自是無取犯 相劈人戴如節與之約有益百錢者前便有竊重兒 者費軍止台而建之知節日民避外虞而來反為內 杨椿髮斩陳瞻 李德裕守蜀傅邊 不孝之人

x	发展		4					
以不事中意其我題為言是師者人上亦以未知量引而	· 到距前及属套通發腦中兵擊之次安定初不與股	:	青一	首何之久之坦然不備格筒精平断枚衣襲之二州	香学	苗軍勿更侵掠嚴 過商我見險不前待其無情然後	官軍之至所向販克賊所以深窟正避魚耳今約勒	華文之故欲斯水焚山然後進討郡日皆非計也自
¥		À	1	12	<u> -</u>	Ħ	七	2
F	天	炙	;	! 太	丨基	更	至	
<u> </u>	, A	Į.	,] ·	之	可	侵	所	放
Į	笑	景	,	垣	4	椋	庘	嶄
∤ 🏶	通	劃		然	ħ	厳	夏	*
1	養	*	1	不	止	4	ŧ	
農	斸	局交通景势迎备:		伡	电	爾	闄	ш
-	中	' <i>:</i>		春	不	莪	扩	伙
着	兵	,		箭	進	見	ij	後
,	撃			精	展	僚	尞	進
L	さ			卒	果	不	Î	끍
郡		·		掛	Ů	Ħ	î	*
嚴	安	.]	i	枚	抄	存	遵	ől
末	定			友	枝	#	4	告
炉	初			- 美	幕	Æ.	Ĩ	1
1	不		· ĺ	2	植	産	À	計
引	眞	.	٠ إ	= 1	ñ	获	4	17
面	展			州	一舉可平乃止屯不進城果山抄掠樁復以馬	催	勒	Á

普鳴 苯耳面 **此 與孔明發** 至守珪於城上置於作樂房疑有佛不敢攻守珪縱 古余新華卷之人於 兵學之房敗走 展守珪為風州刺史師泉藥故城板幹裁立吐蕃猝 南去通七十里香怎其無傷夜簡精甲襲斬之 十月年 人大元 張守珪禦吐蕃 (2 情報音乐 08037

朱太

飆

斬斫笠軍

ħ

*

朱

文裝父輯

男泌之長源文 孫男楷行前父

7

Œ

任泰枫三願父

豫厚塞使义

温道

中心

新籍卷之九

我所入 朱太祖前置諸路轉運使唐天寶來籍鎮屯重兵 我養近五千人居外甚果於是唐之精卒 班矣将士 天下自 部曲主 南唐齊王景建将兵攻六合周将趙 有不致或力者匡微陽為督戰以 古明 H 址 * 其笠有舒骄者数十人斬之縣是莫敢不盡 趙普請奪藩 皆以 一莓茶 Ź 唐季数十 吾欲為國家長久計其道何無普日方鎮 |強令欲治之宜務奪其權制其錢殼收其 人 厚飲入 自雕上供者甚少五代 年間帝王允易入姓闘 **"鎮兵權財** 八巳而翰 頁有数太祖 薂 分分改其 藩 E 鎮 鴐 **英益强率** 火皮笠明 問趙普日 戦不息 fф 泉 拒

> 前横市自上 前嶋去藩方 自上開婚在 | 収料れ不可 馬米以鑑臣 者存利官余

歸上權亦併奪 宋太祖授計劉光義代

精兵队 練觀察使及朝史告不預簽書財穀之籍於是利盡 在場孫九一路之財置韓還使軍之雖節度防 恭送 清都無得占曹每落鎮帥缺即令文臣權 天下自安矣乞命諸州度支經費外 九全身 鄊 所

朱太宗津化五年獨中 義騎將張廷韓戰敗走廷韓乘勝登城亦係 蜀制置使商彦傳調監軍武守謙日北 州距錄江三十里舎丹步進先奪浮梁復奉 **餘爺來歸府第臺衣冠呈西北再拜** 在連 張詠定益州 其部以張永知益州 **戰不如堅璧待之守** 作亂李順為師 謙不 得便宜從事時宦官上 進. 艇 獨 冦 火 領麾下 軍涉遠而 旅州 Á 艾而 身 縣 戫 典 **夾**-來` 光

岩面利之日

|擊之俟其勢怯即以戰權夾攻政之必矣及

舟而 餫

Ŀ

至

变

浮菜不為我

獨光義

伐夔州加蹇州有鎮江為浮

梁上設

敵

棚

Ξ

蜀

日吾軍诉流至此慎勿

以外師争

胀當先以步

蚈

公兵事

八鬼エル

夾江列磯具光義等行朱太耐示以地圖指鎮江

通親 冬為今日計卷甲的校

N

羅其後彼然氣前和

日本事業

吾無憂矣

不假存益量 世級作徒山

Ħ

官正總兵計以 寇掠之際民多看從訴論以思信使各歸田里且 此地選為爾威所矣正裁是決行深入大致克捷 校日爾曹蒙國厚思此 為被動作冠勢喪大訴至 淅 有 皮功 行當平應類若老節曠 勉正親行臨發舉酒屬 頭兵不 進專務食 体 其 H.

半月之食 詠知民間舊苦木黃而原有 餘積乃下其 威重用蜀民畏而爱之先是城中屯兵尚三萬人 古中新籍 人事さん

讓訴者訴灼見情傷立為到决人皆厭服其爲政

复

指数基準資 建筑是伊油 **所包订图家**

宋太宗時契丹展冠邊張治言中國祭天惟特

短兵中其際制甚乘善馬先通餘衆引去

張泊陳備戎策

從後意學教與丹云大粮東母醫為休事方食我 去火軍五里會食品群戰維座方牌於唐即卷卷

李順齊民為賊今日再化敗為民不亦可手

佐恵民以本り超不助月得未 乃奏罷陕西横運帝聞之喜日此人何事不 Ħ 十萬 斛度有 能

尹繼倫破 休哥 偷 濩 Æ

数子乘趣威房休哥開之即精騎邀諸途尹継 太宗開契丹復至這李維隆發鎮定兵萬

天教無路異七体并不順面南船倫日冠度風我

在後題則乘勝面驅我北去不捷亦成然於

我特

焦

怪宋之不表記 面觉以已起 強得重臣任 と不存快車 一两出安保靠則東職無城殺

用兵之道兵

多竹节人国 **产** 本自兼教以東皆為契丹所有既失地 百户业务 人事えた

壁皆具城自固莫可出戰此又分兵之過也 非我眼地如今天軍於易州 **庇以控其受則契升雖有希兵豈敢** 循承 山液派水概卷 越而 親王出 滿於

張左珠丁·雅本學於句可克山後入州 附前門不 選及通好好嚴息民此亦策之得也率防王再仍 一頭降勢使恭也然兵凶器聖人不得已而用

及一

会此周德威取

- 新直

H

仗.

皇耳取此為前地見和泉皆怕散卷角令非馬使 不展我至力較而腳足以自 栖 從成亦不失為忠義

次持短與婚職其發行數十里至於河矢表明休

子9-237

h

科而

Ħ

溯

险

A.

精練用シス 不开 作有 東下 絲月 前及 士結方 丁十 発泉 **耶律休哥兵少不敢親** 而前所至克捷每捷周帝河其進軍之速粉能失減 犬其至於悉與敢世勝不服提出後失及能等樂解 **亦多以** 雨起 男州 用都将兵伐東县太宗情日清美但先起雲排 四山 技 Ù 所攻取謀議略起彬不得已表程與信復 畫則以精氣張其勢又設伏林莽以 申律任等無有形 春 游河與米信軍接後美書晷山 退軍以提寫禮失策之甚追 新普 萬東摩言東由州 ・砂以 一概于晚游踊 垆 煉 輧 修好為百帝海納之 一大事之力 方頻汐 . 退師維州以授健俯帝聞之日 兵來薄何夢灸朔擊離伍 至契并主座就與其太后自 兩邊面行時方炎暑軍渦 取幽州 河而豐休哥引 彬信敗無復行伍 諸将開美進界捷 夜則 且持重提行不得食利 30 ì A 'n ò 輕騎掠其单弱以 精兵騷之舊清 使 Ħ. 後地 业彬 乏井滩淖而 ∄. 夜 孽 Ĥ ル . £ 羅月 濩 养 會田 絕種道 握 登有敵 m 重兵不 前引 枢 篠 楚 馬 Ċ, 趣 重

攻自斯此方 **被其用作**力 争干河州刚 不知是退放 就前便放好 其東行亦惟 與李萬日夜絕至然州縣方守城部命撒之選兵得 我也次其府的問題目則另直起定差拔 **二萬人褚将然應河州雜日股 吐蕃水征塞河州势市县正** 內川林斯夏目通路進席字河分合個 所執後而美使至云師自柏井得宿前云東路王師 **狩野先伏去卒二千於土種梅大擊員之** 契丹選見火光中 ħ 賢日敵知美衣而 班先是要奏賢遣使判潘美以并師來會使為契 古今新年 -一年後花枝獅去部選照州以兵衛西山龍崎市 這扇軍,三千角無送普東咸低無不一當百 與丹薄代別前都署風雙黃是艦保壁自 者題年夢 人。 **朝并之全軍不** 土部 要產 権o 頁 一 海河州 月為之不 **野敗契** 是 外室シカ 東多距 有一 不 許出戰已還州矣契丹兵塞州 知羡退乃朋美徒室中 流 族 州西南三十里 育 意開并解至 所以圖 Á 京師 辨 城者特 蓮 入南 陂 至 駭 刚 固 再 夜發 典 袻 懐 契并从 要奔 Д. **一番**結 其 平. 北 熈 73 走.

私指是央 基建部不寿建

船我耳 門安建二岩末易建日此 起邊蒙放棄級 罪是人又水以景詢易名山達日 先交二岩不 弱羰甚且 鬼名山 筝門族 後焚巣 於楊定者姓名 談告将 事何所輕重以易名山則畓 達匿而不下,帝以間 大臣皆不 孙书国 一些之北舊有三十六堡且以長城為界西手正 一部城 n ř 山 郭達不 £ 入 在也是使驚不能 以叙州 消源堡竟族保險籍将請置陳平地部日賦 部 乃貌 名山舉族 + 超險縣間被賠 可與 飮 枈 李崇貴轉 **歌彩** 遠民房既發王官而又乘綏不守見 析 34. 14 降种酶受之夏 追 Ť 七千 來雖當何以處既夏人議以疾 趙禹與夏使議惟 道事 斬以 逓 餘級 對. 彽 逢 商於六百里 **秋示之房簽儲乃執** 謝罪這只是且集成 首無復 ぞ井 ٨ 知 水 遂殺 征駕 詢 達乃自 訅 **丛命庸人也於** 向化矣逵 楊定 言始塞 庻 杊 立之策也 部焚 率首長請 勃達部之 朝 调得 鼻 畿 松 Ħ ß

城网史法 其竹牛頭養 惹拔破 **所**謂 Ħ. 洗來接條黨復集部成别解縣竹平衛張軍摩而潜 本部新根甲胄 應帳下兵逆擊之差大流會整征 吾有乃在超孫邦此歷故軍而 門狀乘高下 极栅去的恩立之敗竟勢復熾朝廷議棄熙 贼 景思 悪非 **阿越武勝被將樂等途城武縣建為鎮洗軍事敗** 不拾脸來順則我師必後路今已入險 **字命徹之選兵得二萬** ħ 所以 **丐降,俘以歇** 城民卒散有音者至曹瑋 **熈選以兵循西山統出白職後焚帳八千賠征** 所勝氣統未可與戰當出其不意以及其所待 △射姜二人来之九 批亢構虚形格勢禁則自為解者也 立붳於 曹韓極言發叛卒 £ 結河族斯夏國通路進靡學河 開城者特有外提毛今知教至 部 避免擊定港降縣 踏白城賊遂閩河州 議所向諸将欲超河外 方對客夾棋选日吾通 征 Ξ ď 都 胍 幣征知 **與至**恩 , ¥ 地當使險點 乃重 設伙待 河北 闘 接続 抑 部 方 定 <u>ii</u> [部 萩 吊 城

舉及其長立所學無成 窩獨言於仁宗印多 はた 治之使足以限敵 可怕後開邊壕廣深各一 Ĥ _{最合落将佐止於本軍 似進以其智知養情地} 地為方田環之立馬社 其俗 古今新藩 田二頃再令課市一 後有犯者選其家內地蔡芳節手試其强弱勝 | 浅 所市致单弱不能自 之也夏人 四置馬差百帳以上其首領為本族軍王次為指 常快快順多史傅相 富耐止盗法 又其次為副指揮使不及百帳為本族指揮使 Å 犯邊民者論如 教造民入羊馬 廣報曹華 曹瑋處置羌夷 以上图為一 聞之即斬 大季之九 有兇隊之徒始 指揮要客處為築堡使自 馬馬斯甲官藉之加 存因没彼中璋盡令選其故 律 赘 雖稍能文不近舉業 自是無敢犯毫 一馬灰泉出錢市馬路者好 者投其 夘 丈五 人以 尺山 ń 下令日光月 於娩 至 初尚都 險處因其常绝 一計弄兵事 田多為邊 Ŀ 五十 仕 鄁 相 利不 進 # 躰を 犯

鬼土兵之佛 近星之事で ひ下 古皇世 本軍戊子奏 **小女且连庆** 之去無追捕然自靈武階沒銀行詞葉以本假 **換不能動放先帝惟** 夏竦知 巫州上奏日 則多脈其數雖多未若土 蓋不篩邊事之艱苦不誠山川之險易守則不此 部甚為不便富獨好此守之兵自古以 兵真宗日此不惟動程人心抑使南方之人遠戌 十人子手 医齊賢為正原諸路無器使請募江南丁般以益 之便那即本教乞命臣孫可委和多方 星武 張自 孫所圖甚大茂視州縣民不應奉又不 マ之人作 中津 逃 む夢於 部 界在在聯名競姓者跡道形 散在民間實知能無成縣亦能始為 Į 貧弱言客軍成守不便 藝四此 所役屬者不遵河外小 辣條原十事 人まこう 養大朋 · 戒 强 吏 謹 烽 侯 嚴 卒 乘 來 即 逐 **發選當太** 旅途生 兵少 延臨與所能量 乃典其徒 一種源 惹耳況德明元昊相 宗時 面精也 F 逃通窃威 挹 得守邊之 客軍為非 根據如 **契** 密相 炎靴 加; 御配 别替進 朝 便有雪 而 有 廷 戌

以為奇兵二萬原屬差以為藩雜三部贿厮罪

便而議追

何謀可以桿樂臣以為不較主客之科不計攻守之 具若芹囊壳钡澌谷而造共同华涛贼势掩撃未知

討者非良策也因係上十事一

教習強等

并力

智敢之即方今沿邊未武之狀勇怯可

相級以

椳

遷新感比元具富貴勢

न्

知也 知也

繼 Ŋ,

遷官

न

伏平夏元昊窘灾河外地勢可知也若分兵深入 程不支進則賊避其餘退則戴羅其後老師費權 可戾也若窮其巢穴須汝大河長丹巨艦非倉卒

非基实货 内使門戸具 经基本百吨 萬人板勇各將伸統領訓練預分部曲遠斥埃於 韓琦為秦鳳經界上言清於鄭慶渭三州各益兵三 關中民人栗廣邦以騰邊計十橫並邊冗兵冗官以 亏于壮丁以備城守入併並邊小者以完兵力九 部諸路互相應後六募土人為兵以代東兵七增置 破賦 囚魔地勢險易遠近岩柵多少而增減屯 黄的 ~ *** 韓珩經畧泰 助之時先來受官來則命驻例之兵觀利整演 * 1 Ă. Ť.

薦

魏武威令帯甲之主随宜懸開故不甚勢大功克奉

面

日延州之西慶州之東有賊界百餘里侵入漢地

之办故賦稅無轉徙之勞徭役無然職之雙其議攻

諸侯以其利而利之使其食地之毛實役其人

河西收二十六萬石雕西收四十四萬石孫武日分 數年之中所在發東食原皆滿唐置屯田天實八年

今之便变电 喪在中國開 西戎無成守 二分便例と 克什淹以元昊要為邊惠乃上攻守二議其議守日 鎮守當務經遠趙克因與屯田大獲地利遂破先零 軍情愁怨此中原務兵之憂異於夷狄也 中國則遠戊之兵久不代員星霜之苦俊鄉國之望 西戎居绝漠之外長河之北倚遠特險未易可取每 併力學之又於 舉泉犯邊風集秀散赤當聚養建官置兵不用禄 販如此則二三年間、賊力斯展平定有期矣 廷節慶者費便内帑三分之一、分功邊用使行間規 大椋或被其和市相其種落築墨柘地別立經制期 日給廪食月給庫縣春冬衣鞋饋輸滿道 百人 折簧 范仲淹陳攻守 * 大米なた 西斯 未 集職出三州巴整之兵送入 臣谓塞垣 固 用 居乏 食.

子 9-241

大有棒花 正開人表 **威曼之苦**有 退近襄土丘 庆在夫不保其家 医胃耳 经照及粮者即遇其采集之何则関内销兵多出途 建原及粮者即遇其采集之何则関内销兵多出途 兵數少分中不足更當於要便城寨招置土兵右近 |土兵諸山川智戰國比之東兵百倍然縣邊次邊土 **▼妻子東於園菜暖別相較守則相** 地所招污箭手各使聚居除要每兩指揮共修 則更圖一處為後空之策其守策日久守之話 輛錢五十回條三冬三夏大被諸卷平定一處城 小至 者管立城寨後漢段紀明以 居其次使臣中可當一隊者參以前隊有心力幹 感所用 主兵官員使臣男夫身 表者居其前策應 具成日賦 大至則明斥版召接兵堅難清野以用之 **骨土兵守之方諸曹寒及倍其数使使臣安撫之** 歌降者斯得精强者賞客老奶婦人者脈拒者係力 有勿惡便安土也乃大為城塞以帮其她侯其堅 以學之服者厚利以安之逃逝者勿追疑有負也 在夫不保其家娶婦期多犯法如得并還在營文 f ± 7 則把險該伏以待之如此則分彼賊勢振 于 人外上人 騎三干歩萬人車三干 The second second 安叉絲邊無 -此

改之處具在於此軍行人界當先布號令生

降

者

整散採用網鐵面的表別 依劳我选則取除 必矣請於郡延環慶涇原則各選 至不知果犯何路賊界則不然種落散居衣食自給 散之兵在彼專一之勢聚塞不敵遂及於敗且彼為 過二萬餘人坐食多種不敢寒動處族設備常加 各當勞而逐進我為主當逸而反然我若復用此 路之兵數幾二十萬然各分守城寒故每歲戰兵不 以乘其樂此守策之要也其政策印臣常計院 アハチョ 将出奇兵以獨其後欲全師以歸我則使諸族出 **製日人馬图斃且不敢越險又未能次縣必不得** 掠之兵,蛭而暴弱可擊可逐欲長驅深入我則使诣 而散兵虜掠我於由谷村落中伏精銳以待之後散 **阻我若持重不職辦後粮草無所給牛羊無所養亦** 行使其得嚴使我師沮不出方敢散兵虏掠過 與城寨相應彼我小至則使亏箭手與諸寨土兵共 平馬旺於堅城期待敵之進退彼重兵於循大明面 力桿樂後或大學則二旬之前必聞舉集我之大邊 人名人人 大我分 西 起除 М

将佐三五人使臣! 二十人歩兵二萬騎兵三千以

鱼睛城長安九十日具考法於去律利於今京城之 乏可也是則修京城者 则前有坚城後有重兵必将沮而引退退而不整 坚固 財政 河朔重 兵勿 而難攻京師坦而無備 再舉直陷京師故與丹之心至今縣慢於謂邊城 可量後唐無備與丹再舉立陷洛陽石胃無備昇丹 宋仁宗時竟仲淹言北我久强苟不 可以盡取此春秋時吳用三師破楚之策也 **介命不服部落孝您我则兵势自振三五年間山界** | 漢恩希提六百里内男女族長安二年而早唐用 A 茅莓 花仲淹荫修京城 來拒王郎則又有屋原之所樂問而入後則 不した 非徒樂冠献以 與之戰後欲戰不能 __ 4 稱兵必謀深入 大為之備 į 代 深入之 1. 若京 漏 遨 **圣**

> 公安至台台 國制軍二臺 宋仁宗時華盗到切准南將遇高郡 供艺無疑矣然 **晃仲約禮恵** 須一 私賊 年 戌 と 剛 民 不劳 知軍晃 苦 人不 仲 鹭駿

之際使三軍互掠於被山路者厚貫各令安土

為三事以新定陳法練訓歲

徐侯其精勇然

袭

Ŋ

柜者

併兵急擊必被其族假若解延一軍先出族必大

退午邊察或據檢受不與大戰不應

旬中 若再

> 集白人權宜 赤背兵使置

> > 不能樂令富民出金帛具牛酒

使人迎勞且

犀

進え

即使使再长

1

彼目日外勢将貴職則我張慶老節後出為彼

以略任实路 路屯公以指 兵戒之是又 白表意公之 **盗觉** 冠準力 去不為益事 勒親 征 **售解欲禁仲** 豹花 1 淹

城趺之足

計組細觀層 幸芝蜀爪非 對之校樣於 下畫此集罪可斯也陛下神武将臣協和若大驾親 帝以 深入 日胜 吳州 冠酒洲帝自将祭之羣臣多旗 įř 加 ٨ **阿準準心知二人謀乃陽若不** 中外震駭王武者請幸会陵陳竟妻請幸 革所請希乃議親 新新 下入則臣不得見大事 不非人 征召華臣問 去矣請無選畢士安力 方製 知者目 阻欲選作 --7; 騂 ì Ü 成 h 尨

胜 都、

范仲 心崩溃散乘膨深入天下可 征敵當自遍不然出育以捷其謀堅守 **佚之勢我得勝等矣奈何棄廟社欲幸楚鄧所** Ł 克仲淹廷州訓 知廷州先是部分邊兵總督領萬人 ſ 後保那意乃夫 以老其師勞 外幹 在 領

龙

準

月作問達 不幸可根可 化解胎子合 西人呼知州 1.以官為序 之有以敢情來告者即與之飲以是屬差皆 种性衛在寬州間行部族慰勞菌長或 五千 樂世貨 泉議不 **迄命董其後夏人展出每世衛且數且於** 安之勢左可致河東之東北可圖銀夏之養朝廷 西邊 得萬八千人分六将領也日夜訓練重敗泉泉使更 故寬州 請囚其展量而與之以當冠衙則 一于 與東商買好以本使通貨廳其利城送官職 出祭敵人間之相或日無以延州為愈今小范老子 約至其限是夜雲深三尺左右以地除難 知環州有牛家族奴託者素循强莫克調電宋 第不. 1用兵備不足种世衙建言 人都監領三千人冠至等之官甲 44 44 种世街典量開營田 自有数萬甲私不比大兒老子可 世衙恩信結養首 即命府石一在酬錢一百卒得泉又開替田 可火黎地百五十尺始至於石石工解不可 俸人以官為學取改之道也於是大關 大きなす 延安東北 解所 唐 然處險 右可圓 二百里 先 往世 * 為 用 服 虬 帶與 Ж 仲 İκ

使及其苦有甚於此都後能為我年不言否尚語 准除當少,看恩不能成将軍事也又以盡氣 遗野利書 棉浴 投前 幣王為世衛祭其堅朴可用誘令冠恭因獲賊 元吴腹心二縣號野利王天都王 古个华舞 **都遺野科野利夷必有智索之都目左云** 利乃上元是吴召嵩并野利至百里外結問至 之枝繁数即在其楚森終不能後 揮使又為万 無或後者 种世為問去二件 /政府衣聞客鐘之號以非前衣不得趣 (まえり) 辨其家事嵩鼠滅 者最為非記 世街及以他事 语之卧番 Ī 針 Ϊō *1/p* 滸 若 乃 澗

具敢武衙令諸族置烽燒急明果樣 其衣力有二族抗世徵合慕恩出兵誅之百帳 鄉請罪世衙笑日君旗之取逐以遺之恭恩縣是每 壁間階 窥之則暴思與侍姫狎 議世街 出掩之暮思 恩最强世衙者使與飲出作 世新愿起之因大警率其族罪拜聽命養首部落來 甜港可 失期裁送 姬佐瀬世衙忽起入外 征奴訛方 介馬以待 別帳 替長 相 爽

1日吾方以

信結

英釗 川琦 がし 棒台 存計 元昊 其極處 **霁馬羊索駝作北藤傳敵兵火福等頗易之奪果** 厂字不 即實際與上都察处中與過三一鄉相給布意本 果元具他即馬邊之使者至萬即還而野利報水與 所部多不悉遺倫生夢奏順中風之因言使者姓 失 陷伏中矣時元昊自将精兵十萬營川只 .好水川觀英电簡裕川相距五里會兵川 将成最而自行邊時至高平元昊果進將冠 南各以民部後與賊戰於要家堡斬首数百 乃發鎮戎軍命任福耕之桑博為先鋒朱 道人至延州議和韓琦日無約雨 腹心之鄉悔恨無及乃定和議 元異計敗任福 ŧ 吓逃滅房得之以獻元 是亦并去 天都元具 而失其祭文維然幣中有房至悉熟之此緣 八本も九 請和者 Ц 枧 课 鲫 歕 渭 也

> 豆菜計會數 外旦タ版本 配耳目接近 锅哨老旗伍 た行師無益 東安 痛至 葵也外縣 将果為下條有本起盐 存於道榜得數根光分對數遊密中有動罪聲疑莫 陸城與夏軍遇請者知里敢計勢不可冊遺前 下夏入皆有岩不多 站旦福與烽出六盤 於是夏兵四任俸馳犯其錄稱陳未成孙賦 Ц, **二秦軍** 羅 **非羊**牧 线騎 格及

悼等英衡民而旗左扈左伏起在麾右伏起

自山甘

突之自辰至午泉鉄旗勝地怒夏人阵中耐能老旗

下擊士卒多里崖堑相覆壓慘蘭戰成散分兵斯官

野科使便世衛世衙與奏官屬問異州則節道野軍各問之於是聽前花取暫進入吴陰遭愛将便

新之節乃於歌而言比公於神心在軍事矣長受新無機終不能又私召至宮日不連言成矣乃命見出

布舒其上候庫食即專着起賊果逐之馬遇看於作 到國傑師出播州與賊遇戰失利乃令軍七持一府 到國傑發播州賊

第7年一都市的章和於是米軍歌呼武襄大事預府長尚是秋武兼在限智高時大兵始出往林有一府長尚是秋武兼在银智高時大兵始出往林有一府長尚是秋武兼在银智高時大兵始出往林有一個供款課遊之跃大股

之青线例见 反於原商展沈假之圖緒折折将降常寶糧盡告劉妻米住院整沈假之圖緒折折将降常寶糧盡告劉 并令人易迁 後內目不由 **医足干机的** 事之能成近 上下不一何 塞州精兵石 宽何意子族 美士豪基地 |喪米緊流槎及船腹而覆之順風流下以御常寶俠 之疑有異遊人取之大得囊米胡又陸運伸之飲之 邀擊胡被創走常實惶懼走遂板赭圻 **管簡稍兵千人屬安國問道抄其程朝其前行五日** 八叔寶業米走頭架錢漬酚道勢行向壽修 順精甲八千我來不能居牛所照者彼禮絕再若使 持数月順等種盡葵將社权實戴米的之吕安国日 擊之道烈與偷不可乃至動營熊立不可復攻因相 烈士豪郁倫臺使不受節度動始至聖壘未在順飲 **劉勒吕安國計聚癸亥使劉** 左右联下邻条即晚线跟宿布地而 一人等毒 與幕府士大夫共視之乃兩字錢也 新神取為其後發見眷關取智蘇平色管師選取發 元昊敗蕭惠 **沈攸之接赭圻** 品安国装夜到順 人参える 順督軍據宛唐皇前 折 胡求敕朝以 怖之侯朝徒

种節通師七路兵征滅底城詔朔以旬月魁之旣薄 後幾手伸以精甲襲擊之敵大清卒城而退 徑出橫橫楊言提兵至敵方駁 葫蘆河師道即於河滸若特央戰名於遣獨将由充 种即道知滑州督诸道兵城席章土城工敵至堅箜 丽土 益歷矣彦堅無以對 依得故地師道日如言故通當以漢唐寫正則 种師道知懷德軍與夏國畫境而守夏使 下合并等 攻南壁契开大隆從数騎走得免 方物息謂大軍既集且加 遭延以老之度其馬發士废因從兵急攻敗之乘購 百里每退必辦兵地契弄馬無所食因許和元美乃 央元昊以未得成言又退師三十里以 侯九三通本 **見契丹兵盛乃請和退師十里請枚叛焦以缺且進** 种師道八日破滅底 种師道聲提碳敵城席 种師道正胡折夏人請地 # 大木えん **葡惠與元異戰于賀蘭山北敗之元** 伐不可許和契丹獨康未 頭楊可世者軍 ---焦疹堅必 街其 君家

遲回不進形見情露熙取辱焉令鼓行而前彼安能 **欺勢方銳頗少駐光本以謀萬全師道日吾兵少** 與之俱 聽便宜行事師道閱命即東邊統平仲有步騎七干 拉准大國而之師道亦後諫貫不聽 之隣茶他日之禍謂為得計可乎敢災部降古今通 朝之所甚惡也今射一時之利棄百年之好結豺 延自防頓不大敗遼传來請日女真之叛本朝亦南 次白溝遼人樂而前士卒多傷師道先令人持 不能放又來之而分其室爲無乃不可乎其不 重貫讓 伐燕种師道 諫日今日之舉譬如盗入 立斯之严於軍門令日今日城不下 城下敵守備甚固官軍小息列校有機 百人 新籌 而登城即潰 我虛實都人如在來士氣自振何憂賦該晶榜沿 延慶敗績於盧麟帝起神師道京畿河北制置 一种師道不聽重賞代惠 种師道促兵鼓行振士氣 北至洛陽岡幹 一大季また 離不屯京城下或止勿行日 視此衆股慄樂] } 胡床 Á 牌家 Ĕ 狠

相州 朔重 真定 天人 京城 三十餘岩康王機兵會大名澤渡河見王謂入後不 越佚者又節後急全幣使彼情歸死而無詩河我 遇敵管金人惟移若雅北飲游騎寺年號尚衛鱼有 全行至破潭日庸王一夫不反王可為之續耶王同 車夠就道至被絡城後陰為固守不移之前余人自 냚 聽民出入如常金人有種過偏将馬忠軍者忠斬兵 乃 澤知磁州 年全 金人來訴師道付以界旗使自為制後無有敢 受團諸門盡閉市無薪米种師道請敢城 自将兵超後擊破之賦晉兵分屯海衣椿之彼 引兵南取慶源慶李固渡恐為澤所騙遣数千 從王入長澤欲急會兵李因沒斷賊歸路來不 扣磁州海令北上以神臂亏射走之成王再使 宗澤勤 師 道軟壁聽民出人并付界旗的 特太原失守官兩河者率能故不行 介える 全人 南 政 Ϋ́

道言种

少保須西兵百萬來遂抵城西超汴水

南徑

达代人不得 軍而在人生 · 資果從其

一八千年

Ī

率果鱼前股之轉戰而東賊益生兵至王幸忠戰長 楼豬道不答達以孤軍進展敗金人專兵進至 有異謀則吾兵已在城下於是遺書諸道欲合兵人 師耳宜急趣遭消次第進點以解君父之問萬 可從會曹輔 里澤計賦泉十倍我今一戰而那勢必復來使悉其 中求生士卒知必夙無不一當百金人大敗却幾十 前後皆敢量海下令日今日進退等表不可不從成 **及特承兵寨不深入不能成功先驅報前有敵首律** 以手部至言和議可成 海日是飲 一術前 貾

空营大驚夫澤出其不意遺兵過大河襲擊败之 宗澤卓斯馳至善營治調善日朝廷當危難之時便 王善者河東巨冠也據聚七十萬車萬乘欲旗京城 |磁騎 夜襲吾軍則危矣乃暮徙其軍金人夜果至得 如公等一二章追復有敵忠子今日乃汝立功之 宗海瑜降羣益 人养艺

秋不可失也養盛治日敢不効力遂解甲降時及角

相 継路所

宗海疏言結好金人失 後及王再與等各率衆數萬

先是宗海去张以州事付李侃統制

趙

世隆發之至

宗海斯趙世隆以慰諭趙世與

思而審用馬且京師二百年積累之基奈何輕棄以 為是平今之言運幸者翁前之言和議為可行者也 **贝捷罪更者以今觀之叨寫實者為是 手護罪 具者** 电當時 今之言不選者猶簡之言和議爲不可行者也惟熟 卒之初掠侵欺靡所不至是守和議果不足以息 宗津視 固有阿意順肯以切當貴者亦有不相 餫 Ħ 北運抗脈言國家結好全人微 И 息民

了今年主 宗摩設供敗金入 八春之人

等在外必能響此乃選精銳數千使繞出敵後伏 震恐條屬人問計海方與客爽棋謂日 船達超鄭以分賊勢或諸将力 人間之夜遍其後全人自鄭抵白沙夫汴街通都 英日去冬金翰直來正坐断河梁耳乃令劉 金人資河謀攻亦諸将請先衙河梁嚴兵自 路金人方與得戰伏兵起前後夾擊大敗之 保河 祭以供接軍金 阿事 长皇 術超清 固宗 衎 ¥

子9-248

ニチ

劉錥 人。旋 岳飛駐軍竹蘆渡與全人相持造精稅三百人 及進 山下令各以薪募交緣兩東夜半葵四端而舉之全 通 計 立功足以雪耻世典感泣全人 侧東兵露刃庭下澤徐謂世 **法度與上下之分亦陷沒即命斬之時世與** 本吾二 经给宣 枚世典掩全人不借欺之 账 使人 人士等 進和大擾相州飛請以百騎減之遣卒仍為商入 赴東京率所部王彦八字軍三萬七千及殿 接兵王覧演 和以歸 賊 劉鋪決策守順昌 岳飛佚兵被刺賊 校耳 飛伏鐵喪火驚金人 出戰飛伴北賦來追之休起先所遣车擒便 **掉以充部伍飛道百人伙** 極真定募敢永士岳飛與焉 柯 未之九 能為世隆至責之日 典日汝兄 |攻滑州 山下白领 -+ * 胩 Ħ 有朝 北陷 準遣 訴汝能奮志 賊團 1 农 數 【佩 佚 吾朱 + 奥往 17 前 俊

> 我在分野其 之吾意决矣敢言去者斬乃鑿舟沉之示無去意宜 |今東京為金所指幸吾全軍至此有城可守奈何葉 規議第兵入城為守樂計與諸斯日吾本赴官冊司 城中 卒三千 盟南下銷與将佐舎兵陸 種財與君共守規目有米数萬斛衛 謀報東京已降知府陳 日此缺兆也 自即安浙江 主暴兵即 絕准至 渦口方 規見新問 行先超三百里至 下令兼程 食忽暴 計 而 日可矣乃典 進開 新日 風 城中 技生 廟

是世隆

爽

世典以兵三萬來歸

泉糧

其發海

E

世

非周 月督 龙虎大王春而薄城猗 是軍士皆奮男子守備戰婦 停城縣牛馬坦完垣為門至是與許清難蔽垣為 而全兵已海額河送圖城新預於城下設伏 人欺我八字軍今日我當與國家破賊 黑等二人既而全三路都統烏祿以與三萬 匝蔽之城外有民居數千家悉矣之凡六日 **属取到豫時所造廢車** 令開諸門全人發不敢 И 人碼刀劍争呼跟日 輪轅 埋城上 立功 觙 Ĭſ 民 擒敵 徘 Ŧ

辱敵手也分命將守諸門明斥候募土人為朋

探

於

百人 新華

老れ九

ŧ

家寺中横薪於門飛中者日脱有不利即焚吾家母

绮見金兵益盛乃發磐李村銷遣開充募士五百夜 金烏祥兵二萬與龍虎大王合国順昌順昌 制官趙博韓直奏問入其博刀斧亂下故大敗 **酿做造数干人出南門戒令勿赋** 按兵不動速未申時敢力慶氣素犯造百人西 水草者鄭廟乏錡士氣開嚴軍皆番依方展氣清凉 衣母 飲飲者夷族敵用長膳軍嚴障以待諸首各居 下人半年 部時大暑敏速來疲弊直夜不解甲人馬錢沿食 劉飾被全兵 、大スト 但以就斧犯之統 ニナル 扌 将 19 -

大戦

但請戰且調太子必不敢於河原

獻浮橋五所濟而

劉銷樂楞子馬

米水模到鋳造耿豹在見瓦木豹賊謂日劉太尉非

无未在汴赐金兵團廢昌為劉

籏

· 所版自率

+

삼

劉蘇販兀木

五浮橋於朝河上且毒上流及水草中戒軍士雖得

兀木日語乃下今明日府治會食運明确果為

角を基不到 吹竹青電器 妆也命折竹為器如市井見以為戲者人持 大鬼百人者聞吹器聲印聚金人益不能測於是終 鱼犯金酱電所燭即皆香繁電止則匿而不 夜是眼 積尸盈野 遐軍老婆湾 **祈其管是夕** 兵題十五里餘復夢百人往或請街校銷笑日祭以 天秋雨 電光四起 見辨髮者颇 動敵泉 激之小 為號

摩金人数矢皆白垣坞禁著於城

或止中

垣上

銷

用

破散亏異以神臂題弩自城上或垣門射敵 無不中

者敵稍好後以走兵邀擊商河成者不可答計

聚尼二法 正金律去 女真為之號長勝軍專以攻堅戰耐然後用之自 |歩拒馬亦進週不可知官兵以大鎗標去先鏊大斧 断其臂碎其首献又以鐵騎分左右翼號枵子馬皆 三人為伍貫以章素每 アハチ書 首戰兵 皆重 幾甲號幾浮圖戴 鐵兜 鍪周 恒級長舊 金人人冠大戰時元术被白龍乗甲馬以 本之九 進一歩印用 柜馬權之進 开兵三千

八研飲又大破之葉戶髮馬正內抗藉車旗器甲種 些偷戰士如平時敵故靡不敢近食已能拒馬未深 東飾以 拒馬木障之少休城上鼓聲不绝乃出 兵以來所向無前至是亦為蘇平所殺自展至未敢

九水道水色 行伍其施五 青 艾宾妻 Si 安伙仔技术 語画れると 張爽因金妻室盾陕入潼關開南端日今兵合財 |跳而免話複者四此不本也既而接戰江中凡數十 要室以孤軍深入吾合諸路攻之不難断端日彼特 合世忠要果氏親執存鼓敵終不得游俘養甚來 |兩騎其三騎振策以馳馳者一人紅 下岸側戒之日開江中鼓聲則岸兵先入扇兵 以合擎之及放至果有五騎起扇内兵先鼓而出養 之以現我虚實乃遣蘇德将百人伏胸中百人伏扇 国謂諸將日是聞形勢無如金山龍王廟者敵必容 专兄术欲濟江乃遣使來通問且約嚴期世忠許之 百分者書 金冗术南爱解至江上韓世忠先以 精銳且囚程于我我今為客未可勝也若按兵據 曲端献策圖妻室 轉世忠金山走兀木 八巻した 施玉帶既坚復 八千人 Ě 屯焦山

以麻扎刀青

展扎刀入即勿仰視第所馬足扔于馬 相連

一馬不能行飛軍奮擊送大破之

金瓦术南侵以拐子馬萬五千來壓陣飛戒

一 歩 卒 以

岳飛被拐子馬

東如見聯肝 虚磁木具料 但宋之不宜 此法謂實際 之误历亡 源芒头榆虾 書生測見孔 ど不達も耳 確え不幸水 并其并戴之 **純企不用乃** 1十日 安全日 然以数萬之衆千里赴長人馬安弊雄至弗能裝破 能我許則下兵唐鄧直崙大梁全急則必殺兵產 連山北限大河難以建破若假道於未未企世勢於 蒙古王鐵木兵雕卒謂左右日金精兵在潼陽南根 造兵迫之不及而河南新後府州皆復為金有 保且不免况欲成功平几术悟遂不去及底遐兀水 日自古未有惟臣在内面大将能立功于外者岳少 五百騎破五十萬京城日夜望其來何其可守書 輕舉後憂方大波不以為然及兀水語 江淮浚議出 | 再我写主矣如此一二年彼必因弊 **兀水與韓世忠戰大敗於朱伯,鎮欲棄汴** 百个安善 叩馬諫日太子母走岳少保且退兀水日缶少 已後十年乃可沒竟不月其訴 医時出偏師以授其耕養彼不得耕 水戰金人新造之勢難與爭鋒宜訓兵秣馬保疆面 師捷之端日平原曠野敵便於衝突而我軍未當臂 鐵水真道策破金兵 曹生颜兀木北歸 不幸され 4 ‡ 養丛 乃可問也 去有書小 取 椎 保以 人 一河東 4

情出石 領土 江建一片降 謂古吳之後

干事张宗沉 張弘範策張樊城襄陽

之业矣

兵自上流绝生未践出其不

意破之必矣乃重

短躍

馬幣出版

右突其陣進敗走筠州飛松城東賊出城

百隨機而前賊易其少薄之伏發敗走飛便人 布陣十五里飛設伏以紅羅為懺上刺岳字選騎二

呼

不從賊者坐吾不汝殺坐而降者入萬餘人

岳飛破车成復襄陽

利險

張弘範攻樊城不下見阿水日襄陽在江南樊城 江北我陸攻樊則養出戶師來放終不可取若絕江 道断敕兵水陸夾攻樊破襄亦下矣阿术從之初存

造戶橋以通後兵樊亦侍此為因至是阿水以錫斷 樊兩城漢水出其間呂文與植木江中鎮以鉄組上 能援乃以兵紀江而出

木以斧断組格其橋襄兵不

岳飛計移公及同不服方汗 鏡師薄髮妖送被 如飛旁買撞年官丹迎之觀碎飛伐君山木寫巨花 古人身等 岳飛破楊么 人来るオ 丹湖 中 以輪邀水其行 野村村

仁我塞港草 **外狗輪青**

塞诸港汉又以廣木亂草浮上流而下梅水沒處道

善骂者就之且行且屬賊怒來追則草木雞塞刊物

年華以蔽矢石舉巨撞其彩監埃么技虧赴木或 破不行飛急擊之賊奔港中為後 所指官軍乘筏張

舌飛隆肽

馬進犯洪州營西山岳飛目於食而不應後若以騎

概之失弃 最新陈烧知 千日明法ゥ

阻騎兵利平曠成左列騎江岸右列步平地雖聚十 岳燕趙襄陽李成迎戰左臨襄江飛矣日歩兵 指牛皐日爾以騎兵擊其歩卒合戰馬應餘而斃後 萬何能為舉鞭指工貴日爾以長槍歩卒擊其騎兵 一个年春 人考之九 -|-

騎作權人江本卒或者無數成夜道復衰陽

|蓋矣奈何飛陽日姑及茶陵已而領謀若失意狀 岳飛奉詔招安李成成不從飛奏清初於许之飛入 足而入陰今逸之謀歸告成成大喜期翌日來追飛 賀州境得成謀者鄉之帳下飛出帳問兵食史目禮 除抵產飛不降而發士事會奪二區樣之歲又連控 命士葬食菩超遠嶺末明已至太平場破其若城核 岳乘赚课潜兵降李成 頻

子 9--252

張茲 隆道 **議歸以者示冗术冗水大驚題白其主遠廢豫** 日吾今其汝復遺至齊問舉兵期則服納害戒勿沒 即遊展乃作領書言與劉原同謀孫兀木事目謂讓 太子而清河汝所持者竟不至何棄我耶課其錢成 吾程追人問齊已許我今冬以會合冠江為名致四 動會軍中得兀术謀者飛伴責之日汝非吾軍中 岳飛駐師江州 才人 一会皆持 備黎明選成士疾馳歷山 退保固石洞洞高峻環木止一徑可入飛列騎山 騎兵衛之賊呼丐命令勿後受其臣 彭友悉泉迎戰羅馬馳矣飛運兵即馬上擒之係 皮吉 盗連兵 冠掠岳飛受命平之至 處州固 州追成成降 城破其泉成奔連州 華華 置 耶吾向遣汝至齊約誘致四太子汝往不復來 岳飛計間冗术劉豫 岳飛灰雞登山破固石洞 岩親以 八条える 泉十 知劉豫結私罕而兀水影豫 桑不忍追 **於萬** 固 守飛部才入千 殺分道招撫會兵庫 身 負素山 石洞 闸 加丁 (ii) 鼓攻 Ŧ

> 課追斬甚聚 出其不意突二 勢世忠躍馬薄政題族如飛敵分二條旅前阜世忠 戒勿動屬無山潰卒兵集即命機 古人矛籍 逢金兵三子發騎格失措世忠從客令格等列寫圖 轉世忠在見劉延慶與蘇格等五十騎俱 除挤其火格殺鼓十入遂擒願以出 届诸躬莫知所入忠潜行溪谷問野婦得徑挺身后 沒事祭轉世忠討之久杭州 丁北伏 胸堰联堰伏 發來 聚乱世忠追擊 招待順首 **《授前鎮節欽忠躬追至清後峒跋深據岩昼卷』** 韓世忠降城 **轉世忠乘潰卒敗金兵** 韓世忠潜行擒 へまえよ 執旗者因奮擊格等夾攻之舟卒 芳 溅 勢張甚世忠以 河岸約鼓躁助 . -: -: -: 抵滹沱道

おおりて大 地面版生 破燕寒 自暴舞路 冬日進則 解退則 衣走者命後隊 李復 礼韓 洪心擊之王郎

淄兵不滿千分為四

有運賊尚萬人方旗子女推年級酒世忠单騎夜造

明報於是其敢延顧皆或 取大管之乘縣逐北至於

子9-253

赶世忠速其勒王桑氏至秀州會明受部至世忠新 日白太后遗二人慰撫世忠平江自安乃卦梁氏令 許之時世忠妻果氏及子亮為質子傳朱勝非紹傳 除世忠以好孫安之言所部殘果欲赴行在傅等喜 造案梯治器械博等體動傳等開世忠來機兵屯 劉實兵二千佰之所行載甲士編且三十里至秀州 造馬輔甘言誘賊矣世忠簽平江張俊處其兵少 之欲遂進兵後日投展忌器事不可急恐有不測已 古春 苗傳劉正彦及韓世忠諸張後日今日之事慰身 旦盡道 大零夜年以水士三百精敵管敵警胤自相殺戮及 **出在攻益急時糧盡技統人多勉其消圍去勿聽會** 真足失宁韓世忠知王湖守趙遂丞往金人至開世 悉就降黎明軍未至城大梅失色 販裝帳請命因先進牛酒世忠下馬解散飲暖之盡 新華 人奉之九 韓世忠碳苗傳劉 韓世忠雪夜擒發營 正意

其管呼

日大軍至矣重束戈卷甲吾能活汝共功名

雨道出其背每绝一级則曳一舟沉之兀水窮風新 忠恕引兵超鎮江比金 屯青龍鎮遊賊歸路會上元節就秀州張燈高飲世 **貫大釣換縣德者明旦敵丹漢而前世忠分海舟為** 九木分道渡江諸屯皆 敗韓世忠退保江陰以前軍 雞衆望見世忠皆鹜潰 選樵成聚寇率未可減 贼谋主王世修属吏因 朕府廣世忠即楊湛推手與語折其中指數之又執通世忠睫見帝宮門帝 御哭曰吳湛佐遊為最尚在 丹世思捨丹力戰機又拾馬操戈而前令日今日 忠與目大呼挺万実前賊群易矢不及發送散俸 以水報國不被數矢者斬士皆用命戰持滿以待 百分年第一个本子人九 5 英部益進兵賊將阻 **元水軍江南世忠以** 韓世忠計成元本 人至則世忠已先屯焦山 海濫進泊金山下 輸正彦傅走走陽追輸之 於是自衛信追擊通賊酒果 請帝日賊権精兵距應周甚 河為庫 植庭角中 预以 流 И 銭 槙

韓世忠破范汝為

進賦方迎職所遣兵已馳入中軍奪望樓

植

韓世忠錦衣塾馬走全人

李成團打州其黨馬進在筠州命張候致討職章亦全人團准勝兀水劉視皆至韓世忠勒庫向敵遣人郡之日鄉表聽馬立庫前者韓相公也或危之世忠郡之日鄉表聽馬立庫前者韓相公也或危之世忠

金外水不在 计登选精细 金紫珠湖 本空神志子 企之勢成在 これ不以兵 津絶 何之惟向前進一步展可 東日 三関四銅團 投陷穿中 来城下 四方動 其北歸牟波而擊之此必勝 甚其勢非用師不 五何以 去粮遣王進日献紀無晋心必徑波 j **教宗以聶昌同** 府建學之敢果北後送薄請准獲其首程 得入後乃造张宗顏常 俟其食盡力疲然後以 朝 的道分兵復典北 * ** **聶昌陳桿樂策** 工之師前 廷日翰金常千金金人 Ħ 者已二十條萬後以 七個 献策樂金人 當以計取之不必與 人まええ 勿 家之籍雖也 王李和言金人贪婪無厭鬼悸 輊 知 Ą 與 柜名院 Ħ. 孟 諸邑而 敵兵號六萬而吾勤王之 脱乃與敵 槉 渡至六合出其背 4 之計也 __ 依 天下兵集 一副欲 Á 梭 П 角 軍 喬汞不 取 人重 Ā 重 욌 市 兵 崩 誓書後二 工之力 雟 ₽ + 嵬 籬 Ł 豣 卽 准去可 江 都養堅城 深然之 M. 省 H 陳 敵營堅 相 若 許 虎 肆 拒 捍 餕 拒 F 枚 朝 扐 团 途 샕 Ħ 簝 Ħ ž 1 Á

金人

與劉

豫分道入

冠

Ĭ,

莆

乘與他

幸

張

俊

FJ

選

将

是可要实在不断两河大 遊び前ち **永方成朝**年 時間奉朝人 自保此語典 不多盛行子 大概各位書 入對之項部 東非改五利 正稱內准 不敢を要さ ン選京最上 五个新人 宋以 以退 通京 守否 然而可為者 使兵弱而将士不 强弱與將相之賢不 | 民怨入 定處而一意於邊防五电夫國家之安危在乎兵之 Ŧ 7 高宗即位遣張所 根本 拔 門圖 報 Ê 电繁四 人并并 . 李綱為相入 N 頗 後 # 城回言有五 帝王之命提舉守 李綱請料理 然非有規模 有 骨 肵 兩河兵民無所繁皇陛 蚱 激合勇義之士 街筒禁放以 海之里三也釋 简至 論邊京五 者 大河動兵 建下 誤用 |人 歩 く Ą 河北 肖 英斯于上羣 對言日今 利奉宗廟 無不 姦臣之謀始 按視陵 而 肯而不 雖 j. 倩 利 Д 河東 凌江 二設伙 知先後 百両 出撃 挭 祭得 院若 養通 $i\vec{\gamma}$ 圆 祈 在 Ü £ 保 開 至 壅 臣解 勢不 緩急之序則 南 平都之通與 上言 因而 割三 割地之 陵 下 便宜 爲 後 河 安能 穣 事去矣且請帝 曵 旊 出其不 逮 睦 無機 用 H 南 <u>.</u> 行事帝不 И 也慰 二之則 Ŧ 軿 Ė 秋四也斗 アラ東 7. 夢 F 係 좖 苊 墾 儲 不 废 B 4 女 卪 楞 吾 Ρĵ 格 兩 能 連 堯 耄 Â 蕱 Į. 北 網 前 河 V. 中 Х 有 ιζ, ¢ 有

於敵國之意有能全一 久可資其無賴之力使朝廷永無北顧之憂最今日 圍線使如唐之方鎮使自為守非惟絕其從敵之心 有材界者為之使宜論天子恩德所以不忍棄兩何 皆精兵也莫若于河北置招撫司河東置經制司粹 拔其危急誠恐糧盡力疲坐受全人之国雖懷忠義 北所夫者真定惟衛落其於清郡告為朝廷守兩路 |面東南可安今河東所失者但代太原 海路汾晋 河 作士氣棒即臣以任方面選監守郡守以奉行新政, 鬼民力 毀勢法者 冗官誠號令以城人心信賞調以 乙先務也 之心危題無告必且憤然朝廷全人因得極而用之 萬人朝廷不因此時置司遣使以大慰撫之分兵 士民兵將皆推棄縣以為首都多者數寫以者不下 依吾所自治者政事已修然後可以問罪金人迎還 |聖此 調規模也至於當急而先者則在於料理河 河東蓋兩路國之屏蔽料理箱就然後中原可保 新养 人まるよ 州復一郡者以為節度防禦 国十三 *!!*!

> 候復事し 以成是行 つ新安元の **汁以 河北** 1. 是大利 为不足特 河北以為固芍憑株衙特列重鎮一城受圖則諸妖 定離棄枝曳桑以敗朔莫敖采熊以致終皆謀定也 飛為中軍 被預問能敵幾何飛日勇不足情 用兵先 或強或收金人不能窺河南而京師根本之地固矣 所夏然日君殆非行伍中人乘因說日國家都亦情 朱以張此為河北招無使食出飛奪官歸詣所所 李侗詩 岳飛以 莱靚张 劜

成功夫外經強敵內

銷益賦修軍政變士風於

靖康 一年李綱上言車駕巡幸之所關中為上襄鄧

次之建康為下陛下縣未能行上

策看當且適襄

鄧

下八 事 许

大様では

選供 甚安便弟恐一失中原則 脚中可 有商山 乃遷汴都策無出於此者今乘丹廟流而 巴舞可 中菜取解全股情樂江口 基字 失有六年願陛下西幸巴罗用映· 後又悔是為無策 長江為可 將士以 执核形 蘇江南 商家主杭州馬濱應詔上言前月之事其 奈何部墨未乾速失大信 再舉強房升椒江淮 武昌縣恭荆湖控引川廣招集義兵 f 以召将士東達江淮下 開不可得也况當降部計晋中原人心 峻嶺可以拴扼有寬城平野 ‡ 勢密約河南諸路聚傑許以稱通 **擴應部陳三策** 以取財貨北距三都可以 撫雅甸被金城之計回天下 侍幸金賦之不來指禄還延候至秋冬 _|人をこえ 勝觀敵事勢預備巡徒是為下策者 千里數道並進方當此時候 通達清照精習水軍厚 東 南不能必其無事雖欲 以運發栗南通期 造枚接質議駐 右之兵器重臣 之心是為上 Ħ ドナナ IJ 蓬東南西 英有 惟守是 屯有上 ŧ 奷 西姆 棁 ū 淮

宣 此言中係 北京中衛 此方た?前 安臣 使最後京都以及技事衙以此為之志而勿失机 馬日以私損 敵議者又謂敵人既退當且得樣一門以有日萬之 一欲後職以能俸非制勝之術也今朝 馬角退當遂用兵為大舉之計臣竊以生理未問而 可賀而以軍政未備士氣未振為可虞議者或以 高宗部議攻職備標措置緩懷之方李網上 大于 是 然後 師也重兵以務之分遣獨師進守支郡 荆襄以為東南屏蔽當於淮之東西及荆襄制三 之後即議攻 不征明年不戰使敵勢益張而吾之所斜 ۰ د 本苟不大修守備先為自問之目何以並萬全而 南為可安而以中原未復為可 下勿以敢退為可喜而以 á i 謂風宗境主豈可坐視淪陷. 連下接自為防守則無能之勢成守備之宜其 李纲上攻戰 可議及職之利分責請路大師因利米 H 11 Ш 乃為得計其守備之宜則 きこう H 備 酸唯宜于防守託囚 **佐敢未報為可怕** 趾勿 7. 恩仮 廷以東南為根 Ľ 加以 諸将展徒 Ŧ. 17 合材銀 復若令 栽糕 理准 役兒 勿以 斑 Ħ 東上 水 仴 Ł 胜

为巫巫 温正文字情 七篇模様之 业 有 推 看 不 **支裁抗压力** 生言不可 孟装铁所以 君而以 則以 此何 東南形 過奉 荷祖宗涵養之深其心未曾於宋特制於 無別 之臣唬然敢以天下之重自任者幾人平居無事 ďо 乜 滿之民知所依怙益坚戴朱之心此發懷 自歸 天威震驚必有照為内愿者宜 幸此措置之所當先也至於西北之國皆歷 治拔疱修宫翳立官府 ĩ 莫大於是夫萬乘所居必律形勝 **本陛下** 萬 無休息之期是陛下憂動擊至而中與之効邀乎 騎 ふきょ 弱為侵取威定亂逆臣可誅强敢可, 誰 則 贈 為 補於國而陛下亦安取此夫泉近 身以退天下曼竟之重委之些 勢無如建康舊都未復莫若 似下 群臣誤陛下之故也陛下觀近年以末所 取卒情難練圖用順而 進票為談園 得計而以 臨鄉九年國不闕而日感事不立而 入れまけ 無過忽有提接則錯愕無所惜手足 治兵為失策倉卒則 勢益弱縣 制營壓使租成 無盈餘之資民 此 一優加 椎 以為駐驛 之蘇 Ŧ 1 規模以 於 年閒暇 Y.L dg 人之所 建 滅攻 退 e 榫 崟 **今天政** 康 有臣 敵 迕 徘 Ŧ 常先 之所 爲 E 使 7 待 ij 赤 駐 刖 Ħ 埬 愔 不 M Œ Ť И 加

者惟

當於

國家開嚴之時明政刑治軍旅選

) 將師

鮗

有不要家 此言不可 百个和武士 為何 謀是和卒小成而為此擾擾也 氣而又逃我以必不 可從之事 以見信 之邦 光袋祖 勿復 Ę 為退避之計夫古者較圖善隣 如而我方且早 鲜復遺使今全人造囊之深知 俗器械 决矣器弊禮物所實不 宗之大葉此最上策也臣愿 特種種積金帛酸來則 辦厚幣風 脊便 制 借 死於吾自 我 ÿ, 邓 P И 載 Ņ 水之其不 樂侯時而奮 凇 Ŀ ፑ 有 往來坐索士 油 報 7 和 自今以 自兴 敢 共 视 為 指 걙 推 Ż 往 * ŧ.

哀悟 至維 京東西失矣萬 於奔命哉退避之策可暫而不 而可手放海之策萬乘胃風海之陰此又不 不大然創安知其秋高馬 典治兵 軍數十萬之衆震怖不敢南邊潜師 歩 則 失 一 歩 退 一 尺 則 失 一 尺 往 時 自 南 车车 楊則河北 前 退遊之典進祭其効集可見矣然敵兵暴 H 种 議退避之失親席 末され 河東關陝失矣自維楊退至 _ 散騎南牧将復退遊不知何 肥不再來提我驅動 大致 可常可 背奔則 天威所 而不 可之 江 和 加 萧 可再 析 都退 護之 使 谪 ŧ.

日天火器 1. 有到语数 去我有害也 方別な子様 十四萬祭 以鞋 全人養道使來督嚴幣真德秀請絕之賦界日女直 五百人以五之一為輜重及衛兵餘當車八十乘即 縣以為松每車用拿二十有一人四人推竿以 1 |長兵祭人短兵祭馬榜施張索行則布以為陣止則 一人登車以發矢餘執軍器奏車之兩傍每年 止載弓弩叉設皮兼以桿矢石下沒鉄浦以衛人足 校閱之法用靖康問統制官張行問 展騎騎兵不足以勝車請以車 計動 李綱以金人南侵州郡兵不能禦乃上奏兵不足以 既定禪所當為者 方庫則 負之勢央矣 型侵陵徒果於非此吾国之至憂也盖鞋輕之 真待方請絕價金歲幣 新針 ħ 李紹京東西遊戰車 相 四面各二十乘面輕重處中 妨臣順自 大津さん A 以 切以至誠為之則兵雖未死而 在勿 制須京東西製造而 獲遺 見せた 所利兩华與於 P 藏之使二者 運貨

具被女直给狼師之志在得庭庭之所走獵必便之

能越三腳之阻以攻縣豈不能絕黃河一

希之水

入中間所是 王经则是全 來此的都歇 女直则用之 門を通数後 父正然歌明 何详于北房而给事之故且重於絕房者畏召然而 傑以遺廟之費属天下之甲兵人心套張士氣自信 天以此初近在剪夕說能以待敵之禮遇天下之豪 值其方强不得已以太王自處而以句疑望後人今 可总言國家之於金屬蓋萬世必報之聲高宗孝宗 真德秀為江東轉運副使上五事一 送罷 金國 族弊 目而示人以可传之形是堂上召兵戶內廷敢也帝 更生則施之强敵此首安之計也夫當事變方典之 |之金繪飾行人之王帛女直尚在則期之女直羅敵 立之具以及耻和或為福以息兵愈職為當精安達 福电今當乘虜之將以至圖自立之策不可幸虜之 未於姑為自安之計夫用忠賢修政事屈奉策收象 不能即安中土別奸雄必将投除而取之尤非我之 易相望便為縣問因非我之利也或 以超汁使 di di 者自立之本訓兵或撰將即無城絕的成守者自 兵徒秀奏五事 一人きるみ 鞑 郼 送能 知劉 取石勒之盗 日富出 如耶 有 律徳光之 þ 之耻 原

共主之實有 A.千古名主 結石会せど 安果丘城也 凡美生 可 八之全編首 **耳末至衛光** 波亡之强弱 可作著祭問 班首夷太不 代光之紀 号 死六石即奏 外下なれる 王 計画 九支 理生于在 君為 社之慶也五日至公之為不可忽言公論國之元 該說或以五編足特為言夫乾泉告經過日尤甚其 言今邊事方般正君臣戒懼之日而為鄉大夫工 治賊 放景 也然能不不然 惟今日實公論屆仰之機朝廷之上若以言者為 也元氣痞隔不可 天人之相因察陳佐之有害益於其本以格 1%是剪丛為喜則 都之札別幸其心 全房之存以為欣成問憂感之故則其其非實得 網 を言 |元之失策則 雅其利害就重就程臣順陛下 怍 之心三日幸安之能不可怕言今之議者大抵 願陛下母輕二賊目夜講其或守之策以通杜 ٨ 難起 報風 也願陛下騎自强之志恢立武之絕母以事存 議緯不經之說而 及山東之盗坊得志而與于吾莫大之 無猜忌之意而有 王紫與隆可其矣二日比隣之益不可 ŧ こえん Д 大 然是看以打集為垣而望其能 為人公論理轉不可以為國派 勢奉矣四日 於 包肥 **亾勇而** 聽用之誠 耶之酸 戒 平惟陛 勉勾践之良圖 不 能 進敏 と言不 不 用公論自止 聚聚於 天休 下整 Ž. И 新 慞 ij 蒽

心定候眼息 使此有事于花莲班教兵 別放丹戶大 **身上者不可** 民主新开车 其 F 巴出 **火船** 李寶既解海州之圖遂引舟師至膠 焰蔽天師 海舟不能動兀水令善射者樂輕丹以 祭天及 天雾風止 之策於是問人王姓者教其舟中載土以平板舗 逼兀术躬愿又見宋人海舟乘風使蓬征 乏所數分 仓伸若以 **兀术南侵至江韓世忠 取之俘** 忌之意則公論自此復居夫公論伸 石白神風自危 火箭射其翁邊則不攻自 /، 海川 殿 敵操舟者皆中原遗民 進見 實船約敵兵人 李實大箭焚金舟 がす なぎ 板以權榮低風息則出海 身無風不可 日南人使船如使馬如之柰何乃募獻被海 兀术火攻破海舟 泊陳宋島 顧胜 遂大消焚滴者不 言者為祖事為 ア、末もよ 下壳臣愚忠也 梭中 **元术以小舟出江世忠绝流擊之** 相 來如鍾鐸聲果咸當引舟 柜僅 徽名 以一山 可勝 陂兀水然之刑 無頭 獲甚衆世 鼓 jt. 聤 įΚį A Ж 1 石田鳥放舟 jŧ. 火箭射之烟 乃治亂 Ż 風 起鎮 來如飛 ŧ 誠 益行稿 動也 Á 胹 Į, 份 存 有 Ħ 丹 追 猹

乃食前道兵造來時用連管私量攻私尚属讓取亦 另命 前射退的方弦等分香 选射監察院失速發不 全人自起海角征於常務及與吳玢戰敗於甚不木 進薄玠營軍大消五路皆陷 有騎不得施何用他徒已而酸與柴繁主藉掉平行 **嫂之使不可勝諸新皆目我泉彼寡又前偃葦澤黻** 既外日兵以刑動今地勢不利未見其可宜學為島 須其弊而乘之及次當平都統制谱 張凌合五路兵欲與金人決戰民務言宜各守 餘物泉不能舉者悉焚之四晝夜不減 登其 舟以短兵擊散之降其象三千餘人斬其帥完 祭廷境或畜粮失 所不及者治欲前拒實吃壮士職 風浪捲兼以陽者來無行次資命火箭射之烟塘随 舟中 百八分音音 **顾鄭宋等養其統軍符印與文書器 甲科射以專計** 落海波 腾罪敌大鹫掣可奉帆机皆振缬竭豆数里 吳 骄散伏取 兀水 使 全人與裝廣上致瓦崙氏 不知王師弊至風駛舟疾過 一人ませた 端文食清将議 1 jh 薄敵鼓 更當

藏被豹二将上衛的後發火二将至衛放無人聲軍 命諸將問所以攻姚仲月載于山上開勝山下則 前臨 峻嶺後控職家城 調我必不敢輕犯先一 能當也及與二首遇遂用之二首老于兵按除白因 齊以為然乃諸戰敢矣之弱夜年遣仲及王彦虧杖 車戰餘意無出于此戰士心定則能持滿敵雖執不 乎 項目此古東五今法 犯軍法有之諸軍不識開得 而騎退詞之登庫諸将始後寫議日吾軍其殊於此 更代之遇更代則以鼓為節騎兩翼以散於前陣成 古子新墓 人来之九 發次障如之元陣以相馬為限鐵的相連食工傷 弓豹賊 相得至百歩内用神骨先發七十歩 噩琴係 **经前坐不得起次最强亏次强擎蹬隊** 秘繁如 胡世将同葉安出於日有新立逢陣法每戰以長槍 金統軍,胡蓋與習不悅合軍电劉宋恩吳齊請討之 术中道矢僮以身免 因且走設依於神坐以待金兵至伏發艇兵夜擊兀 吳齊量障確全人 ħ 汪敵少却所以騎兵旁擊絕其權 正十日 以俟次神臂 道度其 月磷 Ţ

和明 太守要猜求接下德德兵落城下城不废其至

企人攻楊州西軍多潰王德超宣化

ŧ

叛將

张昱園

王德擎新張豆

您府治執偽守然太師左右營授德手段数十百人

聚传胎不敢前

之析一

王德以武勇愿募隸熙郎姚古會全人侵古遺德

漾

首以還古日能復在乎德從十六騎徑入陸

之則可以下兵秦雍近者王師蹇銳而後得顧楊蕪

王德旗姚太師

張後科李成諸斯議欽分遊進楊存中日兵分則力 全 朝北 **炮無不一當十** 省飲敢一鳴鼓壯士空壁躍出突骑軍 齊軍得 按行諸屯預治黃河 軍為兩肋至船餐增損存手知機者 吳舜胡金人有四 漢所長 兼收雨 長何 謂門長 一人人 人族大散關六十 亏矢布阵法則以少軍為唯心 楊存中合兵階騎擊賊 吳舜論 吳齊預治歐地 日骑兵日堅刃日重甲日亏失吾集眷 Щ. Ť ネシル 用之以分限制其 長我有四短當及我之題制彼之 戰絕虧不 Ħ 相持 不 破吳臻自躬至 用命者先以數 左右型 騎兵以香作选 ュ 則 先品 百騎 炭 И Ŧ Ę

> 中第五人本之整軍至豫章在中首被賊于玉隆觀追至筠州城 **亦利者爲**舜 得少利放得 以 易華之當用并願以騎見屬公以歩居前後後後之大於 · 其 有以轉兵艦 兵若濟後而 是最有以正 化法所云数 和尚原體右之落隻敢得之則可以即閱漢川我獨 金人再入開議者效割和尚原界之楊存中入 聽將以聚十萬來後來河而管存中開發日 窮叉諸斯位 变作人干人 存中夜街枚旋筠 ř 人有等 楊存中諫分割和尚原 人まるか **釣勢敢非招討督之丞不** 河出西山 見下學賦展以步兵及 ボナバ 別為 被泵承 用校然 誎 Ë

陣法

胡畫善載二人異議務先以兵批之盡出職構以

· 更你选贱程衰驻馬丞麾之士孫奏問

全人士

- 列萬

俰

齊娶前

1. 联榜

日吾事联矣習不

悦苦

子 9- 263

氣若 遅之使稍安則 淮 非吾有矣俊循環未決德 **基堅日順父子先越江** 悉折 穴中 數干里達來輸道次不維及其未濟急擊之可 **全人自合肥入使游骑** 全 王他 延用接職新是俘其兵騎数 求一人永奇子 點忠願 必不為備倍道而趋一鼓擒之 城德引兵赴之文舜俸德蘭諸軍日念經問吾宿晉 Ē Ā 恐暴琦顯忠欲與琦俱有敵人夜宿陶穴顯忠緩 德即渡采石俊督兵樂之宿江中德 其足 将十七人盡教之夢其二首乘二馬以歸 准者汇之蔽也奏 王德定計技和 . 化郵延經晷王账命李永前募牒者得 李顯忠殺敵祈馬足 王德倍道進責王念經 一人まるよ 州 使和州 下然後 准不守是開唇以尚寒也敵 及 在時年十七永奇日汝未汝 Z. 張 萬 後議分兵守南 宜撫北浚俊 日明旦當 剧 文 張 Ü 岸 於馬 岢 舜 奪 Ŧ

勢者遂合五路兵進北至富平戰不利金人張勝而 奉以 全人窥江淮急强浅以 為子羽 與劉光世議事為散飲全子羽 栗列 雙罪狀且 以千兵渡江使背甲而來若被他些者因召變及 范瓊推强 兵不肯解釋張冷 百人者書 發斃之 乘勝犬呼令萬兵持長 斧如醬而 遊散大敗 鐵騎十条萬夾道而障德日敵右陣堅我當先擊藏 部中飲待之聽日事當檢會復何待徑上馬兀 追至都舉與全人夾河而軍諸将皆集獨俊後至 會食歷 勝遂拔和 東皆校別有旨分隸五軍須更而 |可退保典州人情震恐有議徒治夔州者子羽 **建愛日有勃將軍可站大理置對 瓊愕** 劉子羽固字典州 劉子羽誅范瓊 酮左右權至與中衛以 首犯其蘇敵一首披甲躍馬始出德引方 人来るも 日所誅止 州 及 禁 迎俊 衛寡弱計所 **瓊若輩固天子自將之兵** 踔 跌 自. 淡兵 选狱 因出無 **劃** 退保耶門又擊走走 廡 定 下取 Ĭ. 羽 ÿĮ 謀誅之合沒 分娩其 黄 亦 纸 舠 趡 水出 Ŕ. 其 所: 前 湟

若金人襲之勝単騎殿後金人里見知為王將以五 金人及蜀計在必取所選士卒干取百百取十 勝提兵往故障于山下全人多出兵勝兵遇伏皆赴 **膨展以數十萬泉壁蒼山金人圈之展告急於** 者被其甲以進叉表則叉代之 守險塞金人知有備引 凡 校道之險未敢遠與今不堅守縱使深入而吾解於 以其泉東會命夷玢楊和尚原守大散関分命将悉 請北出車騎至泰州召諸已將諸区將関命大喜悉 奈何為此言乎沒然之 諸恭佐無敢行者子 羽即自 之學內安全屬之心思達官屬出開呼召諸将收在 敵方肆無未逼近舊直司但當器駐與州外繁開中 菱峽遊與関中聲後隔絕進退失計梅将何及今去 散占分布隐隆坚壁固星脱集而动翁或可补前您 一人并弄 **趙登山攻險每一人前鞭二人推** 日是可斬也四川 魏勝延身收砦敗全人 金人定計取獨 一人をこれ 全感敵狱入冠 去 其後前者或 五十九 久矣直以 樵 既被 鮁 後

塞関陸恒如寇至不敗懈現獲全謀者獨以 旗十数曹其姓名密付諸府遇戰揭之企人 大刀能左右射旗揭口山東魏縣見者退部勝乃為 城上溶金液投火牛全人表傷者多捉岩走勝 一城中全人果解於山芝園自新橋抵城下勝募土至 中央逐步入若勝度全人必後攻海州問行出若超 城金人欲徑超砂堰園城為營勝先據堰備之全 金人追之特及榜屯田鄉籍在比問首降易兵已入 百斯里 一个手手 軍士令勿出戰金人因渡河轉襲関後勝飲兵入城 金人替海州将攻與子門魏勝登閥門 放以樂矢石如雨七日全人道去 遭遇有來歸者與同則起兵飲食示之不疑且問 課酒權直動輕豪右度限敢兵攻取處築城沒隐 勝起義兵海州無州惠之給府庫之儲獨經畫市 近一日黎明金人栗昏霧四 魏勝安集海州養敵情 魏勝自此姓名威奎人 之數重歷風突內擊身被數十槍 人系えた 面薄城勝属士卒 7 張樂 突圍 Ä 悉避 飲酒 善 出馬 用 槗

通方又東全人失志最陽必並時同攻比城乃先發 其氣竭合兵從城中出來擊之發傷三萬金特說可 熟道兵龍民刈之清野以後策敢來必虚其果火持 其虛則憂賜之團自解金頭兵城下八十餘日方策 金人圍聚陽超方申倘将士當先過之境上 見勝乃築重圖內山以據之 其攻具海州城西南统孤山 **张兵魏滕力拒之令歩卒前行身自為股入城與銃** 俟其近鳴鼓張旗矢石俱聚攤以火牛金液 敢即攻 巴乃植雲梯置視石四 面合聞負土 填漆時 制郭蔚分兵備樂偃旗仆故寂若無人金人勢疑不 其貧窭故底激歸阶 ハイー 金人合兵二十萬攻海州卒實時以防海登舟不復 戒之日母深人 母女城 尔濱其保 甲變其城告空 趙方解豪陽之圓 **桃其不備或獨出權之或在發兵開湖之或** 終不得近於是罷皮修營量絕河道 守海州 人まさま 者次 3 賊 得敵情盗去 每昼歇城中 ナー 聤 源写 九三書 麥 I

相承以耳 老在人 王心 十分獨臭中 有以異元七 **脊輪歲與以後師期不二三年邊避稍依落 久枸聘使無益於我徒使敵得以為醉請禮** 用者立為統制分東西二府成率然之勢此上軍 **其兵日增可戰可守此中策也二策果不** 絕互相應提以為聯絡之因選宗室大臣忠良行幹 遊後有事則東商齊衛戰守並用刁平 督其尤要害處輕參倍其兵無事則近升長 七千里若距百里面屯屯有守幹 老弱柔脆十分汰二選兵五十 Ŕ, 下本年非 宜盡出之江干以實外樂葬兵帳見兵可七十 題方實籍士恩不醉夢軍教為變其子葵年 完之 丞即 目此朝廷賜也本司另有價賽軍心乃 再貨権と 少動送 題去! 期创置使汪立信日為今之計內部何事 **注立信上兼買仮** 趙葵片有定軍情 人来さん 面金人果向樊城即以待之金人三日不 j 道 3 餘萬沿江之中 十屯為府 ナ ゴ : 机闡 得 行天 推稍 一而歸 飽催 推在 小肝有 平多 扌 7 += 固 Z

以為鬼馬世 **大文** 華建英形勝 英運李写只 各各條員權 如董作歷史 胡文山非鄉 都有日來亦 以福建益江東而建開於香陽以准西益淮東而建 湖南面建門於是抄段廣東益江西而建獨於陸東 及今宜分境内為四鎮建都統御於其中以廣西谷 中流非有髋令每得發發示以必或无元术登石公 要性傑等大出丹師次于焦 關於楊州貴是法取鄂隆與取斯黃香陽取江東楊 巨艦分兩興夾射阿米居中各勢進戰 山塞之日可烧而走色送造徒卒善教者干人 傑者又何開出於其中如此朋強不能小也 退日夜以圖之依備多力分衰于奔命而吾民之喜 十个条箱 州別一州被至一縣馬 俱焚多赴江成 兩准地大力泉乃足以抗敵的日春管有進無 **使散香港液乃查准 厄水火 矢旋宋舟** 時雕足以無尾大之弊然因以發弱故敵至 人本之人 縣被中原陸沉痛條何 山冬以十丹為方院江 **少** 继以大矢事 裁以

> 外在本語墓 里丁、四年 不然を発

ない 一日 日

基徽不執 不 前列隊員是 **老花出之以** たる古典版 官軍不虞其至皆潰走遂奪額口下安豐及霍江進 被然悉來屯花餐以備之於乃潜師八叠駐于南 即造真屯職揚兵下茶學言欲渡守将然公在以 全僕散 探引兵至淮道人密測淮水惟入叠灘可測 图和州屯於尾梁河以松真楊翰州之 街乃整軍列

張 旗 幟 於 沿 江 上 下 江 表 大 爱

伯顏潜襲沙蕪

D

文天祥至席安上既言本

朝懲五季之亂制落鎮建

文天祥上書帝从

中流兵不得進軍將馬福言淪河口穿湖中 Ħ ιÈ 正三十餘里王達守陽運垒朱根孫以遊擊軍長 伯河攻陽遇極時宋夏貴以漢部丹師分據要害 ^ 新春 人糸えり カルリ

逐堡两沙藍口人江伯顏使民沙蕪口夏貴亦 江戰艦萬計相難 兵樣漢陽伯類乘間遣阿刺罕将奇兵倍道襲沙熊 兵守之伯顏乃進圖漢陽聲言取漢口渡江對果移 奪之因自漢其開獨引船入淪河轉沙燕口 張弘能築墨伏甲待攻 而至 IJ И G.

弘範將兵擊之兵臨發弘範父柔爾之日汝園城勿 蒙古江淮大都督李豐以京東米歸宋蒙古王遣張

Ħ

簁

陟

赴业届有及 山政群之民 **浙五山西** 北方郷石を 特馬中期到 料放压中使 一新安阁推延伏兵山谷以弱率數干問題走壁華政 壁中裔外不下會蔡還雄誕伏兵已報洞口不得歸 飲以王華據郡稱王王維 杂其巨帥 驚奔突腿陣因使后車方參閱發故則震擊盗驚眩 今馬車若前順風鼓灰賊不得親門以火燒布索馬 上擊布索於馬至又為兵車最發牙勢克剔食以乃 人愛懼張乃治特馬車數十乘以排奏盛石灰於 枵 突諸将獨不向弘範弘範日我管要險 地理乃示 避除 於我必以奇兵來裝遂藥長壘內伏兵外為壞開東 |水光必赴放可因以立功至是弘範營城西項出 丁人并幸 **水東末及岸軍陷豪中得开裝者突入壘門遇伏皆** 門以待夜埃婆加深廣望不知也明日理果擁養橋 遊為家陵守養福桂陽猾賊聚或郡縣遊力弱 王雅設走登降汪華 楊璇灰車俊服 地險則已無 一人まえま 飾 心兵必致或主者原其險苟 温油 師政之華以動甲 車 吏

***		5.水聚一水聚一水	
	古今新藝人表述礼 二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二		农野落聚木石於險底過其歸路黃梅王海也 孫帖 华鶴與徐壽輝 不動與徐壽輝

其鄉首并家屬 常出抄

鼓遂解其縛

IJ

隷介通問

達

圓褒士誠于蘇州三月不克士誠守無錫

将

貫

達後會羅者獲天施總

領官楊茂見

不官我人意 塞如此簡那

全智勇所得不亦多平

徐進智雕莫天祐

全城

降服一者我師不傷

二者生靈

蕧

全三

者

死間 般傷必多吾故縱之造傷 勝直 太 古今轩 兵敗豊不 古本 音等 泉之下寧有完卵平況事 祖 彼 抵抗 到殘之餘人各偷生喘息不暇 飥 太 淅 平陳 # 祖論平 木 各个 老さ 朱 知乘勝戰之兵法窮寇 理戎簡 + 雖克之費力多 老七十 康 鶬 文 茂 H f 父 幄 者 有緩急兵貴權 敗 師殺 矣 男泌之長源父 腖 蓀 侄 剔 明斯楷 裱 勿 氏 秦觀三願 其後 我以 浡 追 於 上日汝不 行前 若 九 蹇 悉追 室當 大 恐其奔逸 江 侇 Ħ 何 샃 文 父 簲 彼 陳 H 不 評

Œ

所急慢也 攻他故原以 天转士读合 建屏心憂者 建灭神则天 联条每而置 失兵以待天 华死而士政 先剪其此天 前易知业前 皆电 徐達 赴權 應針 師赴桃花場焚其糧草以 全捐 遭率 雲龍 至無錫 汝 詢解道云龍虎山下有小 達旗機悉往東走遇郭 間忽伏兵 **欺必空噩逐我汝等秉隙恶攻其城破之弘 将軍欲 我赚天耐有何難哉** 若降我忍天祐加害汝家汝 可 善蔑之至此 疌 趙 Ř 通走競州 有条 花坞令茂前導見東 合莲必成偷补大喜 椛 驅難報達 潜 Ķ 花 信州燕繼超以東四萬拒戰 佯北起畫 達計誘燕羅 師夜抄出 B 塢 起天輔突陣奔無錫至北 明晓刀 | 矣茂日小人 未七十 知其出於至誠 東 山下 密縣其妻母與子 來追 λ 超 月 深 英俞通 環恶攻 伏 13 以兵五萬 夜 Ŧ 徑名通牛峪竟衡 火起 有 五 即往見肺日条達 勿動侯我與戰仗見 主公 鼓東門舉火為號 H 母未嘗敢忘今蒙 母汝妻與子吾已 淵 凍 城勢不能支送 详 領東 進 守無錫 簡授茂茂笑日 計取王管召 達謂楊 矿 兵彷彿 홈 門 見城 衝庫命 矣 城 璟 Й 婕 拞 南 H ł 至 我 盽 * 塢 典 h

氏

Įį.

來協穴原名 陽明之)攻命 |分其兵臣與常遇春先攻洛陽以榜左顧之憂次薄 汴渠以待坐守之田则房兵分謀亂力不能支大軍 張思道李思齊合兵十 卷数百里 原果通夜遺動卒襲其營送克之 戰退無所依法所謂此 亢眷虚也若彼達 奥若等乘其不備直也太原係其果穴則 彼進不得 丁公弁等 則已為我牽制進退失利公成為矣旣而聞達向太 攻北平謂諸將日孫兵祖總六衛之師足以鎮禦我 其舟雨 間橫廓帖木兒率節出太原 徐達許平關院 徐建攻太 定火焰 以阻我師徐建謂 人奉え十 原 **液天邀攻其前郭英攻其後** ٨ 萬東出 口口 關陝西 取 以臣料之不 道 ø 保 (兵教太) 棋 专是 | 峽右 爵定鱼 鬞 如 Į,

讓所向成以思道不及思齊慶陽易於臨飛飲.

日不然慶陽地歐民悍難以來

接臨施西通

先 拥 取

而建清山東梯河南不牛較平矣及逢駐師鳳

臨勢成席楼如汴梁不下直趨敗右破思齊蘇

此

班三 丈許諸將莫敢先者題春拾身挺戈乘勢羅 古心舞器 常遇春從 獲種乏絕其下開門降良臣投井及 出入之路命角通海署其西傳友德暴其東陳德署 憂陽降 既而復叛達恐其黨相煽為援趙兵先抄 軍慶之思齊不西走則東手降矣遂遣馮勝征后 夷北界河隍得其人足獨戰闘其地足供 其南顧時晷其北民臣戰不利求援寧夏為我軍 果以城降思道在慶陽開之懼而走其弟良臣亦 常遇春先昼枝采石 上度江抵来石元兵庫磯 主 軍

上下 豫大 舟

敵眾披靡送技采石進取太平元将蠻子海牙屯 砦采石南北不通遇 群设疑兵以分其势而以正兵 因為特角時我師皆渡江家屬尚留和州敢兵 iI.

力很大 杂炒准基础

合戰 俄出奇兵衛之且級火焚其艦海牙僅以身鱼

沐英請政课水以图根本

赦已

角勢英日源水乃金陵財敗遇不取他日必為患今 徐達為元帥下深水命沐英統兵一萬取備配為

離心有性我之意宜提兵轉出州後以及其背

石交發呼降震天職數十合英經鐵騎擒其中虛牛

柔着所其單級却數里而後陣節既濟應兵大進

存兼行大处

是倍通兼行将至白石江雲霧四塞及江而止霧雲 謂我師疲於深入未有虞心及其無虞乃可 冰英副傅友德計出前達里東率精銳拒戰 一个条套 沐英倍道設伙取曲椅 ** 人未之十

*

|陣後吹銅角樹旗機為凝兵山谷問通里解急撤兵 期兩軍相望達里麻鶯以為神倉皇失措乃擁兵逼 選集庫胤英乃超師唐江使在而善泅者先之長 水前陣友德欲後英日未可達一軍沂施潛渡稅

子 9-271

則我節急攻之不一月糧盡此法所謂老師坐困自 元帥統兵以把其前彼欲戰則我堅壓不由 欲 不

儲 IJ

獒之趙也達如英計竟以成功

外英分軍擒胀欠赤

河歷賀蘭山涉流沙去房營五十里分軍為四一 **元脫火赤屯泉和林為邊思沐英將兵使亦集波苗**

其背二掩其左右身率驍騎當其前夜虧杖而進

圍之股火赤駭惑俯首執擒虜其全部而歸

英日

磺也

ì

1

龍

尾

乃令

施箭 齊發第二行三 行雅之泉必驚走然後以大

之被此必矣明日眠悉矣驅泉戰皆拔甲背負眠

模若

其勢英分軍為三遇誠領前軍奪正領左軍陽和

個獨然兩個孩大竹筒中置短给乘以標之張

外夹攻失理城倚照著山西洱海為固 發腹背受敵世就精大理以平 馬軍渡河水及馬順遂斬關而入山下 王弼縣,其冰東趙上圖而自以殺下陽為特角勢 有建里庫 [最晚要上首民世以五萬泉柜下關英乃令蓝 上立旗機運明下關兵見赐曜散呼蠻泉驚亂英 胡 海務一軍縣石門問道統出原香山後攀木 冰英出奇取大 逐克曲 人*** 靖 墷 1 龍首 軍亦擊之諸

船艦 **沐葵婉孢火箭 被泵陣**

東來遊戲交刃獲一象而還英喜日此賊不足 討之先令馬誠以三百騎挑戰蠻罪萬果乘二十餘 請將多置鏡箭分將士為三行侠象近則前 以東三十萬象百餘寇定遠冰英率精銳二萬 椄

> **新齊發不絕泉皆舊齊賦將昔則死戰** 領右軍 一貫退而 申今日今日 智者一 **账盘涂士皆鼓勇陣** 之事有進 無退進 j. 而疑者 既交前 魳 ġ. 却 加 軍

四十七餘散矢如引而死 飛精取左師之首左師復香 三原香蜂 联 大敗

李文忠張疑破呂珍

占分纤维 貫虚聲何以多為乃張榜於賊境詐稱那朱提兵 最州兵少衛信兵出江西無以為援與部下議 |召珍以兵十萬圍諸全守將謝再與告急李文忠

Ħ

Ñ

人様だし

出江右徐達領兵五萬已出嶽州期

會

金華

克

٠,

分門而守至夜牛令士卒絕食雞鼓鏡砲聲 抵諸監珍知之欲退軍五里而管會胡德療 信州來接有降卒具以賊情告德族即 仮 天 再 地 得

日進

Á

大呼

出城賊管闢之謂大兵已至皆驚走自

相

駯

追殺死者甚果

李文忠祭新城決戰 , 商暨 浙

破 敝

再與放降張士誠兵寇東陽辛文忠日 障使不守則衛信不支矣乃去諸監六十里前

奉山 カド **護我耳賊必攻池州乃留赢弱守城而出绝士伏** 文忠格教數 數 彼勢益燃雖大單至無能為失莫若與戰 干破待坚戍十萬安在其寨不敵寒若未戰而退 麦馳 指岩 工命者 丁曹館出我師後俱知之潛引斉兵由大全港入結 春 Ŧ 出献述大廣 敢之後輜重悉汝等有也 一其六門晝夜選攻裝士信忌發境中兵為援电 今日 春會請將伐吳直趙貳山水陸 **澳人果攻池州伏起停斬萬人** 騎乘扁馳下直出庫後衛 東未至十里據龍潭而管守將胡德濟進入 耐 徥 常遇春設伏敗漢兵 避春幾敵背破 搣 **後泉雨驕我寡而銳以** 敢始避之須大軍至文忠日昔晋氏以 無何士故 上攻安慶漢人號言且 人所向皆靡德濟亦率 *** 文以 三十萬圍新城文忠由 明日交戰橫梨旗鞍 其中堅敵列騎 援安慶 銳擊驕 塵戰送蛇 將士城中 ` į, 遏 疋 九中求 春 曩 捌 日 銰 Ł F 載 링

後時 文忠遊令遷營便前進五里阻水爲管夜元將脫 伯悉果來攻文忠令軍士琴食堅壁勿動先以兩管 大王天雨雪疑有伏親自入山覘之前軍已安營矣 命而來開外事有利於因專之可也若候進止 李文忠兵援慶陽巴平適房攻大同恶文忠 見者皆遁 出奇兵被之取所斬俘 唐東开天 , **惜能弩力破贼患不富贵哉寒皆感奮及嚴** 李文忠破苗係獲婦女幣重甚泉恐將 上命忠守之張士載遣其徒率苗僚水隆奄 屬志因厳怒之使盡殺其所俘焚其輜重 **盤門飲齊題春營遇春分兵北凍絕之** 随 子及諸務以 · 哉機不可失乃出歷門進次白揚擒其點房四 f 李文忠微俘焚幅 自以大軍乘後士誠敗走 **李文忠應變逐發** 表 舊館降巴而進團姑蕉士就突圍出至 散背且填塞溝港絕其歸 米ナナー ĸ, ŧ 載 И E. 笩 乘流 1 路士 日 騎 疌 祈 H 至 此 Ţ 州 谷 王弼進 誠第五 文忠 何足 能 吾受 外是 莫 平 릵 有

此謂某人之 民我 師不利日暮會 屬和至與元兵遇急學之進至 我師已克也車泉前抵城下城中人知之急閉門 **承兵就食他所致誤前約释承兵選久不見欠起意** 莫和 易城納之叉以辞承兵萬人 以豪雖載貨物聲言虚州兵送使者入和陽發特士 里俟青辰兵入舉火為號释辰兵即敬行而前乃 J. 通迷克撫州 献之 意愈知其情格甲夜超之比日入城克明草騎 **節愈駐師臨江會鄭克明族 夢愈乃激馬將士大開四門 未備胡大海攻婺源未回城中守兵甚少苗軍奄至** 元苗郎左丞楊完者率兵攻後州時城廓未完器 百合者等 7.7. **學念大則四門**進苗 務之自實至辰度其無妻乃分為左右異身當前終 **两股引**伯 一仗規取和賜選士三千椎髻 陽和奪和陽城 **鄂愈推甲夜趋** 人参え十 兵 撫州遣使通林實無獻 以待之苗兵疑不敢人 左 繼後約相距十 雅青 ; 1 衣如元兵 . 1 . 飵

Ż

敵副其東方肆掠車京騎二千自呂梁後無擊奮 父子以舟遁得土人莫遂用為鄉導分兵窮追過海 門讀鶴溪港生擒之安南以平 失所 雲梯所城牙將蔡福先登火炬齊發放角競, **列東以陣輔以畫集崇馬神砲異之象見股慄為** 進倉四平侯沐晨自雲南來與合勢密戒諸特夜襲 以舉火鳴角為體至四酸都督黃中昇攻其廚 歷國中船艦務置樁內據險欲老我師輔乃造舟而 **萱赞江北郡兵守之义於富良南岸江口多下格 鏖重攘内密置竹刺外穴地爲坎城衢進亘九百里** 富良等 餘丘為國縣江北岸倒 梅集土城甚峻城下 安南黎季奉反張輔討之師次新福賊 和州李橋面登建旗其城 王保保道将李二來窓傅友德守彭城度兵奏 傷奔題官軍長驅直進贼演走官良整兵拒! **伸灰德守彭城** 江中載木立榴輔乗楊未備率將士力戰拳擊 滿計情恭奉奉 恃 東 鸣 丙 厳 枚 都 數 Ü 鋴 甇

迎戰壽等 攀接山 其不 傅友 使皆 消息達勝和而 濩 花 吾西征 競而囂友德敗之士 腾躍博脈送摘李二 差 走 賊 蜀 書麓階文日月投之江 Ï 果陽空虛階文單弱乃引兵趙陳倉選精騎 不 相 力耳支德疾 意直構階文門戶既漿腹 K 粁 來勢困聞向大亨之敗泉心洶洶一戰 1 年八年 . 德率步騎孫泰隴 傅友德依策 之東却走壽等降 谷晝夜兼行迷克階 必悉補銀東守羅塘北阻金牛以拒我 枪 **承忠潜師破蜀 戴壽與吳友仁選接** 韓 水不得渡促造戰 ·敗走成都以栗載甲 ij ۷ 待 敗 人きこ -山川懸隔適 開放 走 睫至 取 灰德度狀 即起李二果盛 陝 趄 順流 船百 伴言由全牛潜使 成 熯 州 江水暴 都 Ħ 而下 心自 ± 州段至友德下 餘艦 進. 復 出 挨 帝 至 載友 | 从料 潦 文州 潰兵貴神 論之日蜀 兵至輕 Щ 蜀守者見之 Ĭ 妖門 乃以木牌 儰 進 題 攻 人規 可克苏 幕 我 陳 Ą 欲 若 Á 五 ψ 於 州 速 ı El 敼

> 可解な 移以特徴さ こ

> > 郭英乘霧設伏

破

元

并

乃受 師亦 明蜀 間口 1 人持 ī 衣青装衣魚貫出厓石問蜀人不之覺也度其已至 先率所部至瞿塘水 廖永忠副 液 降 権丹 Ť 者 人 攻 筷 銳出墨葉波分為兩道夜五 乃密遣壮士五百异小舟喻 凱還 始 其水攻水者皆以鐵裹船頭置火器 备 一時俱發揚旗鳴襲而下蜀 禮帶水筒以樂機渴蜀山 前進舉火夾攻 **覺盡銳來拒則** 湯 和 おえよ 討 明 激 并 山峻蜀 和克歸 焚 陸寨早破 橋 人故 鐁. 州 索 鼓 μĬ 娃 多草木乃令 仌 Ŋ 一 明 人 풙 裁 師 Ĥ 23 大販 既而舁舟出 H 索 大 出 軍攻其 飛 溪 出 Ŧ 祈 **#** 橋橋族 降 μ 前 4 1 永忠 ĬΨ 流 Ż 淮 죻 + 陸:

李敢 献以 具軍遂克通州 大霉英以干人伏道菊率精骑三干直抵城下元 床 英從大将軍北征進抵河西 選待勞攻城非我利也宜出其不意破 游商量 為持冬計請將請 出 靸 英佯 敗 敗 攻 移 城英日 乗 犘 勝來超 逋 州 Ξ 我 と次 伙 師途 + 起泉 里 嶌 将 Ħ

郭 漢夜 劫房着

建日 **先趙五十騎伏城東十里以舉大鳴砲為期至夜** . 會元將髂鼻焉潜約降許為內應避喜兼夜襲之 康帖木兒俊燕京管於城西 **使兵多而不整管大而無備請夜却之達** 潜入其常火砲并發伏兵亦舉火鳴砲 郭英 憑高望 Z 大兵 往 潮

羅至元兵潰帖木兒道 友德遵美取雲南 土

雲南教信使納逋选 -知其山 へきここ ŀ, 斎 傅 官门 友德 日雲南 í 艀 在 赵

方领

川險易以窥進

取

承寧先遣

襞

乃進 别出 形勢由奇取 兵曲靖曲靖雲南禁喉彼 軍向島撒大軍自展沅 勝既下曲崎令一 将提 办 繼入普定分據要害 併 勁兵趙烏 Ħ 拒我 富备祭 撤應

矣廚 降不煩兵服友德格蓮成葬竟平雲南 授永寧大軍直接雲南彼此牽制按於奔命破之必 分兵趙大理先歷既震勢将瓦 解 旣 其餘論之使 克鸟散 Ą

兵城之版縣方具元將卜實引指蠻來攻次德據高

以待諸將欲戰

乃下令

Ħ

我

M

深入有進

是数 自固味易克也達職小黃宵通遂放鳥撒 Ħ 通術使來於各不一當併为其歌 岩板 推聯

na 等 算友德班師誘

見肖 禮失禮寇邊傅友德討之至哈 者舎利王

至黑賽瑪山等處房出不意所獲 下令班師房間之以為信也越二日復起 角通海奘舟擦上流 人馬甚 多

餫

泺 一友急

解圍 精兵持其水寨就悉稅攻南昌 出都陽湖道戰通 人がとし 海火 类 其舟諒復以 上率通 <u>۔</u> بز

倉道

海從征陳友諒至安慶先陳陸兵以 人人人 海拔之款

촴

И

京食 送保鞋山我軍橫絕湖面要其歸路相持三日 **追擊之蘇中遊矢死** 流船舟若入必 日湖水有沒處舟點掉不 成擒矣敵果! 利於戰莫若入 糧

盡

繞上

流

紩

進

Ί

納火藥適至豬東北

風起乘而縱火焚其舟艦

舜

華荻 艎

為陣我軍舟小怯於仰攻通海分調漁舟載

劉基被陳友諒方果

· 辣傾園入窓壓全睫微發兵禦之泉供 ŧ 涣

子9-276

厚

京果題公徽都督馮勝方暴造一抵封日夜华出兵 京畫覆其東京之乾城不下公日彈先地 **餐公復趣之至其所果空壁矣所留皆老弱題之東** 後賦必走走而尾之賊可輸也三日公登城空 **英士試來寇李文忠師兵擊之** 基日請先斬主納於及奔鐘 **嗬難師欲攻滄州恐南兵為備乃下令** 陽悉養其泉 走矣急擊之泉見其盤壘旗 而雲起具如公言遂依 也衝枚蹋其後殺擊之賦可盡也勝啓讀 伏也匆 至某所見某方青雲起即設伏填有 師部勝破矣悉進薄江州夜 入伏兵散之取威定覇在此一 ·樂至通州張玉請閒日大敵衛週而 文皇帝伴言征遗攻论 **割基科集士减必** 輕動日中景黑雲漸薄回 人をえる ŧ 計 被之取其城 **幣如故** 必通江州 山者今联 舉於是決策誘破友 劆 奥青雲接者賊歸 文成日 I 黑雲起者賊 ‡ · 聞鼓聲莫敢 安登城望日賦 動師道 驕 下皖城焉往 散遊東將 何足 矣誘之深 勿撃三 未敢信 征 人劳 Я 故

我寡 **苏角贵起兵北平 弘來因而精之一** 應局責督諸衛兵甲圍 使謝貴為都指揮使債務動節 古今行籍 召無禮衛出塞陰去其羽異以張昺為北平左 聚城上建 教正事果 趙永平朝之日 假至永平敢必 交皇帝 在燕郎 **言征東使依懈不為備耳 渠城不易我乘其楼必冇土崩之勢兵事貴神虧俘** 安非 商物活州王城 简地日久天寒地凍雨雪泥淖 通地早寒上字不堪此行何意 文皇帝命劉江聲言題 骨角為喜 東鶴州城堅且敢所聚定州修築已完城 **居驻师德斯奥傑平安守定州徐郎** 依 華兵起歲來行將楊文引兵國永平各萬州 奈何能日是當以計取之令奸臣遣使來遠官 所坐名收之即令來使召員貫付所 文皇帝借速官屬擒張昺謝 人をこす 壯士力耳骨貴擒係 建文君用齊泰計以防 府弟 師 上與朱能謀日 潜約長史 葛诚 責 Ť. 电 陶銘集津州相 大 無能為 語之日 逮 逢 者局貨 為名 等郡 矣遂 使果 4 布 A 壁 内 攻 来

題歸 狀 以 御史 献不 監督 兵擊之必大複俟後果如言 鋒自 汝奈何追挽誤大計命 不可進 西房阴 |石城 千安自真定引兵攻北 草 ÷ 爿 相 ٧ ŧ 相下王骥榝部務行邊 Ŧ. Ш 办 賊 IJ ፑ 報於是諸將士股栗莫敢 見也貴感奮直前持 劃 台朶兒只伯數侵甘京 海 驟 分兵 散 任 謙房營狼山等處乃選精騎 小至則各自戰守 1 殉 引 奠 江策禁平安 公故 追房至無海子將及之敬謂前邊無水 運曹翼言狀 Ħ 勿 詔 追之夢聲言選孔不彼 以大軍 任禮為 へそこ 程之大會諸 廣 平惹將軍 繼之與責約 斬 千 大至 . 房房 敬 上密勒公責責死狀修 都指 調 将方就坐忽揖敬下 粮 負日 石 波黄 蒋 則 仰 揮安華 チ 日 ħ 併 视 췕 **(昼**) 仕 授薪貴使為 力拒 **公亦當死** 柯 勉 **公** 乃 ĭL 趙安副之公 ぇ 液素 遁 旃不能成 M 來 分兵 追敗 策 敵軍勢大 要而 佐都 貴等 爾 江慷 人之於 速 I 畫 Ĥ 為 地 貴 E 敬 骸 帅

入蛸 **|旗皋砲響伏兵奮擊不用命者斬翌** 刺 A 古今 ď 江不許圓 城堡立烟鑿瞭室一 原土 角 t. 一千安必該散矣卒如其策 毐 伏兵山下姜隆師精飲潜燒賊船截其歸路令 至座遣 Ί 響之後嚴者舉砲悍聲常不 中 决 Ŧ 者盡為 兩翼賊奔根機園室堡中官軍環攻急欲 高干游场 圃 鱈直過場下無貫而進江被髮奉 新籌 大雅七十 夘 項忠智偷滿 进 江定計構演 救 Ħ 遺東遊視諸島相 滿四叛據石城勸題 西壁縱之仍分兩翼 馬步軍赶場上,小堡 至勇氣自倍可令後軍人携十砲 則 隆特無一 進城若三次不聞 可望諸鳥寇 四 肤 Ħ 望者言東南有火 得 度 免 地 肵 橅 僔 办 **税选近皆謂大軍** 夾擊擒斬甚泉 形 則臣危矣臣 項忠計 壡 之精師 IJ B 全 **襟贱之地** ĵ, 旗鳴 州 倭寇二千 之伙 林 光江策寇 衞 砲 馬 金 若入 間三次

請行

奥

Ŷ.

上

ħ

日

更

垂

北

4

'n

飑

響為

號

太

八砲響

新美蛇故护

75

築 島

Ą

稌

日

飫

差

佄

進 伏

勦 盍

有

敝

毛忠 以斯曼 大藤枝高廉雷東可 完鄰 大藤峽為賊 載 國家 之雅乞宥死自劾公即 相特百 人之心 苦眠久来冷日來遇天兵得生為夏民顧 其末分兵勢弱趙 入廣西可被雍日不然古伏鐵縣或部間外謂 一花大藤族趙南儒生星忠敦百人持香龍 艮 華大照旧此貨原再今朝之左右皆祭 得專之也夫兵有合為 鬱寇起 Œ 牙车 e A **並行必勝之吳都指趙輔知** 網諸路勢若常山首尾互應志日先人有奈 水草部兵恐賊來乘散務 死 雍全軍母發冠 **道之滿四竟為親** A 第一人をこ 我 相率來降賦新楊 # 新君公 Ż 認御史韓雍 基各阿陣 质 末 本諸軍不先薄其本乃分 以應南部西可 難盡我全軍至彼南可 假以詞色許令 ||李草 所誘角 費理軍 Ē 斬 **克**狸 相相 分為育者二 核 þ ij 嵐 E 雍才省大 務或 公不前進 И Ē 例 土 取柳度北 揇 功 Z * # 定 Ħ 膚 ŗ. Ü 解 分軍座 | 秋朝 5 動 職 ~ 異蹴 Ħ 金銅 兵以 Ü 地 71 P 攻.

計算作品 選京 四情。 更漕龙 爾東人守藤延夾乃用王通等守京城孫鐘等出 **吓京師天下根本一** 與 Ŀ 秧中 百年新華 选其食動王捣栗以 木之鄉 天瓜 **传精級器簡随征留肯老彩室思募義勇集民** 御史楊善城 部勿納 之房勢益張人心益危速超鐘戰 城門水入吏科給事程信日館小失利 帝即位房犯京師都督孫鐘樂房 あさ 石石亨等于数 利 于謙祭也先 程信辣納孫鐘退 **幹薄紫荆腳大蓋喜學胡種也** 練管卒理戒器 t 1 鄉東東師教將朝野海海有議南 子謙見 Æ 出 鐘房通 ~ 張之 乃悉 上鼓緊發錦礦佐 ネスト 袜 城錢兵亦門 **使典兵盡根郭外人入城令** 動則大勢盡去宋事可鑒矣 上 Ż 無其 割 Ele 愚 兵食 房账 t 至也、 育 不 僔 城不得入皆死戰 ŀ 棘 先 梭 道。 鐘虜 中 果以送 必效死力 遠過或遊 Ī 特長縣 戝 ‡ 降也知 遂 大 城失利 Š, 退 而即聞 丟 if Ш 其前 右。 畫 上皇 В Д¢ 錴 灰 ħ 信

1往取作為頂克多茶不待奏報 野堅 壁 勿 Ä 州 斯上 所储倉 悉婚之 懂 舼 Ħ 房長 **脚**悬

房中 未足雪取萬一不捷所損實多乃請, 西即發火砲擊之殺傷干計泉欲乘勝進擊豫 知有軍於即出經勝 計意兼等山麓退兵索金輪 廷臣其次谦日吾本兵 西國外亨飲 **擐甲胄半六军典亨出黎虏見** 職能輸也先在封公賞萬金以發房心房兼無 **阴九門為持守計隊日** P 對量約 較又 藤 師堅 不可 如 **青褐像潜遗** 是示弱 上皇在 H 逈

决天下萬世 言言則修此

割地增點靡歲不有卒之身属國竟無故於事今

有選將練兵養咸蓄氣侵則

相

横勒线通川

幕c

房有不共戴天之仇且房亦何綮之有·

朱自澶淵後

所掠。

送引去大同祭将許貴o

貧

. 典 虜

秵

į

Ä.

中

国

Ī

イク 看春

一大家之十

而

00

مزر 巌

謀於五軍三干神根等管精選驗銳

分領

操 所 刖 勿

僕 將 追 Ħ

團衛隊又以事學在房於為大息改法訴之也发

邮有方数演有法遇有警急菲肯舎填基忘産業

事互相策應則人易遵守內外所得其流於是前

士情士不識將意兄戴令不 ○遇有在發 **陳又言也先电泉過邊若不豫散法遇**

> 一个年書 **謙言大同等處其民生長邊** *** 方安其智

在號者厚與實勢随軍進征及事平復奏留在彼

干糠藏軍役就近

(拾會大發兵征朔廣貴州等苗干謙

B

奏

進其有

不

可!

《华不馴當也先入窓之際乘機職聯幾至

河間等處

生養

i

俢

性

旣勇

零炼極單戶又不足數民戶因而告損今後遇 **爬附近躺補令其自衛鞍馬不支糧的** 亡事故在管無人捕役例行淸勾者 久年深識家失業供役者少事故者多加之官吏受 南新所道途修阻跋跋為難水土 悍亦耐寒暑自昔至今患克軍役者多於腹裏及迤 有留富放起解者未至逃亡者復來 除勾廣人免離鄉之苦更多戀主之情再使撫 有清勾之摄既会長解復飲盤繼兵燹以 姝 成請於大 剃 仍行文先 衛無實 死亡亦 有选 來 用 易 凋 惫

۸ ۶

子 9-280

上皇 愚 衤

那奉

干蒙飲遺 ř 胡

初雙房來降者多安置東昌

发亦物

到安能定此

南在之士悉好可二十萬又夢中外 南征中貴人飲邀 太上 智不 父母 稿之類昆至也先所使館件者來與飲帳中能公日 土木之役六師柳何弱也公日當是 為奉赶計公乃悉其貲不足明貸之中貴人益市 主待客勿求僥倖務在萬全此謂不 娶因奏言日今日之計 可以養銳不可 浪 **土木之變房祭復犯京師郭登** 落教以神绪火砲等射命中 百水之 外叉用言者前 吾之善者也 帝友皆堅璧清野京軍分據猶 角安管以連待 兵計之得者也 軍主客 既姝坚胤 皇在漢北房於清路建都御史 新舞 可開勇此謂知 妻子而不力 楊善面折也先 郭登養 銳待房 卷七十 亦 K 放知已 **具民** 소 太上幸故里初不為戰備令者 礟 無離析之憂 裁較之别 可 Ŧ П 京 則守其東 材官得三十 時六年之動悉 楊善在然紀 **戰而届人之兵** 兵 庾 主 新 調水 衛獲有用之 殿可 選不 標備官 勞良 Ü ħ 萬

事乖

而詠矣即太

師所使進馬有劣弱而

貂

皮 事

昔

· · 何亦不

新華

本さ十

前統多

也先首背善

日帛有剪聚者諸通

為之 敕

裂幅不足者公

日非敢削馬價也太師之馬歲益增

継而不忍拒是以

徽

損之太師自度價所得

之所嫌疾以 不勝有智は 和橫成則飲飲若兄弟又何用 **奧僧幕若養孫而今皆置之無用矣問** 要客皆隱金椎三尺所 値蹄 也因路之其人 立穿 刺 何言無用 答 椎 土

見攻何也也 太上皇帝在朝時太師所使必三千人歲必 帮也先失日尽入祸又大路也 子亡弗致者金帛器服 先日奈何削我馬價又予我帛時 絡舞載道太師乃背 先公及實之日 盟好 再 有剪 即解 悉以 而 H

此俱逸不 太師意邪也先又首背公復日 貧重寶 也歸我 公日太師得重寶歸我 太上皇歸我 刳 天 好 双數 亦快乎也先益喜因謂善有重實來 生太解獨好 和好不絕器幣點於穹廬面黎族 Ŧ 太上皇而不索重實天下後世以 萬計太師之部曲學無有血吾 我是以數 太上皇天下後世謂太師 太師之攻我所 有雷警令者 苦所 購 能奉 平 彼 Ħ

王越 至其 三首 **海其管类其嚴帳而選時滿都唇行則至韋州 超兵許寧等以精騎五千襲之兩畫夜行三百餘里** 功之 或剪其零騎復謀知房滿都魯字羅癿加 丁二年等 無匕 而重 起總督 赞勇跳 王越以精騎復河套 王慧 以整 典保国公外永饒十人超邊房符至主容不肯 地 自河套後分寇西路其妻子管於紅 責信義布典 分兵干餘為十代以 **希摩却房**: 乃相顧慟哭遠徙不 騎奉 鎮兵逃敗之脈 濫武騎為腹心 延終輕騎樂鐵房於崖窯川俘養 裁濫先 典放金 實以漸繼也也先大悅逐 人并是十 損其不日 雕座基類 太上皇籍 **建也先数**图 / 水水逐 **食職令名英変何犯我之態 既失利歸而虛帳妻子** U 相救身與尊等以 **周謀探房累至所** 喃喃汝齊中國 Ĭ 敢 į 静日 復居 河套放 都臣之 n 公見 推准 背及出 甚泉 地 Ħ 乃 万井 思 聚 面複

掠若民馬鄉望蓬知河委入屯 而我守禦灰在其外臣以為莫若沿邊整臺空處禁 連大同西接寧夏房不敢復悠出入 舞窥 伺唯 延奏一 石劍管堡築整臺天順以來房 屯田歲得糧十餘萬石 是邊有城堡軍得動力以樹苹果并開界外地使 子孫不能 林成 添三十六管堡畫補帳中伍籍之脫務及罪摘 了人手事 延級自正統中的林未城也 五十里極城房不覺明日乃謂 承微 **周無軍 聲 故 房 不 覺 也** 無焦類矣結準示暇 背下馬 避延慶館夏甘肅 化開始置衛都御史余子 余子俊修避 走 青秋魚萁行 趆 南土者皆職適 止 Z 孝之十 Ą 带地無險阻 # 形 好反顾自卑聽 昨日国房 延慶為内地 而槍林 也 **伍以實榆林復** 以惑之也次第 都 其中自是房顏是內 可以聽突要來犯邊 抑 粒 ·俊請復廣輸林城 看王. 及妖木 **精過各樣險** 為重 又上 团 藬 我一 列联 政前 Ĩ 初沿邊立 頻 始城移 矣東 糵 建學 4 費 再基令 声 行且 俥 n 庾 官 俠 南 鎮 耳 俊 Ŧ 酉 犮

市祭日将不知丹者帶何乃得威勇材力之士干 問益藍鄰叛合四衛兵耐之部馬具治兵英至問

馬吳不直擊

但獨對依察在立長會賦禁通城是夜出百騎率地

為是衛立營生其高山陡崖因勢順形 採拭挑重轉引相接無婚實便報可於是東起清水 若勇脈合果對壘彼用弓矢止有百歩我用鏡砲 之計大率以萬人為一軍車戰五百餘縣用 余子俊疏奏自古命將出師禁暴誅鳳見 卡人大整一十五自是房窓益稀矣 以俄酸避射凡生十有二崖岩八百零十九小墊七 不被策不何之馬此億萬年守邊簡易之法 有三四百步威勢如相持遇久彼将分散拾掠我或 鹿角柞襉塞凡眼士器槭不勞馬駝乾糧 人寫拽行朋 1 A # **周為對角敵臺砦進北京絕空處樂播如新月** 官禁城特西接寧夏花馬池東西三十里每二三里 月過 其構或足擊其精前項車 而退進退之問非車不可臣熟着大同 胰宜府地方一半相等門庭寇王車 账為宜為今 一余子後議用車眼 **裁以為降止則橫以為管軍公飲 本は 营最便策應運有** 甙 可而 不 剷 地方山 歩軍不 削 頻自癌 纵明 處 進 動 Ш þ

> 所之教が其 四三天被及此門祖宗被意今若自陽縣極抵前屯 日朝鮮貫遊自楊衛閣至遼陽經廣學入山海歷 解使者苦寒易趣却前致自鳴殺 江入貢 劉大复

E

大路路舶他用悬遂

重

- 門月 禮草家皆自得告輪中貴子弟 東放中青干彩轉買之邊人爭相牟 翰者米自十石草自百束以上魏不限官民商客 不以勢定天下事在近不在遠 |牛属中貴干弟此行殊不便大夏日處天下事 小任 受怨 日樹 入塞軍典之食劉大夏往輕客之或 儲蓄克足先是塞上福草定限百千石與干 獨夫夏立市權 榜通衞云某倉鉄糧幾 人非ス上 よ 無 至邊 石毎石 所 利此生一 I 共產官 日伙 船銀若 集父老宪 ŧ 腁 更 Ŧ 'n 楻 有 Ä 不 順

子9-283

失利 存西 政東 入預 飲面聞原飲守將以非所入頁趙弗納赤哈益 為阿昊謂犀曰山險不便騎射深入則賊為主或 湘其地儋富沃狗何可委戴以自因益營治兵嚴 满市空其民美日臨清市蜀襟疾上達重敘下 果岩梅老人降 贼蔓延势尚惟副使張思齊祁 百騎直轉伏伏舊潰趙左左即亦潰合兵擊之失 中情事異日尚未見大敵胡足喜宜及勝用之 聖誠 飘方神左伏兵於右為應美以在 兵官左身自 栗贼 售 駁 過程女直三衛聚數于騎大掠諸堡獨近塞十八 皮管恨路都督產察使繁苔亦哈亦哈率所都雅 馬吳不許賊降 ٥ 獨都指揮散赤陷形文計 馬文乔設伏却庸 願發歩兵三萬據出入要道賊 與總督彭澤合學之夢廢子水餘萬推喻 * **騎将方四指首房降泉萬人** Ħ. A * 7 斯籍是就兵後 管指揮受爽人 輸服補 兼之前 當自 ₫ 降乞住得 首 "月子 俄灰耳 Į 老 差 渊 禾

些民兵不满于人版四干徐圉公主即迢迢不接公 成化二年石和尚劉千斤及荆 多張旗客大畫夜不息歷 師耶保京師保居庸 人彻底即道關在道得将告公公屬奪目若欽保京 斯以稱乃止會天大寒令老病汲水准 **使兵發斬首二百餘級威瀚產察悉請歸**· 來聯文形察其意不實行諸路伏 住撫之馬文乔日善 万夜 灰竹以有 **其被屏宗数百人撫以好語給 港州其家何以為中国恩不若以一** 破七 日房迅趋紫荆追胶之 通守居庸也先肚脱不 王信條陳時事 羅通固守居庸 . 格屏其族榆大兵族躺余子俊言唐使入贡 便 貢悉談 外に 足矣下令有一人一馬南度者 中兵賀其便走 、上即命文形 四旬餘間以死士山城五 花王阿宗 裹都 以布果海西三衛亦 **松將楊** 兵以待彼後 释王信進據房 往動 大瓦 夘 橅 城米堅滑不 院三 凘 俊 借大通事 **非至盡數** 所 萬 И Á 稍 竔 狀 爭

廷又有保証 関目不使4 門戸失済#

1

大里 **计藏兼发程明行修销界下至窗户老人亦在所用** 去無足患者所患者粗知文義議古今者稱其言 有所假精不肯為非不則彼在中國則為於賊主 惡世而欺人此等之人 荷非平特有以收拾之使其 **心無定志為利而動旣可以誘腸而來亦** ĩ **遇公正仁惠守令大加存恤** 所蓄積收穫未竟像種已空機仔粮停布線何在乞 子老孫巴威家業 好縣之徒得其竊發可以邀功今但選 湖廣鎮言湖廣撥夷雖康中之盛實無能為但 由外境則為夷旅游力其為關害有非且 動泉有足以設謀其縱橫跪發機界變幻尤易 f 整以天下之 大人材有能有不能 放以此待之 断解非其息自息刺衷流通本意远避 華火炮版以為橫兵至舊走道 惟 日益城竊發古今代有彼其徒為人 丘濬論復賢良諸科 **避宗用人於科目康貢外別有賢見方** 入系之十 **尴加訴殺恐傷和** 氣南証之農 精鋭書加 亨 肵 往役長g. 初制 蛱 戼 掛 丧 虔 IJ. 面

推薦

丘灣日立法以除監賊不可不嚴亦不可過

从不

陳之 起必推求其致益之無 死得其 稱 必

研躬所

溶罪及已上下相索 救以避 文法因而 騙致大亂盗 | 胸有司不肯用心除贼送至養成大 觸遊最則有司 析

有

功

橃

之應黃巢必不服私塩張祭必不為門能草書檄於 若水必不量江南張元異是必不為夏人之用黃 用而無出位之思國家之所用者無 夷狄未必 不賴其用也夫然則天下之 有才者皆有 司衛所幕官或補任或添註或於武 請武事及勢力技能越人亦許以名聞量用 **斯能而試之量於一職大江以北人才棲魯固有** 出東者不次用之以為將師為方面異日立功名 解面口 使成盡 百合射器 河凡不智奉業者有億才能藝術可称皆許薦閉 胆宗意 ħ 不主像氏之謀 丘渚南止盗 不能言口言面手不能書者其中有知 开 也愚願復舊制請科以收拾天下遺才較 用面無遺也近 个本本十一 徐伯 解必不引交人以入寇 H 顓 用科貫二邊 避才而無意外 職中試其 ŧ Ü ŧ 才 邊情 為 非

子9-285

要生冷夫虎之爲物

生怒則

A

巢

震恐其氣

盗賊 戰以折其氣則裁而勢難非勿迫以! 特挺部縣之卒或不能制者人人有必死之心耳故 合非有法制相應販與歡應非有思信相結然揭竿 整其器犀利而精故方其犯邊也利速戰以拆其氣 £. 由於奸民則必急劉能之痛懲管察使好至於散孽 至此 如此處之則庶幾得其中耳 反面思所以致之者其禍起於朝廷則及已自責去 是奸民之兼周生事也國家不幸有登賊之起則必 **巷民所以鸟盔** 其獒政起於官吏則根冤其所自而誅逐 如 一件民 濟 خ 則不然險既自憑鈔奪自發亡命是聚勝則鳥 新筆 日夫 者有 雲矢石如南牛羊索驗轉輪不絕其人便習而 丘洛渝平盗贼與粮爽異 如是面民為盗精是若也然後以盗待之大 山速暖以析其氣勿迫以 平盗贼典粮夷之衙異何則夷狄 故 大孝も十 Æ 之故不在朝 A ţ 女女 灰 廷則在官 A Ü 構其心則急而 構其心盡非遠 民 Ī 史又不 符 其人若但 民 Ż 面不以 乒 枊

> **路之副教而 基礎而發揮** 其長題者 夏宁春可申 能顯者再 **性但府治** 可存文字文 **新二聚等体** 也養招降與窮治是已大忠莫大於招降莫深於窮

平之非

.難絕之為難平面不絕其裝有二不

P

木

∌r ∣

之新必環其寫穴面 下外新華 而载撞放日平盗贼 者蛇鼠也虎不可以艾薰面水注蛇鼠不可以弓射 得食而出焉則尺種可以致 不可以骤取者以其急則入于窩穴而巴故捕蛇 風生之勇其會足以盡物而非有震恐一世之威然 無虎矣至毗 以利钱射以强弓鸣金鼓而来之不英堕 人非は十二 典景則不然 接夷秋之術異也雖然盗賊 何之萬以 雌其毒足以害人而非 其命夷狄 艾注以木彼將無所 者虎也 峑 賊 ħ

恭件

Ħ

촧 ħ

不 न् ķ

散捕虎之術並先設

模

弃劳

甘飢寒之解熟若刺複攻刼而不失爵位之榮錄是 奇畧不知計之所出則往往招其渠帥而降之彼奸 治凡盗贼之起必有泉禁而難制者追討之官 惡之民見其負罪者未必水則日與其俛首下氣以 之首既已伏辜而乃筆之吏不能長處却顏簡節而 百之是誘民以為風也故曰惠莫大於招降尤盜賊 目往往寫支黨而治之政腦之民見彼污者必 ŧ

以替以苦 難於 **外分為數路多路的量達近立一生複多模於常 再期三月外除其名然京師地大而人泉俗雜** 有切核者其應猶及貌督者皆華其寇服仰以必 **经馬車十名多年十五名五月一番輪守樓上** ·辨藏與其質黃於後數若豫例於先請於

Ŀ

声

日

格城外盗城生發請嚴勢補盗

一官五

百里

内

Ŧ

以自該衛其所往之方機下事俱帶 被逐之必抵其

(共有解示库大士,遇有盗贼

棋上

軍即使致舉

爱及倒之心失如是天下之人熟肖舍生之途而投 以眷姦雄之氣膏從污染不治而計其自 必長面力康竟舜所不能也夏壽日 英字於斯治直主者所以威服天下者惠與威也 見則将由其與奏祖金木東手面待發執若進差 必死之鬼哉 周治貧染污律 咸奥维新蓝渠魁盡殺 面開教則 ○散汾滿水連録是言之是果民以為鬼也於日 奉 丘唐論都城外止盜法 鲜례傷濕骸淡坏辜期損減胀惠雨失秋天 人ままし 藏脈渠魁府是 新則 足 91

涿州至

處該班官軍十月以後暫免赴操仰委官督領馬

使車者給之仍先行合經錄單備如自良鄉至涿

Ħ

河周河間至德州解清清軍以至徐州此

平然後借行毎車差馬單三名散送其男科之具

名有大車運載者許其豫設辦告知會集來車必五 城外改東西二管委軍官一員督領軍馬各 所至

如此不必嚴刑督責盗自無矣若夫冬月於

写像以傅更即今木桥之屬夜行有禁則入息者不 简各於關巷之問設為互以斷行即今處與之類 擦者比合什伍馆衡於王城之中以為趙逐循同之 每面起猝遇非常有以制服修問氏掌止國 之樂矣 **敞至抵近郊仰望九重宫殿於紅雲紫霧中有登角** 有參閱氏是以称城內外姦無所容雖有 僧日 成局之世 防姦 益者 最内則 Ŀ **潜論都城内止盗** 決 有野廬 中宿耳 不選 氏 娸

|乃文進送至交換處題有用車仍令發回如此期 無權塞之息與官無畏途之 曼四方之人無歷 子 9: 287

£

今春都

如此宗法 建宗法憲王 **基定太视小** 獨七十有餘其衛署臨處散置中亦有未置署者且 卒名 隷 尺籍者 聚散無常 **倉卒有變惡欲召集竟不難哉欲於無事之先豫為 可則追解之資有歸** 以異馬溢衛所有定居則呼召之軍易集 之於微小所以不使其延蔓滋長而至於大且者也 字内無有大姦完面周里門巷雕脏篋穴塘之 司改立弓手專以超散京城内外叉於各坊里 藏居其中遇有警急起集鸡易叉於五城各散兵馬 圆初於 亦無有也嗚呼天下事何者不起於 存此數學學其不蘇以為益防此古昔盛時非獨如 超於專案之時更屬分明則向聯者皆 Å **使盗寇盗之典皆於夜靜人息時官府特於** 事之 師發勝固之舊街坊里巷祭錯不齊衛所散處土 士學係籍衛中食糧至其操練 補支更守夜其與修問氏所謂互權追 牙等 **倘前復南京舊騎夫南京之衛四十八今京** 南京設為四十八衛每衛各有 メナー 祖宗思惠豫防之意深矣今 且野處在 数十 以待祸發則 微小 玉丸 營本衛官軍 Þ 里外 逛 微有 伙 裁惟其紀 夫早 假者無 一卷立 ĥ ŧ B

人不然多官 多事非性 部下兵馬司行御史督該可起集該方官軍赴總 居恭見好兵馬司藏委御史一員督察遇有智恐兵 及聽用又京城街坊襲前首名少分界畫圖別立 **舞季行司兵馬率領本坊見居官單起赴總領官** 指揮 無則把總指揮 中推舉其管操者一員官最高者或奏伯或 操官軍在地方住者報名所冊就於本 **遠不許雅鳳叉於該轄地方除官民及匠外尼係** 同署相去以鼓相聞為使司前建數樓一所添兵置 **戴以支更每更擊鼓而火備削擊拆以** 遠近浴設 丁水手等 再大力有所不同勢有所不及臣前多城量地 石香承平日久人烟泉基底完實繁品 拔之天世 遊官哥各為三一 **谷鳥兵自也今京城地大大泉聚四游之天** 在各营必 有今名精在衛所家在在科領面其所居之地方前 同官僚十数員兵軍百十草京城内外不下百十 行兵馬可数處添設副指揮一員居守其 **秋便涛** オ ユ † 存各 留本司 為東信服者為 為一處聯比其居決有 _ 选兵部 地方總領房季 坊見居 相應 选 總 都督. 鉃 兼丘 領官 軍官 缸 不能 都 Ä Ī

何必然何必然

在每處在上 大備分歲小 極軍之數亦如之其選選之軍五軍大管每日於見 **饰夜撥馬單十五名往來避邏其九門城垣下每城** 崇文門自門至四樓為一節自此極城下為兩節每 告領牌照放擅開者坐以罪備置雖一面遇有容寫 前為印络牌數十面遇有公事及緊悉等事赴行 口俱為相門一更三點即鐵斯五更一點方開於行 **眼天街口造對立木植二六尺以下懸鉄索三以** 不禁於行無更出人云守治處其大館信之在本巷 **在自卫更小原赴母至門更正照止其物更汲五更** 操官內輪差如此則登賦之警更儲得以開拒倉卒 即牽鑼相應大約京城直南北大街不遇數處假如 断行路工更後即横組以絕往來至因更方開 ▲ 茅華 一人弁に二 爾多小 棚散 更失六名穿 þ 릵 巷

套之中水草甘肥易於屯御腹裏之地遊路順遠難

各云近 嚴房首毛里孩中罪忽勢大為造忠盗祭河

倪岳裔西北傳邊事狀立

サンスの作

.ì

為平

之變軍士易於召集關係實大為國遠應者可不加

雅食為先今延殺之地兵馬屯來為果之費日賴資 爱民盡於四老弱乃留於北萬一北或有管彼未可 計其相去既遊往还不遠人心服於轉移馬力 邊也去京甚近後有門庭之喻此無性備之展 奔骇且聲東擊西房人好態構虛批吃兵家與策精 頃兵部建議宜府大同各出兵併力以援延級而不 出無以衰天成且延殺邊也去京甚遠宣府大同 又為房人所佛此宜留鎮京師以壯根本願乃輕 之兵素為冗怯賭陣遇賴及聯邊兵之功望敵奔潰 遼患不寧上屋 又不能邀其歸路房進獲重利題 兵自衛星係則挫腳怯懦則退避既不能折其前鋒 里近者不下數十百里沿邊諸将或要城自守武 平原国原諸路皆其騷掠之處雅衆長驅遠者途干 **天寇之所進東則延安級德郎州諸路進西則璟廖** 首尾受敵遠近坐田謂為得計平臣問軍旅之用 木巻七十 扇處四年三舉一無寸功況京营 無後憂房勢不輯 罷 刂 Ŧ h 亦

路轄於學夏者若花馬池與武商縣萌城諸路皆其

|於守禦是以轄於榆林者若承

山安寨安邊定邊諸

今葉運發斯佛日之害難于關陕而京師震驚敗途 忽也向失東勝而今日之害孝於延務而開跌縣 兵民可以息用夫一民民主皆受之於 之之衔離果盡心效力平至有欲建奇功者謂必 可守既已原東縣今之延接不易守不若葉延殺 **戎狄生心邊釁益起誠為無策甚者開昔以東縣不** 州朶顏諸衛不遇羈縻保塞以固吾国令若是将使 進州之東縣朶顏之徒遂平河套夫 私用上病下賊勢張而無弭之之道兵方敘而 武二三堡或三四城 董能俱給截 丽典守者背公替 食之日平居時人米一非馬草一東追逐所過一 **程價實則侵赴軍備** 之中寫其養祖之者或以茶塩或以銀布名為准折 静力 **十萬銀日積則銀益農果日散則果益貴遂於養兵** 道路然愁幸而至也東獨百錢斗米借值不幸題戲 **取十萬山西河南之民輸輕齊于邊者處亦不** 对巴房突他使何計义: Ŋ 山 ΥĪ 木巻セナー 河南之民在飛得東果之役 朝廷有廉廉之炭士卒無饒 朝廷出帝藏以給邊者歲 1 礼宗之於 雅宗不 **徒歩于里** 下數 刂 剘 Ħ

李承赐连查避束地北 歸朔漢南徒 治滇東鄉鳴線 其短刃殺使通首他散借同黨原羅降復判舉火為 入愈軍偃臥其私衆乃定賦將王竒偽聽撫勛搜得 華林服丁大全攻凝副使問憲泉縣動李承勛華 思矛勛兼之康大溃俘斬甚衆 令邊兵驅賊 賊果走紫源大敗遁去 果請請兵自德與南昌兵自后源分兩異伏聚源 古今新疆 率邊兵欲動府昌守李承的日賦乏食必掠妻原 **桃源版王浩八起江斯問執兵德吳廷舉總** 足兵食面舒民力 司嚴問訴以立兵紀而見賊衛 果面疑戰日募以壯去客兵以弭息而省費日期貨 重料權以一統例而實成功目增核堡廣斥模以保 日可行而永盡者學面指之則為力少面致功多 近而其史府途大而雜妆此實寡謀矣以臣論 李承勛備請要害 李承勛他藏王奇 李承勒計學桃源賦 不参え十 日實电田復漕運以 H-----뷠 利命 之 夕 積: 誎

悉四 阿松靖豫劉勇康福分兵軍定趙慶雲告河道身負 與朝鮮界南原孤戀紀越密題奴兒干里龍混 伏之賊 果入大败之 東者王嘎日敗必超曹利麥集諸鎮兵據山 益盛城害入愈山 西甚得利蹄年復復建上陽若欲 古今新書 山東劉六河南趙燧及江西桃原咸攻城剽府庫 交城前河塞女直之寇城撫順道建州之貢諸要害 春鎮先士卒不日而就又城固鐵發斯陰山廉河之 風不時聽我難就於是使刑將馬廉架清鎮楊鎮兵 齊艾熟東西全山諸夷鏡何者果助奏請菜邊情 奴 兵四千節農思明叛黃文昌等四世最出知府占三 李藩叛殺掠吏士公訴落中表趙元班使轉之散其 多難之胡世軍出知廣西歇以成信器去文法首豪 太平璋鄉多土官苗祭住輕視而照好夷其上先守 二十七村地土知府黃姆更及事之墓公德威欲 胡世字伏土首 太保王瓊茲威 人参え十 曹重 西罗名 П B

羟久我若大振威畧以離兵黨購賞義附使相 使中 王瓊先盡復瓜沙羽異之地悉收以失屬夷封 牙木蘭內得貳我屬夷而以哈畬爲餌釣大利定初 遠無益事實善買多巧術往往欺負中國今欲甘 奶壁 時用 曲先衛木中國轉廣牙木蘭及正歸順 哈密宣城縣 ii A 土鲁者切曲先衛人开水蘭城所統歸我土 見有故按籍為請土官大悅無敢有及倒者 守根族甚免而屬邑土兵會被公德者關之皆來提 怨板 公今土官生子即開府干弟應世 及者年十歳 麥子許之主官 世聚展轉結勘案縣 土夷土夷以故 夕艾甲滿山谷文昌請降歸所侵地黃賜乞爲公 |土魯崙方侗唱中国懸衝諸夷但趙建原沙烏合 徒交之衛也今正左厚存牙木蘭以風靈夷之節 永為不侵不我之臣而後請物降邪麼不學王命 新 国廷臣議欲縛牙木蘭與之易哈密胡世軍 | 或有事調集皆得構見太守為議年數狀貌父 總兵康泰因被其兄弟三人文昌 胡世寧論處哈衛 不幸さ十 懼 反來奪公 静春 破武 植 ♦ Ν В

以擒者狀鄰送擊殺錦城中事定 其等與轉踏又作傳播令召錄運放密輸錦粉 **昂必觀來預伏家僅俟昂昂果來入門鉄** 矣宏 王守仁夷族南赣暨二厘行臺前日求頹民情順 三三 王守仁先被横水左谿以 破桶网 聲且言旦夕太家懂粹起捶昂斯之哉即被甲罐 城墙贫出城祭旗蕭等神使銀陪祭銀帶 逻辑果以三千人守玂上诸魏信皆由惟留周昂守 助等列管河上階體問計於何錦銭從給錦日事惡 俱從暗來東勝獨保其不然即命助與越討之就 安化王宾瑞瓦招佐戴以兵來會鐵件許之至鎮 那都剩跌船的壯士楊真等布中外 候為内處假報 **附者** 即奪其軍軍軍騎騎在新京節就音戲與守備保 , 避守茂口且防決何以灌城遏東岸無使兵得 就伴使擒其務 大参え十 ŗł 2.4 1 12.0 ¥ 租作牌 朝巫又座 鄭鄭 馬 ..

切有會積至數十萬廣東湖廣江西諸甚臣相親望

已題 時度依蓄逆謀由後殿 江西上流山谷刺盗流

·山頂砲磨如雷守仁急磨兵題之賊 大誉謂我兵畫 **澤源縣前降之者其不降必反覆轉職乗其循環襲** 取其果矣皆葉險追鄉文等又被左溪原桶岡 具落木礪石以何守仁進攻敗據險迎敵忽開近果 **令度我兵至於舉砲應之又先遣壯士 蒜崖奪險發** 繇問趙攀崖入分布贼果左右極高山頂伏以説賊 即夜夢得斯兵善登山者因百人各執一 河以将法乃遊與敗通者前賊賊皆事集衆議而 泉守監設滚木碣石架之守仁木至賊 集三十 率兵從南張進鑄橫水與諸軍會賊聞官兵至卒集 上街八香荷水游文率兵自大庾下上艏之金坑 c被左漢橫木溝販奔入守益力守仁開兵 購之不 兵者最兵期尚將夷攻備同處橫水左漢為羽其 公前提首早務其事尚書王授素前公 共不意學之桶阿成碳竹之勢矣乃造許清率兵 用受數各點但問後兵交補同請水左溪外從至出 左葵在文定車兵從南康上指分入選其奔映自 3不得事與點廣兵合若攻插岡則置 * * * 人きょう 則人 |兵雨寇間 Ħ 旗便 地險 Ľ 筑 里 御 穐 駐

者使就容爾王官意厚當觀在衛之格乃率四十餘 仁王黄張樂大奏將士下令日橫水諸賊已平利頭 之及兵遣二人來告發恐安疑責二人云渠方遣弟 即農且進安歸具通其事客心 大安又别購城所 志蔚移機龍川青二人擅兵狀且論客侯事平為計 能用虞珂鄭志高徹仇教故備之耳守仁住怒 以遠其歸路桶岡平遼各牛酒客方殿備龍使 伸客不受使人前守仁所陽應以親虛實及橫水西 王守仁攻猶水賦懼溯頭乗勢出擾使人論降之 事前竟其後冰前擊張最衛其右在文定自懸崖下 **道弟仲安求降願從征自劾守仁知其情令後別** 之凡威果八十四計師期才兩月 攻其船球被稱門湖廣兵亦至販通入山谷者追給 定月所分進入敗衛奔走內除過水為岸以拒官丘 **模水左溪餘販開不可不備守仁日** 有人工作等 原境內無虞民久勞苦今置酒休兵為樂送散 何重經之下二人獄衛從獄中投意令無 王守仁計破例頭服 入表え十 保幹別 Ţ 推 恐守 珂典 在女 者

與藏神工上安慶兵僅能自守不能提我中流兩目 則兩昌不政自演奏守仁日不然我師越南昌下面 **叛日始出南昌下南康九江遂攻安慶守仁兵已集** 不敢出賦果疑四春兵且至奠守仁未即進兵遇同 **及不下兵麦意沮若退之江中央安慶來擊豪必敗** 撒言京師及各省會發兵數十萬共誅豪疑其心 吉安與伍文定謀討之檄召那項等密遣課門出 **复港及王守仁適往撫騙建軍胤至豐城聞變即** 迷魔其 異為 縣設官司治之 之柖之人官兵乃得入及度險始阨其路大兵隨至 仁令官兵衣贼衣抵暮作為戚當致走者山上賊見 以大宴備確容歸已度珂等至諸郡縣兵當集乃敦 其後無也守仁乃夜雜町等問道歸簽兵令諸官 B於庭引伸客入輸之超諸都縣兵直抵 販果賊達 P走聚九連山四商險絕惟一道通官兵不得人守 4 旃 王守仁計轉震簽 L 軍門無用兵形又珂等緊供意益安造告 八年十十 * 使 投

1日の1日 表別人心部 之其使其五 攻前日禄大 恩信班師撒放蘇受務迫将來聯及趙節最公因 你前出來自衛南運動與假其市的是人來與聽受 寒天柳泉春扇表裔與蘇等的期日去又先因永 各種飯兩魔雞雙討程程死田州其黨盧燕 尚何成功封賞于此菩被蒙之日也於是道職然合 以富贵失惑泉心望其成力今追取不能果欠又覆 改益發別者具衛南大因起王文成代鎮今至開示 · 八庄年在平冬奉命 **教火政之遂擒谦** 古人带番 人参七十 **不是前邊所先也禁間我女兩個必解因過兵自** 讓之或日蒙兵盛我接未至不如堅壁待之彼久恆 坚城之下 具孤獨親務自敗守仁日康兵雖强不 **泛我明有推着歌填查出安慶守衛年刑我兵新集** 之其自後收職者是九五合勢東我政外為 页越京邱兼不聽比仁族南昌液果還教報至集聚 **两得體寬食集自奪首尾牵刺弘成檢集及追入** 9疑士實等實等獨豪去安慶趙南京不則輕出斬 ·典兼新觀信奉上對若有的构應者兼得致書人 ķ ľ 2ª 18 4 ŧ Ī 支不由 受再

4 11 11

ŝ

注悉公婴方布覆纸裹兼火干数散投所鞍木上火 距大呼公赞矢中左腋藥火齊發頭之樓燉惡者不 士氣憲為敵棲數 及而死於是儲者皆起城上建 |動車所破公坐城上典泉誓動通當得大功有窓 |康變作先引軍設鉤距於江側禁勿 干江上與臺院審議兵食繕皖城周 國具事標識呈南京機務重臣又請造戰監智永 於朝口縣之商情可遠望有苦可即連也乃繪長 アム手手 之障法加泉運無後期奉簡書守備九 重被 汇越于建花州皆典監司計事謂九 **蘸江艇兵楊銳稳江西** 等兵相 石翼典擊之旅新萬計八寮平 淮 发旅船泊南岸率泉分攻五城各首舉木為表 稱後十一先登公引弓甲其首其子殺蛋其其 不 楊鏡先幾拒窓 可特湖最要害當以 : 前角徑掛其果成題其前或被其後或喪左 仍向城有甲胄者出關精外 十二衡所鑄運 九江 大旗書駒道 ... 中左所一於監 , 泄寇船抵岸為 城中多 ŧ **江安慶諸郡** 艎帔聯 江為都陽 岌 放井 以壯 倝 戊 ĭĽ

至見大濱潛使一卒從問題出幾极絕寇果解體力 街と 以小 渦成 而逐 首親其鏡放之江中又造一二幾卒史人岸上營奉 像夜舟騎去公募善泅者數人於船中開新遊即朝 **经营管定意於北海縣木馬模與城接** 以節 江岸 火碾放上應之乗勝捕殺聲震數呈宸滾塞帆顧 乃龍別大將軍次範實石脫緋金敗置城上 **本在京北鎮討之學項其婚弟出居師** 多类崇為疑兵服見之果道 ī 沈者儀計教學種 為修 列而濟果難國矣適軍中乏布帛乃役竹将竿 希儀 华書 城人干 兩岸軍線面前賦 沈 載動卒伏該華中賊済且半儀以無 希儀張疑倘 項刻成數百旗樹之段龍雅今贏卒守之 H 消石遊狼牵線而濟雖泉可薄 徐波江東沈希俱倉卒以五百 人本えけ 胀 後行掛壁木 į. 滑石儀叉分兵兩岸潛 4 内盘仔其前 换兵 廣應其助程 **未能** 人种 一面進 蛟龍 向老兵 Ç. 7

沈幸

優為右江學縣右江故治

柳州

柳在萬

山中

外背跋穴民無地

可田軍民官吏非甲不敢出城城

中兵車覇不足仗候始龍勳五都五都去城五六里

攻田 将掩偎功先函其首送鎮以到首 里面軍陸堅未易攻後以騎兵千餘夜從間道 兵為五前諸将是猛其敢南係獨引兵南去上放五 交趾仪日走交趾則開不得歸矣很乃潛豹璋鎮分 **之雖獻猛首已先一 目泉示矣 潭出境陽泣而與奉之別館醉之酒而斬之璋懼別** 上放矣溃而却官軍乘之新首數干遂入上 上流一兵護女居猛左右見山上散大禁日天兵得 上流背立幟為號黎明合戰璋陽遣兵二干助猛守 土官飽售賣戀果穴所以叛者懷誅耳非有飽志猛 流慎建凝而下感色著哲諸郡沈希懷日此不足及 及知璋 川八年五年 田州面子女玉帛皆在教安於無處鎮日 州猛欲走交趾璋兵日不如且走歸順猛從之 沈希偎灰擊降五 女失歌猛與項徒狼合叉應強推動 人系えて 都 首 貫 至 猛體諸將得 液 恐彼走 ř 兼 捷出 / 株上

Biss 校掠沈希儀熟計圖勝莫莫如得賊情得賊情莫如 月間性 太貧 粉肉灰金茶 貿而行不知所往棋頭則儀心腹也項之舊定城果 **呃勿得問至期降屯三但命法軍出某門隨旗頭買** 粉若能以販情報重若賞賊雖宛狡禮諸販蓮故雖 |花言買物召入府中密輸之日吾免者罪益若金買 絕樣深蒂販皆得至廉得其情則以告儀厚貫之親 **谦若官府人為謀賊必生疑乃陰求素商販賊** 下二年春 凡官府動靜千里外必知之故極得陰爲備且乘虚 先是右江賊偏衛耳目於熟往及城中吏民之點者 **得以所榜生口牛馬逐獻而空其隘以歸 序音擊而出衷賊為二腹背不支賊艦退守隘因縣** 将聘都宗兵五百榜其巢贼蜂出表我 軍監其歸路 使領五百人人授既至聲砲三會擊而人紹宗開砲 尽最份 **洗希俄斯阎佤贼情** 服量飲所擅最當十餘年不受兵侵 人*** 重 和宗 'n ~中者 付牙

> 沒聽賦不敢 切職是開拿 實之金道之既發城有楊掠不造兵但令雕目者 在之故項構其與所該別版不皆殺雕其目引 |別者兵至桑以管為施堯記城所示諸軍所捕繩以||-----內無得冤絕以外不許置有黨賊助戰者即道熟在 |天言於是悉得賊情用兵如風雨來去率 經騎躬其 自是程婦來見者泉價筐給之不各間又造使至巢 **桜郭叔** 珀躍歸出所私誇諸婦諸婦心艷之爭嗾其夫使告 相實以推補就中察其夫曾以賊情告者私勢之益 ノ弁書 夫人命赐諸婦物諸婦即對使者言不必盡自其 :亦果美物與其袖中命妾婢畔之,酒径婦借其夫 **轉賣問節之日若婦何不一見夫人** スネスギ 夫人好 其 往 Í

日人結敗祖

質雕目者販所得不償所失榜掠亦看 **發所掠賊震僻不敢隱盡還即以給被掠者以其餘** 沈希儀設秘駭諸徑

替制發兵必請命督府檄下乃發沈希儀曰如

是則

率兵人巢未當申請庇勝則上首房以避延相遇為 生撫失況柳去肾府干里往反待報道不散時哉兄 吾樣史與督兵樣史皆知之知者多則謀遇不能無

出入避鸡城中操如見女久之擇其巧者令領歐賊

至伏起追強之城或至他所儀軍已先賊至敗警為 神随行軍除旗頭外悉莫得其故儀始至柳聽諸程

語諸程心妻者曰沈公飲得扶諫耳得即還汝妻子 双入室示律殺狀而儀故鞭退之者三乃遣無径 子即賞雅兵至是獨匿空室善飲食之故造狠兵便 在初他所俘其果妻子七十餘人以歸 初儀俘賊 言昨夜老沈來問之妹中人則 解故謀 羽使日常接國扶諫切勿以妻子與很兵因疑說扶 **陪在有來投儀者儀遣視其妻相持,而近日非沈** 相詫為鬼自是賊落膽 險明旦下視者無人也遣黨入城偵詢東西集各點 販所同時聲他賊問之各驚為儀至罕妻子裸而走 **禽獸肉且從汝復明起出獲去賦二里止營軍中** 人產失確以简貯火衣袋衣戴鑫帽與草同色潛 為很兵槍殺矣何不轉扶諫贖我前在心舒而别 (有言扶諫迷入三層異潜兵勳之扶諫已同巢 低治 人分布 沈希儀以往攻花 柳十三年諸賊俱盡獨章扶誠七捕 也又曾察城所止宿于風雨 得不遵害欲動一異忽稱疾所部來 人をなる 俄国安坐不出也因 嗨臭灰 基上 四散 不 問日世 能 妻 賊

東來吾重賞汝若損吾一人汝妻子鳌粉矣至君洞 看熟在妻子以十五人付熟在日妆借十五人以扶 我之然後戰諸在日善獻林讓惟詠沈公當道三十 我之然後戰諸在日善獻林讓惟詠沈公當道三十

|陳日官府接吾妻子而穿山驛乃守堡百戸與越司

皆在山中今往初之可得三印官府懼失三印冒重

董岩洞中又應見賣因熟從請於三十里外相易,弄必易選我妻子扶諫從之諸從迷縣扶諫面轉

人見之無不股保 遊易扶諫以歸劍目截耳分屍為四懸城門諸往

易於此儀乃進程妻子數人往言刃帳諸婦狀程

懼

米得扶陳出五里諸程又惟扶諫往妻子或不至請

了公 行等

人をごこ

思思土官岑溶被誅以其節徐五章貴為土流希儀多方樂計段冬全

在騎往假初重應金未服處留及留言以有州去金須州部下楊留濟故首也問金起請儀言曰吾小主

於流官會有點首目稱俗子金攻城旅郡夷人舞應

逐航

子9 297

į

并巴维示

熊咲受之日汝得官勿忘我

又令其

妊見

金 月

汝

Ł

百里 創造就色開留日於第往我亦開金乃落 福若獨內應則有危廣左監聽矣然事 茅丸 大雅

責

中途害汝汝可改衣養雜樣

吏中先令五千卒

作獨坐改載改以示忠於金叉日

吾與

()) 往

南

字弘

愛巴行至思龍驛又謂金日南寧人皆言汝叛今以

千人往恐疑汝不若散道三千遊腹心二千從又

日去南寧百里朝金日汝至南寧恐使人衣

魔我行义恐贵五路吾庖毒汝可

肩

我食金益信儀

切城當以萬金路我因以北訴我及當道若萬金 **阜氏其復與爭呼至密所日為我語愈於官無殺 擀可立拳與我又以花針什留日為衛金得官**

為天之可常愈我但徐五章貴素化汝亦低金

Ħ

何之留见金具述展言念喜信因率兵五千前寅州

以行為五月

が一直で

p 新善 大果之十

心益安遂率留及親信二十人良甲見儀奉萬金帖 **医前旁的熊伴写日金非版何故不納現者告金** 玉上

謀日 弟也 兩帖人示兵偷咬而焚之乃遣金詣兵備明日 兵備公亦不可無所的可寫帖吾為汝致因 他日得官出征吾每乞四功與汝順之復為金 筏金 И

率牛酒兵備亦獨之儀謂留日億兵馬段金是吾 月夜為備儀又追輕至金管與同飲食民起金益心 之矣儻刺客殺金是貴五殺之矣今以金付汝 水於後矣儀欲轉金然憚其果時 題枝在南寧飲 留

後乃我語兵備先行謂金日吾寧汝訴題公送為

美心

教之也 亦必儀有以

以乏糧稍散獨五百人處城中儀欲縛愈 Į 八千年 半歸取以來金遂進其半其前所營百 人参える 3 叉恐五 里 外 者

按全去南寧可使金從於路圖之至思龍驛忽從 為戰欲別為計而項所遺 取糧者又至乃請 严

| 男日汝安能擅兵至此金得官與否惟朝廷命汝 將萬兵至陽迎延按陰欲襲金金大勢儀逐呼 金不許密前題被散遣貴五兵 則貴五無奈汝何矣金遂馳 私化之謂金曰貴五兵且至矣可入寅州進吾 人賽州貴五請甘

单

卷圖之時金泉

子9-298

核避按日吾為汝奏型日衛其東留金待奏居五六 不給不若以千人營此以千人從使全然之入見

儀又謂金日汝泉糧且董

恩恩去南寧甚近

何

非無計可差 出其不**意習** 黨也大斉 **徐海麻素規知抗嘉兵詢發於江率東數干** 進花城集兵人情洵惟胡宗惠方邁浙東得報星 有州 古今行事 二百人令留帥還賓州併令留捧撒散遺金兵之在 奏功矣因見留於遊技蟹兵備各勞賞之及勞城外 愕然儀日汝尚欲晡泉耶汝 徒入見儀大言日非留忠不能成此以十金勞之智 明使人居留城党預合各復兵階樂左右重督與其 兵備三百入府待事置酒勞金醉夜遣狼兵轉之黎 **以獨四五人俱儀乃先以很兵三百度 題按三百度** 與留所 見日全晋子也得官聽詞往來我或不在汝必見 **延按主柳州以自結至柳金入松將府儀令夫人** 金大青時全所都百人皆替城外其大首五六人 者日所誅止金乃械金送巡按模殺之留亦病 胡宗憲書酒設伏敗善寇 拼 尚各干人模乃遣金與留各以百 不者七十 Ü 金國 敢言儀復日吾為 敗也與我同 杢 * À 崖 穫 見 留

> 于餘級 三面擊之賦果敗走平望平望故別有苗兵營四 花為 折令其分遣而伏贼至前鋒迎擊佯北俟其遇伏 患急捐其寒苗兵復感兼思奮乃指費石塘地形朗 合室分左右奇正翼擊之蓋臣不聽挫兵於石塘宗 遊保精宜放彭畫臣以兵至宗惠日賅善伏 **暴舟走贼競取飲之多或然徒來甚繁我兵寒且怯 伙者假冠服** 围贼還走王江涇勞且假鄉兵官軍共乗之斬首 有專 上乃取 入末さ 坐其上佯作的軍狀裁戶賊所見賊即 酒百餘墨投事其中載以 7 **不** 舟選卒慧而 Ī 知 百 起

胡宗惠誘教徐海

之亦造首前遇而厚索貨通宗應因厚遺來首盛張 宗憲因厚遺謀者陰過海處云直已杖服朝廷教之 徐海 夫且新旨撫推心置腹須乗此時解甲請罪海頗 **携其黨乃遣辦士入海說直直遣子毛烈教** 王直 兵国崇德奈何乃後諸路為戰守計與趙文華謀 以威信雄海上無他罪狀尚得誘而使之可 宠乍浦乗勝圍桐舞宗意日賊 ٤ 困 桐 開謝過 厀 仱 Ħ

| 嘉典會監從嘉善來前驅薄城外宗憲日兵法攻

海上 泣 H 汝海從之作浦之版自是無干遗矣癖自以有 告海日督撫許汝趙尚書以汝罪大未即允我 廷請入飲界期海貨權首數百水青而入宗意許之 東暫署審記得東以獻東黨忿忿迷謀襲海宗惠私 為 新 て今年書 果遊擊之取其舟而去又謀開海書記葉雕照悍 海中變與之連衡悉暗海使東擊賊可得舟還島 為聽撫心實狐疑會海上 贼 緑 吳淞 出西南宗憲恐 上錦模之東無奈開海去亦引選相 城邊壞有一男子為綿索環債處年復至以綿 夾擊東宗宛聚未許而東獨盛為樓構撞年以 衣席城上日海已解去是久果從崇德面西乞我 歸心獨薩摩王弟睿記陳東未從海關使茵至 军客令罪 書動東反兵教海故以其書陰淮之海海得書感 除於海温海鄉麻以出叉策麻 堂捐之日汝今内所朝廷貸於俱勿再生事 汝誘衆逐我令我多作斬底可謝趙公而全 夜謀稱東以報乃以金千餘路薩摩王弟詐請 現以来其 人参える / 建化 Ħ H Ť 讣 來 東素相倚 舞閨解 待之如前 李 游 厚遺 奉 功 躾 海市 難 拢 黃

王直 王汝賢毛烈同陳可願 真實然後權進乃可以逞直遂留測在島令葉宗滿 心其親信皆日不可輕在當遣至親往彼宜力 功自贖直初謂母妻外矣聞無恙竊喜始有 任人不疑技直母妻子歌中館待甚厚室乘此 可擒這辨士蔣州陳可願等假以移諭日本禁載 之而 夷為名至五島見宜宜布皇靈因言宗憲推 宗憲乗風縱火海赴水水餘首嚴盡 之歸報東黨東黨開之大鷲即動兵過海所馬日 中棺河為藍因謀論海居東座以其西居東 これ争手 即俱承遂私相關官兵四百皆立永保兵大呼 **果庄上帐之游垒燧出役同道欲走幕府邏 承順保靖兵至東黨發海約官兵動之也夜伏遂卒** 黨佐已探今合而兩附者趙故耳庄故有東西二 居癖桿 流却海濱胡宗憲以彼越在島中須誘致 胡宗惠計殺王直 出 然所 沈宋庄宗惠日善兵者乖其所之海與 人なる 部 尚泉 難即計乃件令 至寧波日宜輸 海 7 未至時 Ħ 擇 Ų. 脻 卒職 賞項之 善 徐海 曹其 人被立 海之 置 Z 丽 東 焳 乃 尔 IJ

故故無不進兵改不來休怨我解含初不可聽所 被暴請將請展書于几上夜年件為 醉麥語吾依 活 在此即往見誰敢留汝又與所親先來見者追採臥 直日汝依保全家屬開市求官必須歸降且汝大兵 **蘇之宗惠秘不宜密調成雅光等潜伏要害後使給** 舟山直坦然不疑惟日我竹木為開市計朝廷顧 之宗憲預調大献于金山代以盧鐘鐘故與烈徒事 不漏之直直有视坐余息乃 周周楊帆 示欲進典直 **從至 序雕酒管東日俞大猷吾書破之列港須謹備** 古今干事 處直謂宗憲誠朴可欺欲兼止保全親属又木知 是年事前前宗應恐形跡事需委心於賢禮題宗 成亦可與之相提先達烈率銳率消苓港據形勝 **時對將東日直非賊特性倔强不肯見我見我當有** 王黃敬在軍門面自以招直為名與東京清開件 古青海為我且依直速來乃日此非吾久不可見 江衛門面海果冠嘉典宗惠並及集之以親其意 正功後推瀬進頁團市而已令意播知其計姑刻班 人がえて 女主

> **預知海巴成子無助因獎日王者不成漢高** 門胡公其奈我何桀然諸軍門執斬之 脱於油

已據在學州入意安今直歸順先遭吾係报赴神

俞大猷舟師破倭

者毋以短擊長而以長制短且海戰無他法在 鎮其上倭船題之骸接壓焦爛固我兵所長也善戰 侯齊號令以大身勝小以多勝家耳 向舟山横蕨不除之贼皆船 **俞大康為浙直連守時倭難作大散言防江於** B水兵惡干陸兵益倭奴長陸獲令樓船高大集萬 干是用丹師職 され 知 ĸ

古今于年

成職先舊奪牌 大量よう

北地夷宣傳地利前而走險不利並驅乃問長短丘 千入假以節制則以什伍起于丘乗兵寓于農第丙 可也開據島人其氣節係其習信而自檄左可鼓舞 及今節線調習一旅可當三軍督府乃檄光巫夢;; 而格干特乃今烏合者不張徵調者不假吾不知其 戚船光會倭難其線兵議日無兵而議 而連隊立一 入為長衛則伍之兩則 戦 什之件 僧 ٨ 典件

五張擊刺五用名舊為時

府百夫被器係種具在房至則當門以守退則當休 受主路者為臺鄉即四連臺高五史座中為三層 展雅光扫前當月替塞上周垣二千里 到顯將在事念山遊倭寇淮揚留京戒蔵張大司 **艰比年造地遊修蓝秀無益前東版祭請夫士畫** 馬中矢颞下馬出雅威斯而前顯踞馬斯晚者頭至 易我其歸情可处也題伏甲岡下躬率四騎薄敗飲 去者半在四者需之亦去耳馳王安東讓之敗艘 單正將不堪請募兩中入农者一軍以信勇敢 **衣器拖減機服數警徹夜不得粮屎明持 再宿是威以侯待勞也乃環同十五里兩軍題人 阿下多中等然猶扶傷而關案欲逐之顯日日** 50万韵 水能率魔夫桀干二百座前 人多水蛋律之 · 九 所 留 皆 點 銳 者 知 顯 至 邁 顯 書 詞 甚 設 顯 日 賊 顯衛浦口顯日賊輪掠既來其欲已盈必不 A. 并 **民雅光策全**曹 劉顯音擊破倭奴 也威靡言焚止虛顯即先自焚度夜偷雨日我 人をえる ė 根 機號干 則 肝矣 南 đ

7		46	- 111	Ja			- 4-	-					-					- J. I
þ		郝	州	扙	į mi	。	犬	劉	1.7		披靡	大	稷	ĮĮ.	改學為土軍 雅積華流上流日	 	拒汝	兼
4	1	蚕	大	崖	上	九	鵬	. 題	-	' -	靡	峄	役数	·張·	*	连白发	*	日有
豻		耋	盤	齐	并	Ħ	イイ	袋	*	劃	套	套	4	#	4	8	1	疳
#		畫	1	*	讠		柯	Ř	4	2	É.	at	ģ.	4	±.	<u>G</u>	為後	能
4	! ;	'		*	45	#E	12	六 域	1	- C	<i>7</i> 9	î	46	7	15		7	116
÷	i	١.	桜	%	一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	蔣賽必聚飲	大	14		建 土着	力	至	Ŧ	4	4	, 44	77	V
古今新籍卷之十終			17	酒	恢	2	1 1	班	7	I	炙	斬	13	Z	崖	皮	4	男
7			🄭	無	<u>'</u>	浆	雞	攻		費	四	其	月	矣	秡	阜	月	教
₩.			减	薂	首	飮	窛	麦	:		奔舟舟焚四起	前	嵬	ĮĹ	畫	A	勢命四十	脏
	!		雞	聖	育	鮺	守雞寇而	麥 胥	ا ہ		本	岌	Ħ	ÍΥ.	i i	夹	ì	*
			弁	首走	酢麦鹤兒	醉	柯	情]] :		夾華追至身盡	突賊墨斯其前隊二人并	矣能警乃阵贼且巷	Â	1	出汝路命六十入	人塞區米	取勇教職者立此帳
			*	#	í ő	垂	12	F			迫	7	1	かせ	士	1	1765- #-	IL.
			25	作	可	1	コ	172	١,		一	4	11	な	<i>j</i> ,L	1	<u> </u>	JIL
Į	ĺ		17	. 7.).	仅	J	有	i	F 🔍	王		H 連 斬	黒	þ	分	苯	
- 1	Į		大	生	起	乗夜攀幕	方三等	蕨	;	1	开	指		復	賊	四部	ح	下
ſ	ł		迤	看	距	摹	等	么		٠,	· 查	崖	'四	Ą	兼	部	衝	得
			出	寮	騆	F	Ŀ	兒	ا بر ا		斬	指麾者	五	鼓	*	伏	缸	=
- [ŀ		觅	É		甫	九	斬	2	ĺ	ځ	At	人	. 1	*	岡	新好巷五	下得三百人
			* **	£.	*	1	絲		İ	1	1~	142	14	4	17		12	1 7
4			ale.	34	互擊戳	展組	哑	Ŋ		Ī		出城庫	2	生	/F	下		습
-	"惠	. !	哲	ア・フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ	似	粗	題	墨賊				吊	泉稍存	以張其勢左之疑兵以分其黨復令數入并屋隸		, H	١Ņ	니
	- 11		· 養之并放雞冠案阿大逸出為部将所擒	看察官兵追至貴	點籍	抜	計	睒		l		後	4	謀	蘆	日販	守	日表加
	08	037	满	責	籍	挽	童	遂			-	賊	顯	Ħ	1	濆	人守五	ı KL

兵錄十四卷

中國科學院圖書館藏明崇禎刻本

衤 讀猶價不讀若何于書乎何罪 戦危道此何事而冥 喜試以人 聞之能讀 兵錄序 氏春秋其謂運用之妙存乎 史稱岳武務恂 類書生好讀左 書夫括之敗績惧在徒讀耳徒 而可師心自用者也况兵神 父書價而懲噎者遂謂不如無 劍則曉劔盖巧者不過伏習者 之門天下事未有空虚無學問 國僥偉於自馬服之子以讀 干賦則曉賦能觀千 器 矛 神廟如天之福藤麻嘉隆垂 國朝戡亂庭空圖形麟閣隸名汗 青者率皆張弛経緯出之有本 磨大将委 蛇整暇習為輕浆緩 領而行之有紀律 知古今匹夫勇耳一語有以激 七稹海 之古名将之不以兜鍪而撤欽 左氏春秋實吾鄉范文正将不 用耶而狄武襄折節讀書亦授 輕指麾而廢帖俾也其来尚矣 非有浮于書則以何 内承平日久所歸為遇 四 物

帶 維粹挨解內既頑以腹空負者 都不復省覧沿至末造 外個账以風雅自命韜略諸書 挺而走使 目不識丁軟放髯攘臂以該兵 而廟堂之上亦動云今天下果 金印若唾取飽則颺而去急 游 無将材鳴呼良可恥也仲升 公世勲之裔少即為子成劉先 縮 大人之門踞上将軍 之容更好事者雅歌投壺 **助不敢出而亡命妄男子** 竊以中國無 坐盜黃 汤 則 掣肘余目咲曰此傲然一席固 莫知適従疾呼不應顧乃動 時膺節針者以根在之人東西 命會鯨鯢鼓浪海波沸揚余與 恩求當年一毫利精一日賞 親見其潔己鎮物人 屬砥廉部所至馭軍士嚴而有 公方同舟擊楫矢志澄清而 制閩南越之日余通脩兵領表 指掌繪不啻書生白樸而尤刻 生所 器重該通經史 意手輯兵錄聚米畫 八、樂 慨 然有 為 維 用 而

西郷韓襄毅立功建成名地也 三里不讀書之過公額之余回 是有所感懷超退即拂衣而公 是有所感懷超退即拂衣而公 是有所感懷超退即拂衣而公 是有所感懷超退即拂衣而公 是有所感懷超退即拂衣而公 是有所感懷超退即拂衣而公 之左之右之右之首無以為揣摩左 之左之右之右之道無別此者 愛而卒業則皆古兵法也此豈 受而卒業則皆古兵法也此豈

۲. 長喟云 報者兴忘公矣撫卷不覺繼之 其服緣少時書公自不忘兵推 殭飯 ٠,٠ 之輕單騎或駕棲船重展壮 海緑林載堂公雖髮種、方 書始出信無瑜是編之詳耳觀 而又念通者四方多故憑山啸 見孫吳以下凡涉兵家言者其 讀"亦未必善耳 傳找公特集其大成人自不肯 一收廓清之效而而拋雲卧 **複鞍者尚非其年也不** 事價後余 使 綇

序之

理軍務都察院右愈都御	賜進士出身巡撫 廣西地方指	崇禎三年 唐午歲孟春上時	之麟阁馬	新建之故事在請以質之異日盤石于東隅封侯大業有中山	標銅拉于南極真	國家中興之盛者乎異日勒燕	天寶公以輔我	下指商一等上具考其
------------	---------------	--------------	------	--------------------------	---------	--------------	--------	-----------

道南甫揚述程再

序 觀 雅 将 祓 者皆官於廣者也戚少保 任 總式共制関浙倭患懋海上 登而於廣充能 有若吾家能厓将軍 世推名 何 質 其方器如剑经纪 軍吾少猶 T. 武功者鮮湯而 熟家将軍釜山播州皆先 大将 獲見威俞二公 固不 将 軍兵錄 暇 目 及見 適適文 南 盏 俞 序 之其城 冦 詳馬然家 北 **効新書** 語 戚 則仁竊 而 此 啓 者 تة ĬĹ 款 俞 土 則

賊 兵 生威有倫無患将軍目 若沒吾弟知其廣隅 見其所輯兵録九能補成 部 俞家棍二公之良技而 之通施也唯諸火器最善 法 今何仲升将 他 矣何畏乎山海 所不遠乃 皆學士大夫所 切嚴 不具論 切發觀格克之数 屻 华 世 軍鎮廣 深 而數曰 所傳鸳鸯陣 找 之冠我夫 必通 理 自 以来 盧 中 129 好 視 者 惕 無 其 中

聖朝除克剪賊者而 押末矣故世之為将者皆以者萬中丞李總督之於龍屋譚司馬獨推方叔元老之献 盡 馬昔者江陵事連 習之以為用若我以火往 廣天肋 非然也盖 以火来将軍必有握隊 題今将軍之能以功名 少保之用惟江陵 少保 海 <u>.</u>: 招降 贼皆當 而 之 顕 能 機 彼 缎

	F	刑他	調。	壯撰	左諭德無翰林院侍	赐進士及第奉直大
	£3			•	柳林院侍講陳子	中直大夫左春坊

之事欲自動行间乃稍出其绪 冑 書多不窮務吸此有意邊陪 家子自少演家部習 连暗朝列大夫前監察 御史 若思濕厚子其可不盖自勵於 千尚稱世動之家以無負累 柔 則一方清總師八臨 **商志之士何既不可多即子介** 餘輯界為錦數奏削八六子一謂 赐连士河南按察全事 ᆁ 面題以奇制勝為董替一 松武松兵

守一 天子使者時乎太平指令婚年 孟 窮假人民 钺專 聞盡 散其 又精矣 激矣 品其 两著 述綜 ~~ 找道方而智域 於 姪 其人儒如 潔內行淳備寄托之高遠而久永 外以儒示耳及窺将耳 隐強雅 開貫必不負 将养通於将乃何将年之於 之約故五养儒者或以口儒者 百代合咀晕略立環中以應 儒者云我 何将軍兵録序 余習何将 军谈倫標格恂 7 方舊家秋或又日将军 日あい 儒 人見斯将軍 子9-314

能 松石 著述 作兵而批谊修韩 獨好傷去之道其神明爱化 煤乎此将 军之口仍為 3 陊 军 車 放矢 ヤヤ を 生 兵 经舊家子 姟 喜 而ん 如 乎难然有 玄多 在 媕阿征超實入效意 牧 是 美程縣斗六即つ粉将 者 友 四必有推 報格等為 焉 他不 谊修弟杨维指世 沸 年書生也 力 陳 切将 **科** 法是 知兵者多发 陃 知兵之劾 何将 龙 初丑 紊 軍 猰 护知 屈 4 Z 何弟 儒者 可知我 何 頻 矢 格军 犓 쓄

分舟 衝 颿 占 鯨 杨 知 不 洶 氽 啓癸亥六 驗彙 蹈 波 湧 春 鰸 向 相 師 險 窟 楼雪 背湧愁 觸 碩 防 瞬 ይ 制敵 駭 云 成 浪 驗 出 息 呼吸 愕 蛟浪 異状 一帙梓以 序 汛 月 **蚕宫或不致** 以 莫 巡 安危 後事 錒 与 滔 麽 知 何汝寅 天操 遇 窮 잱 也 极 洋 而 揩 風 2 凶 有是 可 舟 雨 見 履危 題 俾 博 不 者 晦 波 揚 採 預 無 复

圈 兵錄 兵 大司馬趙公八大稱賞貯縣新 思 捧 拂不翅引之極下需其長鳴 展自以一得之愚 呈之 銀月放 謬ばは陸 腔熟血 自 相拟许 鮱 何 自 巴耳乃後不免以陳競招 公者成遇余め公至四國 謂稱祖何蓋自结髮時 以駕下承先臣 间 玉持 效其力調 钦 旬 不能 帷 余凛 盆殚 世一飽公家之栗而不 ,沉浮風波追憶時 報 銷矣の遺時 3 NO. 懼不敢當惟是 力 餱 143 绪備負 酬 知已 命之 ፙ 士 兵鳅 畏進 其多要而间附以已意采輯敞 痾故不自揣 薄劣 絕括羣書動 既不能勉豎尺寸以将此心腹此 跨足那 傅有之勞則思、則善 到篇余何人斯 敢窺豹姓而 心生後則淫,分忘善余句愧 使数載清動 揣摩政可及移食暇顧与云 無聊披閱古今兵法意必间 **夘蒙談薏苡致蒟伤哉古苦寧** 為追謝乎微乎孫吳諸 余 獨逢况余之不德辛兹家 居 自然 百感叢 集不有 叙述将成頃 巨树順看誦智尚不 一朝城落嗟乎二 . -能了其 家

		年錄自叙 華書子寶 戴堂	萬曆內午仲 秋吳郡仲外何汝寶	書弗惜效學以質大方之误云	太平威世釋禮樂而談報舒拿
--	--	--------------	----------------	--------------	--------------

根法	卷之四	拳法	鎲鈀	長鎗	狼筅	牌藝	弩箭	鳥鈧	兵家卷一	射法	卷之三	教練	卷之二	編伍	選士	論将	卷之一	兵録目録
																		計画時間

卷之十二	火攻	卷之十一	水攻	卷之十	攻戦	卷之九	守禦	卷之八	兵餘卷一	安營	卷之七	軍行	糙械	卷之六	旌旗	陣法	卷之五	較藝
						•												
									• 1									

	女録 卷一	天時	地利	N	卷之十三

兵欽 Ì 缥敏 使各當是謂大將夫惟大將 選手未諳山 竒 者 神 縬 兵弱國亡故明君必择 道 守協宜 善將将與偏将之所以善将兵則又在貫通 為将将者用是故或先鋒或哨援或守營或 ¥ 伙 抄 中 則 用兵 而戦無不勝矣不然将將将兵無 見敵情之難易緩急陣勢之竒正 各块 而不窮是謂偏將夫惟偏 以勇奉命以信其機深 决膊 有将之道在夫将有大将有偏将運壽唯國亡故明君必择將而為将者欲無恭取 其勝 理尚未了太七六壬之旨能駕風 而進退惟時乎盖三者無通 所長以 千 川髙 里 八外窟懷 胁 聴大將拍魔 下之形能扼要而據 松勝之 而 取善不遺 而為将者欲無乔取 沉而 善籽 日 粉善将 拡 而在平日 大將之 将撫 不露其應 一分合能 則得将 Ħ 除乎 可 兵将 材 下 者 而 而 叫 ンス 圷 -tb 袵 いス

兵錄卷之

論将總

将

者三軍之司命将得

兵

強

國

昌

将

不

浔

頻咲 負才以為予雄虚 漢 ₹. 古 平 軍 後東西南 恩則 戚 威 賞以金帛恩也而思亦不專 输 必 也 行 陣之形 朱然終日欽欽常如對陣見及此 卽 相當而 用兵要法莫過 洏 也 恩威二端威壓之 勝平日駕 不 找叉如卒 古名將能立功名者皆從於菜 恩沛 而威亦不專在刑杖盖一 再 敗 相 一號今皆可 思電不及處吾及之防杜 팾 セ 31 於教場陳斧鉞之具於譚笑 共 而 敗 已隐然有必勝之勢矣是謂戦 有疾 惟吾命死生存亡 2 Ż 取不精戦 不 何 日 於教 恐離威 莫 而 以為思皆可 祈 憍恃氣不能謹嚴卒至大 则 親視湯藥以調之卒有 亦 非恩式思中有威威 放則 知畏恩結之則 必敗 在 平 振 而駕 心有 不 在金帛罰 8 惟 語嘿 レス 平 不容易 A, 吾命 , 取之道 不 Ы 美令 中来 敢 威 鴐 動静 怠 知感 不 何 ₽p 駇 勝于 人如辛吳 吾家 莫 待 中 刑 夫 火미 精 勞 布 西 状 ゖ 状 戦 朻

بَكِوَا 將之 芳百 生畏免 生天地 亡 死 無 家之用得成功當代垂名 猶 而 也為将者能 渐 矧 其 能成功者是以首子田百事之成也必在才不患不足而最患有餘何也心為才使 ዀ 名 于兵法猶实者之於諸也妄者以熟 即幸而苟延 Ν'n ₹-甲 生或死于忠孝或死于節義各成 Ĺ 敗也必在慢之而况戦乃死生存亡之 不 可以應變制 而授命我 世李陵遺臭萬年法戒昭然将其 不至 胄 白 न 古無 間不能寫 一意虚文相証而 而 次 外不 效死戎之改也軍旅 拾 捐驅盡碎不計成敗 不免 誰 人成得以舌劍斬之 知有誤國事三尺 2 Ż, 揚海内立名當 咎 朦未有将 人惟要死浔 بطهر 湏 凡可以規避 後世豈不 知 不習法而 エカ 不避 愈大 具存終 世 利 Ħ. 如子 ປ 鈍 難 與腐 叫 一字足 í 退 扶苟 次ロ 别雖 ょく 立 宜 能 仰難縮 Ź 咐 狗 帅帅 敎 陃 未 愈 卽 以流逐 畣 矣 死 阖 何 有

將 外此機軸大抵兵機圓活神化無形全在以八不以目親故其悟若是之妙而要之兵家亦不不以目親故其悟若是之妙而要之兵家亦不平聖真信哥」 康乎式 貴立志志立 斡 志鼎錢莫奪苟志存立功 鍭 善悟者不滞 草 삵 Ŧ 歌便悟妙明真性張旭觀 认 **找盖浮夫法之精** 左 雄萬夫而大勇見妄當試觀人之 智怯者可以勇又 · 鞍者為真無從感情裝者為客氣練 所以有大擔當者獨賴以氣耳是氣也從 論将有五材 變化運用無窮者若 聖真傳歌 故孟子曰我善養吾治然之氣惟養氣 不 則 非授道之言創非揮毫之器其 用兵 氣 而終之以忠政語志也諒 鈛 斱 法 何功 惦 用之 vTn :}± 能 古之霍縣 事專報 不立 而 公孫大娘舞劍 也譬如樓 <u>....</u> 無 功當代豈真庭 何事 胃 È 丣 她 一身外 不 팃ㅣ パ 子 張 思者 1 ݕ T 和 南 녯 夫 故 便 尚 氯 陽 넺 立 . œŢ وت 不 覗 悟

、銀糸 滿 凹 軍 نارر 爾尚 撃刺 軍之 食要 تكزر 武 餃矣然作士卒之氣 使之感紫典起 -db 士 μī 眩 時 **乔米亦或可以致命而要** 出 則 有 卒之氣也為将 推 之歌骨于主 不 回 之吾人之氣斷不容餒 疾病 待其口 隣 自 Ł 視卒 在為将者以身為倡 百 一万心 心為心夫惟 之男央其子 結其 脷 戫 鍵也至于士卒之 息無一處之可滞 腑與肢體 生而瘤痛成矣病 内 女 ... 嬰兒謂 有 之出而 ٽَ 力其克有數是也是以善御衆 則 Ιō 丱 Ъ. 取隊 :iT. 臓 右 بتله 其勞苦 小選其治然剛大者工好為倡諭以親上九月 預為 下 t نٽ 可 不待其心之 亦必仁義 腩 也何 in 一心而後敢低 不無而 場生れ 愚彼 主 之謀是 其一 卹其 之所 桁 7 難式昔虞書所 餒不餒之 畤 氣之 務之子 並 不 哑 之心要當 機寒使息愛德 整全在氣 上先長之 知氣君 狯 或息 行上 いく 又 ۲X 石 致 丣 Æη 分醇 之志 先為 仁 後 而 死 周 清、 處式 何 녱 各 P 流 vΖ 車 = 孫 而败 由 Ł

杓 為将之要治心第一 امل **\$**; Ł 岩宜 膝 意能給百計彌維 令 事 足 ボ 澤 整 又 M 其惰歸是也治 此羊質而席 或附勢而 湯火 安望其被 待饑 拾 動其心生殺子奪不能易其志惟 根本在操 愈 髦四 兢兢 守職業断不脂章世 ያ t 人 就以静待薛是也治氣者何避 犯 甪 動 すぐ 向無敢矣 是 維 矣 4 其 (d) 泉 肺 夫節 幕夜气京盖 守夫惟操守峻潔則 谢 下 脟 誠 皮縱獵匠譽胃顯禁謂清議 あ 湿血 恃為緩怠 士不 治 力者 ᆂ 樂戦 惟恐敗露或趋利而 已隆即不 内 则 治氣治 作忠義以此長城 親 夫 Ź 何以近待遠 文 杰 肹 囯 路以 兵 淡炭 佶 用 퉷 力次之 不 然而 接 扒 可 氯 為 各 カ 狒 汉 治 柣 言 茶 為 估 施 則 以涣 എ 身謀 Š 知實 其 令 訪 Ę N ı C 也為好 橷 待 者 奴 安 鹎 自信力 豺 形 袻 窮 事也是 顏 氣 客 何 义 何 死 ì 邚 耳 樂

司师克在和吴起曰不和於國不可以山主将九處同事及待統属河要推誠相與表 我者至于六七必無敗也乃行故每戦無 主 £. 兵锋六二 有 ¥ŕ ഹ 重不致 失 ŧ 千戦不 兵時盡 為墨以賢為師詩書禮樂原講千平昔方之機人即心析之分取其所長棄其所短 붜 必集思廣益而後可以制勝 力齊故行 之機宜熟審 鉢 軍不 浆 根究子問段 ハ人さ 倉皇失律 P 可 召諸師環坐飲食先謀敵 軍必貴乎和也 智無 ハ 火 块 出 陣 貊 旦用之必安詳 以誤 如此則自中之甲兵素具 ネ 岩岳武穆古之 和 和 人國矣 於陣 剆 Ιō 不 何者 可 開雅 以與出春 阊 大 Ł 出軍 出 銋 叫 肣 톘 킽 老成 戦 秋 謀 敵 b 之 VX Ho 不傳 不 败 見 閫 畧 以浔

用兵之害猶豫為

大故

為

計

書

下

害田

者友節也其心

支節也其心動以誠則支節不可臨時於更尉續子曰将

逑 カ

其心 心也群

動

とく

則支節必件是以将無還令金

乃不足

へ阶其

是以有制之兵千萬人若一心皆能制其死命

恪守宰排此身不違此

令視死為易視今

為草

中莫要於節制

節如

竹節之節

節

制

者節節

制之之謂

也自主将

以至隊伍節節

分明

堅也

書 孫绿衣一 罪 咈 養之カ取 容 有 事業可成 A T 知節則不溢喜此 節則不溢喜此題御眾之善物也雖然一想或宥或治大抵然裡回思則不過暴喜 恋 即 ネ ناره 心則為委 物然而 有 成於容忍而 忍其乃有濟 ę. 虰 (靡七貴 之道 也故或 事之建 敗 可續子曰将師者 一一號一令須預其 断之 柞不容忍者也 有容德乃大 いく 士卒有犯無論 ₽p 禮庻 愤然而 刚柔涛 夭 茍 填是無 下 Ł 毫 事 宜 な 而 味 Ŧ 枞涵 此 Ł 未

左

氏群書更于古今名将傳中

細玩其勝敗

范仲淹口将不知古今匹夫勇耳是必博

将

者不

明義

理不

通

j

今 雖

能成

功

不

阊

租

材

子9-323

È ٦. 觐 戲攝 蚵! 相 博 允 以得 不似心神海疾 遠萬萬然 士卒之 *一 美非操 節 其 禄兵. 義 道 ري 2 2 死 明 心神寅畏 鋋 市中 炮之 劳操 たあい場 太 カ 綸 あ 上使 外干, 亦習精技 於蚤 操形 使 期 A 九 垛 之寅畏兵雖寂處問關坐即 散 以此之謂 息之或相其意能察其動静 法 時 赴 而 ن 野不似 無論 旗標心 之技 士卒 扩 乎 不 最 湯箔 已年 技 相 湏; 以其為操之害最大操不似性氣活落乎劳苦 下 使 異士 之技 真操 包 鶗 是之謂答歸悪乎 m 橾 火 2 易 主将 敵 勢無 格 FF3 何 不 Ÿ 惟 件 辨 盖操 視 亦靡 定或 難 精咎 1 無習我 始 件 操 懆 馬 尾 專習 主 形之操 苦處皆當 المتاء Fis 大 将之 在 鲢 者 イ 主 技 有ス ネ 콷 4字 技 技 斯 操 ij 而難過 之 為 火 精 兵不 短收 故難執 10 患 而

則益 吾之 规避 不習 将 将觇 将之 4 故 乎其間 不 本 平 迁 特 تكزه 杤 其 赦 可 領授 ŧ 安肯寒心 抡 丽 不能 爽 閲 赏罰 用 2/ 之状 不勢 職国 技 2 砍 パ 杤 煮 117 ė **R**P ~ 一旦臨 即稱 左 辨 眾人故所習 習 臨時 技 欺哄之解百出 監造 浔 技 鈋 典司 亦 **诗其人器不可用此故之精器不精則其鄉然器與技相待如** 右 A 技 能 不 學武藝光為 不能 教師 抻 iń 為藝或以無習為煩 敖 古辛士卒 追处且共政身無長技則欲前下 陣躯 與造器俱得 能 亦 村 閍 明 鼓 伙 坡 器使 何 歳 矣反覆觀叶古出而敵十士卒遂处 少予献 調 之枝 큠 赦 能 披 度而 眎 親 胂 斯 憑其口 مكزه 教 教閱封其教 針 之 泉 B. 其 枝 亦要身 者也技精 惜 不真而 師 利逐 可 技 鲑 造 之情 扒 Ž 名 織毫不 Ł 前 精 洏 不 Ĺ 'n 捌 亦 衆 髙 其於 亚子 14 汫 必 쒸 状 ji. ス 履 臨陣 未必 花 دن، 欲 下 造 屈 扣 耿 其 彩 斷 不 牁 法 因 P 声 衆 舉 能 其 於 亦 夫 不 畤 洴 有 行 以稱 也 枝 ィ 莫 精 可得 棢 主 貈 真 不能勢 纨 非 jέ

兵雖 凡将官或動勞而不錄用或東公 兵绿春二 惠奉命取江南自出師以至凱於士衆畏法切自伐者媒稱韓淮陰白起之徒是也如曹妄殺有功不可自伐何則殺戮太遇者不得 任 者宜以武惠為法韓白為成 其無 尚 生 不 敢轻肆而 事尚先利器况用兵式 三府一百八十 怒而 殺人事而為将者要當仁厚謹 有利 之仁洋溢 **幾無缺折之虞若養威重畏勞冗而第** 二是一已雖便送其如衆命兩 'n 精銀技 鈍亦 宋祖涕泣嘆息出未販之當 見城 誣以污或實心任事而 認或向上而不達逐爾恒快怨天丸 為喜 ٤ 未必盡 之身枚舉而試之然 縣而 下自秦漢以来 Ž 臣不知 日兵不 武惠不自有其 可用是又在 y人 m 克敵 孙 及评 而 и'n 暂被 未見 為功 係 為 後 不 か 쌎 隐 何工 付 主 Ŧ 橫落或 見 de_ ঽ + 念 埠 Z 粁 答或 畤 為 群 れ 不 絘 者 抽 ᆂ 桁 好 # 臣 可

子 分 十萬之衆非一人 云取 固 共 将 노 吃士疽般妄以響投醪共味此 衝鋒兵法愛之如嬰兒故可與之赴深豁古 待時若變節易志馳心下走丈夫所 将者宜明威衰之道察王成之幾始終恪 見古人 用之子子孫積累既深屈因既久自然真跡 練寧可共達運挫抑多即不受用諸身亦必 費之患者何可勝数盖玉不琢不成人不 自 然後謂之愛而得其心耳 **补** 性命式夫士卒雖愚蔵易感動死生雖 缜 之功名有時即古英雄于未遇日受困 以為立志無益 且 法平上僅浮乎中取法平中 然觀感固不必 言一縷之 不惟不推恩而且害使之不可枚舉 見平 有言曰天定能勝人人定亦能勝 昔狼籍债案反肥馬 思而 可當必賴 恪守無敦變其所 甘死不辭者惟我真能 受十金之思再生 士卒 誓同生死 何等作為 輕裘 則無足述 T.L 宁 殊 大 誰 您勇 宇 芜 苦 不 女口 夌 有 與 バス 為 拂知意

始終完點故根本在于明理理明而後識定識失志以情激招志何以立功全名衛國保家為 為将者責有将材尤貴有将德 凡諸塔伍中有養氣太勇而又未用者不 兵事須求子實際之間而可無効法之 妄弄禍我悲其遇而吊之 属之自取我則整而戒之某将忠廉智勇而 其德長子兵而短子行者我採其術某将 将者取 行間 於之志有餘議冲之度不足 浮志以 師 無論南北但于用兵地方将两儲諸士軍分置必由此 行 福惠 向自然完名全節成古人之事業而無古 以其積氣太浮畏心漸掩輕視其節令必堕 小委以當之當之無疑於 出戰則置之戰 材史冊凡 存心立行此忠不二者我 陣實境以試 如材勝 切居功恬退真 泛 可用 2 盈滿 杴 試 辩 便 Ż 徳 當 좘 熨 取 乎 败 禍驕 無 壞 師

将官 将之 4. 謂風與夜蘇無於爾而生也 鼎桑垂名竹帛者皆由此志志先定然 積 12 遇轗軻 大難奏大功生有益于世没有光於後 枞 ی U 要軍 能建業自能成 事光 能做浔事業者 威 之出而預為之謀便之習服忠義人心 乆 飲食疾病患難甘苦如嬰兒不能自 亦 計 啞子不能自白於口善将者不待其心 實心做實事不以利害死 析欲正志向欲端何謂心析 而氣齊氣齊而萬人為一力矣 中故兵 則不恐後君後将而 不 亦 明正 ᆂ 不能亨達者 ᄼ 不 用命立功 可 レス 大無 身率之而 <u>.</u> Л 惟 則 何謂 知者 恐其不勇人皆 楊 有之矣未有庸庸碌碌 志向 名保 2 已首倡忠義 鲜矣善将者宜 私 先其所私 從來 問有立志 智 紸 免 生易共 Įξ 一個庶之 堂堂 凡 賢臣 知之 製 禹 以誠 Í 古 淁 Ž 念 诵 何 廴 Ŧŋ 能 策 觀感 Ŀ 之赀 į٠) 53 念 14 两所 行 肋 ゴカ . 5 3

| 聲色 事無大 功 支 至. 死報之 至 頹 邉 Z 家之帑蔵苛剥 求 Ł 敗露鬼神褫之矣 全 意無少怠豈 テ 于将軍 倚我 死 之財 是 ス 能甚人之精神貨利 有分使我能盡心力實事有 父母 功名專事粉節而實事不繼實若不受 殖著有 ٠,١٠ 失 分則享之不為俊若只管多方做虚 本 正是而我 ンス 為重 ħ 即嚴刑 等 ルス 를 ن. 之富 将领 何 分 馼 明誠 輕儿溫聲 美色一 惮 内 何從而 Ì 函 削以肥身家 可逞一已之 袻 分内之守而浔 重法加之 ij̈́ 性 為将 事是 不為乎 該 識 切 ٦ ~故武 来 栯 非 者三軍 能甚人之 佦 禮 非 而 ス 之来 欲誤 侵漁 兵 者再查再省但 臣 不 科 不愛 士 有染着 恃 軍 怨夫以軍 触剝 + Ż. Ż 國家之事 名節 以歸私秦 丧 分石 山水 當 脂膏 銭 為 南山 報 73 強 聖 精 37) 服 榎 能 套管 ₹p 铕 カ 名 Ŧ 芝 ቷ 者 寸 不 'n. 封 公 уĽ. Ħ 至 不 應感 ت

将 舊套 六 媝 批 浔 者三軍司命表率数千萬人 伍 命 傷指望退縮的必生殊不思一動了脚箇箇與卒矣爾将士臨陣只思退縮乃是見陣上 方為勝莫 士卒使上 戈獨 譲 有 于下 蒑 恪守正道立身行 捨着 洁 操 ぇ 若同心力戦我勝過 死 用 加 縣以寬容含 忍嚴之所 午便上下同心數立西将惟以此該該 Ø 練 不 _-看與人 氣莫不愛生畏克但 能妖死人我必待上陣方死 僚案雖親法必當執 是富守上 是操練 出来 淂 ıχ̈́ 要 甪 自 的心 心竭 将實心拿出来愛軍是党 *=*] Ņ, 雖尊事有當争不争 行 過他務使他退宿: 萬 力愛惜 Ŀ 已几百 告 Ż 陣 部 人 ィ 是 聮 曲 死 不執則 謂麥靡所謂罷 錯 點檢可為法 石 光 異 굄 Ŀ 生有数豈 廒 欲使 陣 A 曲 陰 免 ō 14 七 的 天下 被 後 Ż 駅 ተ亡 此 ت. 撓 挴 畫 将 찬 無有 シ成 水火 于 引] 将 程 諄 色为 カ 重 軟 中 道貴 ス 于 視 17 性 的 何 都段 拧 若 利

若真正有	不復為一身計所以肩宏鉅天下事必以身任其重乃克有凡真正豪傑開口便能見肺肝無患	待来日如此精粗巨細完即勉忍飢勞務必終	目听見即為脩籍文務案情時時清編之烽火哨報城池墙垣稍暇有不堪即脩補之行伍時時點檢	膝難矣為将者須把所守疆疾中事件一一預先勤苦教經	动不然則士卒解體萬事 四
若真正有擔當人任勞任怨總整 賴新圖則事不可成第加意日外委 靡成習一旦欲轉弱為	才計所以肩宏鉅而不怯遇 艱難而才任其重乃克有濟孔明社稷自任開口便能見肺肝方可與共事	零便 ナ	為脩繕文移案牘時時檢行如一事人哨報城池墙垣稍暇即一巡行随俯補之行伍時時點檢一有紊亂即極患難時調理之軍器時時瓣驗一	两守疆域時時放在 楊氣火則暮否則守	动不然則士卒解體萬事 廢弛不職之罰斧 鉞

	4 1	不計方做淨事

法 選 蜀 살 之 ۴g 使謀者憲敵怯者守門勇者破堅奪監 不 ᆂ 怯 凉 曰 奪勢 勇怯 智怯 知勇 1 雕 人懦 務 妓 楪 選士 미 九人生 は 今其能與 法 田良匠無遺材良将無遺士要在選 報 用 之 曰貧者 楚人 何之 者 年 市 單者善視結者善聽 總統 大言者 美 怯 厚 性 有式 八則勇者: 井 っ 銄 在謀強弱 一變人 边 地氣 輕齊人詐越 強 VIZZ Ŧ 任使稱 以刑 法 不 + 滑 33 財 者地秦 之人 怯 可 2 祈 产品者 者 Ž 生人氣 蛚 叉 在 用 示 iles 日勇 1 勢謀 者 死勇人使之 7 面 দ্য 不 耳 ŧ 在 可 न 白贈 用 人 人 賜 勁晋人 用 刪 澆簿 **)** 偏 怯 厛 能 仁 受勇怯 花 實之間 惟 ٠,٠ 見 在 勢成 性 者 橋力 者 執 燕趙 绾 于 不 約 以賞 剛] 松力 法 15) 不 花 軔 烽 3金 勇之 ৰ 者 爪 拔 之 吳 各 捷者 怯 N 辫 2 盍 址 不 則 敗 者 用 Āη 빤 者 墊 蛱 衙 可 殊 銳 怯 死 在 用啊 抱 通

選兵 夢兵 计全未 情義 领 ス 又 晔 Н 常 合之衆大 枚 Ż 食筋 Э 黒大 在 之盗 女中 拔 **ぶ** đp 當專募于本地不當沒募于 夫 其心至誠結其志則 情 術誠信易干感字慎氣易干板 组队 Ξ 者又 今经 学而恩威 近 之懦弱者去之則所募皆污人 ٠Z 惟 之威壓之使就我 野 掏 + 粗 募募多不 枸 بز 耳岩本 士愚而後可與之皆 愚鈍之 扗 8 ¥ 麾 松多無 定 下者方可 皮 有 将官 名 卽 肉 精 則逐練必不 結若募兵者 散宣生 地人 数 聖實有 神 鋤 宜 如募精二語 頼 畏官府畏 貌 包 招易 -<u>ķ</u>p 則 人選 剱 ję. 牧 他 不 士皆委 彀 Ł 朴 用 然善惡便於保 錢 ŧ 西散 作 中 至 Ť 誂 秋 法 死 而 之色 法 于 身 **^** 諹 可 Я 41 錐 鄉野城 린 团 ₽p 度 度丛 煉 訓 為定 穚 104 方 糙 而 作 业 不 兵練 也故 以募 <u>بر</u>ر Ð 盖 為 聴 * 先 測 無 者督 + 貫精 * 命 いく 裁 箒 യ 實 要 ďη — 戦 法 逑 بخد 共 結 方 矣 重 異 輌 ż 年 人則缺 而 他 烏 則 ¥ 故 [針] 出 又

選人以精神 ग 者贴送兵之 カ 不 累此豐偉不 自 石 死手足倉皇至有倒執 兵 人藝尚 大不 充則臨 先爱擇便 素有賠氧使其再加力大豐偉 武藝此謂錦 白 و. 走此藝精 者或 膽不克則 何 或耑 已避 本欲先莽 将 以選為殊 可 可恃也是四 × 罪 時足軟眼 虱 取 為主 ₹. 宜 緩急 ィ 可恃也藝精而 於 相 習之 上添花然此華不易浔 1 未 神 恃 įħ, 伶 縣 而當 ぇ Ŧŋ 址 復 之際胎章不能疾起 俐 精 之時預思 者不可廢而 ·Z 花呼之不 伶 レス 此 其 い胳 魚 神力貌燕收 伊 利 天戈盡失故態常先 不 取 之精 用 害 不 可 取 為主 相 於武藝或 可 恐 赔不充则 何 火人 神 法 出 溡 走 胳 人 鸡 露干 胳 亦 又不 伱 推 不充 也 映 貉 準 Ę 包 Ż 伟 z カ 臨事 他 何 奈 بى 左 タト 其次 大 而復 न 不 革 則 虼 友 Ę١٠j 嵩 第 死 腹 业 敹 動 未警 袻 Ż 先 事 為 豊 肞 |教則習也 膽 際 休 怕 勿

不 奇貨索其常例惟以錢之有無為進 稱雄矣召選之初其較有三有總哨 Ż 忠義膽勇心事包蔵 氣而已全無可憑且篩為兵態怒目 素酐 哨選 法當連坐者宫府面 者若臨時不堪上陣 作 713 扣 勇怯 精致在于始逐慎重清越則管陣 j. 意中得于所忽甚 相 14 必先 如 雄 福氣 糾集 レス 其平日 旗選隊隊選 提即教為 贿 用舍力能辦者即為收 九 擇 > 進 數十人各 В 實心 相 則 之 收用者有较 守法 同當兵或 باداد 時催 做 盡 令不遵 前一時選驗 干门 平日生事胡為原選之 真今令自選 生事膽大勇 兵聴 事把 裘j 情有力好漢 飲資財請求分 胸鳥诗 伴同 各 処 2 詐無 任 妙 悍 真任 东 覙 員然 矣 白 用 用 怯渠觀 九一-不 則千繫在 相 影射 Ł 有 识 颠 扺 過 白 認或 怨擇 濮 耥 ŀ, 不 肅 掌 圍 年 旭 夤緣 有 筝 者 ٧X 視 行 貌 w 于 在 冬 證 具 兵 不同

主動 召募之 旗狮 **墩者即當堂于面上鈴印** 址 뷗 方 禁 點逐名提墩試 易于訓練抑且臨敵肯致免命 致 4Ŧ 月影射者徒糜糧,以倡率先逃違令 猾棍 Æ 勢矣市井棍 叐 委官處查審量驗年貌疤慈籍 年 時或在本 處或 往出兵 頭投其總下兵認旗站立投造 Ξ 下諳晓武藝者許各具 杦 力精壮 樊牧此 徒無容俸進何患管陣不肅行伍 里草指定限某日齊赴 録盖其朴魯多馴畏懼法度非惟 短 輕 カ 赔勇過人二 令債事熟甚于此 則 徒善于窥避臨陣 即該缺兵哨下看役取具同 利底幾壮健貧戶不致雅 如高提 餉 建重 何神戦守是必鄉問 ij, 輕放能學 一則鼓 真正 她 私記每十 + 教場 方 (25) 凡主選募者 誤 姓名籍 嵅 頂 狡 不 而 총 提 先 = 詐賣 肯用 アス 醸 2 0% 伙 出 百 Ł, Ξ. 成 狍 Ξ 不 平 ≥` 示 縁 命 尾 鐵聴 遍 纬 心 催 反 大

共銀 私 募兵 牌完畢 圖籍貫隣里住址登時分投 瘤避鏡刀箭痕等項儘其一身上下 撃 竿 指 每手臂用一人于臂腕屬與尺一 并足 将 如量兵時須用門板一 寸 隊 盡處為准其驗疤記除火疤不等 一二十處直教填寫并審真正姓 若量手臂将尺竿平肩 仍将曲尺一條 尺監于雨足之中頭額鼻 疤 住割聽候将官對下選中新兵将襲去官 姓 ij. 袒 立定 名 緽 記者各随本官于選兵之日 保 替数主将擇吉齊集各官兵於衆場 方許察去面上 将 結 頭後脳背臀脚眼俱靠着門上然 員 并總哨 呈送将官查驗如果語晓 下 伶 在頭 俐書健人 旗 Pik 鈐 Ŀ 扇直監令兵脫 不 記 平手 貼 致 胎 等合 夬 科 填于册 横 安過 加肚俱靠着 孛 抱 放 在于教場 用 常 名年 ネ 分 佢 栓 若 例 枸 係 定 閘 į9 Ł 量除 于 ذ 3 填 貌 黑痣 衣 雨 名 状 秋 都 AR. 呈

敢死 有能喻高绝遠出入盛舍而 主将用人在随材 可 往還三百里而不及 9 憲其船法追遛 戦闘處其愛人而無勇也善保守者勿使 譬如東茅華馬数以億萬計而東之以一 有不齊者 樂傷舊不顧身遇敵争先者逐為 使與聽軍情塘報伏路 超利思者不 办士 才之長短而 Ķ 才之長短而用之則無債事矣少断也多勇者勿與謀敵處其軽率也能随 要而所 惟令是聽不然本之不立衆将馬攝 較者即以重法連坐施行此時 禮約束三軍則人 上村春 可使 以佐威信之必行者又在乎禮能 取 街園陷陣 甘 碵 也多疑者 結 而器使之是以善無 死 存 夕者選為 人遵守有臂運指使之 ゼ 搴旗斬 173 無 勿典之次事慮其猶 獀 #1 一数年 跡 将三零日食者 等 者 城信一 _--1 貌 ż 転 一个千 Ήú 如 足 ₹. 有 故 疾 犍 名 ùŧ 勿 絕 威 立 胃 走 日 攻使 機以 信 頂

勇力出衆技藝絕倫且能瑜溝越聖者為一世術士可為耳目使候風雲九有生谷 攻醫人馬疾疫婚睡並百工技藝與夫能 通暁 年登 本一 武藝出家替力過人員重執 方弩能射堅及遠者為一等名曰 曰 天 等名 財津 者為一等名曰藝士可使随軍各效其能 P9 練老成辨事動謹者為一等名 攻夾擊射敵主将以奪敵 深淺者為 選鋒可使衝鋒殿 文地理語晓卜筮且謹言慎行者為一等 各 盤許看倉庫封 可使邀截敵人輜重攻 **險易形勢利害水草有無道** 赓 曰 逰 鄉語 土 等名曰 可使 舌辩解巧 銷輪 入敵遊說間諜 後以備緩急之用法云兵 鄉導 風雲九有住谷不 機捷能移人意者為 可使指 李陰 왨 1 者 曰 阻 長 為 引道 窈 慎 箭 等 迁 + Ï 造 珞 直 可 名 等名 न 計 戎 涉渡 溪 使 曰 使 Ż 具 偏

子針オー	不必拘拘于提墩是又通變之宜也 視之冠與陸戰大不相同其人國要壮健尤要 不量船為急若愛寡婦人稱雄海上遇倭心殲不量船為急若愛寡婦人稱雄海上遇倭心殲不量船為急若愛募婦人稱雄海上遇倭心殲不量船為後路出入排雲浴日之波攻擊鯨吞康無選鋒曰北
	海等 後健 縣 香 火 水 平 又 雅 要 康

业 行 四馬而以十 九营為 動不亂而成有制之兵矣古人先列行見而逐名俱識則部無非其辛辛無非之人某強其弱某在某性一呼而一名 捏機之法用三九之數以九人為 以五人為 布隊成陣莫重于節 編 隊為 伍以至十萬 伍 總該 取其結状你此八兵士臨陣不走 哨把總統之其始也着每隊長各 總百長統之三總為 伍 皆殺馬每百長又各領隊長三 長殺無赦若隊長當前而死 而其義尤為精客至後則又加 此古司馬 也大要在 一隊長臨陣不走若走 隊長若奈百長而不救 龙谔 法也 制者節節 自武侯增益 固 ĺЪ 時 之長之知 一替千 隊隊 制 宜 長統 總統 伍 其 制 いく部 伍

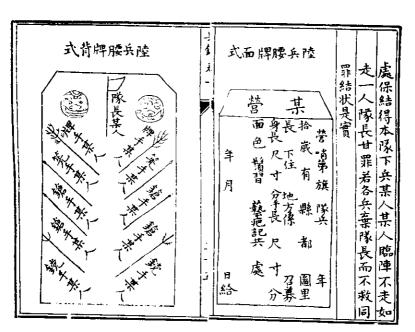
亦各自為錦主将望視何色旗官兵失機各立一色為錦其千總百長於两属本色 إنلا -4, Ä 也 為異為奇殿 敢擊吾智敵 爻 衝出 百長又 色旗 兩翼 其臨陣 刑 而勝負未決復今 與别隊補充哥兵伏兵者亦皆如之或戰能解亦皆死矣如两翼後援繼先鋒而為 亦 可必 3/1 罪明 於此 千地 店 法 何 طد **败沒為尾為伏士** 飲擊吾尾省以知 而實罰 骄色 钛热施 干熄又干此跡 退後不 不 中辨 全隊覆沒 何 萷 總之 两 伏大都各些旌 **隊替先鋒** 觸處為 何隊長各 有色 後之隊長各 JĒ. 則两異後援 百 上西翼為奇後公 除為先鋒何以 中 先鋒 首為 觓 辨 -ت 乜 期 <u>}</u>π 渳 總 旗 自 JE. 定 抽 Ż 行 賣有 服 1747) 2 2 Pp PΥ 百 領 援 文 其 鈽 法

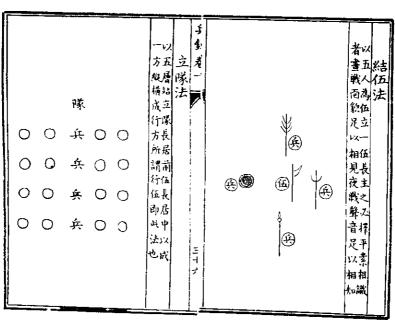
第一 直易 栯 足有 老大一 名其畢将本隊長帯過十二名兵 座前 長内 前 步兵 寫管伍縣分都 習藝空內填 矣至于編派 刑立記餘幾名且在後部下哨長幾名就将# 未硬一 力賴 隊長于選中兵內带愿入隊兵十二名在內定出第一隊長前立餘亦坐在後又聽一時長于兵內自舉抽出隊長幾名又于 内完局若 習便于 哨長于兵内 神三十上下長健好漢四 面横一字立先将隊長用 **哽一名為藤牌次将年力明之遮蔽後兵前進耳次** 人付以長牌長牌無甚充法 窦 幾名就 ф 老成手足已硬之 绡 繁重足以蔽身而壮 各 待 隊二字給 固 次 年貌疤 自 年 H 果抽 後 **幾名內定第** 儘哨官干災 則 額籍貫之 坐 洒 一餘亦坐在後又 年力健大艺工次将年 記尺 不許 與 オ ح 行動 寸 色 腰 湏 船故 大老成 次 牌纸 内 痂 隊 中 丈 泊 将 只欲 先擇 哨哨 ij カ 兵内 更换 旗 奖 绾 便 居 有 用 頒 有 殺氣 法 捷 張 年 面 葪 住 쇰 填 讷 丰 地埴

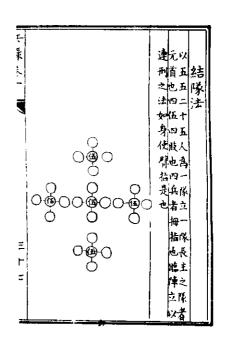
放 過本 完畢 在 授 576 欽 立 牌 次 牌 A 鎬 長挨填 ıÉ 选 填完 削 存. 贵于 桴 纸 山 Z 者 1. ĺő 摵 哨之 坐後立 南 47 後 牌 钡 叉 習藝空内 但 内 類 2 東青令哨 方 恮 将 該管幾隊頭 生 亚 퍔 精活 者 (a) 坐聽 填格 塚里 (充為 右 法 面 全 给 ф, 役 Ŧ 者 他是 着的 取精 长 包 隊 尌 者 不 쌪 第二 通 mf 姓 隊 眼 堻 每 火 為 詼 6 上冊即 長官隊 哨 次方色大 為 定完 名 如前 第二箇哨 兵 次 40 用 短 填于 始 老實有 何 坚 内 الإدا 欲 ģ. 昳 ۶'n 定 各 長帯 脱先 不 张 Цá 尜. 力質鍋最之重 長隊長 行 大 又 旗 隊 笋 許 編 悄 叉 鎗 動立 寺主 诣 内 俟 女口 脐 長 纵。 為 力能 赴 用 毎 未 此 面 隊 吏 畢 怭 又 30 某 法 审官 عد 名 官 绵 唤 鉗 ĘР 烀 ġ. 殏 局 于 多習 法 長之 倶 给 夹 出 调 鬳 執 悄 編 送 荀 刺 ₽p 每 Œ 白勺 涿 先 于 長 于抄空録 干 行 性 甘 故 給 填 完長 |式||張 隊 2 萝 先 挨 為 法 木 于 逻 ヾ 主 次枯 彂 340 及 Ĭ 又 85 肯 填 地腰 挨 腰

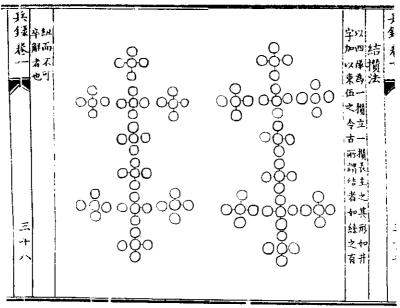
660 實人 ,+ 言多練を カ 如 (五 PP 有 隊 有 ㅂ 其 陣 2 楝 练 苽 萷 把長錦 戚 3カ 也以一 之伍 或 法若無 在 東 便要立 ·J; 出 农時 れ 行 容 雞 對 更 干 保 于一己編鼓定 直 軍 ٠١/١ 生兵 讀 . 伍 换 2 寫寫 鈩 と 中 Ø 預 順 枝 而 軍 伍 軍子 2 在者換者可 烏 者 **短兵二件** 馬陣法長牌 就加 於 在 世 **ф**п 列者人見 伍 二辰 鮮 我矣 俥 綀 羊此時 今日 业 H 長牌世 分 兵 氷 图 1 袻 至通 古 我重 私 兵選 伍 有 即 iş. ゝ 誉 换 羔 火兵 誉 見 人 什 便 中 彀 **5**. 3 ল 三オ 各色陣 靣 完仍 則 分工 隊 一点 一名就 ٧X 今 中 ٧X 兵 重 藤 教 錐 啃 딤 卽 遳 青 水 名 A 烬 伍 成 献 2 夫 聴 裕 如 汪 ₹p 4 完 成 隊 為 £. 法之 法 矣!-連 评 亩公 法 布 古 P. 可 行 發 長 西 皆 隊 **'≥** 坐 或 兵 タシ 伍 放 换 而 且 徙 Pp 到

無虚	将各衙門據用人役明白開	及健步等後因致行伍空虚	編行伍後往往寄名在操而又管	浔此教耳	易之法何也此中行軍法為便老子軍中者方	伍餘皆做此惟十二名一隊仍	田内政之遺也不必拘定数日	一普	一十分生まって	可三十為替也三十一些以至四十五千皆可	可五百人為司也一把總下三	旗皆可百人為哨也一切	五隊皆可五人為隊也一哨官下三旗以	也一隊十二人即十人五	凡隊長三隊以至五隊皆可	總把總居之	中島銃火器哨官居之每前後左右	隊為一項虚其中哨長日
照編定	白開註	ス	一天营	• 	法為便	隊仍	人数日	Вħ		雪以至	下三		哨官	為什也每一	叶 塚二		西前後	哨長居之四哨
隊伍造	不必編	便	構	-	老干軍	分左右	· <u>, Æ</u>	什保	: !-	四十五	司以至	哨以至	下三旗	每一旌	伍		(27)	
冊二本	必編入行伍	今後務	應	<u> </u>	中者方	左右伍不可	後謂之	司旅井	خ.	十皆可	司以至五司皆	至五哨皆	以至五	旗下三隊	五人為伍		哨為一	官居其









子 9-338

練騎 껳 射 見 桌 員今千總送 راخ た 者二 堪否 又 分 百總幾員驗中又今各 在 様 者 伍 乒 也第五 百總下 清冊 軍 設 張 預 A 狒 執 将 縳 水兵九名 2 <u>.</u> カ大 日扶 牌 事 Ĕ. 部 者即 A 刋 狮 犻 鬾 填年額籍 姷 ᠇ Z 骨 等 粮 刷 Ŧ 千白 部 牌 酡 力壮健能射者一名為一伍九名一字向上立定主者的一旗總令筵隊總三名先以 齊備 Ł 在 狮随 例 伍 下 下 用 即在主将 第 次唤進 又一面 而 右第六名在 結實精健者為二 扎 Ż 填 各官 牌 為 粗 ₹. 總幾員驗 買者 73: 或 名在左 開 猛者為三伍 Đ, 昏上其填誉 伍 基 明将 百總選旗 如 于後 獂 為二 姓 一千先定 腰 2 牌 名 캼 Æ 第二 次 中 牌 傓 填 者 牅 Įν 倶 叉 E 隊 餘 单 為 牌 束 早将 長 伍 Z 總三 文 4. 令 秭 每 填 W) 伍 伍 丰 ₹p 夹 伍 歩いる 鸲 8 11. 在 俳 É 次 之 长 名 投 Pp l 右 各 カ 于 第 扡 牌 牌 包 教 能 |辦||豫 俱 绘包 種 空 炒 用

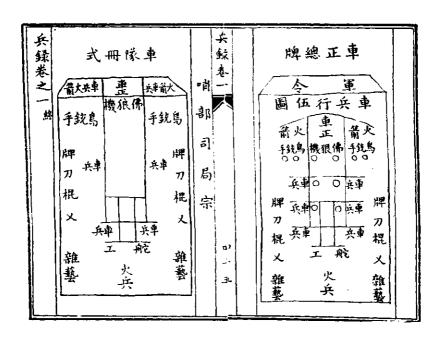
ŢĻ 造 釬 面 個 |如與彌 與第 前 領 總 付 此腰 脚 厚 縣 隊 캈 ᡠ 先填除總為第一名 馬匹九 五本 16) 俱完 珬 様 傳與第二點牌填籍貫年熱畢 Ξ 赦 굼 本如有此 骅 レス 并 野肯ろ 則 辨 即 名)津 面 但 其左 體 戦 甪 命 即張姓與連名 行 填疤 一等馬其下等馬法去下 gp 在 在後 再 m 本 伍 料 右 右二 一旗總領于立住人挨次挨填 哨将 蜻 三旗 杷 河日 記武藝畢又連人傳 下者 箒 旗 徤 總 出示于第二 旗總挨 少 九名 部 内 今 B 2[8 領 做 津 4 火 徘 下 于空 俳 핤 名為 左 岸 好漢項 硖 完 如 法 左 旗内 完 如是又 女如式又 空地 잵 式 即 火兵 倶文 隊 Ħ 方色 褯 命 Eу 婔 多歸 八點差 启 将隊 不 默 五 (4):] 4-連 填 給 大 岩 中 用 Z gg. 申 百 バ 與第 私 大 椽 左 中 使 随 ,搜 明 218 葅 伍 又 伍 椽 手 황ડ ス 即牌 85 名 TY) 權隊

總條三 器火器火 器火伍左 器火器火 器火压古	手殺伍右	總隊二 第火器火伍左 第火伍左 中 第火伍左 中 音 后	又長第 即係 了前手 仍執	湛 法 處拾旗	
器火器火	手嵌手段	器火器火 <i>后</i>	10级10		各官公
兵火	兵火	兵 火 岩		山 治處住	挨日 次 子 星 数

編車 PF 為鉅 選 神氣骨肉 如 粗 面車兵擺列 給牌挨送查填一車完即給方色如式 中 枝 為車兵專管推車又有上下會經受苦挑搖明 侧立 兵點車 北手又以! 坌 隊内有殺氣少年二人 則再送有賠好漢 馬兵為殺 行伍坐定 有 聴車 与稱二 力者二 莎 jĒ. 堪投使者一人為火兵逐名選人者二人為大棒手身長肱長二 照前填牌又選 弱 *ن*لا. 手 圖一張令車正領在空 す 牌 桁 須 触細 把總者俱完放出各車正 貝 冷 為長刀手又如此 **不** u3 俐 例 **[1]** 騎 有力而稍 ф 失力 名為隊長聽隊長 者二 兵例送 送 事 枥 K 為 我手 出得 有赔 圆 力者 + 如仍備 填入擇 牌手力健 為火箭 伶俐者 Ŀ? 有張主 坌力之 二名前来 υZĮ 屷 Во 乒 Ą 殺 慎 徒 崮 有

官兵 圔 打 物 班之 舟 往 造完車垂派 每 為 釘 不致 外 行 用 用 仍責巡 木 睛 哨餘 局 工專 月損機 總 熥 ĪĖ. 争 壞收 舅 名 窄 ሑ 員是 名 **銃** 骨 釥 3 3111 (SI) 擊 曾繳 做是 ĴΈ. 舵 車 יונו 通 内 用 為 乒 工 -+ŀ 毎 70 報 取 ナ 把 袻 備 名兵十 各 媊 正部 熜 查 車 車 毎 争 十 次 車 面将車上各 於 官 Æ عد びく 員是 輪 專曾其殺手 亦浔兼官其 港曾東 項 日 ... Н 把 凹 事平如明 宗用 把總 百總車正 19 加部 名糧 兵計 可 用 為 u I 調 将官 騾 1 百總 員車 項 浒 泔 便 司 Ξ. + 各官 争 軍 六 矣 蝢 佛 팃 付换 員 軜 班班細 四 狠

牌腰正車	兵 録 而利而之 赴馬方人
門 軍 同 專 鬚 在 " " " " " " " " " " " " " " " " " " "	選 班 舉 詩
平	十
年 格 歲 住 面 上有 處置 上有 庭置 人名 庭置 人名 庭置	者軍法重治 四十四 四十四 四十四 四十四 四十四 四十四 四十四 四十四 四十四 四十
	字母 牌一道 到總城



兵 士要矣教 調棄之 鉩 섮 妼 素可用之 體有圖擊之 教老 土而智之 練總說 下之事 ے'د 交兵之 孟子曰不教 用必 高陣 於臨事 舦 則 1 勞心 能 項目 後教 有 以戒之不能 辦亦 行 燈 也其色旗歌也惟能教徒 也問則 頭行 车 有 有 大成 孔子日 而 死 干 禮彼 亡之 事亦 然非教之 用之 戈松 練于平素乃能 VZ 戦不 事事 飹 懼 胘 耳 Z 尚耳 無動 於早乃至 教 妜 非 日 有 E 就 教 而 戦之 鼓 旗 Ż ŧ 塊猶確

金鳴不止要前去 營信 前 冬 功不可 出赴 面 或在 池 吹 軍 有 JE 信地 则唢呐 取 水 1 鸣 有 的許 要依良是有比總者 Pp 箇 火把依 務必 謂 或 耳 正聽 Ż 次喇 歸笛是要聚各官 候主将 退就鼓中是 行 炸 到 正操 回是不 以是 箇 前住 如 的 到 此而 刺 Ľ, |處乃各 飯食用 有 則 拾 叭 出 大 吏 4 旗 各 詢 共 人進 猏 兵間吹 ٤ 脜 可作山裡就 也

練鑞 丽旗 矢 點相開 写曬 化吹字囉 是要各兵 地假俱優 轉過 過户 凡各舉動與交鋒但聞鳴金一聲即脱舊收回各哨再鳴收成每管一處 |歩 | 0 凡各舉動與交鋒但 此 Ó 凡 摔銨響是要 黩 ï 喊 凡播數是要各兵行管 聲是要各兵退回連鳴二聲是 下管定播 吹艾各一喇五隊聚 步 丁筛是收回 か鼓是で 九 尺即 剌 便 叭 字挨關隊 氼 要各兵起身執器械 空概 各兵 縠 立 八枚隊 列甲擺隊成 成 珠 定 任 甲擺 中軍 是要各兵 位 跑 息 陣駛 PP 旗 毐 是放火兵也向前對敵 Ľ. 備 擺 凡 若 中 赦 戦開 軍偃 10, 叭 便 バ 詽 交約 待 俎

是 **数即練何** 面 旗 聞練 南 放 而髙 枚 栬 豣 *便 旗 又 农招地楼即 些 * 收凡 Ø. P/ 箇就是要 為火火之色属紅神為朱雀 方自火雞向難鼓天 青 格各 行 興 聽 兵 在 南 有 用旗幟 地 新 何 今若旗左縣即左公認定各總哨顏色 與畫一般〇二神来叶移動 郞 即各聴 筛令再 逑 叶難識 恐惟左右前後 班如以東南西北為名 無即 面所向謂之前則 則 項 安變豨令即便立定專聽者門錦頭等項令行或正行之一歸令必放炮一箇使人生項每欲止必鳴金一聲車中一切鼓樂有音號如公 用 身向 令立定 拧 前 凡旗 也. 即方為北行為 如旗 不 旗 懒許 打石 但 有音號 ii. 雀用後名卦無屬則 用 依不從起 抬 本 黗 總 而 愚民 即右 聴行者之 方 肿 檜 徃 旗 則 動 下 本 笛追 '先 方 夜即 行赵 有間共

若舉紅 Ż 兊 左 青旗 舉白旗則是右營兵 涆 色 光光聚點 方為 青龍 凡 則 營之次 巷 貝 侚 凮 脚 用 突性 是後管兵欲變動 則是左營兵欲變動聽錦令施行若 封為 青 旗 属黄方為 下西 里 教女 冇 行為 价立 則是前營兵欲變動聽錦令施 **造旗則是中軍欲變動聽** E 旗 神 前看但見舉青旗俱要向左 但 要向右看 五 手右 表 方五 見舉黑旗俱要往後看但 為 ズ 調金 £ 衣 す 攴 手前 右手所指 Ą 武 中 不 神為 中 之 東 卦 施行 欲 倶 ıĽ 行為 央 内 Ť 見舉黄旗四 變. 舉點各營四 均陳 背後中 則 坎 木 用 謂 汜 白 今施行 聰 黄旗 左 卦 木 神 Z 姊令施 不 右 手 央叫 為 A, 坐 向 ë 則 白 邒 方 面 173 ŔΡ 見奉 用 看 極 栺 各 不 行 拧 偰 謂 白 更 必 為 仕 随服 但

子教 治之 丰 率不 車 旗 行步 坐 聰 即放 望竿繩統等項收拾停當候主将 不 總應之 Ξ. 〇九常操及紫兵于主将未到場之時 用 許 宫 警擂 中 則 旗 旗鼓蹄令亦與旗鼓令同差錯 嬪 軍 Ė 應 日 駠 则旗向後 皷再立望竿贼 汝知 隊 總應之旗 旗向右磨贼 鼓性旗 哨将 \circ 旗 搰 店 令凡掌哼囉兵立 總不 向 畢禀放砲 前點官 旗總 、假向 把 旗 總應之百總不許 許 左 旗正着 磨賊 Þ 軍正 Þ 縺 先應旗總以 舉時先哨将應 行 從 軍俱 從前來則 不許先應 挺 擂 左来則族 倶 両 向 總應之把總 赦 甲 背乎 视此 将 浚 何 刺 孰 面来光磨 望竿堰 點 旗 白 前 旗 旗 行 旗 矬 下 倶 之 日總 ツ軍 O 向 间 向 向 凡 栗燈 侓 雄 不 20 後左 717 左 狌 打 面 千 把許 激 如行 鎐 馮

人賞必罰常々 無犯信 表 畏 賞 有 旗 例 戦夫 是賊飛 戦 法 頭竿 面 Z 即 ၍ 找 Ξ 孰以 前 則依轉 如敵 知 敵 忠義 磨 浚 12 旌 تت 撃吾 某 首尾 敵 立 Z 戈 邷 2 如餒 Ž 賊 不足 摞 用 于技藝而 使士卒皆 在 畏 溸 臨 又 泸 器械其分两 近則 包 P 左 敵陣 侚 歒 兄有不 畏而 胄 右 不時則 凡 退 百旗 敢则餒 立步頭 义 行 面 バス 禦有敵親 我則故之兵敵 崩兵 車 在来向 不 無 磨 為 戦 退知 揺 某 則 ᆂ 亦 贼 自然上 足 撃吾 有 走吾 當重於交鋒 吾 恃 旗方 旗磨 從 2 恃 附 之威 用 1 則 亦低之 '是 凹 長 我 自 如 噟 忤 铵 垂賊面 右 有 10 بخ 手足 斯而 縣及 左 我 贼戮而来来 10 壮敢必 隊不 至来下近将 a)Ł 矣於校 伍可日 塵事麼則於

1 白然輕便不身夫操兵不身大操兵 遇 用 地 胏 扒 相 有 2 古 地 耳 正士 亦 Ħ 兵 則 之 然之准 以也 如平 平司時兵 重 險 陣 朝 况血 古 牵 奉制矣大抵人专 阻 運百 運 氣 法 懶 湏 重器必至于好 峿 方有正方 重 足 則 運速 學 麦超 躄 嶇 百 手 甲荷 用 操圓 骸 其 干但 驯 公跑 **状**演 齊外 不 堅怠 曲 倶 沙 rz 萬 可直 急而 宜太 重 情而 氣 漸 以銳 幕 顛摞 物 漸跑 悋 申 用 如意至 有事 為一種子 齊內以過於苦若以 過 勉強矣 甲 加 難輕 則 里 許 胧 而 امخ お 故習 臨 時 勞 *]]*[2 軽 쇰 而 南遇而 其 مختر 衣 歒 ス. 嫉 水酸果 カヨ 則戦 由 喘 痂 去 手 甶 無侃 田交 臨か 且 沙餐 軽旋

老 徑 Ż 至 层 而我 ታ 31 丽 病也 兵 夫 细翔 陣欲 法 囨 而 É 遇 千 作 馬整齊 赔 田 街 헟 耍 逐隊 腃 衢 外 認 堆 以你客行 致前 地印 即 中 Á 7.12 *i*‡ 之速 習分 合 洧 瑈 百 整 抽 贫 伍 J, 践 迷 于 E) 戡 不、 囬 蓰 即 客 加 遇 行合 戦 秋 而 知 去 迭 视 陣 P 敵 禾 大 蕳 置 枚 相 則 **ス**、 E No 也 **(£)** 捕 遇 遇 胨 而 吞 鄊 敵 14 Ξ 不 不 法 能知 即遇 敎 耕為路 1). 俥 左 皆 區 往 為

有 調答應官府 或 知習藝為自 器 墊 盽 评 鈀 藝如 玈 難鐵雙備 習者用 遠 # 行之態常常各 北 有 腐 無客擅離 稂 隊不 渴益 寒暑晝夜雨 鍋 13 衆 2 之虚 利 郷長 目 件 C 2 ø ĥ 勞容皆能耐 防身之人教誨務 無勁 雜 奏 矢 不 茶或 石 論操演 無時而 宜 袻 烜 相 件利 敵矣 乒 **B**風雅 了 Ť 檱 酒 才 切期 同 桵 可 雨 小筒 傘 經 要 精 教戦 12 散 而熟師則 湏 10. 家 行 管每哨 周 每隊 令士 由欲是罷 使 行正 拗市 短 飮. 習 也 Ξ 宿 悄 共 即 湎 特 ıЫ 食 置 摺 た 能 生 Ħ 쐠 12 TO いく 日排 土 兵翻個 2

軍之 藝精熟教師教演庶幾以 賞必罰問 兵士凡是管之兵犯必輕處恩必遍及有歸于得士心如一把總平日優禮頭目而 神實用 卒而操切頭目凡是管之 以法者必多責成頭目如一把總平日寬 加及有當連坐以法者必量貸之其有優于 事而 命自 固要練 絲則鍊生至熟非如點 徒 在 兵無敗 裁 悉 其行兵而 将亦要練令人 有成功盖練之義從金則 Ħ 不 同 其次練藝其次練陣法自如金見火一毫假不滑 死 若 而 石组裁鍊 也 力身使臂臂使 同 又 歸于適 数 戦 止要 其止 걔 而 不 兵犯必重處威必 教十以十教下外便應故事項罪 徒 用 用 息此 ż 教 A) 作 則 其 栺 見 用 皆能 畫 錬 有不 成 丣 目而嚴容 禾 鐵 故 込 且 同 成非 制 **-α**Έ 桁 教 當治 爱丘 逻 洏 百 鋼 信 無 其

定軍禮節制之道居十分之 嚴 復為虚文故 度 居十分之 師 技 師 根定耳第 而 Y. 教行習服 管陣涛法居十分之一 明聯令居十分之一 改其 巻ニ 在身如蔵 為勇不 Ŧn (首練士一節也 性禀何 無 有 绾 則分外生事在吾善 分智勇盡 所短破其所超此知方之教也 于 衝 P 一着在将實心任事至誠 速矣但教師之 賞罰而當居十分之 如人 不假之的権則教習不行 至 獨特其勇務使 **鹏勇而短** 寶便不肯益其法 者委司策應 以不移之 人異應如 可枚 仍有三 是非如兴卒心不 利軍火等 功至隊長亦 将勇兵精居 ·調度者 類皆血氣 **煤寫駅** 十人 勇者勸 325 則在 是皆 佐 以論 **漫司前** 器居 Z 連坐 月 用 11 槿 強 拈 + 千 若 脹 ... Ħ 抦 囡 材 且或 同 浔 而 假 平 石 > 必 カロ

岩恤 之状惘然何 各兵顶主将親 者練其心練 Ĩ 此言之豈 平日兵法 不嚴 時行則恩成 ì 養事必 合登場 一つ不可い 惠 練則兵為徒設練兵不可用 薙 日之事矣未聞 切套子以實心行實事督率衆兵 焉可 以感 虚走一 先利 梸 有不發不 讴 知兵自兵也 (自積取股不可無思力] , 也是與親為練訓則情義自子賞 八心而得其 其耳 云令民與上同意其族幾矣 若叫雖操亦何益 望其共患難 名 擊剌之方滋飲 者也奈何 器武 陣虚喊 日練其手足之謂也 練而能戦 狄 有三令五 使 腸 力者亦未有 自 敵 Ξ 同 之将领每 死 必 虚放光 者 則 ψ 3 找 脹 自 恩威 函 為

共 甩 炔 拉 吃着官銀两又有賞賜又有刑罰比 决殺了你若不學武藝是不 ż. 澒 金鼓練耳旌 宜 稨 教兵口諭 **慢熟務須浔心應手如此乃** 致練耳旌旗練目坐佐擊剌 之要教之 臨陣原無紀律舞令不曾分別當先 武藝器械不整頓精利不肯着重甲請看教師學武藝的便宜多少想你 卷二 殺了賊賊如何又會殺你你武藝不如 功殺賊救命本身上貼骨的勾當你武 藝不是蒼 iP. 冇 軍法方繞安心臨陣要走料定不 故今掛連坐法已定歸今已明進前 如 人 何 7 縣身之法不想學武藝不是與 |**|**||| 應官府的公事是你 布 用 心使知親心人 某 ţ. 山乃為真 光 刺練手 要性 F バス 来當兵 命的 H) 足, 那解了 知節 本 几退後者 獣 Ħ H 徃 废 鐐 因 子 顜 至 H 奺 77 亦

凡 有 也 _|, 17 徐. 我 的 的 都 百 上 世 姓 的 攵 里長 既 要着 繁的第 他 母官 師 有 不 當兵 Ę 哨 思量 有旗 父母 賣重處夜 浔的去處 訰 你 但 £ 字念文的 再思量世 缜 交 如 能 甲長 酿件 瓲 那 教 母 在 的 教 是 箇 有 兵 生 重 首 休 沈是 做師 是 無 間丸 的中 依 的 長戸有 百 不 P 物 無 有 間 APE 老 你姓的的 是 身上 的會死思之 有 13 切 4 隊哨長 哨 户少得 有 狒 户長 禁干 Ē 令武 說 把 萬 里 話 部 師在 軍 有 千但

凡 底你决說 軍 割與去平 看是 表 感罰也 迚 軍 ょし 一房稱岳爺? 不改還你們但遇歸令金皷旗潘是在一个出口就是軍令就說的差了寧任 不 頂 将無還令此在 怕不可還指 惟 法頭日 學好的 有 無 情慎之慎 畏将 豨 操 成 令一 岩耳平時日 功又保全了性人行法守歸令之驗 命軍曰城山容易城他 ٤Ľ. 向 ī. 笙 菭 依 口之常談 不 都 不同細一重蒙時 之业 _ 老 便處 活 被 諄同 改 用 侠 泥 綑 性命多少 法 好言 圖 γX 又告有改 帳 真正 打 不 以你們豈不! 如 軍 不 慣 尚聽 禾 好 法 是 3 師 同 綑 則 .1. 訓 将也 娐 打 6% 窗 箇 吓 知 亥 差 큠 若 重 僱 不便度師

凡 儿 凡 従 贼掳 焼 本為立 投二 即充兵收 男子污 天 命 房屋 理 旗 只由 功 不 客王法不 被擄的媍 名 将官 操 夹 報 金 郅 因 1. 頂剌 食即 不會變化 中用将官臨期又不 就 旗 前 般 百 勃而集兵是 天 人之勇也只了 賊 如何 姓 西 皶 砍 你种 守軍 們 宥者有犯决以 之間生死兩係 人甚至妄殺平 割伐 将原催之人 取 却不專心慎 不 古命的死死 法不擾害在 不是要你 樹 間 個軍士 殺 得自 則 贼 進 的 分支 戌 們 要 គ 法假段田 亚

东 賞罰軍中要柄若該賞處就是平 自起處 非 冤家有功也是賞有思難也是扶持看顧若 士務專心聽看旗 囬 定約令凡兵行不拘從 皷 团 知道 促队 千人單行二三十里有事如何 傳話多言者割耳 悮 許又傳四云繞傳的 3 打 生 重 再傳 長高聲接傳挨傳到 不過二三句或 皷 眼 殿乃三軍耳 白隊長 傳接傳又差 皷 **西原說之** 軍法 用命者賞不用 オ 軍 視 前 示殺 何處越若有話 古人 之中 自大 差錯者挨出 徃 四復若傳到半 四復若傳到半 一前傳或 詼

Æ Æ 有你饒 你們當兵之 當思量今日食的容易又不 姓你肯思量在家種田時辦納的苦方百姓辦納来的你在家那箇不是 得你一日三分這銀分毫都是 軍令就是 事要分付只是傳與 你表他不二卷 年不過 士若是分付去 三軍之衆我 一傳說 得 你 何用就是軍 我 與哨隊長哨隊長頂要一一 望你一二 E] . 的 雖 親子侄 剖 不知 句 陣段 時記不全了選許来 法漏 把總哨官把總哨 託 下 也 話 要依 数兵采用 雨 腸用 不明或忘了不 山 袖 天也 何 官府 法 不耕 12 施 肯種 楚 報 火 羌 假 耕 桪 行 間 挨 種派 决 也 於賊性 的位 不 保養即百地不 Ŧ

Æ 头 凡 心将官尚不可知故令軍士吶喊一聲夫內。南軍士至干下面軍士聽見不聽見留心不一寄一信與軍士之意此皆将官自上面傳手一起以濟孫聲不及夫砲謂之信砲譬如将官 合衆人 銀水一 意又如據旗方吶喊者為彌頭與銃皆是 筛令者 耳 心将官尚不可知故令軍士呐 數多一二聲錦軍中尚有 者為旗 聴之 日明操 薝 先吹他為號故謂之歸頭 来操演首先 下之意相通 即 人膽大也學則 耳目為 物 如各應将官一聲說 **城一聲乃取其齊也無非要耳日旗一低下軍士又各眼見一次確物目尚無所見故各哨隊長纏掉** 日受用學一件有一件 官分 件件都是對大敵實用之 掌狒 分付的話 人耳目 付 錦即 土軍 也 聽不真者却又 뙈 不使 我我人知道 小以謂之 既舉辦矣恐 土德 臨期有遠 命於 狒 旗 旗方 頭盖 E 放 阶 楲 紶 -17 子 9 - 352

殺 神鏡 鏡有 有車刀有偃月刀有太平刀有定戎刀有朝 便 石 及業金鏢合之九十七家而就 有錐錦有梭錦有越錦有楊家錦有馬家錦 刀有開天刀有劃陣刀有開 教技藝 兵家之技藝 賊 雙刀有約刀有手刀有鋸刀有掉刀有偏刀 有品門而專之者各獲妙款然皆手相 家錦有拐突錦有拐刃 惟其大畧則有可紀者嘗試数之使刀之家 F 示也意相喻而神相領也亦熟得 路者楊家鏡也有七十二勢者五題神 刀也有除手陽手者釣刀也数使錦之 十五家而就十五家中有三十六刀法 保 有大寧華錦與夫沙家十八下倒手 搗馬 海自己性命立得功不學的 突錦有地舌錦有張飛神館有五 個 縁故豈肯不學 可 悉数 已自昔以 鎬有義眉錦有拒 陣刀與夫 ナセ 家中有 来習之 便 而相傳 ۲ 液 首 贼 经

按者馬家箭也一 楊家箭也分中擔旗穿心推紅而又有馬上九十四家而就十四家中有上搭中搭下搭 箔 葛努也数使劍之 環努有雙方床等有三方床等有打牲等合之 也 也前堂謂之单手表义中堂謂之陰手夜义 家則以三 主也 則皆楊家錦之流派也數使亏勢之家有邊六合穿心六合推紅六合埋伏六合邊欄六 數使 家箭有独前有袖 有火箭有两廣藥箭有神 如大閃干小 <u>}.</u> 小业 也吕公拐子也单手爆鐵鎮狼筅也錢也金剛園也蒺藜 卡莊也王聚也馬超 + 海夜人是皆有前中後三堂之 去之家则 十有一計左少林右少林大 Ĺ 家則惟 金剛 發四失機動而然自張者 **议十計** 弹有手弩有諸葛弩有 封臂小封 有 蒺藜算頭 六而已馬 機箭有楊家箭有 *,* , 盤 子也 也夾 層大 者 明 也 丐 KKK ! 使鳗 也 £ 家 者海視掌 刚

右手條子 云次 川二 曰 影經身 家則不過 有 卷千 + 跟進 子賀屠鉤 計曰 名直 南 四勢從 平 有名雄 以 日方天戟日第日 日 使 址 五計有名 干西 តីរា **家則以十有一** 日 山等 一鞭日雙舞劍日雙刀 鎌日 12 使馬上器械之家 出 力1 家 岡者 錐 九太祖從, 日 硬 小人 開刀曰 有名番 流星曰 ᅩ 敝 1)-埋 顕 火 化人 進 斬 趙家 刚 王 鍧 イス 席 馬 日 こく 有 退 倒 故 12

夫 属是也 将者宜 是 教之或專習一藝或無習群藝藝趣 四 無不 教長 也 一者各有 飛 斯二 m 百人之 m 短勝者兵矣推 又有 巴而 擇兵士力量 六路 温 痈 业 跌法 者 拳俱 孝 次 家之 惟 虾 有 師超於千人者推為 次童 為 ph t 剂 萬人之師如 稻 掛 在謂 回 佚 短誤 十二解 烙 而 破 法三 盡矣而 專之 Ł 拜次 啉 共 有 近志意 者 兵 哪 法 觏 1-也 者各 用 何 者 洪 有 亦 晋王 又有 Z 則 六 何 쌪 七神 四 錢鲃牌 則 則 不好而 有 此拿 用之而善則 路 亏銷 ナ人 松 + بد 次 艃 其 法 凸 子 刀之 4 不之百精師人 不 عز 火 跌右 短 殺 五猴 也断六 ीर 掛 而起者 Ż 謂解破也十拳拳 師

がる 不能機 石 發之 短 與空手無異矣 則用步法勢急則用手法 趏 交我錦内馬亏弩火器力 大知長人收退不 用 皆研謂長兵短 金突入彼 石 刘長兵得收長之之短者随用望 用 遇亦 据身直 且 法則 便與 閃 和 空手無 用 可 而维 用 沙

失陣 又 而合之絕而鮮之 教以以戦 不者而為之 而方之坐而起之行而 越 迅压 外 能器仗 而示之禮衣 伸 刀者先以執 無犯 教心 倫序又使出 乃以干 也世 戦 之等教旗若錦 提 学敏急次 進 一点通 Z 食寝 肺令既審拍 持 止之左而右 币 坐 順 盽 使旗訓 使形用萬百馬之 追憾士

凡 戦闘之 裁 裁 Z 勇者擊鼓刀楯為前行持稍者次之 兵必擇平原曠野孤山高龍 教旗 軍 者在後長者持亏矢短者持戈矛力者持 凌 大将居其上南向左右置皷一 過将 之事 不教民 陣 而 備習慣跪起及行列除 舉則起習知金鼓動 j る 為 下凡相提擊皆不污以五事備則滿数省則半之四 知刑 者在 2 罰之 是調棄之 前長者在後其選則長者 而為 弱箭之遅速遠 等教努者先使緊縛 教 子者先 四步而止不 智見旌 之等此教器械之 放教 使 止之節擊鼓 之利持五 旗指揮之節 外及 損益 為要也 ৰ্ う 近射 γŻ 一方箭為 凡步 十二面角 登 弛援 的 高 繒 步 Z 則 视 电颤 在 儀 殔

天 短參長四 甲 音動 右 乍那 圓 列] 三不 左右廂 於是三 超 而 月使 妣 **不** 軍轉陣以 布 朱旗 可敗 重 **♦** 立之陳客使無差 朱旗掉角音動左右廂 **쌪三合三朝三聚** 各雲蒸鳥散彌 點角聲動則左右廂 而 紤 以 役初位信旗下立俟公之位左廂陽向而於 L 正合 易見 後 申之白旗點鼓聲 闘 面 以 亂 前 而 贬 以前 而 馳 勝聴音望 逐 ふ 間 \widetilde{m} £ 百角 為後 以長 容格 名 + 渾 進祭短 ル 如則復 而旗 右 離 動 間 角 弃以容哨新心陣旗

将臨場稟舉升帳砲至禀掌錦下管記 廂 者獨勝則 請台吉掌一筛時先鳴金邊紫塘報探賊其人 臺上旗立是何色 為准在教場用十塘中軍票請台占下管學 去五六十步或百步或半里臨時自完定以相 不拘多寡或二人為一塘或三四五人 管自臺前從東向西直行左列各管挨接 教步兵 女鼓音動 一三十塘以至百塘遠近随 口置於左右廂 前司次左司次 五十年旗左廂奪右 賞員則罰因是使習知立陣 而 奪角音動而止汗旗者 南 旗所向南方路俠田多只用鶯巴便是何管聽候向何方點亦一通各信地官兵立各管看将 中南部每旗中令既畢大 下右列 中軍 次右司次後司 廂 時酌挺每塘 旗左 之勝失 廂 施左

步单列金鳴喇叭止打 擬吹 前抵前層之後後坐後層之前再吹車擺開 層每層相去二 凡 紫 欽 時必 天 繁 聲 盡 務 服 此 定概隊 舉辦他一聲吹哼囉一通起立或将銃 為止兵多場小或二 照舊意隊相去各 混則聽其魚貫随教 礻 枥 一司分二層或一司 伍喇叭一字權列任有官若干司 開前管頭到干教場前當中舉號 去除人身留空三丈中軍旗數等居 官兵俱坐息俟一刻塘報學旗 聲吹哼囁各立吹轉身 貫而上第 南 十步每旗三隊且平列為 一層分五次學臨機决示 右 一層天驚聲只 丈島就手俱出兵 **雖**坐息賊在 列 層或两日 百步之内 前五 ıίλ

着 手向 倶 前 到 贼追 乌鈍 前婚 鼓吹天秀聲內 擂鼓吹天鹭聲吶喊作 天養聲吹 田原隊後層間隊而出待出立隊之前 可蜴 首隊長連坐 官連坐至把而 准 枝亏手鼓九矢舉聯砲一聲點鼓靶亏 煙圈 隊伍 擀密客塵戦賊敗金鳴鼓止棒 数天養養內城作戦各兵将舊舊隊 来各兵即轉身作席聲一次立定 射預造起火代用且省費也每配手處平列放火箭射手射矢火箭 身首向後 贼 約二三十步又鳴金二聲各兵 同兩作 下擊起 又鳴一次各分原隊鳴金三聲 城整隊飛 煙 退四約二三十步鳴 业 塵 图 **贼又作起来之状** 土者是俱 何 趟 ŀ 戦止又點鼓 起火 ₽P 向 連 次又點 枝前 三 十 者 又 行又 皷 檑 有 若

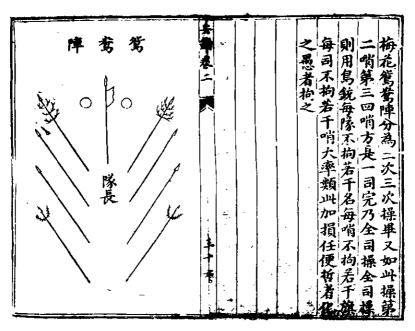
方管查功罪舉論他一聲鳴金邊鉄立表旗點 花疊退號令如前三退各到信地舉錦 照前今田至傷銳之前鳴金二聲店華立定 未出兵出戦與先出第二層兵篩令同收 照先操令鳴金止又舉稀砲一聲點皷原 今三 層內鈀 鑼坐地休息中軍票稱賊已敗道請台旨 敗金鳴止摔飯鳴各兵照前清 追来之状两層俱照前歸令一 天舊聲不絕吶喊不斷只是 **琴喇** 安拒馬 手射手先出與鈍手再放火箭 銃手急出退四 喇叭各兵照旗色地方搶成 齊放 前鳴金二 下族黎不拘幾營合預 鋒三次賊 次舉起火 販 下止立又作 又照前退 /前舉號 権追 枝 法锋贼 退 射 杺 囬 失 .白

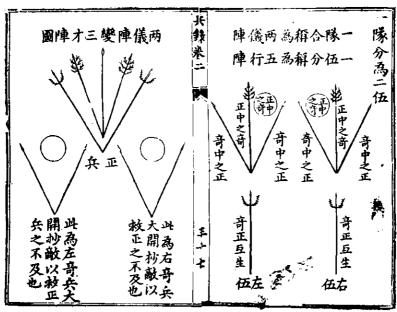
安然 黄旗擂 舊文就将戦陣行過 以前戦陣合格 H 事情以後應 Œ 軍存笛止不必又用臺上大穀放機 營門收樵级兵仍差回 伏路中軍差官数 通合管兵俱起立執器如 地 今者通干 息又舉 一聲立黃 日 镰 出 囬 13

11% 管砲 紫旗 司在前之右路後司 列戦 列陳 以應之如此 司在前 拟 應之如此又 個吹天舊聲喇叭 战陳 雅令行此只是 一城至百少以至安面兵立起整下 ~ 收兵 叫 信地割定中 左路 回 方營照前 面 四接右司之之 站左司在左 操收 接右 妣 47 兵時 營 뿊 17, 舉錦砲 智之 自 誾 收兵 或 三次中軍 接前司 二叠立 面 金止 43 4 ik 出; 完 報征

頭為正兵但在左右即為翼為首兵但 两翼随之 两遍 Ž 隊前来立定録鳴坐地舉節砲 ¥ 公衆即 為策應兵其金鼓篩令雖據五 **吟立藍紅白大旗三面變三** 自速而近迎合于新担遇敵 Ξ 營由 調握 切大 一營以至十萬 折至與頭 Ξ 肢 事日

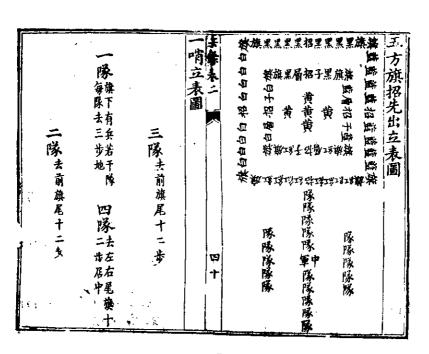
熟旗總旗第三隊照前習戰畢習戦節 皆同第一隊以是一 便完如是又 立藍白大旗二面每鶯鶯隊分為梅 Щ 在空地立定鳴 聲金三 小隊列為三才陣 聲立黃旗一面為當 整隊又 圖立操令如前標華坐想後受旗二百每隻實際分為梅花陣 旗總旗第二隊照前習戦 拳即一又四 前 旗完又聽二旗 進交鋒 退 四 空地 回如此三次 圖對敵 無本 官兵 奉又 橋 列] 隊的

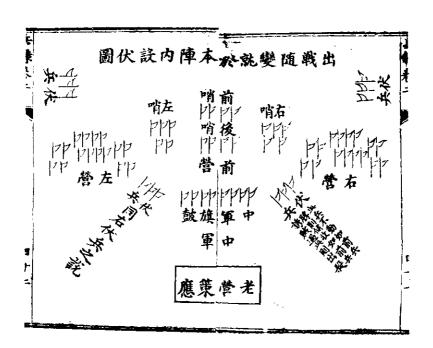


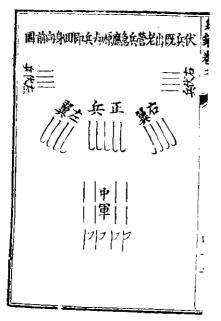


前哨	中哨	左哨	二路變三	前哨		左哨	一路變二	安泰老	前哨	****	路俠一路	得法者如	錦以牧等	已開鼓於	各分管一	駕戴陣法二
右哨	中軍	後哨	路變三路行營圖	後哨	中軍哨	右哨	一路行營圖	·	左哨 中軍哨 右哨 後哨	A management of the second of	路行營圖	得法者如五行之相兙	九短兵放長錦得法者如五行之相生	年而進起不進即以軍法斬首先以田	各分管一牌一笔短兵防長錦進老即便殺上如	二牌平列狼筅各護一牌長錦每二

玛齊必要法也正中生哥哥中有正真妙于此排起多不得均必自正面當門中左右分去方下管畢如有數必未合再為移置相合也若自	門旗下平行左右步数足立定為四角之表实兵元為四正之表各四角表旗與五方旗同出自正五方旗者先于中軍中心四直各数行步数足立	安日方高327天也真立是一中軍两分各得若干步子壁同四大立表先約兵幾司外壘若干隊每以来報報	前哨	後哨中軍哨	右哨
可中有正真妙于此一种有正真妙于此	立定為四角之表实兵四直各數行步數足立四直各數行步數足立	空同四方大旗幟立門一隊毎隊分地一丈自		育	









凡 合則與部錄 則 베 注 哨左 左 支 砲場 右 L 以馬 箇 哨先 二候 後 馬 赵 嗬 在變 路中 左 逦 每部兵 哨並中 相 部 中旗 去 看旗 並 路 띠 麺 在 至 三先 各 中 É 4 哨中 合 前 領 旗六 軍操右 靣 前旗軍 放隊 咐 在 十 馬路所旗 在 則 中 步 A, 中 赵 向向 如超 中哨 四 即放行 每添 凾 两至 **為砲作** . ф 一右路 五 在 狭亦 行大圍 中處向各 左跟这路状本

管調之 将鼓卷如 **吟** 三 哨收则 馬 伍為三十年 外子二 中軍俱為子層五哨下 之追 左 中 用三哨 三伍 石二部 各火箭虎導砲 中 三班 器者 靣 間 **从放者疾** 玸 層中哨為第三層為 将 分開 同 約 伍 歩 也 下 P.P 放每 贼三 行 打 哨營 笛 ep A 三伍至人 伍同五為 装装 鑃 问 下則 Ä 外 吹 馬 川 以一門君標 俱 圍 if 宁 喇砲放 前 者又 中 隊 班第二 馬 **營**外 9 同以 纳 部 11 伍 吹放 中軍 放放 タト 為 点 蝲 起但天 步金鳴 中 U) 四哨縣 萬五千 軍 放 伍 砲 哨差 但

打鈴也頭 出 聚 他 各只 7] 十仗 Ľ 兵只 部 歩低 止千 員数 例 司 軍 Z 贼頭 到 核 败网 P 侚 各飯 走 灰 出 化 핤 前 響各 地隊 賊 活准 15 戦走擂 如吹前打 **1**F. 此 向馬其 11 鸣 'l'EL 上并 03 液 聴 扩 全 火 PF 直 犴 叉 他面 且 بلا 禾 衝鑼 B 不 柳門門四門 伍 唧 陿 響各認各 叨 倒 腹俟 俟 放 次馬軍 下馬耳 割 不 出數 呐勺 到 砲齊 取意 哨 骅 兵之 育 賊 尺 官聲 由吹哨六 級 不打 中 11 隊 其前雄不取 B. 角核 起如

聲立 馬 打閉 黄右 身又吹吃職上馬 囬 兵收 管門務要真正 又照前號 白左藍 訖 文 而掌請笛聽裝放 兴特 放砲三筒先掌聯各軍執 差 明 中 泉孙 赴 白散歸稟傳 伙 賞罰帙落着又 吹打 軍官赴将臺禀稱收 旗 出; 通 右 敖 TI) 三百 放大砲三箇呐 報 打個 黑旗 五管小 向 詖 放 其已前 前 軍 虿 點 磨里 JŁ, 72 下越 而 戦 目 旗馬 减 再招調 фD

向鉄聴 H 賊 꺒 面則彼着 列] 硇 赵 熟利 一箇點鼓 點之 推 鳴 直 ЯŠ 旗 Ž 侚 땑 旗 硇 練 公望旗向 贼磨 غر 髙 耳 車 前 目内旗 箇次 熟波 車銃 賊 狼 車火 垂車 止 何 面機 城車 務 皷 袻 拉 负 要從容 次放火箭 自 立 各 益 بٹر 立定 庐 點放 奋 使 賊君 行至 依 逐 火 習 向 亦東快

11 佛 乗車門 放 兵出追 門面 出 殺 粣 吸兵由車 如前 法 設 否 也 芝上 號 又 Ξ 賊 箭 照前 有箭点 隊 頛 車 ľ 行徃 金 出 ズ. ستتر 吹 配廂 夭 上打 重 渡 車 至 賊 蛱 前 火 皷車 オル 為 例 土 放 氽車 由 旗四石 原砲

矢 轉 銀旗起 身向 與 卷二 箇 列 中軍官票稱 軍亦至前一 吹哼囉 吹轉 力内 點 غَز 身喇 豹旨 皷 哨 列 バス 箇點鼓 聲馬兵上 放銃 照車行于內 一乗正行 叭 面 追 馬 次 望 兵随 一箇吹哱羅 随 彼 中 兵列 逺 馬車兵 在 車到 旗 前 湝 鍃 乗倒 轉 總者照 旗 用 轉身處 五鼓 部二 向 聴 两 相 行 上 甲 附 濶 守 車馬 两 中 車 做 而 車 道 聴 两 杣 Ż 不 丰近屋 俱 中明管

放砲一個吹轉身一向教場之右行侯中 吹 到臺下黑大舉虜贼 前 如車 而来地勢平曠下方营對敵 車 箇吹擺隊 前 拍 Ż 身喇叭望旗 行 對者須史轉合 放砲 教場中半 行至前面 部前 若 之左 各司第二 筃 司前 伍 剿 至 以聽放砲 一立定 喇 路轉身行至两路頭平 揺 地 **吵**望旗 先向右指行者之左路轉與之 局二車右部 馬報語管內差中軍官馳 喇 中 の左 盡頭 明六 **心望旗先** 務須 聴吹 部旗鼓當教場中 部 只在十里之内 兵亦 《直立車》 每百總四車為二 简 前車推 向 動 如 上拍三 古中軍放 前局 向 徑衝我 又聴 W 路 記 种 聰 地點 事 馬

靣 則 甲兵 名共管虎頭将軍一位 地喇 之内 馬路 帮三隊人兵擊馬每人等五六匹每旗 117 2 丁居之各管糧車座車 休息每一 相接是為 叭 兵上馬 百步皇旗 此翼 為将垣望等居将臺之左将臺居 一隊守門車 列 拾 鸣 軍火器 鏹 旗內銃兵二隊各第三伍 各 部兵在 子營子營內後 内 **班四面統轉向**火器又俟四門 馬 "兵下" 在中六 籽 EL 亦 少方留空地塞完工 分四面 騎 馬 撨 一司 皆輳動一 将撰每門一 百總 車兵下車又 車騎二 居前二 上而學聽 採 如諸 列于馬 馬 員守 灅 齊 百 司 RP 雅 鳴 總隊擇 雜 居如英車 報 辟

随状旗繇退 車逼放米已 贼不退! 已喇 iń. 馬兵 浐 PA 七步内, 重 步内望 由車門 ൝ 放 歩之 三十 三次 放 至營外鳴金一聲鼓止稍 贼 步内 加 二乘两 91 败 打 助 下出戰任 问 回 枝火箭 放砲 下垂統 放 放 如此 皷追上 角車各開二乘出 JĽ. 馬 箇髙 是 金 又 扮 手如噶 也 如叫 軍 銃 何 햸 啦 箇 時 ıŁ. 淮 斯 耷 擂 攻 又吹 中 俱殺 喇

兵聴 中 عد 進 其 뜛 右 蛵 | 奉車 面 XT. 赴持臺禀戦 旗為 旗 各之 法 輕 可 車兵 仍市 褲 三層 頭 車又鳴 勢雖 門田管 有 向向 推 相 後外追 行相倒 相 却 颗 用 内 併 鑼 俟尔 坐 前 放 尺 先 割 袍 パ 地 抛 牧可 Ż 後 紅 خلد 裡 但 箇 旗 大 W. 所 **營** 文 吹 地 差 打 營馬 有 馬 面謹傘乗 分在皷向 兵孰禅

車放砲 則 哮嘴 以後面變為前面平行左右两 贼從後越檀營向西追戰請釣首放 地 打 古少間 地休息又差中軍官赴松金鳴皷止鳴鑼車正下去面自用別面不許混應 火器止是習熟四放作戦俱照例之 面 魚 一箇吹轉身 俟 别旗 質而進 各起身再吹吃嘴 例 前 伏城後右とき、中軍中丹鳴鑼坐息又差中軍中 不許混 曲 面 聽本面 應處 塘馬 直 PH 箇吹哼囉 原向 四面進止 行少 喇叭 **产旗面** 下車 應畢又於一 前 梓 熟即不 車改作後 皷 臺雲稱廣 何 ī Z, 色 'n 門 鳴面鼓面 面 有 面 面 胞 胶 旗鼓 췱 倒兵

放砲一箇吹持 軍官赴将臺禀稱 撞行 質前進原列右 RP Ľ 以左面 为計好猾伏城~ 車 吹天奮聲吶喊三次大吹打两總各第 以下俱照條馬軍錦令管 隊喇叭仍擺成 鞆餘為左右 婚便照前 上 要作戦照前金鳴鼓止 **R**p 夾 一車向前 一墙後面 以後為 押 夂 轉身喇叭點鼓 四至 徒左 舉行 路 順行 至 面 前 車變為右牆 金鳴鼓 隊標畢凡 四百方管打鑼 門車變 五管十管五哨十哨又 两邊信地創定 左為右右為左前 下營已定四 在起檀 的一个人又差中軍工也鳴鼓止舞 箇 車向 ĶΙ Ž, 規兹 紅 一管操 旗向 左 面無稽碳鼓 北官 鳴面倒偏 前 金鳴吹 不重 放 追 坐息 行廂 面 孙 廹 淡面車 為 戦将 向 臺樓月 又差 臺 箇吹 毎 存 打 腌 面 揺 車 鱼 邀旨 重

兵録卷之二於 随 字平列 分 響牧中軍 其左 車移 與左 列右 時開合齊變不可先後馬兵 前 箇變 従 司對 百 右 司 司 個立 政 中部馬 對 自 司 從後角移 自 核 向 副 司亦先向左次司徑退来 路俟两城 起退向 司 徑退来前合左右 就 [即如之 面 城把總 左 不概定放砲 いん 司 推出二十四 前合左右二 Į) 79 面與前 前角合角 城 接左前之 部 出白藍 角向 4 員每總 步之 司 箇 角 角 向 ň 角 同

射責治心心治則神完 練服習堂 軍器三十有 少而 矢居第一 時射專心看定賊失 **列頸惡** 枝大抵 避而制于人矣即 此言當熟味之 勢于弦聲兵 則 却垂胸惡前凸背惡後便惟 **大妙寄心** 中的之箭 加 而亏為 百步之 而 何 中者也豈 力 目 乃治心之要法 八下生人大下生人 不 裕 夫 威天 利 白對 可 慢 洕 於 不 **叫者** 甚事不 祀 鏃 两 丽 12 甩 渦 观 3

着力而後手不應箭 紧若胸背無徵驗必两 臂不甚如是致力箭必在的之左 有力矣夫 在 矣但要無 潘之際两臂齊力則 用 臂力先後 죈 能 看 壓其前 而不偏實而及遠 用力 直 カ 加 觓 然箭不及 也举其前手也 形 丈 臂未齊力也或前 状 有徴 手也 而 쇰 如 崲 坦舒自然使 握 的 而知射 胸前骨開 近前 加前 的 ᆅ *Ā* 大 徬 梭 箭 則! 肯 始前 法 存 短 115

病須以無名指 手法 逼太逼則前曲紫便斜矣其大指 輕 状 前手要擎擎者拂也前手 其體 亏必須大 然夫彂矢之時兩手着 Ż 宜太繁太繁則傷朋 一掣五右 中央若過 射者南越 不重無先無後 也 則 3. 右手大指 状為妙耳此把 矣此 有二亏稍直上謂之豎亏横平而射為大指壓中指以古法也不可不從 獎必 7不如亏稍 看力 的則 至 伙 1小指共指 指小指髮開故也學 钩弦以食指钩 後腿 則箭疾而 放 外矣後手要 ズ 千着力齊以別翻掌向 也 緊 方法 似獨 箭去 向 Tin 前 · 有丽以韵节 袖底於手心 對的 矢類 随前改移 也 畧 ボ 料 分後 偏 排去 學學者掣也 描 不平不 ф 如側手打物 夭 掣一 射對者有效亦不宜太太 亏稍 抬 之高 可必矣 只在 即 監如 角 謂

非被則此一歲不中心惶目怯必為敵斃除許其我用口射人先射馬擒贼必擒王盖疆場之間馬上之贼只當看馬射之馬若斃則人自危故馬上之贼只當看馬射之馬若斃則人自危故 华而铁铁必般敢着敵尚遠 中不誤誤則應孩而 矢力不如不能也思錯日射 則生只是要膽大不怕死直待 經元生者死之根死者生之 : 7 不能入與無鏃同告漢将 胆之 可 時只當看賊首射之贼 以言落此 掛針 抡 步 木 右 其 便 的了 紀 此足 昌 山或置 臂直是也 湛 倒此射敵法也 縰 夫 之垂 插 也 泋 丁字不 不一而箭發必 也 /根幸生則死 臂者非 李廣見 首斃則 五れ帰 不 而 的 和輕 葉不中 引考不将急急 能中與無 於 成 筿 *>* \ 字不 敵 射之 牂 中徒 或 也 失 K. 朝中岩或 内 兙 同窮角死 間故 射

直躺憲而越字 年 る 本 月 後帙 記 則 三者射 失 後 미 以言中夫 同 門於将我之 志正外 審能正 ħ 新狂反被敵傷部不入鐵不如不業 之要 **有失則審固** 而 者能 發熟目是前因後 新 包 所體 際維時 調正直者存于未禁之 削直以 而矣後審前手固所直正云 統真手直身以是得前射 親親而 射 不能坚既體不的中 中 义 ズ、 **紫**夫而 紐 斱 則 進融 石徒 斜龙 カ 力 不能勞 難 固 可 A 前審 首之 跗 :固 入爾 而 同而固 垂正睫 中 移物力

審固 有 巧至然 三均心失使 使之也是卒發固 殏 何 矢口 扡 放箭 知亏满 Ħ 開 固 在 RP 地 例 固 业 即如北 雨水蒸濕 Ž 畤 但 有前二季疲後二季 動者如此之道必須察議而習者何 袻 盖妙在一 静也 停審 失之直 方息氣 Z Kþ 滿 方之亏 於開槽 兴 則亏疲秋 55 不及 オ、 畤 目 先不 力並 放箭星 不 當固 頬 而直 自 J nu 刚 後停間審 到 力 嫍 到 P) 的 也又 為准系

東西 人类高 日如彼了人在以天 者 日搭箭引端一 除主 里白 易前 以而 則 射此 可 内或前 颠也疑而 使 洮 袻 晴日風又 其子實一 訛 後而孔不 為 休 亦 口象子張 則 獨 非 刚也 汄 兩 理以文失 自 暑地 抬 曰. 日 南松 有 如此 注 對 方 豈 體之故道 的 喻不體 有 風 膽 A あ 帙 日 引之時時 失而 言 殈 杪 **承理会**不

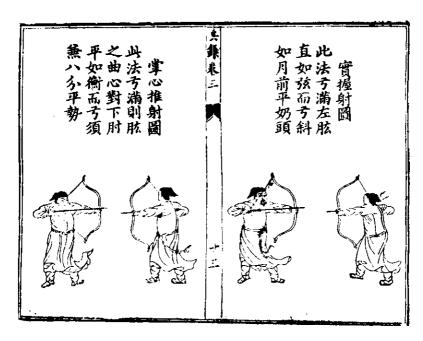
必 時 之 在 八人 力 之亦 Ξ. 用 下南足在北 耳然 理而 剽 列之 前 手足臂目 ス中 服手亏矢力勝 弱电差 射 州之箭務是幾分子比拉然平時引考心無兩分分別之際所裝之矢得之以 李 不已觀力自生至於 者知 3 拳 直然微手微平學者宜 拍 鏃 的 各 艘 全下箭在 考心無 人 末同 滿 不 用 其方從 公箭 自れ 上 知無指 **쁈目也** 力的 上かし 容毫昊 到此法 類之 分能 知不指曰 痬 下後 假字鏃 办 不 丒. 可目是 Ŀ 手前 差 也左指

學做書亦必先出 平 耶 患力流 其氣 量其方方量 滿調之 曲分 近而 日不 正 子曰 射二三 2.考之強弱與失 到然後自近 曰 遠山 箭 調偏 到之 二十步起手如此一 彼得知安 其心 而底 不 白 並 稅 あっ 餘 志故 亿 ij 求準譬如 性而 但力 百 于直然循末 法也 白莫忠 一一微耶 失之 不能 字而 其循是夫 Б 干正斜 勝 用其實性 百勝吾於射亦云 步 輕重 大都 其方 以中 一为所 無作 浚 刕 污軟 心 外 者調之 也公常 調 字習者 必先 徾 及 者 還 不故 滴 是 Œ 服 和也 教琴 相解 RP 調而 持 當 常 而 自 从 射者中日 搭溴而調 射速 箭子

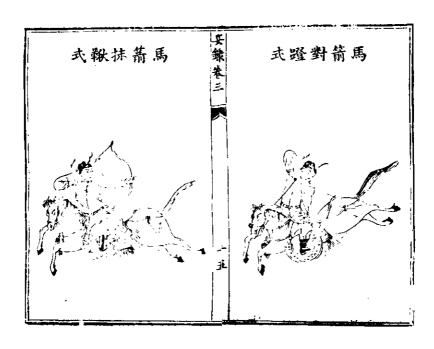
心針射着 較射其心業業然位 **軽毫** 不可有一念欺人之工不與不如我者較射其 之多中岩有 将怠 虚實前去疾而空中止 於 釐 惟 容也 愈可 可有風則飘去矣實前有風且不能工夫全無前後手俱不着力者也虚 異武場中以從容審决為主射慢安能勝人武場中亦然武場 业 便思己之病處何在如此知人之善處便思己之善 Ti 4 i. 吾之射法當自有進馬者命中之巧 然從容中不可無敏 知矣 自學學中来箭去涯而見錄 較射其心亦當業業然依法五笔防人則心無定主發必承世然依法而射不可有一念防人敬則心有主而不忽與勝我者 不中若有一 見 善處 點黑子 捷敏 非 毫欺 惟何在 模 贼 中 見 者 以紋 射 羽 **ぶ** 不

表 時 得 余 方良 温羽粉 あ 能 主 曲約也太 龙 命 合記勝 膠記不 矣而 偏 中 **| | | | | | |**| | | | 之前 何 考者多商且 矢界 边 見 劇 可 劑 必中懦 不 可必中 矢 合度 前 用膝 太多則 膝與絲 而 35 可 不良者矣亏失既 于用 之能 塞責取心與絲盡 ·**Z** 曲 则 鏦 射多力 中 矢! 其 如必須 た 大 旌 12. 湏依 之其以不妙其 則 疲 夾叫其 **不 亏偏以用** 居古時 時 可必 न 強 矢 殺必 全 其乃 而弱 五 ß. 起則 中 ناز 可 其格節於此失 良順造良 祈 好 必. 緩強行

手盖 其至滿 餌 鎕 ! = -目 亦 圶 カセ 有 勿瞬 便捷 箭法 箭何姓 器 懸飾 18 巧存馬是未易學而 頻 カ 如日 挽 **着**臨場 日勢如 视 中 D. 隊伍之 敵百 73 其本 之專一經 其中非 慣者 夫 自亦 敵 中 液决與 謂 時以 倨追 拾载 法手必宜以 習而 經 文入妙来無過熟皆兴可點受其巧問前謂習 坐 風 非爾力也得之公如方失則其四主 用 出 目 而如便矢 各科驅捕 亏如 如懷中 弦 派 能也惟 經貨無士 **率**馳腰 雷 بخ 淌 而 K 務足 握 吐 習而也質應孟 皆塞 書
本 月



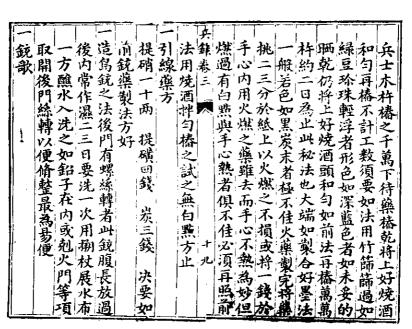


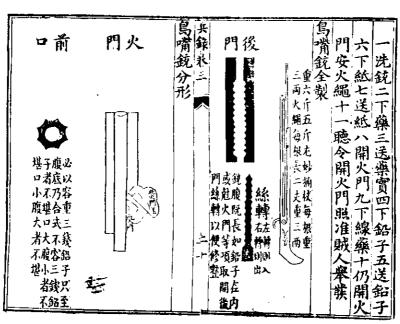


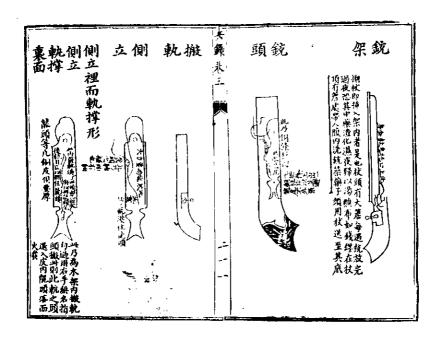
三成月銀孔 工鬱着 内而入於籍 匠光三小次 則泄不前 用 所 湖一丘 則深 官給 澤抵 至準 引達 if 在於造 於精 者為 司 日 有 斤脆滓 許至底而,而嫌用三、此折爆損之地 肯任 坎尔 不同 双巴 煅凡種第 止包四惠嫌造火二

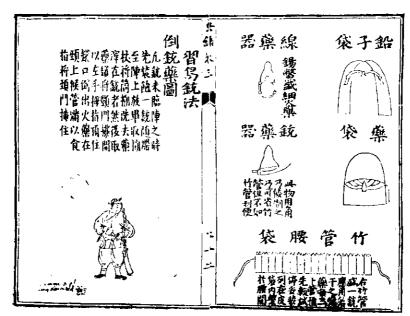
放銃 五 化 予 再 少则子 2 有 之前 鉛法 布 カ 棄把點 J 子一 勢險節 以手挽 利 射 先 准 在林皆不 于快館 大单 能 在腹 無 將 有 तोः 枚 腹長則 力先装藥人飯用 藥 腹 即每筒装藥幾錢遊 炸不能 中 短 預 发班 你保奪所 腹 無有 凡 可 在 装各 神音能也聘傷 重樂必 力 射洛 子出 不 丧 カ 輏 榣 剆 而 可 不 有 則 ij, 手方手 中火 及 動 山直 火 因 カ 不 帷 氟 筒 百步者 Ź 故 2 月 柳杖送賣力 勢自 出 内 技 敢 飹 射 十 加腹 約 名際 泄 读 C? 直而 多則 銃 户山 业 亦用器 솵 而抡 透秀 云干提九 弱木四枝

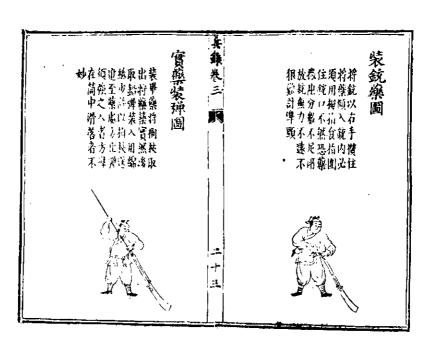
异 鉈 弱 對 鉛 之中 落所打 時頻 鋴 無 上腰 扩 而 两 椞 重 用點 准 用 後 在 大馬繁而 **先**雄提 将简净 在前 速 門 在 方 也 17 用 揃 偱 祈 右 稱 鎖用 Д 服 人 之 杖 疋 磷硫 放長銃 Ŧ バ 送 À 沒照星 炭各 熟人 之直 ナニ 今 多俣 而響 大食柏 即火 千 銌 Ŧ 直 之 Ð. 缒 火 至 쇱 艰 在于 两 狰 利 火 PT 3 六 樂之 木 1 齄 在 機思 對前 架入 内除 椿和研鈴 能 两 龍 於合樂之方 向将 手 **匀極**辨 照皆不 不 桕 何 頭 44 内用細柳 倶 星人 前 振門 仍好末 前 托 面 摇 1 用泉收七 换



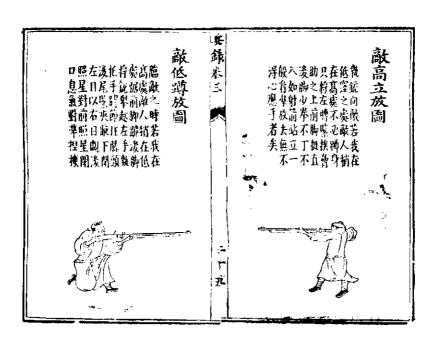














亦酶藥準但放鍊作



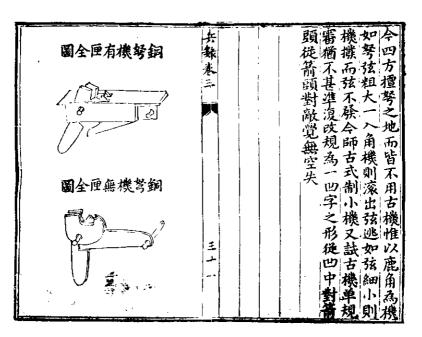


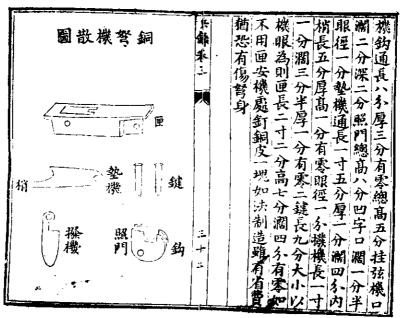
中梭尾挺不放上牌側

番 次 興 射則 斻 用等也若謂等不利 不便于等然則 撞右 用無立兵對 右 迴. 等不完者也 袻 百步步 出 射 木 髙 木 而 假 頑 別為 下放箭 放



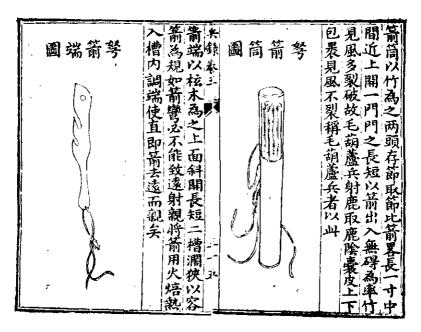


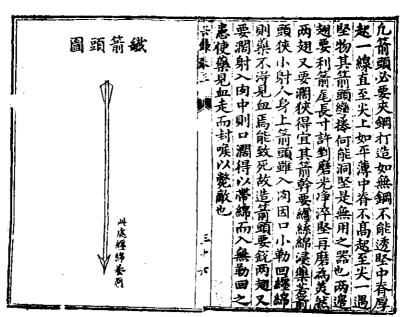


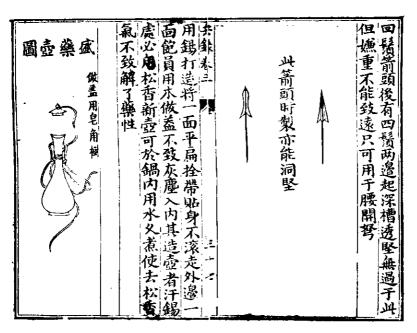


用 毋晒漆 71 如記截 (翻舶手 射禽用也 猪 不堪用安翎後開處當用蘇絮其蘇 方有准弩之力約 圖節申 變而 **警襲擊斷禁蘇箭尾開分两半而 斗效的** 反為陰陽翎北町将翎夾入其四 ŋ 細節 用 善如用鳥 ,] > 牟 11, 再彎叉用火 再上弩再数前涯 先削 圓争 将竹 必 用 箭 羽為翎 的 百五 44 四 緊禁如 用 頭根 成 竹笋箨厚 (新削三刀) 金 頭 烘 再 竹 + 務 則 削胚如輕 或柱竹 悮 四稜 劈去 헶 用 要再再處 稜去用 油 事不如 金葉 均 痕 駠 用 削黄 际绕 葥 不不不必細小 去 圓.

圖箭弩 有 刀齊紮麻頂 云若要親贞龍肯 五 可 而 Ħ) 破 顕 四安準 .] . 如加 翎上 大箭行進弦長分左右箭 頭以 鰯 條青箭頭三刀快箭尾 四 削去 <u> 5</u>. 頭薄 ň 而 đ 勈 則擺加

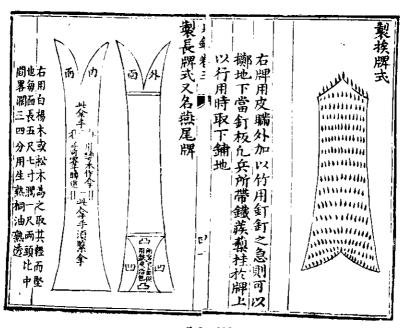




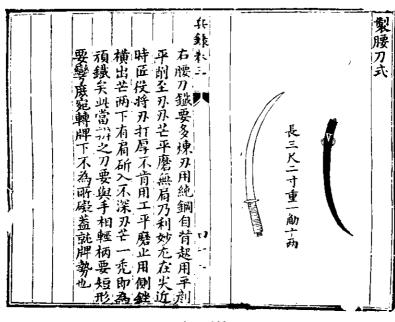


利以藤為之鏡 事於縣樣標 不能棒 馬克及 以代司肯之 年以後 目而為 ŻТ 77 配須輕 不偏 可合 用 於武林 牌作 不能殺 셹 以我之爱 石以 用 可 么 牌 大 用在 有長 面 梭 牌之功用 将 海 拐軍 雖 欲兵 福復有一家方田! 以人 間 不能草 Ż 後刊 欲 牌 立 奋 以置が 器 **西牌標** 有 汉馬低 いん 陣 河塘 為彼 是頭也只 般 標 步 頼 挨 闸 然後起 所謂標 旅 也 執在右手腰 而 敝 南解 ツ 之應接 行伍 勇氣力 非勿長輕 鎚 不 矢 蔽 可 者也 標此 身上 枝 疲 Ż 者 利 先 层 輕 輕 バ 中 77 郦 為霖 足泛败 穆 牌以 下颇皆 之 IJ 角 77 奪四稱可尤桿 便则

一夫 及則徑擲 如牌 必 **取之** 牌。防人 赵 周 伏 曰 牌即斫 回 只是 抦 出 歽 用 ΤĚ 但 矿 人頭鎗前 又戳 バス 為止 得 歩 慌 贼 法 | 歩 化 | 只 贼 翻背也足壁 下身牌大 惟阴 15不断















一尺狼筅之為器也形體重滞轉移難非活他技術等其人則制於人矣干将太阿之利使重子的人名解能不其所使故也凡用很等,其有所是人,所能在车车中,不能沒非有諸色利器相資解克有濟兵中的人。在學到疾病必須似即有敵其前以長衛來的人矣干的人。而用之則可以制人不不能沒非有諸色利器相資解克有濟兵中的人。在學到疾病必須似即有敵其前以長鏡夾其在大人能以將用此者緣大人。所用之則可以制人不不能沒非有諸色利器相資解克有濟兵中所不能沒非有諸色利器相資解克有濟兵中所不能沒非有諸色利器相資解克有濟兵中所不能沒非有諸色利器相資解克有濟兵中所不能沒非有諸色利器相資解克有濟兵中所不能沒非有諸色利器相資解克有濟兵中所不能沒非有諸色利器相資解克有濟兵中所不能沒非有緣之。







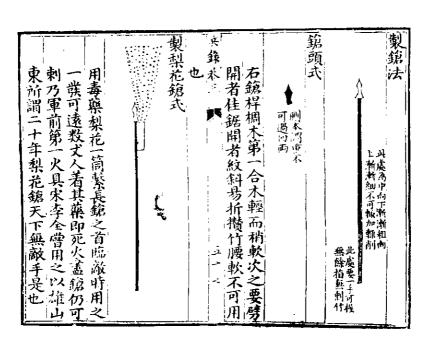
你割我我學館 作 纵 JE. Ż 其 裕而 于世者卒皆沙京西有之矣或秘焉不如變幻莫测神, 如鏡 不常熟 有 第各有其妙 舒佐簡 你劉我我 枝 日 庄 又 實有奇正 氣短災陣展兵解則 Ķ 於熟 攔 其長亂能短分 梨花 洏 家而化無 [有 銷 是 有底虚實質有 有長短之異其 你 而相斜不錦不衛非同天 C 割 之法盖 傳後世 找 使竦者 下 胏 彼無何無 我以也敵動 **5**

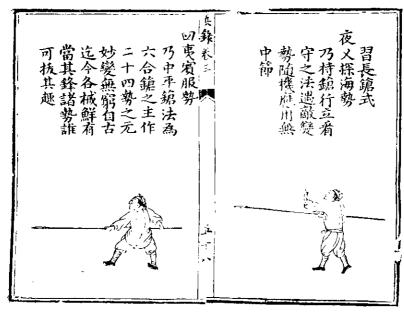
1E 錦錄我錦 錦你 割你 要先 我参拏我 鎴 磨 **行**、 擎錦 雄 拏錦你劄我 割我 **時職花** 劄 作鎗 你! 明圈 錦後 我我孥下你 你劉我我 濛 劄 你 裡鎗 我 詭 把為 鏡我等 值頭 顛捉 轳 門母 錦上名曰鳳點 我等鏡 墨 鎴 鎗 我等鏡閃 錦我顛 你說起 外後 簊 你 捌 儘 我 杷 舘 有 櫊 起錦我随地下還錦你 起 類聲 黄龍占杵黑 頭鏡 PH 剳 我摇 下 封 鳳點頭 門閉 捆鎚 P9 我 還我 花館乃 赚捉 嫬 我 拏 花館 菽 颠 绾 是 搁鏡 你'你 花錦 梨花 篘 擱 绾 下你 休 經擊 秦 下 阋 Ĺ 剳 賺 名概 剳 王 鏡欄 洞磨花欄 你 曰頭 我我 拏 旗 秦救 绾 我捉

ħ. 合先 拏錦我 鎗你你你你封 你鎚拏劄劄接 我维擎我白米館白 掤鎗 矧 有 鼠有 下 找我 颠一我拏 我 割我 進 ᇓ 摇 E. 找 心花鄉乃 琴鏡 花 攔錦 欄 封 步 花鄉欄 鑹 栺 下你 鎚 花 四 冽 鉅 你 迫 進 界 鹟 賺 閃 鎚起 步 鐵 上你是退白 名 後 花 阴 臐 人有死 割割白 遇 你 我 掃 銊 花名 袖 友你你 你 撥 鎗 上 回 鶴 草翠蛇 拏你 你 中友活 劄 你鏡名 找 上白 **\$\$**你捌擎 我\$\$\$\$ 籍你 尔 欄選曰 欄 後 上你蛇 你 拏弄 伱 你 有 鹤 割錦你還還 樓 閉欄銷籍 無中 拏鎚 還我 棉 鎖還 L 白 櫊 鶇 儘閃爛銷 鎚 棚箒 擱 F 我 頭渦 生 灵 找 退 漾 進 鉋 錦棚我欄 攔板 館我 有 歩 鎚 你鏡鏡 :ip 100

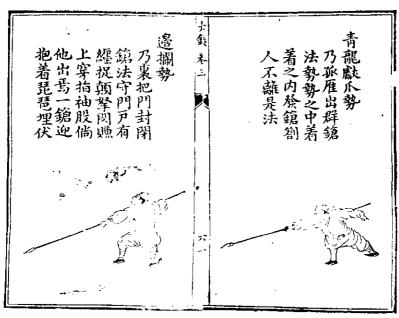
劄都錄遮 病 **看** 恭 架 了 低儘 鏡照 爿 湿 遠 去 頭 如近銷 劄 憊鏡 剼 一爛来尖不 台前 遅 是 严 都被必 班 進鏡滑下 **決還** 錦伏 决 绾 脱大 有 路四 退 去脚病 釒 祝經 Ξ 捉撲 破滑 头 五遊鄉 三件 指不中欄 步 法法 纒硬你三 利 人欄平鏡欄場五 大 鎗 失 病 頭低錦伏六 發不 和 破席 Ŧ 着中一 116 破不 我 法法上爛架 大り 疾 5 面當 ij 施閃 地 驴 . 赚是花 病 法 上不又 35. 低 鏡照正加 不鼻大疾 中地 Ľ. 近錐 王蛇 化

红 製長館 梨 細手如 活 白身 粗 敍 花鷂法 可 他 包 之粗 法法 河轉鎗 兼其理南角 妙则滞把 我蚁 與 蜈黒坐 定 各 漸不硬鎬 庶 之在 我處 能 蚁鷂法 細 強 瘘 有 岩 銷 進撒相教 也方擎 不 安 11 鐼 步手 同 則 鎚 有打 可 稅 後 丰! 師 板 無行殺其相物 力他 根 用頭 白涯 如 鐐錦起 甘 要細 融鋁去最傳 蛇法 总開腰漸把則 於牧而妙楊 不 在掌 天短肺炎 太去細漸在掌重也則細根把 去細漸 下連步 鉅 シ シ 銀 え 左鉛 六 关脚不 鎮軟直 不五 重 恚 右 封 天 隹 則構而至頭壮 其 門 無 頭不 頭底 後げ 鐵 可北沉可力而鎗 望 陰 裾 掃大 用方|不|郵|雖止 他陽欄 閉 箒

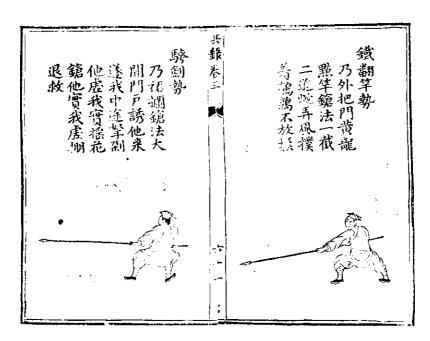


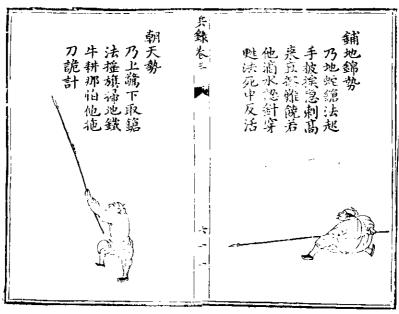






子 9 402



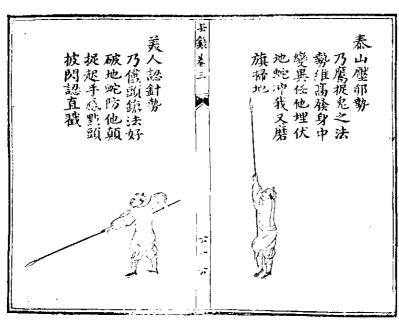


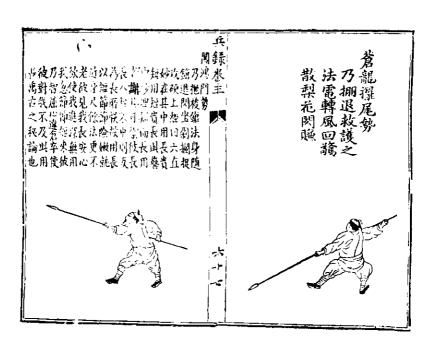
子9:403

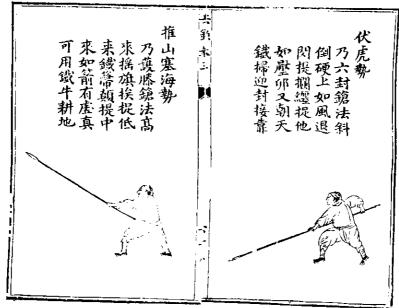




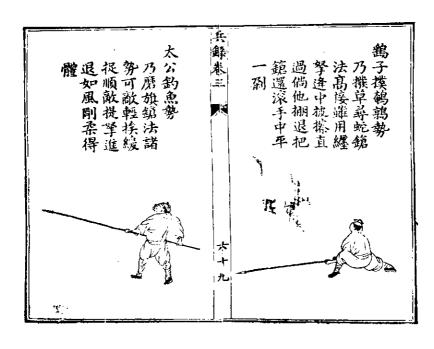








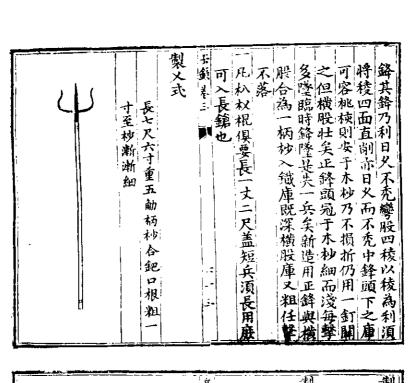
子9-406

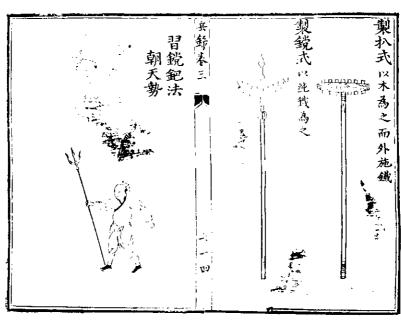




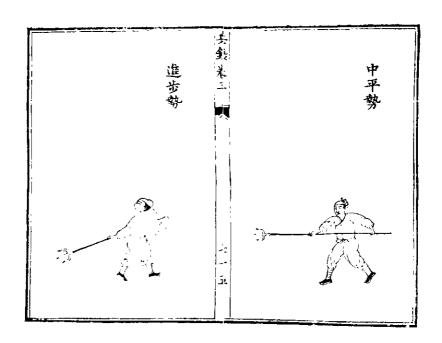
马壓習 我他釲 **鲍落我程般鲍庇敬中步他小** 他大如出上的對他表欄他再他 山此打 调 門我中剃 思刀: 髙 軟殺 空用欄獨扁他 壓 我大大 立 平 起棍钯印身 生小壓已大大田即大上角我 上角 下 勾步他部中 人 角過水 下項直刊欄四 即我 大 須照我原大扇趕為氣勢容易 勿打智致五 ĤΙ ٠١. .]. 勾 粘趕轉用他壓當他上角身抽下直 步使下去发天我 絕他我 僻 刨 在池 大 Ħ 直他當大 下 料 妙打将 要〕 轉 着 大字不! 即 丰 段再而飛 鈀 丈 角 有 抽 解步相 大 首. 来 ٠١٠ ، ١٠ 上進掃程與 他粘 飛壓 下 我 P4: 從 上下去 ľ 流 赻 再高下轉 鋤再跳略大 -K 赵 髙 手 我他 邻跳回收壓大小趕 勾 <u> </u> 我起 獻 整回一低 過 高飛上 不 苑 髙

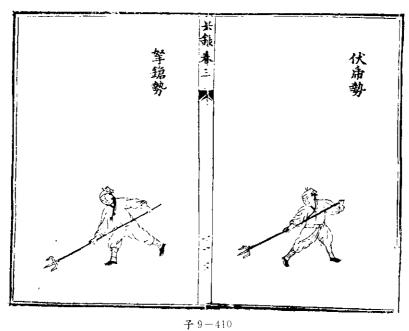
洛凡閃得但大 小順他去太 不他 被礼鲃身起 起對門 大他門勢刀 が八 刀 釲 酒上他下以 陽轉中硫他下譜 fu 不出直 他刀扇 刀钯字型 手扇 角揮車 分用 水刀来入 3; 各利入起 们 他 如我他硬 角亦起 他起 乡来! 办 ゚゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゚゚゙゙゙ 棍或為進 即然他 刀他尾 有我 隂 用大稳 长 如以便須逆 尾 不伏 手钯 大 直 须門 學股 坐知對退步須 来行 就 1). 請遇就 縫流 角 抖 門起他上 以水! 法办後步順两用脚進他 皆凡 身壓 對句 刀近他 湏 壓 或来 **糕請將** 手迫 下 乑 勢或左 两秤脚 下他不 起他中 人或 蘕 自鋒起 對 刀拍片 如身 欄 請小 分 不着 脊 中新印 面不他 勾 有 起門 寸 平城至 支 来 有秤干 直高 77 = 拔 **啡又流** 如 右送 越赤萬 歩 成セット 今 有請 有 兵夠俱 吓

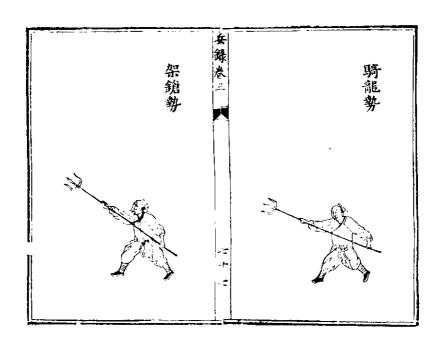




子9 409



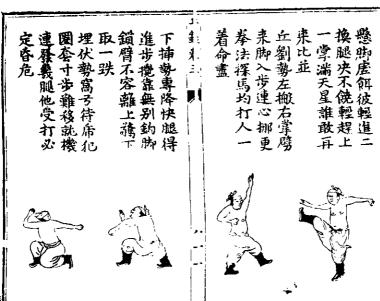




博阶錄窺制 立學 濉 丰調變擇 **新史多美** 不 丁要為似法 温 而飛身初無 不同神無器其勝法學預說 · 所被妙真三大大教之門 一大大教之門 一大教之門 一大教之門 架八 合鎖 云拳 石 步奉徐太 勝足 阆 寺腿吕上小 古个下 打 **涧十朝** 額便也技 写二天番利故然 不 50 與青 勢而倒脚存活 迅实势其 柿法於動 而輕後手 未附家物祖施十 不 人相也其固以足 法跌及苗七拳有有八及不 承知猛進備 掩得遇當也退一 名三十 耳而敵斜披滑家







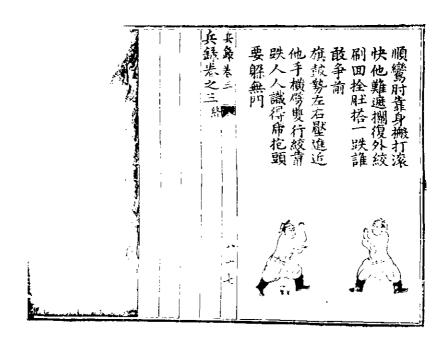






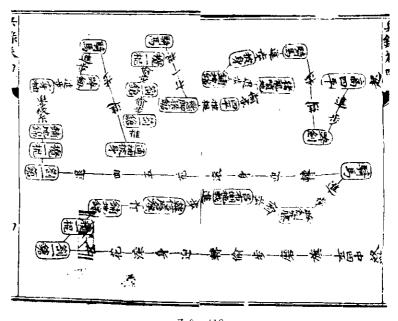




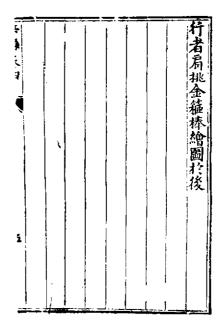


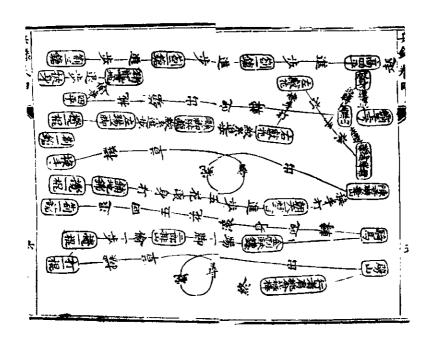
陰近陰之大三又之小。 八夜 人亦有方路熱一圖 柞左 以虎為巡山在人者即兴意也根傳六路證布稱其神通廣大降伏其心即可為教護法釋氏夜火少林根名也夜火云者以釋氏羅刹夜人 之法此等玄機真千古不紫之秘能于此中心整中有先人發後人至舊力署過新力未。急我緩身法眼法旋轉靡定手法足法收放 悟巧發奇中人自莫當矣 · 名根源流 少林棍名 懐能編長 居耳 赤布 有 路市世界 潘 11. 1" 夜 左 乂 相等但脚步變換 圕 た友大 两 相 俱 非陰

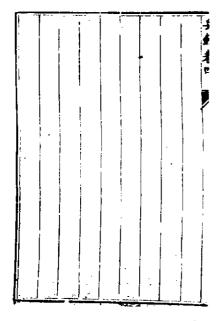
長八尺或八尺五寸	安徽本口	穿被亦少林根名也根梢相穿一伸一縮左右前穿被亦少林根名也根梢相穿一伸一縮左右前定勢不能繪圖 医用上中下三路即本寺亦置之矣然是活法無足用上中下三路即本寺亦置之矣然是活法無
----------	------	---



即擔山偷一步擾一棍打一棍撥草尋蛇出劈山節追回五花溪身迎轉騎馬金剛廠鐵踢一脚二割一絕換手機等與於為進步左踢一脚攪一棍的一絕換手機與手機草鼻蛇出陳香劈華山換手打朝經上後出迎轉霸王上子進右邊披身迎轉靠山進左龍出迎轉霸王上子進右邊披身迎轉靠山進左衛出迎轉霸王上子進右邊披身迎轉靠山進左衛出迎轉衛上路視譜

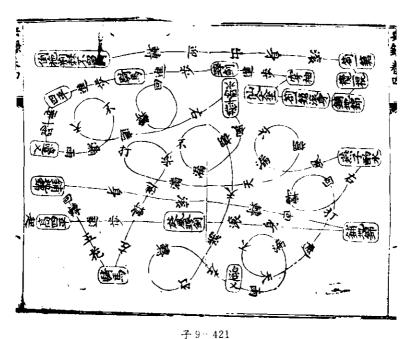




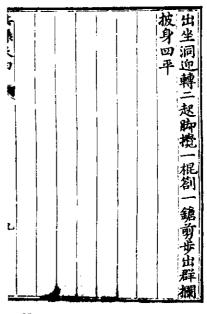


子9-420

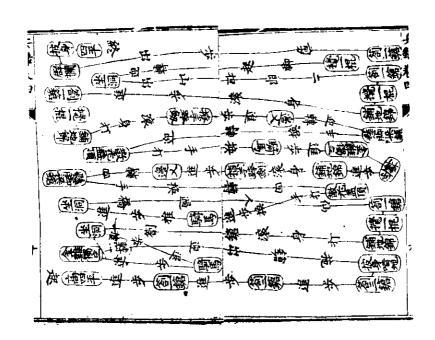
· 溪根創不 · 劉進漏 步穿袖仙 人大坐劄 脚四平進步 一錦深身



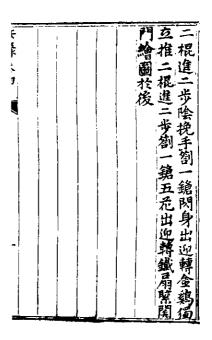
一鎮進步滚身鋪地錦欖一根劄一錦二郎擔山轉邊人進步掠手跨劍滚身鋪地錦欖步樂騎器與打鐵也大進步衛手指撒花盖頂迎轉換手懸脚梁錦回轉邊一根劄一錦心上獨一銀一號一號一號一個三龍步衛手打撒花盖頂回轉換手懸脚梁錦回轉邊路機一根劉一錦心人過橋坐洞進步推騎馬進一路上進步後手打撒花盖頂回轉換手懸脚梁錦回轉邊路機手打撒花盖頂回轉換手懸脚梁錦回轉邊路上進步後人第一路根譜

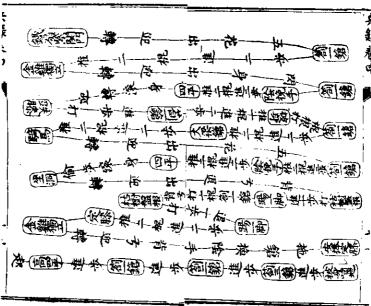


子 9-422



視大進洞鏡步鏡高 二偷踢踢换四 鎗步步一一陰平 推劉滚脚脚手進 陰平陰 一身進 棍錦四 步步迎 鎗進五平 二龙推打打 步出 二枯枯金 轉近 盤獨披 六 馬步 根推陰 挽退打





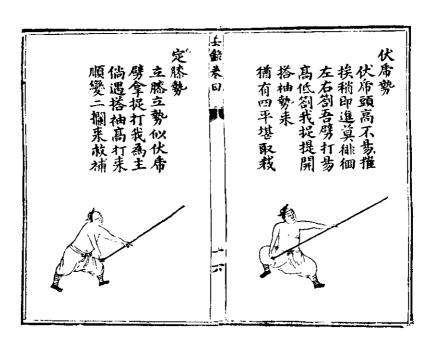








子 9-426



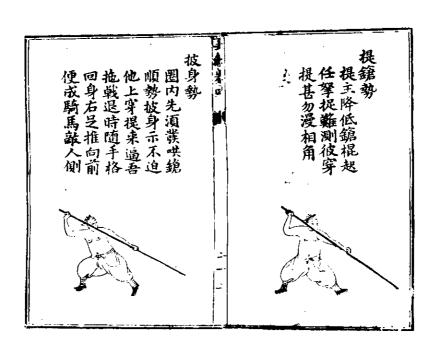




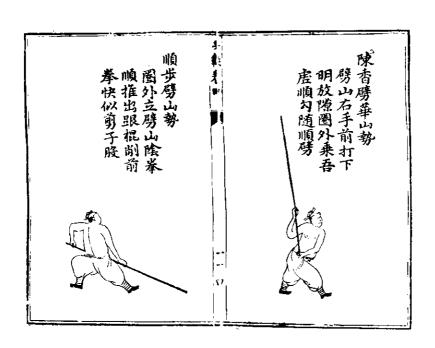






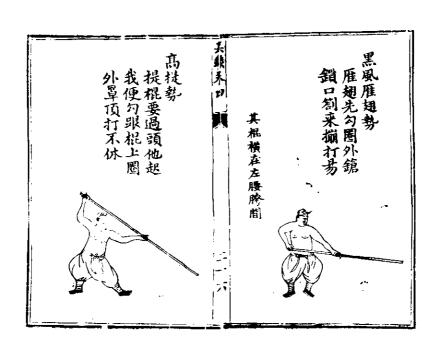






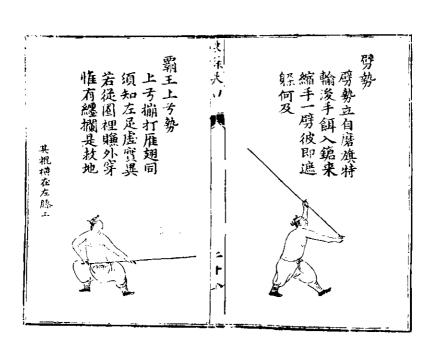


子9-431

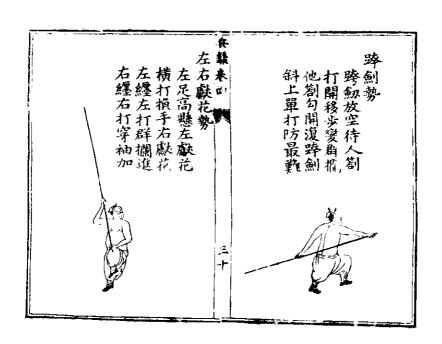




子 9 - 432











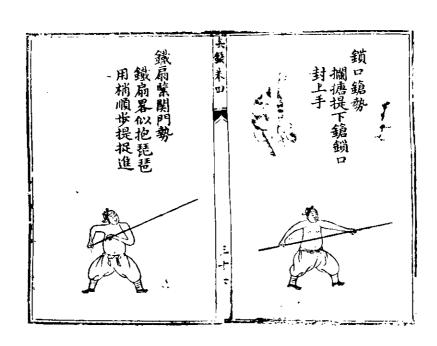


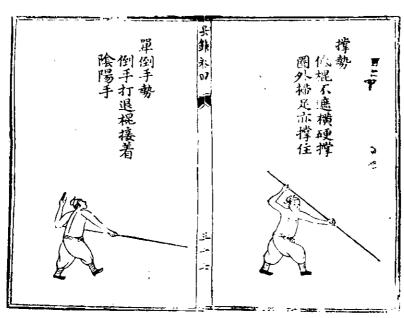
子9-435





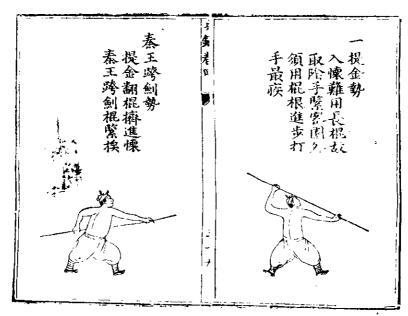
子9-436





子9-437



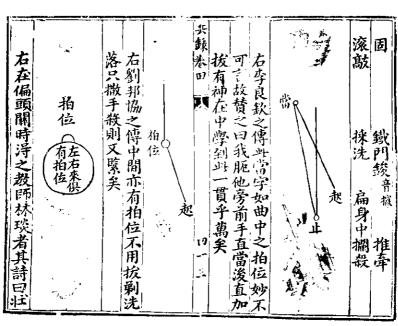


子9-438

彼忙我静待	解曰	打殺高低左右接	中鱼八剛十二季	步步進前	一打一揭	前脚要曲	除陽要轉	一總計歌	於萬仍之山再無住恐	妙者只在一汗手之後	究明六經之理亦明矣若能根	俞家棍
知指任君闘	たたむりを	手動足追恭互就	上剩下滚分左右	天下無敵	過身看力	後脚要宜	两手要直		彼雖習藝勝我幾倍一	使一等一我如轉圖石	方可又毘也為更定民人若能根則各利器之法	· 追吧如各目一經四書

大門趁棍走	打沉讓他先起穿路馬前斬草追三步都	穿後手馬前難够推	腰刀挑打 滴水	丁字回殺	超 33	更有会防诀	打剪急進級動時把滑固	後手須用功
進殺	俊手 湖退原位	三步殺	家花 計重相道五水系	旋手進五步殺	扁身殼	請君要热識時件俱取直	後發勝先寶	追身保有力 生球莫臨敵

直起磕	直符送書殺	下扁身	小剪下小起	馬前斬草	以腰剪	難啄谷	喜鹊過枝	子午	夫録光口	下起接		于力	當直破打剃大	一總步目	剪	直起磕音港入	洗	小門越棍走進直
順勢打盤山托	奉 眉般	二龍争珠	小单鞭壓就手散	鐵牛入石	三脚崎 倒頭	 	越棍走 走馬回	陰陽 下越穿手	:	譲高低俱有	滴水獻花	四麓坐剃	類坐大		迟	入舞 打殺擺	頭直	直符段
定四歩行	後手高妙	, 	间从	上捧数		直数	頭丁字步財	手上	7	大單鞭壓	吊剪	小剪	Ĺ		位	旅渡道三井		出國語



邊将 一根 多轉诱 棍馬 Ź 曰他當打 棍而闊 門力 折 提 起週不王執 小大大挑則大為脚口 赵 **垣抵不彼侵上不** 手 一低致 不 剃穿於三鏡 陽 小起必入後如果 词 偷小門則死磕 手 直 太餐 稅 起入人数点 要他後師用 過揭只難無 去 11 女有響為度一響之人族先人至之一,原来合一家總一 及 膍 響為度一 時一 打 去 他不挑門大 下 俱 手除 真聲着侵力 乃 不 日 即 理 来 理 不 也 外 陰陽最 我行響侵挑次 費力 偷他然入大 坐剩 股溫殺後挑門 世明 平 好 盡小他大恐大 2 損或 致漢 之叫也侵彼侵 明月 設右

打氧棍鐵死 牵初變劉九起勢九 足 机 σŊ 直當也尽 彼桃認 棍儿棍脚脚 勢深勿将門 指加 待手使身對當人之及 赵 打大殺開俱認回去 入揭退對大我打印 3 要根 娳 去抵去 小頻下 身次着他 扩 即他用不只認明大指拔用管他剃 坐不殺 教揭打公門 是 来酒皆下如他我我我然 加 去手 剪起剪拔器 9) 棍 粗别我亲然 寸 人若棍 麻門 之打不就捐 有 回 坐 地揭及全市矣 大用 将是亦 認剃 有 坐極 全用折 頭 去人 門 或棍 甚 ٧Ņ 餘頻妙 下起接交 也不認 是 بخ 下極打妙 即尾 勢打如下 胁 打勿 認根 去, 土他墜 棍 脚後 ヘ 手兢 手 **≥_**₩ 剪 他則 又教 去 泛談 他将 般妣 再自 团

ん剃要打磨 下五 則 图上 島 JE. 順随起低 下 惠 旗 法 回由赵 也 ~ 也一硫 党方将贵欄智根為根山大熟 夼 有 用 右 爛釆 11接他 纠 就我若俱我亦 孔 一切小打智門 進略迫可徑然 也 16 退 我 **肥須打** 段進近抽群 而法 祝扁百一 勢要 يعطين 剃 狮入就 譲上 略身低档 剃急接 知字待對亦迫 到 下 知 用身 拔 棋 中不自 採 和他胸可他 槲 後手一尺的總之以 離欄過 習 與革 順落喉簫如 大 ιĪ 接膝 勢亦大般神殺 in 打 11 PT: 可折去顶镰状 搯 三不脚同 也 不過俱断着 剢 尺受 髙 剃殺 尺 更 論大妙《石打 峙夏 下 他門 抽下 磕 自聲 捧 · 打冷: 擱 急即 涯 棍打 他接 定映 di 折接 殺 BA 打他

1: 在来坐過讓喜以破氣用視而下我脚小他鵲流直表别深不 掲 他九 起 下随用大大大在上者 搁高露高 後面折過門 则 我 打棍眉 過後枝讓随枝 撊 常在下须殺打地 入脚進他用有 上我防城我 他那中古 趕上當剪死他棍然後殺記之記 剪他 歩 取揭而就他称折 順小對 直 閍 彼大盤兩淮 着而在門山沉 般殺也 髙 H.S. 硬 被下揭花帳門下矣起就概将 我 彼 想 17: 妙棍 __ 长 則他不 坐 打 沉我着用下 折 以平直 即四 3 輸将陰小 二步滚 上 直平我抽 他矣根陽剪 過殺打将過 - = 打總如 手 枝或束根大 不打只 倶打 我抽門 我外

Ţ. 盖高但他取法二氟聲不尾 混私恐同 _1 ñ. 私 ر رئيد رئيد 争口他也 76 他 是之打時 汀 紙下 尺低 棍 1 13,5 欲敲取也么 数門洞 和 用條力我主 減絕 遇剃 3. 呈力洗口 胚俱就 他直 乏打烦缺他有抹 扩充 \mathbb{H}^{I} 程般 棍俱 力人用 偷法 Ťit. 3毕 Ji, 尾改 13 下 下 用 無者 亦正不 橋何至松 後 ភព 手 前後惟手 是激用 可以他尾菜遇 他手前一尺 垂不手重或順 臨師提 恐功 故滚殺二 之棍夫 時重越 他 改功起故 取琰棍 必剃他尺 雞至 他 之父兴四打日身之 故不棍 扡 411 一剪磕 力所 柅 耳 髙不 女少 ╨ 定 八紙既 謂全 深與未殺 打用! 須 他尾 響 制他動他離 要臨是 浚 打九 不提 重起 時手 棍但

٠١,

門皆

'nť

他待他他小要到門打他盡打剝就是殺 埋我的打手 馬打他畫 捧打 下打 急到輕 中回来起力下 的 P 高速引他 百中 . }~ 又 6**%** 手我他接直問要動打打我當他過 打攔頭臨進揭我 門壓 他般 丁身步起揭 在直力起我 時去下須其打枝 根. 字 採 十 大 步小門 錢 門即他我不頭下必 和 善起起與他我頂 下 過哄 殺 才工则 大 定我接他有接用 了他 他 他 四岁寸字沒也 多年根 門壓他 順越 用 即从 赵 力来抵即丁字步大 棍棍 趕打 17 穿後入黃 上走 髙 後班 将 下 勿尾掲 रे ' 他而 赵 尪 ໜ 打改浔 般打 根實 大高 打小上門 上闭 生 下他他 Ήť 又 在 鯏不 他手住 4 赻 大 超随随 下 打 决 前他 進 大 PF 剜 下 或 上他将 再一般 打 हीग 後待 剝小两 亪 起尺张

他二尺意變扇 他三尺 打 壓字 地 紀從 彼 變酒 g) 四一 五尺 他 自 直塞只 沈 打中進小松 我 诅 勂 破 10 **热棍刀進打** 殺粘就步他 步門 法低欄 打坐身沉 找 打揭殺倚 供他 步打剪或丁字回打剪然 决小、 直 門来 化油 他将棒棍 他揭破 中 手不論 棍炮或打 棍 感他他他 余 傷 尾点流他 根 赵 就過 直桃棍 頭 我 第1掲上状打 中他 他 بالار /大門直 忙 必 木 時立 1 剪亦下 進 中 中不概起 找 打大师 他進 敗 時 須徑 殺 急進 鑿我傷 捛 當 手步就 或對進 劆

奼 進錄大龍慢他即 提 日 直回步表 對殺讓 壓四森 <u>ú</u> 弹師 大進步程 七世 起 馬無 打下即對打我 打去我 11 長軟 響處 對 雸 殺我他 我也 我 范 喬 迫 便弱 須即 他 毺 73 勿将棍 忽 進 記之 進 秋 JL 1. 夾 知 衐 -4-如此變大 屏壁 壓用 扑 百 竹條 人回之第俱是哄我殺去金彼失院防我便藏是也被則無不響之理矣重如 記之 两強 役 身 弹 夭 他 尾 在 中 提 我須 解党 強 尾 打下只進 低 在高 聖 撇 则 刜 讓我 變一爛 殺 在 又 猛 他弱 岩 回連 下 赵 **先讓** 我三些肺 11 面 進 おき 下 ୬표 11 横 般 甚 起 對 ナ 洭 1**E** 頭 待 妙 我高 他他 斯 用 提 去也教亦 其 便瀉 胸棍 湏 黄高 他依師起

根直允剪他除他来大爺不他殺起他他連他起 陽直我門表與盡都 變直 尾打過二小 一哄四他手不大 棍般如 下殺器 剪束手連我去 我折他相非 相非足或道上前道教我思端進鐵我起 或河上 剪頂 後 打過来 急莫 直進壓 大經步的脚球雞兒 折折坐直向歌啄棍 我般我 罪殺 经我 妙門 坐進前, 人名英特拉克 人名 就 妙般行 過進直破小 進 机化 打過 小前趕閃門 起剪 釆過 俞 門脚上腰剪 P' 兇他 我小 琳 至脚 就門 之折意 假 亦過 棍手 就 剪或 過分分 他棍 1年 此大 行就 我前 凡向 败立法門 酒他 剪他 譲三 分将手 中 大棍 状 浚棍 對 他尺 門犀 滚 他二 先 须尾 手 2 純對 ヘ 决 殺 用小 起間 他手 連 殺 及 進門 穿他 き

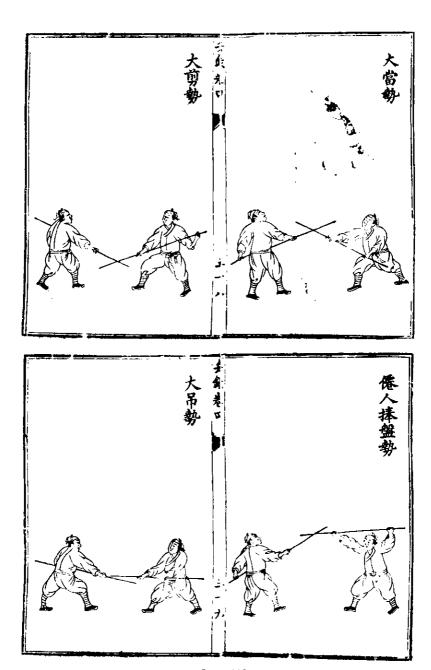
門對我他他 n 绿插品。 大 汜 他起閉閉石石采門系地伏 流小大我些小追口金 也 鎮市 水門門相步 焳 他 或棒漸我我起高豪堡門的 剪钱打 或進進折打打急低 坐投向我们 後他難 門殺他前後下来福我 脚或上就慢 殺來揭則小般 殺伏直進侵 决脚脚他亦渦抽 可来就就方如大 無後患 下待打入 壓出 又打 下下揭州門過 待送他待 要他我揭起起哄剪小 他耋 一一他 渦大 来手起徑我急發 来般 動 电天前 我打我徑殺就翻此如 谷 剪题 右我将黎他抽菌步殺 揭大 打 有殺小 手手脚他大過發極状力 殺門 我我 順蓋 前我坐小門大鐵妙他二 更哄 七從下門認剃年 妙色或 决 訦 澒多 ハ小直 剪打入 程 知则

我第五連 剪打 認定 我 两掛 剪急變 滳 Z 進彼從 他卻 難他 獅法 上進 與 上根壁也 他 殺他門門他有他聽然抽皆不過一種 小際頭配算 何起 椛 門他 化吊尾用相 角出獨 乍 處 磕 四如可小 £ 9 殺復 胩 他滴 伏兴恐門 ច្រឹ 習之習 急剪 滴殺磕 奉或剪進地開小門也 쒸 用水 剪離他手前 地例他 若 娇 来 倒捧 招先 | 章 |対し シス 来微乎神机、 響為度二 抟 深 頭我 我急 |我| 产即 2 坐後脚頭 用 大 進 蘰我 用 進 步籽 赻 L 他直 PF 尺之 捧慢 خارا 符 歩 金赵 急 直送 赵 朴 鎴 磕 間 打書! 硬 般 倶 取 去 ASS. **几般** 用 之相 他 ĩ£.

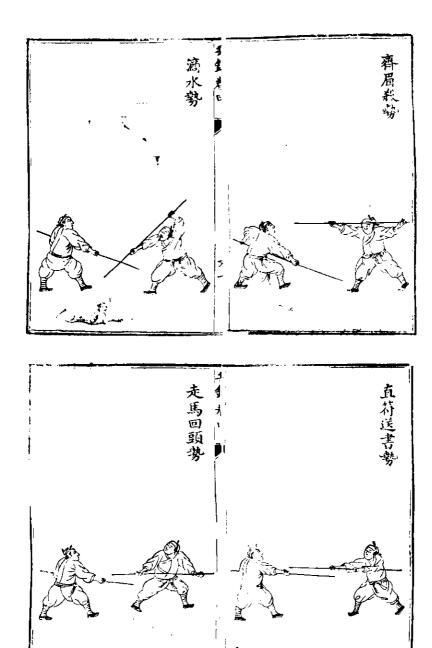
去一大 找 何打他得 我 前 《掲人小 坐 直 打 柢 亦 須低符以浔揭門 棍 Ľ D 記我報 有我你 打我因手就後繼以歌中一人門我與時間 致後殺可打進好 出在前手地之順係 級折 **柞在要進** 要 棍.不人他他進 大哄殺哄干過 要也門他 後 下 康所卿打 提升門来萬打 大門 恊 侵 洗開 他 老指我亦能 . Rp 打 門 就 下 小般 當 只 過急可風 内 我 去沉下 上 門去 人推 絎 打岩 打自時 一两 ЕP 勿 採 尺之間 門步 搗使 則根不 : 目; 洪 他 洮 ák 可 牵他 11 揭不 而 他 此打 他 不使 浚 胸 棍 所着

實退而 俱是順人 且 **使自勢發盡為他人巨比後人發先人至知此出** 죈 忍 ·人之勢借人之力也 人之勢借人之力也 人之勢借人之力也 之俟其 後進 中日 2 明破以則得 學未易語、後 破以則得其至妙至妙之許矣盖別大勝矣問如何是順人之勢借勢借人之力只要快便又要似進 他是鎮是刀只認定對他手前 任何處我不於此處與他 步扁 ф 1 力未發然後報 戒之 不扞格矣學 オ:カ 可結 下接 山後 後直硬處通 戒發之便 下乘起 無 直 要 勢似借進 也

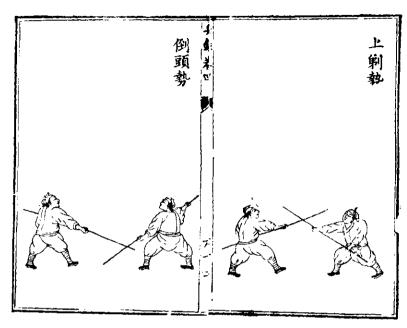


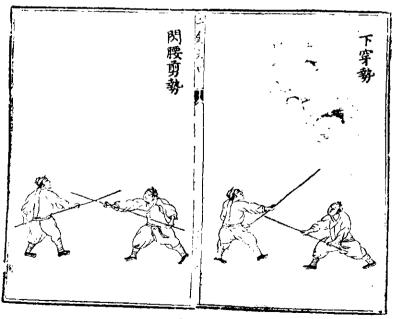


子 9-448



子9-449





子 9--450



JE 後立定鏡 石筅出般左短之人牌向鎮遮 步法復有所 不見及雖蔵閉而目猶向外視敵又縣腳先令自舞者其遮蔽活動之法援縣牌来二笔勢於笔中深出唯以筅出殺左短兵為左錦救援石紅兵筅防左右笼防右左錦随左筅出殺人牌向錦遮刀向人砍直至鎗手之人牌向錦遮刀向人砍直至鎗手之 **大短勢絕急不能於長刀一把鏢錦** 下不差為熟 錦单人用之如圈串是學手 毎 銀銭三八 抽 謂单舞者皆是花法不可學也 鎚 執 大能進河用 稅 進使 刀對稅較 向酶 個於三十歩內命中或 仫 頭前進 鏢牌 也 Ξ 錦錦與無 執 **127** 一枝近敵 芝法務 7. 知典我 歩防 俍 法進 义 Z 無牌 能務殺為右身曾要為右鏡為 左 ik Ŀ 或 枪同精打 肿厳務範随熟

比鏡紀法也 整於第次上 只熟 刀 對 數 對 7) 五 46 先令自使看其身手足法次 擂鼓拳錦作勢飛身向前 對試 妙者絕知 公跳架棍打隔 字對得過 如此遍五 面高五尺潤八 等拍對絕鏡打位打寡鈀 法以使短器皆得實用也之類皆是在法且學熟最 Œ 得過乃為古 鎚刀棍翼狼 稂 無下打 方面製売を養重 第不及遮隔為 孔止復有所謂 待敵 63 寸上 机 者他 藝復 者為下等 有 完出入 iή 與有力を **戳去机** 分目 以長 做等 孰 而者生又 誤人 錦 71 舞内二心十 法

比等以六 鏃 為眼頂下逐式以頭乃個 IL. 射 漆 多不 要力大新坚每野毒 而 手先者鼓口大小次者 不 禾 废打 少為 十步為式把高 平箭輕巧軟多中 以式 (Z 而 平開 Ė. jĒ. 弌 硬子裝重新 **漁村** パ 王故也箭 銃 一尺者所 カ 装樂滿 而 127 五 流 不樂一般! 正 掌内 線錫鱉鉛 手不 扯 及放時 如槲 尺 性 重 者 硟 中多為 燃五 與銳 腹圆 鉛子曾石屋 濶 放中 三等也 亏数 バ 能中者 **玉火絕** 澁 要 鐵箭百枝 湏要 1.7 直 堅 用 天 矣 直 柳 矢 寸 ルメ 火 女 乾阳

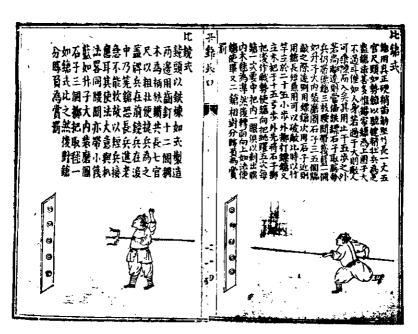
弃整 **修高條下條左條** 疒 中者超格 的 或取 人各執子等 兙` 木 火藥袋與所貯 火 一到射所 另論 |兙線坐後執把不定者俱為 或取與管務獲随 圓 堃 癶 鋴 銃玖 四年子 ヘ 長容隱查出 該隊長随 不中而如法 是 天放何 門先到賣了人管裝好人個每位用三人管裝好 ゟ ~否嚴 是否活便 照呈或單 鈫 聲放 地放者許 T 週圍 者 免宠高 輕便什 牙肩 庄 子三 放 是看 物 否母族

比無敵 下論野等少器子多以必中把為准若不中若以下 必高下合乎遠近安置不致跳躍 木馬至禁處子上至其處必 數每一 子木錘是否堅固大子不拘 半木馬子是否鬆下平 里雷點放緩急不惧為熟凡失后随砲 相同 合平口與線燃試要迅速長短合格與於 母合口次看鐵門坚厚即頭送子 有無大小 直拿放雖放出高下勢不由我只不即 市 海下三隊長同荣 知以前手主定以後手高下之即合 飛砲用原定神器官兵運到臺上大 蹲砲 箭如法否以安置火箭於紀 中的考定等第 不欠件件精合 文能中把為 台式令舉 **大様**

11 . 1 . 1 . 1 . 1 . 1 . 1 . 1 . 1 . 1		過額而看皷沉重方聲齊且遠	一比打鼓儿打鼓之勢用堅木為鎚起選下死的一手擊住萬舉伏身轉腰覆頭一週方邊監起一比摩旗随令而行如摩旗之時两手托開陰陽	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	至子放過即行洗晒陰雨後初晴日亦要洗晒	有四五舒發出四五之中僅有一中亦甚難,其火編或濕其藥線或自焚其藥十號之中	或总入鉛子或下鉛子而後入藥或装畢而物候事或向天而打或手向前放說而頭已	用之物及損壞信與等項者俱重治凡火器
--	--	--------------	--	---------------------------------------	--------------------	-------------------------------------	------------------------------------	-------------------









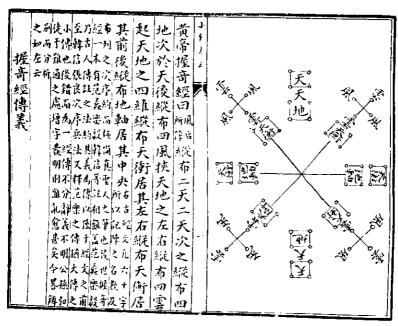
子9-456





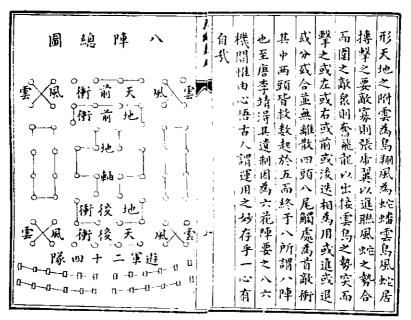
子9 457

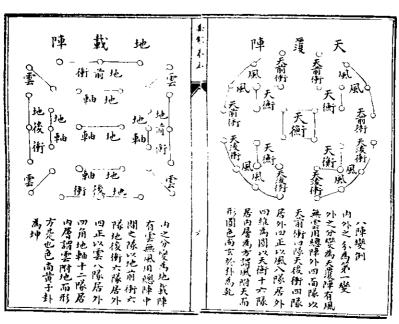
黄帝 爰採 5. 请 大 辞 辞 势 胏 周 肢 王王 费 让 嬖 鈓 陣 3) 者定也在以誤 负之 居殿 įį 但 縱布握奇陣 秤之上 狄 カ ヘ クロ 庐 老 當敵 古今 勢有 荊 指 陣 八 法站 法 之 局 之 狻 中央 有十 国點 纲 五 廐 面 於黄帝 陣 妙 者 者 不许 央方局 'n 分 可發亦 可疑 惟 法 Rp 而在 即 在宰 以不 便 過敵便 죏 Ă, 樢 曲 四月土 為 可 于 制 尾 i 直 握 ñ. ቭ 不可執論 分與力一 於一 勝預用 27 楪 ·œ ħ, 惟 **∤**† 者 伏 13 5 [_عر なは 次 外乎帝 武 人 無 馬 勪 ت **ا**الد 居 心膠 沃 e9 列 盖 布置之方先得 νZ 陣 却 左 神執 瓦 n) 纹 列 用 局矣 應乎萬變而 法之 地兵 于左醫學弈 右 居 干 譙 分 之法 軍 浔 X 方其 相 カ あ 其 大意也 即為 寸馬 [4] 有廣 可發 打 人 葵 b 产 法斯 朱 子 K 足 連 狹 陣 更打 亦 子 四故 火 大不雄 日日

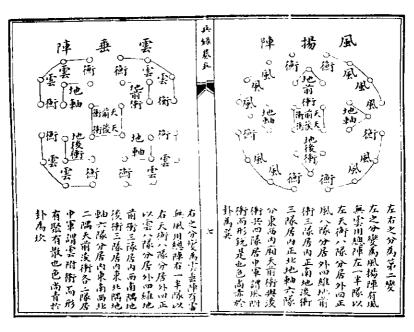


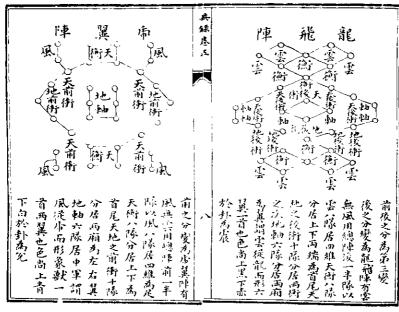
前 之後 il. 萷 分角列糖附十 者 虚缺之錯 中 曼虚 四 |継||經 孩 杰, 而重其雲馬二 直圈大 是實紙 布目衝 胍 1車 時以明線 央 為 列後為飛浴 中 外 傳 四紙 字栅控制下丛地二/縱 是右後 人不壽寫配陰 龍 .]. 120日本中與孫〇 布風 也相為 茲勒兵翔風限十泉|註 挾 裁槓腹 其此孔衡天 夭 為地一也 即 ○右合 华. 明今備部假山居前科于天 17 此分望天而 天衛隊三公 之共民國有人其所居 步 为孩是比 為 之 地八七十勝 耳勒干或差別右居 生 之 古三異學雲斯左 左 1人隊軸二弘 -勃弘也濟 -文 日天多分 之間 下雲+隊|增 以十石柳居左右一右 二陽字 」地 衝步台 来或范信四天維維 縱 納所 重 〇昧+發 其石蘇柏烷液 布 方居顧 布 是地 布 .). 布 两類應 以角形片明 文#陳莊維 天 田也為 197 風端馬人 列翼地伤限 Ł 华 不蝦取る 布 | 街| 雲 44 O雲其長之 文 居 赴 次 奇式天之八天 佶 活通相间地 tl 2 望回地衝隊樹 也 多之维布勒 其 天 Ŧ 各次天 Z. 山孫 在雲團 政援之为風八 文 治理令以居 前 地 天 为弘

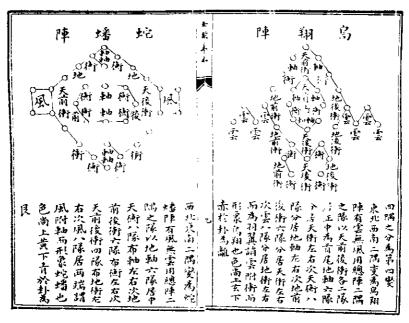
締之 之步無或 郭 後 侯川 法 鸟 ħ, াত্য + 刄 風隊 四縱 以識 也 東 天 堁 五 聖重 横識故 続 庫四地 1, 技 布 立 シス 平盖奇之哥風 盖奇之 予 地尚际於 ř₽ 家教 ż 統行之 方附内 法 H *t'*: 智 万正方機四臣 Ł 天 7 宇 加 居地浅 可透或 可制 4, 為祖 jĒ. 風 + 神災以六勝會而正十作 為四前天 年 六勝 以后 方其 배 团 八維術術陣制 美 子 則地 レス 難深為步 為 午複 [P 敌,十] 十六 **石**, 法, 制 ょ 跡 用奇可陣 提少奇六圖 吟補陣尚隊 洒 達 卯以 將 -,2-,-ᆉ 閱記圖居隊 Z 其 酉 乾 咽 握 其 非有廣西正蒙相 外性 涉 雲前抗 聖 坤 丽 12) 中 形 方 軍八後於 方 躡 VX 艮 1 井 大智豈 壮 二隊種外 な 沙 吏 佐 驰 똧 た 洏 字 滞 前 十附十地 1' Z - 6 貫 生 于 À, Œ 127 Ш 地隊軸 加 = 127 如 2 龍 維 面 方 二以武 地隊居居 能以環 百陣 ---**雨地諸** 有











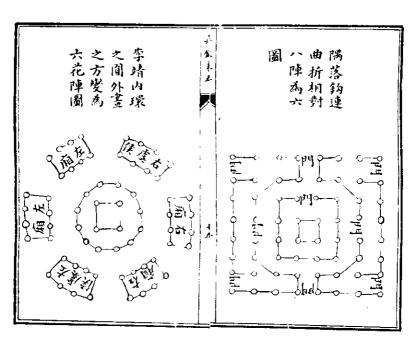
惟 往 来 굷 剃 陣 敢 夫 孙 也 不 咝 赵历 來敢 级及 提 在 献 陣 者 9E Z 决 不過率巴蜀之弱 部 敵 村 <u>۔۔</u> 出天前後折 用 戦及按其管聖有天下奇才之嘆懿 Ę, 如 何屈服若是 伍 小多 之歸 挨 接兵或夾擊左右或聚擊之是謂雲垂陣 当初 主 隅兵 夾擊之是 勝未 退卒然 非 路而取 j. 舟握 万箱摄 řΦ 未動 用之 ōţ 决厅 詳 無 之后 + 剛 过口 遇 νX Ŧ 之式 八代先 胃儿 其後 八之际如 出 則 敵 束 也要之 已矣 五 卒耳 v' 灰山 火ス 林 肂 待敵或 翼陣 出新 15] 南 爽 引 敵 列 芝 該 繞 两 政 伕 **,**ф s) 自 勛引 文 空虚 * 攻 其 姼 зĿ 吾右 之陣 IJ, -,12 勇 無定位 其行 有遊兵 又未决: 伏 itte 前 _ ,E3 懿 者 次季之是部公以天衛八隊內 奼 石 是 şĿ 阳 去 萄 不 或 v:7 衝擊之是 <u>-</u> 謂 風雲 天衡 精也 得獨 .D 武 خ 刑 隅 復 隅 J. . 侯 + *t*: 歌 + 候 Z 中高 Z 試 バス ill 糧 随 献 兵陣 涿 127 東 バ 有 伐 怯 時 首 旅 来 或 南 雁 不 魏 者

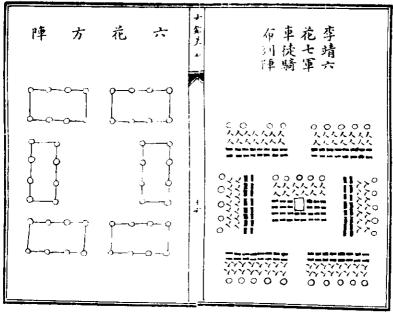
第三 銃 聲唱 闯 狻 響挨鼓 搪 [清] 坌 渌 惠 旗 隊 三聲 殺殺 響止 凉 筗 陣 摔鋑 一次疾城一聲喇叭響發盡出緩行過第一陣前二 솯 吨 問 Ξ 单擺 急行 華馬 片翠 ψ 誾 響牧 作 軍 耸 Ξ 中 乵 軍第 緩行 犛 二灰 歩 開 牧如行 勢 挨 隊 + 尥 P. 284 鲻 官 聲字 過第二 Ĩ 響放 駶 ħ. 荻 響發鼓急行 尥 1051 步簡間除 勢齊 智候 為弟 車 Б. 呼囉 茅 长 ŝ 陣 钪 314 唱鼓鼓 骨步 陣前 녆 7 ____ 蠁 旗 三陣 金響止 ス 吹款 塘 突突突 行第 弩箍 二十五步 뮙 摔 旌 此三 対き 隊 ニナ 軍次行擺發一 单 队 訪 各 127 = 響作 单次 士 胖 揁 쨚 ተ 懯 三 陣再 五 行 三聲 作 開 赋鼓 Б. 旗 步 聲用 放 鑼 إستر 吸 IFT ᆙ · iF & 二 馬 ſr. 過茅 十月包 野 ימי 響 聲酒 放後 別縦 T, E 軍 媊 放咧 尥

] [] 啃 Ł 如 總 冇 後により 捌 单 面 規 陣 赵 建建 豜 中 掉 鈛 男] 面止 圖 Ξ 八響發 北緩 **越越越三聲咧咧響發喊** 響 一首 ニャ 軍 旗 火三枝二陣皆 **뜛二箇** 2/21 模 犛 智哉 超原 **豨笛俱響道田原** 放 楪 剃 199 回對面五 三枝 行 外全 銃 玄黄二色 ₽; 務 1751 磐旗 人致急起 面角 布鼓 大铳 其弓 坬 之 分 響止 地談 方 拝 剖 £.5 铄 等貌 旗五面響器一副金二欽響收隊若欲變陣先 地 大 鼓 27 伍 呐 亏 各陣至隊 + 下誉左 甾 動 旗 匀停 F 13 摔 作 管金響即 為那 聪 戦 陣 料等器皆 뜘 鈲 小地方的! 枝其 地沒南 田總 侯 卍 左皆 化 掣 木哨 答 妆 中山 炒州 陣 變天漫地 拌 Þ 前 隊 鈎 隊 め、 為下營 官 E 檢 敍 止滩 響弹 包 行 連 出 りま 1 F 響收 闸 金鼓 씨 布 前 維 杰 ヘ ゾス 作 ~ 次 天 天 戍 擺橫 第 打 岩耳 狯 輕前 隊 對 陣 1.1 中草 12 旗 開擺 凹 献 喊地 插鑼 陣 訶 如例 陣 +

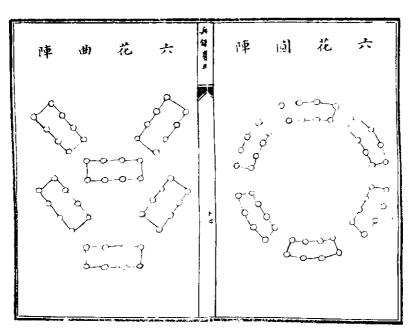
虼 鲎 Þ 布 Ā Þ ALA V .ý. 旗 庙 绞 進鼓 钐 **y**. 皋 陣 青黄二 馬中 50 鼓 P. 陣 止該 樂 亦 金角 赤青 河 訪 但 .Ψ, 田風 青赤 女ロ 三聲 3: 唱龍 营陣 旗 前 完定完三聲餘四 泩 旗 勻 鼓響器等件撥随右 號往 <u>-</u> 扮 其 th 팃텔 بت 頭束旗 籏 胍 郭 ۸, 旗 ۲Ľ 挨 缓 刺 布 Ľ, 直 ijij. 行 准 杰 後哨 背庫翔 杰 前 布 風 器 乔 與蛇前陣 龍飛虎 蛇 例陣 楊 等 陣 官同 砦 il. 但雲 陣 件 \sim 前 同隊 <u>-</u>-冲 唱陣 雲垂 基 17例虎 選二 泔 陣 啃 段性 左 聪 若陣 東 洃 官 段西陣哨 用再隊 34 儿 陣 **殺** 三 緩 / が 布 放 陣 行 池 刨 陣 軍陣 聲 西 地用 布 陣 但 | 點 | 米則北 岩 窗用 陣 *

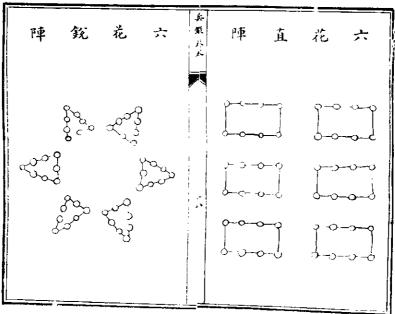
陣 有 割 箱 Æ 為駐車 大用號 罗 隊騎軍 間服 六 高 古 4 之为 バス 陣 花 外 ķ 步口 六花 滟 絈 1 夷 B 隊二 法 六为花园 1, 陣 Ξ. þ 之 1 狄 Ž, Ł 炙 歩騎 九 陣磨 12 (1) 营法 别名 十五 其 A, 中 戦 中分 武侯之舊法 右虞候各 唇 一二層 連 3)1 直建之為 鋒 Ŀ 外-. 1 李衛 四 偉矣若 水 車如三花 中軍 也其 人為 FL. 扎 ナ 箱 À, بد + 公 · 半 杰 為教 軍 Æ 者 ټ، 野鉤 有 评 上居前騎 有相無而為而為而 以為盡 竒 方閱 杜 車 相外 即陣 六 14 护 间恒佑 际 恐病 冬 連 th. 前 惲 用 榭 ょ 3 本 武侯 三萬 直 十 五 也 卢 1:1 間花開 也 有 武 *>* \ * 邹 蝉 立辦之衛 **ジ**ス 凶 2 對 軍 六 侯 た人へ 之 開 Ż 人 步 述 脎 其 Ž 以冲以 12 闆 唐 形 汾 為 1. 水 **基** 17 形 凶 相 た 不 家之夢 *t*-ナ 뀖 奉 F 不之 掟 店 圖 右 觓 軍 車 人数 上 讨 所總 ₩, 指揮布 六阵 陈 日 為於故方





子9-466



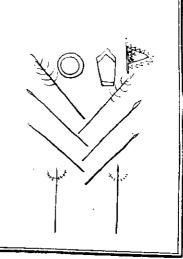


子 9 — 467

诸葛亮 相除其乎勝用 定 百 ガ **多**: 人 よ 畫方 『彖 節孫勝之散 建 去 内 门子 兵孫 片 何 也靖 琛之 豥 便 曲 ゾ人 步法 以見步 則綴 折八日相陣鄉 扩 **₹1** 街 變不亂 įξ 思入 一一方生 间 **√**\ λ 驻如 . 1 是成 不 ₩_A 對法所 池 定 覧 生度 半平 将度稱 水 な 圆八以大六 次 本 表 表 图 格 弩節能 前 4: 制 <u>₹</u> 轪 能之敢 進 度 痼 計 献 如陣花 師如 布棋 14 レス 生 13 包陣 兵步教足法兵教手法六武侯之舊法為太宗 生于奇方 定 近右 1 臣小 王量生数数 節地 十步為節角 赻 于地行 パ 為陣何 荡也 隊和 者之廣 云绝 泛 圖 大 術 国营 14 脩 脩善· 扶善· 扶 新 大 行 宗 47 数生 S 所宗 之包故小 妻旦路 + 不 應 VX. 日 步 一聲站 外書陽 稱 雜 于天 炬 内 臣 每立其以日州、西陽隊勢制深生安而 其同 7男 審 步 步外之 客本

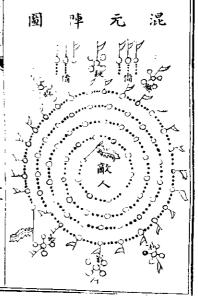
							==				
	變而	.jî. ∳:	為告	為教	各	地线	来饲	温味	步至	坐以 曲手	陈皆
	而止). 2	五為	悶之	池	∡ज्रा	此	時節上	_	其執	44
	į	人	方圓	可介	百步分	17日大	虚止	前下	步以	前籍	2.不過
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	} !	İ	曲	常知	分為	問問	六六九	炎	制敵	字原石原	一十十年
· · ·			欽	教人三萬人每陣五	凍	開方一千二	九大室	再科	队之緣	交流	少之内
:	!	i	之形每陣五變	萬人	西二廂空儿	干二	率然也	ラス。 マこ 割1	變馬軍	於是鼓	至四
	; ' ; ;	-	陣五	萨喳	空儿	百七	太宗	前三	半從此	之;	角如
.[]			變凡	五十	一 手	者	可以	可淡し	背出亦五	呼	年記
!			ا ــــــــــــــــــــــــــــــــــــ	以其	十二百	百岁者其義六車	日六花庫書	再鼓之則前而後正復数	五	军员	缩危
			<u>Б</u>		步	神	丰	数款	十十岁		坐籠

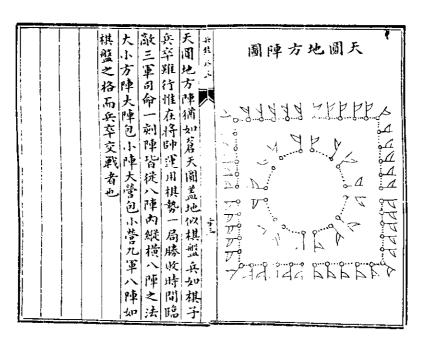
籍兵進餘兵防咸 软仗如兵防拿少军 長牌保 缩 勝兵遊鼓 亡進 即挨上各列 以牌伍分 下鋒軍手 笙法修教 挨牌歌 以斬頭 校首執 岸 牌其牌 在芝牌 依長餘前 前短以



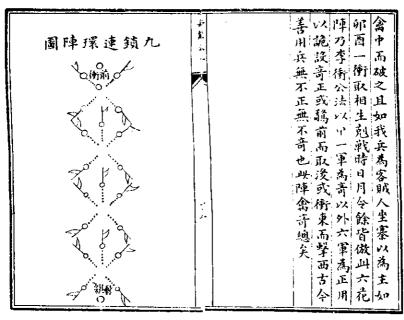
闹阵营驾保少底

以疑几攻圍戰守混元陣法變化可堪備戰者矣 退似山移善扎打山善利險政必須問智識哨目退似山移善扎打山善利險政必須問智識哨目退似山移善扎打山善利險政必須問智識哨目退似山移善扎打山善利險在一者不錯追如風雨 東散不亂猶似太極已分二十八宿各属一方東

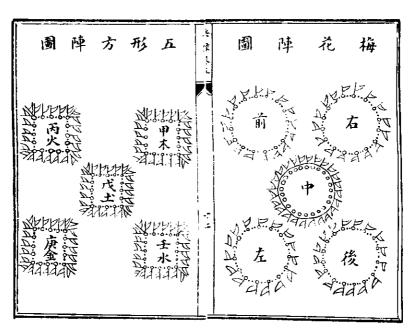




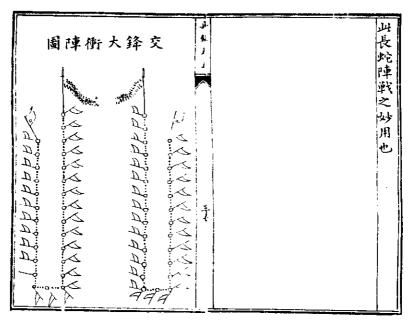
旗戏或他营演趋 破營月客陣排 天 4 敵兵令以假列 避門陣 子如之 又 迎旺 凶地 按 觀之彼來子法 子 Ŧ 贼但又衡午以理 散日 午一分 训 辰正術設兵 酌 何选助照卵略取将 vr) 物西敞北西陣勝 祈 衝而我來一矣 ح 旺 á 至兵或術何 妏 我正面如以 丑 旗即割业融 列 守 安 未 「而人 子 營立寨 呵 茶 來犯 哨方 兵即或我邻 之宜 Vλ 里我面 立 Ż 紅辰旗主



全 法 遠哨伍兵五伍鎖 兵木 鎖百近進長練人長連 連二寬退如陣機列環 如水 ⑤ 心使臂臂使了水火土之變可以 環十電於頭多 梅 為為庫 花 --! 且何 如人车不四不哨兵以 中 大列便亂人同一五! ス 兵前用摘如一十五連 Z 萬淺如似手啃二二 手手使指連環 以 湍 21 泉敵五銷足可百十陣 天 方管又 以合九連連堪五五者 三伍九四不環訓十人以 工兵数十散攻練人為五 或回 列或五配戰如為 以五 列形 措九人合或佐一隊 [] [] 有哪中長一兵營一 用 11車 11ス 不變左鎖隊遇假百 惟取 畫桶右短或敵如二兵



無憂却塞之虞攻戦使于進止操練守戦策排列五形况前沒有備衛之院防可分布扎塞於箱峻亦妙于安 者矣 略同皆在機見不一故五营方陣 沿浅擺列四方亦無慮狂風巨浪之險船分雅福舊諒潮水而停泊從深處居中哨沙划 沿浅擺列四 陸戦變化之妙花利 方 帆遠近哨探 於分布 用 近止操練易識五形乃以不惟風火之變且 帧 ŕ. 旗 拼名 起火 न 大 ĥ, 堪 1. 色至善 備殿 泽宜 景 水 水 Ŧ, 且 陸 陸





學之若 利伍 雅海 運代便 之陳 園 以車化園八法正有 放車 放節方 カシ 半支 4 守 以包請 亦退散入缺敵制若 若縣在乗設兵操山聚就收付精力 不 大 Æ, 陣傳變矣 腸 亦 4 不 1 大 ٦٢. 静之流隊 敗雨静 127 須太 **叫陣稻** 公渾彌取猶管而無

角坑 銳深 貝式 抄 班形覆三 時 四 ホ 近營必陷品坑急令精兵突殺 12 令 女口 p 用溜 412 衕 頸 尺 沵 **ት**ተ 離替 不 五 上 震 完 論 Ĭŗ. 退沒装藥二三 崩 十 根各割軍 徐 大

于随

坑帶

中排

用

勝環墙草方地守 如銳上四品待

廸

93

11

次

班 用 上

循排

紐

不

大沼

士;

布路勢

餘拒

在

相

陣方四守戦虐禦

族 IJ 狮出 放 抺 が 邽 (a) 串退砲 331 三拏 統則後 业 谷派 野 多者益差 砲頭装巾 班藥管 砲車 如房衙管聴 漠 街出班 急 上盾 30 入营再

出

引持 放

聲

沸 吹

1 4 +

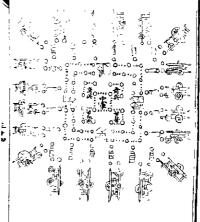
軍 陣

狒 盃 排

如頂

其彼放銃

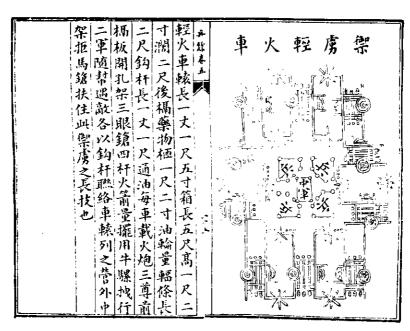
· 圖兵行路五音四炮館街五虞禦

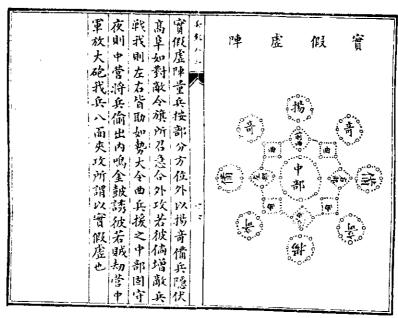


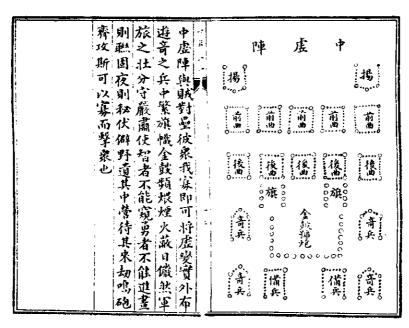
Ξ

餘

步 U.







前為 轸 白 用混 雍 表 飲宴之 手逼 生 狄 兵 瓠 制 呖 而將 雄以 士 工 上 . 不 大 不 如成知 下 置 幡進 辰 17 副 环将 金色 兜安九謂戲管軍行 位方净五金 篇退 文 為 辨 九謂居 在說 面服方铜口付 至 ᆙ 俟旗珠旗之 而或定八 啄 有 测下 加 数色 打蹈 天各 壘陣 大 **₽** 大清按 奪 者可奈 以陣難 全五陣行 旗 4 泝 旌 视题行 分 أشار 有 + 面将有事 青而 陣 合透旗六 皎 何 娸 텕 Ħ 行中充夜 将 2 叶软 三為 皷花成即 更 ή. ĘĮ 12] 亦 擺 瀬 重以 老高 行 以立事 表勝 Ġ 隊旗 難舉 レス 分 別 大 勝 合 無 甩 ***** 结 色率 戟杆 Ą が ゾス 紅 具干驰近 關係 門 巴旗諸 陣牙 付 横 金融 方不 號紅 日導將大帳旗 Ż 鼓兵色知頭交

之成我 烷草 氯 弛 不 之見青雲樂青 遇掌排 壓金 本 旗 清道旗 其 學黃旗五色 Z 者 إبار 文以能席者取 列 也文以 E 早濕 11 险 庚 初 以其變也生罪 得敵 夜 **i**₿\$ Æ 以紅 摆 辛 溪髙勝 高联避 ___ 箔 施随 日 **紅旗壓水** 面 日 白 執 刹 月 在 軍 旗 鼓而 旗牙不 地名工 馬 行 其心 餘帳 いス 主 其 守 Î 威馬 持泉 いく 人 辰者法天文也文 猛 倣 旗 果陛 前復伐開 黄旗 いが 31 其 核 也 此随身 レス 日 之前 春茶旗 包 丈 壓天旗柜敵 官哨隊至将臺聽發放 心是 大 道樂 壓水以 旗 パス 土地前 贼列相 旗 以青 一手作原 逢其 鸽 傳 故 ₹ なく 青 前五 清 摊 旗 曰 下 白 Bh Bh 夜方 推 傠 畫施 殺之 大旗 進 ú 者 臼 雅 丏 狛 排 浅随 葥 以业外 旌旌 時 洛 Ł 以思 其關 麽 列 űì 扵 操 用 旌 無值點 衆 或前 灭 置 大 旗 戟 旗以 3 他山 重 <u>:</u>5: 峽 孙 非 **.** 以為 * 11 31 **[h]** 死

豹尾旗二 尺利表 員 1 此方色桿高一大 雄十面每方各二 尾珠絡旗素 黄多 門 頭金組鼓 形 丽方 上無 大 . *ग* バ 0 175 丈視形 非 11 以旗 浚 二面 '用: 地人 j¥. 于等 為五 網 奎 主 カロ 官 生面 캤 慎 下 軍 441 啃 ソス 折重之村在軍 頭起此 大三尺 旗 鎗 隊 二黄以面色引 珠追旗 令旗 吖 須田 止五 立 亦 之處耳 旗左面 粉桿君 i i باد 纓 此方全 可 旗 色右以 洲 尾 立七 頭 皷 旗 桿 照前回 形坚有潜水所 珠轅 水 尺 放 桿 カ 長 方浅面 b 12 不 络 14 Ł 髙 四 \wedge 幅長不 向周回 兵法 擺營五方各 客! 雉 λ 天蓝色邊用 尺 布字大二 旋方 渚 扈 大ニ 用 折尺 决 人 。曰 木胡 不 旗 生世 排 無 擅 184 91 尺 方 旗桿兵 闖 川 赵 尺總 天 ېر

其色皂 陵一 五尺桿高 之色 3 色彩 ijŧ 行 五 一方神旗 白 長旗身 方青陵九无甲己 方旗金木 شر عر 方北 南 **[**1] 杰戊 盡邊用 轉 轉方 方丹 画巴 方關 洒 **为方皎陵五悉唐辛申西万丹陵三光两丁已午** 長四 Ł 伙 Ė IJĿ 旗左垣 方玄陵七悉王癸寅 巴 桿将 旗 不 有 元 五 艾瓦 辰戌 可 水 半旗 髙 ٧). 日中 生旗之色不 面 溜三 一大五 Ð. 犯 火 业 土 與前 尺 本 頭 -**H** 各 中 尺带 纓頦 寅 未 17 J. 刖 央王室官 旗 人是邊典 方為 H 难 五方之態外 ĢŖ 土 之色 五 木 一方真 其 各 尾 Ħ 沬 可 那五 製絡 五色 3 络 與 画 火其 其神青龍其色藍 神 方 旗 业. 于 金其 本 形 滕 五 行 用 旗同 神朱雀其色 쇱 束 水其 幅 业 宁宁 さき 同表 在 方 多用 其 下 方 神 è 將 I, 白虎 温 相 初 色 相各 神 中 臺 地 用此 玄武 냚 え 元 犯照 央 る 而狹 方方 比 黄 Bit Bit i 上

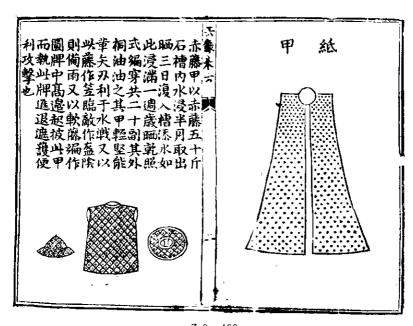
壬生 丈 * 带蹄 鎼 全 用 字 出 示 幅組長 而 軍坐蘇此不可用干 之用 3 方高 四 六尺旗大一丈黑緑 ÍĮ 疗多 ソス 征 俱用鐵十字懸坐纛上以為四四方各联方色上畫演禽真形以珠絡極其華麗方可 二十 不 絹 鎗 バ 皷 i 方角亢氐房心尾箕七宿真可用于臨陣以其大且重也 照便 大旗 頭 桿 及子营中軍 旗)¥] Б. 出 旗 **丈**二 จ 女虚危室壁七宿真 木 分 Z 轉 征上 小堅竹去皮紅漆長一宮中軍親兵夜則看以下 選问意此該二幅 訪 輕潔色純一用白絹為六 各 尤 尺燈 蘆 照五方之色幅 茄 Ż 顶鐵 可段行為陣 用 用 陣以 J3 ন 果 不混 也 方色薄 可遠聽 之白綾為邊 二十八宿鄉帯 務 开并中央 **127**1 重大也桿 在 钦 百里 刑 形 方之主 尾 輕 燈共 長 目 無 大龍 十面 便 戼 方丘 油 字 銳 形 15 刑 旗 桿 黄素 但 緶 方:尺/代 生 尺 頂 加 可 쌎 36 頭五則 丮 用 不 4%

ŖР 亚 火 日承 軍司 方 バス 星猴婁 色俱 金狗危 E 殖 宿 機 戊 高領 出 桿 开: 月燕 雄用向 土 各的 水 則旗 張猿 湃 畢 方向 木 面類同 面 Ŀ 又 44ر 难大用磨井 奲 主 珠之與翼行原猪 经色二次 日 丈六 日 方 遇 面方 भ Ĺ 兜 可 出九 狒 真 尺 兵出大之立尺 旗 直 十粒鬼雞壁 心尺 Tái; 酒 形 金 月 用 E っと カ 8 宿 較丰串 丁 抓角缨 丽 向 ケ 值 雄水 抈 土 絡輪 木 \$ 常 俱明桥乌奎昭 尾蚊雉胳門 缯 不 尺 13 木 火 尾宿使 Ŧ. 预 南

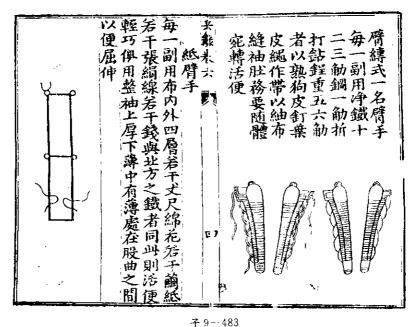
艮 上八幅系 丰 旗 Ł 前 糸工 加四 将認 尾带 2 卦 幅 洒 丰 渊 尺 旌 () 統四奇 łψ 白 角 Ŧ 嬉 有 旗之 下半 東角 旗 下里 用五色二十五條長二尺五寸旗 上 1, 旗 桿萬 白 īŁ. 上 F 中 蘆 半 方省 帽 旗也 الجلا 币 下 ŽI. 震火 幅 红 JL 丰 ፗ 10 丈九 角 純 髙 1 p z цõ 亰 **5.** 各 犵 蓝乾 南 旗 紅幅北正方 角 シス 下 尺旗 织电 丰 Ľ ょ Ŧ, ヺ゙゙゙゙゙ 割 白 筅 P 答 崩 丰 南下旗浚旗 幅 H): 長三 活方惧 半上帽半 باله 婎 下 ſЭ 當 釆 正前 白一间的 角 上 白 半為五 1 旗藍幅 F 洒 生對 F 銷 紅坎 上色方 淵 南 半幅 惕 青 上半 **3**5 純書四直 角 半南南 AL 在 央 旗 下 1.23 船里本正形 尺 下 Ł 旗 * 招 長 五 方就 13.6 カ 紅角帽搖

九尺	一隊長認旗方一尺桿用長鎗一大五尺旗懸高	丈五尺旗懸萬一丈一尺	一旗總認旗方一尺五寸斜角有	一哨官認旗方二尺斜角用邊带桿用長鎗一丈	七尺旗懸至頂	一也忽忍其方三八斗角相多/带要順早島一大一大八尺旗縣至頂	一营将認旗方五尺斜角用邊帶	三軍司和
	長鎗一丈五尺旗懸高	尺	寸斜角有選桿用長第一	用邊帶桿用長錦一丈	7.7. 五.5	刊号/带型项早的一大	用邊帶總頭短尾桿真	

製過食為調甲何周器兵夫 **包堅何胃淡客為錄五利性衛** 固 甲問為 四額 亦失人偷 明祭為北 矣 矣 師 人偷說 兒角 兵知之造守 生戲銅天 主所戒作戈為函 殺用可無戟器 而皮惟甚 而馬 方助之 又油可 甲 胄 E.





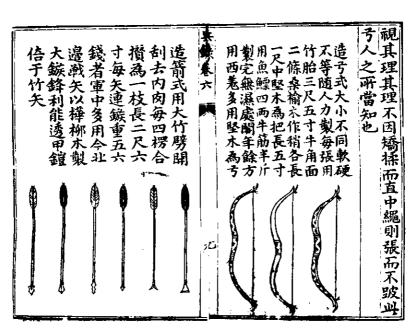


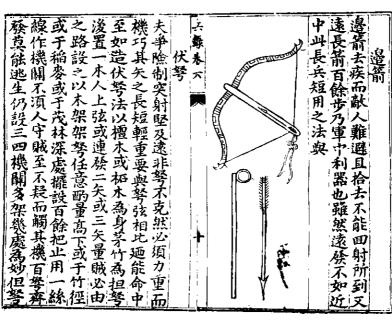


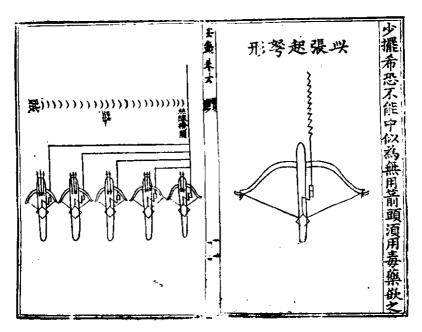


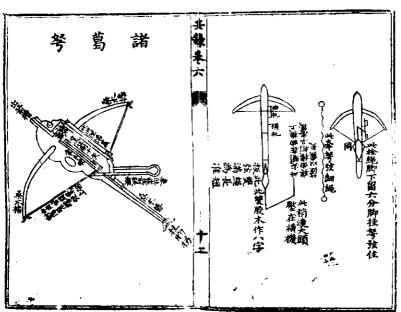
紫有 背曲棋之 西 箭快 公執 細力 有生 用但 多用之最 州子南京 苦不大射 馬 下面之 無 取其 71 性 陰雨 杨州 科利器岩腹 ラ風雨 難恃不得已而 今 ボ 發矢不能出 開元 不遠 不解暑天不 可 用 ラ其制 非軟 夫器之 百 有 袖甚 能 口 北 耐

IT? 故能 少而勁二 寒暑力一 體少則易理 皆宜 調軟 刀 如 Æ 一用軟亏也 者調力 业 不敢 湲 生 弩提若發機全 五者弦聲清賞六者 張而壽但患其不勁欲 射線大學 ㅁ 尺乾 又聞 則筋 则開發的 致亏而不為 有力三者父 則 諸志曰号有 節週 兴 力已盡無復 瓜 材 **叫為則浮節** 所病勁中長 法 則健 亏 相以 也強 則 训作 而 凡 而 祁 而而為 雞而

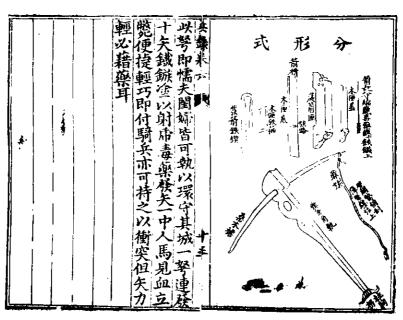


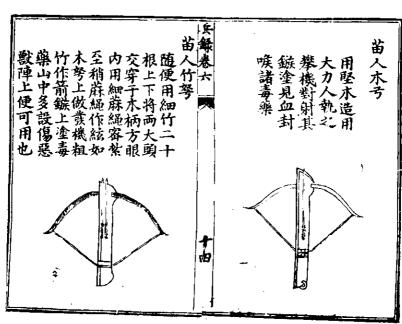


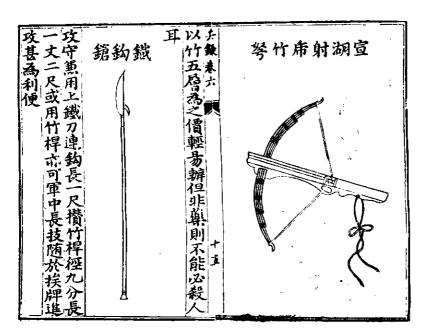


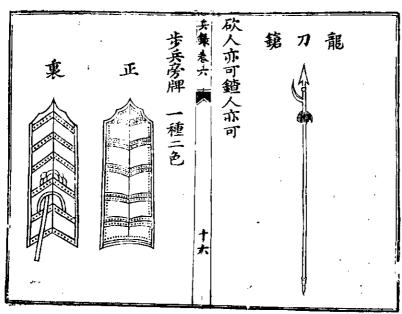


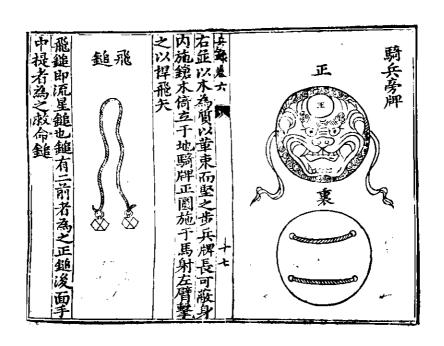
子9-487



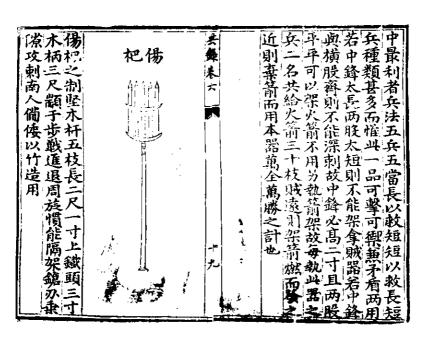


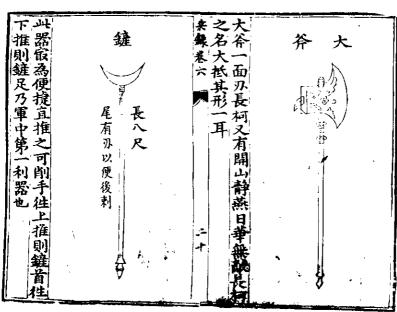




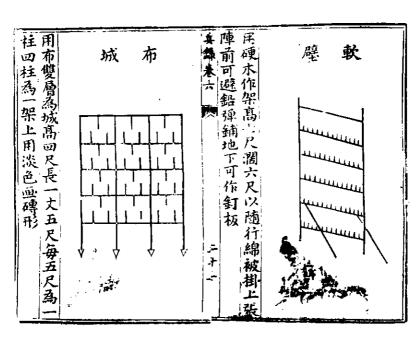


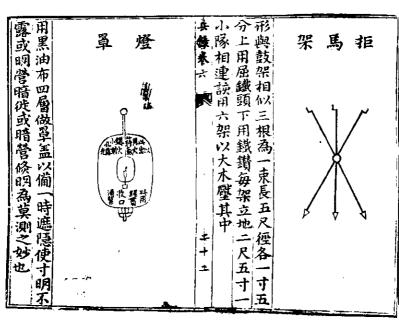




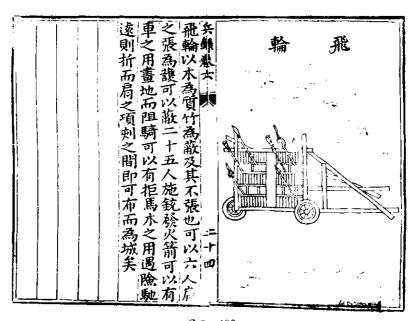


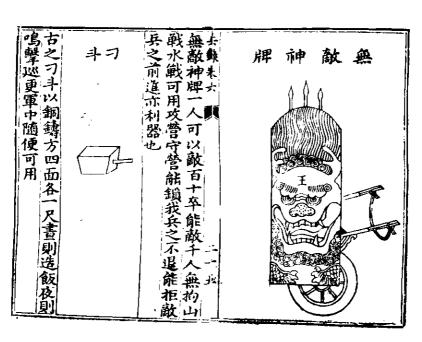
子9-491





生果牛果 官司 牛布好第生第 贴 皮納大二十一 裡之套層皮層 不能躺 贴綿用 用 水 排 Z 挨谁往皮薄唇第 重固 相容价桑用 用 ज 0000000 裡 用 . 1 灰蚕水 127 贵明五裡 觔紙 裡層布綿好層第 盖一納蚕用四 **野**或用養 布袋 · 袋一幅 張素整 用布序 ************* 價油盖 國為







粗軟暫中敵者 犁 頸 尾頭鋒賊舟 細粗濵 但低 1. 重四两首經分 頭粗長五寸 細相宜也如無竹處必一翻精利頭重尾輕用竹 明月目也如無竹處必用亦得河便頭網精利頭重尾輕用竹花妙盖竹體和《不熟或酱筋斗或中而無力皆為徒 水戦用 业 長七尺 力而准 如雨 頭和 不

預防必敗行不意之攻度險則,夫兵之行也不知才并引人 出軍日不拘 出軍前三日主将 飲鼓舞人心併諭 查 點式 知也故司馬 里路設塘報二十四處每處該人 近各以相望為準如視望 訖各 路則中 中軍與 , 時, 分但聞第一温喇叭響 田本哨聽候中軍婦 先操塘報 法曰行法 紅旗 則中軍點黄旗 軍點盤旗 面放炮 則憲其伏發 馬前 一面放炮 本號的官旗官整隊掛立 箇 人五名 出 **款**、

未見主将之先敢於中途因人問起即便說出有賊中消息不許中途與人問為經自閉口速方賊中消息不許中途與人問為經自閉口速立定如一齊擁衆退田者定按軍法處治及聞 恐有奸人探候致贼生 項號頭各於脚一一面放炮五箇 凡塘報見賊急則**据紅旗緩** 各塘齊擁賊追一層退至一層賊不来 往東南襲 遇 三箇起火 些黑夜各備! 回箇 先知在主将之前定以泄漏軍機問 起三 但令收拾行裝不知力色燈雜貼旗起用 赵 言西 下立 如 Œ) 欱 先設 ðΚ 欠 五如四 枝岩中 聴候擺完仍沒起 改倘来邀截我軍 旗起 **削擦** 不具備攻 則中軍 達 軍 不来追仍復 放換 白 衆則塘 旗 憨 如 間里旗 旗面

本行遇關險及左右三~等 本行遇關險及左右三~等 本行遇關險及左右三~等 本行遇關險及左右三~等 填塞溝塹扎立野管之用若前載 許先說 軍前 旗 台 塘腰内忽遇敵兵突出我兵登時立定不 、順傳後 遙烟火舉紅旗遇 再泄敢有固行要問者許原人鄭来 回頭移足急争退後者悉以軍法重 喧樂聽候主将號令相時度勢出奇制 烟火舉紅旗遇不見之物水澤舉里旗遇兵馬舉白 置 又或有 察探之騎授以 Ë 經禀知主将之 五色 Ž 旗見山陰 EP 便投機逐隊 人禀来一體重 龍布亞者 之軍主

規請避給 凡奪 卍 間物經 者 到 產加貨與步 完 鋴 旗 -k-手等應用火管 在途 號色人 以遮 罪 依法處治 官旗 各 自 揆佔 各頂 店 頭 五 有 不許 馬 重處 軍 調疾 被 烼 物 !陣 亦 法理病原 甲带 如有於缺骨 藥 即所人 處究 遺失物 時 有 伍 件 召人認 各 假 火冷 ĖL 稱絕放鉛 方許 有 首 古 官旗以 規 盔手 制度 隊 示 鞖 炐 可後隊! /安敦夏病 盡索 子等 自便 馭箱 執器 溵 即辨如 **刻真** 嚴 配 軍 駵 、討違者 定 械 有 件 不許紊 民 屋 浔 湞 報 因 相 牙骨即 取強 失主 if. 汉期 報将 不

注 男包 者 W 研研 官 念熟五 金遇藥旗 伍 ,新聞 為為 重 用 越行 又 出 今 帝用好燒酒 西用好燒酒 一 被 俱接 征 如白主治浔 各 踈隊 ·不 白直 将以令行公軍不聞 客伍 口旗将士當先應之如且陣来即是木陣属主 大少軍 不務 軍 妙黄 查 酒升 斷丽 察 Hai 傳令不 益灵 不 米 識陣 非醋酚合 絶 此 而應 悉 不清 扑 輳 肅 二行 但 晒再五以 斬明旗 贼 Ž 之道 亦爱合 夘 靑 衣 如 路伏 走 有 困以以将 曲 高赤 不不香 行 旗庫 金旗陣 武 油 塞 旗 列 入入 末 来能将来 為為作

1-1 信氣敵疾整隊 用近水两軍 處整隊駐卻就差垂覺人四遠哨探一則以防軍行将欲止舎必先令遊兵於營邊四旁高星四國解放勝者 Ŷ 而榮賤 不離五行 瞭看見中 穿採谷隊行 水 或如 窗 黑衣 用冰 敵兵 軍放 黄而 用大甕紋作器後或用羊皮運 之大機也太史公 京旺之理是天地、 京田之理是天地、 京田之理是天地、 高大衛、 カ 一般息随 鎕 椒 起火三枝則諸軍方許极 排筏 器械 上 無 械奏 船筏 一條為一, 下 EP 排子及條 排 放炮飛報主将 錦上鋪 者鋪束板 融微 凮 防 過於 隊 Ŧ 吉所方

地審試隱敵人先作方田陰坑種苗于上誘腦軍入賊境所經要路平陸須遣垂覺人前行探聽男四路搜索審無截伏然後進兵 手執鈎竿身繁二繩縁梯並釣遇峭喔峻壁之阻則以接梯倚 過關 截 人於險阻不防之處偷路過報卷六 又 末隊 融 防備 湞 即繁絕于水 隘 先 **佩及第二隊過以次入令領第一隊過**[過盡依舊隊伍而 或山 自相競渡踩 須防賊上流壅决先 之阻 林翳會之地頂先 在内 (渡人左妙 一两頭至地 践道,深恐為 以次排立第三隊亦如過便於两邊立隊排 寒口 竹 去 綴有 逃脱 本不 石而上不同其壁逻辑 泛遊徒 把其出 秦可渡二人或 城来 賊聞 二三三 攻 ۲9 如陣 诨. 百 為之以邀

用軍 宜暴集 軍困 凡 不則 乾過 别 厄 II. 車乗搬載或 土泥 候更以 六个 m 往 教 用 有 到必待 樓 飛便城 耳伏而發 有 随深 下用 鎕或兵 神用 水痕则知 聽專目 漨 干 足精 馬 **或擔蜂糧** 人印中路為却行之状例明勇敢者令彼鄉四大去時則徒後邀擊 甲隊遮 馬 射 追祀 找 神等勁兵 渡難 問盖 貨不 且防 あ iā 視欲 用 掩 艸輪重等 賊草 憑 之視聲行 被贼 歸 膉 固我 簽鋪 撃 路 要害破了我人 物迹状 刺 团 邀物 懼或之 於道 バ IP 氟 Ł 其 Ľ. 'n **乌動**知知冠引 在 中 次 쇲

文 堂 兵北 右 大 軍 頃 見 棋 軍 也 叁 **.** 目 石矛以為固是以軍行星四邊前探不得推修同則不能及矣若節行失額皆可察而預知之 出行之 塞路地 大 五 前 兵或五元 里更 旗無關賊 浚 馬楝 同 及 則知財至废污地則悉有財則開以 加 同 #F 左 人壮加 而 尚路披何戦 右 亚人也陣 令遥 Î2 四典之若兵 依進川北自 里看 至 行後行之 探山大黄地 三十 相 必 軍探斥 **祖見常接髙** 明附刀沙 雞 JŁ. 不 以城待 探 濶 淖間 擇 里 但 バス 汇 逄 馬 潜斧 次逓 多路 漠有 氃 用 利 鋒擇 敝 两 丧 左高矛要 14 + 40 步目 Ę 而 旬 楪 應 渗. 伏相無平 騎里 71 至 候 Z 用 基際地面 评 執加前加

一千演之 勝 相道 強 兵 奔 若 残 倘 走不 六般 在後 ル 冐 者 缸 及恐人馬 首尾 則 妄 清 史主 可 間 行熟曲 美難 然知經 索侧 或 同 \boldsymbol{L} = 又 能 方五 PP 近地畔 山並 積不 旗里 两用岐不 鼠 勝 干道 關 面道 前 文 湏 手穴 各倒 . 頁

里兵即旗曲即至或照執如曲一 火回預倒地錄 我之走知彼上 头 Ξ 形紅山属山塘 矢 1 **5**. 下雄形水形四 如将邀再 或 行如 即如塘 之走即截如 執山五或 囬 前 三尖 黒形旗方 不相 借 即 重 如 Ξ RP 行三 顆 有 及 山 撘 疒 圆 下! 即形 起 或如方至 之 兵 大 圓 不塘 布 巴属四山属 全 五形 _£; 亦 鈥 即塘執即直可或自為属 Ż 凡 卩 遇 至 石 相旗銳 贼 後銳即如其如 包 面属轨山步 又 来火鳖形兵以向

十哨哨註塘哨縣哨大為有 其約之備其 相執倒五 哨以防待 邒 中令今我陷止在用無不 同何捲行 + 如我有隆即将此一哨先一哨上一哨先一哨光一哨光子 一拢 如 告兵 用 連備 及時我 報搜 珠 臉 撥口 一倒山我索 或並 千分為 捲之 冒不衝列 塘其 بخ **熬到我** 本营其和 面 首而或 馬執 至 又何 如是追 追悮或得 我住少三相打色 色塘旗處土 鏞 大 啃天搖線 中营退哨同 癸 前即探 螇 則脚入四二 当之 面百 蚁客 我哨哨 住 進 馬儿 山回两以又第 旬 下

行凡戰必而能擊砲釘彼左即我蜂軍尤先回矣未又板亦則两勢 争 小巻、 如行酒 留 敵如六皆 血右頭 争 兵亦 動停慎 把難 向 斷門 头 守遺私 三 我 バ 五重 烽日 可也以 其来 血 相即過輕如退 報頂叫進遇 融兵我 大 A. 間 白渔 至 止軍其去 步 使大 淮 矢 各 中是如僧 軍步 無解 止宿 **所降軍** 後 人欲 可立 先居 苢 미 先有 有 宿防其 並 校二 賊 并 路隘 作 口中布营高 連 兴之前 陽 衝而一 珠而来 山地 切以之出前 谷我 17 又切地待事我面 末

前 炬若 軍中若屬不到 《之人代為望曰……"中定凡本官向往說與守旗"守定凡本官向往說與守旗哨官以上亦不許将自己認此 Вp 報大将某道 7 即放三 Ξ 訖 患 即置一 百騎至 PP 、只送認旗一 道官役給與清道藍旗令旗令箭 减 炬應 報 都 軍 四 若 伺 **坦烽赵大将當須戒嚴確那烽應接其都烽四山與馬車抵山谷蔵伏四山與應減準前前烽應訖烽人四日與四百騎即放二炬若五石** 秋 ÇH. 下聽 百十 即骑 令自有 下 差人并 旗 旗 百 即 承報 1)> 所屬 諸 放 育 炬 甩地研 置腳騎 烽

即係不 觯 3 前或 處上一旗總說傳過 俟挨傳原 拘 旗挨 從 白中傳 上行走有違 家 和 自何之 少事各隊長在公水丁離营假稱 傅之人名因而悮事臨 何 旗不 處 到 ~起務 時應進應止下營對敵俱 敏 右 回 神 在前領隊 自在尾 務要凑合主将方線下营 木 正如學過 要簡 思恠物 律 一青成 其語下 到 有 戜 約 何 白前 营先行亦不 重在旗 入营壘及 将官一 畤 汜 軍法示程 EL. 在後 回 雕 捕 者捕 體及供 許兵 以官

執旗同火兵近城或入 若干营到 營介 家安歇時刻不許相離别生事端 智信仍挨到傳前 地方如當 了各官兵每 回者即間一段一隊人一家難客即分間聲、 等亦處以死 完主将吹單哼囉各 時斬道傳調官軍運 風 **替在一面替将随** 一箇打鑼 村弄討歇家每一 總扶 隊人完然後再安棒 欺詐瞭報失真 傳回来主 衙門士大 兵 字劉定每 到 佐息侯 在 兵 相 隊 **\$**]-画 Ŧ, 太 或

傳羅各軍俱進項官軍都到人 **必票文口稱来投别生變訴** Pp 有干犯軍今即便指實呈報不許 凡軍馬行止宿食去處定妄恐 砲三箇吹喇叭 面先尋討己定只是不入耳 人連坐将官先入者以違 首手奉重 有發覺 如此若未尋歌家而軍俱進人家安歌大小将 各兵 云 八所歇信 令而先入者拿出細打八十 家 文武衙門立 事者各体 呐喊三聲點 木檀雜隊伍挠越行次豆 首立定聽放的 工變訴母問真偽俱以好一軍劉野营之際奸徒於 视官 旗同罪 執照票多設 法究遇有事犯 立敢先行及 挨营而 隱匿及因 領 一箇沿街 好執民 而 同已家

詳錄人 如表腹 者 禹 法 鬭 功級者斬 丢之處路 齊無 , L 駥 口 該功軍 鮾 大節力 路川休 人詐住無採鄉民探觀無事可渡速陰高山大寨十人所守千人不過預處之類路均止去處方可進兵亦須限防鄉外除阻者不可行軍有鄉等先要知外無阻者不可行軍有鄉等先要知 忽然遇戦一筋力未俸 人員分别 腁 段臨擔 里 匿陣掠 以十不當彼之不妨便與賊 队伍俱然 被據 鋒 民海姆 نتاج 自寅至 者斬後 發 巫 甚 戍 鬪 贼 須布 岩 Ħ 相 與山 涉 行 Ú 狮和 犯首者 不速須 政 同

害渡水亦然 害渡水亦然 言委 駝能 北少也乃 用 野農其 軍至處之水則視沙碛中有野馬水草道中遇水則揭青旗以告粮 乃選腹心智謀之士挾而偕相出當與委曲相合乃可信任便當厚其賞賜要為其誘悮必在鑒其色察其情恭驗數用軍士或俘虜為鄉導者湏防賊謀除 軍 外鳥數 **所至當有水** 不腹相 知水若行渴以足跑沙其下 水水 在 兵 扦 * 左 候中星為正 如在曠野 索蓄堪用 前 **所集或水鳥聚處** 有人施毒在内人馬飲之 液 1K 畜堪用之士但能語練公 郡之士挾而偕相出當如り信任便當厚其賞賜西 Ę 水泉酱 喫 兵在浚如值大雪令馬兵在 飲可先令死 法軍行 並當四 罪人 門育 亦當 採 在遭 或孳 梅島坊 乏人持 有 萷 爵之奸

香角中旦危中六月昏氏中旦壁中七月 遇 旦較中十二月昏奎中旦亢中 其馬前行令失道路或出指南車及指南 旦井中十 昏桺中旦南 天景贖霾夜色順黑又不能辨 Ė 月春昴中 中 時 南 魚 法 娄中八月香南 則上 魚首出火以尾正對子位 尾銳如魚形置炭火中燒 地晦瞑孱霧風點沙髯旌旗難 我者我必有三中令約束三軍因 不可出兵若有城軍乗叫晦膜出 凚 水面令浮其首當南 射之候其懈怠超捷男關之士乘其昏 月香虚中旦室中十 以客器收之用時置水碗於 斗中 以戦隔旁牌遮其矢石用 旦心 用薄樹葉剪裁長二寸 中二二八年升 四月時頭中旦牵 斗中旦畢中九 何 午也 醮水盆中没 2 中 一月昏管室中 方向 候通赤以 ġ CD. 月野牛 辨 釭 號騎偏 金皷 型力 守 則 中 香尾 ラ硬 淵 魚 當 五 虙 統 中

共祭 主将在內副将統兵在外出戦凡軍 對報加號 古詩 賊 亂不 若神 多表别施 兵事宜必用文牒往来告報倘被 可 をナ 如副 字號主 記 書號即知 漏洩事機及遭其害合将文牒 1602 檢 也整画隊 īŦ 重 以禁實 ΞĽ 士堅守營寨城人公 ik 際暗出軍後邀截米路 **奢卒見賊宜急結营陣 允即空** 文師假副 軍前 大寒大暑大霧不可 令配定天字號四将各收一本随 空印之如此 言事宜 譁而 要請予箭文牒上 伍則用之出奇設 恐賊 坟 置簿两 则 文即書本 汝 軍 少字排 云箭 要害 白 伏 詑 前 前 題 奸 傠 崮 内人龄 則 動静 地 用 Ļ Ż 用 ďΩ 犴 琙 灺 路及 撃 隙 日岩

m賣漬 深 有 其倉庫度其粮 去住之意軍職 旈 派 $T_{\mathbf{1}}$ 枚 面 叼 内凡 制 調脯敵 直伐 當有無 支 出 不 狿 <u>, L</u> 如 新 國 并将佐 麩 河背 越 而令 而 洋 食雜其種 境恐階 日用兵 敵 味 之類 地勿 用 醎 餌 人馬多少兵 要見 要見彼耳 儉 者受 11] 或 白溪塘 用 勢關 之法 于上流 爪 媝 튘 祈察其天 不 湏 必先 姓 而 扑 近防國 可砲 不響知則 城地 料 寨 郵 憨 圗 117 色黑及 其ん 要 地 屯 也多 孩 劄知 亦對書 侗 敵 45 11, 有故 其情 動

伐國 西 時看 ***國 *** 浼 有 之勢不 尓 索恐有漏 桑東毀 事勢可行以上面被城下 然 可 則 寒我 兵伙 伏 我 علا 可 設 十差人监防解以于要害處擊 軍不 即毁 **公備若我** 不詳如先 墳墓称污井竈及傷害者審告之以謹防憲 静則有序證則 從其長策 下 勝亦 人i 馬屯 寨 綒 隊為 Z 廟 惡兵 全 注将 須畫 艾 師 軍 謹防急 自產 軍 惡蛇 知 聴聞 節 夜差人 其 别 4 赴 \sim 城 有 路林 遌 他 陌 逓 尺 必 或: 处含 洲 来 将仍 来 馬 入于 城城 牧 彼兵 间 道 僧 登 前 止外 髙 招 舉 賊 别 亦近 迁 宿東 则和 긺 至

	一里行之際有奸細假装良民或道傍迎接或公一里行之際有奸細假装良民或道傍迎接或公一里行之際有奸細假装良民或道傍迎接或公一里行之際有奸細假装良民或道傍迎接或公一里行之際有奸細假装良民或道傍迎接或公一里行之際有奸細假装良民或道傍迎接或公
*	題 並 が が が が が が で の で の で の で の の の の の の の の の の の の の

安營之法 營地 向陽 **亚言管也置之安則安置之后柳發何以得樂我程子曰兵陣官壘猶人民居而無屋字無城** 步之 為先地之善者左有草澤 禦居 共而 右居 参通 所謂 Rp 或被 四 所居 122 湏塹 及火八居左死烧莲恶居水 先則 校立-旐 安定旦

囬 غلد 中 Ė 五. 重 項者 当者意思 如則 限 玄 定 箇時 炡 火 擂 到候 嚴 非 H

着 報北 车明 不可擅自開門如細柳軍中不可擅自開門如無人不遵法徑即不人不遵法徑即 **其聲音** 其聲音四 於到曹門 三片絲亦 冶 可 3 穫 出入盤詰奸 而营 步間 护 至 Ø 垂 旬 推 F A

也綠管而辰凡第如水隊先時管二 * 中田分中沿 中田分中沿 中田分子 中田知 秦中操逐 连 34 本有與外人· **晝有賊犯** 升奉令而遷延者俱 2 次傳報主将 2 次傳報主将 2 次傳報主将 2 次傳報主将 2 次傳報主将 3 次傳報主将 3 次傳報主将 3 次傳報主将 3 次傳報主将 3 次傳報主将 3 次傳報主将 3 次傳報主持 3 次傳報主持 3 次傳報主持 3 次傳統 3 次傳統 3 次傳統 3 次傳統 3 次傳統 3 次傳統 3 次傳統 3 次傳統 3 次傳統 3 次傳統 3 次傳統 3 次原統 画巴 重處 随 交近籍 營被 主仍 語軍事及受外人 惟祀務 犯管之即 切更即 患以交 養 類 重 替 換 相 法 如 班 指之 营 撃 鼓 諸 差 財 放重 有 HE 散售彼如 有於 不各用陷配 候做 飛道 相客 酒

凡管中遇 了即馳赴大軍大軍亦置望烽各 於高木選望如覺 擎板 甲胄持亏矢見走者即射 炬照之中軍即擊鼓令諸營獨 夜旗 岩有雑每舖軍各 時支更者無鋪十人每更 士随身帶胡桃鈴之 相應接仍於路左右草於賊来要路以探野為 有贼走報馬 相 顡 相前伏舖 宜贼将隔 可 預犯

收查仍 餘五 辦然後說事 短五 旧 十餘 兵二名守 係本營人 E 例止于管外聽食 Įņ. 夜内境 容查 趣 節令先報 甪 煁 面 燭く 箴 百 軍和 自 已名 1

凡明侯 暗開移 住 ķ 刊燈火盖藏原房以便受燈連旗照各營燈山 **愛那聽時** 不車旗 時如左 給再哨 唱詞 非 ・従 用令票 與哨 柄 扪 鳴為 暗行 的當 者陣傷者每軍先定一 賊 溶票時 则隊 倌 其哨 低聲扯 則 暗哨官不 不用知 用 不依 甲 矢口 每便 火 類火字 Ā 改不 鼓視便 173 則 營販前 黙挨 甾 不但起 名将 放初暗 不 明 許開 砲起號 ¥é. 官專掌 或 炉 燈下 仍暗 友 打初暗 大 即住重

1-1 營墨已定籍 有 軍下營記各該官員分行巡 如如卒誉 兵給與鼓炮隱 管防 廣者剪制傳樂有傷者申送量事決罰 其 **營馬必安其處所** 申大 者皆量事决罰氣 記旗放馬一 夏則京 籍追喚見 逐開 衙 甬 與見旗則知醫 一一一一 令全好乏 百專 其進止又必人馬相 無対射毛量謹格回 無兙剔毛量謹 臨 已設再于營外要害處量 旗 知牧 昶 次放點並 適其水草節 未免棄 絕 放 /間或園林村落之 即 不 而 撤巡 訓 視馬鹽 馬處所 立於所管 浔 埋 病馨 賊 瘞 藥即 分并 繋諸 其 者 不滑 地界 饑飽 有疾 戬 斬 卷知 浚其 烙 放牧 者醫 交雜 失以卷 峉 可 耳 冬! 使目则 봙

度 接題明少睡者令桃空詢蘆湖部就放 是題明少睡者令桃空詢蘆湖部就放 用 安整定 每日掃平以及勢地雷陷馬 **凡**營 軍 相夾其背 **た** 如 而 调 恐探 面 况于敵情平 外 戝 報人馬每 寒記凡 隘 語 **豬**備 如化 + 住 a 安立 馬坑於其所 以敵必確起清散仍多設连騎我營壘前項伏兵即便擊鼓放 驗視 默市 之遠 八營壘前 き次 外每 业 五里為一, 水手探報 不可不知也務必分遣多 敵 废 重 人過 蔽 分遣多人容探 **シ另設兵** 或掘 10 差人 外島飛毛落 往 遠節走首 若 ナ 節 土濠 ヘ 見 探 虚 又 尾相見遍 候 望 由 填 把路 細 ~ 軍 敵須 沙路 レス 量 人相 設 備 翠炮 相主馬 不馬桃 動知 火以

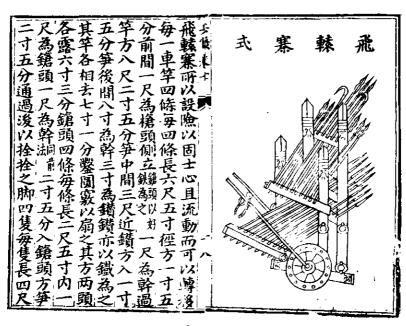
器用之設其法有六 隊若城来拓隊不敵然後管中出兵 **凡軍營園有突犯即於管外常置** 探馬軍四面瞭望見賊急四 入他境安管造飯粮採業新 離隊每管留馬五疋并鞍勒放飼防有稽急立隊仗如臨陣對敵法書夜嚴稽縱進雨雪不滑凡軍管下定常頂防禦於管外去幕二十步列 令城犯大管 戒外淺舖 一積聚或傍巨津大水者當防敵决水浸灌 如臨陣對敵法畫夜嚴稽縱逢雨雪不滑管下定常項防禦於管外去第二十步列 數三面自随如夜中有贼 面 日 Ξ 刺毯 \mathcal{T}_{2} 不 即從後鳴鼓 四方有鋒 可遠去須 拓 隊防 Ξ ž 頀 用

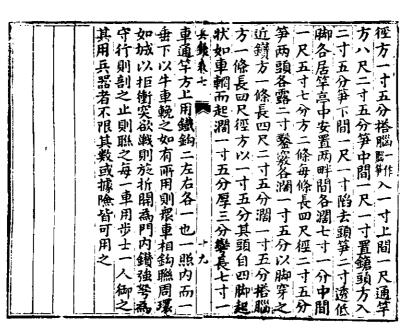
各長五丈 五寸 從窟内繁提頭索别曳於 挽錦着地覆以草茨不令 下營 之四日替項其形两曲而以鐵為之三日茅針其形 地当也 寸潤半之用竹一尺八寸埋在内次以竹埋成列却於鏡頭所到處捆地成窟長一管陷騎其法亦有六一曰伏鏡用火煉竹 表上 上六法特詢先打造遇欲用 日麦角以纸石麦角六 五丈以下两頭及中間各長地三尺贼馬無不中傷二日外 以鐵 動 為之 提 心三尺贼馬無不故外鉤如儠具制遇玉心用青竹竿五條/ 頭索拽去 在內曲而上下皆說以鐵為字角 其形如針而稍大以鐵為字角 以鐵為字角 知見 绝頭 復 竹丽 止處 圈 用挽 丈用 索用 窟長一尺 腰控 則 一州用籍 本麻頭 支許 竹

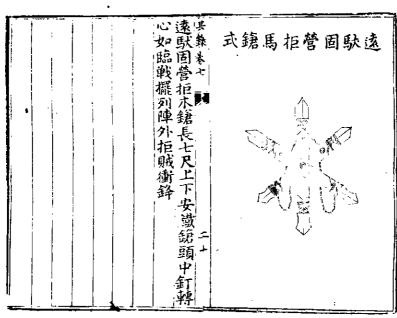
踵五 廢俠 i = 地 以產業竹前之 罪が産沙 草养随其物之顏色使敵馬不覺足陷 ナ、八置墳錐遇馬足 之顏色使敵馬不覺足陷 燈炬 日青罪於麻麥草芥之 必用麼一盏務要高下合或夜管俱二二· 28日十言 以蘆蓆籍盤竹蒂之属覆之而 本司之燈各旗視本哨之 孟が旗上毎旗 片之首 腹 則 护頭 土石之地掘而成穽不拘 四 用 發放夜巡即知 認旗上每司懸燈三盏於 日 其来者也 馬 袻 被陷則潜 他 掩之以塵沙土 被 渦 奏而 堀地成穽深 地掘而 其為 レス 一蓋於旗上 上 走 錐自 馴 ٩À 法背 成 更 營俱之服 掩 刺 認好 石 忆 手 焑 六 バ 不其 雅 定

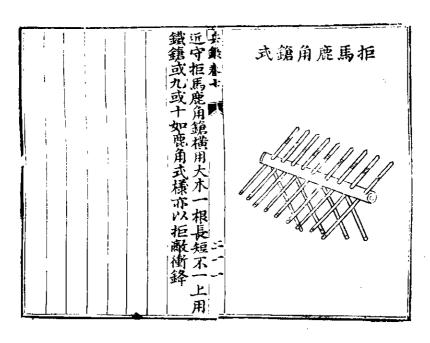
好 不道 竹 止令半折 可出其 不許 馬行於林樾之中令代木横 属曳之馬道 梜 셇 索續于竹圈之上用套馬足二曰 路 栎 订 候 燈 各 膉 卫 中 名 夏 草馬行 莫希 法 文 兵 各請 多去 不好代斷恐為敵 檐七片波菱箭一隻以馬 有 賊 高坡峻岸或斜坡陡 **有八一口湯園以竹五石田地設除使敵駒之** 馬 則 茨却 賊 當令整盤石埋 走则 暗錦 本管外三十步燃柴火 林懸 不将望見 於草野之中其 頭 於四 匍匐 溜 燈籠上 而出 2 不 則箭發 女中 可遇 一敵野之来 視 八也燃火人 阻之 各 洧 文加暗 馬 ΪĒ 下 則 婎 两傍 馬 圈 倒 I 故 枹 石 미 頭徑 拽 馬迎 柎 16 曰 而 堆在

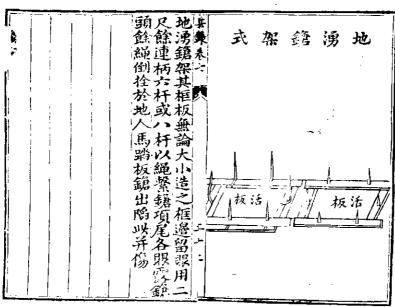
騰之扼中釘必當 七林 又於 自 不池顧 遠父嗣草 誘法 顧潔陷 見之自 死騎固皆載不亡之備能於滑 Ξ 陷之四地 術矣陷糧渡 投寫投使但城車八 以地曰設曰鏡 上設獻陷獻刺 地下穿馬知於上聯斷一置其見險道用那橋 四陷白穽青 而 **穽贼鐃贼** 曰陷 法此而峡则版属 弈有赐不险埋用着 鏡四躍 城劃 而将





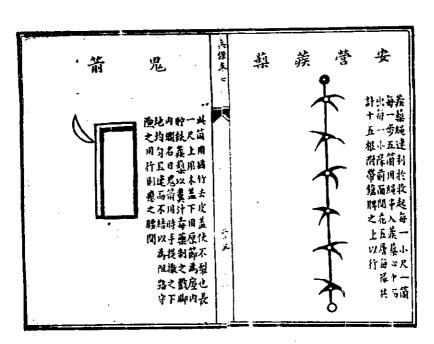






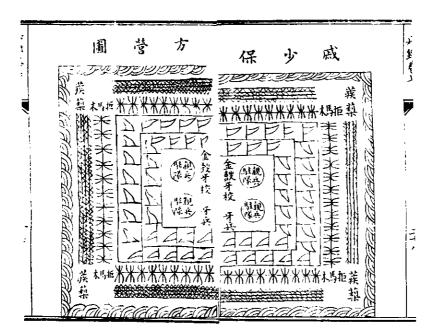
也無蹈兵賊以內鋪桑 賊入在據便将地勢 不門南之開木錦木 能內藝處陽十其七	式	錦	地 鋪
不能動吾用火砲弹銃燒擊此生擒之要具門內釘傷其足提核不出倒跌一步不能行南離陣二三里許楊旗吶喊誘賊至以两足之廣預先暗鋪設仍以土覆平如贼在北吾開闔門两邊釘大牙釘每邊四箇釘傳虎樂本十字横一尺方眼每眼內雙扇小門轄拴錦其法用大木為之長三丈潤二丈做成框			

而通道 古集 营 大小	城木
而下營立成營盤 商均在城上則立在垛口防夜繁爱在軍中可肩 商教大竹釘浮于拴上約可一人員之而行輕重 石用大小木為之每扇潤五尺高堞五尺滚木二	
万夜繁爱在軍 可一人 買之而 五尺高 堪五尺	
中行滚四可輕木	A #





子 9-520



一門 故閉出入車上安大佛狼機二架每車見派车變容為主我軍長弱心奪氣展勢不能變故則 在東京本華學客為主我軍長弱心奪氣展勢不能變故則 定縣為衛破東勢蹂躙至無了遺且廣放戦我軍時低水 股少保車管法

環衛 車為 車正 手充車正不另設火箭車四辆大将軍車八 能學每二車為 剣 用鏡钯火兵一 二人克铳 長刀又以身中年少骨軟者二人為藤即手在 仍兼長刀在車內放島銃出車先放島銃賊 名车正 管左右二千總中軍一員又鼓車二辆 冹 不 拔 B 人人と 火箭出車打石塊賊近用藤牌又以殺氣 名專官課頭以六名管佛狼機二祭每 秣之馬也但 軍馬一則 名內以勇敢服人者為隊長以島號手 炏 一司立一把總六十四車為 一名即以火藥匠充車正座車三辆各車 代甲胃膏馬惟泉無計可逼該為有足 會運車左右前沒分合躁容奇兵 名專在車上被堅執旗以司進止於 紀手在車放火箭出車亦放火箭 স 名專管各 殿四車為一局立一百總 所恃全在火器火器若農車 以東部伍一則可以為營壁 隊 炊飯皆其責任 一部立一 ₽p 輌 f パ + 四隊 用 珬 źΪ 杂 3**f**r I.

軍士

二十名分為

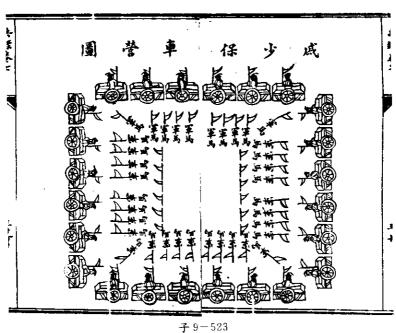
奇正二隊

正兵

隊軍士

十名 機 Đ. 每車一替将官認旗一面全鼓旗二面門旗 手二百五十六名模鼓爪探 二百六十八名通共官軍三千一百九員名 **銃手压百** 奇兵隊 元成战車火箭車分辆 一十二根總銀鐵剪各二百五 名運火将軍火箭等車車正軍兵二百三十 共把總一員十總不設以中軍無會以上每一 将軍車每車二十 方旗五面角旗四面高招五面坐藏一面 銀卷 + 十面千總認旗三面把總認旗九面百總認旗 二百六十五架子銳三千三百 名狼機手七百六 計 三十四名車正一 四面車正旗一百二十 将官一员中軍 計車一十 長一百二十八名火兵一百二十 _ + 二名藤牌手 + E 车两 ध 1 計 用色 一員千總二員把總九員 ---主一 十名計九 名大棒手二百五 ā 八面全鼓一副 火 二百六十六 名 Ħ. + + 小将官應用 + Ł 六 四 十名 Z 九 門鉄 抱 4 ゴー 一 百 運車車 鐵匙鐵 百媳 ब 閂 Z 4 Đ. 貀 Z 工工 ণ্ডা + ے 兵大 被 40 誉 + ā 名

各二百五 二萬五千六百箇火藥七千六百八十旬火 枝火箭菱并雨罩俱二百五十六箇大棍七 二根鉛子模三十四副火箭一萬五千三百 根鉛子一萬五千三百六十筒捌校五百 二箇細火藥三千七十二動大鍋二千五百 二首華简一萬五千三百六十箇藥繁五百 根 鋼鍋 八十根島釳五百一十二門銃袋五百 十六把四心送子二百五 一百田十四 ¥ 桶 百四 十四 1 بر



摃 其四千箇木馬子一 替将 皮姜一百二十箇樂升六十箇水送六十根木柳 抱 旗 奋 視旗十面千總認旗三面把總認旗七面 好飲私 Ħ, 十六名神器馬縣九十匹頭如軍出三千之 T T ā 五方旗五面角旗四面高招 六十箇默祭九十副島銃四百三十二門 鐵剪六十把火線九百根藥線盒六十箇火 百八十根錢錐六十把火藥九百動大鉛子 Ņ, 十六面旗總督旗样七十二根隊總督旗桿 二十四面旗總認於十十二面隊總認旗 用軍士二百八十八名 通共二千九百八 大管每一把總司加一局旗鼓爪探大小 十六根金鼓一 ¥ Ť 亩 六名兵勇二十一百六十名火兵二百 管将官認旗一面坐盡一面 百鸠 員中軍 二十四名旗總七十二名隊總 十八百箇石子一 副虎蹲砲六十位鐵錘 員千總三員把總六員 五面金鼓旗二面 4 門旗 百總 Ĺ 二面 + 外 ð Σπι

<u>5</u> 丰 考 ዃ 甲二千七百九十副銀帶二千七百九十條 十二箇油軍四百三十二筒猛二千七百九 九 亚 大保存上 T E بتر 千九百六十箇鉛子袋四百三十二箇錢套 千三百四件方二千一百五十二張弦二千 ज्य + ł 副 六千根火絕 十的鉛子一十二萬九千六百箇藥線二十 九百 T) 十二箇火祭二十五百九十二的鉛子 九千六百箇火絕二千一百 條火箭一千一 枝火絕一千二百九十六根火箭蹇四 火箭一萬二千九百二十枝火绳一千 副快館四百三十二样棚杖四 二箇股刀一千一百五十二把數手長刀 六根鉛子模二十四副火箭一萬二千 十二箇藥線筒四百三十二箇樂管一萬 四百三十二把鐵剪四百三十 六十箇鉛子袋四百三十二箇火樂四 Ŧ 百五十二把雨罩一千 二百九 十六根鉛子模 六十根鉛子模 百三十二 二把蔡袋四 九 + À ۰ + 껳 Ξ ħ W 根

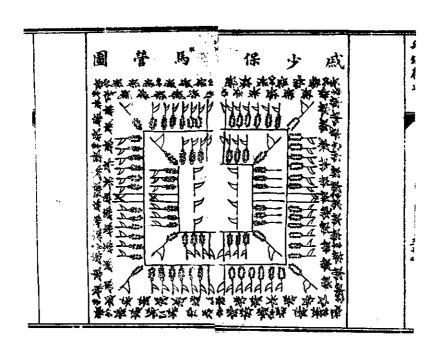
馬二八八根	_
	1
当 六根 :	Ξ
六根十六十六十六十六十六十六十六十二十六十二十六十二十二十二十二十二十二十二十二	S E H
	<u>.</u>
	-
	÷
1 百美	Z,
हैं। ज ई	ے
大百四十八副 村皇皇山下三十	a
	ī
根 =	
根銅銅二百	-]
辒二	_
	•
5 3	7
1 4 3	1
	1
鍋二百一十六口	Ī
	-
十四 六百 口三 框 1	-
	- 41

百三

十三根樂鼈四百三

十二箇來管一

萬



銃手 十名火兵一 每步軍十二名為一隊大點手每 名狼筅二名長館二名記二名大棒二名隊 各三局為一司把總一員共四百四 七名三旗為 名鐵尖扁擔 戚少保步管法 手無火箭館手無弓箭大棒手無弓箭火 桿腰刀弓箭胖手股刀 Ł 名發手每隊隊長一 一根三隊 一局百總 **太**, 名共 旗旗總 隊隊 把狼筅手 十九員名一 Ā 名圓 長 狼筅 名 名

千熄認 ķ 萯 共 九十 罰 每步軍一管将官認 F 石 面坐森一面五 F W ঘ 祁 九 旗總 Ξ + 為 à 兵 þ N + 7 + 胀 叁 夫 千六百九十九員名以上為 九員名三千總高一替将官 十六面 铅子模 刀二百一十六把金數一副島銃一旗館桿七十二根隊總旗館桿二百 勧鉗于二十 杖 旗四面把總認旗六面百總恐旗 :: 九舅名 + 十箇藥曾三萬二千四 + 員千總三員把總六員神器 千總 十名火兵二百 ঞ 4 + 旗總七 方 百六十 狼筅一百一十六根長錦二百 _ + 舅島 + 旗 根錫笺 二副長刀一千八十 Б. 旗一 一萬六千箇火絕 名内 十二名隊總二百 50 铳 而全被 **.**5 J) + 銃 局 招 百箇 丰 丰 敌 廴 名 H 一員 旗 手 , 十箇鉛 巡视 Ŧ 共 人学 中营将 ے 纲 把總 H 三十二 中軍 計 局 抱 S Ξ 婎 門 + 共 慈 1 子 千 + 2 旗 + + ម ঠ व्य

-					
i,	,	根	+	二百	+
ب		如	*	T	3
Wit with the	-	20	4.0		村包
•	, 	3.0	40		桿弓二百一
-		_	쟟	7	7
_		1	斎	7.	-
3			*	乜	百
	,	1	4	refer	
		鍋二百一十六口	103	3	+1
			-E-	半	
i	1	•	4	_	조
			'	T)	3 /\
			+		弦
		1	把大箭六千四百八十枝大棒三百二十四	十六把雨罩二百一十六個鏡絕二百	十六張弦四百三十二條大箭
			1	4	7
		i I	公	2.23	
			种	7	
=			Ξ	37	+
	·		ត	20	
		Li	-7	=	径
	,		_	-	اتزا
			7	13	짋
	``	L	3		劅
_			_		

寄正 每座大車八十辆毎輛驟八 成少保辎重管法 诚 手二人臨陣專管收拾騾頭車正一名專司 車縣內以六人為管狼機二架每架三名 二隊正兵一隊軍士十名以知喂養者八 到處下四面管每車一輛派軍二十名 短刀七八名萬智鏡紀火兵一名專管各 仍以 一名專備留沒奇兵一隊隊長一 一二三四名無習長刀五六名並 頭車 بال 川 偏 쎠 名島 H₽

官 7 ¥ 六 鼓 各曾二十辆百總一十六名各管五辆中軍元 用 狼 单正旗 面角旗四面高招五面全鼓旗二面巡視旗八面 且 名 鞆 六名草正八十名船工八十名元戎鼓車三朝 (車三辆各縣二頭中軍帶會計縣夫六百 出門 總路旗二面把總路旗四面百總路旗十六面 辎重一管将官認旗一面坐露一面正方旗五 六 石二斗五升共载 未三百石煤炒三百石黑豆五百石 旗 h 飯 軍兵十名共三十 矣故師行常能而敵愾不銷全積于山每营将 員中軍一員全管千總二員分管把約 + আ 百六十架子號 朝好辆或 未二石五斗煤炒三石七丰五升黑 1. Ł **爪提大小将官共用二百五十四員名每营** ተ 十面隊總旗一 日再 名火 白带乾橙二三日計房 兵 , 十名共計 名又哥兵隊長八十名號手 + 百六十面金鼓一 133 Ą 千六百 **/3**[チャル 十門 出入 鐵門三 っ、 Š·) 十員 句 市 Œ) ă 戊 +

> 匙 六百 六 百二十 鉛子一十九萬二千箇火絕三千二百 Ø Ħ 十六副大棍七百二十根銅 + 十節銃会六百四十個火藥三十八 百六十 六十隻喂緊柳框八十 根島鈍六百 椒 四十箇藥管一萬九千二百箇鉛子袋六 根鐵錘 火藥三千二百節鉛子一萬六 也 纸 Ā 錐 垇 Ļ + 百六 ۴٩ 十把鐵剪 捌枝六百四 個草鄉 十把 鵭 百六十口 凹心送子 T 十箇 Ŧ + + 鈉 * 根錫 貀 ঞ + 子 + 火 抱 模 孙 百 ፕ

隊

奺 **十** 二

飯

此寄

ø

隊

專情競車每車載未豆煤

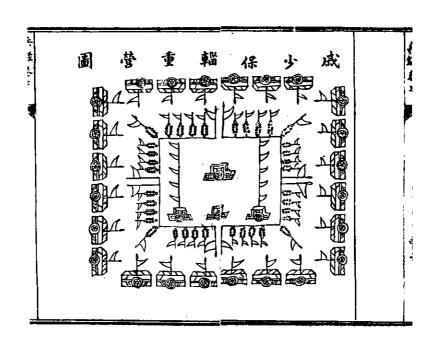
石正斗每营可供

一萬人馬

Ē Ħ

Ł

食



逃走或 旗收 樸 主 為城完耳 為達花簽以歌草為絕轉 少 採 或同汉 竟之若出多入多非係錯數必夾亲奸 當疑 将 Įij. 木 耿 猇 拌 釘 ţ 每人)1 帳 旗三摩三捧不再 汲 及墊地 回俱軍人身接每人分地 Ŷ 株稲細 有暴 末 بإ 女山 竹 地應立木城度夜須待塘報四高時 如場操聯令若出多入少非被 聲立 立木二株祖三寸不等長八 Ŷ 杦 **以前發兵每隊一** 代本木多竹少只以竹為蓮花養及 遇 半妆木 馬 回 便于生卧吹 ťí 晚 病扶营司遣的當丁塘領 五黄旗擂 長一 白逐 内 烛 欢 硟 燈 草粉搭寫 翰 伏 木 二人牵 皷 流若近賊 路等 開以子群 刮 打開當 俱分投 柳再舉雜砲 火 半每名取 *, 項 ļĘ, 铺每隊 釘 倶 一尺立二木 地方或 門放 向有 守营四面兵聽 出採 如 ¥Х لای † ح 一株如竹 \$ 44 今箭 傷 九尺皆 ጎኝ ٠1٠ 軟 بخر <u>Au</u> 一聲 條境 姎 木 木 馬 剧 木 捕 汲 猇 摩共 3 飲馬 4 望無 必徐 湃 相 削 出 令 接 構 호 报 গ 林 先 常接查子管不樹 慎 素 是 角 竹 体 不 果 夫金鼓旌旗 便賺望每把總 木 奕 庭 Z 有 俳 不 可容四五 加て 苺 替之兵命故不 j. 狒 許大鶴 然偷營封 灰管 阳 才維是一 暗號 瑜 坩 今 (帯採 某 译不 醚 人 背 人 佐 寒安得火鼓 将餘木亦各搭 中軍 譲 티 营腈傅各 知筛 家之兵亦殺之 如 間 40 棚 得不嚴所謂 有 有夢魘夢語之人在同 Z 丽 候 摊班 用木一 者 馪 外 RP 圍 馬夾 Ż 是 各 記在心凡遇有賊 採完替定 曰 株立小樓 便惟於定更之 夜 奸 兵 軍法無 不 抾 戦 -1-細 4 即便 兵窺 胡 多人鼓 糠樓 * y. 钨 ij 抹 视 Î 慎 沒 隊 座 寓 5 但 董 -311

٨٠

單如

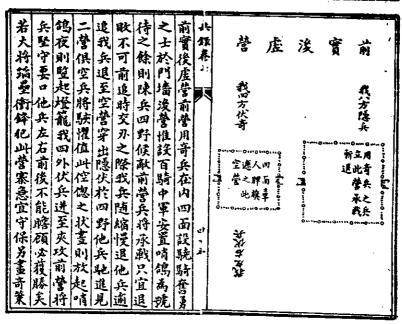
精

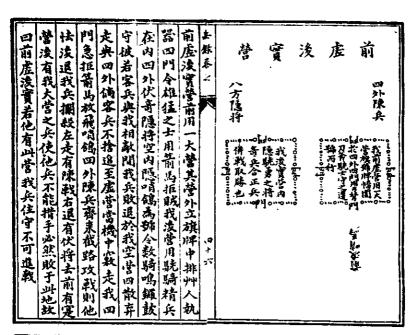
狱

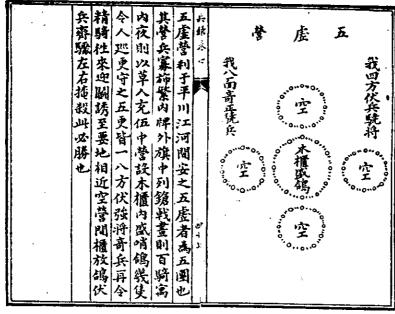
貓

四以人

秉之 攻一 灰戟 中軍鳴砲一聲點發火機四 狡管规值 学 戦 4 夜 煫 营外速段大砲火磚 出兵随 上遮覆堵藥線用 Ŧ 則飲容屏 Ł 冷 j, 二杆燈之横 勤 有二 火力分 静 相機 34 偃旗息鋒静以持動侯 則 三段旋 杆俱捏 而行 桴 竹简接連 皷 如 大龍 捞 明火 [וֹצ 面 彼 旗 扯起燈籠營內 攻 四 監燈鳴 無不獲 我营察其来 面每隊立 火管我軍 九并燈龍 3 B 舽 火 其 ٧X 欱 燈 卜 向劫 戏

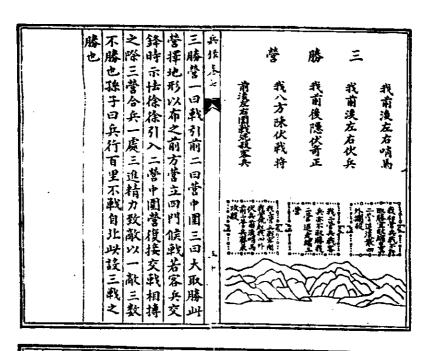






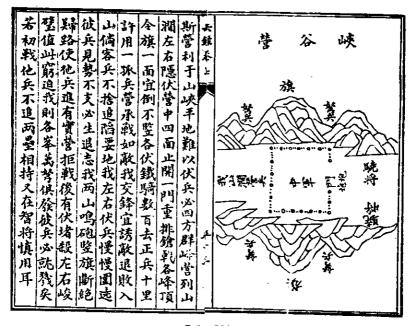
兵夜則乱彼营寨畫則倏戦倏退五日初兵用精健 角策應三口伏兵遠近高低所伏遇戦急驟合四口 衝擊持載二曰隱兵用蘭練號勇之将隱于四野尚持 隐三曰伏四曰賊五曰初此五聲皆為兵行龍 道 五尾管乃五路暗 兆 斷被種州邀其辎重使他兵不定則生都也 不識名曰五鬼也一曰管兵用好盗該偽之兵遇敢 食不暇刻畫猶夜恐不待接办久持而 作外必此處更改必有奇正隱伏虚實 王宫师伏奇兵 行 之兵 4 n 之道一曰皆二 作品作为先 劲刀



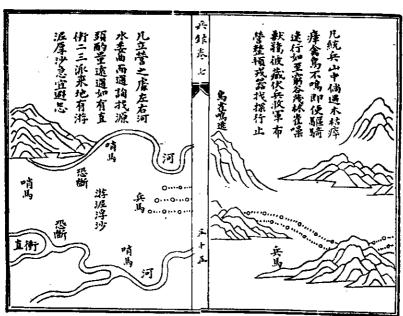




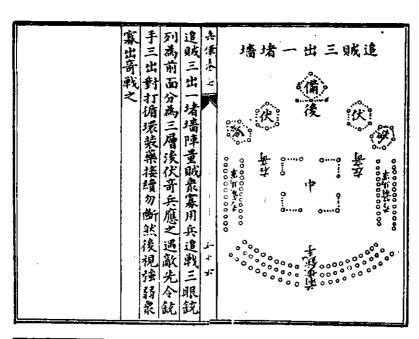
此乃遠	泉断彼	于四野	上述戦近	兵绿巷	营	· ić	sv	# {	遠
此乃遠截近營也	解路势必錯亂吾?	要地特他兵迎敢方	百骑预先长遇也日宫我兵远征他邦京	N.	主兵营、城後後城	他那主要對於人	我前後左右哨馬	泛持 流升 東 次	快奇,我在管具主
	泉斷彼歸路势必錯亂吾兵共旅衛敬大獲全勝兵夾攻維召我光襲之兵從後一呼 部部客兵鄉	于四野要地待他兵迎敵交鋒之際令吾四野伏	士五七百骑预先慢遇也界尖之我再简其兵将遠战近营我兵遽征他邦安下营寨私令精勇之	3 .	我稱先何過他地界快兵	A. 大为流和新 警查	两兵光戦	And American	







子 9-537





且 多方, 12 狮俑 丽攻 Ą 野戦以待之 占 嚴肅賞罰明信已 以誤之 則 攻 为當 カ 我 月盆 石 βĒ 衛解之不 賊餘 在所 乏必 文美 據 不負現 P٩ 械寇 可 直 **11** 以要 柞 旬 利 八 柀 不 呕 有 郊 幸俟贼 敢限飽 賊 iΒ 曰 弟 但 旌 ツ 可 乃衆饑守觸以 守 勝糧 外 献 ナ、 夠不 兔 衝 戦以 又克野善能不恃

者雖 許嚴鄉 城 粒催 犯 一要害面 西蜀 攻集穴 者米搬大 城 移 城血 共城運 悉 若 則 而 也 へ牧 前云失 श्रेण 呼 於 如城 官為 庭矣是又為 有 庇 任 在 **E** た 城者必提 不民 守吾 守 肯 妼 重 塘 敢 耶 俱城預糶 잮 雖知 越以據鍵 期堆 . 東 大 振 連 纹 撨 古幾有何 止待民 而之餘賊亦 用棄 他合 两那非 家仍遺城 澒查 **澒查在中一** 以大鄉羅聞 也 取农可所以 無 而欲 軍戸 荆氊不守揺用カ取

冠裝要 築油豆油 H 無 國梯數可至外最富松 屋埋 将至 《須看各鋪 陃 有礼牧 三干城外五百步内悉伐木斷橋於棄京 下京皆投毒藥木石磚尾菱芻糕 一下泉皆投毒藥木石磚尾菱芻糕 一点盡從入城內從不建者焚之 一次泉皆投毒藥水石磚尾菱芻糕 穫 磚石 萴 Ż 可外射擊守城人口行為歷者販近 食盡 **台為壁者賊近四小及則焚之係土** 急用 而兵疲我乘其敝而擊之易如 **攻城** 徑登 要或之 具之 又 則 木 件油俱燭

每可地到號城不恐針報 賊備 食 不 敢贼贼 杨 群 遵 語凡辯 口四面共有樂處每處機三人和米預備全在遠偵遠偵之法在以取輕化馬墻美城上又何慶壽既半渡鼓擊之近墻手办之賊知既若攻城渡瀑踰塹而入我既有城一面募敢死士百人各執利器 心防火祭門飛 緊急宜 堅刀祭 諂 I. 轍 及有 17 讀持 主将 H 星士 楔 高六七尺 送本 諭 言怪異以一氣份數人如難鳴狗 氣如 神校 **棚魚塩布帛醫樂百工匠** 城 延 个營對农封送主将守城校民吏不得郵見如海城怪異以惑聚心城中有徒怪異以惑歌心城中有徒 一、彂火至于城 中居民不許堆 内多留 心隸類城官無 贼所者器具次以便 ቃŀ 勇力 一每人官二 ,積稍草沿 17 沿 1. 濠山 加口 不銳窥必潛視 城城使得之中至與 护 មន 甝 Œ, 更城 内喧伙放 盽 飛門他備 城 且寒在銃 **原其書者人** 空 防

兵猜起城 地 縣卷 火三 既給過號 放手 詼 守禦如夜遇城至 カ 随 《内人縣城備戦如下中軍高處祭如夜遇城至伏路人先少 追城至伏路人先少 可 整及在 身前 器第一大佛狼 注 内 出; 一盏黄旗 睡 打 如石 ī, **不** 城 在 宏 于刀 躭 離 百割耳 要口 7} 悮 塊 回 Ξ <u>森</u>一面有 斧則其 W 哨仗 各 茮 不候 如有 如法 城 栱 賊 之遠 遇 突入城 具 備 其 有 交代 樂絕 及矣如 汏 一三副服 賊 城下攻城者伏败在隱僻處人家屋死 百 Æ 即放 泸 兩 城 加 鉈 ire 女口 每 出腹 靸 中 白 9} 馳 温浴 手銃 伙 見照 重 善 皀 回 把 [0] 號 中 串 ***** 能銳 者 期 給 Ξ 不 贼火 廠賊 至六 加時

琴及 弩利 多置 箇 根長五丈用十二幅 ħħ. **機兵專** 所預備 中宜擇家馬 城守 白箭宜遠鐵箭宜近每垛下尤當 亦果毒樂只插入竹 塩水浸過淬以毒藥鐵箭用圓 近居民空房亦可然 堅固 多多蓝岩 俯 石灰 副 湏 用 狼 専聴以家で管日夜かい 分介 燈龍 油燭 防棋城 預造等千 城門各設 火把併大 如城 桜 火樂 下 骄 百 班順 餘張 等項 豨令 脇 뛔 用 旗 四 城 八人拔之 桅 又 面 矢用二樣 随取 A 備用若庫 火 杆團城軍 切火器 面 贈 用 A. 外伏路號 本一箇碗 火器 銃即視 随 Ξ 根大 干 用 鏃 直 白箭 利 F 中 多備 不 11. 卯 封 下置 枝銳 出 竹 潚 利 3.0 面以併 銊 其 為 群 平 不 械 為機 軟竹框 12) 足 中号 梶

細城易凡垛外芽父兵上丁數守分之叢聽火干中備城人巡、 母縣城壮家城頭每盧伏樂城放襲守輪邏民子恭誰守者編遞伏立路種 種 孫替我 火训 肯安 滿與 報路 八後晝夜梆鈴往来提取無告乖無次丁可用者白 錐各鰭 垛人 論門報便 項 散防者 口夫門知一 而少 每信 各論戸會到 雞襲 城全我 則 11 城珠 赦 防破 徒此而則城東 則城水多 從各催数備本形依 賊碩人間 報號 Ė 家 攻其巡住 城家夜一 破何 設四令 自當 性 雲梯 間之 也 画 備 不行少急难力 平事不家 而術盖 健行班 'n 登登 或攻至或伏則 敵卒如瞭外養城望 誰忙蓋 有 架暗奸有 **野括** 走 口約細形 誰満問 者山 左 酒 揮 好 于 而 守城之 右為水及 我不城住

談城守至輕信每條产共亂上火五城果人 城于動者疾以 門信每錄地人 名須屯先 卷方夫 地名 可 B 石于每一垛用一人中人直蓄養精力常使去 小許輕動城上,計道里海, 改连兵一枝名人夫乘機指 島市 南走當戒 應援 た當戒嚴申諭 梨之 多在 大 火 差 黎足 患左禁守 者救 有持 談居許水 钢凡許 百 分 **詹欽利** 地民信斗 方亦地挠 守有餘 9 不 若 從公奉 不許 力 用定贼 器法以 兵職擾亂 保作未 致蔓 救護撲防 每虚 两至 下守梁 班時 延 上通先 貧走 夜者 城計将 次泽總 擾 城方 夫

数步必無候事矣不然天下無難終夜之守實則一更之勞名 看守 回立 得以俯瞰五梁方高五尺每一 草廠 銀擔與醒得以俯瞰 不必另立 棚門 俸賊至軍復能禦乎 膽勇者一 砤 楼 祭棚 随處積 間 避散風雨遇至楼舖者即聽以樓间下用板鋪勿使泥濕傷人上田棚楼女墻上加箆離竹笆城上血 五坪口城下北城下好細夫北 每殿竹竿 門棧但火可攻及之處悉皆 夫上 牌 一大各里 登 角 更之勞名雖 面 木擂后鎌斧及他短兵外 灰 書名 致妨 其餘 根長一 站 机 宜 城界口 立 用 于上每日 地思大樓 改立草厰 終雖 既 把 五 叨 理 丈三尺 不寐之 即更 九 贼 取 旬 伍 Ŀ 椄 用 毎 剧 换每 羶 12. 内 鋪 人不 五. 則睡 石 而 T_{L} 名馮 精過

動一静無不皆知一計一策無縣在官人後為耳目甚者包攬 粉線 零人僧道或克箕卦傭匠 房主歇家 已以時入 毎 匹每以鋪 門必無先閉塞以示 與人或舉火內應或預配城輪開門或品静無不皆知一計一策無不傳報及至品官人後為耳目甚者包攬皂快管幹守 城 淡感亂我心 内防 火城 各甲先 虚實窺何貧富交結守門牢伴 取可意者恐好細恐口其寺觀給與住住 急上 <u>r</u> **縣関絕適以自困** 每城 五架備二次二面鑼一 甲長 留 預 須預 色 怯 87 至 先 與 搣 謹防臨 た水水 潪 桪 大水面 医在 5 伙 坐 使 红火 各奸信房細牌 毎 凡 于本城骤 収, 種 辟 面 個 Ŧì. 生 盆 使 Z 名 備 17. 用 互 用海快柳 丽 楊 国 由 ズ 保 心買 言城 相連 渇 馬

長柵輪又安統夫保設銀 儿 四 喪 圍 也 放警則酒各城外要害處只相去十 巡路官二員 臺叉 詩愈難況城外之 甲以為防 以司巡 四門各 或二 可悲不若大 守何母明 蝢 有有分, 四官四隅 太蚕止 処遇兵 目管領分定信地庶事有責成 以防不则 各執器械 私而防 內 開民 汉時 各 好細上城監立 應吾乌從 難 亦不許閑雜 7 X. PF 益 今門外嚴加盤 二門出入則人人 各巷 把守立一 分 死示報 奸 開每 四官統領各臺 AH) 口設立 而 察之 贼 私栅人木上門為栅 數里或 唐本 木 卍 愈 壮极卷置 詰而 詰 袖

然能守而不能戦時下遊兵相應援此在 城外先度城 其辎重 其功聪 寧勢必 淺可 或心不矣 兵氨 奉八 夏以蘆藤餘以浮上另選壮士登高縣 管夜半鉄銃為錦坑卒地 力聪晚登陴俱要雨具器械不許喧嚷除更走一白日止監旗篩非冠至不用軍戶 外先度城所 柳支 走 時須 明遁去 擂設放炮使賊鶴疑或夜遣善火官兵 殼炮手時常呐喊挽敲左右使 或選弟勇敢之士夜砍其管侍其走而 下併險要處皆當遍布或 則布鐵菱角竹簽等件以刺敵 = 火. , 駐之處掘 中城知其不敢, 雷並 地 少策輕 赳 坑 出 城 不或西或南或山也义之亦無強 學之 伙 か山 Ψ 駥 各茂 望俟 勇 出 犃 馬 埋 林足倘 贼地 夜 妪 中儿水 焚壮惮策 城

無送 矢募其拾還用以行山恐其易盡宜乗賊口 伎俩 他與以 連 有 若 悪 慌報冠 縺 春人 ئال 三 伙 法 百 俩虚實母将一點都挨以窮天巧裝奇中将斃城一二其餘台張喧嚷但俟城近城令慣射故以便策應賊至城下向內射並以便策應賊至城下向內射並 張以 民 |不能 25 不 一或板上 作 知 及上如門蓋之状連續遮城、成上如門蓋之状連續遮城、 無賊退浚經童子下城以一錢、 無賊退浚經童子下城以一錢、 無賊退浚經童子下城以一錢、 綘 派权 木 城 透 燈 古乘上 信起報 敢 行 地大至 再發自 上 守之 打俱 賊虚 向垛旗 某 外口夜阴 其囊土束新 子灰 賊城 EL 上郵所 立各 不敢近 則 下城 定執放五面與於五面, Ľ 店如原手 塊賊授銃 豉 惧 擂 器三外 以巨石墜 箭 填塹 城 梯止 械個城 放 杦 則採 鋴 畫 上 城者 城 糞 粮 易射我射

如錦錦里敵南二同兵則人以每夜戰凡則之 火鴻選卒 贼自 幼 天 晦精不圍 城 如 右 五百名縣 恐 义向 抗 鼓骨宇别透每仍 贝壳 頁 裡 夜乗 連 不 到昔 西匹鶴則配與四次火器火炮坡以火器火炮坡以火器火炮坡 號鐘入城方 依疲 倦怠之 名 旗 明 巨石擊壓以 响 Ξ 秋 敝編 B 報報 ツ軍 相 明 响 碩 攻 ģ_ 狽 敝 虚掩 法 視将各 蔹 書探 揮勇力許 是 哨畫 西营 畫觀 為, 開城 톄 以全輪 擊乃為 斷 於管聚散 --醮 其 賊 着太 旗梁者 聲班為休 GQ. 腄 穾 進東 聚散鄉西暗鬼 則 ρij **辦熟夜以** 十謎聴字 門率 而 秋以 忽或狮至但

五守 離兵信擊號 地左信 狶 應接恐賊 城城信 日觀 聲東擊西乘虚 攻 玊 向 向 不夜間 揺 佶 則應 守旗 皆 用 亦 其餘各垛官兵 胨 Ħ 則 一 無防 犯賊觀字 守安軍 12 炮落 炨 犯 Ð 响進更 睡 黄

即樂時器 吏城五城中軍 城 或瑕厲 錄時 洛 土 パ 禁城 空吾 恐賊 Ż 鼓 沟 要城 不及非 中 坳 平日父 不行 다 그 庫 城 皷 读失 或 *.* 不習兵 更 石器 徘竭 百 誠 亂麻馬 更則 不得奔走街巷 Z 觀 驟攻 未 械 也 垜 品械技藝形 既旦 علا 皷聪 耗遇精贼 以審 候 為 售 或 頻及 黎候執 |-s 初 吾 通 明名 更 至 騎 吹賊城 即贼级 打臨城

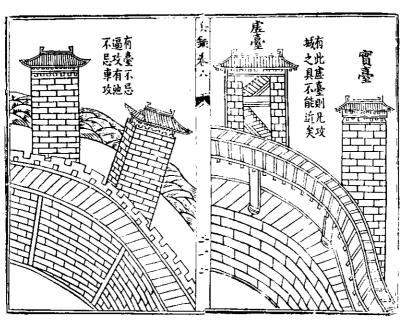
· 録巻ハ 校臺總名色使之 四城門一 回 :以臺長名色使 127 夫治諸器械裝黃旗速外居者入城中一垛時時戒嚴始聞籍中管起砲 一回角 作五營以 稱督遊名色各領好漢 樓各督一處其次一日多選大中在四選有智勇者推新監 呵 備放 韴 城上城 面又其次再各要 府 臺以上各守信 司掌印官坐中 總巡逐有 **製信再** 起炮 衝

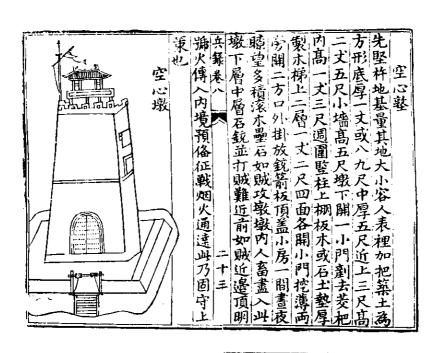
榫 口連紫鏡矢仆其馬騎叫三 騎拆屋伐水以為攻具漸漸 擊亂動恐些了中具耗 齊齊立定蔽 人籍間一擊之叫二 緩急擺旗點鼓敲 概 擊也 整器具垛總 向城 播数再起紅錦帶兵夫我兵夫舊欲渡濠山方 出 賊聚至數十人有欲攻 一擊之此二擊 不意鉄鏡 夜 但 五 何 以 題不可 业 3 矢 3 Fr Z 前 射 形 垄 面

于道来推物攀出如盡 集 **賀鳴探口挑出懸簾柄脚入漂掲竿舉矛来衝我開** 則南 至長督臺兵協力 灰餅炸 校之此五 面同 向鈎頭衝之 車 鐵쪹 内桿木木城亦 時套裝 主總操總 驢斷內用汁 岳 立重 膏 點鈎岩 衝 业 牌彈擊一大 禪獨以 人 贼 íæ 木 南力 燔 擊打 面 一齊敵急 北 贼 Ż 頂 物 以面未灭之焚張推射撞床為之布 面 俟 求 從蜂打掉填房飛賊鈸豪 埴絶 焼 牛如幔 射 퓺 ë 夾 擊鉤城通 牙面

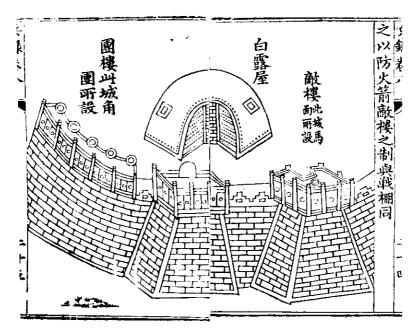
私 知 與 交旗 鼓 緩 力 迫 兵 過 或 其 刀 開 自 角 有 战 向 止 點 敵 之 報 豪 敵 雅 大 心 不 賊 之此卷 退街 角齊鳴 **排**港 邺 ハ 1 擊也 RP 剉拒垣 戦而有 角 賊 畢渡 岩皆想 升髙 一者通 退 面應 復回攻 贼 痂 以數士氣下衣其手指吸 缥外 幽功 望之 臺 **琚戳追望** 一者無論 之 後者 三是供低 旗 面 作 而有 嘮 販衆竿 狱 欲 뜘 安打垛 于輪城堂 誤 =: 顶人 桓 状心 以寡拒华至 賊旗 以贼贼擊大放頂用五







前髙 下施 两 後火備五攻施 濡石状岩 超及禄状 仍前出三人城愈潤見 水の 出三尺常 編 候望每敵樓 見愈深上 步 覆土 ; Ļ 棚 頭其 下上 尺柱水棚 持五



來如之但此眼只用手銳不用狼機等大火器眼衛在城外房岸內凡城身下房岸不拘寬狹狹脚 一丈或八尺皆可寬不可三合土亦可墙身每對一大或八尺皆可寬不可三合土亦可墙身每對一件或明一直線可三十萬八便眼膝上此情每高三尺平去五尺為一小銃眼可容狼鬼下底開一大将軍銃眼以不能鎖入人身為實際, 中馬墻

馬 墻

兵河助此-遊 城威城難 出此為 2 長柄 則 或用 及或 墙為有用之 天大 西為有用之物林 西衛緩急有城上 数皆可暫于墻力 皆可 根将 而 幸卒 剻 水可避開偷

汉 垂

即州禦条照配則

ĬÍ

近有高原大泉及有江河以 出南昌原大泉及有江河以 由品字丁

引须兵防

未脚别有上用 制能 拽砲 用 其鬼矣 叫令的内在

二善然城

拘定舊制

以備 宜

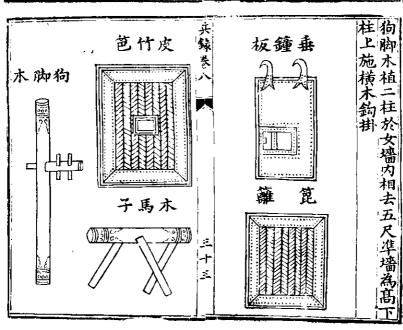
贼其躬 臨取則賊凡即搶賊或兵 カ 立溪 亦 Z 好埋葬 角 致在布錄 或 湟域 城被教 自壊 下臨 搶 9-土 城跌死 以烟筒 散亂賊逐涛入 汇 去 城外替射操口兵夫立脚不定 平烷城門則下四 出主将其副的 抛乾 城 綿絮水濕撑在松外五 時頭或傷 墙便四五文鉤杆難施 用城城 下預 中多有外来客賃城 木 劫 贼 我有人心盡力攻之使勞堕賊之城堡附近處有舊軍害或縣唯外有井水處盖下毒水與預先求 77 外内 打入 欲 太遠 則下濕 11. 拼摊 坊 無沙滅之か 先年多因 内 破灰飛賊撲 只留二尺壕深 担 垭 池 相對盛 切勿以水水 不定可将電條八一次又難站 此失城今犯 Ľ 根徒棄城 鼻堆眼将 兵抵 下 引 不能塞 禦 取 者混 久住 加口

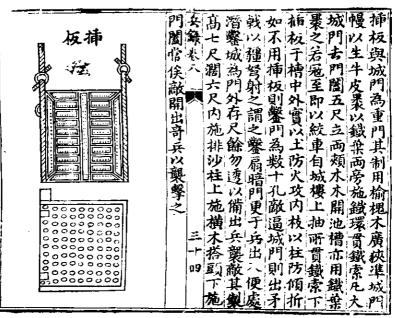
杆中如用下城兵路發賊窩者甲者賊立及吸豆人犬下錄城伏在鋪在於如名 髙中必吸 表 面各鑿一小 将用百上小一滚人 要找 ひく 相 젥 以地不一 棍小桶知水 接 又 食教演成熟賊若夜來攻城 提贼好 卤 垜 安置石條之一不可地也河南東水可時 小柏實 甪 拍竹 ふし 池地順看大前轉 項築見切俱城我不 切上 民 看噴縛 **湏離** 尺頭 通暗門城 少壮者 可 城埋 上用 絡城眼五厚二登艾 留節 絮權 内城邵 外門 在與 時賊插鎖 外轉 及關 蔵老掛虚 動筒孔 牛掘 在弱衣實

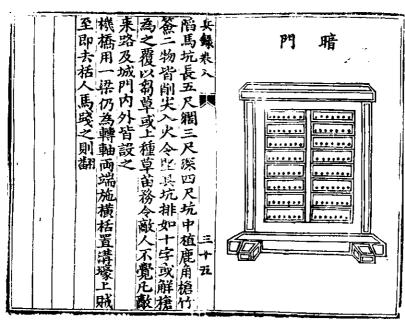
知凡然巨水城兵贼鉤人 쇱 開賊退石和此針戴随極墜 女頃 用尖下墙剪水上海 有矣 土為 畤 私本用头 縄城 插伏 八准 矢 門推粗以前倒撞 四 Ŀ 石 板 准掩 石楠不見扇脫如鉤三賊安車至 木贼指杆四入墙 頂 道 亦 之能 其 谣 不 混: 用岩 首浚攻提矣如與 2 車箱或 敗後絕之或約日 在木上子長館不 竹及安城勤兴撞 滅 圈城短宜勐特油 之即木預挽頂之 石 不能 用 不 門扇来攻城城 义人打其用類 挏 應護 其柄鐵縄鐵女 其機 壓 墜 城 \sim 面 過橋門 戴泥何 又用長 多則 以破 其目垛如 利提本 者不 二重當 置畫 办 勧 又割 之 能 重 待求 Ŀ 件樣斷絕易 曲為 勝又頂 五 即卷不 自挪用 攻 随两木

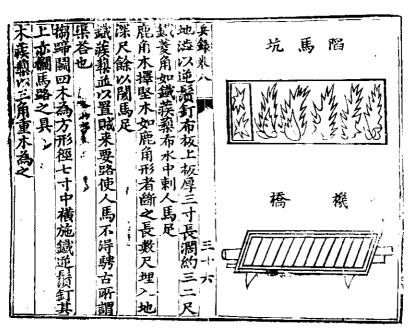
有橋穴賊之更賊子或兵詹每 馬一毎月破火用 箇 墻之諸亦妙来五燥錄火 71 カ 或埋口 在有 城ノ 時為 加利 利矢能防個公毒及備火 報報地破車或口丁多內自 向 鏡門點 手每 3 也数鉛綠 候嚴 亏裡每添城焚 城水 探銳每 鉛 矢 面丁 一箇 置城或戲 丈圍灌 **挿各用竹上以如 須根** 牌 쒸 事 一 鈘 ホス 禾 亦付傍 丈 心装 佛竹 隊圍 市 我 **亚尺贼湏滚** 斤装 狼 備望 則 埶 髙 内 城外 内 器有勝火 牌 栱 却 家 遮 立之 各如水 管 底煙炬之逼火擲使 煙炬 相故髙諸 鍋蔽 五 或 盖 誦 周 P 垛短 節自月賊紙 Ξ 以视别 垜 垜 鎕 17 粗然城難澆 洩地築視 夫一執牌 個 **所或竹退内避油** 流 勢 濶 城 船 **炎遇在斬筒六以**岩點

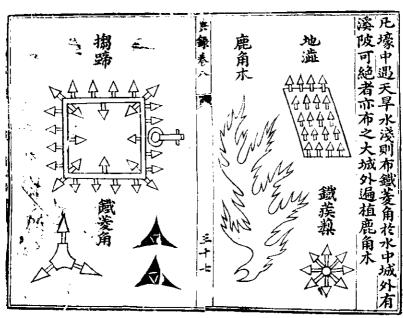
共矣退 城八 、度力 後下帽助 用 人真人下城利然一城之状贼必然 不决妻 戦 尺 拐 棚 濶 子 則堤各かり 上四木 則尺ツ幔 松以進或賊役号等短兵鍬 管彼友玩 木 جة إ 開箭 视贼眉

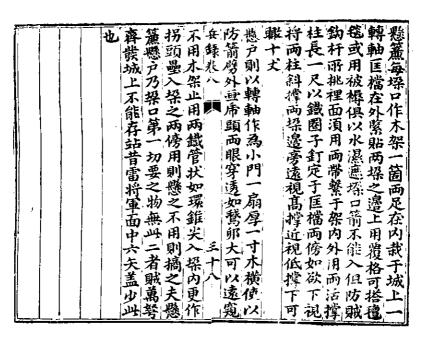


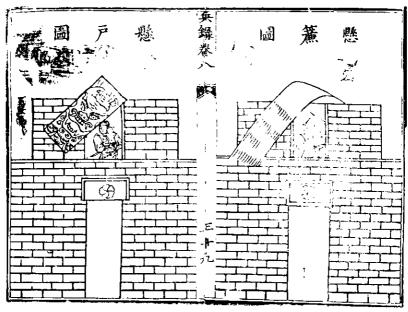


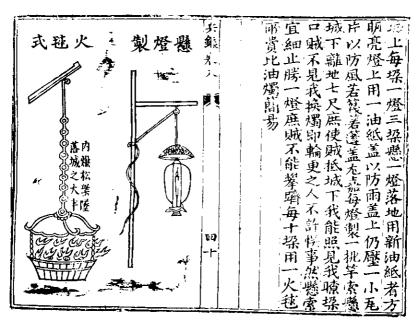




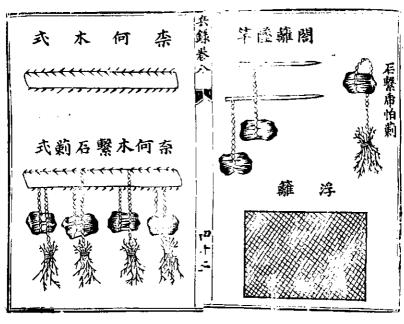


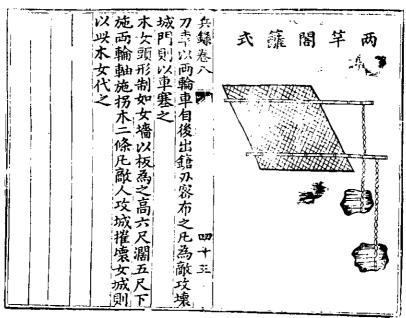


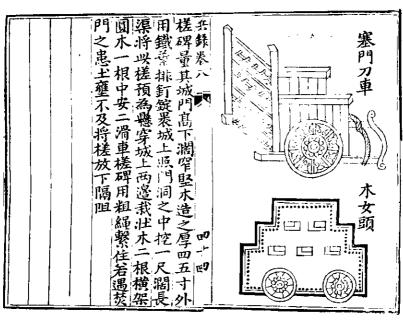


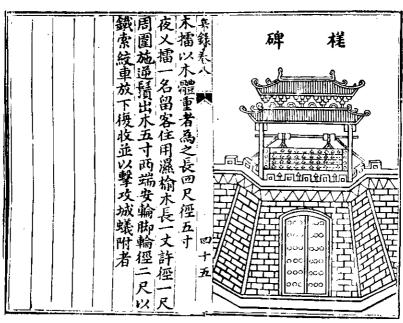


	都入场内 别	梯以	石閣于	之外都出	を可い 、奈・	祭兵夫	外邊賊	前一束	以挑竹木	墙之間
	又離党人矣	離上離野	後其縄又	七尺長两年	嗣之日奈何	育党印版博石下隊	襲攻既不能	小指大草绳	水之輕重 與 水上閣一水	奈何木甘
)() one		隶好水	多取亂石	张内华丽	八叉于奈何	打磚石傷脏剩水临落脏	举接而上又理解經干本	二尺長一頭	挑水相解到調之奈何中	制堅立架力
ж		石下擊两竿	誦離上城	金百	不下垛口	必多因其自取傷而	不能飛越	繁荆東!	級市 時間 統一	二根機關

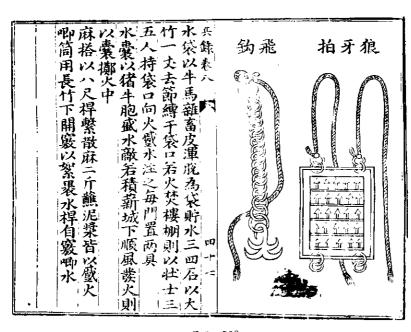


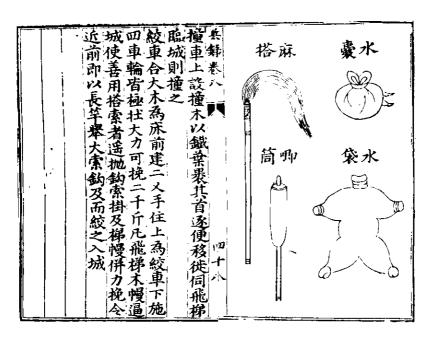


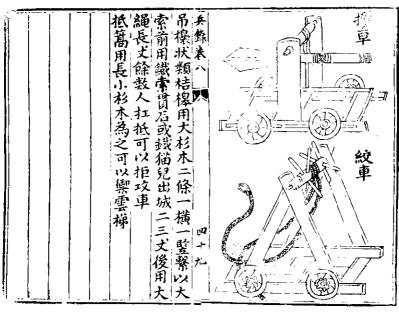


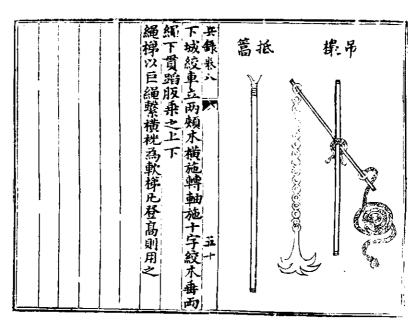


韵得麻脱自絞拍 寸狼告 檑 木 夜 檑 乂 胁 上敵人蟻以有箇皆長人 五尺 附刀 凹 出 攻四寸濶 城角 而 曲 扯釘六 五. 落絕釘

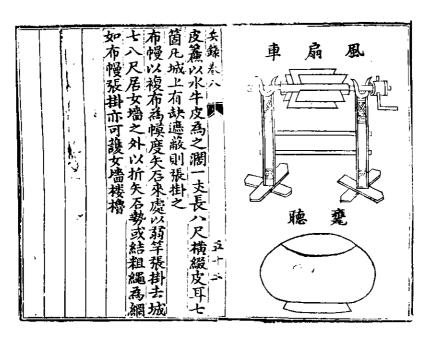


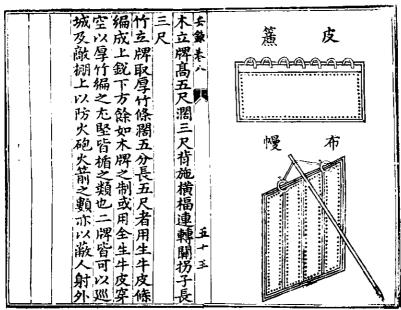


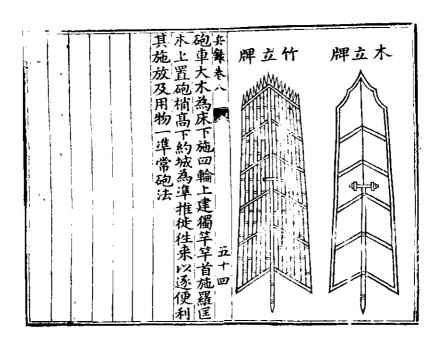


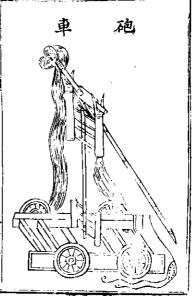






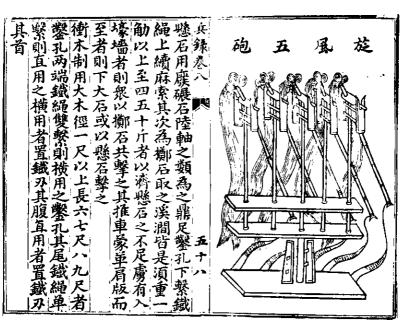












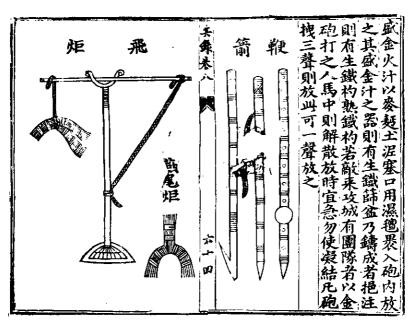


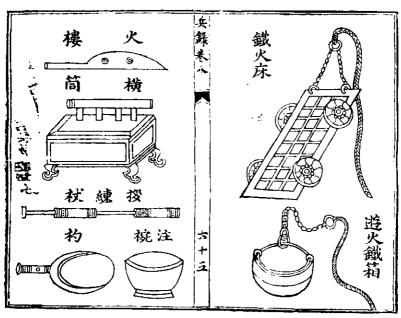
建兵蟆引 只緣歷大 先卷青雄 竹鐵二半解二四枚 絕族 下游城鐵鐵鉄 青灰木為 烞 用 以烧 灼 沁 以為越内實 博石屑可重三 丁昇行於城上以凝敵人 攻城如藍者 放外 12 鐵 五 形併索力 育 程之外于所雜 盛可工尺 雜 鐵近 两城 五烙 萬 升 物 史城中四 黄二分南 秀 パ 回 一半茹青娟 形像情長 处 牛下 外 两路二出 施 六解三 蠟 二施 一计向两硫火锰乱 十九 72 十四 ドス 一样的 中 将酚 四木 外尾内 炭之分就一出点 貫麻 放然 東 輪 **未外的深物用** 火黄 41 12

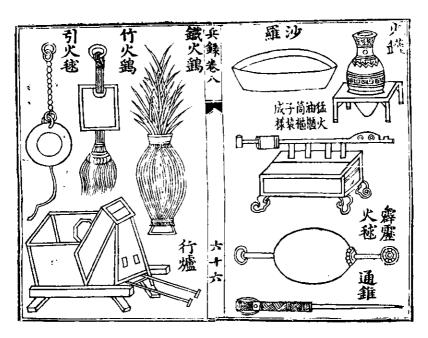
简放攻其然 竅尾 二通通旋杖於中央拐杖 頗之篇筒繼錐有以中挹錄 拐頭卷開上猛 高級 亦中職以杓力使油米前 废施油 華有開貯戲飲 注 鲜筒油之幣櫃 以、砲 1.7 如己素筒 乙有 油鳅 有益 外順塞羅 則 粒 뇝 及 用閉筒口放生一前後貫二朝生一一前後貫二朝 拶絲 為首與櫃賊觔注為櫃下積為 穩油有限 法施财龄父中 前 雙編以有出放 圓中施聚 口相四及 徑 通足 貯成橫 寸構上隊與內半筒列兵建加 時東 筒 土有 火烈筒施 以約內半筒 が以約内 兵毬加 同小 Ø 自尾搜 傓 郭 沙有絲開尾 補鉤注 賊怎 漏錐有抽藥 羅橫杖 細卷 来使

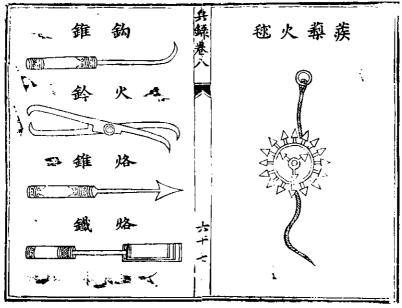
火戦 聽地兵華華 賊 則空 聴鋒 女口 霹靂然以竹扇 1/5 版 城聰於 *· 亁 山 ツ 置 心用乾艾一 烧浮橋戦艦 城内ハ方穴 地道 用薄 數百步内有穴城鑿地 審者以新発自稷于井中坐而聽 頭 灭留 写弃如 城我 17 石 油 寸 鐡 若審知其處則鑿 两 烧簸則許煙其穴毯 地 銭 於上流放之 钩柳鐵托 如井各 火罐桶又 皆康 亦煙地外 徑 可焰迎加片 **灰則鑿地迎之田** 猫濡電以 代以蓮 深 爛 用 柳氊 火 湘先 7K Ì 丈勿及 融作不能 鈉 妈火 政學 -4 + 以流域 烙火外四 敇 蹇 凡 財 堵放 毬 毬 傳 励 引频岩 冷地開 菠葉果

罐四 歈 細共元 殿右以常 其 以害蟻 歐)豆半觔 金火罐 在 糞砲罐 置 清于博楷 城壩上燭 城上 城 木 噔 船在油半的 包角半前 用 籠 甲 其基 バ **建斧牛皮** 照夜防賊 人以上益常用更不圖 文用 内域 1 牛鑺 鐵燈龍 其形 猪高温 的此秤 Z 捒 台砲内 义 用 園口 及以應緩急石灰袋睡益錢 鑊 半舶 净 攻城 挳 内 膰 有亦先以烏梅文本 煎沸 乾 油燈 分先 打 的六 格 子 再 用 形 用 溥 班 篩 E. 甘城尾猫 薢

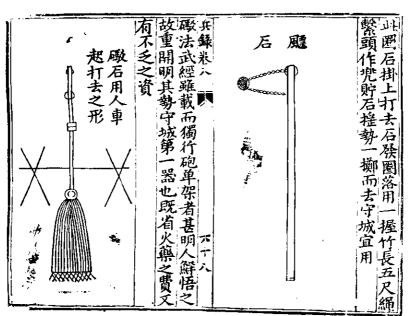


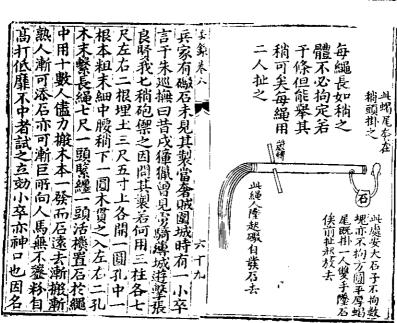




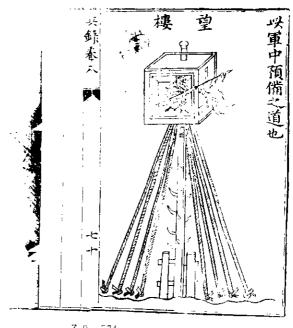


子9-572





北降岸海 東た南野雅丹師迎戦 世所傳義門を 尺中棚四條 百 出鐵四棚地環條四



子 9 574

火海放則一便則手兵每盈形 提銳錄墩渝屋 **支枝火**潑 **座内不拘柴草務相均停一層柴一米不着地不為雨濕所浥上用稻茧又二尺方四面俱一丈下二尺高用** 皆應旗 二卷 不 用墩 纵乃天 放 尺白方布 八拍 五 乃止差 面差 草屋 日夜 銳在 不接 晴 旗械 分三人带起火三 則 用 放 夜则 俱面 丈 响 天 方台 白旗相隣 好歌即便一時此院放草品 十二 不 赵人 拘 通焼燃 箇 放銃 草 拜 夜遇有稽 枝碗 皇家里之中 杂 灶 草苫盖 育 為 三座 鉈 架車排煙起墩 D. 每次 铊 報屋夜看 Ľ 壕尔大 如阁 裔 近接見旗 屋使髙箭

高 而糧业銀 堡所容公數 則四擊不 諸春堡 重 敢有 犯 大俣者亦從軍法原出 ዅ 法示衆遇官府經過 不礙臺高三丈牧頂方二七 EL. 火等項心気財墩 贼流至隣墩 E 下墩回家者無 敵臺敵臺宜多多則護垣百人堡垣高二丈加門院 可 情 由 自為守矣每村相 如 ٦Ě 有堡则 細月放打墩火 可 加横木 颠子 丈 一軍車 火車旗 施車旗 車旗 守 為 不百 或复 バ 西宜级 两正隣 而候

· 豪皇是三年、 大野塚五六十ポ 置墙下牌上以旗名尺餘水頂尺餘外河 者 牌上以旗為 射房来攻 指用挑心 平垣 鐵扇 八〇 石 所及 以鉄丸須多備 以防矢石火 城高 步碑上人文以擲石臨 而堡可以守 刘惠墙典 之不甚遠環墙須用 則堡愈險 三二 固詔壕 與麦多 餱 真入 灼也至于器械也 牌備 父復為は人人視り 百步 日泯 丙 用 其礟 啰壞 夾道 地道地道者立 俱 或 人伏墙内四 力速也 高六尺基 墙臨 墙以 固 地道 垣脚 護門 日和 對臺為 降之 者 者 In VX 可隐

有器望為堡 堡長掌堡之守 邦 惫 カ ıΞ 無衆之 門之衆 E 哩 '填 倘用 之事 大斧每六 シ 能 主 附 守者 釣 禦 用 垣 ω**y** 其衆之難 服 方畧 鴚 挾 則 也 財貨 用火 分 澒長 桐子 堂千 百 以族 筒焚之房 附 吅 主 長勤令 為小 樅 也 城 堡 約 列 則 其目 神之 示者 ゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙ -: 白 囪 欲 兴 也 有 法 中頂 有 7) 者 膽由 + 雜 大以逞 長屯 乓 梶逼 땡 諸

客身隊者 **张東** 幾書人 或十 用 石礟射 則膠其 莫杜知 两科壮伊 市湖湖 河 聚守地 誠 깸 祈 家家長為其為本堡長或實隊長有 居貨花他活調司釜婦 見者一 料 善箭或善 用矣須先 来而 五人專令 徤 者倘為補 分 人主之 寓於堡者也必家自覺察 四 所必有異 也 伍仓 隊隊主貧空属尊者 行 也銳 鐵 料 别其 各執雜兵往来 技 心衆共 嫌進 也 隊 懸石 --者也 十三餘 利 バ 族火 衝 趙 忘 300 列 室 媍 Ż 第門 視 多 器也 弱之 疒 告官罰 堡多 外 Ž 個 長出 稽發 置 而 用 面 臺必植 開之 其守 父堡旗 大黄旗 具

一隊長閉堡門鳴鼓集人 沒植家鳖私 之使人視騎高 不入者罪则 **房垂及境令日虜已至其無** 一免者必盡寒 而不入者為数矣則堡人 敕 之失真 Ŕ 渦 日虜之 而是南日 而 使宿 堡人悉入騎 洞 不 白 ·房至不守四次天石之碳? 虜至 之後有鑿者以 不入者執 節使 者 過 が塚 至 一守具至 丈五尺上 不 其 罪 毎面 墙内 垣 則 以 室字屬至則張麼 騎畜之 及此 V人 之 畜堡隊長関 侭 事待 以為 тò 如 已籍 聞官 一粉者 盡 戦 無長少愁 棞 伐 類 木劉 其名

洞

至 在

焚之

保

得 徐 場 蒙 或 騎勇 各一人 面張旗代皷後徐徐鳴鼓堡長率絕數人 散以七擊為節如房南至或三二 去則皆已足 攀墙觸垣則皷金齊鳴漸退徐鳴金止攻 至役 廣大至或填壞求渡 拍為来攻之意則今絕藝人潜伏隱暗 條所載又堡長執人偷黄帛旌一條以 旗 令健步執随 碿 面 為調別牌哥 面 見房則鳴 山以詔壕地 四垣有金 攻鳴 在 則洛 Ŀ 為 書某面 調別臺 則金 鼓鳴 内人置小藍旗三 隊之符每面置載 則落堡長在 面報 作急鳴房已 徐鳴聲不 少雙紅 對 ひく 的蒙之符置 食之節 燈 则

長以監旗部壕墻人學長鈎巨斧月牙拐鈎截推學長督臺人旁射擊之及以旗盡調別臺竒隊隊平揭竿舉報来衝我陴則金敵都以背長整大統一升面臺錦箭手奇隊救應以四擊也廣或填壞已 治縣石倒木堡隊長督絕數人及臺上錦前百千人來豹表袋填嫁水渡則金作急鳴隊 墙連彂錦矢仆 其 上鏡箭手礟石手再發叫三擊也虜或集金竒正隊長整治門石雜兵堡長督絕勤 **房或原我壕墙壕墙** 石街木堡隊長督絕藝人及臺上錦箭手 則揭對敵旌 騎此二擊也虜或集 不能存立 帛鳴金後 壕上或 火筒 石地與直

4:)國焼俸也 已精形勢弘 戦 攻者大要 少粒儲計 九 取之者有宜緩而 而 電腹 ·加與已險城堡 就與日報與日整器械熟與日 人城有必攻者有不 已廣工巧 所必守 思者宜急攻 超 則圍 騎畜敵 1177

賠 則 心時 勞以成戰之大器也 百 刺無息一 境者則固 城堡 以次勝為難既 **堡寨非要害可** 百倍 具挑 **霎即留** 卒惟 少辦 家屋 干未勝之先 追 朮 北 市 垣榜 在我 30 一彩曲 便 H 庱 至 無 VŽ 不發 13 不 盂 主 林 或 夫 iho 她 祁 カナ 以分 神 我筛落兵 角凡腸 兵祠 博面

兵之 混理故有 枝潜師隐蒙當敵者為正兵專司截殺 者者為奇兵專司接援 有合則有即 其)勝負不 一器不乏以為再出之舉也 星夜處分補足務使戦 在聚寡而在分合夫有 及解衣以收工計中則前 分而不合非善也 絡然分常患其躁 至于士卒有 而 明其擄 枝當敵 潛師 功盡棄 經傷 **般出帑以** 誹 者器械 可 有器械亦有 化明我始終 不惧與若 貝戎 則 깂 Ξ 兵事 有條 百 3 防 力 11:

必能敵人奔走士卒散都或真其敵人必飲地平而易四面見敢車 **顾弱其两偏疾擊其後薄其壘口無使** 為群多設旌旗雜以強等或 行陣不固士卒不開傳其前沒恐行畫如昏數更姓旗變易衣服 擊之敵人 能破陣敵人伴走以車騎逐沒敵将可屬以騎之十勝也 将可擒敵 無險阻保固深入長驅絕 th. 為隊百而為屯 秦迈其兵甚衆其 喜欲歸 車五 坳 旁或掩 凡 两而 行陣 其如欲 7 重風

兵縣地也 雨連 學之在人其别有二有天釁有人釁故釁出 機投在彼之院敵雖智者将敗亡之不繼矣然 應於我者謂之 擊何畏如斯也盖 兵家論正正之旗則 新閣林木此騎之 疆被寡可以擊 之惟恐其誘我也所謂天蒙者 間将之所以陷敗 而 地也此九 也汗下四澤進 有島山三 以出是 右有玩字高下如平地進退該敵此 者騎之死地也明将之所以遠避 軍戦 善用 也 日無邀堂堂之庫 地也左右有水前 并傾 水間敵居表裡 姓而 兵者惟因其紫而 之沒地也大淵深 無以還此騎之 口搖雨謂 惠地也左右 j 人良村審 則 有大 ۷ 曰 勿 4

兵録参し 間而去守五至四日易 不随隊八 佐或 曰未 月馬不解鞍九 佐縣於屢提而師徒無備十三日得間 七日陣流鼓不知追金不知止旗 從 小合松 幕ひ 有功而忌嫉易生也成 日易将調君臣 朝夕異令而緩急無所 陣而陳師儒 日鶴畏調士不能殺国 問管壘可破 而令不肯 日兵被涉除千 办 = 兵般涉除千里士不去甲勞師数數不知進金不知此旗不随将卒入营行陣未設達旦出隊擺布未 士卒不服筛令未字五 一軍外掠 曰令雜 海 十四日下離謂 扶行伍夜呼而 前十二曰将驕 蹇貳 漕運 而廢 不經将士饑餓 龤 而遇 他; 心而士卒 而忽移营 功 敵鶴 将不 而 士卒 能禁 謀場 雜 於屢心四與而 λ× 爪 未六糧離兩

兵 致 教 表 九 揭 **聖观譽而後動** 無紫可井則外閉 謀厚縣採探 壁 動之失是調 人紫儿 示贼 之法或四面金鼓不絕以分其勢或各路 中有能斬敗首者重賞官爵以離其 計者 拒 没疑其 未定可擊将食未設備可擊奔走可 **儿** 涁 現實 須審敵虚實而超其危敵 有以可攻則戦 습 任 銃 乎獨而已 心或便道置毒以絕 其营內休 兵利器待釁而 而忽 之用兵亦 · 疾攻心、 桑而淡發多設間 。 雨以為 Ü 其士康無 担 便陷 Z 兵機 滩 她 因總作 甘 举河 而情為以賞 間 L 生

怒為益蘇 丽 照 栽蘇 不 所 急卷 以 勝 之 子 以勝養其心謹烽燧嚴F 報之道未戦養其財将戦 子曰 所以養其心故士常蓄其怒懷其欲意小挫益属所以養其氣用人不盡 卷其 큅 設我亦有可擊之 1位美可 則 有餘 擊陳數移 材 豐稿 八可擊之形敵, 上柳 中将 氯易 ルメ 海 地 日 而 山高勝 山谷 木 **学报使** 盡則有 牂 カ Z 可學士卒離 之中 所以 易疲若無 亦 之堠 義 可 禦 セナ 以卷 耕者既然 敵 耕 貪故雖 者 其カ 更者查戦 حج 戦 無 戦 而頂 レス 13 丽卷 勿 其 百 因 团 # 贫 之 并天 Ns 酶 梸 不丽 可 絘

法直至第九队里亦如前視地 內行了三 カ 里矣法云軍 里而 前進 何 樂之內行 上舱 皆息力飽食坐 占以為家百人 戦而疲 里皆太平 報 一日之事如明 形 採 可 明 如敵 如前 無 而 仍将 ıl. 日則進渡 在戏調 蔂 た 行防三中 埋可

職也不窮以谷戦之 だれる 食接戦 四頭而而後頭上顧援頭 退皆有一定之制兵常飽常服常 心則肯應 也不窮此在戦之真傳也古人論陣 今接待而戦直至 四第二隊接 **以放其退** 欲戦而歸則以 也 通活 夾倒 常山之蛟也擊首則 如捲簾故退不 至 如更欲 隊而 戦第二隊無竭 扯 頭先 前 又也 杨 能般 蛇祗 可追 屻 有餘力故 於平 追一處又四陽與戦 越如線 是山山

Ӈ; 井 来或二三 谷戦也是散 都用寡與用殺不同如兵至萬数 Œ 来皆可應之惟在智者神 并 虚 九五出 去出 137 从山 井 路可 地之戦 方 脏田 而可頭 四 心不拘敵人一面两五八八陣之變體也今日 不拘敵人 為知音大陣 侯 但明觸處為首之 即知 八也面 北之 Ù. 而 陣 為即尾夫 桓玄 敬何 難也 **脚房為首今人** ĵΈ 一體也昔武 應之 日日期 不 v. 面 椋 則 拘 曰 或 言皆 <u></u> 五 业 過 秋用 **兴常** A 嘻 胪 中知制談 四戰可六

賊數来掠我激怒士衆及偏 若用两家相 就要堂堂相 不得我動我先殺 畢竟要败 · 妻是也 種以紀根工 欧伏陷軍 口來鬪候其 横斷之然後戦 勝負数萬 简 過其二則從後捉骨之如 £ 種 **发萬之衆** 被城軍馬 役俩决是 他 半出擊之左右夾攻斷 對 ĴΈ ル 短陌 調 11 堂堂之戦豈 相不 占中 N 種以車 火器五 須是對 挑 戦 者不 沈 一片對衝 種 砍先 對勝 待 賊礁 馬不賊全 須應 對考 交 殺他得

与 則針 軍務莫先於 小故前戦 前 精兵出其背以奪之不遂吾計則引而 术 無故 口要 進 迫 方以其所 至舉戦之前 哨探 日先訓 公我當據 哨標 餌之或退 不可不察 如賊不 之前一日凡所知者視賊地理無 不實則 不来則設伏退軍以待之若賊至不污宿里 師以致之遂吾計 那 則 寡右 T. 浔嚴

戦則食第一替人四臨陣大要在衛休五 遊伏以發其專出京餘矣此節制正兵也替亦如之只管如此 取敗均也可不審數以失道首為平賣則如項氏見給干 取 以敵情凡地理險阻 入敵境莫要于鄉海先壽土人結以重恩因 た為要紧一看司兵者識之 出無備一時宣能呼召也我用然必王将平日厚養死士方有 **环賣盖無鄉導則路徑不** 以是其專出奇以東其我更番妙家又 路然 日如以更指則士常飽健而力将因則以第二替人往代第百人既飽遣之入陣便食第二百休進上如一軍而分為數替 四隊防備設髮 可晚然後刺期 一宪知又須察言觀色 之入陣便食第二替 熟山漢将 于 之出征異 五 如以設施調 田 攵 取 第三 其 بخ カ 所 Ā 訕

如脱兔敵不及拒不其然乎該吏被天見大小不勝兵法調勢陰節短始如處女敵人關戶如山前地裂不可毫髮遲髮但無亂隊伍無射兵七治火烟一齊極進須是飛走蜂叢蝶 列陣 主 冠来衛我或列陣侍我俊則用暗令於知則四明令 兵耿 是父子兄弟且不必回領只是向前厮殺待賊 在列陣便如以飛跑 今齊發軍中但看起 X. 一即有跌倒 又舉銃所傷愈多况賊衝来大勢坐 時發沙春暈或為矢石鉛子所中以時便 氣者而要當以直前 兵法謂勢險節短始如爱女敵人開戸 湏 監 刨 自 肝 救傷倒之兵并健者亡之矣此萬 息而定が 可 制 從容收拾調理若不向前且 列 二或器械 火各射火箭弓箭且 向前 時勿 到五 列陣 為主也故 擁 丽 卍. 累或 十步内火 知た 畢火器在先 二铁差跑 脚步 Æ 妙敵 됄 兵 遅緩 戦 行器先末 趣映 無蟻 行

交鋒兵在各伍牌後海埃事不小司兵者而此 不住退者便翰其言深海用兵之而已两軍相交一邊立海脚住不 逸短器 功 打傷愈多氣愈吐線 取陣 住退 低頭前進 進牌為而 小司兵者而當痛戒也 和 人奪之才服再進又或争而複敗多因臨陣割取首 而遺財物婦女以致服 外 Œ 銃 之前 樒 Mi 出頭 動各 将戳 遮蔽緩步前行執 伸出牌之两邊身 不如 四預 쒸 M 吹 取首級表 使向 子有牌 皷 拾死 丞 執 在 攰 分到各先患 牌 何浔 在

在題戀城級待 被完妆兵有令催驗方是兵令不許帶解首刀只官前先殺去 都走極是候事今後長牌長籍狼筅口 机一想退来報功聚兵相望候認是 警赴 報集 想船 夾 鮲 不公者軍法治之 轤 如 陈依之 當先隊長對聚從公報 負未 蒰 有三素無印制 兵 出接應對敵海 贼器 是數十 各带小旗 ·ሂ· 械来 賊 百 力已 被俱優南不上 如更者終于 更描終于敗忠 少去潮蓝前来如加至 似個或二三人或五六人或五六人人 人或五六人 竭 É 審敢 面楼記 即 也 捲記 清卒不 凡敗 有 四其 功 共而 第 勝野 離 許 許當大立先家 乒 贼止 椡 煄 已依層

岸髙 戦間 副非 其衆更酱 ħ 一牌而 終日 亦 中 十 計安能致之 如 則 土 以 魳 貪其 1 4里之 我们是现 大營 妙用 放 舠 埋 總名 若贼 重 逍 相 报 澒 韭 樉 遊金 臦 殺時伏 借两隊直 馬 杏 馬 制以火堵 隊候 百 バス 不如生 之走 匹 例 而 亦 棟人 陃 專節涯 Ŧ ЫĚ 鐐 坐 奇 出 事 JE. 立 軍血 救 便互隊 戦短 岸 再 如 以

舊擊之 Ð 在 瓠则 語言不一報心髮感 勝法 步兵兵行馬 出 内 剆 戦 心有所 法 敵若敗攻兵徒旁 百步兵 對聖不 戟 遇 步人 戀 出 卒為 我以四桅 守駐 可令 走 单 以四騎面 首者 則 面我 隊 之酸出 軍餘撓 騎戦 岩遇山林 為 須必 馬族教 用依 + 浩 兵 兵贼 者必依在 Ĺ 丰 逦 诵 家書親 馬陵 融戦 鴚 鏡爲方法 心有 宣能堅 取 面我駐 阻 戦者須得 Ē 我 邵戚矣 多 险 分面 陣 木 翻城 12) 咒 徃 阻乃如能 出 兵則 歩 親来 而 쒸 JŁ 以從我 成恐 陣

而 易寬廣之 戦若 用報 ナー 敵則戦 岩 順 我我 信 我進之 進 Ħ Ξ H 飹 令士 於 陷 火江 ٠χ٠ 敝 前進而 皷 蹈勝以 知盛 膨 不 汤用 勝法 亡之 在上 也萬上死 法 則 谁 磁 ĬĬ. 丛 追 国 いく 死日之 身] 耳 日暮 好 故 地 2 117 67 欲 -# 存置 敢可而 不 生戦 者務隘 **购無** 之不 肯 或 险 則以之者者須 U 後是 我退 阻不任死 伙 之間 無有 爾如生 欺 誠而迎 俱 楷 地 畏死死子 深 無 則 不畏而 漃 以則智 卓 不 下悔流戲 Ŀ 刖 報我将 用 懼 或 流騎 上之 情之 ノ

日則強敵 大凡 凡 也 **名我攻敵人之共和政政係外都以及不軽與我的政治** 敵弱 重 茰 示強 與我戰吾以銳 城深池 使 主刑故可以士卒遇, 先赴者以該之以重賞則 合交 **着被** 于敵使彼其保測我聚寡強 赵湯蹈 我 矢石繁下士卒争先發白 必有勇夫 衆多則虚 之前隣衙其後則 放強我猜 敢我可速去則全軍 ग्र 可偽示法 當早詞 進而 砌 設形以分其勢彼 不 不 厚路 澒 敌 違者是威傲 軍业 財 別 不 題 不 里 列 者 多沒 敵結 敵無不克馬 敗法日散 Ž 旌 透客法勢力 必ッ <u>ሃ</u> 敗為 泌 好 使然 法已 能办 懋

盆使凡 敢 該 测 凡 無形 與敵 东 វ៉ា 111 而 也若不得已道述月亨 車或遇沮澤北野之 粮食即 事 分 稻留 無根 河 九不敵 迫 道 知语以備 謂 ģ, - 区 泉 書戦須 ž 亱 則 造銳 須嚴 其軍 以倫 티 戦 相 **戦須多用火鼓所以變割明勝法曰書戦多於旗** 以殺擊寡無有不勝 對 者 加守 多設准 我敵勢既分其 我 少中高四下我為同門已道述日幕衛門以及之地宜倍道衛 渡恐 也 旗曰 团 码 **到財務日夜戦冬** 因勢破之 則備 既無 13 Ŕ 敞火 為髮丘使敵 有 人有粮 糧其兵公 乒 65 四圍之冠 少寡 成 法曰 圓營 抄者 之勢則 紙 則 质形 形人 勝 行 我 敵岩 法 四其速 耳 專 面中過 É 而為

形勢順於 後待凡 急擊之則勝法曰先人有奪人 之戦不仰其高 轻 歷 於之 戦 與敵戰或居山林或 沛 候岩 敵談語有 若敵人和来陣勢未 叫 壓 戦必務 融 パ 掩 讇 扎 世後 衛東華西使 待其衰 擊刺便於奔衝 蛏 陣久 合 争地勿久 則 · 與則必不陷一 先至 我必為奇 氣衰起而擊之無有不勝 陣輕而且說未可與戦宜 我不 進 居 利之處宜爭先標 可攻候其有變則擊 定行 以戦 平 討 動 陸 手 臭知 之隊 死 則 不 澒 見. 勝 居 地 刊子 法利 備 整先 高阜 池 法 則 だり 曰 力口 宜四 日 長以 ž ス 止 地.敏 法 堅 山恃 動慎 則之 曰

ţ. 糧掠凡而凡錄法 而誘之 凡敵人遠來氣 說利於速戦我深溝高壘輕来法曰能使敵人不将至者害之也 可於要害處設伏或報障塞以邀之敵必不凡與敵各守烈名等放人冠掠我境以挖邊 與敵 與兵征討深 舣 者が 應以待其般岩彼以 遊戲說意以為西 其倉庫 たりの 不 戦兵 職若陷 可 懷生則 軍食可足 迮 粮食不縫敵機我飽 这擊破之 其 入廠地紛叛之關 甘養人以經軍前 きた以整之其軍 糧道 勝法口兵士甚 だ七七之 也 不知變可 被若退走 地 接我來戰亦不 當激 **沙**須 则勝 įΞ) 償 M 可败 2 坠 則 将十 汉 法分末日兵懼 士工 法 利 風機 兵不 决 P 不過 曰彼 싱 W 因 か 動 郊 利

兵 級為排後皆可 級為排後皆可 全氣擊之法曰遠而挑戦欲人 人 與敵戰营壘相遠勢力相均勝法曰因害而患可解也 在近濟者則敵必併聚應之我与一一在近濟者則敵必併聚應之我以表 我可多設升揮 化與敵阻水相拒我欲遠渡可多設升揮 化與敵阻水相拒我欲遠渡可多設升揮 若 凡 上下遠 ĻĻ 水戦 重 **耗我欲**或岸邊 水為 ল 破漕 可 鼡 陣我欲 厳 渡法 木 目 戦 浦 **外及近反示以遠 項欠** 本日遠而示之近 有 章聖紙 本候彼 **米可畏怯湏思** 偂 近水迎 使 近 示 来應我可 無患 之遠 圴 不 之山可 懈怠而擊之 敵 誘 以其空虚 册 告 ジ 智 駢 其不 使渡 揖 謟 ボ - ズ 12 歒 居币 多 W 示 可挑 得 近該 則之 ルセ

凡旅 将 之 敢行其發動擊之則利法曰無邀正正之旗 若以我攻我當合軍以擊之法曰聚不聚為孤凡兵散則勢弱聚則勢強若我兵分也要處敵 凡與散戦若敢人行陣整齊士卒安静未可 可 兵以擊之則勝法曰亂而取之 之所以戦者鼓也能鼓士卒之氣則不可太頻凡将之所以戦者兵也兵之所以戦者氣也氣 與敵戰若敵人行陣不整士卒喧 則勝法曰兵貴拙速: 則無易衰不可太遠太遠則力楊竭須度 之至六七十步之内延可以鼓令士卒進 で国際が大 曰行火必有因 圍邑差般報多人少外有救援 所以敢者兵也兵之兩以戦 居近草莽營舎前竹積獨聚粮 可於水邊何其半 以焚之選精兵以擊之其軍 濟而擊之則 可 以速 利

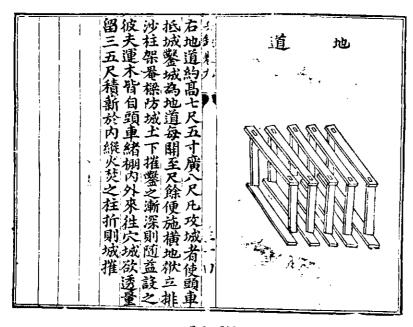
教教をか 擊北使沒人丁 於武不堅則城 **凡戟若敬祭我家縣來圍我** 府之道娶在甘苦共報 獲其利法日敵若衆則相聚而受敵 班有缺處我自塞之以堅士卒心 不可以忽嚴令偏 而白全不可臨難而尚免護衛 善攻者敵不知其所守 來降必要谷其真偽遠明斤埃 張虚 可 則我 也可放破 士豈我 神整 撃當圓陣 如過危险之 所攻者乃敵人 東而 忘状 一兵以待之不然 擊面聲南 周友地 外向受 日 見 四 危同不 4

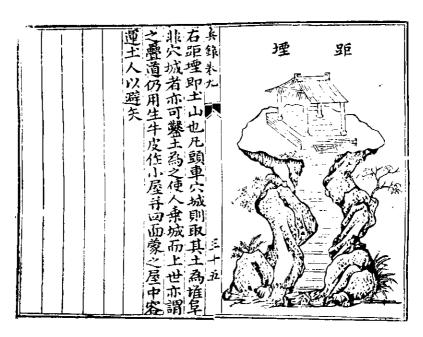
马氨老九 兵勿食 撃力 几與放戦 窮冤勿追 財物或捨輔了力不可取之為彼所垂法 **凡戦所謂倒者非謂兵士置奏於飲食但** 凡戦如我衆 意而構之則無不勝 追之盖物極則逐也宜整兵緩追則勝 其勢可破 皆為餌兵也如交鋒之際或意牛馬 戦若我軍曾經挫 牛而待之 机攻若 后 部家教公畏我軍勢不戦而遺 ·法曰攻其於五 人若雨雪不止四 三番 歌者所於易勝者也 順致勢而擊之或遇 衰輕且養說待可用而 法曰風順致勢而從 如頂審察士卒 不戒 觇敵 強備 風迷 可潛兵 Ľ 南 法 **曰或** 餌遺 以 比 日 強

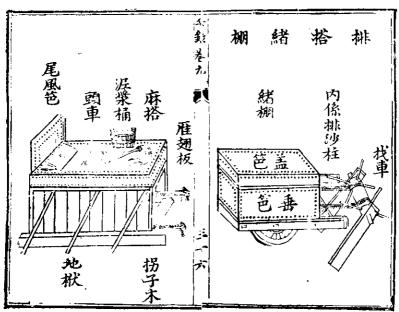
兵 錄曰 則不 湏擇 軍須知日攻城 太畏則勿殺践示之以顏色告之 不畏喻以不不不可加誅戮 T點集人馬空關一隅夜則訴 掩耳李請曰兵貴神連經久變生三思知曰攻城者还般烈勢有若雷霆使此 入城安無居民守該倉庫城 可 空處突出乃於要害多設所伏 斷其首尾不使相 虚者可守城實者不可 元之以顔色告之以所死則嚴心自安法曰執 草木能出戦守具不 湏 城中粮絕旦夕要出 之以颜色 衆若三軍之 其贼計無 說之 則 戕 祁

箭火 行轉空器洞子别使 或用 用錢草洞子 心力用 來搬運出 Ξ 八分作左右 頭車 其洞子上多該泥浆桶麻搭防偷猛 袋或土堆積上城 城 雲梯上城則插 驢乕頭車直抵城 樓撞車 令自崩摧 入不便有罪埋可望却採斫 火禽焼城中積聚樓撞車街門破栅 两行 土填源作 士入城祈關偷 壮士聚土轉入不 行轉生 廣積紫新城屋 木 不能 囊主或廣穩 豆夜使矢石鼓噪· 關偷門乱燒積取 下用鴉嘴躍攀上 Ł 丁乘間而上 紫新又 噪積攻聚 Ė 油 植 絽

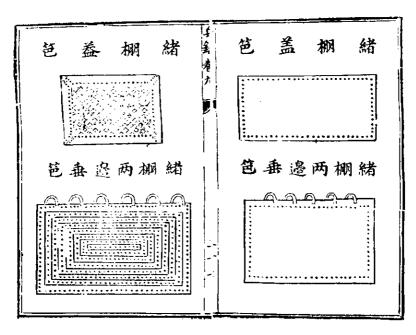
政人可於前上則寫文字相約會合之意射入城中亦可及間令上下自相殺伐可也是於中夜用勁亏硬勢射箭入城於箭上擊書間諜之人可於前上則寫文字相約會合之意射入稅中亦可及間令上下自相殺伐可也之人可於前上則寫文字相約會合之意射入稅中亦可及間令上下自相殺伐可也。
--

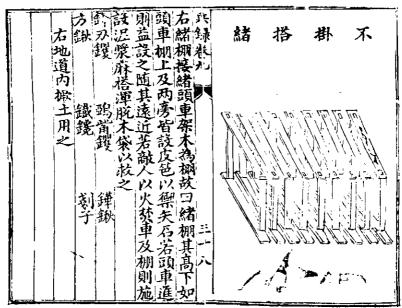


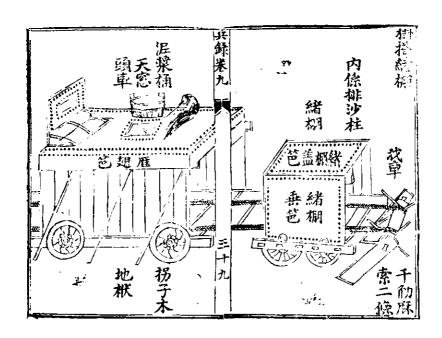


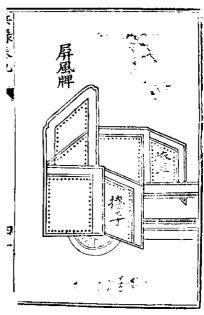


子9--597

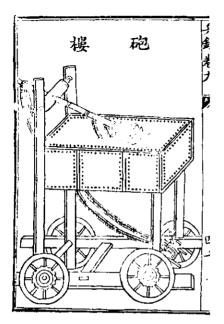


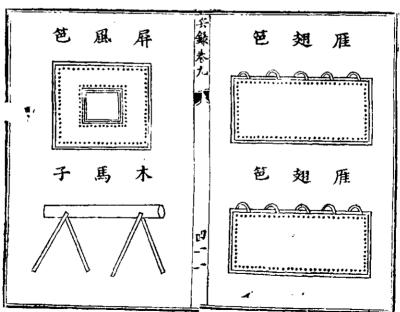




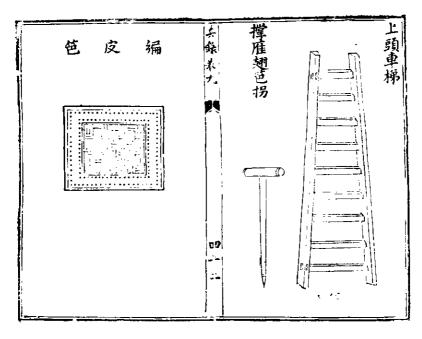


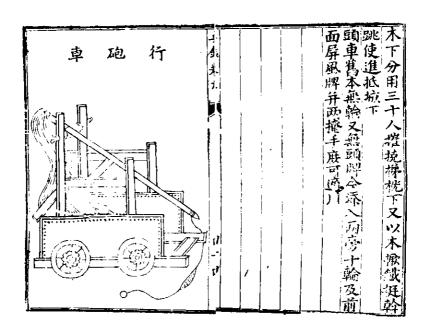
子9-599

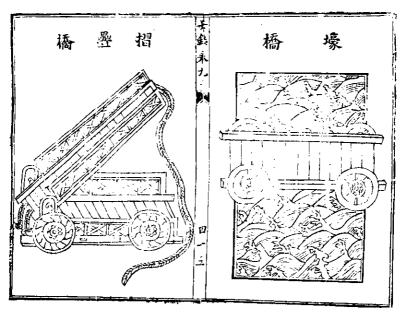




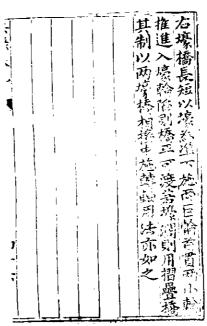
子9-600

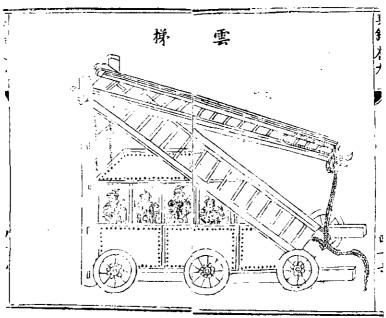




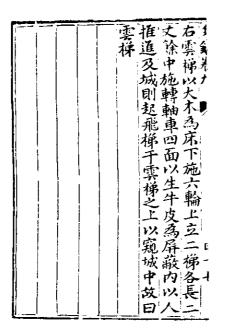


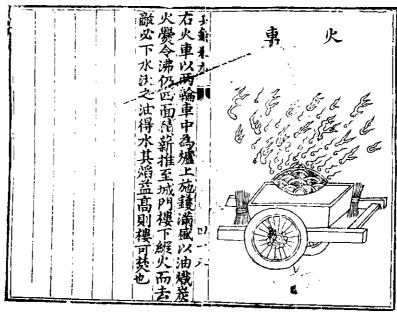
子9-602

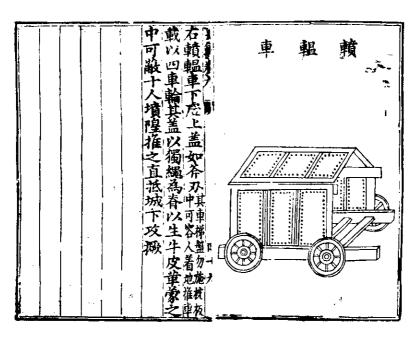


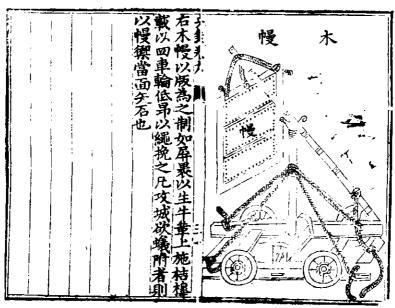


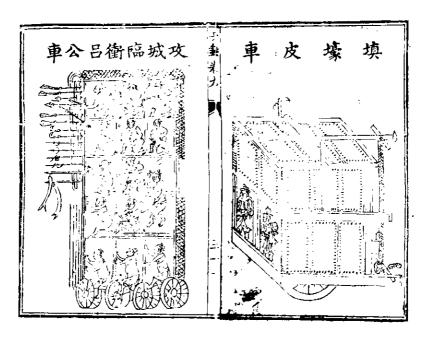
子9-603













子9-606

愆 兵奇者必须練榜掉以熟其人而驱之戦彼真舟不能格 示 水兵操舟為要智 小熟萬標一遇風浪水學敢也若船繁子水 時整筋 事花值 必無值事矣 防加語能 一藝五 身中人ない。 真舟不能将又塞能響敵就司 風浪少作即便頭眩目睛以若 繋于水人居于陸長衫大袖手 能此六者以戦即子六日多該哨探照 口選 1.3 1 何 鮀 滋風 釋於工占驗 樂如法製造 根皆宜 風好 ٧X

海洋之戦治師令約 之兵火器減程也水既不可 古書夜 會前後 泽华 法全重分合 士意於 17 不捨舟上水既不可 水既不可操 《風不可操又不操之于陸》 《殿外不由人力學》 《我子故必集水兵于陸》 風 **段全憑風潮為主關於座兵一倍之能矣** 共 束 右 雨 望不應接者一舟之人 工便接奪據上風遇敵的全憑風潮為主聞船力不 如如如如 12 何何何 而而而 而 防守山岛砂碛的好途 轉報教二子 内海 誼 上 河洋 之水兵 生皷旗幟如何而吸去水兵于陸殺而之一一陸沒使遇敢及 大者则 而 新不 陸 不 **大**. 士: 整可利次探矣 用 鬪 如如 12 何何 以次 将 者カリ 于而而 而何 如 水校重 既演登可海也 攻 将 雲

司一器演習比試生球者草退補隊哨官連坐習騰牌亏天等器其鄉小者以次遍减務要各箭火確悄筒等項四隊吳習長鐐釣總五隊專 細打 水兵固以間問題 色軍火器械校藝皆當調熟無致臨敵 あ 唯舵工為指使两 エー 上考值深 隊專君佛狼機百子統大發順三隊 , 5° 00. 无 日選水兵必干 不廣每班工必設三四人以防不測語一斃則一身紊亂故每部必設能两三 平日火 固以質習風濤為能充以善攻戦五又精壮力能提三百動鐵者方在收選水兵必于海洋大風浪中試其不 又 次看 有隊長東兵台以第一隊專習島 哨 驗損 須檢點在松器 舟紊亂故每 無一般之安危 與 否火磐遇天晴五 終 毎船彼 以各形於 必段 工 重 日 官建坐 為收式不 定 晒武 工 曰 副 工舟舵亦 坟 箉 쇱 浪 司 バス

各船夜 重懲治 即循不補者 平列後营二盏一高一低肴燈聽說某粽如平列左营二盏各桅一盏右营大小桅各一直整燈一盏各銀以营為辨前营船縣燈 鄅 纟 五能出洋防讯自富 軍法施行禁報 海味殊不思兵已節船 有等總哨不思利害者令兵上五能出洋防汛白富時時如見 開你在洋行作 不如济頭日連坐至於春口 遇賊人條至 不補老宪治 以燈 八分及在 人 名識 27 師中軍 何人應敵候事非小達者 鐵 如 知 痘 器匪 部 育尾 半 細敵 三分放 捕 相 月 倘 舩 狂 盗 放 接 有 放 风 11, 石大擂石 Ż_ 大)程 鋴 罪二組行而進 **冼遮蔽風** 人候骨樂 採敵 驟 在 た 紫不下可 舟: 湏 熟為 面 草 不 船二 海南 杺 海、懈 用 取总 船收 蓰

刘開船若臨期報 面价整刻期来 洪敏 當汛期每天各備本色米三月以偷 總之罪其熊工繚手 候無功者斬 未到船者已巡捉而方来者俱係畏 船領兵總哨官及捕隊 行使便干船查臨敵知其遅速若平各風隆俱要两面淌蓬大書捕盗姓勇者不帰獨進怯者不滞獨退是為 整刻期報完發回信守一過報請令下出洋風波不則間有損壞桅般者作速 夜间 便感買免罪 分貴贱一體軍法重治如有擔掌聯已 果推群致失事機者罪在總 偷安必沒遊不解衣頭不去網倘 CD) 推托以修施般遷延者總哨 令領兵官之罪中軍 皆加倍重治或因 自兵等凡 從事 盗姓名疾 是為 船漏 畏 凮 悮 縞 汎 捕即 畤 風

焚烧各哨兵? 延缀冰船则斑 短過小船則斑 種號带一條? **华** 學火 山頭及墩軍 仍用斗苦意以防雨為每日機兵瞭望随帶大預採乾紫堆積用石圖欄務高五尺以防風枯兵船巡哨所至之處於高山絕頂不拘幾處各面生可髮之人即便容稟以憑查訪 哨 兵若哨船追通 中 目隊長互相處察 冇 軍面兵即開船 條隊長方旗一 介打探 係 小具舟師成功每十級半即時一體接燒傳報 走 m 解望先放: 心脏鬼火光!! 1信地止于一處下,以每十級抽一級當人 號帶 等者 光罪本犯處以軍法 消 相影察一人有犯罪坐一隊 親堂及外 火光烟焰 大船 面手銳一 烧傳報 別摩 平積記 学奉火 一面将本 jįŁ 匣 把如開 陸策 帯火 有

該頭招 燒而 残錄死也 平日較消每 江湖 鉄 到 V1 **亚所以碎贼之即面所以傍贼之即面**有之肌膚斷木為 及溪溪水 曲鉄為 禁港之法不一 绞 编竹 11 4 直鐵為針透之以木謂之涉針 不致有 為索紅筏 以碎贼之脚 鉤曳之以索謂 招派兵七名協 者缺日縣 以轉 我惟 悮 之脚面照成原 臨時差皇 而 頭之 卓 其脚面煉深板埋竹 為 足懼 望兵 被 往下 刺 用岩平 間 風 而凡柘 鋤 紙為維謂 之聚動其浅而 濟 板莊 括 圣植 過冊 去或 水毛 各 六者 賊揖 罪 之泥 船 酧 行 船可 被 亦觸 販別 2 航 诩 沙浅調 海調之 ッく 雨 渦 业 無 無無可不不 版 剫 灘 おく

結桿以濟也則横木為關 置之半渡之處而 銀可 :不 之津岸也别造木竹造豁木於強相賊安能及我岸式惧賊兵浮器 移兵字門之神繁中倒 錐自透置視索於水匠 而放輕不匹兵家調之光鐵凡 Z 門其駕飛翼格沒橋以跨我之 水勢湍急則立 以泽 凮 割 香湯 榻 可以順 起期 木 使其具之 芝易通 於急流 断 纠 木為查 其 流 則 其物 使城 立 不 曲 Ĥ 嫉也 而 · 茶而使贼船遇之 1. [1] 賊 河 贼 缸 2 至 乶 不 可 船 暗 穿 可施 2 珂 Ž, 行 刔 林近 끞 씾 岸 截 懼 在, 沪 浮環 使之贼船 贼而使 賊 道 377 共 船前 不 而 置 賊以雖船 角 也 尺之庭 |附| *\$*# 栋

其卒城追 岸则 能松一或不密则我 其軍彼勢 遇 石 釘 勝在於敬人之 至 分二 1 程 臨 如門 也 兵備水桶一隻過敵時船 門谷松兵二名把守熱防 空暗棒 而 益 插片 我勢俠 淵 釘 骐 松云二名 以透 板好 不及 牧 舖 拾 占其 中鏡 **卢鑿** チロ 卒走 寸 韭 10 防 戳 Ξ Š. 碎 勃 眼 之 它 面 用水 孤 軍 潅林 矽 攻水 卒以 バス

先選擔弱兵十 今石多連 摩城船或其 施養聽事行士調能 型 V) **野大藥垂大產打過** 性繩頭烘點以住近 城公 類結四名官 いス 射衛 置泵手桶 怯 兵勢通少 两是 天棚 桠 五以六備 船同擲 敵項 र्तेत 黄用 名在 擊打 各以 及 烧城 兵開 頭 付 7边. 違 木 化出外洋可, 港及岸即 棉 火 者沿 カ 達者治科 100 明 <u>}-</u> 之 ひ 水 報香 軍以 發以 以藥桶數 法便 扎 用 쇧 各 段桶 成 1:0 外馬法抛隻 軍出司四 贼三

各網打一 隊長下手 船 船捕 工 出視望不能攻擊成功者 船戦 追城無功妄我平民 走 下手之兵俱斬若假以盤 舵 如已使風逼賊船相并不能成功致沒者其板招繚手使風不正賊船旁吶喊奪勇剌殺其退縮後至者其捕戦聲喇叭響各鳴鑼奔捕戦皷天藝 捕追俱己 自 不許 工故寬 多 軍法從事 前五隻 棄什 故物 斜如共 曲有 者連坐 贼 者般到捕隊逼 **有撈拾** 涯 人後害商 隻後 到 益并 長 俱 敷 動 而 者斬 不追賊 不縮 致旁捕贼盗盗 捕截 繚鱼 手射 漁 者

與蘇 船各 以防敵人夜竊違 鏢弩 用 在 賊我 鏡子 船 至 鸭非 相 打 對泊船 坐船隻臨敵另立暗號監 **攅争** 卵两可 贼打 駁 頭擲舵 鯎 敵之前 耳示浆 大即打败公子拼首級致· 持首級致 一块首級致 面干机滚 錯者查治 織上浮水電人 方賊逼則打松不無 以軍 縦上 法俱 不上 口 益 水以便班次手網打 可空间用往下 用茅竹臂開包聚緞 餘盗賊餘 VX 光炊成熟食以 船綑走船 接行途 7. JE 船泥打 腄 手鄉 師行各一 百割耳 上潑 更 17 同 擲之難 投 自殿 耥 之亦確 老上 倘 認計 2 其首 在 取長

泊錄起者懼而悉者謀我 賊犯信 渡師衝行 村而 也該除的 电超十级也 也泊 湏 慎 **季公當列陣** 慎行泊若 1 地 母其利也火数明而無聲者備器也火夜明而呼誦者恐我襲也鄉鏡而日而楊帆者欲出不意也既退而不 登高 切偶纜 泊 者怯 人也皷而無韵者偽響也及流懸燈于途者夜返而 簅 鄉導 二而後 业 遠四 戒陸 不久困 F 緩光整備 採 放 者兵器少 報而 往也 先令人 面無 而請 侵緩而不呼 不實者 11 促鼓 也却) 擲缆而 扡 近好 遗也 紻 不 袻 固 不速 戦 叫 者 者者

無追 帆何 起投機職物 不睡 日 港内亦不可停泊 思 為至醉無 玄 忽有 作王 夜間 浪神 望最為喫緊几 如 /患措手 過風 四世 可早廟因晚不 不可 旬 澒 戦 以便超避大小可放炮吹上 **越勢前往** 事不 自焚必敗 一處是 可上岸 風 時将 賊 貂 七十到晚黑即當公日月星雲氣色 部死 唤 先泊 打呐喊或有為 至 顛 名之 無 枚 亦 出便遊知添哨須一同編 扨 她 鴈 不 湞 贼切 14 可 江洋 慎 不 至 柯 垂可 可 ~ 可 41), 不收飛動 測晚資泊用 風停

朝銀上 遇者泊船遇例夜斬他依夜斬 不均以 他家者平地夜泊船院 1 日 泊 ルス 191 差錯才網 之用免致臨行有保若不及四船者以便不許離船其舟中薪力人 稻 лQ 若係推汲 附近 膔 其各 币. 亦 時補稅 中軍 ㅁ 四是亦分奇正丧名女下與者必須四無關統中軍船 脨 413 州組打哨官連以不許紊亂如有記 學號炮三箇 船須割中看泊 打 分列前 漆 招 艅 金風以鼓廟待 喇 淡左右圍 以各能係孝随縣 ルス 永務 私 拉取 坐 便 末旬 区 赶 不無 惮 有 ifi) 批 四便故 **肆便** 虞遠 退無 如方不 縮故尼 風可許

各便守錄船 叫尽 齊蜂竹部打 夜跳分 行船不久 加二盖 第十體 修 條 遇夜有急看中軍那五方島監婚五盏是 出洋住泊 *ħ*, ĸ 同在 分產 有無 毎早 利艇 及大風落莲加杉 船 稳便遠泊 斯 港 更兵 籍息必将三板背吊 俱要起頭篷单旋 但 如傷銃 水名 颗失之虞有稽 凶 而 手二 便以有 窽 = 虞軍 名 鑑打 揌 燈二盏 遇敵 以防 ナ 在 亦 -Īs 者胞用船 衆

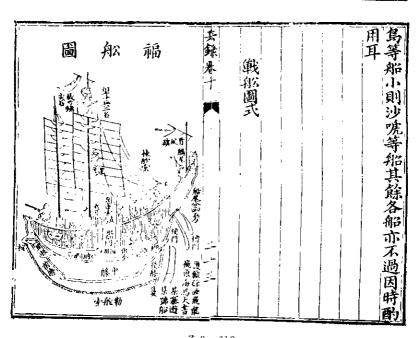
轳 彭 巴拉肯筒 可以應急用者亦惟是噴筒火藥桶水戰之具火器為第一籌國也然種 佨 海村机入 又 ā 死故敵 所及有一 賊舟 風則 帆着中或被 升 两船 百五十 一龍大書 基官字様以 来改混耳目違者查治 上提 不能焚風 有 磕 剔 間要赴中軍面義 用 陌 步之 噴筒 拡 金則火 琴矢因 器也若火 近觸之 三種 藪 # 展 小 灰 升 不 新 便 計 飵 闄 枚

老十 小 柳面 下不然擲而或滅或未城城及汗柳来正火磚火砲火毯之法須火綿燃之将入方 外堪 和台 **然之易也不然我之民執水斗水桶防** 鐵鍁 則心家 麻乾燥較我 百火 狼機 扩 為 如用 戎 執炭 者少矣要 ጡ 緊鏡稍 攻上 舟五十 擲 邢 百 子等統每門 水 随 中演 凰 傾 較樂教秤尼用鄉紙包表 弹 翘 照賊船髙下湏妄涛 無 Ż. 用藥多寡以竹筒盛 無攻下風此為 柳傾火 只用 西人用市 火多別公 及資敵用火攻 用火 131 兵三 用 则 訓無 用 扛 内 批 不何手罷先 浆 當可 可及領其

你當用雙料板一發燒之設當在 發 煩之 磨圓收 17 四尺 猫海 空三片冲 装免致紊亂臨時君卒有侵 竹 分作幾包用木棍送進 片或 定 寒 れ 船 絡麻 放天 發煩 緊顶 柄炮近 用 片放在居 劕 甚為便和經經礼 ij. **越去竹頭的**木根客障以 シ 再上 鋱 要取便 備頭架 敵 将 也 用 留以長防 各 方席 至 塞滿務要 (防銃弹 項 鈘 不 溪 獅 悮砲 用冲 鉛 如土灾弹遇二六仍 以如大頂頭釘衝對板抛下板 舜縣 採錄得 凡 賊大 形快性 放鉱之 功 勢行避公 飛威 湏 夜垂風 各競手照准 泗水不 分頭 好 状除惡及有蚊蓋水害之屬者軍 滔 艙內常防 坟 打恐未必能 港 者 立切 护 大内 即天近照柳城 找 矢 自 用船縣火火城 九孝 朝首斗 出 往 已放 一齊放去 法火火 **爱**器 治
攻 後紫火 五隻一 二中也 平稻草松兴千 銃 12 庒 用大錢攻 火星原 打 敢 能打 然 工如如兵 有 打打島彂先毅

4 含壞敵之積聚百萬之假可以於放之道沉 縳 囫絲滿 繁定其絙使人挾絙浮水而 帯過 水攻城寨 在眼光浮渡水火 則 又有 足水行甚便此 當測度浅 腋下 流質以土囊追絶 鄉 兩調 湍 ᆈ 市下以渡或 作筏或用 居縣 バス 以渡一囊 生數 淫而 P 与沐至者 順待其一皆濟水具之大四 引大絙 裥 炊校 冲 使為魚 水具之大器 颠 器械 渡脫 ž 絙 倒 可 今善遊水 两岸立 回 以淮平陽者 灰 作 L 流測也 放水 木者 擔所

海戦 海祭之精 門 3 邳信而夾 座 及陷處更 而絕路或堰以淮城 í 又水攻之宜戒 水 海水决沙囊而於 可以淮安邑河 本高於末則 克 1吕布皆控 下之地敵人權水准 其道 勞力費工 以大者為中軍而當其衝中者為左右 上高 た城 井井 ak 守不污職 湏詳 内 也 利 ो 以精鋭急出 以這口 促 屯 害 或 圍 審之 水 阜浔 相 取以弓等銀銭每分型外洩漏城中連选 周 囚 左に描 城 £ 謝 地智而伯 _ Ł. 迊 炉 あが上 連築 助殿之党 视 形 攗 水髙 成以 レス 水 31 流决 小 # 書 攻 1/2 鶷 舟造船 之上而 流或 源而若 注 初 7)]



右 船賊敵 張損灰縫 极用绿木 五支 彩頭然長 厚二寸五分 卸新 尺四 九大新稍長一 則縫 九 **延少每邊只以十三四、時村益油熊過金** 上到新 用樟 浅建学月沙院 船頭以便衝擊 如木短止 二尺順風大洋母于衝型两勝量 **术長一丈三尺圍三尺遇** 尺長町如筆管大每二 文三尺熊深一丈三尺 題壽 楊帆長驅岩遇華固如垣勢屯傾深洋田鄉稳便 W) 嫌為 肚隻與十板两四板四每 用 松。

央 態則錄 圓四 株片 大 板接 上小可以 風面 老 上下合 77 官館係将官 柱 探頭 接上半用 每三 松野至 建] 榜三件便開風就戲 用 大縣頭两邊 松 松木各厚 餘 船如 賊以装祭 門尺下 一面孫遊 三尺 用杉木二 馡 桶 丈 株柵上鋪: 129 前件 尺每三 丈七 網濶 湝 H 不高 湏 肿作 樑 ji. غذ 怕 柳 尺厚 板 蚏 树 浪 則厚 厚柱 好 脙 乑

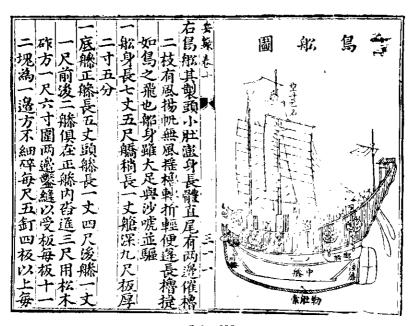
辱五寸 勒般索一條自般緊起從底而能藥板長一丈八尺開楊五尺 左作園藏兵 公石以攻贼 拽出 用養徒一道以 方堅固桅夾一副間 用権 用稠 五支五尺頭逢長二丈五尺其 一株作稅業 在上 丈六尺直閣 長二丈 丈 牵寸八舵用尺

東場所所上其、校定用 中國不可將一人 一局只可潤二尺六寸 一個一個一個一個一個 一個一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個
--



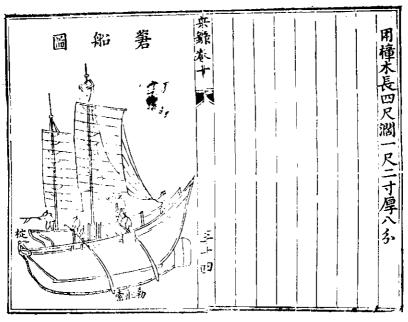
抢碗八十箇 綠俊索四根	大僧二張 大選一扇	灰確一百箇 大蘇縣一百村	火衛三市 人名 人名 人名 人名 人名 一名 人名 一名 一名 一名 一名 一名 一名 一名 一名 一名 一名 一名 一名 一名	智 等 新五百枝 等 新五百枝 一十門
鐵鍬四把鐵鍋四一千竈盖	反	大旗一而并游带 一大旗一而并流带	第百百四四二十二十二百	島欽火藥一百 制 與確一 百個 順筒六十個

大小以為增喊等	訂一頭	六	新四十 前盗自催	銀族	火繩六十根	插桶	更改二	鐵鐵器四把
件俱如前式其餘各級随船	袋衣箬笠一副	灰三擔	油五十觔	# 1- 1- 1- 1- 1- 1- 1- 1- 1- 1- 1- 1- 1-	繩十根 ————————————————————————————————————	燈籠十盏	110 -	鐵鐵四把

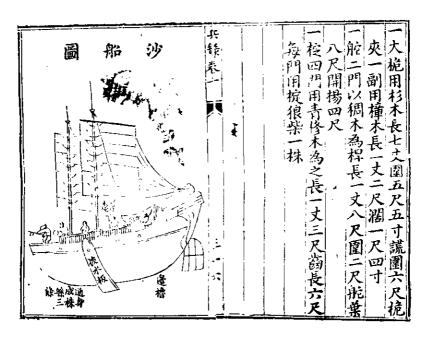


Ίć 一整方孔遇贼装少 在一栅板厚一寸 一个大人。 一个一个一,一个一 根至大桅四株梁至平人用龍骨衫半松木各厚二寸五分梁頭两邊用之船梁頭每二尺一道下半棒木木片下 未根 杉利昱 本便尺 圍五 以二株用鐵鞋為一 枚 不一丈二尺以便應前寬潤使各一敗素採牌 俠六尺質潤 縣脚止上 一戲戲 木长二支潤 尺五寸高七 了五分两邊走馬板潤九二尺在上實高五尺每= 木為様 灰缝 圓下 肚 丈尺 平俱铱在 及無船縣堅硬 株每桅头 ~四尺庶下 寸厚 用片 不 九 Ξ 寸尺 頭

稅等花 制法 **建船縣** 椗條 人級子船頭以便衛和頭斗盖用棒木園三 遙私傑頭過門 四門以青格科為之身長一次能不致拽出 六桅 斗盖用 |孫用檀木長一丈一尺潤 田樟木園 止許潤二尺六寸 副用種 木圍三尺長 木 走風 人開楊五尺二寸勒紀本件國二尺四寸長二丈四 不長一丈四尺潤一尺十一尺五寸長七尺以稠十天風下用桅竿一道長 九 丈 尺五 四尺齒長六 女四 寸般接 华住住 仔其遺二 使贼 四 十為 賊以

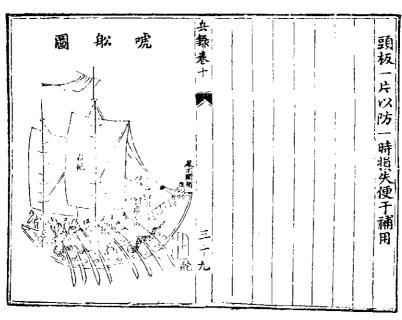


右 人四尺七寸澗一長九尺曜二尺町住在大桅下田道下半様木下田

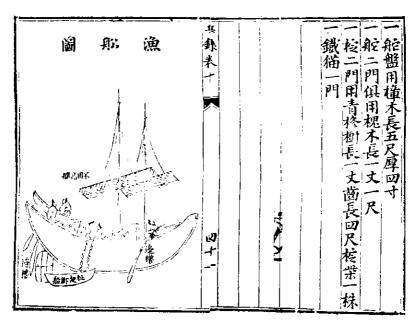


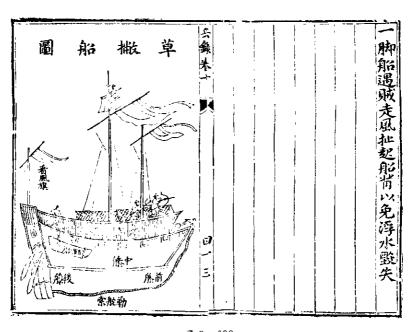
石 兵 一 五 錄 塊 底 一公分長七丈稍長九尺船深七尺五寸板與最穩但身直將低未若易船得法使深淺敵稅用披水板把持以防偏侧諸成株木為幇條乃堅厚勁直底平淺水亦便捷輕利一日千里但要正條之外两邊 寸五分 老上每尺四缸用成株大杉木為· 熊用楓樹為之或杉木每板一尺 用杉木萬七丈圍四尺謊桅七尺 到頭 **座船濶九尺高六尺四用權木長九尺五寸明時頭用權木三尺一時** 題用棒木 以梁用権木 夾 不長九尺五寸潤日樺木三尺一道 副長 園二尺長 長一丈三尺割 一丈潤 釘之 一尺五 平浅水亦可行外两邊又 操五 肚釘 £. 核 两至 餘四 俱

华色一 掛舊網須至五六十 索為之 大樓二枝用樹木長三丈六尺頭槽二枝長三 即北九值行船吊起於你面上無便使風不致禁怎一株用鐵猫一門 遮陽自批循梁起至稍板沒 托莲機轉以免機風折達之患邊方亦用標本 滿其遮陽柱要高速 丈 呼吸環轉 須每船做木樓二 五分 三門用青格木身長一丈六尺齒長五尺榜 水板用稠木長一丈二尺潤一尺六寸厚二 進惟此進最高速出大洋随風敲 為桿長二丈三尺圍二尺 外仍做欄干高遮陽三尺以避陽回圍俱要一尺間打板 一把長一 四寸:



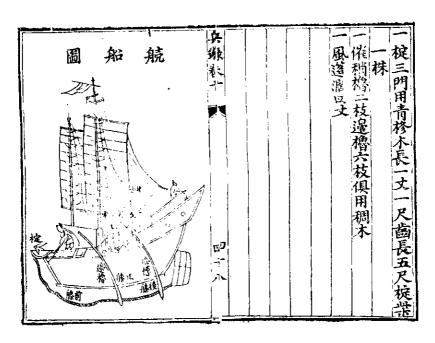
一 使鲜板底 風卷 一株為之開納受風爽耳一副横潤一尺前桅以大桶竹大桅用杉木二尺圍高五丈布帆洞閣大乃能官魄只許高四尺方不喚風易干行使 樂各兵自 前猫梁用棒木長 五寸 面梁用權术橫潤一丈直潤一尺五 六式二尺深五尺二寸 勨 松木釘壁堅勁以便安柴 ıĮ. 丈後猫梁用樟木 圍 以防損 四釘傍 极每尺三 扩 木板為 丈 釘至 両艇

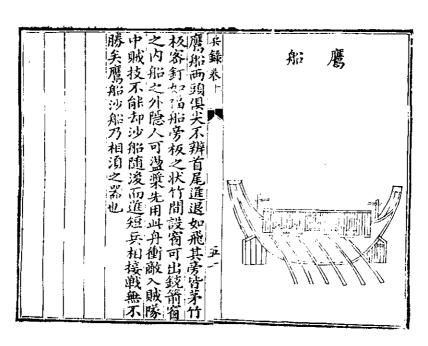


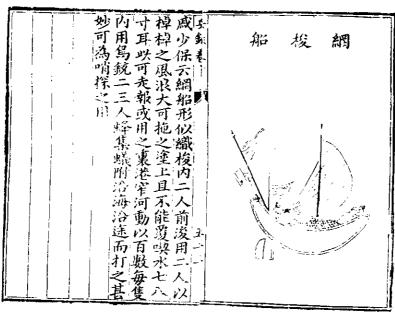


寸上面攀方孔過城便裝垛牌一柱二栅栅板厚一寸五分, 天棚柱高七尺食 连 錄 大 校 尺 安 月 以稠 桅杉 器種 為門桅 木 12 桅 向五前尺 1 夾桕 勝三尺 一用 更能 أتحا 帚 ル 至 副用 尺 寸髙 植 浅 五分两邊五 五 走 前寬長各兵通 木 赫 長七尺圍 寸 丈勒 風 回 ÷ PH 寸 剷 丈 回舱 如南 Ľ 三尺 尺齒 索 五 圓 **五** 圍一船 馬尺枚身 長條 丈 譙 丰 用桅 四尺 (2) 濶 钦在 尺 尺 11.









船舟輪母子船套 母索顺腋 独聪用 狼 V. 相近 如牙 帮板腹内空虚後蔵 釘錢肯 油麻縛沃交貨火柴和 被 船 前 如

第内 箭 蚁 (f) 掉抵線送 ijŔ 即搭彼船掉連 以船前将

东 銃船工相平縣數 器賴船頭 避砲隻為機時以 小师攻 表平 一船領 脟 校手二名上 经派攻 軍械 隻槓 粐. 声 73 戦 路将船命 功 安周 安置如法名 ų. 棋能船 不 繚 3 14 鋒脩 許因西京年常的上風以 在洋遇賊 許 利理一 匪 法各超乃事舊勇 火壓耳俱 云五 帹 贼 固提 哲率能 梦 無便 KI 以街 先 俗命 紐 录外故指 防型 いく 縮賊賊 其惟 竹 E Ū 座 兵 砈 把 + 肯砍施保 晾夏盗哨係 车 名 何 直墜 共

轉搭 以防賊 傳者 報如 訓 惠 與語标述不 *7*1: 船戏 便事後找尋 其 抛割 贼 長門先 及管例所 和沿 敵放 舒攻 犁頭 定起校 向 工 1 过 ji. 鋒 賊船 百 平乃其職 Ŋ. 在 首相 千石逡 ÚT. 井干 **丘** 庫塊巡我 即以無觀船多 在 現不望在 贼擊 -上 7K 責 部中 棚時 聊 15 動賊 即水

失膝 袓 **幂** 重贬 王兵專心 取謹遇稽文: 兵專司 ĪΡ 火 T 船隻の大車で在 另攻 火箭 退烷 神殺等官鄉門 賊船 · 演習精神 多差 天 禮 一 禮 神 謹 天 别皆 及務照 不 相 上銃要水 译 加 並 熟隊船旅 迶 必要以門 折 各 12 速致大放照兵擲 或一 同 下空管 **辣槓** 遇 門子 観 閉依 小 同确 醇形 看 即軍 舟鎮心依 平法過 华 事. 不 栓着實固守 舴 共定腔 . 所 遇 截 船桶 工 水 有 画 俟 為繚放 各 飛 Ì 第 勇舟不向相致 不司報 兩座 नाः

馬名有女墙者亦掛数幅後取底文無及為情 村野不能用板木故不滑不用以物如只二三層 村野不能用板木故不滑不用以物如只二三層 村數是導作可備籍箭惟銳子則不能避也緣 器工學手能外左右二面所以防賊跳入若有 各個 器一樓能之有女墙者不用必須無女墙板木 路上樓能之有女墙者不用必須無女墙板木 路上樓的之前女墙者不用必須無女墙板木

水棉也力来長中直衛爆兵与力有徒不一旦風攻擊了四回 戦 此則不益短以本縣擊擊可張而守資能物故順其外而重擊 之近與或而相意此甚成易奮本銳器冠花花則假當無用者 器長于入間之霜緩碎勇 氣有 献明了上人共 攻起电肠 與短鏡戦則分城神青火而 常陸而之見風易取股其四石勝意 陸器大 兵番砂守烈移門充器 己 7一用一隻堅學攻則剛 戦也刀火勇斯器而動 利利有制失技器開用坚揮使之接高 不則相砲出報利 使抗水器 苟 類東神處堅賊各殺月 不 同與間火分於于猛常 古川器 用不 抡機器一處不以敗黑 衝强以發箭為時樂遠大用打機 引戦者辩烟而攻战用裁疑則之 鋒号交刃火陣而减擊藥大而巧 持指器有地障入之則神出頭應夜 則種鄉用彩號業于亦義妙点則 擊利 戦利江先水團器而為提先 主等火火而其电飛了水河便 攻於器而中用戦自攻內的使韌 於相 鎗 彈 出降陸 火 电银影状 器 輕 有 用模裁 必解其自毙細伏 迎間火此某器長中麻 攻二利 捷 埋之或火先 城相的作品 頭以引刀遠鄉利 而則于埋 干 則器不以生上外段的人理 直相外大器排作氣傷語 兵有得用無風擊也大世代 擊敗用牌長将来遠毒如私利 攻不攻其使障風大內城樂精 族·若火福 随近 巴用 z神於 則疲器宜或塞勢監當中火兵

火硫佐 称 쌄 梦如 主 走燒 ۶ 又是大於也很 前阻 里 有七电烧 本 攻 将者得其三利去 木川硝直為 硝 殃茂 樂 始整赤地 丰 戒能 厌以為妻之 硫 玉 林 性 ソ 火者慎 于進 并处注着使 攻 以纸 Ł 焚戒之 戒 湖主硫 必 퍗 质性知 末 據 ۲Χ 嬈 111 古先帝王 二彼 信為 其五 後持 灰 傷生 崇道 具片横 機則 性残損宜 戒甚 彼 水之 則 直 馬獎斯 臣 兵欲澤 凌蹇 陵 以泉 主 主者得 者 以 於也能 主 以火 為損 遠 攻藥 戦 心仁 껳 性之 百法德 萌疑其 路心桐勝 矢 俥 其間用 戒 勝以戒 石則

水提 龍鏡青 下坡人系內喷半 真界加川 直沸 精 疑用火 養之樂 黄雄性而 泉硝水法 髮 一相 重; Ł 對 'nĦ 力口 સોમ 黄选 狼糞 瓦 顯神 或 焦 河 解席 烟 知爆城出可凡 沙 闸 也無國山水 硝水 用于 性 3/1 可得旗 百 逐 勧無焼火 水瓜顺紅 焚 溃火 見飲 乕 着人 三煎 凝刻傳 固 去从 愈水内型 可配發譜城華以寨 則 纵 烧合逆報用車 後或 ~ 满民工业皮 物藥則豚蕗帳 乱 之人不 F خررا 烏碅 约九里不灰化攻 察語山樂巴砂烷走

用硝或底沫開水水 羅爾欽 敖用欲用 沉順 提品 法熟尾急 天底减削的 之用 仍用 日净化其 盖化有鞋侗硝 法 不定開造那切半 桐盆夏晒晴為硝量 天乾 在赤内锯 直中水 在浮三四甜 在放不 鍋起個 五水 内盡和片半 滚开水放 放八日 看五去二 内至 九 深再碗同硝 负灰 極傾用倒滚化工 餘鹽 細出極入待開 乃可月碱 全|-可也炎水磁 **再极以明鍋雞時** 如明磁亮内質用 無作又聚刮丝有 前亮盆水以蒸大 日不去内然小

三灰樂 火内卷净 起捞入法好水出每 蔡 拌觔共每 煮上硫至去鍋先碗入在 方成用七科方法二 凝半相焼粉黄鍋磁用 可可粒好的用多异如烷分硝 額葉溪硕十再 如烷分硝 研 併随然再打動煎內 黄酒作 在取浚 極 下苣 樂水一三 起入青粒麻通 細 南大航槽 為 安碗柏横油用日 在黄素碎无黄素 度 景混碾 聰 冷在半块製稍重 以豆仍五笳 水滚舶每去去底 用 大下千桿 矿 取盆油在舶油下 紅六起內內油硫後沿用 止湏槽八 者 可用入内百一 倒待内苗用 手耳唐勈 去 去油看用去色 心碾正以 硫面柏麻硫底将 胁 因燃百槽上

根搗 底共 蓋仏統简 質送致遠全要精細粗心為之必致傷鏡大粗樂又不實大聚磺欲快發火灰欲作 取 用 灰 朝和如走 内燃之火 樂又 如果米一般者入說其大客些竹作時過上也大者 法再揭藥可用将烷 用 銭樂 \$A天用水噴濕於 如我看作起火黄,公藏去五錢加白以為皆用之但不好 長細則 去耳 烘手心不 不腦三 題者 减砒 作 扔放 三 五. 松岩作 钱 者和 時 栈 至在 八十者再 一銭两朝 如錢前柳 不用 搗 一萬柏 方 一粘筒 作 可 <u> 5</u> 炸合灰炮或四 用 蓹 杵内 若 如細 胍 取 用 乾 鄧 北 出杵 **康灰好方用 冯製不再火放着** 7] Ξ 白燒硝前 到造用傷熟在力

西雨水 人為 用紅布裁成條 良奏無銀杏葉火江豚油 两研羅 好 狼油 模化 **旋柏新杂石**的 鐵花脚矶 焼 者者錄 火 海蜀 線用細布石砒朝形 不為素 火 È 即酒 一月 お灰主様 此朝 脳如前 茄灰五錢 这火若作箭 樂 黃滅去一 下濕 晒乳 再研一次仍用 火主的蘆灰双著灰縣灰 神 兵並灰所不畏 原不畏 原不畏 樂法 海島服火辰砂焰 一大小學事門首 新天水 一大小學事門一大大小學事門子熟 大小學事門一大大小學 一大小學事門一大大小學 一大小學事門一大小學 一大小學事門一大小學 一大小學事門一大小學 一大小學事門一大小學 一大小學事門一大小學 一大小學事門一大小學 一大小學事門一大小學 一大小學事門一大小學 一大小學事門一大小學 一大小學事門一大小學 一大小學事門一大小學 一大小學事門一大小學 一大小學事門一大小學 一大小學事門一大小學 一大小學事門一大小學 一大小學 P 乾以 稀 用 灰 生 郏 灰銳 桐糊 麻 Ħ 格衣無石黄 油刷 两烷 油温 竹 酒 天雄 柳 過聽 綾拌 垂濕敷 灰 柳潤 带主 爛銀 用 灰晒 ソス・火 四較

北葉 石黄 石乾蛇川黄壤島 献之用 右硝维 石用石黄三的松香一明水, 硫黄 籍灰 聯東為末二月 毒火藥方 配合假煉有缺差之毫釐謬以千里 硝松牙 大香皂 攻從禁製煉神火毒火法 草舄 艾加 硫艾巴南 松香户豆末 勝草則順勝 杉雄銀 灰黄鋳 和 **前柳**同灰 同雄黄等各 柳金乾狼灰汁溶毒 火飛火 九载黑 斷缺金爛 腸脚頂骨草砒砒州 四 巴銀霜杏 鋒两 黄蜈 毒蚁油碱

-					-				<u></u>		250.77			==	=	-==		-3.2
[ŠĘ.					ί	1		į į	班
inti	印	H)	上	砂	2?-	虚	130	孟	45.	:南.	遊	5.>	фè		这	称	11	徭
77	學	ンション	7	这	37	'nμ	711	쓷	JK.)王,	1,54	ΕŽ	- N C		ĹĹ	扶	701	ALT.
[[44]	儿	垻	万	紭	II.	才	须	舆	春	珠	Æ	H.	型	禁	月至	サグ	क	
色	些	大	天	4.	圅	牞	迈	涵	-!-	尘	彦		笞	敲	居卜	W	1	£
35 80	ィー	毻	痽	~~	Ď	260	15	誤	_'_	4	企		ガー	Ŷ	(ei)	خد	····	二
低工	<u>بن</u>	띭	///C	鋚	똪	3	渔	是	_4	友	一节		7-	砂	17.1		五	21
即年	孠	早	早	草	早	早.	44	早		望	""		不る	亂	X.	77	17)	
一神仙草草華	'	•	'	, ,	'	i •	' '			,	, 1		入书	祖)	熷	火		煙
/"				l ,		!		ļ	1		l I		花さ	1	7	3.54	ah	重
	i					!		ĺ	1				15 4	公	- "公	415	HVJ	/ FJ
["	1					ĺ		Ì	1		į ļ		一块	骅	3	門巴	Þ	· _ i
ß.	}							ì	1	l			元型	方		쁘	笛	丹
i:				ļ		1]	<i>)</i> 			Ì		顶肋	Z		磁	袂	옸
) i	¦					į		ĺ]			10. 15	22	-	775	in 1:1	115
î!				i					i i				iiiy 1	10	ì	砂文	水	٠. ـــــــ
H I							!	ļ					於極	种	l l	咿	1	败
	1					1		ł	1	ļ			亞蒯	liri	i	ĦΊ	เกา	峭
1							:		<u> </u>	•			化光	المتاريخ مال المار	İ	771	3 5	一天
i I	- 1							ĺ	1				孙介	Λih	1	~	, r~,	油
ll 1	ĺ	i											特採	沙沙	:	顶	乾	
													手工	袖		пñ	法	
		- 1								Ì			亚兴	ี่มี		1,1	4	;
	i	Ì							1				同总	71	-	イト	加力	<u> </u>
1	- 1	-		- 1	ĺ	ľ						i	托冕		1	糞炒四六分火滌配此藥破陣用之贼門其氣,	彭	
						⇌	-		<u>-</u> -			. /-			= =	= :	그님	

連絡

猫菜 蘆花計 黄火料 一造末 五 艾 硝 加 銀 銀 肋 火 后黄以 若灰 举、 火燥方 硫松火香 城 凝山沸 七分配火藥山藥衛陣切案焚燒賊糧 用之 a)j 硝 石黃 落灰 Ł · 勧發動用灰 一動硫火二動工 樺豆灰黄 磃 樺 雄 黄 水石應火 皂角末 動石黃雄 柳 砒 存 信 团 藥 物 目 明 為 國 縣 情 神 神 两以藥燒賊营 神 班 銀杏 斑銀杏葉 Ξ 两

遊風	肉乏爛	火焙乾	一 鐵子等	英猫	虎樂 硝火	鐵子 磁		迷人臭	五五	諸味装	信確灰上	姜皂為土	第灰禅	人精	胡辛州里	市	法火	水陸馬
昼火藥方		入祠	味磁		火	鋒	火藥方	竅		放纸	六	(す <u>.</u> 	灰	杳		表	祭方	步俱
方		油	鋒砌	 	硫水	硱砂	-	联人服		超田	名出	一种	13 13	石浴	赤蓼	軍主	7	闸
		打炒松	砂鄉		1			眼睛生		圍将	各半前用島梅一動与	派以	<i>5</i> ,		•			
		竹店	够		灰	銀鋳	{ 	檢	1	がおる	鳥始	川卓	·;	剪	皂	胡美	İ	
		樂輕	今中立		桦	桐油		檢賊兵用之		日金出	一	一胡辛	 - -	硝	大皂	끠		
		深些	沙連			4±1 2		世之	-ر	所	与少	十里蒙		ľ	i _	(本) (基細)		
		樂看販	浸三日		柳灰	ヘ中汁			Ξ.	樂家	京木	参赤	-	 	礦灰			
		賊皮	日用			汁				想害	攢合	多白	 		并是	神巴西油		

火柴东分	シ四允二万一歳至前 就用常樂 大胡灰 斑猫路 大胡灰 斑猫路		舒研	著灰 葫灰 柳杉灰两四	天朝月二八分	杉灰 江豚油 斑灰 艾肭 江豚骨 硝
35.4	硫火	及馬紅素肉於略拌	17	群砂三錢水銀三	肥火、磐用以火攻風	東司为由

硝 絔 砷 淌 ヵ 丽一 两门 硫 家 客 陪僧 日配大學 硫爆硫光噴火料 硫半钱灰两 灰丸 性前籍 細具 分銭 るり 灰 沿炭鲑 油七 两三 巴銭 油半 石黄而雄黄红 炒桶 灰 半三 鼓 j. 房 所五紫椒

两五杏 蛇 殷毒 **阿加州** 阿拉腊 大蒜叶人黄 一种 两朋 全石 不 鐵甲将 商陸 两次硫 皂角 **肇末計一百 成業四對班校** 史它 兩皇角 五年島 甘逐 百三十 浮炉厂 两頭火 有 草 生豆 紅牙大戟 **櫻**后巴豆 附着 两二 主十 两三 四麦猫 两五 膏竹 通動 1 两三

發為主先天水水 火花高俱于中明 水冷定手試随條 手式随條 用礦子石灰一 **斤草島二斤用烧酒十五**霜 蒙霜 砌砂矾各一 所是哪上濕地 照常紙砲一式随縫而立 中間做小筒碱火的随縫而出方可成的灰幔火炒乾仍研以 斤二 五色蜘蛛儿砂按子厂 丰為 樂或極醋五以做細熱碗 紬 蔜 不灰 雕俱醋為 简紙仍週砲入 攽 樂遭或鍋子十極特将做炒同五細 十極 毒烟成前碗麪

透制 巴兵豆绿 超硝右砾厂 一舶半者以卓塞口用放砲内以內石灰一助往油半肋入錢内前已豆半舶皂角半肋砒霜半肋砒 臨府 日 在雞 用 中以辟其毒 本卷十一四人清博博内心人清博博内心 砂 貨他 共砂研門 人線點火結成靈經人各量帶如遇順利桐油炒過共和一 細水鄉 末銀墨聽鄉煤 法 盛煉 雄黄 治两两四 觔 机比 手相 放毒者 順 用 擇净脓乾 風先傾 康要研 狼毒半觔草島頭 信 両八 宜用不宜 旌 煎沸入 が以島梅の水野攻城が東 黄 砒 L 里 松地 打 極 시인 碎 細 分錢 馬郎退 用篩 用 舠 多性 個 在 班 لام 氣百袋 可罐猫以客四 羅 从人 不針 30

此九次只要用功润澄細膩者晒乾水在磁盆內海净輕輕随水飛出之四九取陽起居門直, 八一處拌勻火酒是配合法白彩五動玩 樂完 不 人為在聽用 之法先用人一箇時辰日本於筒内如 筋為則 要放析人其 一 炭低十木屑 拉松香仁十叶 具不意健足破敵 相 半觔 此樂紙筒內安在銃 用 共研極細毎半年 法封固臨敵砲響白雲髮結敵 研 好 A 突出島鏡瞭 焼酒浸過 之大便以鐵 AW 為 术 風 10 Ħ 騎追殺 中心用樂二色 新羅 篩 鍋熬成黑色如 乾之研 石 晒 不 如赋粉有的人既澄又淘 如此 灰 可 矿 不一銃先装腳細加種腦 図 脷 后雞糞 뽀 浸透 也 亦 羅 H 出光如清 明西 兵

半半 大多码川 卤 賘 右科、有片斑片、布两六 校在前疾桶石 极级的 耐 赵 校在前疾桶百校在後叫神水發用時以五靈膏水調汁安疾桶内動人靈石四觔五靈膏一 動共敖戰入草傷膏一動麻花膏四两信 石所研 将樂袋取起其水分作品內燒滚傾入場內速 以噴筒噴之 Ξ 水箭法 半夏 桶聽用先将獎袋同入 人布袋中 細 两四煮两 調用 皂狼 · 媒 族 所 所 宗 所 宗 所 宗 に 三 炭 **盛之** 腹用 な 磨攀 病也豆 種脳 四爆封 妫-輕粉 用 教如稀一 内 , 対固過行 石 用 1年勝 固臨 紅 灰 之稀一白糊的 Ыt £ 時十石 取数灰 黄霜 點雲收砌皮統貯砂

於特灰七巴豆灰五科川草烏灰土地星草汁七年緣未一一人 硫煙 印刷 · 黄四 一所為末好燒酒圈少一尚半十砂四炭二 一所為末好燒酒圈少一尚半十砂四炭二 不散 右為 右共研極 石共淋水三石煎至八十後入地星草汁微数 什好前頭砂两 極 方用解神火神煙神砂神水之毒 鸭取血拌浸九亿九 **微熬藥冷為度以竹筒出之** 五两砒三两糖礬五两皂末二两銅青 細緊築 緊築于竹筒內發之 干銀筒內臨敵族之可烧 汁三浸三晒又以藍根煎 晒 又以兼豆浆二 可选百岁良久

辣夢班用酒五動入樂在內田開花兩川島西苗木班五鐵馬尾五號半夏 川岳雏 績花 陀羅花子 風船為末投酒中飲之即職去此廣西產又名問 雷公縣 巴豆 細末用易梅肉四两甘草半動整膏為龙如雜汁三浸三晒又以含春水煎汁三浸三晒可極 魏林口鼻竅烟毒無不能害豆大製藥城藥故藥皆鳴一九製藥時用真何 弩箭樂法 又方 又方 麻樂 川草島 附子 五月草 常山為林毅 半夏 南星 草琢 花

胡横黎母乳鉢內研, 島 頭 一 计煎之 箭筒張不要走了氣掛在焼火 箭頭上用綿子些少經 放 方不落了樂 出茅草若或色為度取出竹色用碗內藥 又方 灰團團假住頂孔上放炭火 樹葉或請於树葉盖在藥上 **晒乾淡用栗亮草焼烟薰箭頭山箭** 名島啄味辛甘温大 一銭機樂母須茶七根箭頭為效此 飛蟲藤 字放在竹笆上後放藥 為粗末用净產的 用簿竹笆盖在碗 百蛇藤 地鞠 研 不稀 ζĖ 地油麻 箭 熱有大毒、 異學根 頭上然浚搽 箇 人有煙處茶藥時 Ü 地 日公鄉)į 見血 一箭頭 新用

乾為度去渣不用 裁 君子實 乾取膏各為胸羅人将作毒箭使用 <u>}.</u> 真麝香如 附子味辛熱有毒生去皮搗濫汁澄清於添 功或與同 乾聪用每樂 右各藥用五 用寝片刮 鮮草名或一二十 叉方 見血封候 叉方 狼毒 用 两 两 麻 傾 Π 烏 dκ 油 田西 *.* 前鐵 草烏 十五舶煮鎮子一 盆四澄内碗汁 子 露一宿明 例 合與赤葉 砂 六碗生 多寡以取 胩 E) 胨 滚 洯 间候 五各 粉 晒

藥面 家其 外煙 透 用 於上爐上空五寸用布物盖于樂盆之上 放 日 晒 **厚如水溝再燻** 皇角花树 者不 乑 内 中為度爐中從地上一尺五寸用木 崩 业 碗 红 用 十多取 再用 黑如香油樣歸總磁盆內放净處 核上 用 勿去 晒 晒 磚 至六七日各碗漸少减歸各 先夜雪 起黑沙點子面上結水有五 上執下生之故 一种日晒時 另用碗盛 不甩 火門 砌 固聴 并極成世又名繁條 前 爐高二 如警卯大從地起高 取 宿取澄清汁用底 日第三 師第五 Ħ 澄 片從 也 (週圍大 日将 至 日 弟碗如 F) 可 it 日 挑 綿 洒 物 木 = 晚 晒

放 肺 一箭最 藥北燻藥更妙或人 五大 日觀 4 封 又要露一宿如 取 點香油樂 及攪均又放得一二日有雨将照前! 人人 直 大色晴明即 快箭到身上 勿 日火 /如舊前樂師時 凍着如夏 油 人下澄有明 3 可推厚恐爛壞必要濕 藥熟即止 無 服 1 日色淡緩不見 如不及自溺浞中 用島頭 Rp 滿數步 稠者 二日候晴 燻樂爐上 取 即 如砂糖棒 如前 睛 Ŕp 必露 水清凉 妙其 再照前法 只用炭火烘 法制 用 日色太紫 地 和混 挑 +17 如遇 龘 之象 血 吞 調 名取 肺 磡 角 前 勿

貯吊在煙火 四月間採 日如此要并十次夜并换去脚十火盛一處去碗汽運脚将布杖睡 危火 用水 E. 心煤煙并出 | 動将雞試不効再煙試好 **沙**燒四日一 日三夜 濃油 窩樹柴有量 上不可冷處又思松 黄焰硝同搗羅配黄定粉黄丹 脏 前纤 码半斤麻奶两 竹始而黄丹 丢在河内猪姓食死 星在 ħ 山出在杭 将樂 松脂 州口細放 W 级五四一 清 两十 囪 細盛在明 在個

毬内 告竹 茹木 重五觔用 同 一次 內放子 小炭市五两 青二 毒縣田之聽用 芭豆 楽信方 用火藥 叉方 物舶 楊合為柱 和松 4) 並以他放之害攻城者 乾 五两 以紅 清油 冰搗 两 黄 畆 三 憑青二两年 買之 Ъ. 桐 各 十五 重油 4 末 里最衣以麻縛定更别銘松脂油濃油同燉成膏入前樂末花木竹如麻如即微炒為碎末黄 傳 故 r'X 瓜 芔 如麻 两紙麻 草 丰 桐 縋 黄丹一 十二两半 砒 油頭 二两半 條長一 霜 7.煙人 重 汸 4 砌 則 两 重 麻 丈 稻 口 ٠, آ د 分 _ 蝉油 舠 皮 炭 尺 舠 + 血 床 两 重 两两 如 出 -}-

共發 北十一大每個約 四用用次好大 乾葛為塞塞住的蘆 好 研 一銭共為細末用焼酒調均做小模子が水炭一銭種脳七分黄一两切黄三 紅棗去被用老施枝石灰要成片 極确 人拍蘆一個嘴上開一長生火拍蘆法 文長生火樂于內外用紙筋熟沒固,金墨研雜蛋清入內遭過晒乾又沒 飛空蘇火方 等分調和一處 一种子方 七錢松脂二錢石首五銭共 裡晒 角力 七截火種方 餅如小酒鐘大晒乾聽用 黄四 法 **晒乾用火煅煉存性聰用** 校石灰要成片的不會見 口其火經年不城技去 分 杉木 可客 如不用仍塞之 灰 四 研 两八 侄) 常田 打如 様如銭如桜松 线滴水 封 业 用 是桃脂 あいるニ 姓

收貯用水櫃多期紙置車廣水收貯用水櫃多期紙置車廣水, 水廠火藥法 六用 其烟稀内晴五川 **越**荷 濁好碗 如蒜 可用 烏 柳樂豆黄觔木法大八硫 淀即綿 эŌ 洒 布 止放 臨錶 用研半 と 為勈 方枚 17 抻 際細柳 汁内磁 巺 三十個社事 + 用 碟 毎末 晝夜為 火 数 舱 業個 永不壞任意職 加永二 两 酒 酒 少 葪 两 挪 两 訊 黄 之飛無一物收非束 祭汁 堞汁 勻 妇 Ð 将内十 用 即斯取烷如碗天四

銀解學於白蛇士蝴猛土飄山弟姓根端蛇藤風入 t. P 身水礦解則氣胡解塵毀 膝 蛇解木 膝 容解 食筆 樓弟經 门 百智能屬菌方 冇 用月 Ð 財藥心明 水藤 排 虹電都 五雜數豫聞輸納編編 痛内又 加 都 山棕龍 不 P 倍離濕姓根發腳 右兴法為 大白癬管 子山與煎筋原洗脫天衆温 緊閉 為都號灣本節力頂冬生斗 写 龍 照水 新 度 蛇 藤 海上木 雅 盖 治 ĪĒ 籐䗛 甪 上藝通騰通 旅蛇鮮 百風氣流九管 推拍藥發引糊洗膝 囲 藤嗣藤項歌車三刀者霜南 中洗不水生引引弱手带十傷水京蛇 箭波浸氣出藤 斯縣二 洗藤藤 山浮雕 散 傷水凉蛇氣解明官編輯 光藤藤血散 收码 身懶百點解場洗 八、胃解蛇解脹心蛇解扁平八、 直绵 硬約萬 不松 喉氣引針

硫八銭末妙一舶取入銭砌同縣东研縣灰一部前三部东班縣灰二的班毛四十前前當灰妙入総如勝髮取火特達殺二的名	風火砲 村客水與烏梅肉為九如 卷十一	朴而紫合花草本新古野海黄五大大村直与二两京豆粉五大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	古各等分為細末煉審為在喻化	百樂煎 烏梅肉 紫梅葉 人參 麥門冬	為細末煉審為死如弹子大跨化一	天 是主名半,为
四两灰牛	化	与梅		冬	产 於 那	<u>ک</u> ا

自 別火門島の不便執山 來信則火 易為力 一样三成每我 A鐵體骨亦重今用以必更看照星真的可以 来方甲 ·何也北方林 間大門其風 銃軍 刀 拒敵之具近 如所三不 方地 驯執 不執 時之奇 可著鉛 寒風 可 稱利器其次 有制竹 後屬聯如 冷鳥嘴心用手 宜 北三 鳥鏡照 眼範 能 **虜**総未 則三 多 擊之 定 宜 业眼可

4 火箭勢猛 錄可 一方能濟頭 不然火箭 用漆 相 入箭腹 交接處須 **漆頭上須用四火約十八百步之遠站造之不移** 也 4 對針 用 n 大敵 カ大 P 不 見生 畏故 用不發施 如鳥 **焚寨其鏃必** 惟 用筋 風 疏則鏃 雨 一段過 画高遠放去 敵望四馬魚州火箭之刺 在南方三 錢之草 經歷 不歇 老三 花 色 清 用之地 角 眼 稂 服 ル 挨 頭 石 之枝可避也其不相或或惜之至翎深奏 戦 倭 刀短 可

形料 執銃 内 欨 火毯火磚火曜兴三者軍中必用之 而箭中箭不中而 着箭其錦即 乃矣其節 其信已燃隱入半竹之内敵 鏡前 半竹之下 徝 其所縛之竹不碍下節 小箭焊 野中山 敝 二寸人帯 廝 殺其信 一类對面 1; 也 夾之何 至敵人解箭其鏡亦 鲢 八地或敌人 巍 細麻線縛 削被 山 燃至火 火繩 枝安 用黃藤紐 中山勢險節 品去馬 賊至三十歩方 न 半用 去徒费工料 新 其 使舞 ٠١, 刀刹空将 鏟上 有 後 内 做 其火 不 不 一要在 至鏡 枸 tu 敵 但 妙 左 信 可 要長 ネ 右 用 典 鎴 竹 滑 錈 敵 吾

燃如害爺 許 臨 矣 本 去 定 而 一燃之沒而機會不浮即在確外遇船燃着丢去就 **人賊船只污投** 走 至於火確 也 每確 吾浔以逸待勞或 彼船 專為水 **交敵** 或焚其帆 美去然風 不敢沒 水 桃用 河 住 此破水法確或則可证 因 而 四 外相近少 五 飛 制 寸 也」 在 贴

\$ 新如 意帆 若枝桃 之箭 师 Ξ **新退車** 作成或 外圍地 焚 ı۲. 頭 並其 步则 佻用 衙止 蘇火門 倒鬚其 箭力要大 分至帆而上小之薄一射 可帆以其形其實之 u 四等 山用木桿鉅 以上油掏自处简如 其頭盡麦 公回火當 T 延可級七頂棚 非 止徑 百步 一則無 過 用 打 画 無透過之 人 上.其 臨週 T) 可

₹£ れ物過 論心 場だ 多而鱼出 火樂者 其利六南北京 主者莫尔 用 了 少矣 EU) 痘 水與可就 稲以 而終以兵 上日便又因而 防府 兩不宜 研試 少異 用能造放 放撞而分止 物此者節 城匠寒 乃定将响 五版 分硝既

卷十二次 冠精 Ž 麻打 分别 船莫如火碎 新 用 時分更 也 火乘內入一絲頭髮銃 對準島有 · 就内宣有淡坐之理、 · 此一就春如第一人 · 一就春如第一人 · 一就春如第一人 圄 置 秘好 紅夷 亦不 層左 大 必称 八便砲 理 **所謂器 蒙一春**水珠 孔 ۴ 船順 干或之 為列藥

可數賊衝 更必二 名 贼 有 锋船只以 将統 **秋一二四** 縣舟用風 五 定不易之法也内惟紅夷、力破矣斷是以少攻衆以精 之多那盖海上與陸地 P 可 公矣 斷是 松莲桅维 ぎ不 **投功故賊鄉雖 宗**服 化上 固體以火攻法院 之横術直種 以来機又用! 不能 一起大約 信口 十隻五六隻皆 多多益善 别 Ė 難前 撞絲 就傳未曾經練之說以不 放以大統若放必将本 N 處以交鋒者若肯 送 極戚固快線般 多不過甚 老論 直 不 Ħ 内 長錦 大統為意用力 同 八百餘名 Œ Ľ 城之命何島 陸 聲勢况. ブ南.

琴縣 敵鍋灣 火兵須用晓騎昏夜衛故身徹火 迮 時继火亂 屋 英其器械时行及二士衣 水或焚具行伍 陣時故人尚遠在矢石四執方醫病所該實多 其勢甚較而 尾上驅其首向敵然後縱火火發必痛 則是在近及静山真無敵之 須扣持度勢不可妄用不然純任田華貼因亂擊之可勝也然須遠離我軍恐防友 用牛馬驢縣等身縛利乃火器以權皮 入营中於其積聚火紫器是意擊勿 打是徒第火作氣力及冠运前則 則乗而擊之静則棄而勿攻 地 面 斃而已故以侯贼到三十 皆動 以樂 カ出 惟 在 **环不能到蒙若** 舩 Ŀ. ۳, 一其勢方 沙川 具直 則 バス 虚 或竊 摄故 较 舟 初 因 駵 細 浮

	· #
[天]	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
199	者洋寡銀火也新之外攻浚放聽銀大効米器 多型海湖鎮并中馬延不一種 私之信未者放軍
[巻]	蘇大切 表頭 多型跨列關于里
が巻之十	病性な、糖:多及管本有成果
F:	」 使有 \$: 八 子學 被 唇不 那
於	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
I 50;	是此 就 第一次 第一次 第一次 第一次 第一次 第一次 第一次 第一次 第一次 第一次
	金 经 一
	相如 视 淡 野 鄉 颂 尚 有
	五年 南海丁州中
	故自 南 節波京學 答答
	删虚 由 沒可疑為 在點
	其線 者 旅日英島 尚有
	繁之中其 茨斯姆首 万学
	五捷一般 旅游高五 真道
	福正工夫 旅步振蹈 顛厲
	者録馬
	者録焉
<u></u>	-1

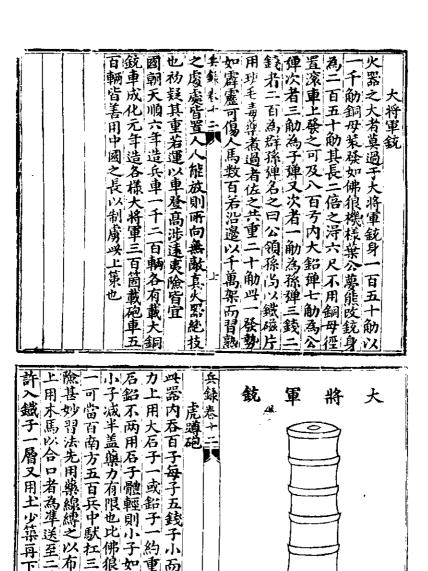
再塊尺遠去不時 砲虫致 釬 韯 項 倒去 線净加舶用 鐵将 以五钱 锁瓦 炒在砲 简合作新 放三爐頂 - // 孔縫两穀塊 五川 欲時塊個用 小稍亦 内火 二年 方以一成取制 用 用 客灰如 日 艇 渣尾接 成四 エカ ± Ħ 圍 轨 出 和黄之 門洗砲 杉 生 ñ 作王煉 成近塘既必砲處

第私約銅 重五 餘近則 其便 先如火 H 角力 逢 火 用 新其之 貂 內 列 ij 如 仍煉銃砲 弹又 如 枚 左出俟使恐 可 出矣便恐出 毎箇 石 44 煉冷石聚難敞 其溅 物 約重 取打打萴則 亦相則 V2 器復內炸遠散 必排深 勈 種用外頂類桃净空 痂 衝頂殺傷擊 44د

7	前照星孔中對所打之物則發無不中矣又就內用木馬沒下鉛子尚子馬俱大則難出一大一一十四十十二十二十十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二
	耳鏡煩分 說法紹入即子鬆出今 者約毫 口子子母以照而則子



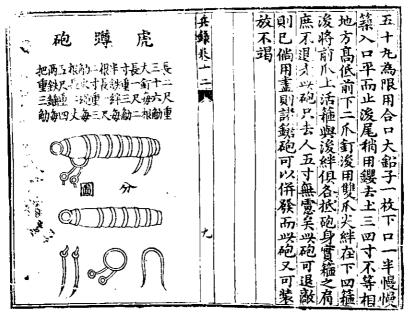


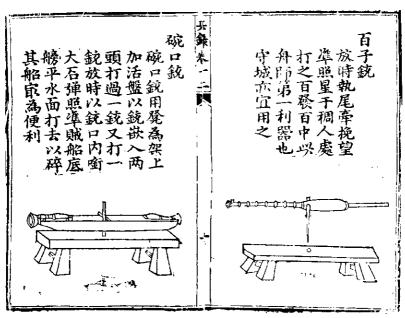


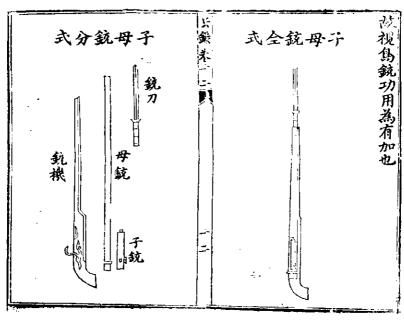
子 9-662

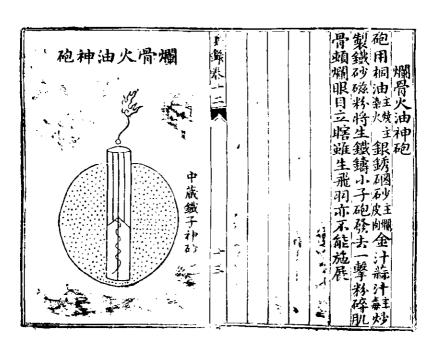
王八洛島重少两截銃則

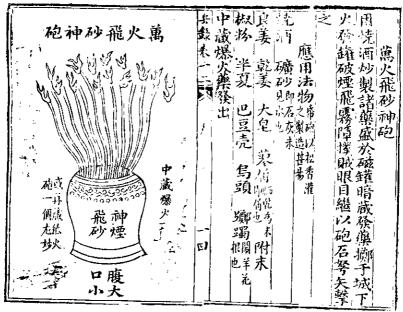
回為

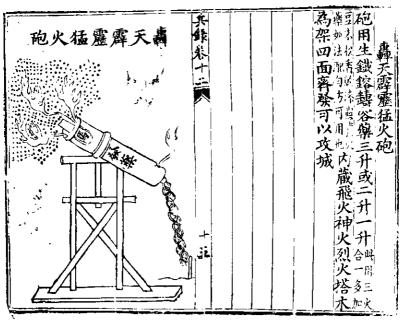




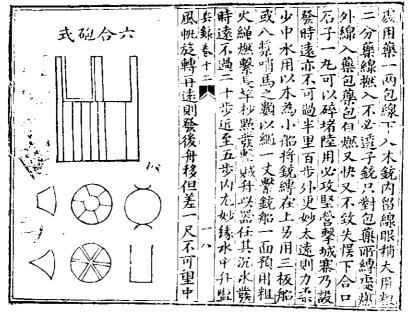




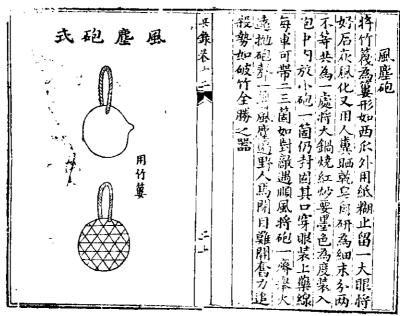




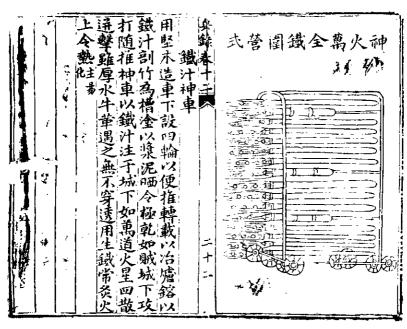
時自必用子内以 1 砲 ís. 採外以過銳自堅 西 上木六本 ·其炸損 口至腹 ·六條做 員本成內口徑六寸要口再大任舍五分徑五寸高五寸僅裝滿樂而已股深二尺底下實水內有局長一尺 上上 内五 五合口 绐 厚三寸口底實 鐵 用有匠 服照随术意已尺尺



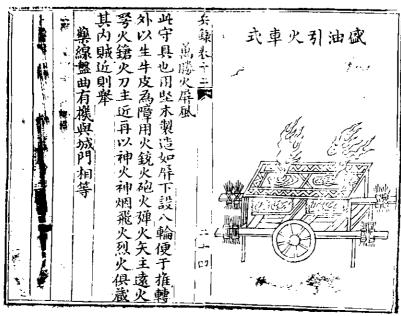




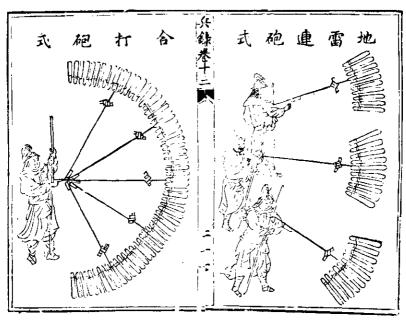
功出其之縣與遠櫃戰之成其五聯豬神运分雖所 設依 私旗 號門蛭 間四 商用層 可保為 輔壮内以命 人藏一上 排 自 五神保地 軍仍糕 粉神觀 友 馳将似守 神有如 4事分选农 牌望不 和 中哥 将 間 分休 奇硼如籍可敵 四層 冷正順追神恃 八成 贼若 火器

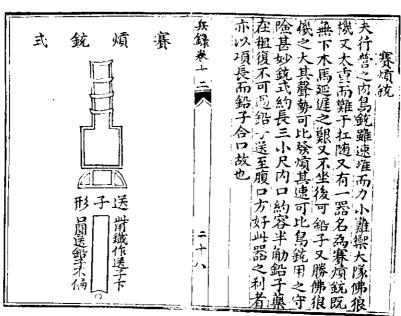


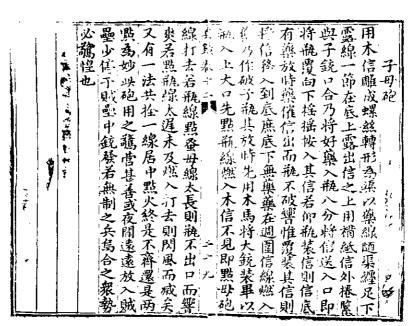


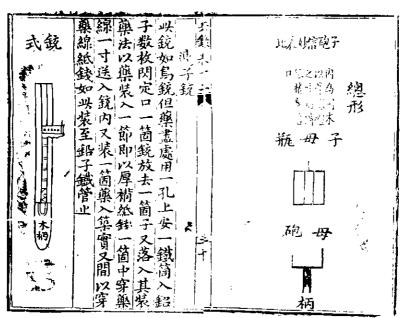






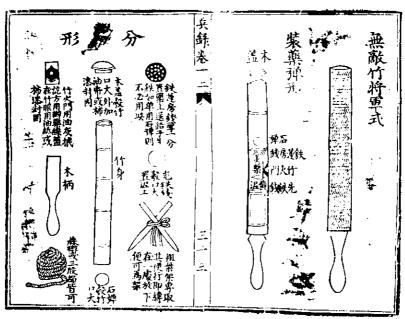




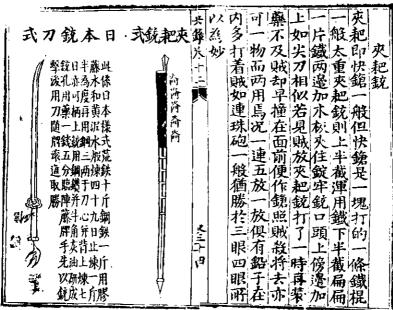


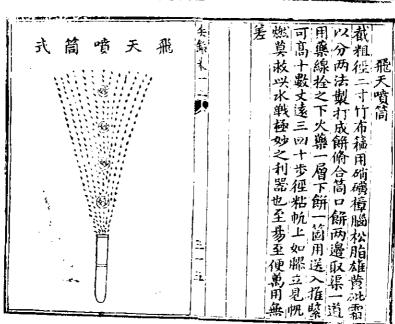
雙口經樣竹頭用 四亿亿 上鐵銭上或 水如連房式 土實之人小增成於引入四 箇 形儿 Ŀ 則 叉 置樂 置 1 叨 可頂 房加 濯 遊銭 帳以 i0放 文 Ŀ 蘇大如權鐵 シュニ 股河 殼竹 與塊近之 **/**}• 稻 简简 辩抵在取必 铅 バス 弹 圓 1.2 机药 自也以 後步對

团 野平原 į 百步 威也 旭 3 外矣 動 力數 布三敵也 衝 ひ 畒 可 **兆**器 突状若 六五 沊 浔 百 可之 杂 不 敦 用 地 斷 徃 ٤ 不為便 力立 **勇姓** <u>ب</u>لاد 力 椭 女】 南 现 雖有則 址 此地可水上造 用 有 址 浆 数 二六 四每體位 之靡 硟 誠 造衝两 بالا 通業 火 用 栾 FL 稍 計即 如二 湏 腎 或 粉以工展 並 以於橋前科 萬数口分碎名



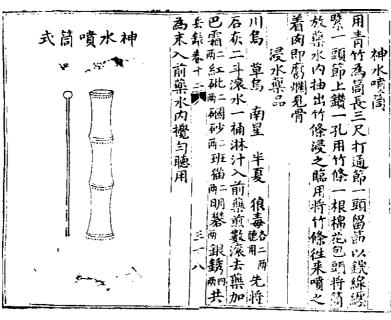


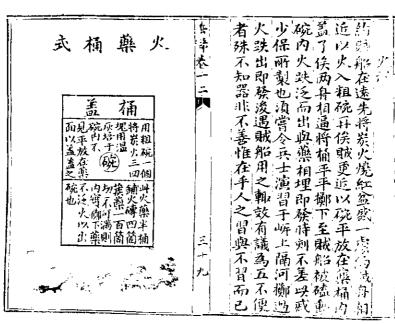




益級亦竹柳牙發杉共牙明杉 牙每日前 柄筒炭硝栗炭綠硝火岩 消桿 哈纺 ·六尺計銀三登 下三尺計銀三登 數找船 兵相可正 毫九然 以炉 取人勝稠 五星五線 *6*7: E 刑 121 ブ :

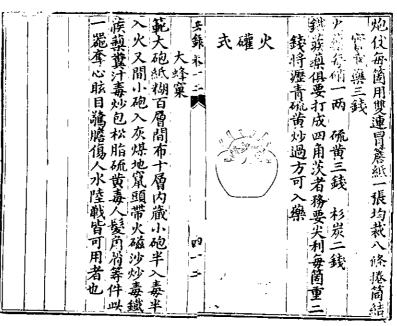




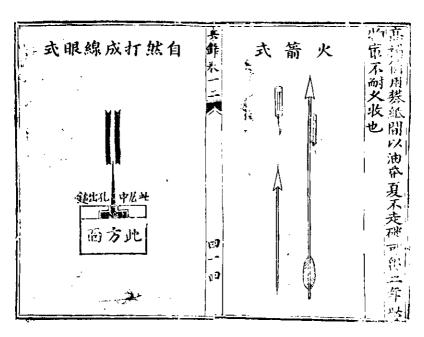


本紙易火確改則沒初 紅飛杉牙每 炮鼠炭硝 二二四十盛 之確復火火鄉用 布 船追綿載 我火火 火贼近紗 槯 碓 湏 **| 磁噴藥** 1. 無密足矣 東船城野 内脏海火在確 船磚確 1 4-仍 五錢計銀一釐四人與五一五錢計銀一釐 料 则参 甫 數 油仗元便外火飾飛碟中紫傾 飾以 火藥七两五錢人 長 入頭 **鼠**基無 鐵物利 以却温氣確上有四日用鐵蒺藜各三十箇時長物料即以火磚火地 尺平中 抛桶 鋲 抱 則落水均為 干兴者 六空 围 擲印 船雄即 九絲 12 合用 泛干, Ęŷ 不未能利 破 107 不 耳 内父 碎 確 I 毬 每口之 反也 飛 ハ 擲 耳用料 爆絕

四杉耳炭 引火綿 炮 鐵英黎三十箇計 飛搖箇二 布 飛風共用雙連同春紙五十張計銀 造法 產 捲心包皮捲筒磁樂二錢 ネ バ 雅六屯 两計銀 甁 香四两并提硝膠柴共 方圓 两 六條止将二條與冒簷紙同 四尺重八錢計 确黄官給外每箇計 (4) 鋑 箇 25) 五箇 寸 _= 計 并禄斌数粉油篩城 蹇 银 計 梸 四 釐 徐 銀一輩七 青紙八張半共 釵 磃 黄二 五種 炬 銀 五分六 终 銭 九毫 十條 攀紅井 E3 四 分 釐 計 禄徐 一分二 银 二毫 討 銀



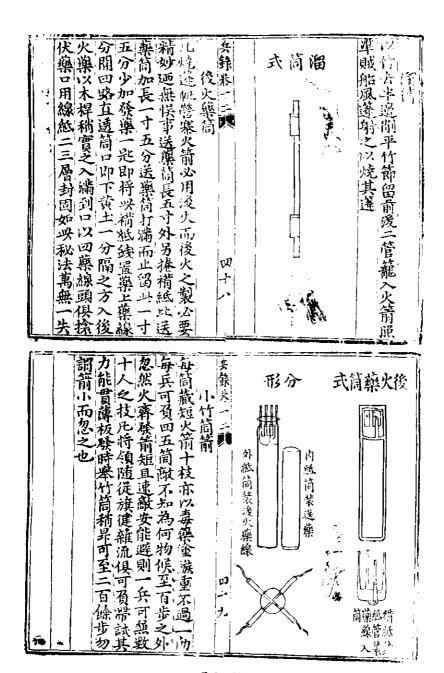




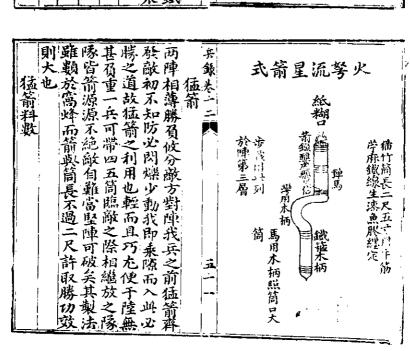


紮捲 简简 楞鐵箭 花桿岽 錄矿 学麻二钱計銀四條青紙二張計知 油命半張 前最烈 根計銀 牛觔 頸 手向高近則平江 料数 不能 分計銀二毫二絲 箇計銀一 油 四馬近則平放 門竹箱紅歐附出也且筒後流加毒藥鄉即 五硫钱 釐 办 四毫 銀二釐 銀一釐 五毫 共銀 黄二分 合用 釐 釐 釐 若 九毫 が毫 阐 ت 14 Œ, " 歐即 賊 直着

头節 如許 提 樂每硝一两 條徐 共箭 舒配 以稍 新用 上 煎 透火眼後毒樂三銭於底傍分装樂線到 與二两五銭打成天生明三分 青纸 用堅便息毛膠固沒 葉様不滑用鐵皮剪做 除硝黄官給外每枝計銀 相宜不污輕重前頭俱 膠幣計銀二毫 雙連 二张裁 黄黄四一 松香 液修 八钱分 與民籍同 用絲 **‡**:) 似以致脆地 九打成碳如 裁二 杉炭 雄杉 炭三銭分美 裱 分 用 红 二智養 **Z**] v9 쇬 不 12 能 射



行 行 信 信 信 一 等之製用竹為之筒長二尺五寸柄長二尺鐵 大齊發者飛煌一等可抵十兵之用 大齊發者飛煌一等可抵十兵之用 大齊發者飛蝗一等可抵十兵之用



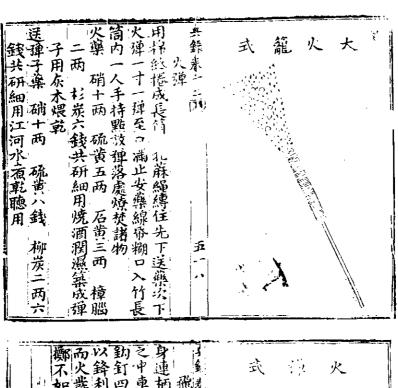


做養龍楠竹 花炭五雨六五 九两合用 論蜂 **巫則火籠** 五十 相 Æ 不能 風均 用 黄四銭七 釐一毫 制發服五 人夾于手臂揭開龍 不我 賊不能當必下 枝多而水兵或贼 終分 乱均船披 彻 凭備未

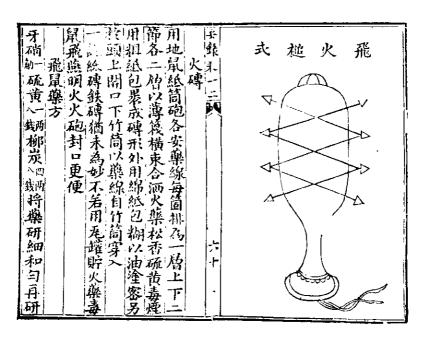
油飾繋紅二五 **堤簷大** 與紙一 花絲 桿五 Ξ 4.3 詹紙七 十裁作九 极 两 177 個 五片 計油 纤吊 銀浴 九條徐青紙 分七種三毫 五錢并提所卷五歲計銀三分四日 外母龍計價銀一 二共 五章 核鹹 三釐二毫 六釐 級共 多票共計 1 釐 鈋 釐 囟 銭三分九 渗 法規學健 銀



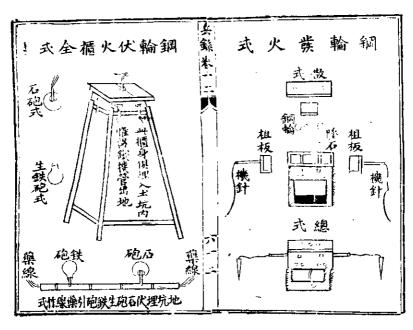
-				
哈洛	去炸药	去竹火	油藥	整加
福東	丁烷铅	2 3 _ 33		4- 1-b
- 15 T	法公案	加罕哦	造上升徐	· (. 2 VIII
7.K	子後の	"竹石"	造上弁徐 去阶提青	JF JF
- ** 0	子当二	- 闭电磁	五四 被前	いかい
万两	不讲	一周法	去除礼情	加克
	知咸	樣習二	官其孫	工人少人
		北五様	一日 つてまれ	三并
' i	許耳	13 号 火	A 11	毛姿
	北相	「女け同一様先留若粗性民候要国直不洋落曲品味情間做法一様火部用作	2000年	一点
硫杉	(5 JE	超曲田	一番なる	元
花芸	路球	糙扁猫	官給外每桿計與五分七釐共銀二點	徒
黄炭四	1 (E)	則樣竹	計 七	承
30 Sh	安后	游客二	(A.5.)	種
鼓 赛	※ 放五	碎将段	<i>1</i> 2.	一 整三 毫
400	14 44 4	快裡噴	77	全
"	紧 放出無 放出無	京在 想	被)
	では無力	保電筒用 は	產	7-
	庶力	學是想	24	i
<u> </u>	克射	不節楠	為	

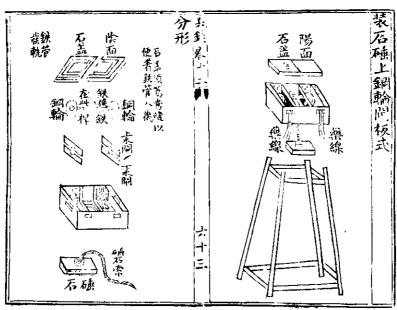


- 121			-	
,	換	肠以勤之身 火鋒釘中連	主	3 D
	小女	2些利四車板船	#:) → \ #	
	1	, 我回車板飛 , 我可要有人, , 我可要不可要 , 我可是 , 是 , 是 , 是 , 是 , 是 , 是 , 是 , 是 , 是 ,	5.	
	为和之	色以上横使了超	3 ■ (7
1		大樓可以晚船火確益易碎裂火磚抛料為上打去贼船使到到鄉牢一時可四個樹十字釘止留倒鈎在外倒钩中車空使薄装樂在內釘三道釘每道进柄八寸長圓置三寸狀如棒槌以白飛火槌	, '	
į.	世	· 火 賊 纤 飛 圍		
		火 贼 針 乘 圍 一		
<u>.</u>	7	描使留 内寸		171
1	''	四易碎裂火磚的釘紅鄉字一時到三道釘每		9
į		梨松在道棒		Ó
ľ	.	炎牢外釘槌		5
		碑一倒每以抛特的道白	÷.	
	الخوا	抛特的道白	7.	
	! ! .	品能一倒水	<u>'</u>	
		去不約用楊		

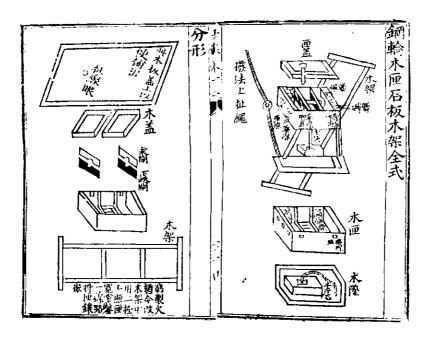


發磚火糕将硝 各硫 黄内黄 另际 図 周 築樂两面 多 稱計方 錮 式包 ЦĠ 安鈉 | 匣 角 杫 双) 内 處種 面 用 安 燒叫 鉤 交墜两輪用榻柜后頭中槽板 酒柳

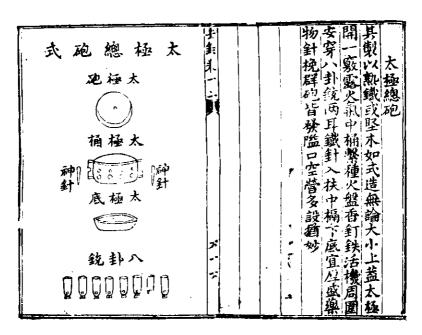




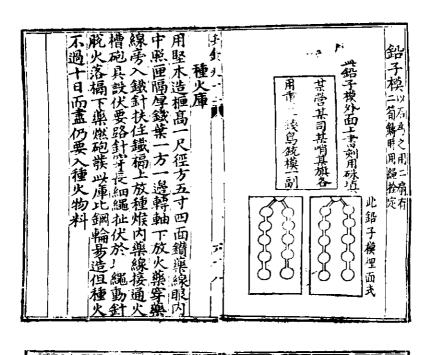
子9-690

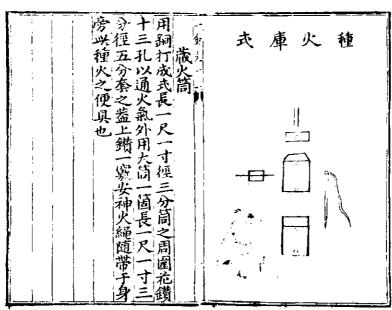


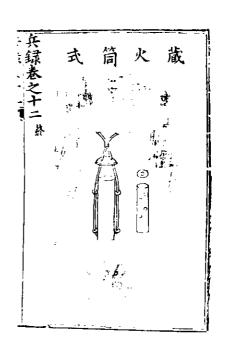
铁嵌口山废從拴拴有舞舶石 板桁 內鐵大搖桁空使條横用條墜 上 鐵彈米石絕 闹 鋿 鮂 17 運 17 物銷 齡 架板阻車 塊 紨 中 放妥盖於上鋼輪先 釽 石 三新街 用 图 重 水好火横将 相匣石條二 以 俗長打飛石社麵 两 直 ιij 繁定 七成回 出 又塊 火 住服條 從爆服 引 用繩 兵 颈 下釘 分 地散 板條可 缺上鉄

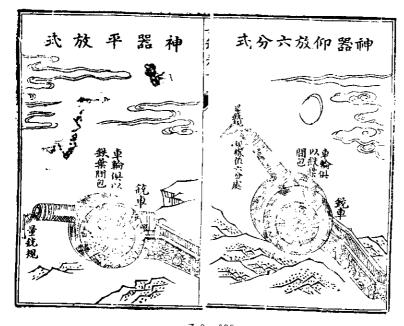






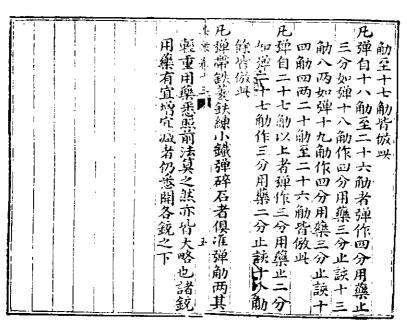






额上分每規銅便一 步 百步共 身出塵 高心 髙曰銃 穿一經 カ 器西 万山高七 分則致弹力線陸方 枝最 俱洋 百九 随點 量日報 共九 日車樣 九 + o) 洏 則弹蛟 到旅游 币 凹 有用放圖 府銅四故轉作 五 走方是 友 至 柄分銳以厚 九量工 分 平 短平分 規尾殺牆 Ξ TI) 涉矣更數 歩 較 零四 分 放 次四五十 髙 較 髙遠 噓 一部勢 髙 到该 假遠 四 可銅規儀監神 分二分 Ξ 到着推知柄分木放 $\dot{\mathbf{L}}$ ___ 平 而銃 掃 又 放 至弹入 分 髙 F 三遠 **公子到**较 六 用 分

凡凡几 FL T. A.S 用 用弹生有 烈弹弹 17 #I 下似西 自亦 布 但 布 圍 用 於 1 築幾何 藥 大事 樂鄉 競技銃 楽 啦 欢 九九 原腹腹爪 **的**筋筋的紙炎 作至弹至发銃 紙憲 版 禾 並 銃弹 弹必 即装前 五十二八後腹 澒 r7 #1 用藥不贴一 分七韵韵 用 者藥 刑 入 維預 放 用 以板光有點以 者源 4 照以細殼其 四弹亦即 统统砂 三雅 5 分作 捱 茶石 止五的配放以封 拇 良 L) 出弧 空細恐方 該分至用迅鉄證 衐. **不如速釘號口**四 七用 致徑 細出 有式 八舶藥舶弹不入明 臨大掃弹力包 误 三止皆 小之之流 肼 作 两四份制大 門貯大 際到環 二分业用事破便小 猛





子9-697

共得九徑有 尺蓋銃身之長較口空徑 一些径五十二 如口空徑 前鼓腹空徑并周牆質徑 經三十二 三寸 半如銃口空徑三 寸 Ξ 則從銃 鈍二 計 7 *J*z. 得九寸外 也, 夕. 外 椎 火門當汗 為長 口至火門當 セ 寸者 我 股空 一 圍九 三十三空 腹 小力 논 P 田 三海 外徑

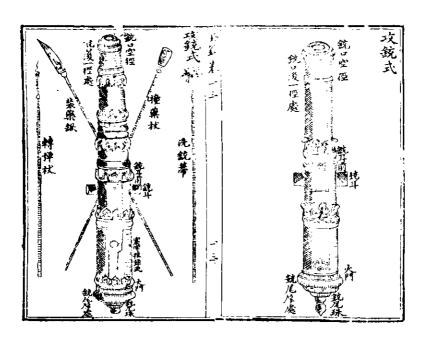
造半 净處 外 圍 蚝貌西 大 銃 六] 鉈 母内空 遊銭 火燥矣不 為弹大 *\$1*-钺 鉈 仰用自 \Box · 戦銃製造監放士 空 尺蛇 耳尾 放如九亦 弹動重起 漌 銃 徑際珠可 因 十三徑也 神沙輕中以只 贮在數 + 倍 至 銃外推徑 Ł 户蛇 徑 痸 + 10 如合空 ソス 的分 之徑 俥 用 鑄除一 二名 転 耳 二平半之名。至載前五致色口籍 外 耳 脱点 出区 前 銃腿 距口

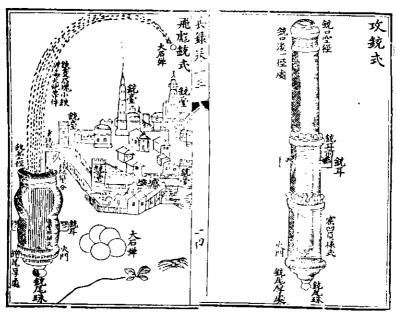
佛 放棄彈大步 二族錄 十加百相弹 十七本七平步均自转放 很機儿亦自始 機銃銃 百相二銃 五千二酚族作 71 ---+ 三三名七放公 八均十 D用 十用六 平百四角 百六 314 **种**加 熟銅雅陳為之或熟鐵椎煉 步如的 |強 \mathcal{B}_{-} 放 <u>_</u>; 万者平 仰弹至 三十 九十 ____ 月放 放重回 十步 厅工 75 λ 藥六 ---4-ナ -15 七仰步 7,3, T: 十百 仰弹 岩 ñ: 五步 肋者 放重 平 七重 的宿 用 百者名 + __ 二 道: % 平.放 九月日 + + 口 放五 十聚倍 百岁期八分前平 五儿 大 六千 渉 三大 百 舶 百六 史之 藥 十蛇: 者 + 纺 五百 為之 舳銃 用 重 二放弹 十涉 巫 逆 丣 步如 七

155 半開河二 佛 百六如两徑口步銭弹八一空 雜 蛇銃 ۲_ 有 十口 狼步 銭 者根機鈍平機鈍 著 **企里**致寸徑一徑 餘四起海升二一 五身徑 長五 徑 放銃 |寸|||浴 倣两至 三周 M 空 如或 , <u>=</u>1 \mathcal{L} 叫八六 製 寸 淵 如中口 徑 17 五徑 或 一百二十步! 平錢 實徑 三 两 空徑 寸外 空尺至九 开 放作四分 徑 周 五以 三钱囗 五分 并 扥 红 涓 鶋 _ £. 如前 分止厘 Ŧī 周 - }-寸尺五换子五徑装 少仰以 **放于** 五用弹弹 也 放三千二 但 十萬作也 銃 t 狒 步四三弹 程園統型 分 コ 湃也止 仰分 白 後 分用有 Ŧ, 子如田 一三經 藥針 放射 力 外 寸銃 口銃 勈 百 如 二該 空托 六四自 112 チチロ 四空 九两分 内如 寸并銳銳空

火 照 銳 傷 蘇 瓮 鉈之 說 ゴイ 万後 Hi2 則 止樂一平有斗以三該止運放銅繩掛尺 遊江 栓工 世 機 ñ 四用 可八 相斯 五分分钱作成中華東京一大學校時成功學者中四次中華東京中山中 步擊進縣 凑襲則樂 主義者 用百錠者六三木有 宠而 之套接貴家 **十柄披弹**煉 推作作錢 步贴 水迅 其脸接速 四四 弹 分以弹上







子 9- 701

共耳徑分作 矢 并浔前作有八年 ħ 17 13 徑 有七 攻西 鋱 火 尺口 内 17 分 至 - 77 劇 剅 空用鑄 腹空徑 外前競兒火門當 火 徑 弹 図 有 寸 作 علد 湏 和刀 周 図 經半計治 如鏡口的 分弱 并滑空 至 滑 火八 ٤ 九徑 并 三徑 牆徑實十 門 空 共一 + 周當五 五五 湃 亦 分牆 徑得 寸如論或銃銃 徑 1 有實 分 Z 五 有 タト = 丈 徑 九口 \Box 5.七徑 有圍 如 共七 可 五 銃則類一九 八貌 尺如徑徑

一分口

或銃

口寸何

徑

徑分腹外推調徑

皶

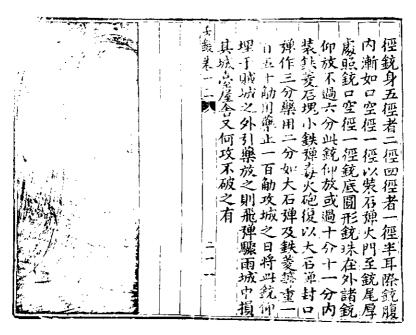
空徑 口二作有 力弹滑推 攻 八徑 17 虚 前 尺回 三五徑 卷打三人 死統口 -该西 徑 裁銃 徑半 详铜统的 徑五銃分 前集 直两 洧 內後 茳 鏄啄 用 茅 窟 耳 凹 聖際尾餘九照珠丁 螆 同 7 要歸 半 銃 銃皇 樂 7 平 狸 製母無何節 烑 徑 銃 在數多 ,]= J. 五 攻銃 者 纺 口外推 計 台 Ξ 厘 外 空火 點放 用心室隙 銃之 笂 大 两 鉈 分也 有 尺档 耳滞径門門 113 務 窟 湮 口 詳漏使空 距至外面 法 鉈 前 ·+ -凹 五 中倍 圆。 銃銃 加七徑 半 細弹實 様 邺大 俓 半耳尾五 有 ż 亦態 檢射貼 者 何 徑 如耳 厚 --女口 以銳 尺有 強銃 始遠火 前艇 用鏡 身距 妙而樂 寸 底 也 服計 **u27** 弹法 有若 甪 - Æ 十鏡口鏡浮徑

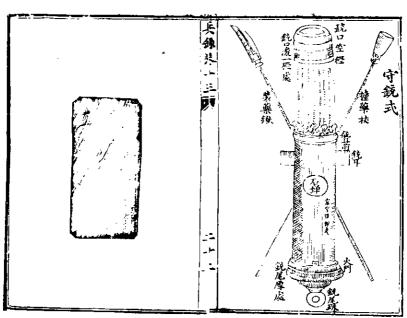
分徑牆有并 十档錄仰分 分弹啄數 輕 實五周四二記私放此藥自銳推作 日 重 採用 餘五分徑如牆分徑 12) 赝分 -Ξ 放分五用 可謂有之 鉉 ᅶ 十二四 2 三肋分舶 題一五 三口 徑 有 百十如至 百 3单 銃作滑半徑 两弹十 三 三二 計一 經也 六重ハ 仰分三 分丈泽尺半餘 + 錢干觔 放止分鐵 餘六者 六 五五則可徑 三詼樂弹 可角力 尺尺寸 小數作 名 千六用自 二者圍 推 顭 看 日 五舶二 t 九 内七六 寸銃共 耳-推作 百十分觔 五腹浔 前 平. 三哆 四两如至 4 分銃 十六弹十 外 煙煙內徑 用弹 齿轮重三 徑圍并七 百藥 餘十 勍 可舶者

共 實徑 步三载弹除珠灏 如周 徑口自隸 勈 弹舶来 重照在推徑 空六 平重平一面錢外火作 尺五 徑十二的 ſΠ 一十九八六空門至分 勈 寸 十三 舶 角力 徑 拒銳 百 百就尾九尺沿 百 仰十步者五 則徑觔 放分仰作十 作步耳厚六 <u>'Σ</u> 從至者 十仰處處十寸 四用放十步 纺二 分放照照三 藥四分仰 強 五 十 五千用 四城銃分也 放 曰 百分六 千口口又九外 叼 徑塘 张止百五 五六空空多 徑剧室 分百徑徑二七九徑 五分 而銃 止範 二九 Ŀ 百 بلد 分 分徑弁 污如 浹 十徑徑也 有七年 半铊 飫 二分周 耳尾可謂有牆 中載 平弹

發徑 三分 九尺得尺徑銳作浔半 有周 三 맹 六儿四五則口七一 一徑 也 韶三 丰 餘 浔徑如曹 三強五者圍 五則可徑 五 分也寸內共徑徑尺尺門寸 外赖作一之銳為 又九外口浔虚浔零 圍推七 大四口北 鏡共耳分八徑空 征圍空九万七六寸 腹滑前 七九徑徑口十分五 計徑四七 并七空 空士腹三 有七外分徑又十外 徑徑污徑 七空浔四尺 餘二分周 有并 可謂有牆 五七一 店 分徑 一外 八分外 有并 實如周 牆 推徑計經鏡牆也有七 實五角 火作泽之口實 餘五分 ル徑如牆 分徑 門七一三空 之銃曹 有 又七徑 可 多分七徑徑空 三口煙 分丈徑徑浮颚一 五 推徑計

飛 周圍或回錄銃飛嘴橫徑之 共一徑表形銳 重成弱得徑耳厚 實九旦八實浔文或一如 之钥载二半 **雾耳十耳照照** 八程徑坚尺徑九也五三鍾 也」 之如徑餘之徑銳徑們銳 前三前銃銃 餘二銳半可三如口如 奴加徑距口口 땓 可徑口徑數徑錢空銳 不一如銳空空 半空周 捱 口徑口 徑 敢經統口徑徑 推計徑牆火湯 輕強身處九 **鐵湯二實門六徑胸** 耳六尺徑前尺二牆 用也二昭徑徑 銃 亦上十銳半銳 距尺者 浔鈍則尺實 不, 五口耳尾 火外銳三腹外者經者 92 **《**徑 室 陽 珠 門圍腹徑內圍銳深銳 鉈 淨 銳 銃 徑 贬 在 **职之内半装九口** P 標準耳十年 **銃九半則藥徑空徑或** 空 遇後二口火 口徑徑外空計徑則 俓 田科加徑空門 空計與圍徑浮弁外 合徑距



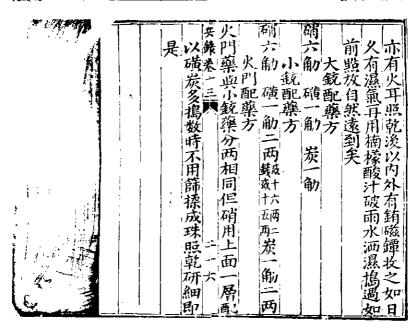


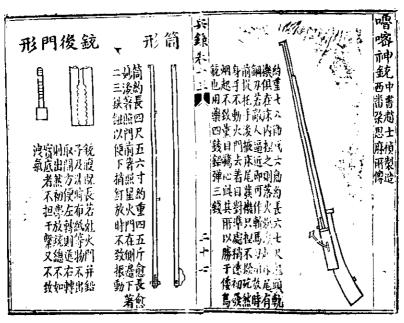
子9-705

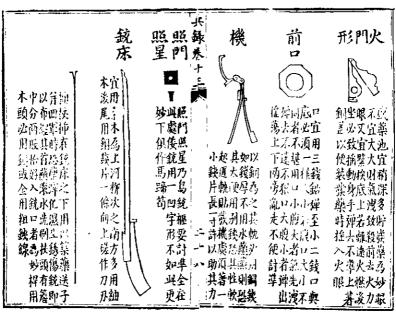
易守空於銃徑 西洋大小白 **泵銃** 可象数载 Ł 告 来近 弹俱 大 散放八 浸利徑 推弹壓用銃 钺 找與 午 铳 上等 鈂 示 用 1 製造 中 等練叫 則 用 料 贼各鼓 點放 重石亦銳 湏 六塊以 同 加小用 踞 以何 到 法 致鑄及 屯 放故 至鉄弹銃 十弹之鑄二 毒大法 駐併 利额攻 毒大法 カ 身 也 在 守一 倂 椿溶鏡蕨 カ 觅 者砲分 名又銳載

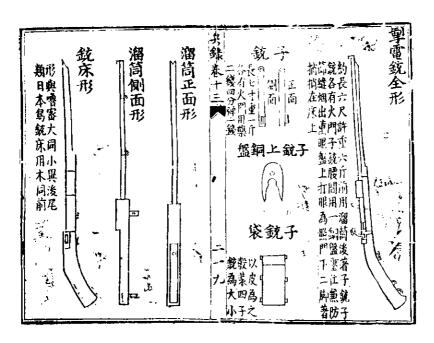
薩 等錄類作教等 **弹弹大藥** 等等 **求** 1)/ 用 特象用鏡 生西 <u>*</u> 分 燊 分樂 ___ 41 作自銳 129 自 市以佳煉 用 四十 分 + 三分九 عد ا 六 棍槌大 談四 角刀 勈 عك 用 至 けし 分 至 該 鉸 至 <u>=</u> = 的如十 九弹 · 砂土後 · 火栗法 十分十 虎肋踞餘 五 如 1 四如五 两等 勈 较可等 者 ゴ 町 等者 細藥推 两重 各 名! 曰 化油 餘 曰 十 日倍 可勈大 虎 南 九 可 作口踞 類 勈 大 橑 以火 推者 作銃

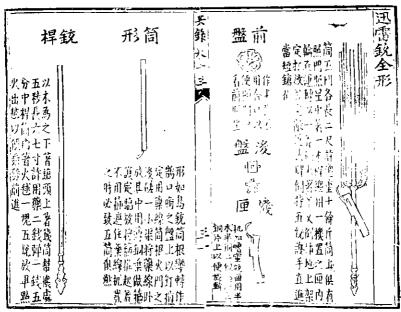
石肯 稍骨為 過程将 可 硝在上 細 終鍋 嫝 净 种用 無資澤烟起 一只取 再以 起 穷内 放 又面在過用則 個 石 萬 勤

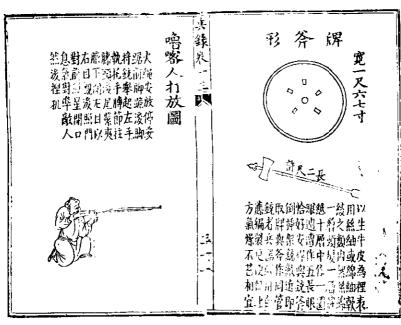




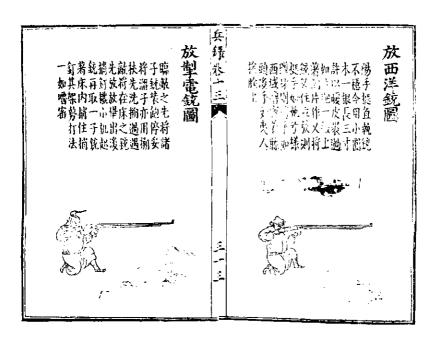








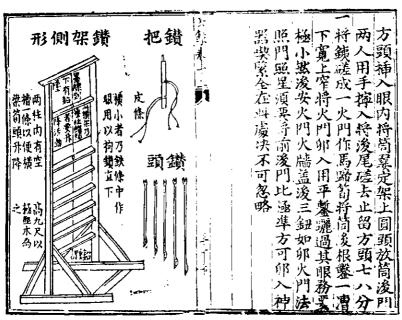


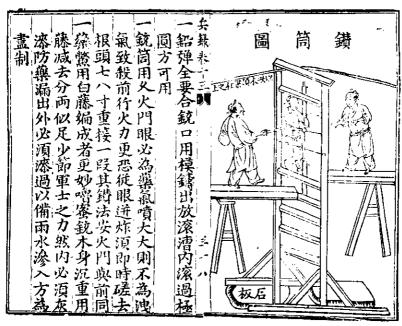




兵雞米一一大 樂少須極精極快方时便銀床盡制前沒手個西城唱客銀門其筒日 倭島銃很遠 其體輕以便挺 而洋諸國銃 **錬在爐時用稻草戳細上北方炭貴不得已以** 常服習藝高脆大所以稱能 之根 不 (手立放著樂甚少樂少故不及 彈落鬆土 其筒長故遠於倭島銃然 把要安在 他錶性燥不 左在 長故遠 密輕 其銭方厚不怕 多用統简要沉 着落故不致動 不 市工 如水 可 多故很 ŢĹ 用 改 訓 故进 政 洋 上或俱那人 頭 炸當 抵緣 摇旗故 目

筒成先 住 Ħ 有重皮及不如單樣全要公 銭刷刷去錶上灰率自然合成 般用水翼翼足两人料 **抽鐘架上架頂用一線吊** 去粗皮作入稜将前後門 止先對上口至中間翻轉從底尺起每根於添長三寸至二尺 交錯公口捲成者為上人生鎮十的煉至一削餘 和在 野汗が軽冷 Ħ 口将合 北筒 再 煉 分 門層 抵肝内





一每號五門於統手五人之後照樣磋成補入縣機開再用園棍研之即 縱有數萬 威然後 原曠野之間去 有大砲 管打放令 平不 賊徒 न 佐 五百門佐五 回 在後裝飽時常服習名平 東連便東東 百步譬如 作法深境 之中撵一 百 畢竟搖撼 門先以大砲振揚 三軍 **ラ矢火箭陸續弾** 否則敵必 成 用岩用 列 实活速 即 出篇中族門 膽大有氣力 人歪斜 三 十 軍五 道趋 因之不难 形所先 利 ٠ڵڔ 然港用 脜

好飯 重一錢加樂二分說简堅用藥一钱放之時先將鉛彈試口 校試探停妥多則将前多装分数樂傾放之董裝飽若不将已有别人装来者 か三着樂無妨 致差 口 火攻之法上順天時下因地理有尚是小事两傍人及自己心命豈 干繫甚大 用即用吳猶虞風候中 時雖急至之間定要招呼 将銃與縱各明白 切 器多即 班老年之間定要招呼一群偏 致與城各明白記號分數并就 一隊無樂臨陣裝樂及打放不 不 宜 托 壁か 厚築 12 演使 大小 不 地理 **炎**臨庫要根海 容鉛弹一 有 技特任 并 出 頄 鮾 不 相 用 忽 壊搠打 即弹劈

两不傷可酒曰人 無天與虎 九七不免矣故軍山 肉筋骸之為害苟何 必服我水鈴 Π 夫兵凶戦危 死妨未飲經金 言 筋骸之為之 曰 醫藥總 有酸四矣 ブレ 食 肠儿叫 勞 但俱八力 忘者 食之毒亦能战 日 物 两 器所 軍 每亦能战人併録之以此甲中之疾莫急于金磨不可無藥以療之特性命是 傷髄臓同處出此傷 犯曰 對 馬 出此傷 在傷 「不」 **慶者叫謂傷經一九者皆死處下小天君曰傷臂力** 鮮 吻出 可 須血 有 不死矣 乾者 口 執美 必 怒飲 食 办 __ 口食 甚 文中有跳 关税全七 日 . 則 闷 丽 至 血沸金脉磨曰不食不聲祭曰不飲 Ć 笑 不 採右憂 則 坳 Þ 用山而肌

慶而遊步人 生成風 餘成為 入患 萬 不劍故故金 四 脉之虚實古山見矣 失一所惡者紫紅色百無 患金療者 **办日** 之秋 · 痛活血全生 可保犯石之類自始至终仍新肌凡治全療司必遂色怒則療,进到 習属土胃氣 傷則至 症患甚者多致 者 爾屬 震 磨丽 剅 バ 四年發用數口之 口属 為 ΠΞ 咬吸 跴 **梨則矣**不腫茶 變元所救癀如 · 金乃秋之 無虞凡 嘔喘 唐金之氣也 生 瓶 大者死 1 為壮者 一所喜淡 有穩 都 泥矣 **肉**魚胃治爛 叫师 u 72 秋 其 生金田蘇島 樂主則生益宜用乳磨金配辯 鴚] 則 屷 脉 色魔 冰 之没 者乃木 在虚 即則竭腐 主良 宜 刀凋

· 精先宜逐去瘀血以 血過多者宜 血虫或物 有治法居于邊隨偶為刀箭所傷非得聖樂安 仓塘 之不養則有入腹攻心之患不可血出不止者有瘀血停積於臟腑地或為撲跌傷筋松骨損皮破肉 補 jil. 个餐則有入腹攻心と山不止者有瘀血停時 為主以為治金療之大意金磨雖 所俱輕重如皮未破而 西止血定痛生肌两細末接磨上 原石 討為 分為末數傷處 白芷 調血養氣無補胖胃為主 超帽簷烷存性 age May MF **出淡和血** 當疑頭 元灰 銭入 O. A. 山上痛若肌肉裂吐 陳石灰 内损 一香油 腶胆 可 月陰 者必 結而 刀斧或 勝言凡遇 調 **性入** 乾牛 製乾 有源 有變多 Ξ 輕粉 胆 前者有 úı.

方旱蓮 , 早重車揭爛磁瓶收貯遇有傷處取少, 建降香炒去油各等分為末核之血即止 王療并木石損傷 共研極知 尾脱 松香 ýn. 山深嚼爛敷傷處血即 用降香 灰兴師 錦紋 和香 沒樂 兽学蜂一颗菜不配骨直接火炭血却 籽酮 油同五陪子等分為細末 大黄 之用 乳 杳 止不生 粗一 塊両)]] 没樂路 五四 tn 椒 二味同 湯温 膿 決 一竭 掺上 神砂 敷傷

又 一
貞
哉 端午日午 令轉動 炒 方 T6/1 E 實扮 **檮用極欄仍先** 用 月五 入南泉牙末縣即乳香搗掺 灰紫色為度 勃 時取出 用 泥-パ 百平旦使 不令洩氣 敷傷處 · 華莊每 不過 三两 百草 治 宇聖 日始污染 羅 刀斧傷戶犬咬定 時 2 四十日即蹇矣不朦不時之 凡有金蹇傷所出血四 杵鑿破 陰乾 方 Ž 韭 種 血 菜搗 更以皮煙 畢 揀 各 \mathbb{Z} 即 百日樂成構之 **須先用温水令** 即以府交外 半人 一雖骨破 把出 汁和石灰杵 四 皮繁之 可受 一令 痛 極 於 者亦 生細 暴 藥然 同為 二級領風, 痂 五 可熟合為 藥令封極 用 淡之日外分須午採 麻搗 丧 九 虙 出門被至 飦 甚 傳風聚 石樂 若勿重 罪 時 有

具名 丈 又 与傅於勝胃别! 散線右鋒 鈴魚 血方 黄乳連香 攻 絟 以避 哎 瓜右 症血 **給血盡人危須用絕索** 避馬馬馬 花 ż 至重者用 远散散 此故歌 之更以勃 用 候治末二两一 云 各 便一 用松枝嚼爛 散點仍熟難如 帲 用 计金丹 精 養生詞 秘统 = 油) 入酒半碗煎 压 石两用塗木滑磁上 用絕索及絹 沔 | 南 黒二電話 并 肌雄黄 夏和五 用石石 粥三三夜 i)]-可調高高次 沸温 **窺升**蒜內 口致一次關能 下蒜烧用 内 16 為 紅止 服 止二 岩 云用 住 銭細醋扇 Ž. 亦 パふ 痛两 血 血凡 日末 防 논 生 瑁 迚 路筋 三研次肌 风能錢

兵登三两一當全 服以温酒調下二錢日三服白一鹿茸人兩扶託館為末傳養上血龍骨無烟以考窮而熟地黄門馬樟根治金蹇血出不止用龍骨方 馬齒 各 療口两傍以火微炎之或用稻稈烟薰之磨 子一版解去 孟生姜一片煎至 出即愈 嵬 疼痛不可忍者用禁聲飲 用 天南星湯炮 損消若金磨着水苗花者可用韭汁 妼 **並** 楽根 以茶清調敷用軟綱縛之其 **講羅為末** 椒五銭去 椒五銭去 道腦恩 各 至八分食透温服三服有 陳石 酒調下一銭 日 灰 血根 **尼**罗两三 各等 血 如取 調

スカ スカ 治金治去血過多音量等症用考騙湯之處将水紙於四畔流則再上侍止方先以井花水一盆用碎白紙浸于水中 花蓝石散 の傳染方 飛黄丹縣真三漆 樂通口服然後用傳樂乳香數沒樂數研爛以小便半益好酒半益同 白馬冀豺坳 一大杯熟下川考與當歸而共為片水煎臨 分 共構為餅子陰或為末乾棒其 數沒樂數研問不透膜者 龍骨 晒乾為末乾株其血 畔流則再上侍止方可用 负或 各等分為末據即血止 **鴨城為末等分傳磨** 服入重便 即 血 即 <u>112</u> عاد 酒各 13

治 又 **便**鐘號號 姐為二 食金 **汽车五分** 水蛀 数 者称 甪 渚癌 生栗子 水弁酒 死逼 瘀内 血血 脹者 去二 温微两黄枚 **业在内胸腹脹湍空地** 皮分 和炒到桃 在為 服浑共仁 腹内 為陰 記紙 服為皮 末就 内漏 日末失两 不拘 脉膀 水质 五 每度湯 ادازا 牢服 俸服服/浸 去共 時童 大不 推

治破傷風牙關緊急如角弓及張者不可以前方用二錢以老酒入童便、天南星兩防風而共之 去甘绿卷風雜酒灰或破再率草头活湯之半下在課傷假 又表和表之熱風 温两各十 加服 四三防大不叫 風 不平三在状間寒先 漫疼痛體發寒 可裡法裡死作而有,以 時量緊慢加 毎)1] 岑 服 各一 也宜在裡矣禁結邪 度 和表三法目白景 欧 **禁**本 两 初者者當斜而人 城用之熟加 童便少許 王真散 當歸 用之熟加黄茶 之不傷體其口上 口又 裡故處直也症火 湏 者不治如或大毒 1% 白 与 服 杳 活下離因角裝似 令真相 盏 防之乎其子數傷

語肉也 又 用生男子乳汁? 水以称子清和 去 売取其白內如 城東自然者土山 新頭不出者 蜷箭 方 木以野子清和ない五大以野子清和な 箭處這後內住 Ξ 一九丁 箭頭不出 門拘 采用 · 場皮三 〇 口 生血酶分分三 不 凡 九如綠豆大 化一九四統 與二 卷印 狗 職用鼓炮去1方 語 不可恐其簇自出也多年 三味同研如混 天南星門是 以数 **加子大毎服十** 古裁 草島 九再機破大石 二去 銭皮 必 两手放之法箭自出 酒 冬 下服 康 け 細五 如 後令电視之去 桐泡製做浸極皮 用 許少 凡 生油 先将 撥蜣 温 旗 千醋 開坡 有 類 療 板 两 終 垂 為 出 子制白炒七爛及 效 大 用味用心 酒黄送錢 淫 蜷 中 蝦 用研用心 F

就青頭出沒服食方 好爾走鼠野殿此四藥為末每於食前温酒 好前班沒服食方 好朝走鼠野殿此四藥為末入鼠血殿審為 於朝建鼠野殿此四藥為末入鼠血殿審為 北海箭所中者 治 ・又 又 等根於監禁而常檀斑石灰 上當年 骨中箭頭不 生研羅 方亦 梅藍葉汁 大 毒箭所中者 統什服之并林磨中族不出語見肝 用末前 研細 디 月之即出 与册 者 以粉 銅霜 **井飲滓傳榜上若無監** بر 前細五 归 頭研鎖 出 取巴那里 下灰 塗加粒 點接出 銭 糞两 壁之鼠腦 取青布 飲 烧作 頻蜷 **冷末**ニ 亦赤以 為 调四 九仙 B

接骨紫金丹 される 一方加硼砂一生 當新胡多沙 酒中服渣和精给患處五方佛拍甲雜如白馬願五方金爵花根揭汁和酒服共研細末酒調服 不省人事 黄米粉四 動揺 或 板以紙 日一換再服後接骨樂紙包聚四面四片以網袋索縛不 治珠撲損傷瘀血攻心發熟昏量 两 **急**白 取未始乳香 調成 爛取汁和酒服渣和精給怕也患處汗出即愈 細切一 紅醋淬乳香沒樂各 五 永 安如有<u>瘀血</u>自下 水磁磁收之每服上 血 過報 人 两用 寵俱連根 贴傷江 煎湯洗亦 W) 處一鍋 黒色 傷處 銉

碎補多敗鬼板須虎唇 散 治跌撲損傷惡血入腸問下血川等分上下食前後服 傷以補接為先用蘇木参茂霜細研酒調服 蠟五錢九弹子大每服 来尿處經久碎 調服 知未每服三錢好酒館 淬網性 711 白椒 陽門下血濁 侚 愁 銅牌 方丸加好 李即赤醋 超酒 上帝 号

接指 用炭一样龍疊周匝包無統筋和塩泥固濟罐了硫黄酮鄉籍和北海 川島 草 上徹直至經宿火冷炭湖 研貯磁飛内收用 草島 用上 當縣 五日已午時後下火令五四方碑上書八卦五六 重縣水 Ê 白芷 為細 亦治皮膚刀 赤芍 末敷斷指 身體出血 卦五行字 若牛 川 間 血 者傷

治打撲損傷煙痛者 解此奏早未程烧灰新汲水林汁網隱漏 から う。 種散疾 扯出火毒貼時先将懲故煎湯熟洗患處然沒起下自然銅等細樂柳枝不住手攪勻入水抽 **碗每下利即安又方用白扁豆未新** 生 用慈頭切爛炒焦捣搭患處冷則再易止疼消 西川 放大社 解諸毒 117 地 工膏與以火烘手熱摩百餘下令與氣馬 色豆法鸟藥 皂角 羗活 防 **投成膏取** 五排 枯丈大 剎

解食河豚毒奢卒無樂急以清油多灌之吐出多解門子川島天雄斑猫毒煮大小黑道汁飲 解毒儿 紫金錠 兵锋於一 中諾毒死只要心思矮不妨若熱物犯之用防風 煎服前以東東用甘草里豆淡竹葉等分對碎水 山笠根 石膏 英院又用 擂冷水與服 用導荷沙或凉水磨服 牛馬羊肉毒諸毒飲食毒草木鳥數毒一) 東爽 解世間 治凡中監毒於狸鼠粪惡菌河豚毒 山淡旅 黑鉛四两磨水一 間不測一切毒 用蚯蚓近乾揉濕者又治胡· 盆硝 續随子 茶豆粉略三 板監根熱飲 碗灌之 薄荷 五倍子 百草煎酪二茜 贯仲 潜河 切俱 PŢ

节 胡 产 胡 以如化毕 ————————————————————————————————————	石菖蒲 白礬烤為末新汲水調下	砂仁 生韭汁 藍石 各單用水調	以芫荽根搗汁半盏和澗服之	又方	1		之吐即愈矣若多飲益水吐之亦好中毒也急以升麻濃煎湯連飲一二碗以	口不醒如化	九弹子大以螺青三两一半 長砂略一麝香缸甘草
---	----------------	-----------------	--------------	----	---	--	--------------------------------	-------	--------------------------

文方 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	又方 实水石 紫豆斧以監根研水調下 又方 白
---	------------------------

治中百樂毒者	又方	上 螺蛳肉	大黑豆升煮汁二升服一吐即愈	兵錄卷十三十八十二十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八	墹皮碗灰細熟水調服二銭	小麥髮合分两服冷水調下半日當下	鹁鸽熱血遊多少服	服龙妙白雞血亦好
--------	----	-------	---------------	---	--------------------	-----------------	-----------------	----------

要栗子研去子煎至屬人姜蜜和堂草根	白礬為麻水調曜耳鼻皆出黑血勿怪又方	大小豆 用水調服	白扁豆 用水調服	益汁 用水調服 □ 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芦炭毒皆歇也 取根搗汁飲	雖中毒而面青 脉 絶腹 服吐	生了蠶殼紙 燒末細研每服一錢用冷	外而致效 横紋甘草 截成小塊麻油煎過不拘時常
根研汁				-		血	冷水調	時常盛

文方 (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本)	夫爺 [*]	及竹葉 濃煎服之	野粉 地樂水調服之 又方 服再用四物湯香蘇散各一劑和煎服
--	-----------------	----------	------------------------------------

梨葉湯服食	治中科毒者	村皮湯服愈	治中村毒者	造湯服愈	又方	水皮湯服愈	治中瓜毒者	小兒溺服愈	去銀 三	又方	甘草 胡籽 貝母将為末水服	治中諸杀毒者	苦零杯煮汁飲之吐出即止	治中飲食毒心煩悶者	飴糖 黄連饼用水調下	715	} 1	螺頭青 細研用新汲泉水調下
					į	1		15.00	ガイヌ							豉汁 乾姜		

又方 2方 2方 2方 2方 2方 2方 2	种学	急掠 驾竟 車生啖之即恐 煎森椹汁服愈	治中野甾毒而突者	え
------------------------	----	-------------------------------	----------	----------

猪牙椒烷灰水調服 治中伯內毒者 哈一年內毒者 路市年內毒者	又方者骨板焼末服	又方	活中馬南泰者 黃相称焼末服
盏吐出愈	7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7		

生蘆根柳搗汁服	又方 青黛椒以水調下	又方藍青椒投汁唯下	又方 白磐綠為末水調服	又方 梅花脳子脚為末水調服	治中河豚毒者	溶中雞子毒者	糯米泔 温服一中益愈	豬葉松焼末水調下三服愈治中豬肉毒者	井水	又方
---------	---------------	-----------	-------------	------------------	--------	--------	------------	-------------------	----	----

乾蒜が煮汁服	生鹅虾捣汁服	紫蘇 潔煎一二蓋飲	生蘆根柳搗汁服	朴硝柳煮汁服	大黄柳煮汁服	黒豆 煮汁服	馬鞭草柳者汁服	福皮娜煮汁服
				ぶーカ				

医如故 是酒熟温温服之每日一盏 在五钱為末用無灰酒納瓶 以下於金末二錢即寫下且 成本	成你 · 良 · 良 · 良 · 良 · 良 · 良 · 克 · 克 · 克 · 克	尚出生慈數整根弱皆具種即消續亦麻為細末取冷熱水調二大蓋連	以居者 如麻節狀境河間大如稅以策下忽應整如麻節狀境河間是頭骨痛流下則腹刺中挑生毒等等消息的痛服用率加發刺中挑生毒等等消息的痛服果告呼挑生初為粉杯以水調服	D 1≅
乃火用 止熬人 	化盡通	續服	策腹刺初 豆痛消中 暗腦十壽	

治中飛線表者	治中邪氣入腹者	教手角	麝香	又方	雄黄	共 载 卷 二	又方	犀角	治中瘴氣者	甘草汁服愈	又方	乾肺	又方	飲熱酒解	[R
	オチ等ろだと														
A	周水			J		4									

治水石壓死并從高跌死氣絕不能不通温以熟酒或姜湯或粉飲少許	思衣候人熱衣包之用土機有氣及各月凍死者	急解衣帶用艾矣騎中令二人以產管吹其耳又方	提出水但心下温皆可救	起一二磚用盘探泉中待水自流出用皂炭為末綿聚塞糞門放大機上	治弱水死者以下俱附	又方 華感處	又方	治生漆卷人成毒者
下者之中 活烧	炒熟付心	三人以蘆管吹其耳		水自流出切不可倒放大機上以脚後墊				

馬傷 美相紛共為求審調傳之	拘私鬼	又方	油調傳	又方	用爛貨柑汁塗之	去銀卷二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	用麻油煎黄蜀葵危傳上	治方	凡煙火而傷切不可用冷水冷物熱污冷氣則却	火傷	又方	急擘開口以熱小便嘴之
---------------	-----	----	-----	----	---------	---	------------	----	----------------------------	----	----	------------

即愈以羊随熬成骨油入货丹欖勻令髮坐三五日	取艾葉濃煎汁熟洗之即愈 又方 須史浚浸乾即塗羊脂腦随	以游四合以水煮之去滓清之半食須出令澡 对新脂洗之立止	飲食肌體虚分故頭目手足數據血法水路水蒙犯霜雪寒風所切凌凍	秘房籍·申 被馬糞汁服并以此洗磨愈	入藥飲之 地黄症揭碎置鳍中熬乾以無灰酒一斗五升	元代第二世代大権の政治者
----------------------	----------------------------------	---	------------------------------	----------------------	----------------------------	--------------

用銀 早紀之止痛 之以用 人熟湯洗火上、海油半四以雪 世紀之止痛十日即安美四節尚有柱紋幾微連便以下用來用青石作器物者以刀如 油成猪一两 红牙之次站之明大大路上的大路之明大大路之明大大路一次站之明大大路上 熟涉先令皮軟拭或将藥用慢火略趣青一两黃蠟一两共熟攪与尾確 癰疸 九指節數裂以此 煎湯 上烘乾印月孫傳上 子末少許就令獨紫色為度先 堕者 一两共数 バス 街 人和刮取来如欲落 栢 五名焙子 為末猪 銭洗片 一以薄紙貼 塊 居義金 一子 瑞殿去 油土 磁 同 溶脾先 調 煎 傳

兵録卷之十三然 鄱 芷 不 千 右製法 昋 樂 重 重 Ħ · 供即磨服一粒水头一三具 用凉水磨服 隱壓亦重未破及序磨並用無灰對口天蛇頭無名庁種楊梅等一以即磨服一錢或吐或利随手便 者連 下極光潤之雅半遍依古 毒器形產氣惡菌 旅通 水調金廣上日夜各數次覺痒 方用糯米濃飲切 利一两行用温的為度每錢重一 南方蟲毒瘴萬 行用温锅 티 用無灰淡 調五前 手便愈癱 傷人纔 馬補每和味 蛇廳 住服於 次湾磨服が窓底諸様 酒磨 等切錠的絕對 疽 惠 勢杵末俱吉

諸侯之師已不 核般 惡下貴陽而 軍也絕斤四 我酶 日日 地利盖 釒 勁 背高前死後生此處平陸之軍也 附而 家不 散諸 要害士卒不聖意而 地士卒總土 田野禁我熊採絕我要適待我空度而家不可與戰則必固守不出敵攻我城散地吾将一其志吴予問孫武曰散地諸侯自戰其地為散地是故散地則無 地 勿) 而迎 何武 可忽乎 ъŃ 而 首眾樹 澤 **贱陰居浔其勢則易為制人矣** 容 一部人 扵 惟亚去無留若交 一道近 酿 山家斤 内 生废髙 易散 令半 深入吾都多行城邑士卒 易離 問是故散也又可敢也又曰 澤之 無迎水 不 平也凡軍好高而之軍也平陸屬易 3-fr 流 日地 ż 散 业 利 洏 處 城 地 無 她 W) 欲 急量攻掠 士 卒 昔秦 戦兵 2 水 法更 又

上下異心三軍恐惧敵守其城壘整其車騎或一手多人也兵法曰入人之地而不深為輕地數數勢人也兵法曰入人之地而不深為輕地較動勢人也兵法曰入人之地而不深為輕地 争地便利之地也可以少擊眾弱擊強 野戦則必因勢依除設伏要道出其不意棄其野無所掠三軍困飯因而誘之可以有功若欲清野遣輕兵絕其粮道彼挑戦不得轉輸不至 地又 未專以入為務無以戰為故無近 當吾前或擊吾後如之何武曰軍至輕地士卒 **段若其不至捨之而** 其通路分吾良卒家有 則不 包而擊之勝 軍 日争地則無攻吾将起其後吴子問孫武 固 為家專志輕 争之兵法曰我得亦利彼得亦利為 以敢則不勝當集人衆聚穀董新堅肆 敵吾兵在國安土 去 所伏敵 其高城無由 若来擊之無 懐 バス 争

£ 先至而敵用此術則逐吾銳卒固守其而輕兵必出救人欲我與人棄我取此争先之法若我爱鬼樂揚塵或其耳目遐吾驍兵設伏要路敵得其家慎勿攻之引而佯走建旗鳴鼓越其所 吾不得而往衆寡又均則如之 固其蓝塞若不先圖之敵人已備彼可得而敵令不得来必全吾邊城修其守備深絕道 法四我可以往往可以来為交地絕之絕之致以及可及錯四達不 交地平原交通 以往彼可以来吾分卒匿之守而勿怠示吾不得而往衆寡又均則如之何武曰既 備或奇則如之何武日争先之道先據為 無絕吾将謹其守吴子問 外伏于陰阻敵人還關伏兵傍起此全勝之 曰敵若先至 地要衛之地也先獨此地衆必徒之故得 人若至設伏隱家出其不意可 也一回可以往來交結不可 要保險簡平練兵或出或 孫武 已備彼可浮而来 口交 又日交地、可過絕也 可週 14 取 吾将 吾可 守 绝 則兵 壮 或

重地 例 不修而戒不 Эė 属矣我有衆助彼失其援諸國特角震鼓齊 重幣帛使約 零属其道 龍恐莫知所當 失之 入敵境已深糧運難給士卒難返 3£ 之地 則固 렌 四頭馬子 四通我與敵相當而傍有他國公縣馬至不能先則如之何武曰該十問孫武曰衢地必先若吾道法 求而 掠 オロ 入深則拘不得已則關是故 傍 日 **浔不約而** 士卒坐者涕沾襟優 謀 難 國交親結恩兵雖後至 食又曰凡為客之道 孫為不可測投之無所姓既野三軍足食謹養而知 逐片城邑多者為重 盡力兵士甚陷 財非思貨也無餘命非 之地 親不今而信禁祥 則合交又 三屬 to 國公告 例 先 BI 其兵 勿勞 深 兵 表 吾将 徃 <u>Ŧ</u> 不 Jb 弘 旭 法 ر خ 挨 Ŋ١

還勢不可污欲食于敵持兵不失則如吾引兵深入重地多所喻越粮道絕塞 欽卷 Эę 谷江 地 内 途 147 日凡居重地士卒輕勇轉輸不通 **浔栗帛皆貢於士多者有賞士卒無騙意若凡居重地士卒輕勇轉輸不通則掠以繼食勢不可浮欲食于敵持兵不失則如之何武** 百吾入 外相應其敗可知餌敵人若出鳴鼓随之陰伏吾士與之 在 兵法曰 私除要害之道 還出即為戒备深溝萬壘示敵且久敵 35 順 敵相 地 1 0 投 則 卢 Z 山 2 地 竹 而 無 林 則伏 又 Jdp 刑 而取皆會中道後而乃上夜斯險阻或分而左或公 食 如之何武曰先進輕車去吾後营吾左而守吾右良 日 徃 乃今輕 則 9£ TE 諸 11 不 漁 阻吾 衛之男也吴子問 可 迁廻進退無從雖家 澤凡難行之道者為 バス 口先進 難從 将進其塗吳子問 車街枚而 城 墨溝湟 之道行久卒 輕 行 塞設欲 عر ቲ 而 宜 採 車 敵 髮 何 石 谏 武 通

兵欽 卷十回 戦則亡為死地死地吾将云死地力戰或生守隅則死血輕兵進挑陣而勿博交而勿 境軍於敵人之地敵人大至園吾数重欲突以 根道利吾走勢鼓謀不進以親吾能則如之孫武曰吾入圍地前有強敵沒有險阻敵絕前監者圍地也圍地則謀吾将塞其關吴子 陷于害然後能 敵在吾園伏而深謀 能 若亂不知所之奈何 士卒令其在怒陳伏良士左右險阻擊數 為毀亂寡弱之形敵人見我備之必輕則吾勵家萬人同心三軍齊力并炊數日無見火煙故 家萬人同心三軍齊力并炊數日無見火 武 則戦後之亡地然後存陷之死地然後生眾 為高 日園地之宜必塞其關示無所往則 者迁彼寡可以擊吾衆 若疾輕吾則前 1th 可 申 战日千人 吾将示之以不活又曰 示我以利 敗吴子 RH 兵法 复 勿去此敗謀之法 16 者 日 鸪 左右将 為 叫 孫武回 操旗 索我以旗絲 圓 由 地 角 又曰背 分塞要道 者 吾師 也 隘 軍 又 깺 死 ズ رواد 红 何 吾 問 围

ţ. 勝〇兵法寧致人無致于人通者四通可以來曰通居通地先居高陽利粮道通形可以先先之以待敵兵法曰我可 擊之雖衆必敗開其去道示其走路出 髙 也 掛 擊之雖衆 以是失道而求生故曰因而不謀者危窮而不疾攻敵人亦懼莫知所當錢卒分行疾擊其後餘謀士有死志於是砥甲礪乃行氣一力震鼓 まる十四 戦者亡吴子曰若吾圖敵則如之 餘烷 出 吾能告令三 形 候望而陽面生粮道便干轉運所以利 盡粮食填 六 **險難以瑜** 껰 出 开多 塞不 ィ 有死志於是砥 勝返亦 深溝高壘云為守備安静勿動 ìÀ 段井竈割髮損冠紀去生園将無軍示不得已殺牛婦馬以外 劫間之窮寇野之之法伏卒隱雾 絘 **励士激** 難也 求生透出必無關意因 兵法 衆使 曰 可 拎 レス 何武日 命 徃 通之 漬 黛 之以此我則彼 圍 щ **於戦** 汉逐 則 浩 隐 女中

£ 匘 矣岩 釬 **企**邀 出除中發伏擊之則無不利 則 我 無 支 持 日 팃 日 形者 與敵 出也引而去之令敵半而擊之利九 形者 不 久 錯勝 掛 宜 能 出而 之計 лŅ 掛 敵先守監我去之若無守我從之兵發伏擊之則無不利也 堂堂引去伏卒待之敵 术 毙 人各守高陰中有乎地 徃 有 VZ 陣攻敵則自下禦上 掠路西隐掛返 不 不盈而從之○盈滿也匹两山之、先居之必盈之以待敵者敵先居 敂 以敵 以人 相也 山之間中 逐 返有錯性 矣 備敵攻 相人 俻 要截故 而 〇掛者險阻之 不利 根 則不 以 曰 有 不滑 曰支 伺利 深利 敗若無 能勝必為敵 之敵 如此之 通 俠 **岩**鴉我候 不能邀我歸 谷則頂當山 ጠ 瀚 便 ع 俻 差 一而陷 FL, 0 出 雞 袻 地 有 地彼 長出 也兵 支 擊之 利我 與敵 侕 其半 者 須 Ż. 找 重 ŧξ 法 ф 叠, 字 女口 路

4 不接中有一道亦酒勝敗在兵不在地可 險形者 鍅 餘 773 Ø 如為為人 者我先居 為營 二者寧捨陽而 老 可 則平易險 一酸 者山隆谷深北 以從之 ب ن 推 敵居先據之必不 居险 2 媨 如 挑 有口譬如平 恐與敵持 道亦頂據 阻之 之必居高陽以待敵 78 以待我 ㅁ 馬及未可知也モン、湯高不可捨高而就陽 亦 郎髙 O 凡 形 地 礻 非人 不 左 70 地險阻 陸迫 則我當引 **夫监和** 利 可 水 找 ħ 绞 可 Ż 而 與争則當 一一使 渥 口盈 示在 于人 口盈 在器 浔 者た不 車 バス 若敵 也 馬滿隘 滿 出奇 袻 與 與敵聖 ズ! 2 俱 去 Ż U 居髙 也高 引去 미 先居 通街 误排 疼 法 也 谈 致 地我 舟非 Z 127 可 լի 與陽陽於 相 形 程 惟形則從 哈 Ž 敵如

-		
	兵 禁 十	相故故去近言戰三也勢不四
	表	近言戰三
	- i -	也勢不回
	4.0	均利士
		
		則若若
		如果我
		之就就
		何我敢
		与聖聖
		1 公是而
		公 政
	\ _ \ -	
		則退我
		相近也故言勢均然則如之何曰必欲戰者則移壘而故戰不利敵若来就我壘是敵困我逸亦不利故戰不利敵者来就我壘是敵困我逸亦不利
		而利逸

東年孫子虚中 東年孫子虚子 東年孫子虚子 一年孫子虚子 一年孫子虚子 一年孫子虚子 一年孫子虚子 一年孫子虚子 一年孫子虚子 一年孫子虚子 一年孫子虚子 一年孫子虚子 一年孫子虚子 一年孫子虚子 一年孫子虚子 一年孫子虚子 一年孫子虚子 一年孫子虚子 一年孫子虚子 一年孫子虚子	· · · · · · · · · · · · · ·
--	--

西未已	日日日孫派派	一月銀 月 旅 恭	七月孤未虚丑 三月孤卯虚酉 正月孤卯虚百	年 年 年 年 月 孤 孤 孤 孤 孤 西 表 已 如
日日日孤孤孤孤	2日 孤辰虚成明日孤寅虚申	十月孫戊虚長	八月孤申虚寅四月孤辰虚戊二月孤寅虚申	76 76 36 76

中国時孫左及 中国時孫子未虚子母 成实時孫中酉虚寅卯 中国明孫子未虚子母 用大司孫中酉虚寅卯 中田自孫子未虚子母 用大司孫中酉虚寅卯 中田自孫子未虚子母 甲午旬孫長已虚戍亥 中田自孫子未虚子母 甲午旬孫長已虚戍亥 中田自孫子未虚子母 甲六旬孫中酉虚寅卯 一天思日 一天忠子 一大忠 一大忠 一大忠 一大忠 一大忠 一大忠 一大忠 一大忠	-			-															-
三月日日 中海 成 中海 成 中海 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市		月段日	酉時	卵酉日	貴人星	'	辛已 壬午	九丑 丙寅	天见日	共绿巷十四	出師吉日	甲長旬孤寅卯虚申酉	14千末虚	子自孙戍灾虚	旬中孤虚例	申酉時孤午未虚子丑	已時	丑時	
四 中 子 日 中 日 子 日 中 日 子 日 中 日 子 日 中 日 子 日 中 日 日 子	月日		犬 時	時已				913		' . ! ;			:	i i				_	
				灾日未時			- }	f		中回		派子丑虚午	孤辰已虚式	孤申		孙申	侭	孤子丑度	,

壬申 戊辰 庚戌 已丑	西行吉日	甲子 丙寅 壬午 庚子 甲午 壬子	東行吉日	每月初七 十五 二十三日吉	青龍協日	每月初三 十九 十一 二十七日吉	白虎協日	東方已日 西方七日 南方辛日 北方丁日	- -	陰陽配合日	大吉利	執破成三日宜出兵勝 建定成三日宜立管秦	六古日宜出軍立營泰	已上四日名白虎日宜出軍敵人自急大吉利	每月初二日 初十日 十八日 二十六日	白虎日	九月灾日十月子日十月五日十月寅日	
六月己卯甲申丙申唐申丙寅戊寅庚寅辛卯乙	反庾反壬辰甲辰丙辰	五月乙東し丑丁丑癸丑丙寅戊寅庚寅甲寅弋	四月丁卯し卯辛卯庚午戊午已卯癸卯辛西	長	長壬申甲申丙申戊申丙子甲子戊子庚子甲	三月已已己已葵酉丁酉五子丁卯庚辰五辰五	卵子申甲丙申し丑し史已灾辛灾	二月丙寅戊寅庚寅甲寅乙己甲子已丑己己於	来録水十四人	未し未丁未已未及酉丁安辛安	子两子戊子庚子五子七丑已丑於丑辛未及	正月辛丑丁丑丁卯己卯己卯辛卯葵卯丁酉甲	逐日演武教兵吉日	主 寅	全申 庚申 甲申 庚寅 甲午 辛丑	北行吉日	丙寅 戊戌	

JE. 十二月乙丑丁卯己卯辛卯 れ 月乙ピ 月甲子癸未乙灾庚子 月丙寅 酉 西辛酉甲成丙成戊戌壬戌 日本葵酉 Ð 甲寅壬辰丁 月丙 灾癸卯 丁酉辛酉 已癸酉壬申丙申 午庚申癸酉 月九已两寅戊寅庚寅已已辛已庚午五午 月癸酉丁酉 逐月出兵征討吉日 申戊申丙申庚申 月九丑已丑辛丑丁丑癸丑丙寅戊寅庚寅 秋十四 子し ۲ 솼 外壬寅癸卯 丑丁丑已丑辛丑癸丑辛 葵卵已已癸酉 未壬申 丁酉辛酉庚戌 小郎 丁酉辛酉丙戌 癸卯 申 申 己己壬 外丁 癸卯 丙申戊 丑癸卯辛未癸 7 ት (申庚申) IJß 庚午壬申 Ł 那已 癸酉 已辛 T 丙 ĩ. 夹 五 127 بد 錗

成十惡無禄大敗 宜天月二六 五十一月寅 兵寶兵吉成熟未德月德合普護 月乙寅 月し 一月丙寅し灾 月甲子庚子 月し己し文 月甲子甲午 月甲 月丙寅 演武日 月午 月两寅乙安 外壬寅癸卯癸安月甲子丙寅乙巳庚子 外丁丑 養十四 遠征天馬吉日 **西寅庚子丁卯庚戌** ことしず 無禄大敗日 德兵福兵寶兵吉黄道成開日忌六不 六十二月辰 外甲午丁丑癸卯丙午癸灾 ᄼ 申 外平未是 外及酉 外丁丑己已癸酉癸灾)已庚子 外甲辰两年 ル 外甲辰两午 丁酉甲 月 戍 午 十八八 ٧ 2 己巴壬寅 丑 十月 辛未 子

12 02	***	<u> </u>		712	-			^						
成池日正月起卯延行四仲太白經大敗日春寅大敗日與成池日並不宜出軍	七又起寅是也正月起寅逆行六陽原二子三八四申五午六辰	兵禁日不可出軍	电奥兵動衆大忌風雲無日	春辛灾日 夏戊子日 秋已卯日 冬茂午日	天破日	春七 夏八 秋九 冬十	ヌ	七酉 八子 九辰 十末 十一成 十五	正寅 二已 三申 四灾 五卯 六午	又独亡日	時不可以常用	行乃克後北親拓跋珪晋劉裕皆效之其識在一	太史日凶不可往太公日我往彼亡有何不可多	亡 曜仙曰往亡日本山武王伐紂其日值生亡

正已二灾三午四子五末六丑七申八寅九酉十	申十一卯十二酉是也正戊二辰三中四已五子六午七丑八未九寅十	正月起戌逆行十二 辰是也	下臨四絕之長名曰天禍山立春立夏立秋立冬前一日曰絕不可用占時日	女绿春十四一一十二	宿更臨四離之長名曰大冠凶 春分秋分夏至冬至前一日曰離不可用占時月	四離日田武立	当 又大敗時申 し日午两丁日申戊己日已庚辛	月寅申五十一月丑未六十二月子午日寺父弋日時正七月已灾二八月辰成三九月卵酉四十	午成 夏已西丑秋中子在冬灾卯未演禽書大敗
---------------------	------------------------------	--------------	--------------------------------	-----------	-------------------------------------	--------	-----------------------	--	----------------------

中字面 中字面 一八月十一日七月十二日八月十三日九月十 一日六月十一日七月十二日八月十二日九月十 一日六月十一日七月十二日九月十二日六月十一日六月十一日七月十二日九月十二日十月十五日十一月十六日十二月十七日 一次段日丛 金銀日山 金銀日山 一本華里 一本華里 一本華里 一本華里 一本華里 一本華里 一本華里 一本華里
--

申旬不用酉戌丑卯已甲午旬不用未酉戌灾丑 甲子旬不用卯己未申甲戌旬不用寅辰午未甲 春申酉夏丑寅秋成亥冬辰已忌出軍 未時也 正成二英三千四未五寅六卯七辰八已九子十 甲辰旬不用午未西夾子甲寅旬不用卯已未西 心行軍立案 申酉八寅卯九酉戌十卯長十一戌安十二辰已 正已午二灾子三丑未四子丑五未申六丑寅七 兵録表十四人 行兵大凶時干克日干是如甲子乙丑日庚午卒 丁未癸丑甲寅乙卯已未庚申行軍出陣安營並 伏尸日 血光日六旬不用 天地争雄 五不遇時 五不遇日 一申十二 山是日不宜追捕 ы 六

辛或為九蛇冬壬子癸或為十年 申日灾時八月酉日午時九月戌日五時十月灾月已日寅時五月午日酉時六月末日辰時七月 寅申已英月辰戊丑未時子午卯酉月寅 春甲子し灾為八龍夏两子丁攻為七島秋庚子 正五九月子日二六十月卯日三七十一月午日天火狼籍日凶 チ金えーロー 春不東征夏不南向秋不西伐冬不北戦四季行兵方 時辰戌丑未月子午卯酉時交戦大凶 乙戊己辛壬之日臨子午卯酉之辰此是九配若 申時十一月不日卯時十二月丑日戌時 月寅日已時二月卯日子時三月辰日未時城門時 出軍忌月建之日損 九郎日忌行軍 入龍七島九蛇十席日山十二月酉日是 スこ 申 ·已灾 12

成日大吉 收日先喜浚凶 開日閉日凶東日大吉 除日破贼 滿日兵旺 平定日丛建原出軍法	調十惡日丁壬年無忌一月丁安两辛年三月辛己九月庚辰十月甲辰 通書載申己年三月辛己九月庚辰十月甲辰 通書載申己年三月戊戌七月癸寅十月 丙申十	如若不信遭逢此 百萬精兵化作塵 对若不信遭逢此 百萬精兵化作塵 计恶大败日 巴亚都来十座神 八成癸寅加辛巴 巴亚都来十座神 一 一 一 一
---	--	---

東京 東州田 南死亡 西休敗 北開吉 一 東京 東州田 南死亡 西州田 北州市 一 東京 東州田 南死亡 西州田 北州田 一 東京 東州田 南死亡 西州田 北州田 一 東京 東州田 南死亡 西州田 北州田 一 東京 東州田 南死亡 西州田 北州田 一 東州田 南死亡 西州田 北州田 一 東州田 南死亡 西休敗 北開吉 一 東州田 南死亡 西休敗 北開吉 市 東州田 南死亡 西休敗 北開吉 一 東州田 南死亡 西休敗 北開吉 一 東州田 南死亡 西休敗 北開吉 一 東州田 南死亡 西休敗 北開吉 一 東州田 南死亡 西休敗 北開吉 一 東州田 南死亡 西休敗 北開吉 一 東州田 南死亡 北州田 下寨八門吉山					-		,			, = =				,	· -	,			
古 南	E:	i	!	t t	ţ	1	1	1	1	1 1	1					į.	1	1	
死死死 開生体体 開 開	東生吉	東死亡	東開旺	東開旺	東開旺	東休敗	東生旺	東開利	東死亡	を上 回 人	東生旺	東死亡	東生吉	東死亡	東開吉	東休敗	東休敗	東生利	下寨八門
休開開休開死休生開 死開開休休生死休 敗 正吉 敗 吉 亡 敗 正吉 敗 敗 吉 亡 敗 北 北 北 北 北 北 北 北 北 北 北 北 北 北 北 北 北 北 北	死	吉	死	死	死	間	生	休	休	j	#	伓	- タし	王	生	· 死.	12	뱒	1 1
開生休生死生死死生休生休開開開開那	休	開	閘	休	開	死	体	生	開		夗	開	開	休	休	生	1/2	休	
	開	生	休	生	死	生	死	妃	生	 +*	休	生.	休	開	刚	間	멸	51	

戊州丁丙乙甲癸 あし甲 庚 ÷٠ 霄 申録 未午日辰卵寅 恭 東東東東東東京休休衛城生生休 東東体亡 東東東東東東東東 -ر-E) 生死休生開生死生 休 凶威威旺亡旺旺死凶人言楊敢吉吉吉凶 南南南南南南南南 南南南南南南南南 生凶败休傷凶休死 滅亡死死死休旺死生 生】 吉亡亡敗敗亡山亡吉 敗滅滅凶敗滅吉亡吉 西西西西西西西 西西西西西西西西 開休生旺休開滅凶死 凶生 敗 開 休 生 開 開 開 旺敗利吉凶吉敗城亡 敗旺亡旺敗利利旺旺 ا ـ=ـ 死生 禍 体二死体生体减死依死灰 敗死開生 山田七 亡败旺吉 滅凶旺敗敗滅禍敗敗 月女

					-													
-	丁		由		. !	٠.			扩	**	ــــــــــــــــــــــــــــــــــــــ	癸灾	壬戌	辛酉	庚申	르	浅	1
		坎休		神蕉		之無	曾	本日	鈙	輳合	右地	哭	ኦሂ	图	, i.由	未	午	9
金	反	冰坤		西東	ÞЧ	松	疋山	内	むす		按田	東	亩	書	毒	南	毒	击
休震死	E	かと	丙	'南南	احق	_	衛是用事	内選	DD.	容	甲子選	旺	爵	休	不玩	東開	東亡	東亡
乾	<u>ē</u>	震	寅	炎離	哥	ł E	ネ	時方		展	逕	吉	利	馼	東死凶	吉	凶	凶
乾傷坎	已卯	处震傷異社	戊	正正面南		! !	不差如走	方		不容長轉提兵忽遇山	日十	يدا	ł	I			1	
拉	事	椠	子已	(11)(X)	方出		女	76	i	提	吉山	南休	南	南	南部	南	的	中方
離	反	乾乾	1		師	.	及凶	・か で妨		一大			死亡	生吉	上土	いつ	体滅	1易
멾	_1.	14	Æ		句	: 	/凶時	女口		温	是		_	а	. 13		173.4	است
巽	丁已辛	完 稿	寅士	· .	之吉		124	Æ		ركز	出	西	西	西	亚	西	亚	赿
鰢	圣	蘤	于		苦。		万	用		H	車	生吉	脏吉	かし	休	斑	傷	休
名	ルチ	艮生	子双		艮乾 東西		別	兵吉	- <u>-</u> -	沙漠	意	吉	晋	ح	封文	吉	敗	敗
良	卯士辰	生離	癸丑		外北		行	日日	<u>;</u> =	退出	述人	31:	31-	11.	3.E	ታ ቲ	£	зŁ
暑し	癸,	景	甲寅		震坎		行兵宜	時		行	如是出軍急速人馬	生	生	開	生	生	生	生
	2		寅		I iI		直	時方		行者	린	吉	生吉	ΗŦ	HŁ	吉	吉	吉
	j				北東	L .	頣	位		抡	行			_			_	_

				······································	
定成日宜向天月德方與工吉 忌天贼地敗火宜黄道天思月恩天德月德天德合月德合併平造船吉山日	於行者以在手持来投并中亦吉 棄之北行者持土五制行五里棄之大吉又云凡 一器行六里棄之而去西行者持炭七制行七里	四方相獻法 四方相獻法 異類震為 上口 三	し四两戊丁爽已酉庚戍辛安 民休父死異傷離社坎開乾竊震生坤景 壬午葵未申申丙午丁未戊申	已卯東原辛已於卯甲辰乙巴乾休離死良傷震社光開坤鵝坎生異景天子丁丑戊寅庚子辛丑壬寅	震休草死離傷坤杜良開坎猶異生必景府午辛未壬申戊午已未庚申甲午乙未丙申

東京 外子子 東京 中野 東京 中野 東京 中野 東京 中野 東京 中野 東京 中野 東京 中野 東京 中野 東京 中野 東京 中野 東京 中野 東京 中野 東京 中野 東京 中野 東京 中野 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京	星伏斷正四廣水痕城没受死執破日
---	-----------------

二月子為成池丑為九空寅為殃敗 ìĖ, 兵錄 落十四 **Ŧ**. (2) 月子為瓊舟又為天賊為荒無為受死為 為白浪又為受死午為咸 月子為殃敗又為危日丑為招搖反為水 月 空申為荒蕪又為蛟龍 為 A 為招搖為九空已為荒蕪未為蛟龍申為寶丹 纳 招摇辰為受死 為央女人力, 較配中為受死又為危日以東年為水隔 酉為成池成為覆舟又為九四浪午為水隔 酉為成池成為覆舟又為北接 荒蕪又為 殃敗寅為天賊又為天賊為荒蕪八為危日 申為蚊龍 池」 -又為 他未為 殃败 又為 -1-+ 日 九 够 辰為天 天賊 水 Ξ. Ł Я 隔 •لـ 為 ы В 西為覆 ٦: 又為 台 招摇 隔 賊 浪 九辰 又 又 린

t れ **贼又為招摇成為白浪為危日午為水隔未為** 死又為蛟龍 凡 為霞舟午為殃敗 月子為咸 咸池又為九空未為受死又為蛟龍申為殃 用奶為覆州又為天贼為荒蕪辰為危日 為白浪西為咸 月丑為受死軍為覆舟亦為危日長為未為白浪成為殃敗或為招搖 蛟龍南為危日辰為荒蕪已為月子為成地又為九空為水隔 又為招搖為水隔或為荒蕪 白浪戏為蛟龍灾為 月子為白浪 寅為受死又為九空卯為成池辰為 為水隔西為白浪又為招搖 日寅為水隔 池丑為天城寅為荒蕪辰為水 又為蛟龍寅為水隔 池又為殃敗為 又為危日未為 未為荒無又為殃敗申為天 殃卯 為 政 水隔 成 池 天贼午為受死 又 九空戍為 丑為覆舟又為 招摇申 為地空午為 卯為受死 覆 為天賊 為受 唱 角巴 ኍ 賍

丙子 癸未
寅年寅日 餘做此同 張宿日
壬寅 已酉
- 1
午月午時 未月末時 康辰
į.
壬辰
- 计符外日
三十九 兵錄表十四
申辛酉夏五子癸丑秋甲寅乙卯冬丙午丁 丙子
小月初三初七十二二
大月初一
西為受死成為荒蕪安為天賊 水狼忌日
月子為水隔丑為白浪長為殃敗已為招搖一春季丁丑已丑夏季申申甲辰秋季辛未
殃敗午為覆丹又為天贼為荒蕪為招搖 子年東日

但眾學	租 建原 原 人官 人官	石房人從一次	六從二從	世の一三代人官	一子 孫 如 知 二從 二從 二從 二從 二從 二從 二從 二從 二從 二從 二從 二從 二從	子 伊 江 伊 河 版 三 假 人官 人官	伊即從人官人官人官	丙寅張仲卿從信十 甲子王文卿從信十 明八十甲子神名明
又公從大信人官	公来从作人官	和即是人作工作	乙酉乳利公暇信十	仲公 一人官	人官人官	人官人官	五次一 4 人官人官	丁卯司馬师從官大人大工和孝神從官首大人全工和李神從官首成臣

心月狐 趙隆	七宿 主将黄公	唐中華文陽 成午從元光 成子從元光 成子 成子 位元光 成宗十 一 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	寅明文章 成史子仁	申午根孟的文學	五陽范 如 如 如 如 如 如 如 如 如 如 如 如 如 如 如 如 如 如 如
尾火席 周雲 三常	宿園于 及 在 在 松 代 代 人 代 代 人 代 代 人	那時通知 知 知 知 知 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	班戴公陽四次 人名沙里 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名	已 西成文長 班信八十七月 在 一月 東文卿作人十十十二十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十	下, 大也 下, 我也 下, 我们 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

較 3 水) 	長 柳土 種	井木行	零水核!	東列島	胃土雉	至大祖	壁水偷	危月燕	女主蝠	斗木豸	北方七宿	箕水豹
吕鳳	董張	徐贯工将林文鎮	宋真	東王	伍交	謝月五祖忠	能工	田立危	何估	郭海	主将歐陽希節	文相
	翼火吃星日馬	光金羊		衛火侯	昴日雜	妻金狗	:	室火豬		牛金牛	希節	
	吉島	把童		なって	鄭昌	唐文		尚元	危車	胡英		

限風日越 編輯氣在每至事日從風共西巴水相商加宮時賊山災 如為東從鉄 和以而 諸條時十 占風 網管明上日各風好來北大 此风左 潤掩順天占 日則陰害則東有奪 氣當人業的丙代情學善 牲河旬形銀經 于假则如来贼貨 本中之經河縣經十十年則如果數員本中之經河不終之一十年則皆以為一十年,即皆以其一十五年,其一十五年,其一十五年,其一十五年,其一十五年,其一十五年,其一十五年,其一十五年,其一十五年,其一十五年,其一十五年,其一十五年,其一十五年,其一十五年,其一十五年, 五三出乙五折虚营寅日日有柳子木稿条卯四 無間雲頭低雨 雲內及則好 B 丰 氰灰丑凶邪 凌時間河則無濃丁甲壬 夜 逐期如猪 雨雲黑電

南面咸田北湖东灾罪央东 南西 下管事書清那主來十主電於風廣羽已應前與原用詩氣氣在三三年東北主四部風義時申木夾在此兵河青者不未在日朝寒從日侵入事從之加有為明五主或土 持日文升 相來剛成災火角止火通主庫六有角為丑五 之折则四 大方配起 和酒负责兵日徵未 而也兆月 悦食風者起風金寅之 之樂從六羽風為中宫」上海 里耦青 事事南情日時商明羽天中何 若 甲丑未也羽加如為西子色甲特面 乃重 子戌主如風已欲散時午若卯,無 日為喜東時夾日也為時不日 之 ŋß 未 事為|五|為公慶午加有徵又爾為應如則] 宻 н **貪風樂日**那災風上辰宫雨前另了 雲 而 很在事為西病時為成的不天一生 虫工

化人

而

在震以

期

即日日如州八、降中高黃如曜 中田二赤青青 節達璇珠運行之數四仲加變朝中夕半以與為古達遊珠運行之數四仲加變朝中夕半以與心門古境遊入河法令急而淋濟變程对也熒惑、電電東神怒雲雾漫洒輕吹遠遍而仁君惠重、正臣忠先風後雨以詳審上縣下銷始雨終風、東或遇霖露辰象曜繁干漢泊长河建於無以不易若當炎旱榮惑少退于河津冰星守天綱 2 卵為甲乙之名日位次當 鬱鬱離風乾去 威電東神怒雲雾漫洒輕吹 **鞋或遇霖露辰東曜繁干漢泊不易若當炎早受惑少退于河** 雨 鈫 間見戊己日以無差坤 雷立見躍躍 むして **4** 植是 猪氣山奔而 以 侯北方雲多黃黑晓 展已 申 4 之 眼亦雲帶 上行 作 两 里中里重東 丁之 期 tt Ê 不光中 (JD 海两日状有氣 見也央 暮窺 t 月曜有如雨状 色 散日而初日雨馬青 日子 辛 Ÿ っこ 横 重以紛 憨 風 千 南 列也應 移出 は用月龍 H 画 而君天水及而 未 之犯 在行上 注時動 地初辰

貴地 街不足 表 月 妨月 -|-風法 平后燕見東京 維 新任 頭 日龍神會 不開日夜海上有風浪騰整過雷 推 十眼 誠相 日泰安娘 敬思重神握玄機而定譜 2 初 بد. 賢十義無虧而效古尊天 十五 主|大有 八 辛但玉石。 風娘 泽水 灾戴君之德 腿初 翱翔川縣在島 た 以前三两也 日 --£ 4: Ľ 汉或胜夏所

£ 図 j. Ξ 一日與立夏日如 二日霧露生 連颶 礟 風飓 t 月 N 南 鈇 初 月 一五夏殿 風天定也 JE, 日諸神朝上界 初三日真武 七日間王 8 初 立春日過後一九日風 十、 A 11∆ --}-初 日 山 12 屈 三日 風 原 Ħ 颶 初 下 夭 飓 殿又云拔草殿 春有雷電海上有風 下雪至八日太子八日太子 清明前 治眼前後 諏 餐雨北回 日岩重 十五日真君 初九日風軽晴明 風月 颶麻飓 + 准 斯 百 風 年俱重 後三日 有 颶 風 <u>ニ</u>ナ 本 圤)÷ 颶 又 重 月夏雷壓三 風本 十日 Ł 云除 風觀初 ŒD. 三日諸 日有 主有 日 女輕 4-日 + 浪本 H 風 ЭŁ 凡 六 風 卿 関九 風 風 В 風 倶)Z 風 保十 女ロ 甘潘 初 H

月初三 绿九七 月立林殿 月 + Ъ. 下 吹 母 長十三十三 0 散魚 Ξ 回風 五山山 日為 Н 初入 回風 口能風過 則輕當 麼天定立秋掛震三日過 始羊山 日 聖 晴日明風 初七 亦無 土五 道 飓 日 十二日彭祖 一廿七日風 日風 五月 帯無 廿七日 神 亂雷響無風 本月内起日本月内起日本日田加藍日 **丹内岩有三日南風** IJ 月 南 袽 初 百二十 又思雪報 分 風黃魚從南 黄風七日累七 風 龍 本月立秋日 日神然交會 日 ᅶ 颶 '月有半 日主山 夏至 早 뀬 三後 風 西 有大風 W. 風 4 凰 Ð E 來北 ②) 以正 够 初風 無 日 业 么 日 赵 と 飓 風 B 風

) 兵録 · 雲橫日赤 月 嶽風朝 有 下雪 七岭風 Ď 初 44 泰小四 定各色惡風 虱 凡冬至飓 風初二十三 九日定風還觀 日風 二十二三風 日馮和尚 云 天 八常 烟霧四塞 闻 腿初士 讷 廿三 日風 風初冬 カ £. と 十二三風 日五風信 日霜風降 a با 至 數 十七八風 前 Ŵ. 日月香暈 v2) 熈 風 掃塵風又云 祁川 ŧ H ナニニ 大 <u>=</u> 又 東戡 風 云 腿孔 初 + 海面浮赤 -1.}-風 Ł Ξ 九朝 五 風 れ 日 風 E 朝 送 風 美風 Ħ 南 日 風 初 風神 Ł 風 곫 н 本

乡晴便可期 暮看四脚懸 東風雲過 連霄雨亂飛田幕黑雲接 牛夜風 蜻蜓多飛 **西南星動** 來朝風不 त्तंग 复雲釣内 毌 東南 上部對於熱 业 黑雲生 基十四人 朝黑雲 占天 如箭 ₫. 輕 勻 五 **雞海 與 熟 數 惠 數 水 熟** 礁頭 禽 鱼 清朝起海雲明日必晴天 雲徒龍門起 風雨不可說 雨下不移時 雲雪又根 秋 雲釣午後 雷 風急午時 雨必聲割 水跳飛 排 列 雲勢若魚鱗 壓而 長時見 東南 卵上雲 晓雲東不憲 風色属人猜 風遊 韭 E 西 雨霎時辰 無雷海響 -4-出 北幕黑雲 風興東常 海糠多浮 天外飛 漸炎炎 身首 時見 熱 汗**建潤如洗** 說者類恢說 我豈知天道 春夏東南日秋冬東南日 朝霞不出門 深兵秋録 天光 雲變魚鱗天 夜 晴明不可言 紅雲日出 兩 尾要夷 Ľ 占風 愁 過 生 番 逐婦媳能批果食養養養 春而段 風息浪 不雨也風顛就君莫出行 長不汎雨 夏風天公野風天人 行 未静 千里 爛石燒成香 穴居 古來占滂沱眼轉雲四起 舟秋汛春 عتر 今晨日未 公主 紅雲日沒前 巫 騪 舩冬後夏 ৰ্ 裡有智 頭 一起大風 最西風 來 西

可

北雨

行風狂風

4];

不

小

缺

狂

目水氣疆域不能神主南天雞擊紅下,占不風里者兩心下。請上 堂審 或 蜉 维兵化土进朝 聚 松云 蚶子 有當收養猪俗明陰 師云龍 湿喜紅龍渡呼而霧城堪早雞 京戴 何斜水是在時柳主上 敢非逢 強 南 辺 明 金漢 精 俄 日 雨柳 仰尾 上南月如 抱河親主情年請騰 星泡 聊 不或 或蜥 用知 文 雙生天兩經止动脂 自 加蜴 醒農時間 雜之兩項兩河 而門南紫 秤 里 有理里 出黨監主日本中襄 眼門 前水 怪帽有两地水有是前干無云主無 勢量早 前千無云注魚 耳崖黑 **使工**函目 水跳 雨謂話!雲巾 着 話!!!! 裙!!!! 少尼溼 淋 形勢與象龍野鳴東山鸛 或議場東 水風腦 水五 影響提於鬼 之戴請椿顏脂 但所看 蛙腹界帽云兒電 先夕 瓮鳴羽猪干山暗虹光 哲恒底疆 天渡地頭亦主分 枳 别照云雇 喌溼乾晒

晓霧即收 晴明可求	東南晚見 必主颶風	下雨雷 晴明可東在西 明日雨	占土	上下黑龍 風雨相從	100	逐照黄光 明日風狂	朝日烘天 晴風必揚	早白暮赤 飛沙走石	午後日暈 風勢須防	一珥单日 两珥雙起	耳 狂風	烏雲接日 雨即傾滴	占日	有格言林臥觀無始
霧收不起	幽 虹光	斷中端			312	1	胡	日沒暗紅	量開門處	午前日暈	申後日珥	雲下日		
細雨不止	名曰破篷	不明天變無雨生風	1 元 元 元 元	主	ũ3 ↑	夜雨薄沱	細雨必至	無而公風	風起必狂	風起北方	明日有雨	晴明無妨		

牛女微微雨不大	白蝦弄波 風起便和	若近山岸 仔細思尋金銀遍海 風雨立待	大	i	長閥電飛 大殿可期電光西南 明日炎炎	白虹下降 惡霧必散三日霧漆 必起狂風
文道虚危必有風	水上鹭毛 風大難	烏鰆弄波 風雨必起海泛沙塵 大殿難禁	<u> </u>	夏風順電來 秋風對	遠來無意 遅則有危電光西北 雨下連宿	清明前後 嚴嚴皆同

		العاد ا	Jr Fr		<u>.</u>	-		-	==	_		3-5	1.14	1	2.0		, dea	1 75
左其	四十	月月	即候	古謂	内有	有	十謂	申三日	李	三日	日日	今有	向書	İ	但見	啦	婁問雨多陰凍	炽知
風	五十	淡	不同	之	風土	風土	之	i a th	1.	内	太路	夏	进	總占	柳	叁	南	室
心應	六	望	弦	-	月	月	主十	主	6.1	有	至	2	即回		生変	开風	多隆	望多
在	四十五十六十七是以月之過官亦有三四	前月後弦望不同者弦有初七初八初九望有	望水	八太	在至	在習	午謂之望十七十八十九太陰過已及辰三四	内主兩者月離千畢是也十五		内决有風者月在壁宿是也初十日	干了	從厚	尚書洪範曰星有好風星有好雨日月之行		但見柳星雲繁	遇嘴参井風漸有	凍	頂知室壁多風雨
辺	是	者	異	易	宿	軫	入上	月		夏	謂	则	삵	:	;- - 7- ;	, 43		144
之	Ä	有	即侯	佐灾	走也	是也	九	艇士	 	壁	列	風	堂		 		ĺ_	<u> </u>
内質	之過	初七	不同	太隆	せれ	せ五	太隆	畢見	i	宿县	五日	雨如	有好	! •	張智	鬼宿	卵	每月
以从	宫女	初入	者	随	<u> </u>	太	過	٠ ا		かれ	過	正	新		日	狂	隆	奎
之	小有	初	がや	全餘	Ħ	過	及	五	Ξi	*// +	图宫	太	月		巴焙	外記	米 又	每見奎辰天白
诉排	三回	九里	春式	放山	太岭	寅二	反三	日大	ーデ	日大	即此	易な	之分		張翼日色发烘烘	鬼宿狂風起戦鶴	昴畢除來又轉睛	自明
差其風亦應在三四日之内質以曆之而推無不	日	有	節侯不同弦望亦異節侯不同者如立春或在月	子謂之晦二月太陽在吏太陰随之餘放此大率	內有風者月在箕宿是也廿九三十日太陰沒于	內有風者月在翼擊是也廿五太陰過寅二三日	回	日太陰過		太陰過	日太陰孕于子謂子朝五日過雨宫即戌位此	冬有夏月之從星則以風雨如正月太陽在子初	則有		外六	呐	पत्	P/I
<u>^</u>	<_	- - = ==	<i>[</i>]	平	于	B	者	過		项	址	初	有					

富考李 度小 宿宿 合宿 -二月中日 星四度處暑七月中日月合宿在翼十二度秋 月合宿在井二十三度大暑六月中日 T. 五度四 八月中日月合宿在角六度霜降九月 H ** 月中日月合宿在室入度春分二月 湍 在奎十四度穀雨三月中日月合宿在昴 夜行 回 ŒĐ 月中日月合宿在参四度夏至五 丹合宿在底 回度 d 中日月合宿在斗二 風在 十三度少強皆以月中氣 **示** 雪十 畢主兩占之多驗觀官曆甚 九 -|-八度二 之例也凡查太隆之度五度每月羽日以夜半 ハ 宿 マ 約 月中日月合宿 回 十二度西方 1、く Ji. -I-周 E 一度大寒 天 在其二 中 中日月 月合宿 J: Ξ 赵 日 月 周 例 白 中 叫 凾

雲雨 黑雲 多風月失中道移而西入畢則多雨又曰斗流濟又曰月去中道之中間是我而東南入西黃白雜者風多雨少青黑雜者而随之不 有雲不出五 暴有異雲如 ナイ 欲雲覆之里雲覆之大雨 大師 如飛鳥五 即雨里間日 四人提該持持皆為暴雨 兩 衛有養黑雲細如杵抽蔽日日雲不出五日大雨四望見青白雨 1 曰蟻封穴户大雨 如 候曰凡候而 以天方雨 夏松 日少雨 水牛 癸雨 于 a 有変則 白 時視雲有五色田南は日本の一日本 F 不出三月 以茲朔望雲四塞者皆當 H(r)有雲如浮般 當雨 (5) 多雨 至 有 大雨 黑雲氣如牛 日 奾 日月五 皆為雨 徭 雲名 有黑雲 丙 出 役銀 日 ゔ 睛 白天塞 4 Н 雨白 亡 Ħ 宷 如群 必 **北** 斗 戝 見 方 نال 紋重 軫鴻 者雪 有 者 當 者 者 有 क्रि 獨军 নেয় 2. 有 雪 न्त

乗動聲儀曰焦明至為兩倫似明斯斯紅在日沒之後與時點解點在日沒之後與時點所點的看返明者這時間一日受職的紅無面也有風頂看返明 雲即即 戊蝗北 渣 色師孔 詩曰月離于軍伊 兩 東食禾稼之春而傷五木立秋兩傷五穀常有雲如群羊即有兩至矣冬戊已春辰已日一一九赤黄者其而少青者其而多常以五卯日候 子曰商羊鼓舞天将大雨水為灾南子曰山雲燕柱礎潤面之候也 方有 銀本一四 曠占曰候月知 秋緯日月離于箕風公揚 文集要曰辰日守 陣 已日日入時上有宛雲大者即 散四 濯魚雲疾者立兩遅者兩少江漠雲疾者 西 11: 靓 野 者必雲黑如溪墨又必起作眉梁 淌 雨多少每月 目 心有水 如 方有關即 烟 如霧名曰風元主 災 心少 生有兩件 以 以 方風來 日二 而小者少 大雨不 **₹**~ $|\mathbf{L}|$ 日三 翅足 1-4" 而之 ナ・ 雨 風 と則と 可 日 跳鳥 kb, 扒 以雨 Ħ 亚

頭棟花風打东雨初三四莫行 夜 夏秋之交大風及有海 Æ 即至望上水稍慢至干螻蟻之遷飛蟻之出 海猪亂起主大風 汤 秋 王年末十四 水蛇盤在董青高處主水高漲若干回頭望 蝦龍張浔韓魚主風水 四聲斷風雨 燕 原单日起車日止 猪渡河雨之兆也 光摇雲行急太白雲見麥宿動搖 見湖魚之躍皆主風 間聽九逍遥寫叫 盡 三四莫行松春有廿四番花信 無而則來月初有大風俗語曰 四方之 風有此 雙日 ١. 沙雪起謂之風潮 風 而 赵 風必有霖震大雨同 雨 雙日 雨白 觳 نار 風二聲 肚 主有 風世梅五 風 ٦٠ 名 六岩無打無 風 雨 삸 13 江 ኑ 作 顺

安康·十四天 南風防尾北風防頭南風愈吹愈急北風 州風向晚必静 日南風必還一日此風 東風太急風急 暴惡之風盡日而沒道德經風起早晚和頂防明日多 起東風晚来越 道不中而過南則為陽道道不中而過北 青白赤黑各二道皆出入子黄道之中故曰該云月兒仰水漸長月兒仄水無滴盖月有水際生散青主有風雨 道行陽道則旱行陰道則濟月借日為光月生時 春南夏北有風 酉宿 中 太急風急雲起愈急又雨雨 直昴畢好雨又云星光熌爍不定 **夷是行陰道矣如亏強万樣是行陽道矣故** 交雨 巨 云觀風不終朝 難得 主 **風吹起** 晴若 風雖早有 則為陰 風 萷 九 九 駹 便 行行 តា

知旱凉 多雨 凡寅成二時風雨不久午子二時者頗久若雨 每值日干執破多風雨又云執破無而危承當 曹連庚戌天上無雲地下濕 読云壬子癸丑甲寅晴 必天色明净後更無雲然後風止若行雲片片 北亦然如前雲頭已過後面雲脚未盡風亦未雲頭從東方起必有東風從西方起必有西風無變雖有微風不問順與不順可必無妨 午時偶然日出謂之而 逐聚散不常圍統日光又雲脚黃日色赤雲行急 秋冬两季之間若四方天色明净 暁 天色黯淡日月昏暈太白畫見聚星動搖拉主 共食を十四 · 所起之 虚必有暴風 夏两季岩遇 山 者以 南風多晴惟長安則 天氣 候其雨通宵大抵東北 œ٦ 十五 其 日午 137 西 風而 白 満天星戊申 後或雲起或 五 ---ن 更至 屐 4 大 相此 ল 卤 雪 ネカ

		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·								
十六日在聲 二	十月初一日在翼	九月初四日在最	八月初六日在翼	二十三日在聲	二十六日在肆	十一日在显	五月十三日在翼	四月初二日在箕	三月初五日在壁	事 二十八日女 三月初七日在肆
十九日在翼	初二日在幹	初五日在軫	初七日在軫	初九日在軫		十二日在軫	在建四日在軫	十五日在翼	十八日在舅	在其二十日在翼
十; 日	初九日在箕	十二日在箕	十四日在箕	十六日在箕	ナ ロ	十九日在箕	二十一日在	十六日在軟	十九日在軫	二十一日在

為長南水北來則為落是故氣有命張則朝 落方其氣之始長于地則水為氣 所推而 Ţ, 桂林聖水 十二月初五日在箕 賃 一母年每月更換豈如此註定不易乎今不忍廣 以上十二 在翼 在翼 大 姑存之以備考 朝沙占侯水 則同前四四小則移前一日 月初 楊子江之暗谢欽無日止 次之說其論靡一盖消息盈虚 初八せー 小城之朝子 12 東者常先平于南者常後北水南來則 凡 一個月坐定法也若遇 بد 超避又関乎人事之宜他 H 西流乃随星之長短不係月之盛衰 在 廿二是也餘可類推按太陰經度月小則移前一日如正月則移初 上故附録之小戦以風潮 日在軫 其 時潮上午時潮落東南二海 · Ξ 辺 為 日在 ы 在 潮暖海] 肂 腟 按太陰纏度 则看前 自本乎陰 如钱塘 = 之潮丰 į + -五 훠 Ł 8 日

餘里水之長落止差一二時辰並不外此况寅時以東海之潮汐也至于浙江揚子江去東海萬有 半干酉平子成落子灾半于子盡于丑初三初 時半于卯平干辰落于已半于午盡于未長干 以往来于地猶血之以氣往來于脉皆一氣之格矣且夫天地之有水猶人身之有血也水由此還而潮落矣俞極則張張極復翕以潮又長 際也是以每月初 之氣始于此也百川之盡赴于東反本之義馬 属自異耳至于朝必東起 手多 オーロ 小所見之不同也是脉雖皆由于一身而經 之不同者即春孩夏洪之道也 欬 為 ÷ 身之氣血必歸源于中焦亦起于寅時生氣 ĺж 也 張 也時刻之不真者即 水有潮而不潮者猶人 日長干卯落于午長于西落干于餘份 則水益 一初二十五十六日潮長于寅 二時辰並不外此况寅時 而 者東乃生氣之方陰 潮平 息 争之血 四至之 張極 日止于 身而經絡 而 /期也天 有行脉 翕 潮或 翕 谏 則 申 囫 بخ 祈 不而氣 1. 而

初 及矣 鉄 生. 小涌灌初水 1 日 初 Ξ 十漸 中而會 至 三至 行演 江洋 水渗調 初 夜 図 レス 更 凡 + 才刀 Ł 初春 無 Ξ 候灾 子月 廿三至 夏潮 好陸 點是 と 不介意者 不充 + 呬 而潮 叫滿 生弦初至 于望二世寅潮為二 甘谏 海小夜 日礁初虧 以 女口 嘲 秋 賊 几俱必 毐 五 寅 失其 則沒小沒應讯 叫人頂 相 月 争 博多聪 讯大 限 H 生馬潮汛小 大盈 故于故小谢 枥 多聲 已灾平 申朝而 冱 夏脉之無 丈 ٦, 調 潮潮平涯 無不 됄 信生于朝速海 关 硅 時知之潮 于地 生

初初 初 初初初初 十五辰戊二十二卯酉 بد 121 七五 Ξ 寅子已辰寅丑 子 江 初初初初 初 午 北 Ξ 叨 正口 JE 潮 + ャ 五 十十十初初初 戊酉申未午戊酉未午 四二 末末末正初末正末 卵宙 展卵寅丑子巴成門申未午灾 辰戊 卵 酉 ニナナナ 長長 長 長長長 長長 初初 77 十十八五二 四一丑子已郎 セ 丑子已辰 卵寅末午 灾戌 酉申 寅 丑 五末 子 已 未 申 午 戍酉床证正 平平 初 平平平 ¥. 平 平 ネカ ネカブハ

二十八已灾正 二十九已灾末 三十子午初 定寅時 四六日出寅無别 五月日高三丈 北起寅時 四六日出寅無别 五月日高三丈 共绿卷之十四祭 一次 一次 一次 一次 一次 一次 一次 一次 一次 一次 一次 一次 一次
